

介護テクノロジー等による生産性向上の取組に
関する調査及び効果測定事業 報告書

Ⅲ/Ⅲ

令和 8 年 3 月
厚生労働省 老健局高齢者支援課

目次

(Ⅲ/Ⅲ)

XI.	実証結果:②提案型	Ⅲ-1
1.	実証概要	Ⅲ-1
(1)	提案の募集	Ⅲ-1
(2)	実証方法(共通事項)	Ⅲ-4
(3)	調査項目	Ⅲ-5
2.	実証結果	Ⅲ-8
(1)	一般社団法人認知症高齢者研究所「AI を活用した認知症ケアによる生産性向上」....	Ⅲ-8
(2)	SOMPOケア株式会社「訪問介護業務の生産性向上」.....	Ⅲ-49
(3)	株式会社金星「洗身業務を支援するテクノロジー活用」.....	Ⅲ-70
(4)	株式会社 Rehab for JAPAN「通所介護における記録作成及び計画書作成支援」	Ⅲ-97
(5)	TOPPAN 株式会社「通所介護におけるレクリエーション業務の生産性向上」.....	Ⅲ-117
(6)	DFree 株式会社「排泄パターンの把握による排泄ケアの生産性向上」.....	Ⅲ-142
(7)	社会福祉法人友愛十字会「排泄パターンの把握による排泄ケアの生産性向上」....	Ⅲ-167
(8)	ユニ・チャーム株式会社「トイレ移動やトイレ動作の自立支援」.....	Ⅲ-192
(9)	パラマウントベッド株式会社「覚醒状態に応じた起床によるセルフケアや朝食の自立支援」.	Ⅲ-223
(10)	社会医療法人社団陽正会「介護医療院におけるテクノロジー導入による業務効率化」.....	Ⅲ-250
(11)	株式会社やさしい手「記録業務の効率化・遠隔支援や多職種連携の効率化」.....	Ⅲ-275
(12)	パラマウントベッド株式会社「介護支援専門員のモニタリング業務の生産性向上」	Ⅲ-296
(13)	社会福祉法人青祥会「議事録作成 AI ツールの活用による居宅介護支援業務の生産性向上」	Ⅲ-331
3.	業務時間等調査	Ⅲ-345
(1)	職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間.....	Ⅲ-345
(2)	職員 1 人 12 か月あたりの有給休暇取得日数.....	Ⅲ-347
(3)	実証期間中のヒヤリハット・事故.....	Ⅲ-349

XII.	実証結果:③継続的調査.....	Ⅲ-352
1.	実証概要.....	Ⅲ-352
	(1) 実証目的	Ⅲ-352
	(2) 実証仮説	Ⅲ-352
	(3) 調査機器	Ⅲ-352
	(4) 対象施設	Ⅲ-352
	(5) 実証方法	Ⅲ-354
	(6) 調査項目	Ⅲ-357
	(7) 継続的な取組による業務改善に係る分析方法	Ⅲ-358
2.	実証結果.....	Ⅲ-360
	(1) 利用者・職員概要	Ⅲ-360
	(2) タイムスタディ調査結果	Ⅲ-363
	(3) 職員向けアンケート調査結果	Ⅲ-389
	(4) 利用者向けアンケート調査結果.....	Ⅲ-398
	(5) 業務時間等調査結果	Ⅲ-410
	(6) ヒアリング調査結果.....	Ⅲ-419

XI. 実証結果:②提案型

1. 実証概要

(1) 提案の募集

これまで実施した調査及び実証内容に限定せず、生産性の向上の取組に意欲的な介護事業者等から生産性向上に資する新たな取組等に関する提案を受け付け、当該取り組み内容の評価等に関するデータを収集することを目的とした。

ア. 募集方法

ホームページにおいて、公募を告知した。その上で、オンラインでの説明会を行い、公募を受け付けた。公募は、公募要領及び申請書類を提示し、応募者にて当該申請書類を作成・提出する形とした。

図表 XI-1 募集ページ(抜粋)

厚生労働省 介護テクノロジー等による生産性向上の取組に関する調査及び効果測定事業「介護事業者等からの提案手法による生産性向上の取組に関する調査及び実証」提案募集について

2025.5.28 株式会社三菱総合研究所

株式会社三菱総合研究所では、今年度、厚生労働省から受託し実施している「介護テクノロジー等による生産性向上の取組に関する調査及び効果測定事業」において、「介護事業者等からの提案手法による生産性向上の取組に関する調査及び実証」を行います。

これは、介護現場における生産性向上の取組に積極的な事業者等の皆さまから取組の提案を受け付け、効果が高いと考えられる取組について、ケアの質の確保や職員の負担軽減等の観点から効果実証を実施するものです。

つきましては、以下のとおり、生産性向上の取組等に関する募集を行います。

概要

介護事業者等から生産性向上に資する新たな取組等に関する提案を受け付け、その中から効果が高いと考えられる取組について、ケアの質の確保や職員の負担軽減等の観点から実証を実施するものです。なお、実証を実施する介護施設は当該事業者等が選定する介護サービス事業所とします。

イ. 公募説明会の開催および参加者

開催日時:令和7年 6 月 18 日(水)11:00~12:00@ WEB 開催

参加者数:27 名(12 法人)

ウ. 審査の実施

受け付けた申請書の審査については、以下の観点で実施した。

図表 XI-2 審査の観点

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">① 取組を通じて、利用者の生活の維持・向上と介護業務の効率化・職員の負担軽減を図る積極的な意向があること② 取組を実施することで実現したいと考える利用者の生活の維持・向上と介護業務の効率化・負担軽減の具体的な内容(取組の目的)が明確であること③ 取組の実施に合わせた介護オペレーションの変更内容が明確、効果的と想定できること④ 可能な限り、同一の実証研究の手法、調査実施内容(提案内容)にて、複数の実証フィールド(介護施設等)で、実証が実施される提案であること⑤ 本事業における他テーマで実施している取組とは異なる提案であり、新規性が認められること⑥ 実証を実施する介護施設・事業所等は本事業の目的達成に有効と認められるものであること |
|--|

工. 提案の採択

審査の実施を受け、以下の 12 法人・13 提案を採択した。

図表 XI-3 採択提案一覧

No.	実証概要	実証フィールドサービス種別 (実証フィールド数)	法人名
1	AI を活用した認知症ケアによる生産性向上	訪問介護(3) 介護老人福祉施設(1)	一般社団法人 認知症高齢者研究所
2	訪問介護業務の生産性向上	訪問介護(2)	SOMPOケア株式会社
3	洗身業務を支援するテクノロジー活用	有料老人ホーム(1) 短期入所生活介護(1)	株式会社金星
4	通所介護における記録作成及び計画書作成支援	通所介護(2)	株式会社 Rehab for JAPAN
5	通所介護におけるレクリエーション業務の生産性向上	通所介護(1)	TOPPAN 株式会社
6	排泄パターンの把握による排泄ケアの生産性向上	特定施設(1) 介護老人福祉施設(1)	DFree 株式会社
7	排泄パターンの把握による排泄ケアの生産性向上	介護老人福祉施設(2)	社会福祉法人 友愛十字会
8	トイレ移動やトイレ動作の自立支援	介護老人福祉施設(3)	ユニ・チャーム株式会社
9	覚醒状態に応じた起床によるセルフケアや朝食の自立支援	特定施設(1) 介護老人福祉施設(1)	パラマウントベッド 株式会社
10	介護医療院におけるテクノロジー導入による業務効率化	介護医療院	社会医療法人社団 陽正会
11	記録業務の効率化・遠隔支援や多職種連携の効率化	通所介護(3) 訪問介護(1) 複合型サービス:看多機(1) 居宅介護支援(3)	株式会社やさしい手
12	介護支援専門員のモニタリング業務の生産性向上	居宅介護支援(4)	パラマウントベッド 株式会社
13	議事録作成 AI ツールの活用による居宅介護支援業務の生産性向上	居宅介護支援(2)	社会福祉法人青祥会

(2) 実証方法(共通事項)

本実証の基本的な実証方法(共通事項)は以下の通りである。

なお、本実証テーマでは、実証仮説に基づき、共通事項以外の調査項目、調査方法、調査期間を設定し実施しているものがある。共通事項とは異なる調査方法等については、2. 実証結果にて詳細を示す。

ア. 実証調査の時期

調査の時期は以下の通りである。具体的な時期については採択提案別に異なる。採択提案別の実証調査の時期については、2. 実証結果にて詳細を示す。

なお、本実証において基本的な実証時期(時点)については、オペレーションの工夫・変更前(本実証における生産性向上の取組実施前)の事前調査(以下、「事前」という。)を実施し、テクノロジー等の導入やオペレーションの工夫・変更後の調査を事後①または事後調査②(以下、「事後①」「事後②」という。)として実施した。

図表 XI-4 基本的な実証調査の時期(時点)

調査	時期
事前調査	令和7年9月～11月のうち平日5日間
事後調査①	令和7年10月～12月のうち平日5日間
事後調査②	令和7年11月～令和8年1月のうち平日5日間
ヒアリング調査	令和8年1・2月

※調査時期の設定については、各提案により異なる

イ. 実証調査の概要

実証結果の把握は、実証の事前と事後①および事後②で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」を実施し、実証終了後に「ヒアリング調査」、「業務時間等調査」を行った。各調査の概要(共通事項)を以下に示す。

図表 XI-5 各調査項目の概要(共通事項)

調査項目	調査対象者	調査項目の概要
タイムスタディ調査	実証期間中に、実証を行うフィールドで勤務する職員	・ 回答方法:自記式(1分刻みで自身の作業項目を記入) ・ 調査スケジュール:事前(取組前)1回、事後(取組後)2回の計3回、それぞれ5日間実施。各日に勤務した職員全員が回答。 ・ 調査実施時間帯は各実証テーマ別に設定。
職員向けアンケート調査	本調査に関与した全職員	・ 回答方式:自記式 ・ 調査スケジュール:事前1回、事後2回、職員1名につき1回のみ回答。
利用者向けアンケート調査	実証における新しい取組の提供を受けた全利用者	・ 回答方式:自記式(担当職員による利用者評価) ・ 調査スケジュール:事前1回、事後2回、1職員あたり1回のみ回答。
ヒアリング調査	施設管理者等	・ 調査方法:WEB 会議による聞き取り。 ・ 調査スケジュール:実証終了後に1回実施。
業務時間等調査	施設管理者等	・ 調査方法:自記式 ・ 調査スケジュール:事後調査 2 回目終了後に、実証に参加した職員全員について施設管理者等が回答。

(3) 調査項目

各提案の調査目的に合わせ、調査項目として、タイムスタディ調査及び職員向けアンケート調査、利用者向けアンケート調査、ヒアリング調査、業務時間等調査を行った。なお、実証テーマによっては、共通項目以外の調査項目・調査方法にて実施している。共通項目とは異なる内容については、2. 実証結果にて詳細を示す。

ア. タイムスタディ調査

タイムスタディ調査の共通項目は、「A. 直接介護(小分類6つ)」「B. 間接業務(小分類5つ)」「C. 休憩・待機・仮眠」「D. その他、未記入」「E. 余裕時間」の5分類、計14項目とした。

図表 XI-6 タイムスタディ調査 項目

NO	分類	Sub-NO	項目
A	直接介護 (※1)	1	移動・移乗・体位交換
		2	排泄介助・支援
		3	生活自立支援(※2)
		4	行動上の問題への対応(※3)
		5	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置
		6	その他の直接介護(日常生活支援、レクリエーション等)
B	間接業務	7	巡回・移動
		8	記録・文書作成・連絡調整等(※4)
		9	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し
		10	介護テクノロジー・ICT 機器の準備・使用・確認(※5)
		11	その他の間接業務(※6)
C	休憩	12	休憩・待機・仮眠
D	その他	13	その他
E	余裕時間	14	余裕時間(突発でのケアや対応ができる状態)

※1 見守りによる介助を含む ※2 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握

※3 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※4 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、職員間の連絡調整、文書検索等

※5 機器の充電、セッティング、設定の確認・見直し、使用(直接介護において使用する場合を除く)、画面確認、片付け作業等

※6 レクリエーションの準備等

イ. 職員向けアンケート調査

職員向けアンケート調査では、オペレーション変更を行う前の事前、オペレーション変更を実施した後の事後の2種類の調査票で調査を行った。また、事後調査では、生産性向上の取組効果を把握する設問において、在宅系サービス事業所では回答しにくい項目があったため、一部の調査項目を減らした在宅向け調査票を作成した。

調査項目は、事前と事後で共通とし、心理的負担評価(心理的ストレス反応測定尺度: Stress Response Scale-18 に基づく)と、加えて事後では、生産性向上の取組によるモチベーションの変化、生産性向上の取組による職員や施設業務の変化、生産性向上の取組の満足度評価、職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)による効果、全体的な満足度評価とした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

ウ. 利用者向けアンケート調査

利用者向けアンケート調査では、オペレーション変更を行う前の事前、オペレーション変更を実施した後の事後の 2 種類の調査票で調査を行った。

調査項目は、事前と事後で共通とし、対象利用者の ADL の変化、認知機能の変化、心理的な影響（意欲の指標：Vitality index に基づく）、QOL の変化とした。加えて、事後では、対象利用者のコミュニケーションの変化、社会参加の変化、ケア内容の変更等を調査項目とした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

エ. 業務時間等調査

業務時間等調査では、実証終了後に 1 回調査を行った。

調査内容は、オペレーション変更を通じた労働時間や有給休暇の取得状況の変化や、実証期間中のヒヤリハット・事故を調査項目とした。調査票は、参考資料を参照されたい。

オ. ヒアリング調査

上記調査終了後、ヒアリング調査を実施した。なお、ヒアリング調査は、対象施設・事業所の管理者及び職員に対し調査を行った。

図表 XI-7 主なヒアリング調査項目

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 生産性向上の取組状況(発生した課題とその対応)<ol style="list-style-type: none">(1) 取組開始にあたり苦労した点(2) 事後調査①時、事後調査②時の状況<ul style="list-style-type: none">➤ 介護職員について➤ 利用者について➤ 施設・事業所について2. 事前調査実施後の委員会や取組に向けた会議の開催について<ul style="list-style-type: none">➤ 開催周期(回数)➤ 参加職種・役職➤ 検討内容➤ 検討結果の職員への周知について(方法、内容、反応)3. 実証目的に対する達成状況<ul style="list-style-type: none">➤ 利用者の観点(ケアの質に対する効果、具体的な事例等)➤ 職員の観点(業務の負荷軽減や効率化、休暇取得・残業の改善等)➤ 施設・事業所の観点(運営面での効率化、リスクの低減、費用対効果等)4. その他 |
|---|

2. 実証結果

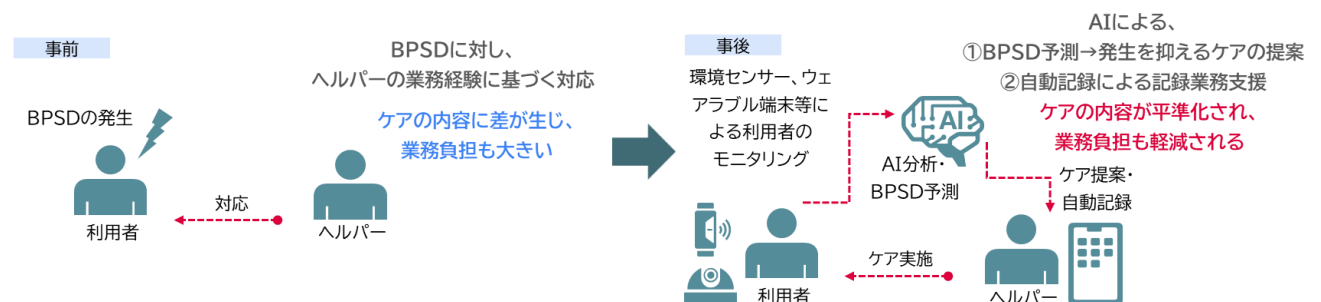
(1) 一般社団法人認知症高齢者研究所「AI を活用した認知症ケアによる生産性向上」

ア. 実証の概要

① 実証目的

認知症ケア補助 AI システム(本実証で使用した、環境センサーやウェアラブル端末の情報をもとに、AI がケア内容の提案を行うほか、ケアの自動記録を行うテクノロジー)を活用し、BPSD(認知症関連行動)の予測と自動記録・分析を行い、BPSD 対応に関する職員の業務負担軽減と職員の経験に依存しない個別ケアの提供を実現、また利用者の BPSD を緩やかにすることによる QOL の向上を目的とする。

図表 XI-8 実証イメージ



② 実証フィールドの概要

本実証では以下の実証フィールドにて効果測定を実施した。

図表 XI-9 実証フィールドの概要

実証フィールド	法人名	施設名	サービス種別	導入機器
1	セントケア DX 株式会社	セントケア DX 堀ノ内	訪問介護	・認知症ケア補助 AI システム(DeCaAI)
2	セントケア DX 株式会社	セントケア DX 富士見台	訪問介護	・環境センサー (RATOC RS-WFFVS!)
3	セントケア DX 株式会社	セントケア DX 明大前	訪問介護	・ウェアラブル端末 (Garmin VIVOSmart)
4	社会福祉法人 弘陵福祉会	特別養護老人ホーム 六甲の館	介護老人福祉施設	

③ 実証期間

調査期間は以下の通りである。

図表 XI-10 調査期間

調査	時期	補足
事前調査	令和 7 年10月 6 日～24日(19日間)	左記のうち、実証フィールド別に各 10 日間(実証フィールド4は 5 日間)を調査期間として実施した。
事後調査①	令和 7 年11月24日～12月19日(26日間)	
事後調査②	令和 8 年 1 月12日～26日(15日間)	
ヒアリング調査	令和 8 年 2 月 18・26 日、3月3日	

④ 各調査の概要

本調査では、実証の事前と事後(2回)で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」を実施し、実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。以下に各調査の概要を記載する。

図表 XI-11 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
タイムスタディ調査 (媒体:実証フィールド 1～3 Excel、実証フィールド 4 アプリ)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	- 回答方法:自記式(1 分刻みで自身が実施した作業項目を記入) - 調査スケジュール:事前(取組前)1 回、事後(取組後)2 回の計3回、それぞれ 10 日間(実証フィールド4は 5 日間)実施。 - 調査実施の時間帯:調査対象期間中の全勤務時間
職員向けアンケート調査 (実証フィールド 1～3 在宅向け、実証フィールド4 全テーマ共通)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	- 回答方法:自記式(WEB 回答) - 調査スケジュール:事前と事後2回、実証期間中それぞれについて、1名につき1回のみ回答
利用者向けアンケート調査 (全テーマ共通)	新たな取組によるケアを受けた利用者 (職員による代理回答)	- 回答方法:自記式(WEB 回答) - 調査スケジュール:事前と事後2回、実証期間中それぞれについて、1名につき1回のみ回答
ヒアリング調査 (全テーマ共通)	施設管理者、部門管理者 介護職員	- 調査方法:現地訪問・WEB 会議による聞き取り - 調査スケジュール:実証終了後に1回実施

⑤ タイムスタディ調査項目

実証フィールド1～3において実施した、タイムスタディ調査の調査項目を以下に示す。実証フィールド4は全テーマ共通のタイムスタディ調査票を使用した。なお、事前と事後調査の調査項目は共通とした。

図表 XI-12 タイムスタディ調査項目

NO	大分類	小分類	Sub-NO	項目
A	直接介護	直接介護(対象利用者)	1	行動上の問題への対応
			2	利用者とのコミュニケーション
			3	No1,2 以外の直接介護・リハビリテーション(※1)
		直接介護(その他利用者)	4	直接介護・リハビリテーション(※1)
B	間接業務	対象利用者にかかわる間接業務(※2)	5	記録・文書作成(※3)
			6	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し(※4)
			7	AI ツール活用にかかる業務(※5)
		その他の間接業務	8	移動
			9	その他間接業務
C	休憩	休憩	10	休憩・待機
D	その他	その他	11	その他

※1 見守りによる介助を含む。

※2 対象利用者についてのみ記録。

※3 利用者に関する記録等の作成。

※4 モニタリング訪問を含む。

※5 ベンダーとの連絡調整、現場職員への説明等。

イ. 利用者・職員概要

調査結果はサービス種別ごとに集計した。

① 利用者概要

本調査において利用者向けアンケート調査に回答があった利用者は、介護老人福祉施設5名、訪問介護5名であった。

図表 XI-13 利用者概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	1	4	0	5
	割合	20%	80%	0%	100%
訪問介護	人数(人)	2	3	0	5
	割合	40%	60%	0%	100%
総数	人数(人)	3	7	0	10
	割合	30%	70%	0%	100%

図表 XI-14 利用者概要:年齢

		70歳未満	70歳～ 75歳未満	75歳～ 80歳未満	80歳～ 85歳未満	85歳～ 90歳未満	90歳～ 95歳未満	95歳以上	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	0	0	0	1	2	1	1	0	5
	割合	0%	0%	0%	20%	40%	20%	20%	0%	100%
訪問介護	人数(人)	0	0	1	1	0	2	1	0	5
	割合	0%	0%	20%	20%	0%	40%	20%	0%	100%
総数	人数(人)	0	0	1	2	2	3	2	0	10
	割合	0%	0%	0%	20%	40%	20%	20%	0%	100%

図表 XI-15 利用者概要:要介護度

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支 援	その他(区 分申請中等)	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	1	0	2	1	1	0	0	0	5
	割合	20%	0%	40%	20%	20%	0%	0%	0%	100%
訪問介護	人数(人)	0	2	3	0	0	0	0	0	5
	割合	0%	40%	60%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
総数	人数(人)	1	2	5	1	1	0	0	0	10
	割合	10%	20%	50%	10%	10%	0%	0%	0%	100%

図表 XI-16 利用者概要:障害高齢者の日常生活自立度

		J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明・未実 施	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	0	0	1	0	0	2	0	0	2	0	5
	割合	0%	0%	20%	0%	0%	40%	0%	0%	40%	0%	100%
訪問介護	人数(人)	1	0	0	0	0	1	0	0	3	0	5
	割合	20%	0%	0%	0%	0%	20%	0%	0%	60%	0%	100%
総数	人数(人)	1	0	1	0	0	3	0	0	5	0	10
	割合	10%	0%	10%	0%	0%	30%	0%	0%	50%	0%	100%

② 職員概要

本調査において職員向けアンケート調査に回答があった職員は、介護老人福祉施設6名、訪問介護15名であった。

図表 XI-17 職員概要：性別

		男性	女性	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	1	5	0	6
	割合	17%	83%	0%	100%
訪問介護	人数(人)	5	10	0	15
	割合	33%	67%	0%	100%
総数	人数(人)	6	15	0	21
	割合	29%	71%	0%	100%

図表 XI-18 職員概要：年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	0	2	0	2	1	1	0	0	6
	割合	0%	33%	0%	33%	17%	17%	0%	0%	100%
訪問介護	人数(人)	0	3	3	5	3	1	0	0	15
	割合	0%	20%	20%	33%	20%	7%	0%	0%	100%
総数	人数(人)	0	5	3	7	4	2	0	0	21
	割合	0%	24%	14%	33%	19%	10%	0%	0%	100%

図表 XI-19 職員概要：職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓練 指導員を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	4	2	0	0	0	0	0	0	6
	割合	67%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
訪問介護	人数(人)	13	0	0	0	0	0	2	0	15
	割合	87%	0%	0%	0%	0%	0%	13%	0%	100%
総数	人数(人)	17	2	0	0	0	0	2	0	21
	割合	81%	10%	0%	0%	0%	0%	10%	0%	100%

図表 XI-20 職員概要：役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	0	0	6	0	0	6
	割合	0%	0%	100%	0%	0%	100%
訪問介護	人数(人)	0	3	12	0	0	15
	割合	0%	20%	80%	0%	0%	100%
総数	人数(人)	0	3	18	0	0	21
	割合	0%	14%	86%	0%	0%	100%

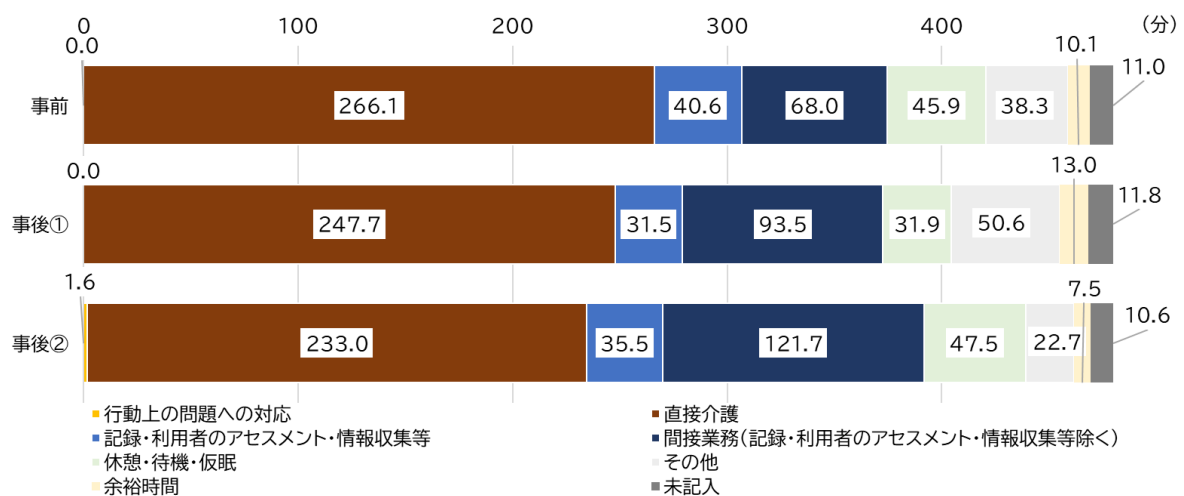
ウ. タイムスタディ調査結果

介護老人福祉施設では、「行動上の問題への対応」の時間は事前 0 分、事後①0.1 分、事後②1.6 分であった。「記録・利用者のアセスメント・情報収集等」の時間は事前と比較し、事後①では 9.1 分減少し、事後②では 5.1 分減少した。「間接業務」の時間は事前と比較し、事後①では 25.5 分増加し、事後②では 53.7 分増加した。

訪問介護では、「行動上の問題への対応」の時間は事前 4.3 分、事後①1.2 分、事後②2.8 分であった。「間接業務」の時間は事前と比較し、事後①で 22.0 分減少し、事後②で 10.5 分減少した。

図表 XI-21 タイムスタディ調査の結果(介護老人福祉施設:職員1人1日(480 分)あたり)

		直接介護										間接業務													合計（分）		
		移動・移乗・体位交換	排泄介助・支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	日常生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・情報見直し	見守り機器の使用・確認	介護ロボット・ICT機器の準備・調整・片付け	他の職員に対する指導・教育	食事・おやつ配膳・下膳等	入浴業務の準備等	リネン交換・ベッドメイク	居室清掃・片付け	消毒などの感染症対応	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠	その他		余裕時間	未記入
事前	時間(分)	32.2	49.7	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	2.0	178.9	4.2	38.7	1.9	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	62.1	45.9	38.3	10.1	11.0	480
	割合	7%	10%	0%	0%	1%	0%	0%	0%	37%	1%	8%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	13%	10%	8%	2%	2%	100%
事後①	時間(分)	49.7	54.5	0.0	0.0	24.9	0.0	0.0	2.1	116.5	1.8	30.9	0.6	0.0	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	87.3	31.9	50.6	13.0	11.8	480
	割合	10%	11%	0%	0%	5%	0%	0%	0%	24%	0%	6%	0%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	18%	7%	11%	3%	2%	100%
事後②	時間(分)	35.1	42.7	0.0	0.0	5.3	1.6	0.0	0.3	149.6	2.4	31.7	3.8	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	118.7	47.5	22.7	7.5	10.6	480
	割合	7%	9%	0%	0%	1%	0%	0%	0%	31%	0%	7%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	25%	10%	5%	2%	2%	100%



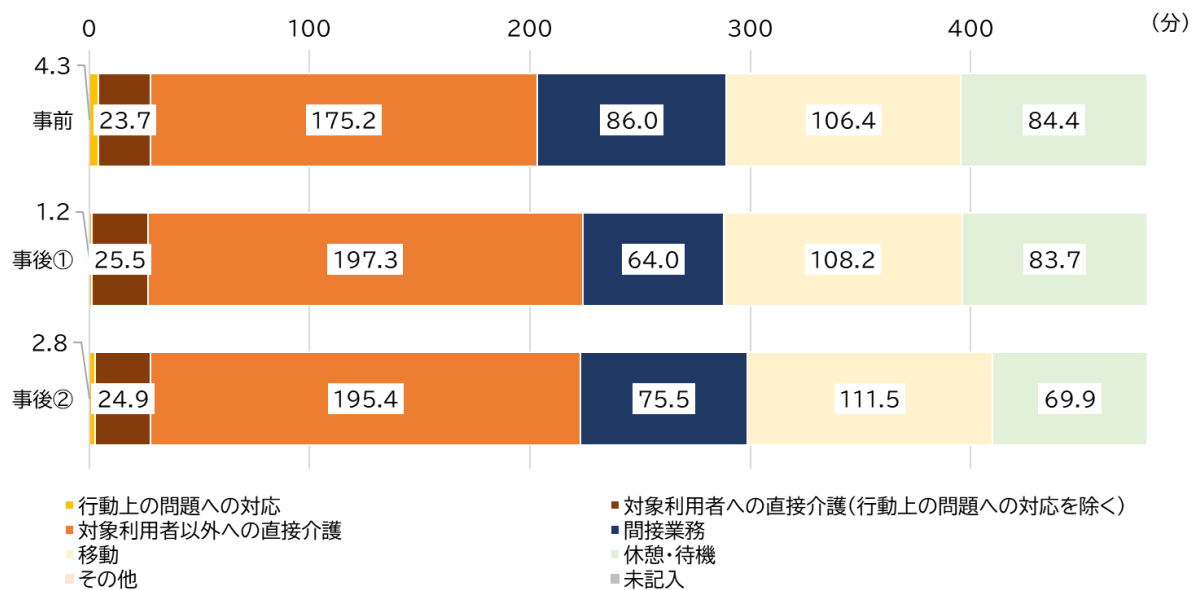
事前 n=9、事後①n=8、事後②n=8

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

図表 XI-22 タイムスタディ調査の結果(訪問介護:職員1人1日(480 分)あたり)

		直接介護(対象利用者)			直接介護(その他利用者)	対象利用者にかかわる間接業務			その他の間接業務		休憩	その他	未記入	合計(分)
		行動上の問題への対応	利用者とのコミュニケーション	その他の直接介護・リハビリテーション	直接介護・リハビリテーション	記録・文書作成	利用者情報収集・介護計画の作成・見直し	AIツール活用にかかる業務	移動	その他間接業務	休憩・待機			
事前	時間(分)	4.3	5.9	17.9	175.2	4.0	0.0	0.0	106.4	82.0	84.4	0.0	0.0	480
	割合	1%	1%	4%	37%	1%	0%	0%	22%	17%	18%	0%	0%	100%
事後①	時間(分)	1.2	5.6	19.9	197.3	3.2	1.9	1.9	108.2	57.1	83.7	0.0	0.0	480
	割合	0%	1%	4%	41%	1%	0%	0%	23%	12%	17%	0%	0%	100%
事後②	時間(分)	2.8	5.3	19.6	195.4	4.0	1.7	1.7	111.5	68.1	69.9	0.0	0.0	480
	割合	1%	1%	4%	41%	1%	0%	0%	23%	14%	15%	0%	0%	100%



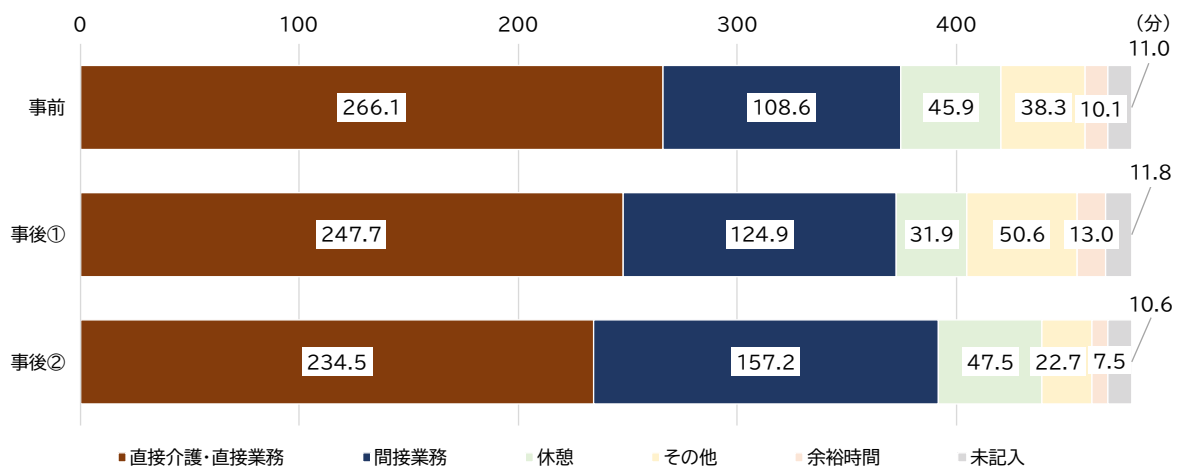
事前 n=16、事後①n=13、事後②n=13

※10 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

図表 XI-23 (参考:共通区分)タイムスタディ調査の結果
(介護老人福祉施設:職員1人1日(480 分)あたり)

		直接介護・直接業務	間接業務	休憩	その他	余裕時間	未記入	合計(分)
事前	時間(分)	266.1	108.6	45.9	38.3	10.1	11.0	480
	割合	55%	23%	10%	8%	2%	2%	100%
事後①	時間(分)	247.7	124.9	31.9	50.6	13.0	11.8	480
	割合	52%	26%	7%	11%	3%	2%	100%
事後②	時間(分)	234.5	157.2	47.5	22.7	7.5	10.6	480
	割合	49%	33%	10%	5%	2%	2%	100%



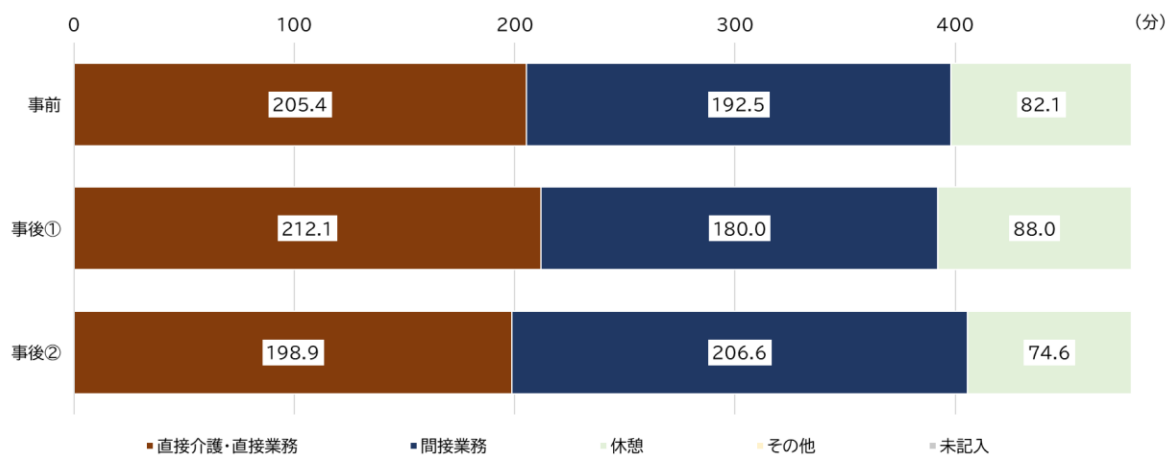
事前 n=9、事後①n=8、事後②n=8

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

図表 XI-24 (参考:共通区分)タイムスタディ調査の結果
(訪問介護:職員1人1日(480 分)あたり)

		直接介護・直接業務	間接業務	休憩	その他	未記入	合計(分)
事前	時間(分)	205.4	192.5	82.1	0.0	0.0	480
	割合	43%	40%	17%	0%	0%	100%
事後①	時間(分)	212.1	180.0	88.0	0.0	0.0	480
	割合	44%	37%	18%	0%	0%	100%
事後②	時間(分)	198.9	206.6	74.6	0.0	0.0	480
	割合	41%	43%	16%	0%	0%	100%



事前 n=16、事後①n=13、事後②n=13

※10 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

エ. 職員向けアンケート調査結果

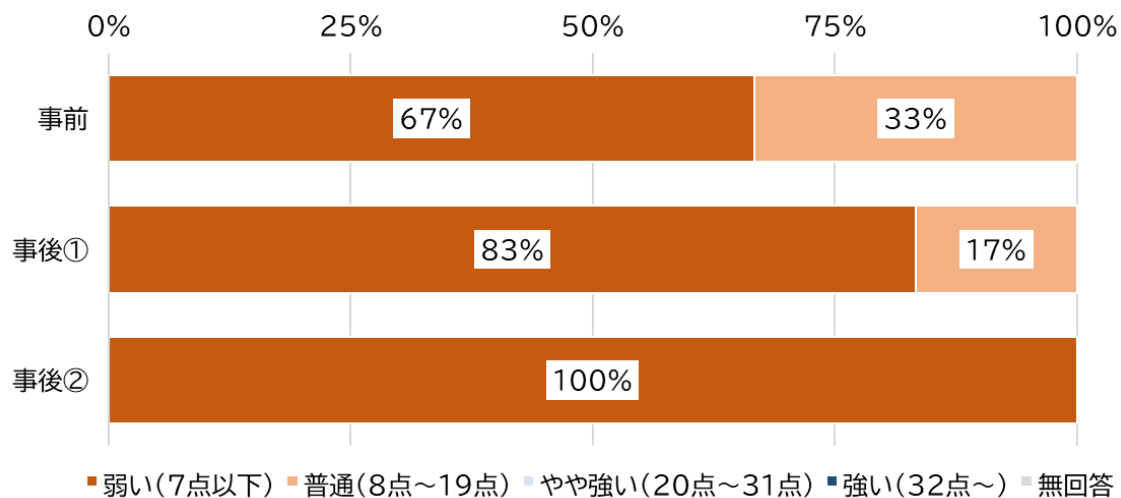
① 心理的負担評価

職員の心理的ストレス反応測定尺度合計点について事前と事後 2 回の結果を比較すると、介護老人福祉施設において、「弱い(7 点以下)」と回答した職員の割合が、事前では 67%、事後①では 83%、事後②では 100%となった。訪問介護においては、「弱い(7 点以下)」と回答した職員の割合が、事前では 47%、事後①では 33%、事後②では 40%となった。

図表 XI-25 職員調査:心理的負担評価

(介護老人福祉施設)

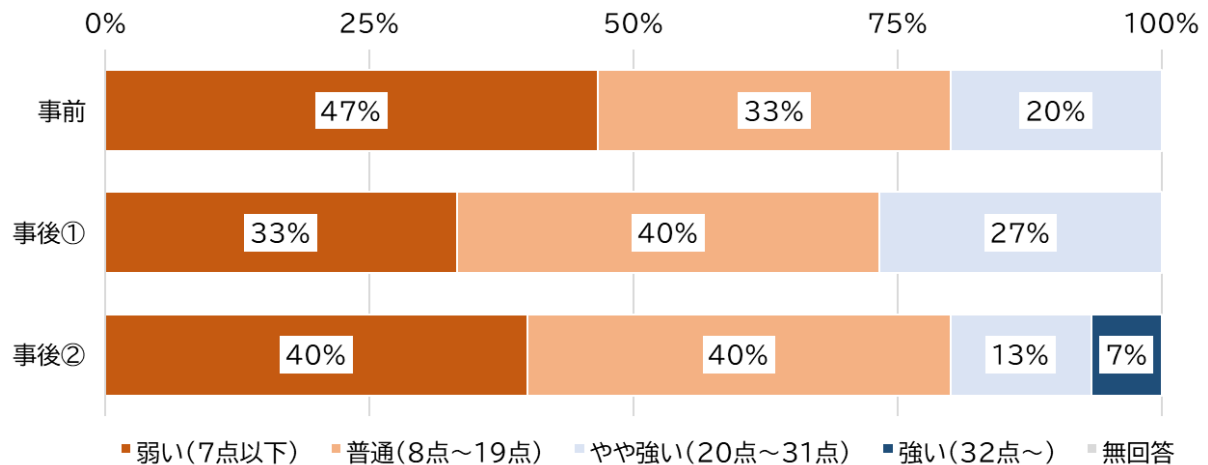
		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
事前	人数(人)	4	2	0	0	0	6
	割合	67%	33%	0%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	5	1	0	0	0	6
	割合	83%	17%	0%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	6	0	0	0	0	6
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	100%



※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各 18 項目のうち 1 項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が 0、1、2、3 以外の場合は無回答処理をした。

(訪問介護)

		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
事前	人数(人)	7	5	3	0	0	15
	割合	47%	33%	20%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	5	6	4	0	0	15
	割合	33%	40%	27%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	6	6	2	1	0	15
	割合	40%	40%	13%	7%	0%	100%



※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各 18 項目のうち 1 項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が 0、1、2、3 以外の場合は無回答処理をした。

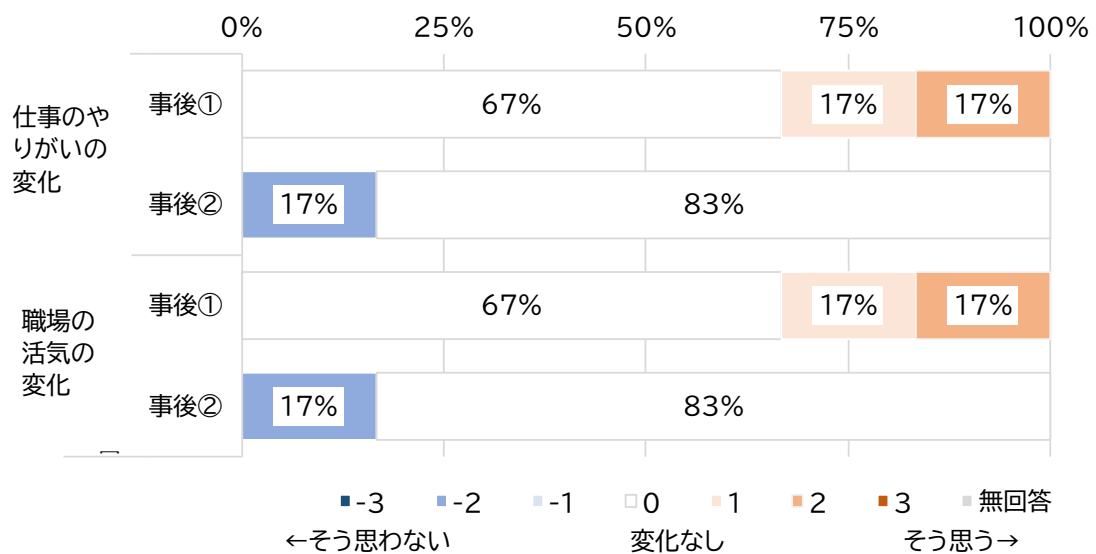
② 機器導入によるモチベーションの変化

機器導入によるモチベーションの変化は以下の通り。

図表 XI-26 職員調査:機器導入によるモチベーションの変化

(介護老人福祉施設)

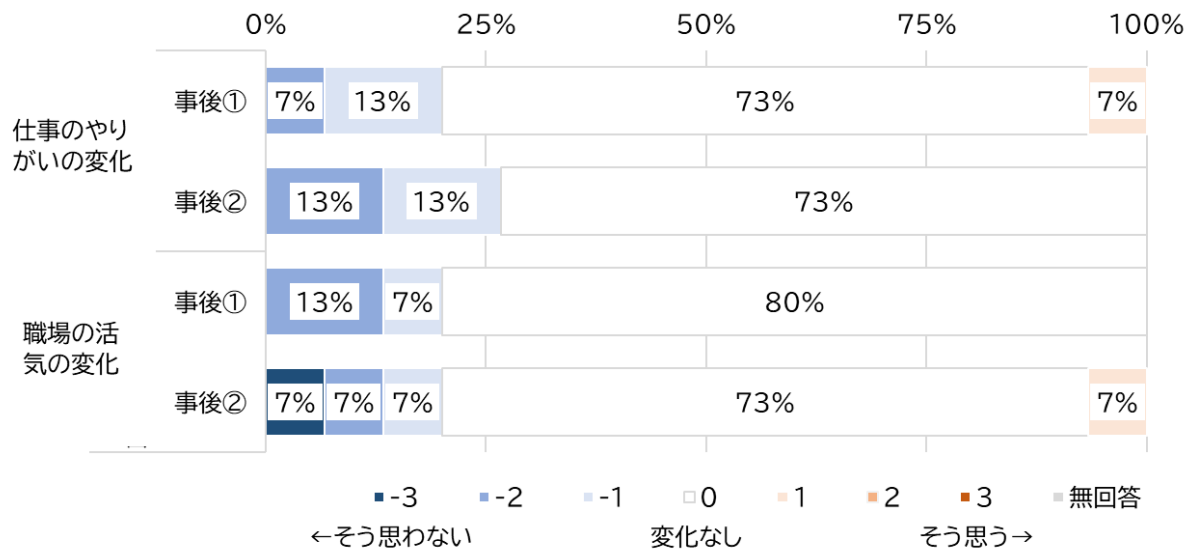
			←減少したと感じる→							増加したと感じる→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3				
仕事のやりがいの変化	事後①	人数(人)	0	0	0	4	1	1	0	0	0	0	6
		割合	0%	0%	0%	67%	17%	17%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	0	5	0	0	0	0	0	0	6
		割合	0%	17%	0%	83%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	4	1	1	0	0	0	0	6
		割合	0%	0%	0%	67%	17%	17%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	0	5	0	0	0	0	0	0	6
		割合	0%	17%	0%	83%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

(訪問介護)

			←減少したと感じる→					増加したと感じる→				無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3				
仕事のやりがいの変化	事後①	人数(人)	0	1	2	11	1	0	0	0	0	0	15
		割合	0%	7%	13%	73%	7%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	2	2	11	0	0	0	0	0	0	15
		割合	0%	13%	13%	73%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	0	2	1	12	0	0	0	0	0	0	15
		割合	0%	13%	7%	80%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	1	1	11	1	0	0	0	0	0	15
		割合	7%	7%	7%	73%	7%	0%	0%	0%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

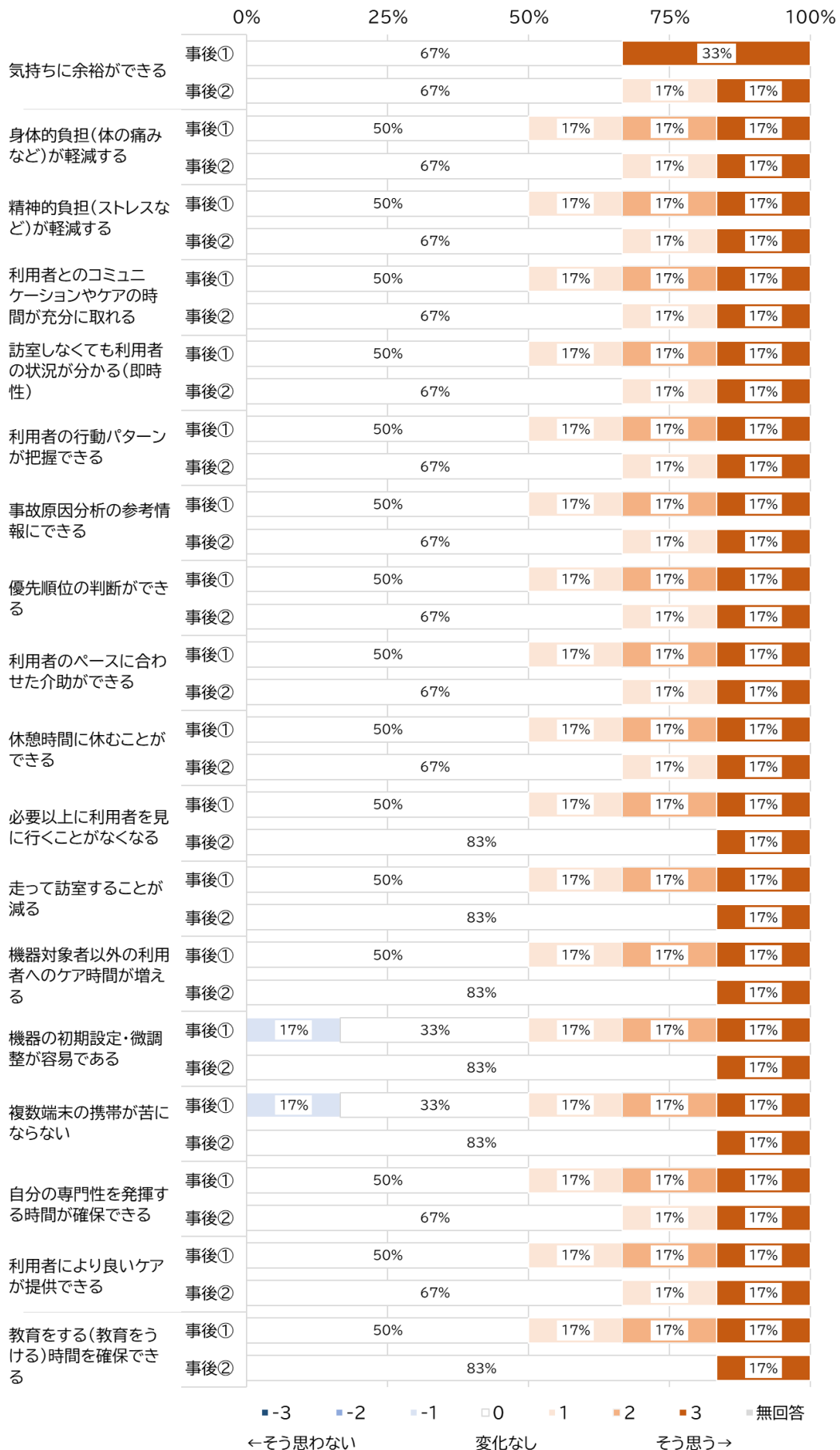
③ 機器導入による職員や施設業務の変化

機器導入による職員や施設業務の変化は以下の通り。

図表 XI-27 職員調査:機器導入による職員や施設業務の変化

(介護老人福祉施設)

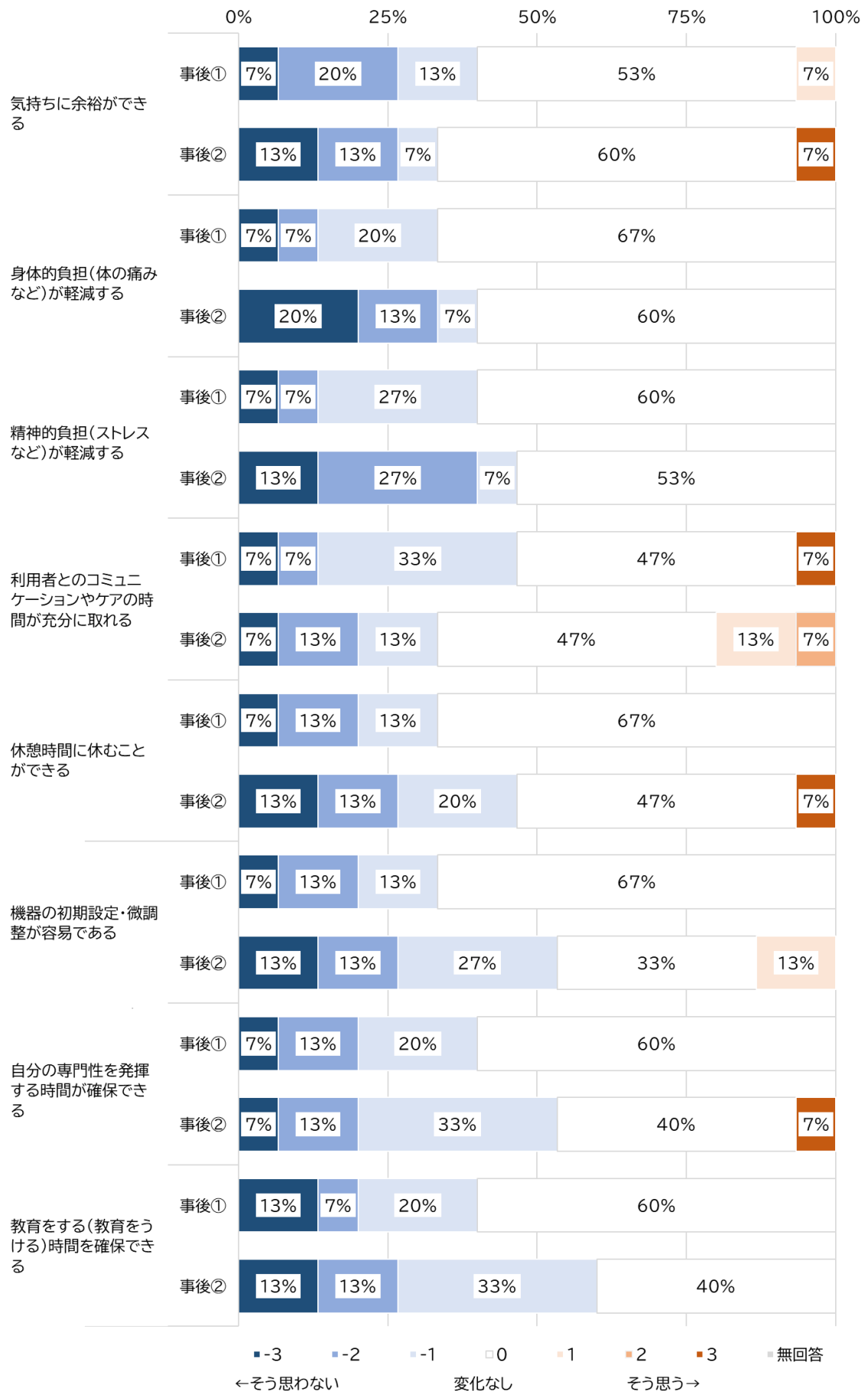
			←そう思わない		変化なし		そう思う→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3	
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人)	0	0	0	4	0	0	2	0
		割合	0%	0%	0%	67%	0%	0%	33%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	1	0
		割合	0%	0%	0%	67%	17%	0%	17%	100%
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人)	0	0	0	3	1	1	1	0
		割合	0%	0%	0%	50%	17%	17%	17%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	1	0
		割合	0%	0%	0%	67%	17%	0%	17%	100%
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人)	0	0	0	3	1	1	1	0
		割合	0%	0%	0%	50%	17%	17%	17%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	1	0
		割合	0%	0%	0%	67%	17%	0%	17%	100%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が十分に取れる	事後①	人数(人)	0	0	0	3	1	1	1	0
		割合	0%	0%	0%	50%	17%	17%	17%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	1	0
		割合	0%	0%	0%	67%	17%	0%	17%	100%
訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	事後①	人数(人)	0	0	0	3	1	1	1	0
		割合	0%	0%	0%	50%	17%	17%	17%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	1	0
		割合	0%	0%	0%	67%	17%	0%	17%	100%
利用者の行動パターンが把握できる	事後①	人数(人)	0	0	0	3	1	1	1	0
		割合	0%	0%	0%	50%	17%	17%	17%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	1	0
		割合	0%	0%	0%	67%	17%	0%	17%	100%
事故原因分析の参考情報にできる	事後①	人数(人)	0	0	0	3	1	1	1	0
		割合	0%	0%	0%	50%	17%	17%	17%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	1	0
		割合	0%	0%	0%	67%	17%	0%	17%	100%
優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	事後①	人数(人)	0	0	0	3	1	1	1	0
		割合	0%	0%	0%	50%	17%	17%	17%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	1	0
		割合	0%	0%	0%	67%	17%	0%	17%	100%
利用者のペースに合わせた介助ができる	事後①	人数(人)	0	0	0	3	1	1	1	0
		割合	0%	0%	0%	50%	17%	17%	17%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	1	0
		割合	0%	0%	0%	67%	17%	0%	17%	100%
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人)	0	0	0	3	1	1	1	0
		割合	0%	0%	0%	50%	17%	17%	17%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	1	0
		割合	0%	0%	0%	67%	17%	0%	17%	100%
必要以上に利用者を見に行くことがなくなる	事後①	人数(人)	0	0	0	3	1	1	1	0
		割合	0%	0%	0%	50%	17%	17%	17%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	5	0	0	1	0
		割合	0%	0%	0%	83%	0%	0%	17%	100%
走って訪室することが減る	事後①	人数(人)	0	0	0	3	1	1	1	0
		割合	0%	0%	0%	50%	17%	17%	17%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	5	0	0	1	0
		割合	0%	0%	0%	83%	0%	0%	17%	100%
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	事後①	人数(人)	0	0	0	3	1	1	1	0
		割合	0%	0%	0%	50%	17%	17%	17%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	5	0	0	1	0
		割合	0%	0%	0%	83%	0%	0%	17%	100%
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人)	0	0	1	2	1	1	1	0
		割合	0%	0%	17%	33%	17%	17%	17%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	5	0	0	1	0
		割合	0%	0%	0%	83%	0%	0%	17%	100%
複数端末の携帯が苦にならない	事後①	人数(人)	0	0	1	2	1	1	1	0
		割合	0%	0%	17%	33%	17%	17%	17%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	5	0	0	1	0
		割合	0%	0%	0%	83%	0%	0%	17%	100%
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人)	0	0	0	3	1	1	1	0
		割合	0%	0%	0%	50%	17%	17%	17%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	1	0
		割合	0%	0%	0%	67%	17%	0%	17%	100%
利用者により良いケアが提供できる	事後①	人数(人)	0	0	0	3	1	1	1	0
		割合	0%	0%	0%	50%	17%	17%	17%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	1	0
		割合	0%	0%	0%	67%	17%	0%	17%	100%
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後①	人数(人)	0	0	0	3	1	1	1	0
		割合	0%	0%	0%	50%	17%	17%	17%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	5	0	0	1	0
		割合	0%	0%	0%	83%	0%	0%	17%	100%



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

(訪問介護)

			←そう思わない 変化なし そう思う→							無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人) 割合	1 7%	3 20%	2 13%	8 53%	1 7%	0 0%	0 0%	0 0%	15 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 13%	2 13%	1 7%	9 60%	0 0%	0 0%	1 7%	0 0%	15 100%
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人) 割合	1 7%	1 7%	3 20%	10 67%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	15 100%
	事後②	人数(人) 割合	3 20%	2 13%	1 7%	9 60%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	15 100%
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人) 割合	1 7%	1 7%	4 27%	9 60%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	15 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 13%	4 27%	1 7%	8 53%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	15 100%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	事後①	人数(人) 割合	1 7%	1 7%	5 33%	7 47%	0 0%	0 0%	1 7%	0 0%	15 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 7%	2 13%	2 13%	7 47%	2 13%	1 7%	0 0%	0 0%	15 100%
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人) 割合	1 7%	2 13%	2 13%	10 67%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	15 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 13%	2 13%	3 20%	7 47%	0 0%	0 0%	1 7%	0 0%	15 100%
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人) 割合	1 7%	2 13%	2 13%	10 67%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	15 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 13%	2 13%	4 27%	5 33%	2 13%	0 0%	0 0%	0 0%	15 100%
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人) 割合	1 7%	2 13%	3 20%	9 60%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	15 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 7%	2 13%	5 33%	6 40%	0 0%	0 0%	1 7%	0 0%	15 100%
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後①	人数(人) 割合	2 13%	1 7%	3 20%	9 60%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	15 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 13%	2 13%	5 33%	6 40%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	15 100%



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

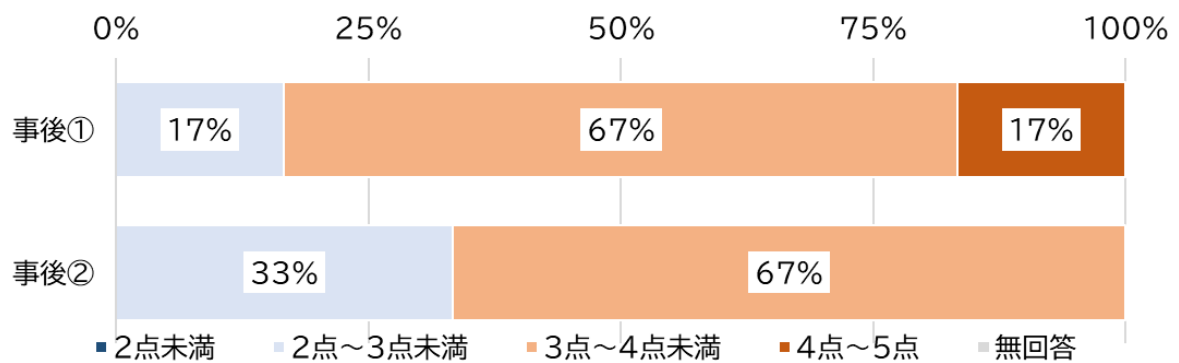
④ 導入機器の満足度評価 ※出典:QUEST 福祉用具満足度評価

介護老人福祉施設では、導入機器の満足度については、「3点～4点未満」が最も多く、事後①及び事後②で67%であった。

図表 XI-28 職員調査:導入機器の満足度評価(総合評価)

(介護老人福祉施設)

		2点未満	2点～3点未満	3点～4点未満	4点～5点	無回答	合計
事後①	人数(人)	0	1	4	1	0	6
	割合	0%	17%	67%	17%	0%	100%
事後②	人数(人)	0	2	4	0	0	6
	割合	0%	33%	67%	0%	0%	100%



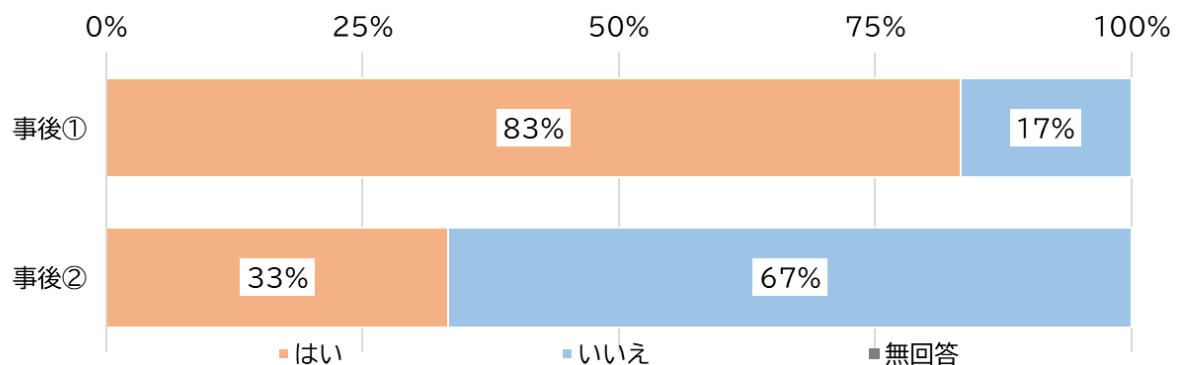
⑤ 導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向

導入機器の継続利用意向について、介護老人福祉施設では「はい」の回答が、事後①では83%、事後②で33%であった。訪問介護では「はい」の回答が、事後①では87%、事後②で73%であった。

図表 XI-29 職員調査:導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向

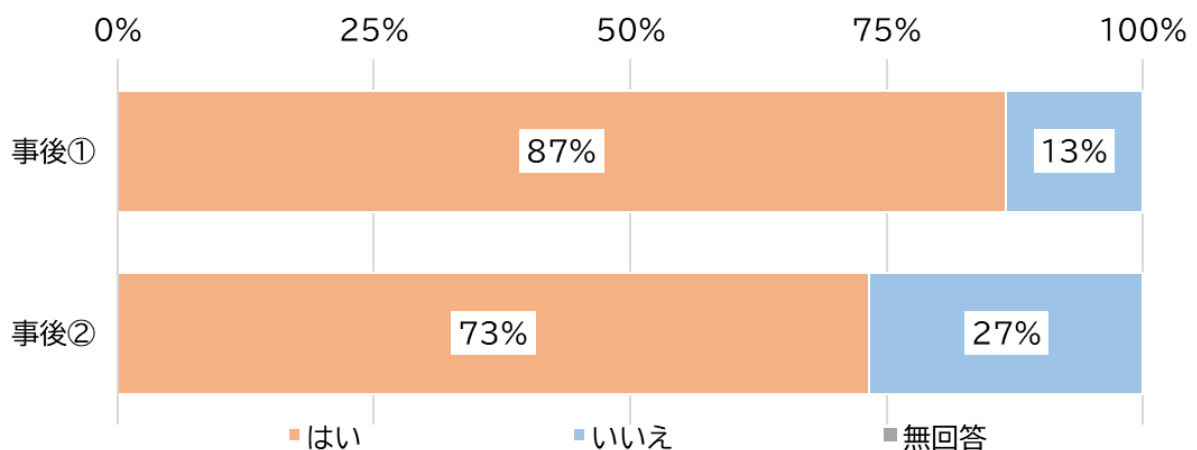
(介護老人福祉施設)

		はい	いいえ	無回答	合計
事後①	人数(人)	5	1	0	6
	割合	83%	17%	0%	100%
事後②	人数(人)	2	4	0	6
	割合	33%	67%	0%	100%



(訪問介護)

		はい	いいえ	無回答	合計
事後①	人数(人)	13	2	0	15
	割合	87%	13%	0%	100%
事後②	人数(人)	11	4	0	15
	割合	73%	27%	0%	100%



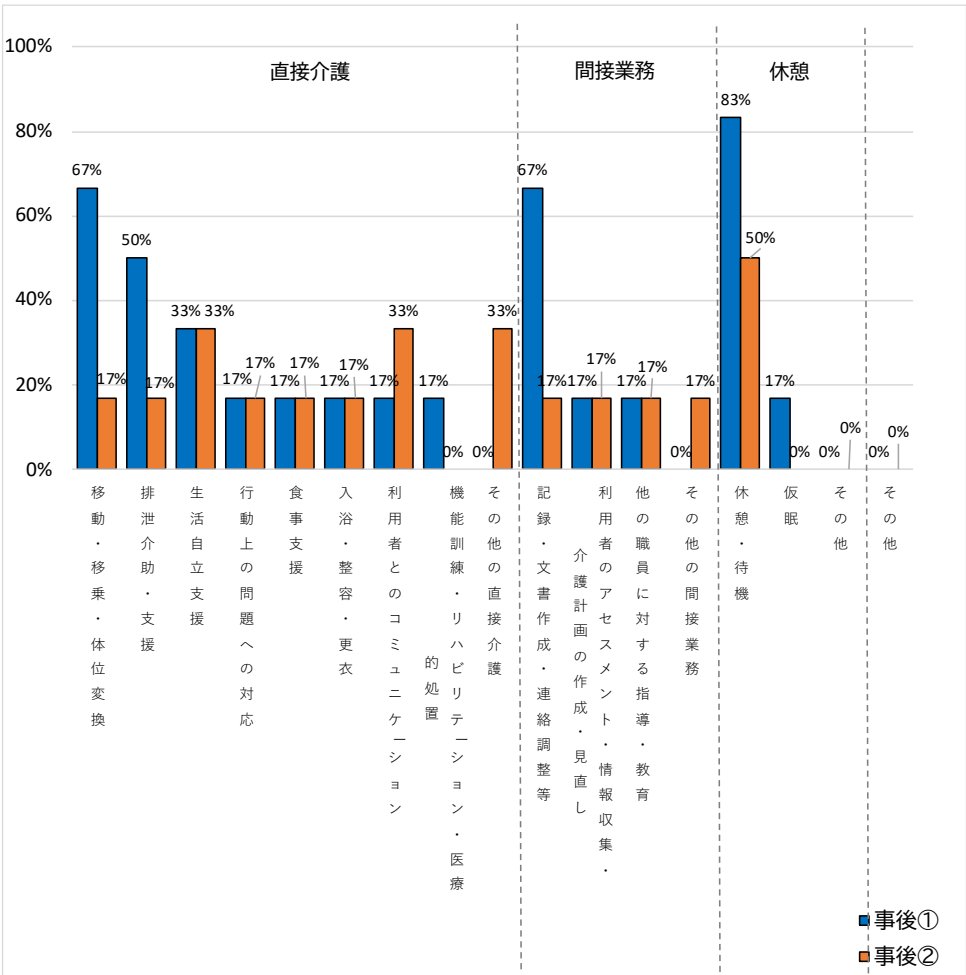
⑥ 職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により増やすことができた時間

職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により増やすことができた時間は、介護老人福祉施設では「休憩・待機」「移動・移乗・体位交換」「記録・文書作成・連絡調整等」を挙げる職員が多かった。

図表 XI-30 職員調査:職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により増やすことができた時間

(介護老人福祉施設)

		直接介護									間接業務					休憩			その他	無回答（人）	合計（人）
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	記録・文書作成・連絡調整等	利用者へのアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し	他の職員に対する指導・教育	その他の間接業務	休憩	仮眠	その他				
事後①	人数（人）	4	3	2	1	1	1	1	1	0	4	1	1	0	5	1	0	0	0	1	6
	割合	67%	50%	33%	17%	17%	17%	17%	17%	0%	67%	17%	17%	0%	83%	17%	0%	0%	0%	17%	-
事後②	人数（人）	1	1	2	1	1	1	2	0	2	1	1	1	1	3	0	0	0	0	1	6
	割合	17%	17%	33%	17%	17%	17%	33%	0%	33%	17%	17%	17%	17%	50%	0%	0%	0%	0%	17%	-



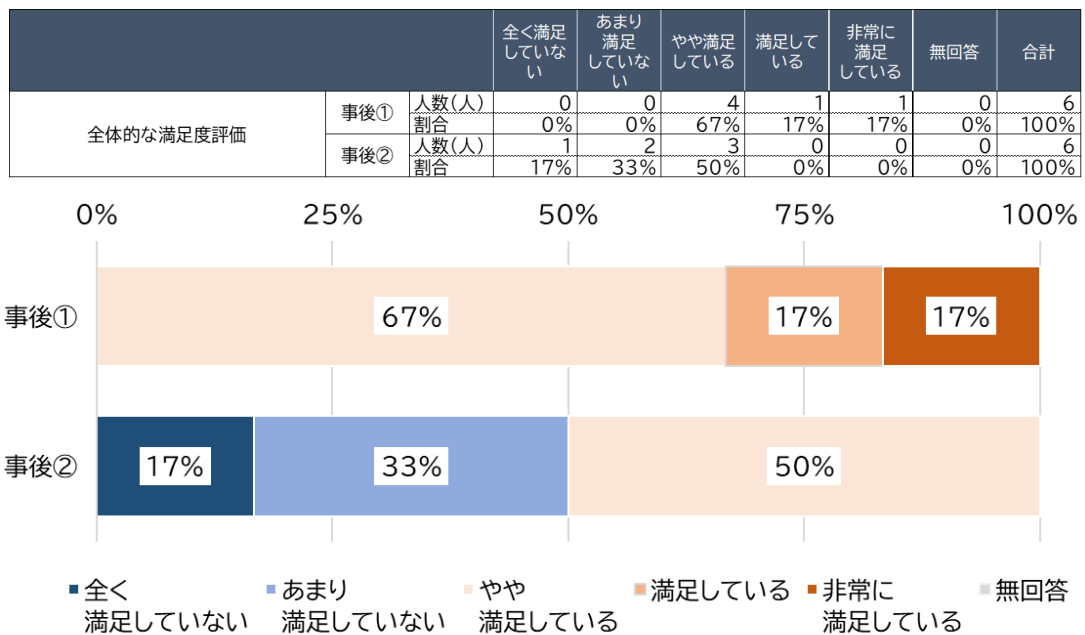
※該当する項目をすべて選択する設問。

⑦ 満足度評価

調査で導入した機器を用いたケアに対する満足度について、介護老人福祉施設では「やや満足している」「満足している」「非常に満足している」と回答した職員の割合が、事後①では 100%、事後②では 50%であった。訪問介護では「やや満足している」「満足している」と回答した職員の割合が、事後①では 67%、事後②では 80%であった。

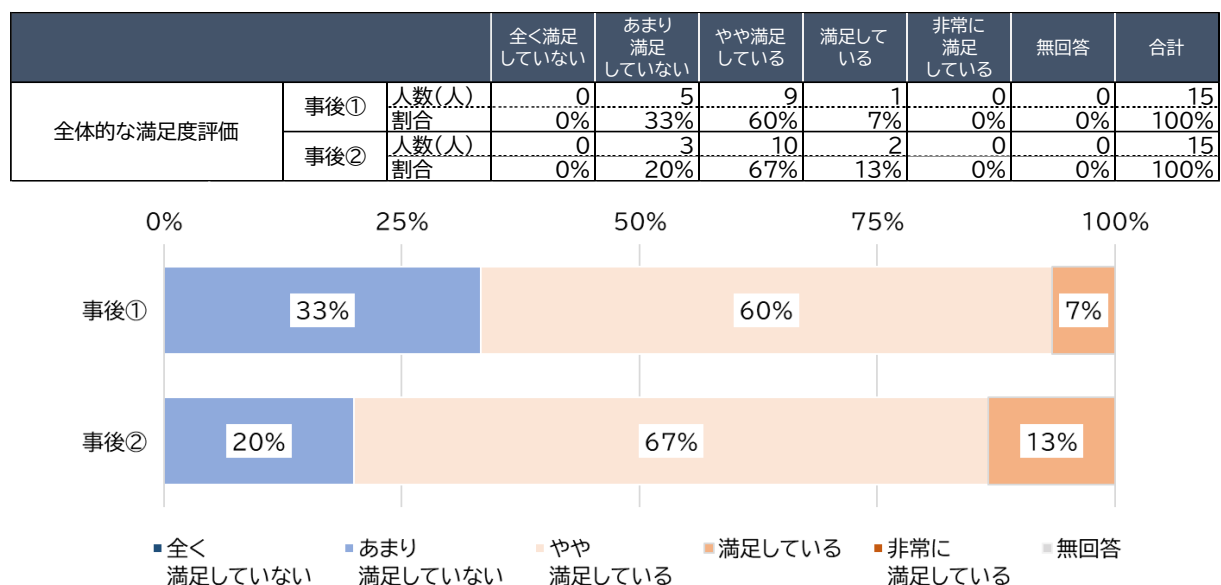
図表 XI-31 職員調査:満足度評価

(介護老人福祉施設)



※質問項目に対し、1(全く満足していない)～5(非常に満足している)の 5 段階で評価した。

(訪問介護)



※質問項目に対し、1(全く満足していない)～5(非常に満足している)の 5 段階で評価した。

オ. 利用者向けアンケート調査結果

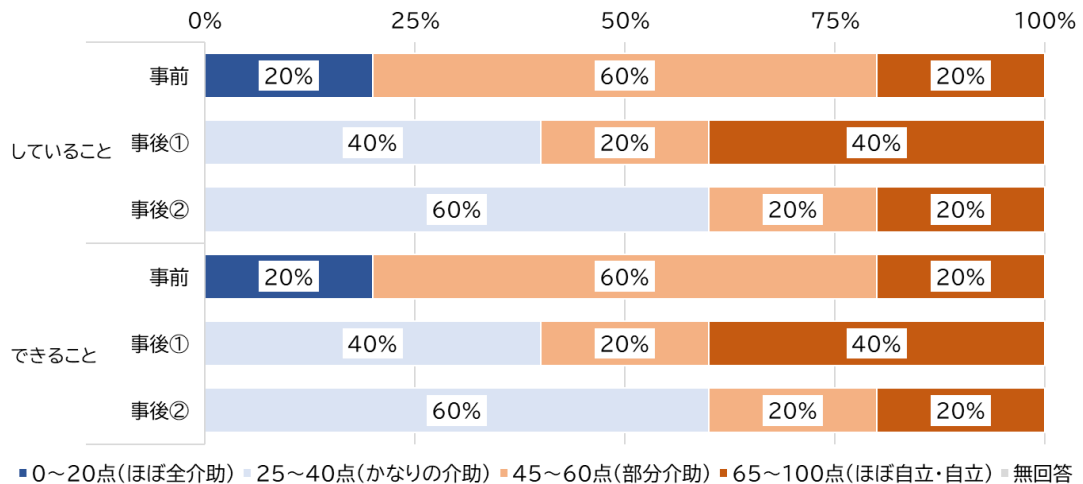
① ADL の変化

ADL の変化は以下の通り。

図表 XI-32 利用者調査:ADL の変化

(介護老人福祉施設)

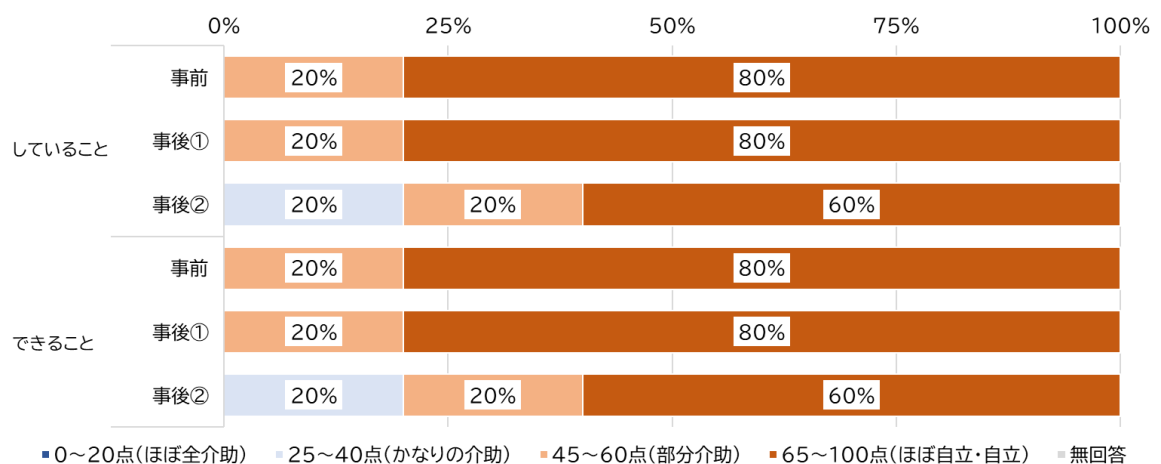
			0点～ 20点	25点～ 40点	45点～ 60点	65点～ 100点	無回答	合計
していること	事前	人数(人)	1	0	3	1	0	5
		割合	20%	0%	60%	20%	0%	100%
	事後①	人数(人)	0	2	1	2	0	5
		割合	0%	40%	20%	40%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	3	1	1	0	5
		割合	0%	60%	20%	20%	0%	100%
できること	事前	人数(人)	1	0	3	1	0	5
		割合	20%	0%	60%	20%	0%	100%
	事後①	人数(人)	0	2	1	2	0	5
		割合	0%	40%	20%	40%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	3	1	1	0	5
		割合	0%	60%	20%	20%	0%	100%



※事前調査または事後調査で、各10項目のうち1項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

(訪問介護)

			0点～ 20点	25点～ 40点	45点～ 60点	65点～ 100点	無回答	合計
していること	事前	人数(人)	0	0	1	4	0	5
		割合	0%	0%	20%	80%	0%	100%
	事後①	人数(人)	0	0	1	4	0	5
		割合	0%	0%	20%	80%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	1	3	0	5
		割合	0%	20%	20%	60%	0%	100%
できること	事前	人数(人)	0	0	1	4	0	5
		割合	0%	0%	20%	80%	0%	100%
	事後①	人数(人)	0	0	1	4	0	5
		割合	0%	0%	20%	80%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	1	3	0	5
		割合	0%	20%	20%	60%	0%	100%



※事前調査または事後調査で、各10項目のうち1項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

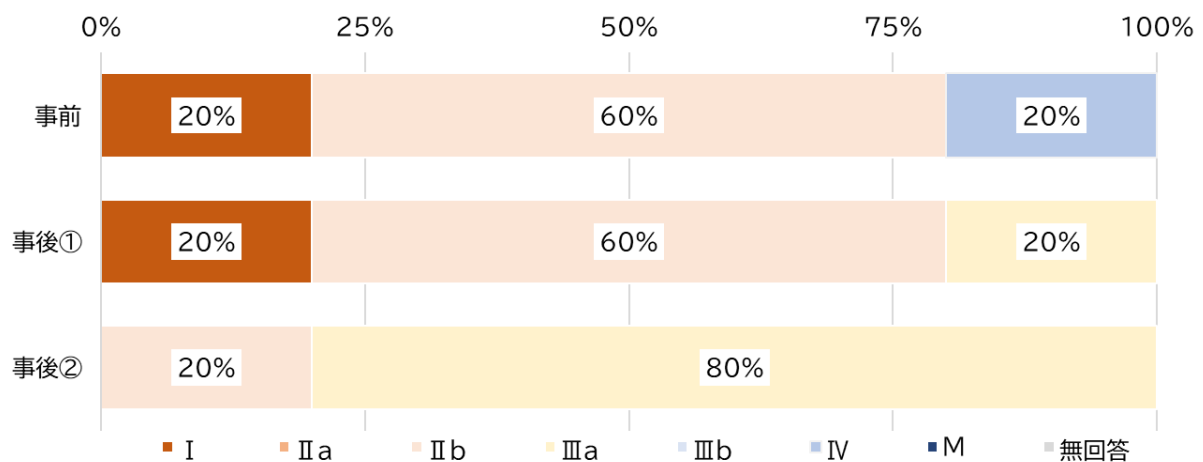
② 認知症高齢者の日常生活自立度の変化

認知症高齢者の日常生活自立度は以下の通り。

図表 XI-33 利用者調査:認知症高齢者の日常生活自立度の変化

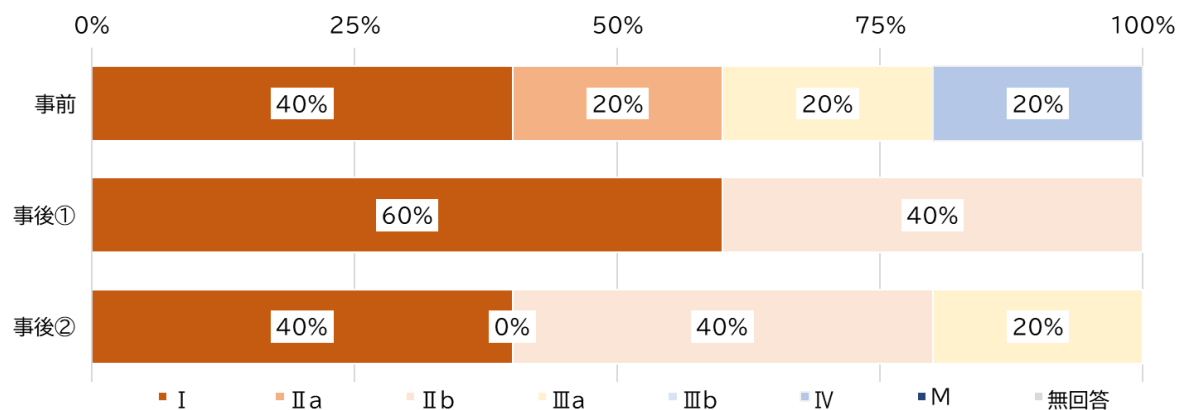
(介護老人福祉施設)

		I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	無回答	合計
事前	人数(人)	1	0	3	0	0	1	0	0	5
	割合	20%	0%	60%	0%	0%	20%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	1	0	3	1	0	0	0	0	5
	割合	20%	0%	60%	20%	0%	0%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	0	0	1	4	0	0	0	0	5
	割合	0%	0%	20%	80%	0%	0%	0%	0%	100%



(訪問介護)

		I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	無回答	合計
事前	人数(人)	2	1	0	1	0	1	0	0	5
	割合	40%	20%	0%	20%	0%	20%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	3	0	2	0	0	0	0	0	5
	割合	60%	0%	40%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	2	0	2	1	0	0	0	0	5
	割合	40%	0%	40%	20%	0%	0%	0%	0%	100%



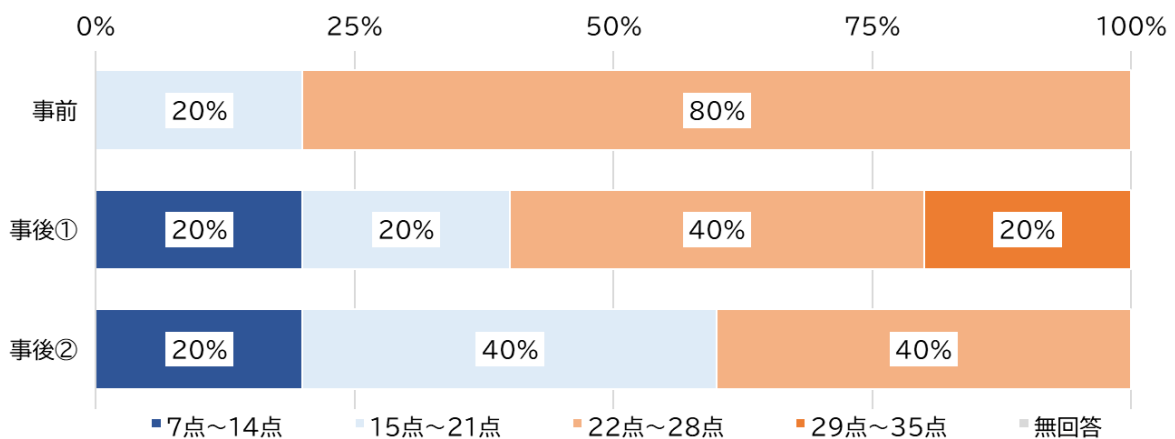
③ 生活・認知機能尺度の変化

生活・認知機能尺度の変化は以下の通り。

図表 XI-34 利用者調査:生活・認知機能尺度の変化

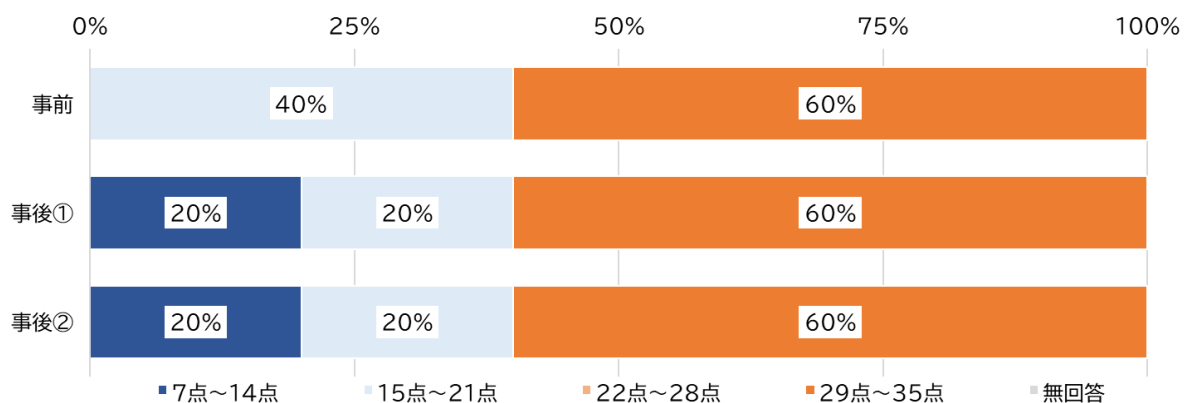
(介護老人福祉施設)

		7点～ 14点	15点～ 21点	22点～ 28点	29点～ 35点	無回答	合計
事前	人数(人)	0	1	4	0	0	5
	割合	0%	20%	80%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	1	1	2	1	0	5
	割合	20%	20%	40%	20%	0%	100%
事後②	人数(人)	1	2	2	0	0	5
	割合	20%	40%	40%	0%	0%	100%



(訪問介護)

		7点～ 14点	15点～ 21点	22点～ 28点	29点～ 35点	無回答	合計
事前	人数(人)	0	2	0	3	0	5
	割合	0%	40%	0%	60%	0%	100%
事後①	人数(人)	1	1	0	3	0	5
	割合	20%	20%	0%	60%	0%	100%
事後②	人数(人)	1	1	0	3	0	5
	割合	20%	20%	0%	60%	0%	100%



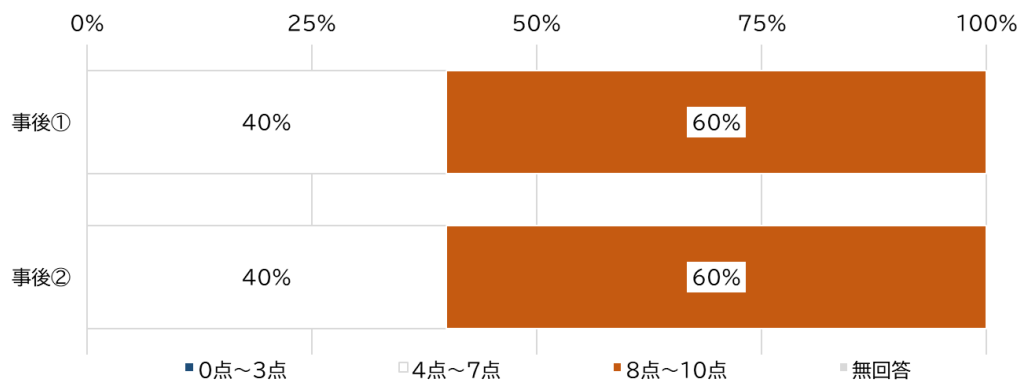
④ Vitality Index の変化

Vitality Index の変化は以下の通り。

図表 XI-35 利用者調査: Vitality Index の変化

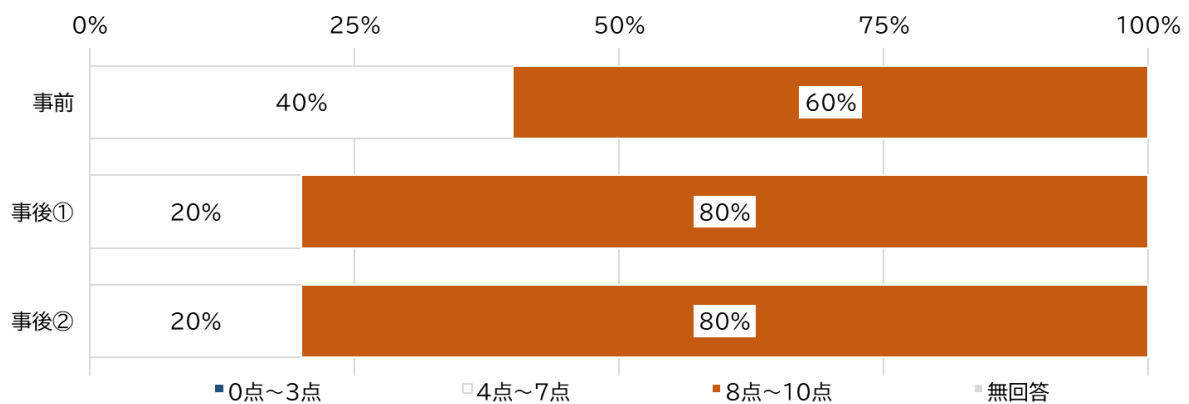
(介護老人福祉施設)

		0点～3点	4点～7点	8点～10点	無回答	合計
事後①	人数(人)	0	2	3	0	5
	割合	0%	40%	60%	0%	100%
事後②	人数(人)	0	2	3	0	5
	割合	0%	40%	60%	0%	100%



(訪問介護)

		0点～3点	4点～7点	8点～10点	無回答	合計
事前	人数(人)	0	2	3	0	5
	割合	0%	40%	60%	0%	100%
事後①	人数(人)	0	1	4	0	5
	割合	0%	20%	80%	0%	100%
事後②	人数(人)	0	1	4	0	5
	割合	0%	20%	80%	0%	100%



※事前調査または事後調査で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、以外の場合は無回答処理をした。

※Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志

疎通」「食事」「排泄」「活動」の 5 項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5 項目それぞれに 0～2 点で回答し、それぞれ 2 点が最もよい状態を示す。10 点満点。

⑤ QOL(WHO-5 精神的健康状態表)の変化

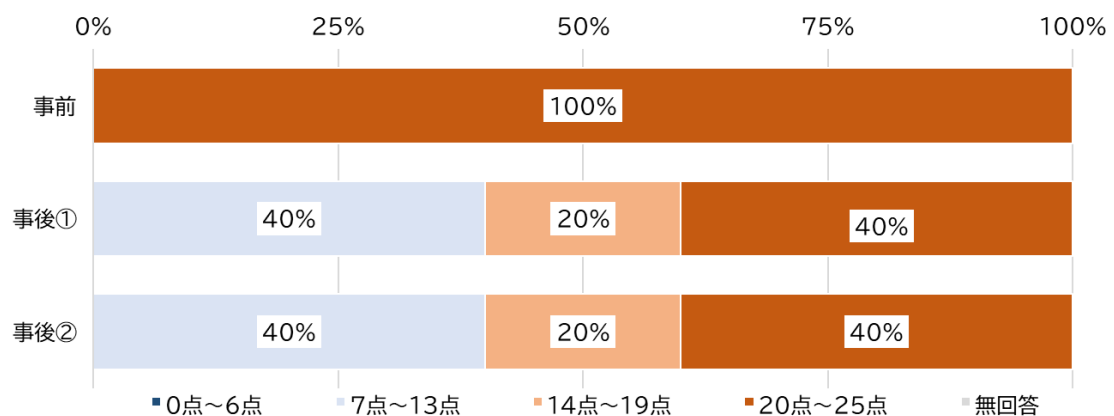
QOL の変化は、介護老人福祉施設では「20 点以上 25 点以下」の割合が、事前では 100%、事後①及び事後②では 40%であった。

訪問介護では「7 点以上 13 点以下」の割合が、事前では 20%、事後①及び事後②では 40%であった。

図表 XI-36 利用者調査:QOL の変化

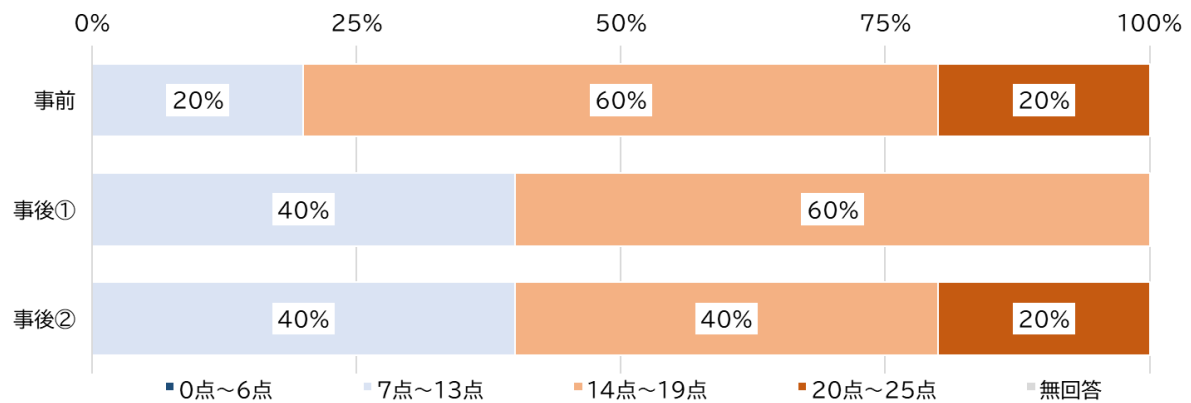
(介護老人福祉施設)

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
事前	人数(人)	0	0	0	5	0	5
	割合	0%	0%	0%	100%	0%	100%
事後①	人数(人)	0	2	1	2	0	5
	割合	0%	40%	20%	40%	0%	100%
事後②	人数(人)	0	2	1	2	0	5
	割合	0%	40%	20%	40%	0%	100%



(訪問介護)

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
事前	人数(人)	0	1	3	1	0	5
	割合	0%	20%	60%	20%	0%	100%
事後①	人数(人)	0	2	3	0	0	5
	割合	0%	40%	60%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	0	2	2	1	0	5
	割合	0%	40%	40%	20%	0%	100%



※事前または事後で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近2週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

⑥ 機器導入によるコミュニケーションの変化

機器導入によるコミュニケーションの変化は、介護老人福祉施設では「0(変化なし)」と回答する利用者が100%であった。

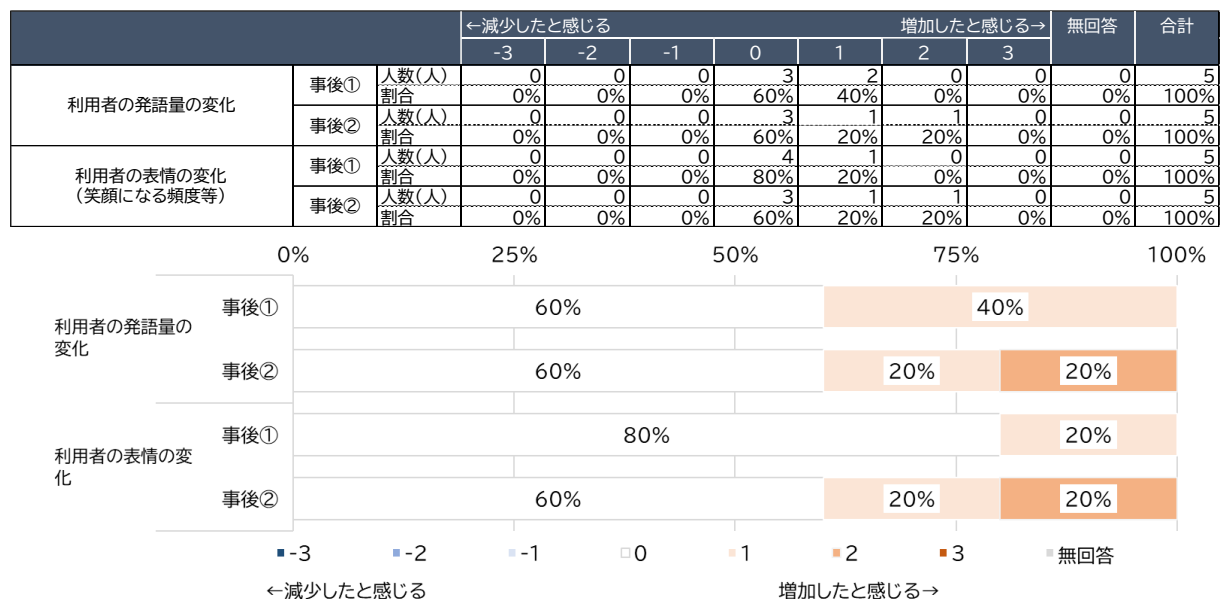
訪問介護でも「変化なし」と回答する利用者が最も多く、「利用者の発語量の変化」では事後①及び事後②で60%、「利用者の表情の変化」では事後①で80%、事後②で60%であった。

図表 XI-37 利用者調査:機器導入によるコミュニケーションの変化

(介護老人福祉施設)



(訪問介護)



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

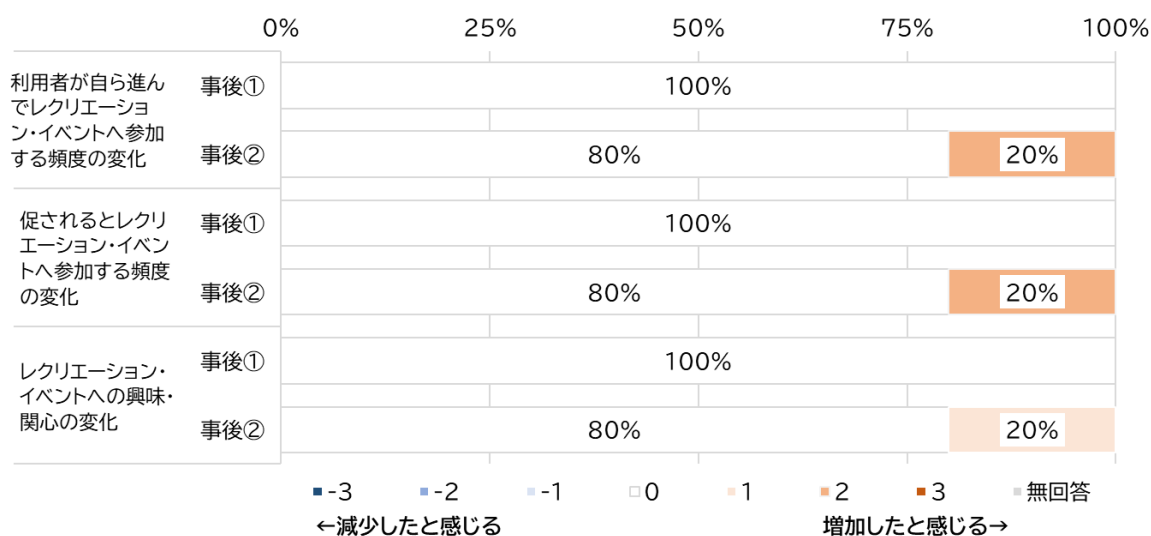
⑦ 機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化は、介護老人福祉施設、訪問介護ともに、いずれも「0(変化なし)」に該当した利用者が最も多かった。

図表 XI-38 利用者調査:機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

(介護老人福祉施設)

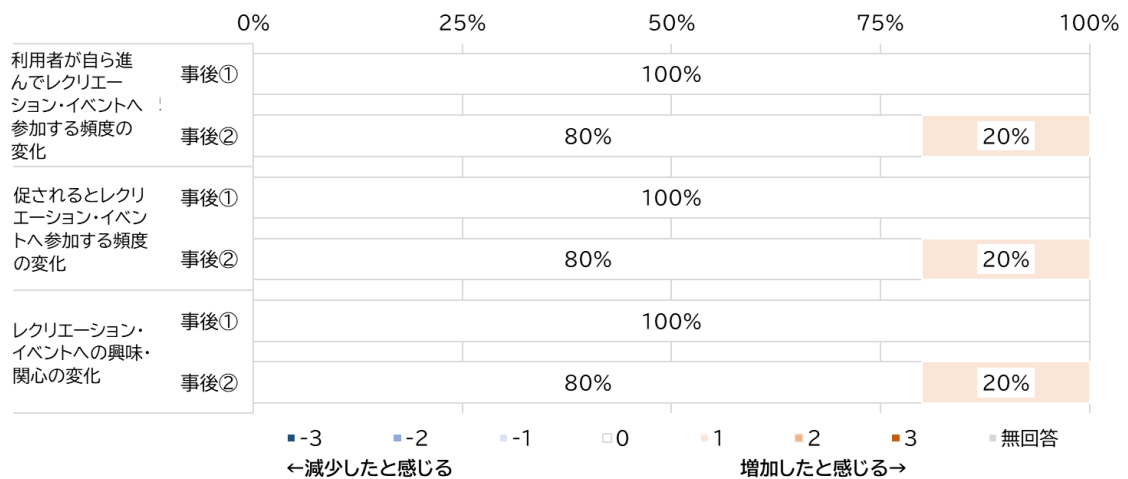
			←減少したと感じる			増加したと感じる→			無回答	合計	
			-3	-2	-1	0	1	2			3
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	0	1	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	80%	0%	20%	0%	0%	100%
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	0	1	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	80%	0%	20%	0%	0%	100%
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	80%	20%	0%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

(訪問介護)

			←減少したと感じる						増加したと感じる→				無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3					
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	80%	20%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	80%	20%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	80%	20%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%



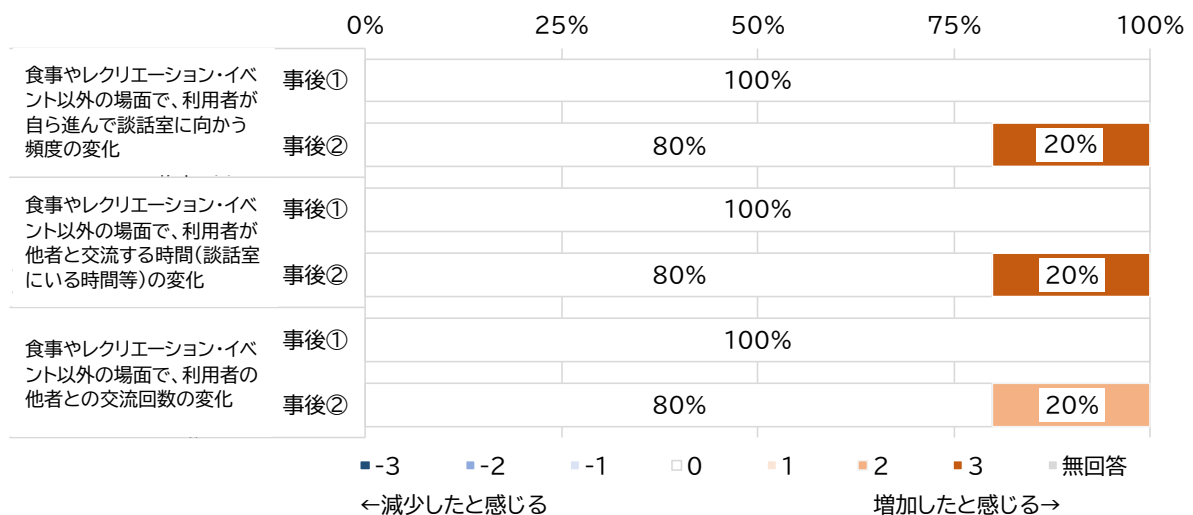
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

⑧ 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化
 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化は以下の通り。

図表 XI-39 利用者調査:機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

(介護老人福祉施設)

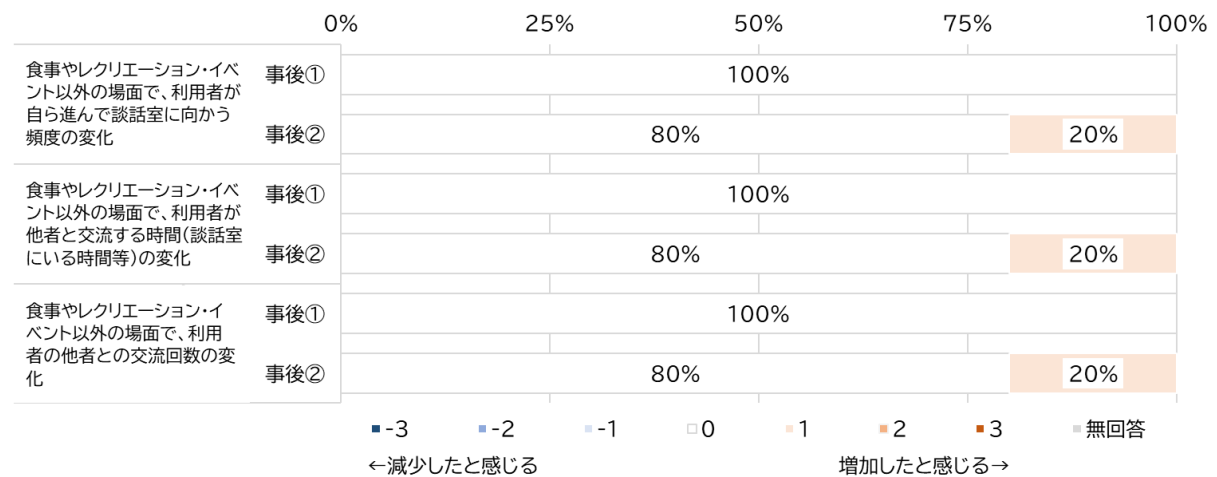
			←減少したと感じる							増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3					
食事やレクリエーション・イベント以外の 場面で、利用者が自ら進んで 談話室に向かう頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5		
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%			
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	0	0	1	0	5			
		割合	0%	0%	0%	80%	0%	0%	20%	0%	100%			
食事やレクリエーション・イベント以外 の場面で、利用者が他者と交流 する時間(談話室にいる時間等)の 変化	事後①	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	5			
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%			
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	0	0	1	0	5			
		割合	0%	0%	0%	80%	0%	0%	20%	0%	100%			
食事やレクリエーション・イベント以外 の場面で、利用者の他者との交 流回数の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	5			
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%			
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	0	1	0	0	5			
		割合	0%	0%	0%	80%	0%	20%	0%	0%	100%			



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

(訪問介護)

			←減少したと感じる					増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
食事やレクリエーション・イベント以外の 場面で、利用者が自ら進んで談話 室に向かう頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	80%	20%	0%	0%	0%	0%	100%
食事やレクリエーション・イベント以外の 場面で、利用者が他者と交流する 時間(談話室にいる時間等)の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	80%	20%	0%	0%	0%	0%	100%
食事やレクリエーション・イベント以外の 場面で、利用者の他者との交流回 数の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	80%	20%	0%	0%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

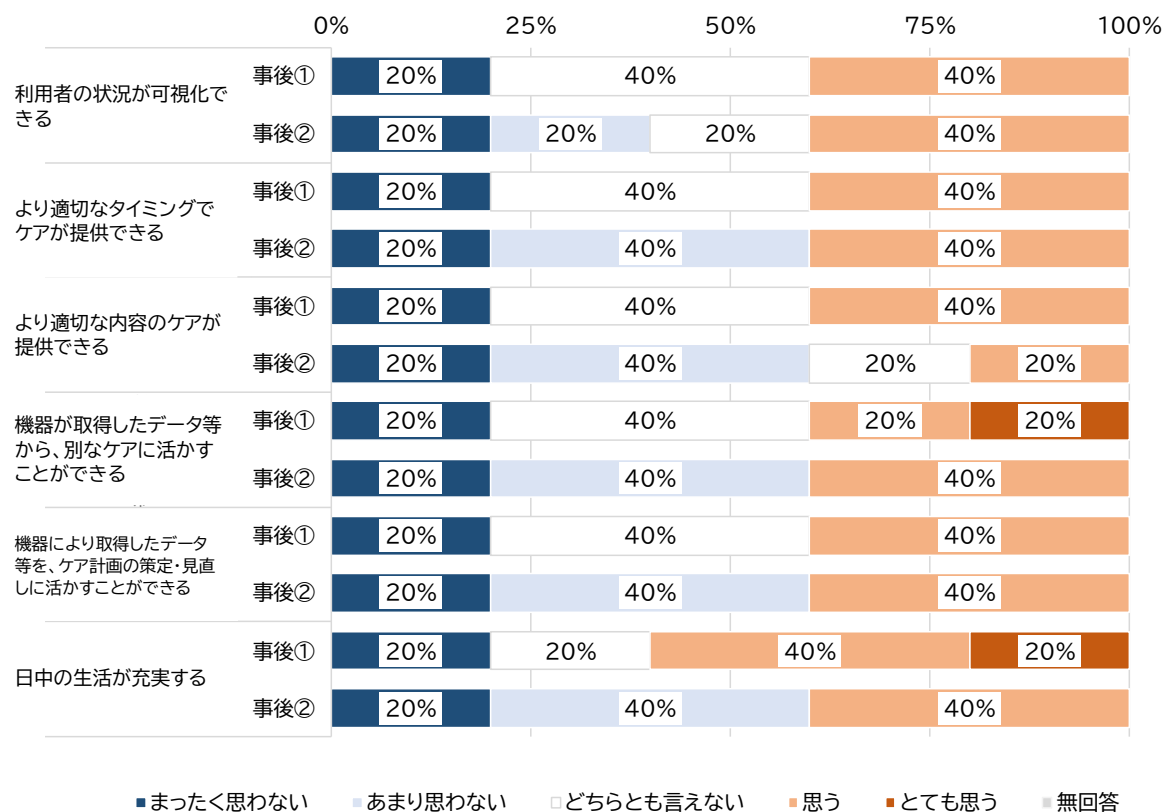
⑨ 機器導入によるケア内容の変更

機器導入によるケア内容の変更の変化は以下の通り。

図表 XI-40 利用者調査:機器導入によるケア内容の変更

(介護老人福祉施設)

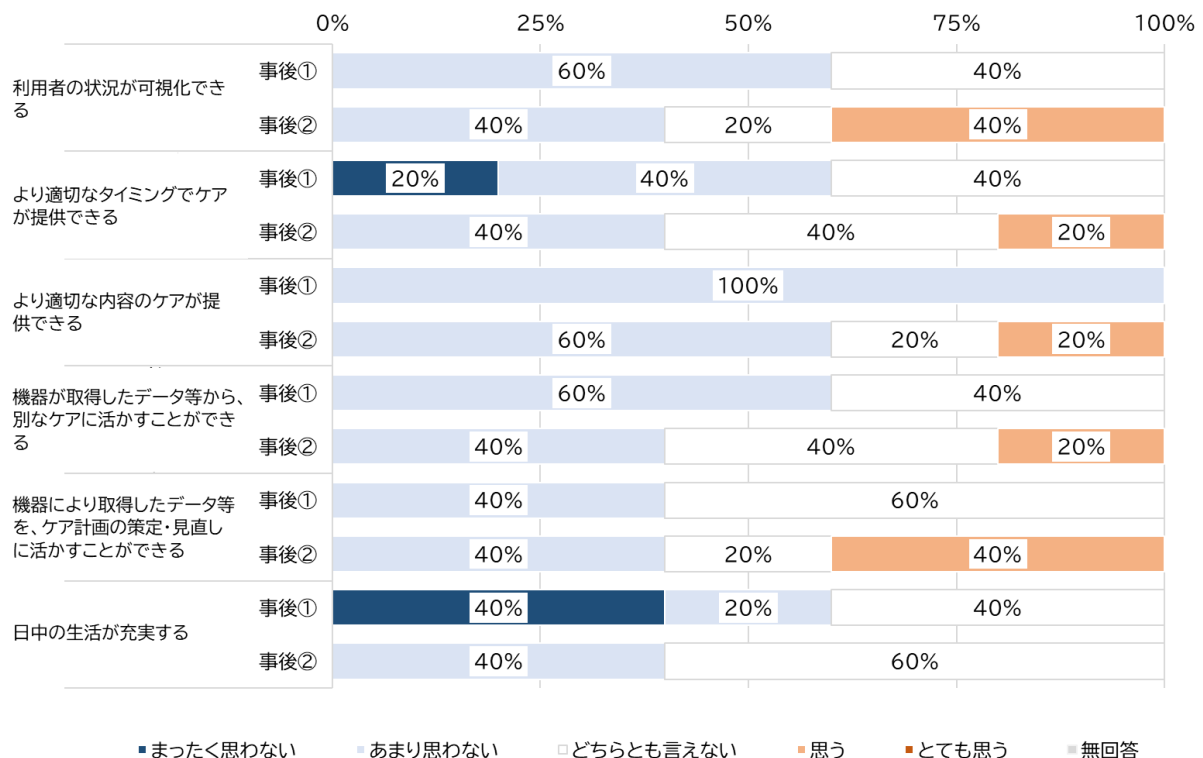
			まったく 思わない	あまり 思わない	どちらと も言えな い	思う	とても 思う	無回答	合計
利用者の状況が可視化できる	事後①	人数(人)	1	0	2	2	0	0	5
		割合	20%	0%	40%	40%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	1	1	2	0	0	5
		割合	20%	20%	20%	40%	0%	0%	100%
より適切なタイミングでケアが提供できる	事後①	人数(人)	1	0	2	2	0	0	5
		割合	20%	0%	40%	40%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	2	0	2	0	0	5
		割合	20%	40%	0%	40%	0%	0%	100%
より適切な内容のケアが提供できる	事後①	人数(人)	1	0	2	2	0	0	5
		割合	20%	0%	40%	40%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	2	1	1	0	0	5
		割合	20%	40%	20%	20%	0%	0%	100%
機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	事後①	人数(人)	1	0	2	1	1	0	5
		割合	20%	0%	40%	20%	20%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	2	0	2	0	0	5
		割合	20%	40%	0%	40%	0%	0%	100%
機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	事後①	人数(人)	1	0	2	2	0	0	5
		割合	20%	0%	40%	40%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	2	0	2	0	0	5
		割合	20%	40%	0%	40%	0%	0%	100%
日中の生活が充実する	事後①	人数(人)	1	0	1	2	1	0	5
		割合	20%	0%	20%	40%	20%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	2	0	2	0	0	5
		割合	20%	40%	0%	40%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、1(全く思わない)～5(とても思う)の 5 段階で評価した(回答は職員が実施)。

(訪問介護)

			まったく 思わない	あまり 思わない	どちらと も言えな い	思う	とても 思う	無回答	合計
利用者の状況が可視化できる	事後①	人数(人)	0	3	2	0	0	0	5
		割合	0%	60%	40%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	2	1	2	0	0	5
		割合	0%	40%	20%	40%	0%	0%	100%
より適切なタイミングでケアが提供できる	事後①	人数(人)	1	2	2	0	0	0	5
		割合	20%	40%	40%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	2	2	1	0	0	5
		割合	0%	40%	40%	20%	0%	0%	100%
より適切な内容のケアが提供できる	事後①	人数(人)	0	5	0	0	0	0	5
		割合	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	3	1	1	0	0	5
		割合	0%	60%	20%	20%	0%	0%	100%
機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	事後①	人数(人)	0	3	2	0	0	0	5
		割合	0%	60%	40%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	2	2	1	0	0	5
		割合	0%	40%	40%	20%	0%	0%	100%
機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	事後①	人数(人)	0	2	3	0	0	0	5
		割合	0%	40%	60%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	2	1	2	0	0	5
		割合	0%	40%	20%	40%	0%	0%	100%
日中の生活が充実する	事後①	人数(人)	2	1	2	0	0	0	5
		割合	40%	20%	40%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	2	3	0	0	0	5
		割合	0%	40%	60%	0%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、1(全く思わない)～5(とても思う)の 5 段階で評価した(回答は職員が実施)。

カ. 独自調査

事後①および事後②において、調査対象の利用者 10 名に対し、認知症患者の行動・心理症状 (BPSD) を評価するための 25 項目の質問調査 (BPSD25Q) を実施した。

BPSD25Q は、調査対象の利用者のことをよく知る介護者等が、利用者の過去 1 週間程度の状態について思い出しながら評価するものであり、利用者の BPSD 症状の強さ (重症度) と介護者が感じる負担 (負担度) を 0～5 点の 6 段階で評価する (点数が高いほど重度)。これは、同じ症状でもケア環境・人員配置・時間帯・利用者同士の相互作用によって負担の大きさが大きく変動するためである。

今回、BPSD25Q の測定は、各実証フィールドにおいて、調査対象の職員により対象利用者の行動や心理状態、ケアの負担の程度に関する振り返りを行い、各事業所の代表者が内容を取りまとめ、回答した。

今回、対象となった利用者の BPSD25Q (重症度、負担度) を以下に示す。なお、調査結果はサービス種別ごとに集計し、対象利用者における各項目の点数の平均値を示す。

※認知症の行動・心理症状質問票 (BPSD25Q) は、調査対象の利用者のことをよく知る介護者等が、利用者の過去 1 週間程度の状態について思い出しながら評価するものであり、利用者の BPSD 症状の強さ (重症度) と介護者が感じる負担 (負担度) を 0～5 点の 6 段階で評価する (点数が高いほど重度)。参考として、以下に評価基準を示す。

・重症度の判断基準

- 1 見守りの範囲 (盗られたというが、周りへの影響や他者への害がない)
- 2 対応したケアが可能で (傾聴など簡単な対応で落ち着く) 毎日ではない
- 3 対応したケアが可能だが毎日ある
- 4 対応に多大な困難が伴うが (妄想で怒るなど簡単には対応できない) 毎日ではない
- 5 対応に多大な困難が伴い毎日継続する

・負担度の判断基準

- 0 なし (全くなし)
- 1 わずかな負担 (少しストレスを感じるがやりすごせる、処理する必要がない)
- 2 軽度の負担 (対処が必要であるが簡単に処理できる)
- 3 中度の負担 (知恵を絞った対応が必要)
- 4 大きな負担 (対応・処理が上手くいかない、困難を感じる)
- 5 極度の負担 (自分では限界を感じ、処理するのに他者の助けが必要)

引用文献：内藤典子，藤生大我，滝口優子，他：BPSD の新規評価尺度：認知症困りごと質問票 BPSD+Q の開発と信頼性・妥当性の検討. 認知症ケア研究誌 2:133-145, 2018.

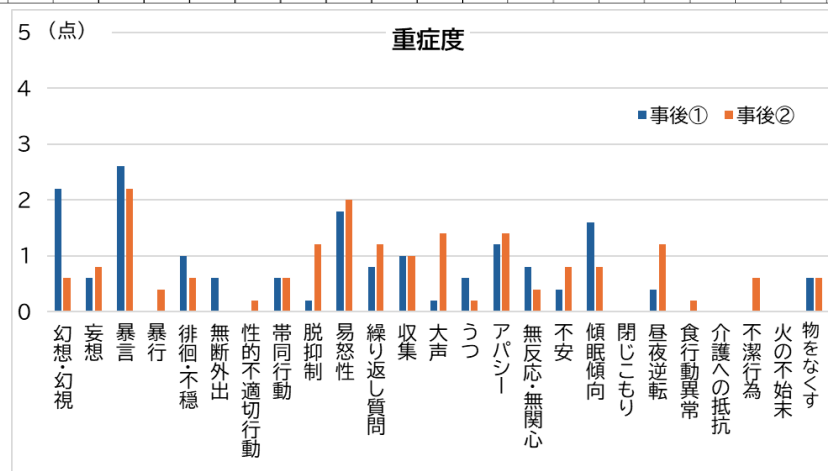
a. 介護老人福祉施設(利用者 n=5)

対象利用者における BPSD25Q のうち、重症度について、合計点数の平均は、事後①17.2 点、事後②18.4 点であった。事後①・事後②で BPSD 症状が出現していたが、各項目で平均0～3点以下であり、ケアが可能な程度であった。

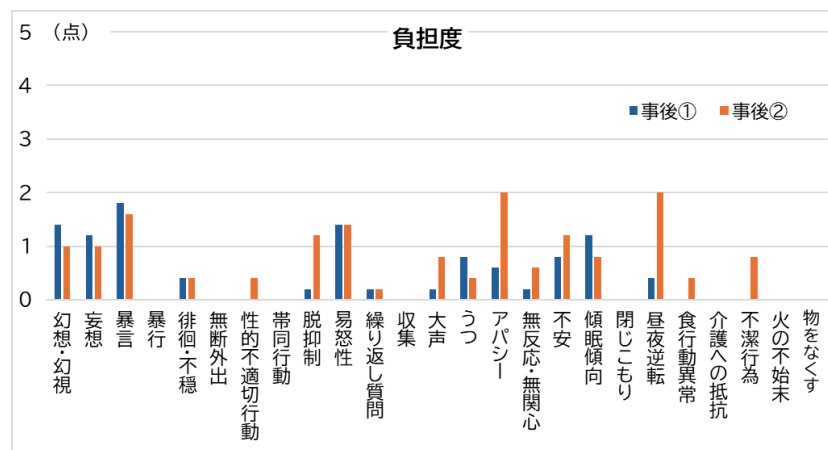
負担度について、合計点数の平均は、事後①10.8 点、事後②16.2 点であった。事後①・事後②で、介護者が負担と感じる BPSD 症状がみられたが、どの項目も平均0～2点以下であり、負担がない～軽度の負担の範囲であった。

図表 XI-41 BPSD25Q(重症度、負担度):介護老人福祉施設

重症度	幻想・幻視	妄想	暴言	暴行	徘徊・不穏	無断外出	性的不適切行動	非同歩行動	脱抑制	易怒性	繰り返しの質問	収集	大声	うつ	アバシー	無反応・無関心	不安	傾眠傾向	閉じこもり	昼夜逆転	食行動異常	介護への抵抗	不潔行為	火の不始末	物をなくす	合計点
事後①	2.2	0.6	2.6	0.0	1.0	0.6	0.0	0.6	0.2	1.8	0.8	1.0	0.2	0.6	1.2	0.8	0.4	1.6	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	17.2
事後②	0.6	0.8	2.2	0.4	0.6	0.0	0.2	0.6	1.2	2.0	1.2	1.0	1.4	0.2	1.4	0.4	0.8	0.8	0.0	1.2	0.2	0.0	0.6	0.0	0.6	18.4



負担度	幻想・幻視	妄想	暴言	暴行	徘徊・不穏	無断外出	性的不適切行動	非同歩行動	脱抑制	易怒性	繰り返しの質問	収集	大声	うつ	アバシー	無反応・無関心	不安	傾眠傾向	閉じこもり	昼夜逆転	食行動異常	介護への抵抗	不潔行為	火の不始末	物をなくす	合計点
事後①	1.4	1.2	1.8	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.2	1.4	0.2	0.0	0.2	0.8	0.6	0.2	0.8	1.2	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.8
事後②	1.0	1.0	1.6	0.0	0.4	0.0	0.4	0.0	1.2	1.4	0.2	0.0	0.8	0.4	2.0	0.6	1.2	0.8	0.0	2.0	0.4	0.0	0.8	0.0	0.0	16.2



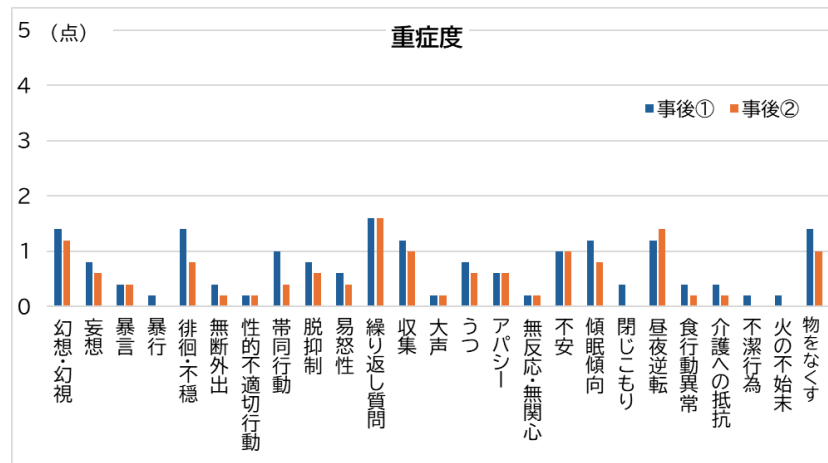
b. 訪問介護(利用者 n=5)

対象利用者における BPSD25Q のうち、重症度について、合計点数の平均は、事後①18.2 点、事後②13.6 点であった。事後①・事後②で対象利用者における BPSD 症状が出現していたが、どの項目においても平均0～2点以下であり、ケアが可能な程度であった。

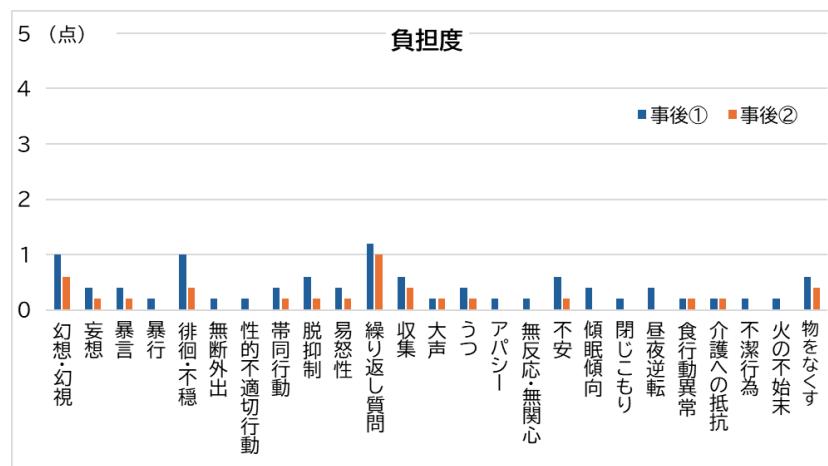
負担度について、合計点数の平均は、事後①10.6 点、事後②4.8 点であった。事後①・事後②で介護者が負担と感じる BPSD 症状がみられたが、どの項目においても平均0～2点以下であり、負担がない～軽度の負担の範囲であった。また、事後①と事後②を比較すると、全体として事後②の方が平均値は小さくなり、利用者の BPSD に対する介護職員の負担は軽減したことが推測される。

図表 XI-42 BPSD25Q(重症度、負担度):訪問介護

重症度	幻想・幻視	妄想	暴言	暴行	徘徊・不穏	無断外出	性的不適切行動	非同歩行動	脱抑制	易怒性	繰り返し質問	収集	大声	うつ	アパシー	無反応・無関心	不安	傾眠傾向	閉じこもり	昼夜逆転	食行動異常	介護への抵抗	不潔行為	火の不始末	物をなくす	合計点
事後①	1.4	0.8	0.4	0.2	1.4	0.4	0.2	1.0	0.8	0.6	1.6	1.2	0.2	0.8	0.6	0.2	1.0	1.2	0.4	1.2	0.4	0.4	0.2	0.2	1.4	18.2
事後②	1.2	0.6	0.4	0.0	0.8	0.2	0.2	0.4	0.6	0.4	1.6	1.0	0.2	0.6	0.6	0.2	1.0	0.8	0.0	1.4	0.2	0.2	0.0	0.0	1.0	13.6



負担度	幻想・幻視	妄想	暴言	暴行	徘徊・不穏	無断外出	性的不適切行動	非同歩行動	脱抑制	易怒性	繰り返し質問	収集	大声	うつ	アパシー	無反応・無関心	不安	傾眠傾向	閉じこもり	昼夜逆転	食行動異常	介護への抵抗	不潔行為	火の不始末	物をなくす	合計点
事後①	1.0	0.4	0.4	0.2	1.0	0.2	0.2	0.4	0.6	0.4	1.2	0.6	0.2	0.4	0.2	0.2	0.6	0.4	0.2	0.4	0.2	0.2	0.2	0.2	0.6	10.6
事後②	0.6	0.2	0.2	0.0	0.4	0.0	0.0	0.2	0.2	0.2	1.0	0.4	0.2	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.0	0.0	0.4	4.8



キ. ヒアリング調査結果

実証完了後、実証施設へのヒアリング調査を実施した。調査結果の概要は以下の通り。

図表 XI-43 生産性向上の取組状況

(介護老人福祉施設)

カテゴリ	主な意見
介護職員について	・ AI で BPSD 兆候を分析するにあたり、これまでよりも詳細に利用者の記録をつける必要があり、大変だった。また、現在使っている介護記録等のソフトに比べて、操作性が難しかったと感じた。 ・ 調査期間中、対象の利用者は比較的穏やかに過ごせており、大きな変化がなかったが、各利用者の記録を詳細に入力する必要があり時間がかかった。そのため、夜勤帯では特に間接業務が増えたと感じる(評価に必要なウェアラブルウォッチや環境センサーの確認・設定、記録状況の確認等)。 ・ 普段と比べて細やかな評価が求められたが、細かく評価をすることにより、いつもと変わらないと思っていた、実は利用者が変化していることが分かった。 ・ AI の分析や通知を参考にすることで、利用者への対応に余裕ができると感じた。利用者とのコミュニケーションの仕方が工夫できたと思う。
利用者について	・ 日中は穏やかに過ごしているが、夜間では利用者から訴えがあったり、異常な行動が発現したりする利用者もいた。なかには、大きい声を出す利用者もあり、利用者の BPSD を理解することが難しかったが、AI を活用することにより、職員が余裕をもって対応することができ、不穏な利用者も少し安定したように思う。 ・ ウェアラブルウォッチを利用者に身につけていただく必要があり、なかには理解の難しい利用者もあり、苦労した。慣れてくると、自身で時間やバイタルサインを確認する利用者もあり、興味を持って使ってくれた利用者もいた。

(訪問介護)

カテゴリ	主な意見
介護職員について	・ 事前にアプリの使い方やウェアラブルデバイスについても説明は受けていたので職員の周知には苦労しなかった。 ・ 元々別システムへの記録をしているので、両アプリに入力することへの戸惑いが最初にあった。 ・ ウェアラブルデバイスの充電が途中で切れてしまうことがあり、職員が対応することもあった。 ・ 利用者の選定で、どの利用者が一番マッチするのかを考えることに時間がかかった。

カテゴリ	主な意見
利用者について	・ 機器の設置場所の検討や、ご本人にウェアラブルデバイスを付けていただくにあたっての説明をするのに多少時間がかかった。 ・ 利用者の同意取得は介護支援専門員を通じて実施した。 ・ ウェアラブルデバイスを付けることについて利用者に多少の抵抗感があった。ずっとつけていないといけないのか等のご質問があった。 ・ ご家族の方は機器を無くしてしまうことを懸念していた。 ・ センサー等を移動させてしまったりする利用者について、機器を見えにくい場所に設置したり、「触らないでください」と張り紙をしたりして対応した。 ・ 実証では、BPSDはほとんど発生せず、アラートもほとんど発生しなかった。

図表 XI-44 委員会や取組に向けた会議の開催

(介護老人福祉施設)

カテゴリ	主な意見
概要	・ 月1回の委員会を開催している。介護職員、看護職員、介護支援専門員、管理者等が参加し、役職者だけでなく一般職も含め6名程度が参加している。 ・ テクノロジー導入にあたり、取組内容やテクノロジーの取扱い方法、オペレーション変更の内容(職員の勤務体制、ケアの内容等)、施設内の独自調査の状況報告(腰痛調査等)を検討している。 ・ 今回の取組では、対象職員へメールで周知することが多かったので、情報共有が不足するところがあったと思う。職員によって、理解度にも差があったように感じている。

(訪問介護)

カテゴリ	主な意見
概要	・ 事後調査開始前に数回、本社社員から事業所スタッフへ取組の主旨や操作説明を行った。調査開始後はチャットルームで適宜報告・相談を行い、場合によっては本社社員が現地対応した。

図表 XI-45 実証目的に対する達成状況

(介護老人福祉施設)

カテゴリ	主な意見
利用者の観点	・ 夜間帯に、トイレの回数が増えて、部屋から出てきてしまう利用者に対して、今回の取組により職員が精神的に余裕をもって対応することができた。利用者は穏やかに過ごせて良かったと思う。
介護職員の観点	・ 詳細に利用者の状況を AI に入力することで、職員も利用者の行動パターンを把握することができ、AI のアドバイスも参考になった。

カテゴリ	主な意見
	・ 落ち着いている利用者が多かったので、あまり AI の効果を感じなかったが、夜間帯で職員の人数も少ないときに、気持ちに余裕をもって不穏な利用者の対応ができたのは良かったと思う。職員のアセスメントスキルも向上したように感じた。

(訪問介護)

カテゴリ	主な意見
利用者の観点	・ 今後取組を続けていき、今回の実証データを振り返ることで、ケアの改善につながる可能性はあると感じた。 ・ 健康管理をセンサーの情報に基づいて行えるようになれば、利用者や訪問員の安心感につながると思われる。 ・ AI の提案がケアの内容を検討するきっかけになったので、長期的にはケアの質に対する効果も得られそうである。 ・ 認知症の利用者は日々変化があるため、変化の蓄積を学習したフィードバックがあるとよいと感じた。
介護職員の観点	・ 実際のケアは複合的な要素をもとにアプローチしていくので、アプリからの提案をそのまま活用することは難しい。 ・ 訪問介護では時間内に提供しなければならないケア内容が決まっているので、AI の提案内容を実際のケアに反映することは難しかったかもしれない。 ・ 経験の浅い職員にとっては新たな観点を得られるツールとして有用であり、継続的に利用することでケアの質向上が見込める。 ・ 新たに担当する利用者の傾向を把握しておくことによって職員が安心してケアに入れるようになるのではないかな。 ・ アプリでの記録が各種報告書に自動で転記され、介護支援専門員やご家族に共有できるようになればよいと思う。

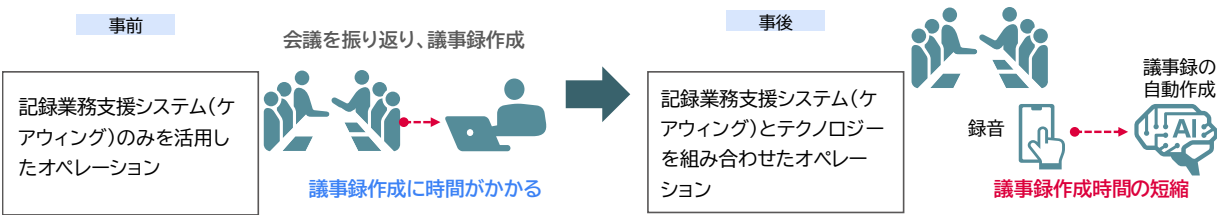
(2) SOMPOケア株式会社「訪問介護業務の生産性向上」

ア. 実証の概要

① 実証目的

介護記録システム上での記録確認による事業所立ち寄り回数の削減と、AI 議事録作成支援ツール(音声データから文字起こしを行い、内容を要約し、会議議事録や記録の作成を支援する)による議事録作成時間の削減により、移動時間及び残業時間の減少による負担軽減と、ケアの質を維持向上させつつ、利用者宅への訪問回数を増加することを目的とした。

図表 XI-46 実証イメージ



② 実証フィールドの概要

本実証では以下の実証フィールドにて効果測定を実施した。

図表 XI-47 実証フィールドの概要

実証フィールド	法人名	施設名	サービス種別	導入機器
1	SOMPOケア株式会社	SOMPOケア北見訪問介護事業所	訪問介護	・議事録作成支援ツール(PlaudNote)
2	SOMPOケア株式会社	SOMPOケア柴田訪問介護事業所	訪問介護	・介護記録システム(ケアウイング)※事前調査から導入

③ 実証期間

調査期間は以下の通りである。

図表 XI-48 調査期間

調査	時期	補足
事前調査	令和7年10月6日～17日(12日間)	左記のうち、実証フィールド別に各5日間を調査期間として実施した。
事後調査	令和7年12月8日～12月12日(5日間)	
ヒアリング調査	令和8年2月24・27日	

④ 各調査の概要

本調査では、実証の事前と事後(1回)で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」を実施し、独自調査として「会議件数調査」を実施した。また、実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。さらに、実証期間外を対象とする「介護記録システム導入による生産性向上の効果測定」を行った。以下に各調査の概要を記載する。

図表 XI-49 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
タイムスタディ調査 (媒体:Excel)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	・ 回答方法:自記式(1分刻みで自身が実施した作業項目を記入) ・ 調査スケジュール:事前(取組前)1回、事後(取組後)1回の計2回、それぞれ5日間分実施。 ・ 調査実施の時間帯:調査対象期間中の全勤務時間
職員向けアンケート調査 (在宅向け)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	・ 回答方法:自記式(WEB 回答) ・ 調査スケジュール:事前と事後実証期間中それぞれについて、1名につき1回のみ回答
会議件数調査(独自調査)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	・ 回答方法:自記式(WEB 回答) ・ 調査スケジュール:事前1回、事後1回の計2回、それぞれ1か月間実施。
介護記録システム導入による生産性向上の効果測定 (独自調査)	各事業所での介護記録システム(ケアウイング)導入前から現在まで勤務している職員	・ 調査方法:過去の業務記録の分析及び職員へのヒアリング ・ 調査対象期間:各事業所のケアウイング導入直前と現在の比較
ヒアリング調査 (全テーマ共通)	施設管理者、部門管理者 介護職員	・ 調査方法:WEB 会議による聞き取り ・ 調査スケジュール:実証終了後に1回実施

⑤ タイムスタディ調査項目

本調査のタイムスタディ調査項目は以下のとおり。なお、事前と事後調査の調査項目は共通とした。

図表 XI-50 タイムスタディ調査項目

NO	分類	Sub-NO	項目
A	直接業務	1	直接介護(※1)
B	間接業務	2	サービス担当者会議(出席)
		3	カンファレンス
		4	モニタリング訪問
		5	記録・議事録作成(サービス担当者会議(出席))
		6	記録・議事録作成(カンファレンス)
		7	記録・議事録作成(モニタリング訪問)
		8	請求業務
		9	AI ツール活用にかかる業務(※2)
		10	移動
		11	その他間接業務(※3)
C	休憩	12	休憩・待機
D	その他	13	その他

※1 身体介護・生活援助・退室確認等、利用者宅訪問中の業務

※2 ベンダーとの連絡調整、現場職員への説明等

※3 その他の記録・文書作成、スケジュール作成・調整、事業所内外との情報連携、新規利用者の受入可否判断、介護計画の作成・見直し等

イ. 職員概要

① 職員概要

本調査において職員向けアンケート調査に回答があった職員は 7 名であった。

図表 XI-51 職員概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	1	6	0	7
	割合	14%	86%	0%	100%

図表 XI-52 職員概要:年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
総数	人数(人)	0	1	1	3	1	1	0	0	7
	割合	0%	14%	14%	43%	14%	14%	0%	0%	100%

図表 XI-53 職員概要:職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓練 指導員を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	7	0	0	0	0	0	0	0	7
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

図表 XI-54 職員概要:役職

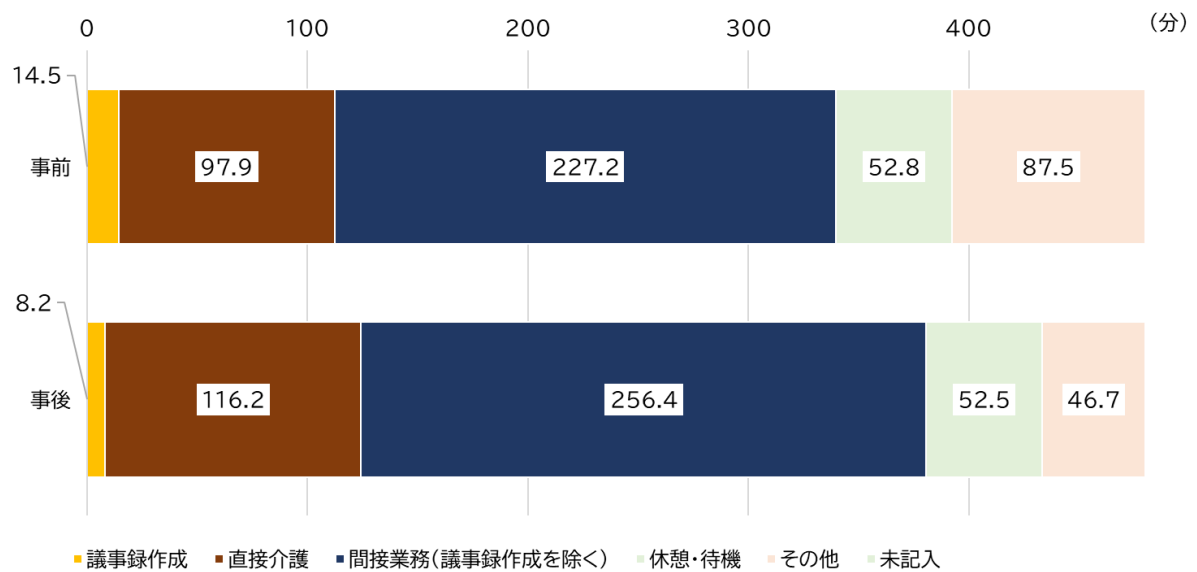
		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	7	0	0	0	7
	割合	0%	100%	0%	0%	0%	100%

ウ. タイムスタディ調査結果

「議事録作成」の時間は事前と比較し、事後では 6.3 分減少した。「直接介護」の時間は事前と比較し、事後で 18.3 分増加した。

図表 XI-55 タイムスタディ調査の結果(職員1人1日(480 分)あたり)

		直接介護	間接業務										休憩・待機	その他	未記入	合計(分)
			サービス担当者会議	カンファレンス	モニタリング訪問	記録・議事録作成 (サービス担当者会議)	記録・議事録作成 (カンファレンス)	記録・議事録作成 (モニタリング訪問)	請求業務	AIツール活用にかかる 業務	移動	その他間接業務				
事前	時間(分)	97.9	0.0	0.0	4.4	0.0	13.1	1.5	0.0	8.7	39.4	174.7	52.8	87.5	0.0	480
	割合	20%	0%	0%	1%	0%	3%	0%	0%	2%	8%	36%	11%	18%	0%	100%
事後①	時間(分)	116.2	5.7	11.3	2.4	2.9	4.8	0.5	0.0	3.2	42.9	190.9	52.5	46.7	0.0	480
	割合	24%	1%	2%	1%	1%	1%	0%	0%	1%	9%	40%	11%	10%	0%	100%



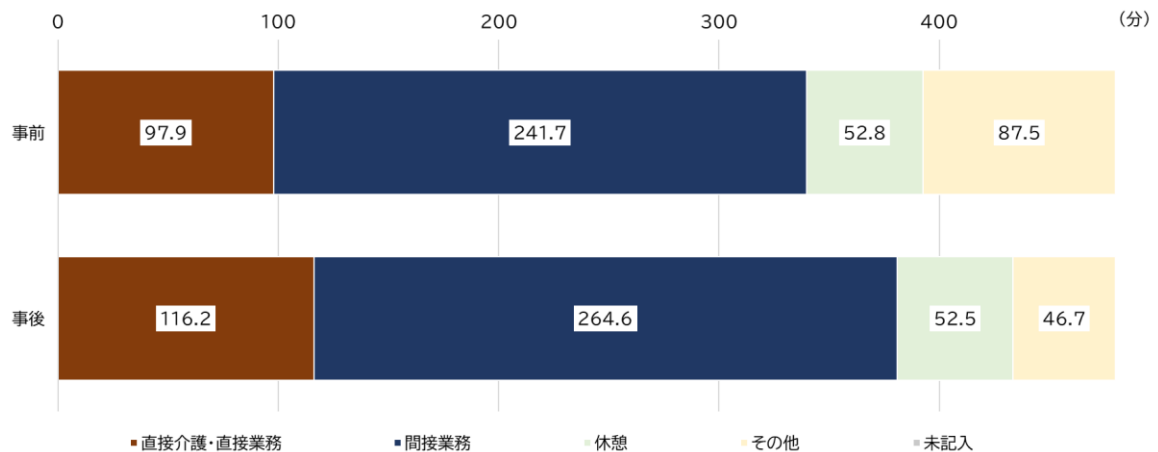
事前 n=5、事後 n=8

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

図表 XI-56 (参考:共通区分)タイムスタディ調査の結果(職員1人1日(480 分)あたり)

		直接介護・直接業務	間接業務	休憩	その他	未記入	合計(分)
事前	時間(分)	97.9	241.7	52.8	87.5	0.0	480
	割合	20%	50%	11%	18%	0%	100%
事後	時間(分)	116.2	264.6	52.5	46.7	0.0	480
	割合	24%	55%	11%	10%	0%	100%



事前 n=5、事後 n=8

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

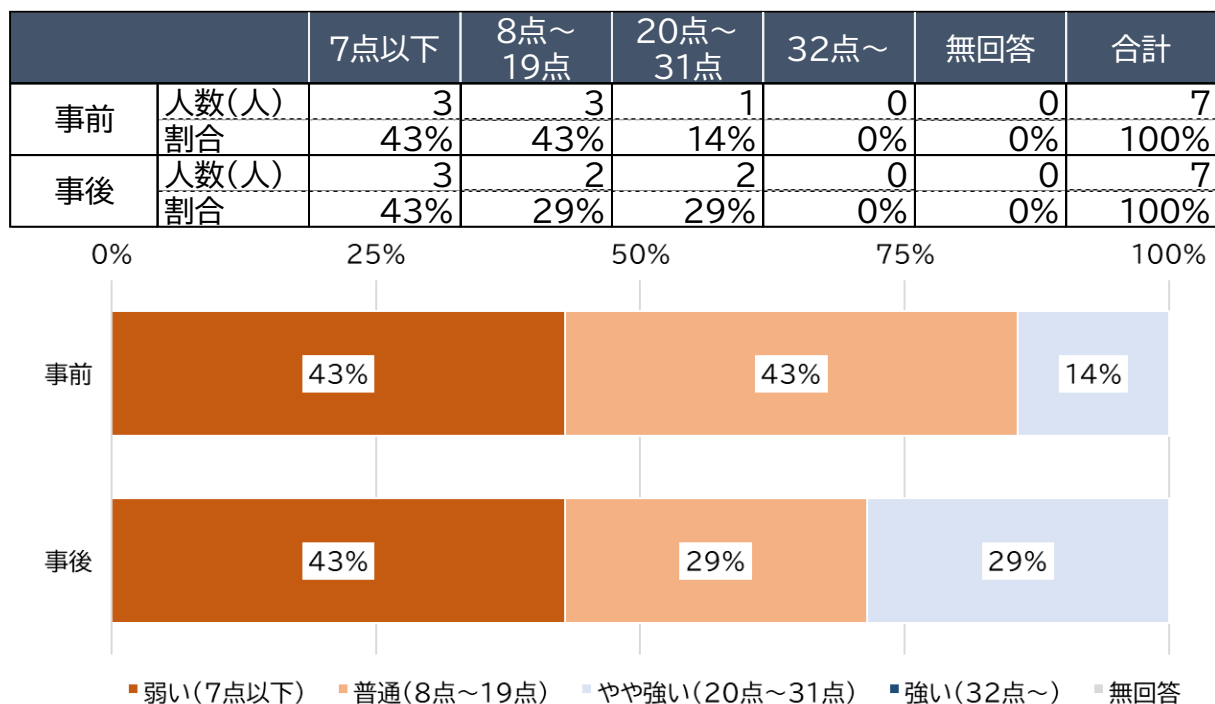
※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

工. 職員向けアンケート調査結果

① 心理的負担評価

職員の心理的ストレス反応測定尺度合計点について事前と事後の結果を比較すると、「やや強い（20 点以上 31 点以下）」を回答した職員の割合が、事前では 14%、事後では 29%となった。

図表 XI-57 職員調査:心理的負担評価



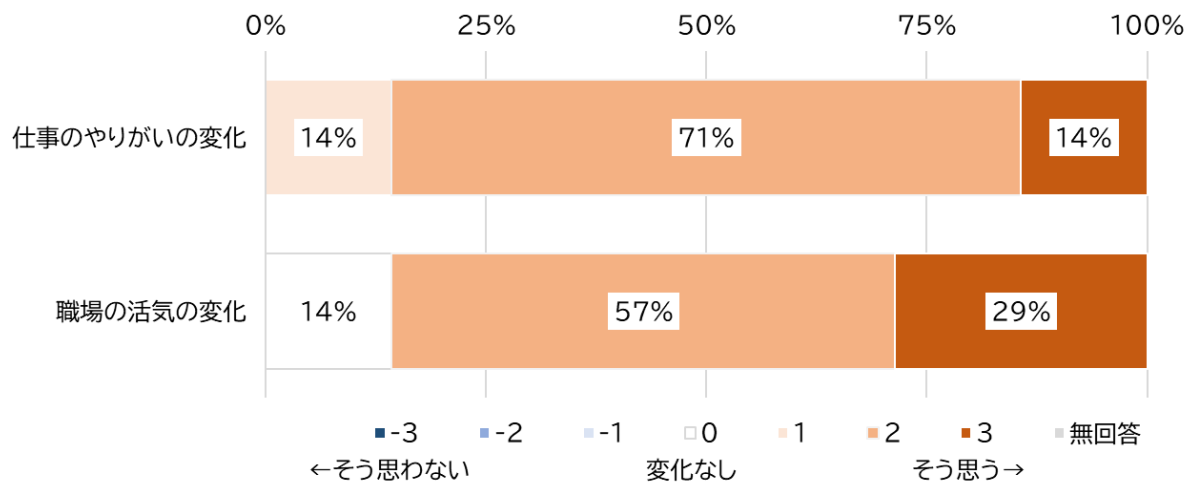
※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各 18 項目のうち 1 項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が 0、1、2、3 以外の場合は無回答処理をした。

② 機器導入によるモチベーションの変化

機器導入によるモチベーションの変化は以下の通り。

図表 XI-58 職員調査:機器導入によるモチベーションの変化

			←減少したと感じる→							増加したと感じる→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3				
仕事のやりがいの 変化	事後	人数(人)	0	0	0	0	1	5	1			0	7
		割合	0%	0%	0%	0%	14%	71%	14%			0%	100%
職場の活気の変化	事後	人数(人)	0	0	0	1	0	4	2			0	7
		割合	0%	0%	0%	14%	0%	57%	29%			0%	100%



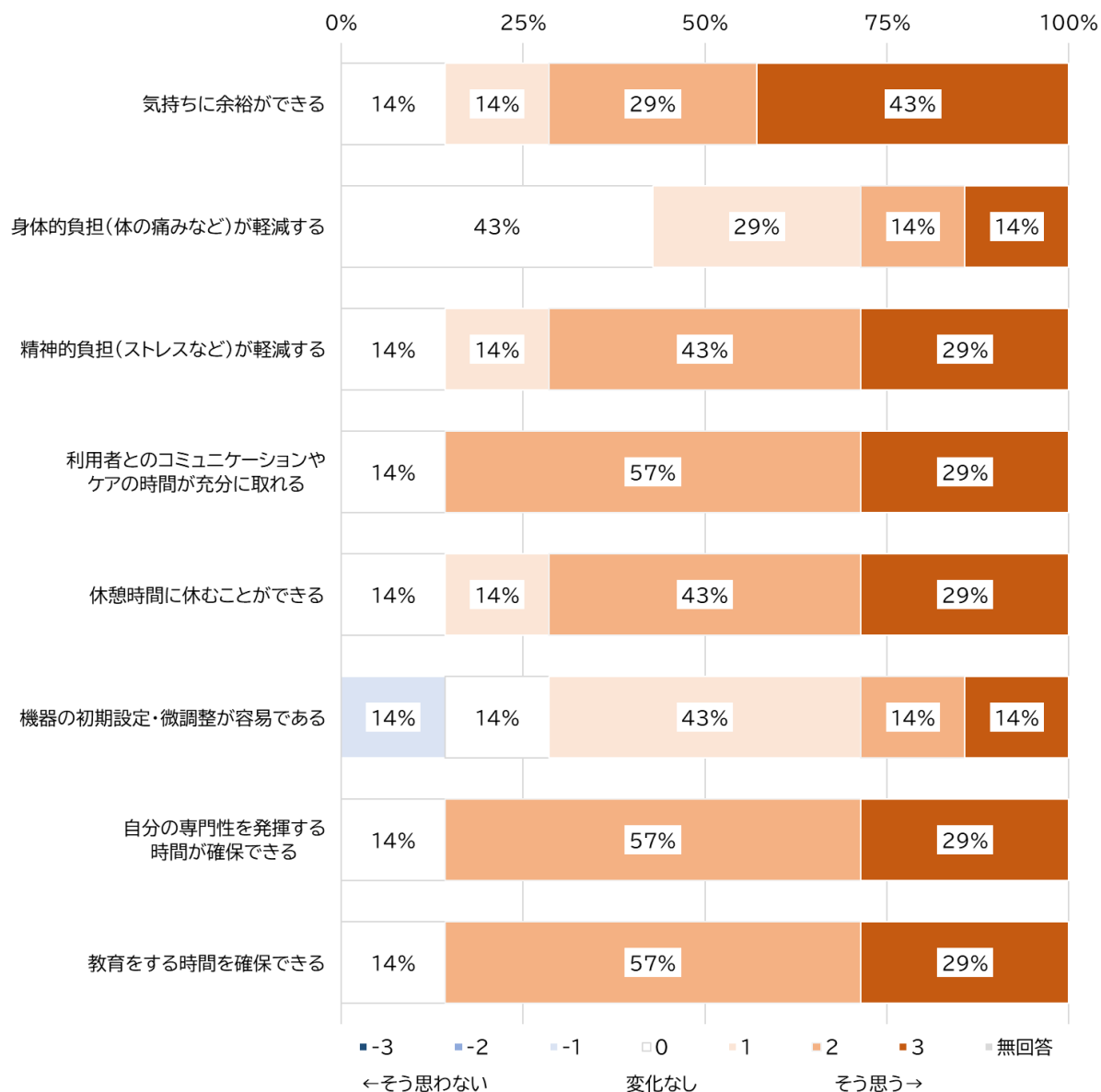
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

③ 機器導入による職員や施設業務の変化

機器導入による職員や施設業務の変化は以下の通り。

図表 XI-59 職員調査:機器導入による職員や施設業務の変化

			← そう思わない		変化なし		そう思う→		無回答	合計	
			-3	-2	-1	0	1	2			3
気持ちに余裕ができる	事後	人数(人)	0	0	0	1	1	2	3	0	7
		割合	0%	0%	0%	14%	14%	29%	43%	0%	100%
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後	人数(人)	0	0	0	3	2	1	1	0	7
		割合	0%	0%	0%	43%	29%	14%	14%	0%	100%
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後	人数(人)	0	0	0	1	1	3	2	0	7
		割合	0%	0%	0%	14%	14%	43%	29%	0%	100%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	事後	人数(人)	0	0	0	1	0	4	2	0	7
		割合	0%	0%	0%	14%	0%	57%	29%	0%	100%
休憩時間に休むことができる	事後	人数(人)	0	0	0	1	1	3	2	0	7
		割合	0%	0%	0%	14%	14%	43%	29%	0%	100%
機器の初期設定・微調整が容易である	事後	人数(人)	0	0	1	1	3	1	1	0	7
		割合	0%	0%	14%	14%	43%	14%	14%	0%	100%
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後	人数(人)	0	0	0	1	0	4	2	0	7
		割合	0%	0%	0%	14%	0%	57%	29%	0%	100%
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後	人数(人)	0	0	0	1	0	4	2	0	7
		割合	0%	0%	0%	14%	0%	57%	29%	0%	100%

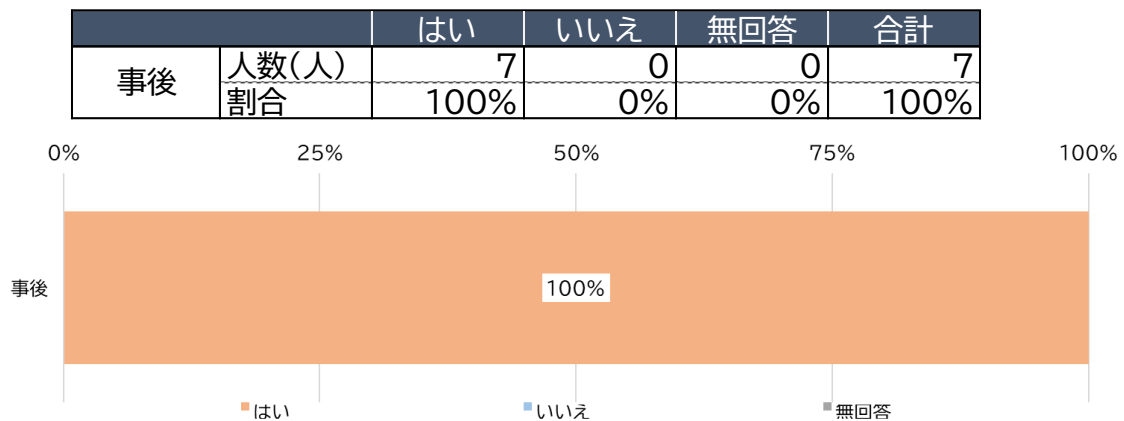


※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

④ 導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向

導入機器の継続利用意向については「はい」の回答が100%であった。

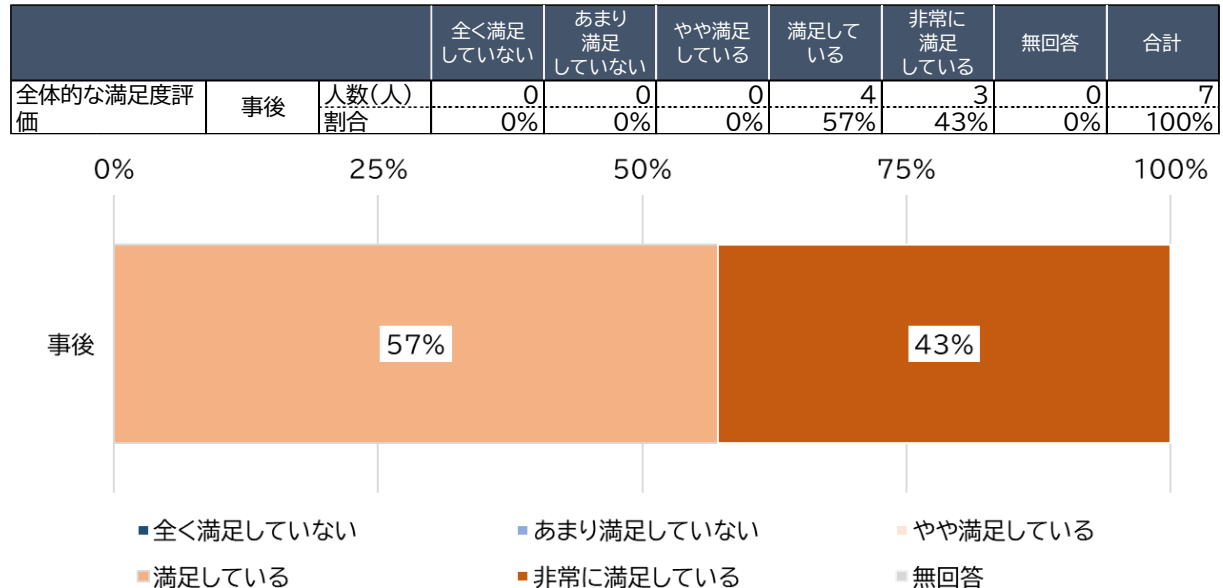
図表 XI-60 職員調査:導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向



⑤ 満足度評価

調査で導入した機器を用いたケアに対する満足度については、「満足している」と回答した職員の割合が57%、「非常に満足している」と回答した職員の割合が43%であった。

図表 XI-61 職員調査:満足度評価



※質問項目に対し、1(全く満足していない)～5(非常に満足している)の5段階で評価した。

オ. 独自調査

職員向けアンケート調査に回答のあった 7 名を対象に、事前調査・事後調査を実施した 10 月と 12 月について、それぞれ 1 か月間に参加した会議等の件数を収集し、集計した。

各調査期間で会議の件数に大きな差はなく、タイムスタディ調査の「議事録作成」に対し、会議件数の増減による影響は見られなかった。

本調査では、テクノロジーを使用することで、会議中の記録が不要となり、会議に係る時間は減少する傾向がみられた。

図表 XI-62 各会議等の件数・時間(事前)

	サービス担当者会議		カンファレンス		モニタリング訪問		合計	
	件数	時間(分)	件数	時間(分)	件数	時間(分)	件数	時間(分)
合計	14	350	36	1150	101	1010	151	2510
平均		25.0		31.9		10.0		16.6

図表 XI-63 各会議等の件数・時間(事後)

	サービス担当者会議		カンファレンス		モニタリング訪問		合計	
	件数	時間(分)	件数	時間(分)	件数	時間(分)	件数	時間(分)
合計	22	415	17	170	94	707	133	1292
平均		18.9		10.0		7.5		9.7

【独自調査・以下、参考①】介護記録システム導入による生産性向上の効果測定

介護記録システム導入前から在籍している職員 27 名を対象に、介護記録システム導入による効果を推計した。推計は、過去の業務記録と職員へのヒアリングから情報を収集し、算出した。

具体的な生産性向上効果として、①オンライン上で記録のやり取りができるようになることでの直行・直帰増加、②事務所業務削減、③勤怠処理時間と援助記録作成時間の削減、④請求・勤怠処理の削減(サービス責任者・管理者のみ)、⑤ルート作成・変更の削減(サービス責任者・管理者のみ)の 5 つがあり、合計すると職員 1 名あたり 1 週間で 255.8 分の時間削減ができたという推計になった。

図表 XI-64 介護記録システム導入による生産性向上の効果(職員 1 名あたり、分/週)

	直行直帰導入による 生産性改善効果 (分/週) (※1)	事務所業務(申し送り・伝達等)削減による 生産性改善効果 (分/週) (※2)	勤怠処理時間と援助 記録の削減による生 産性改善効果 (分/週) (※3)	(サ責・管理者の み) 請求・勤怠処理 の削減による「生産 性改善効果」 (分/週) (※4)	(サ責・管理者の み) ルート作成・変 更の削減による「生 産性改善効果」 (分/週) (※5)	合計 (分/週)
平均	18.7	62.0	105.0	34.7	35.4	255.8

※1 (介護記録システム導入により増加した直行直帰回数)×(往復時間)で算出

※2 (事務所業務 1 回あたりの時間)×(1 週間当たりの事務所業務回数)で算出

※3 ((紙での勤怠処理等時間)－(介護記録システム導入後の勤怠処理等時間))×(週当たり勤務日数)で算出

※4 ((1 か月あたりの従来の請求・勤怠処理等時間)－(1 か月あたりの介護記録システム導入後の請求勤怠処理等時間))÷(1 か月あたりの週数)で算出

※5 ((1 か月あたりの従来のルート作成時間)－(1 か月あたりの介護記録システム導入後のルート作成時間))÷(1 か月あたりの週数)で算出

【独自調査・以下、参考②】介護記録システム、議事録作成支援ツールの組み合わせ効果について

今回の実証で導入した議事録作成支援ツールは、他の機器と組み合わせることでより大きな効果を生むと考えられる。①サービス品質の維持向上、②供給量拡大、③生産性改善に資する具体的な機器の組み合わせと活用方法について、以下のようにまとめた。

1. 弊社実証事業のねらい

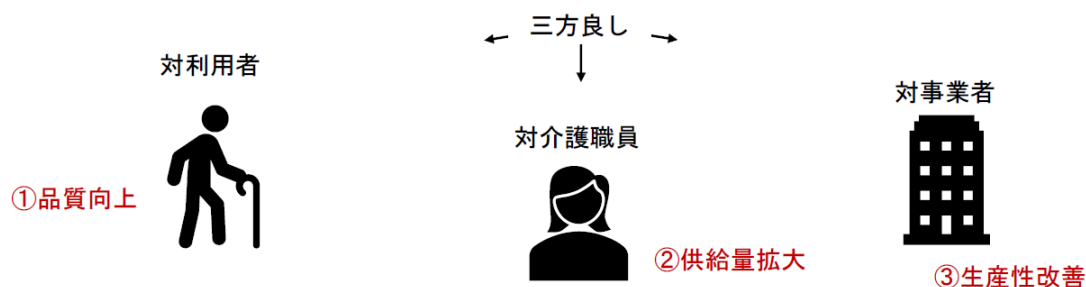
少子高齢化の影響により、訪問介護の供給量（ヘルパーの雇用人員）が減少するなか、需給ギャップが拡大傾向にあります。

限られた人材資源で持続的に良質な介護サービスを提供するために、在宅介護でテクノロジーを活用していきたいと考えています。

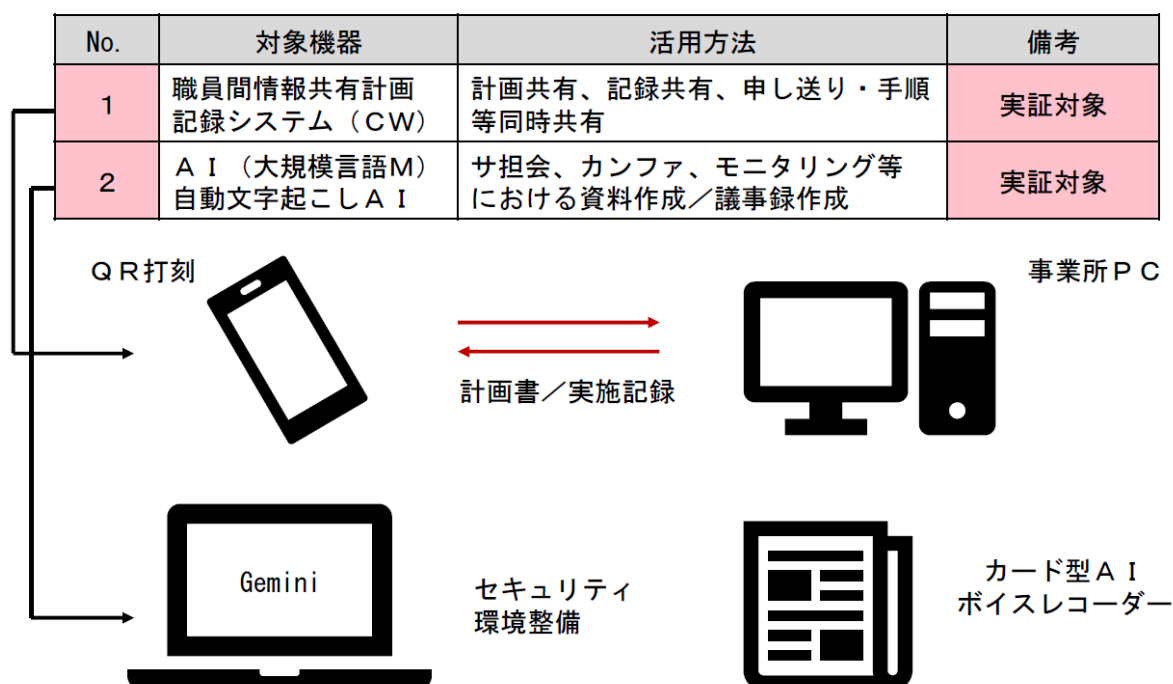
居住系介護（特養・老健・介護付き老人ホーム等）と比べて、導入可能テクノロジーが限定的な在宅系介護（訪問介護等）において、今回の実証事業では、以下の3点における可能性を検証いたしました。

①サービス品質の維持向上、②供給量拡大、③生産性改善に資するテクノロジーの探索と、その使い方、活用方法を検討しました。

その結果、上記①～③につぎまして一定の成果（定性的確認を含む）を確認することができましたので、ご報告申し上げます。



2. 機器の選択・・・最小限の機器で…



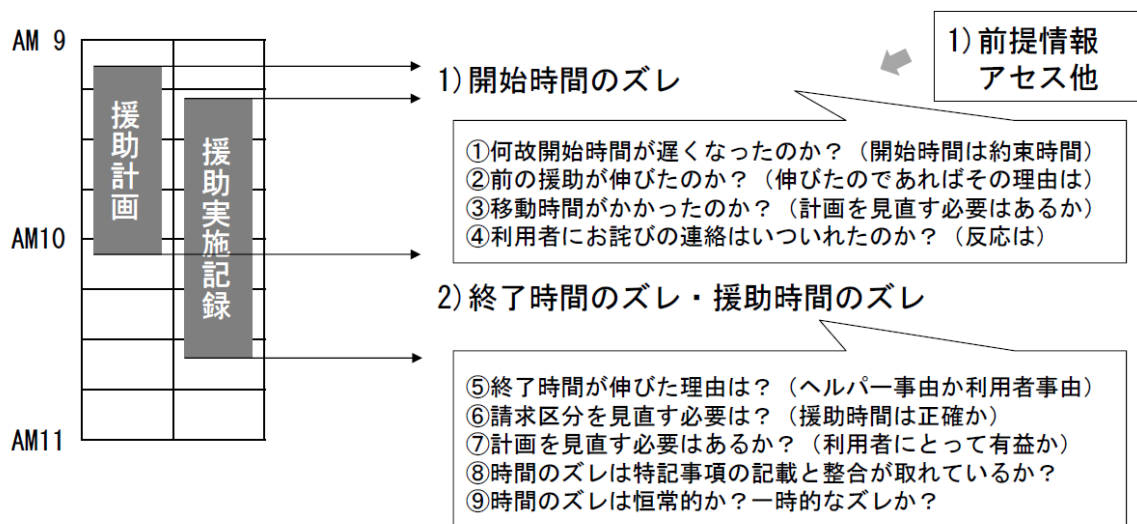
© 2021 Sompo Holdings, Inc. All Rights Reserved.

2

2. 実証事業スキーム（①品質向上）

ケアウィング（以下CWという）は「職員間情報共有システム」であり、従来の紙による運用がデータによる相互送信（計画、ルート表送信⇄実績データ送信）に変わります。

ヘルパーから随時、事業所へ送られてくる実績データ（正確な開始・終了時刻）をサービス提供責任者（以下サ責という）が仮説をもって評価し、1) O J T による品質向上、2) 計画見直しによる品質向上へ常態的につなげていきます。



© 2021 Sompo Holdings, Inc. All Rights Reserved.

3

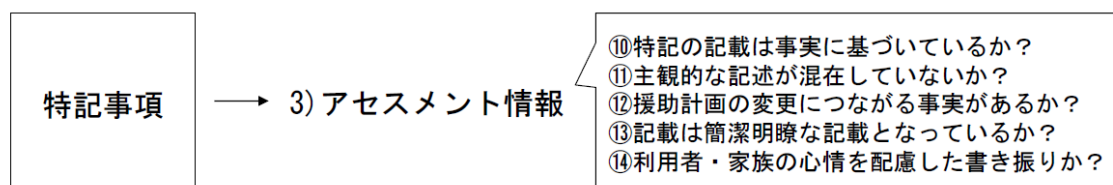
2. 実証事業スキーム（①品質向上）

「職員間情報共有システム」であるCWでは、ヘルパーが援助に入って気づいた「特記事項」（援助変更につながる可能性のある状態変化情報等）がデータとしてリアルタイムで送信されてきます。

ヘルパーから随時、事業所へ送られてくる「特記事項」データを、サ責が仮説をもって評価し、1) 利用者の状態評価（随時モニタリング）、2) 留意事項伝達（サ責指示）の発信、3) ヘルパーへの特記事項の書き方指導 による品質向上 へつなげていきます。

紙による情報共有を実施していた場合には、実施記録は一定期間まとめて提出（緊急を要するものは電話／メール等）であったことから、事業所による常態的な利用者の状態変化の把握⇄留意事項伝達 に限界があり、状態変化に応じた対応に課題がありました。

電子送信に代替することで、リアルタイムで状態変化に対応し、指示することでこれらの課題に対応し品質向上につなげることが可能になりました。



© 2021 Sompo Holdings, Inc. All Rights Reserved.

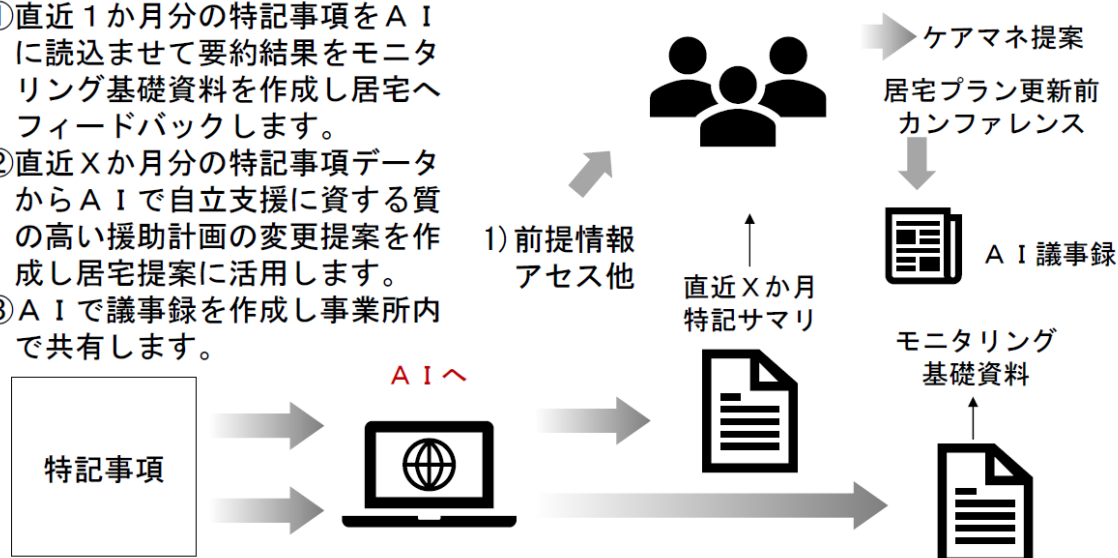
4

2. 実証事業スキーム（①品質向上、収益拡大）

CWにより、特記事項「情報」は従来の紙データから電子データに変わります。実現する品質向上効果として、「A Iに読み込ませる」ことができる電子データを確保することが重要です。

同一利用者に対する過去一定期間の特記データを一括でA Iに読み込ませます。そのうえで、A Iを活用して以下を生成し、品質向上に活用いたします。

- ①直近1か月分の特記事項をA Iに読み込ませて要約結果をモニタリング基礎資料を作成し居宅へフィードバックします。
- ②直近Xか月分の特記事項データからA Iで自立支援に資する質の高い援助計画の変更提案を作成し居宅提案に活用します。
- ③A Iで議事録を作成し事業所内で共有します。



© 2021 Sompo Holdings, Inc. All Rights Reserved.

5

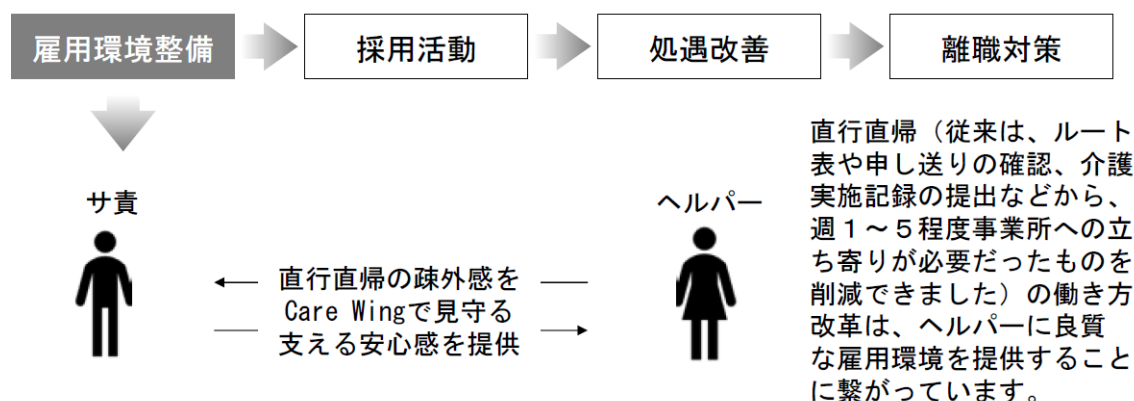
3. 実証事業スキーム（②供給量拡大）

少子高齢化の進展に伴う供給量の逼迫（ヘルパーの担い手不足）は、特に地方都市等の訪問介護で顕著になってきています。

現時点、施設介護とは異なり、在宅介護の導入可能テクノロジーは限定的であり今回の実証では、テクノロジー本体の評価からテクノロジーの「①使い方」とそれに応じた「②ビジネスモデル」を中心に検討を進めました。

供給量の確保という社会的課題に対して、CWどのように使うのか、その結果として、どのようなビジネスモデルを確立するのかを以下の通り整理いたしました。

供給量の拡大プロセス

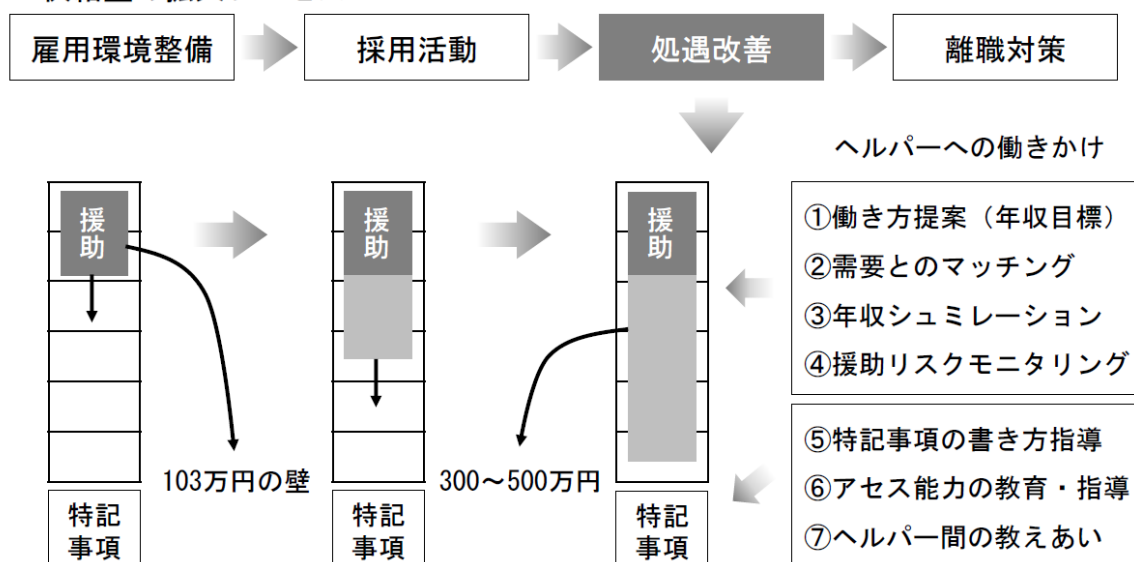


© 2021 Sompo Holdings, Inc. All Rights Reserved.

6

3. 実証事業スキーム（②供給量拡大）

供給量の拡大プロセス



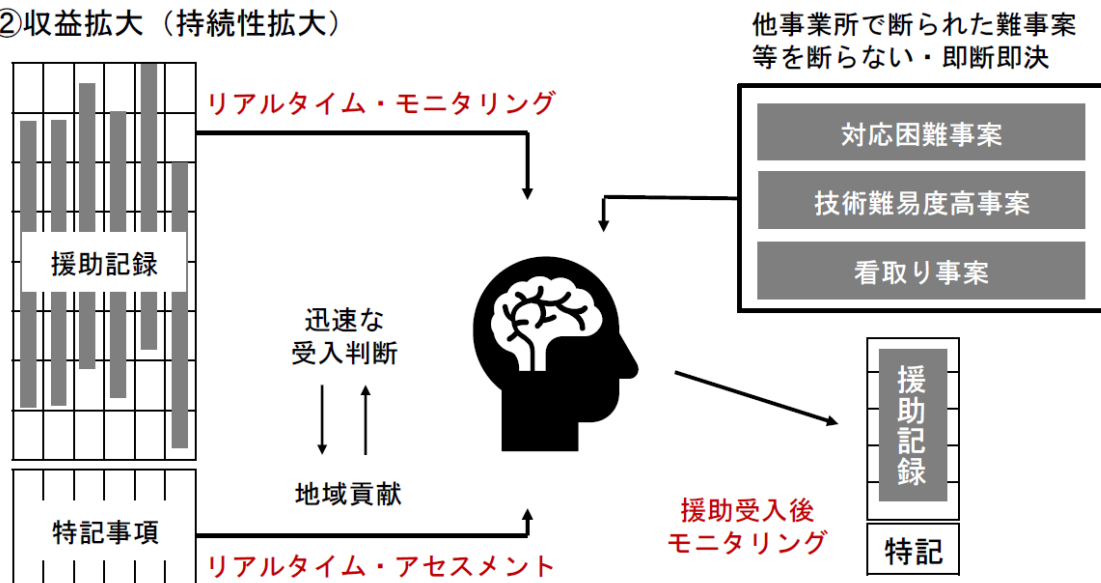
- 1) 従来は、主婦等を中心とするヘルパー構成から103万円の壁を基準に年間の1人当たり供給量を設定していました。これをCWを活用して①～④の働きかけを通じて年収350～500万円までの働き方改革で、新規採用なく3～4倍の供給量拡大が可能になりました。
- 2) ⑤～⑦の働きかけでヘルパーのアセス能力を向上させ、労働の質を向上させています。

© 2021 Sompo Holdings, Inc. All Rights Reserved.

7

3. 実証事業スキーム（②供給量拡大）

②収益拡大（持続性拡大）



- 1) 地域の包括ケアシステムを円滑に運営するためには、困難事案等を引受ける訪問介護事業所が必要不可欠です。それら引受要請に対して、CWで常態的モニタリングを行い自社事業所の運営状況をリアルタイムで把握し、即断即決で断らない事業所運営を行っています。
- 2) 引受後に適切に援助できているかCWで状態把握を行いヘルパーを下支えしています。

© 2021 Sompo Holdings, Inc. All Rights Reserved.

8

4. 実証事業スキーム（③生産性改善）

①生産性改善効果

No	項目	概要
1	直行直帰増加	CWにより、従来、ルート表や申し送りの確認、援助実施記録の提出などから、週1～5程度事業所への立ち寄りが必要だった頻度を削減することができました。
2	伝達・申し送り削減	CWにより、事業所内において申し送り事項やルート表の確認の作業時間（滞在時間）を要していましたが、ヘルパー自身の携帯で随時確認することができ、時間を削減することができました。
3	勤怠処理・記録削減	CWにより、従来紙で作成していた勤怠処理、援助実施記録の作成を携帯端末に移行させることで作成時間を削減することができました。
4	請求・勤怠処理削減	従来は、ヘルパーから提出された紙ベースの資料を、サ責が全資料目検で確定作業を行っていたのをPC上で実施し、削減することができました。
5	ルート作成変更削減	ルート表作成も、各種帳票確認を経由することなくPC上で実施し、削減することができました。

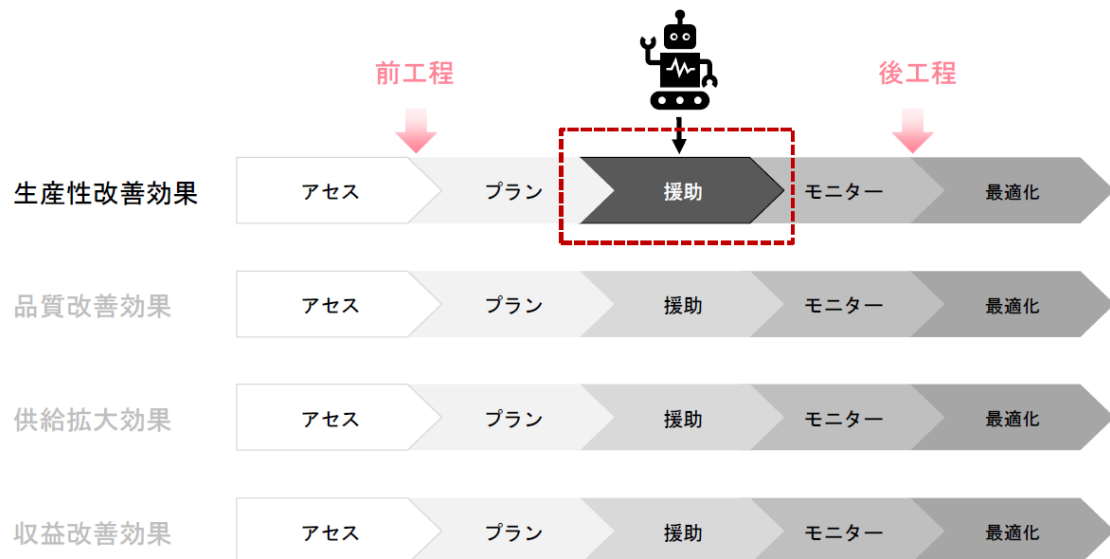
© 2021 Sompo Holdings, Inc. All Rights Reserved.

9

5. 価値工学に基づくアプローチ

Point

誰しも、テクノロジーによる改善効果を、テクノロジー活用の ①代替手続きとの比較による ②生産性改善効果に限定してしまいます。

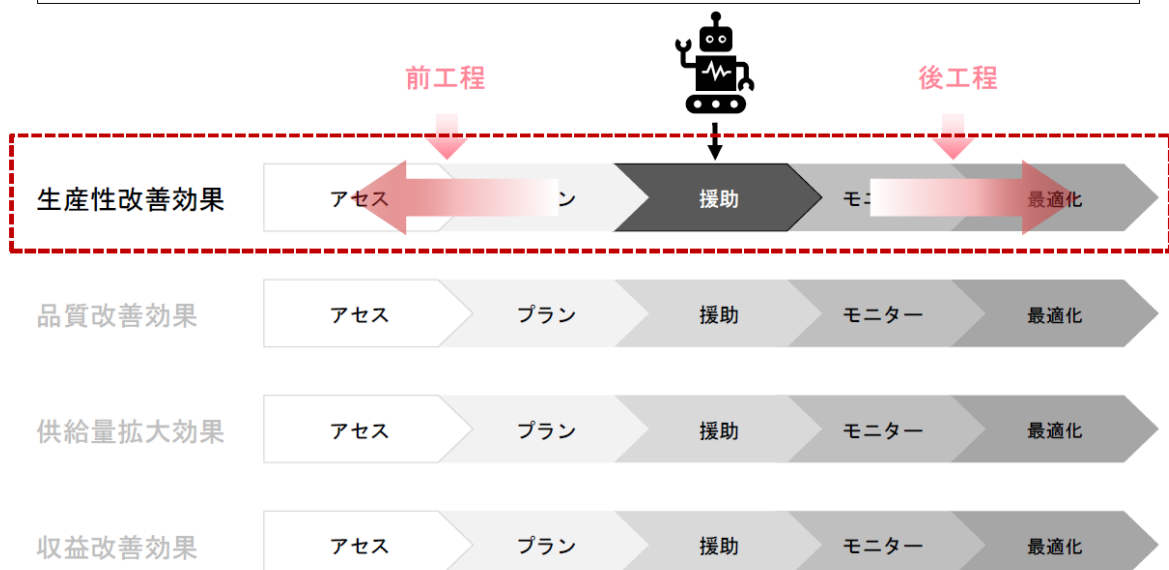


© 2021 Sompo Holdings, Inc. All Rights Reserved.

10

5. 価値工学に基づくアプローチ

テクノロジーの導入価値を拡大するために、導入部分のオペレーションの前工程と後工程の手作業部分を見直し、プロセス全体を最適化（ビジネスモデルの見直し）することが重要になります。
→本資料3頁（仮説構築）、7頁（働き方改革）、8頁（モニタリング）等

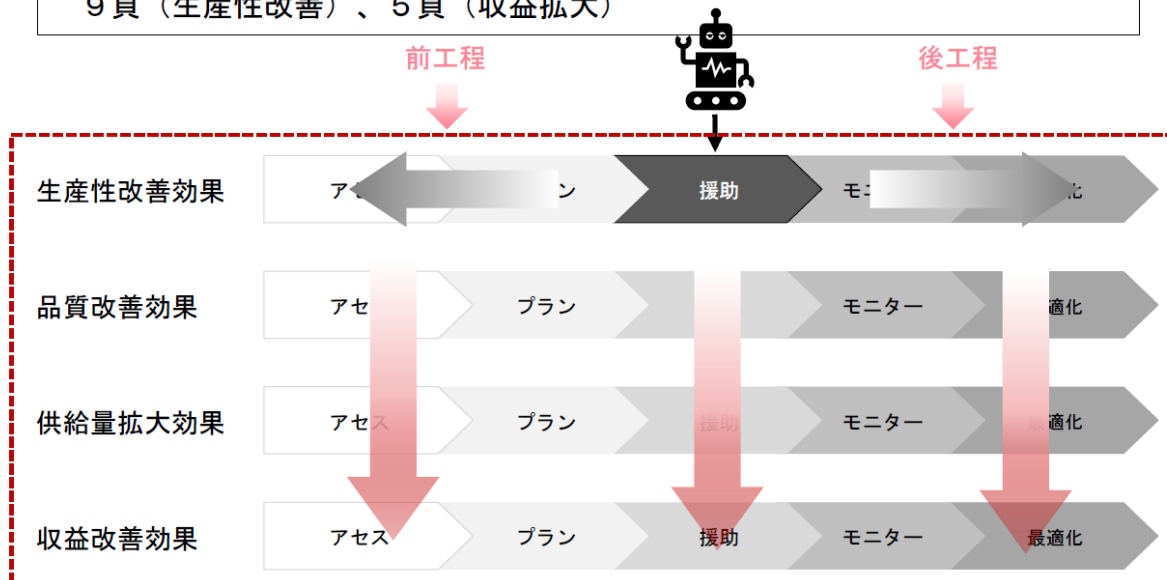


© 2021 Sompo Holdings, Inc. All Rights Reserved.

11

5. 価値工学に基づくアプローチ

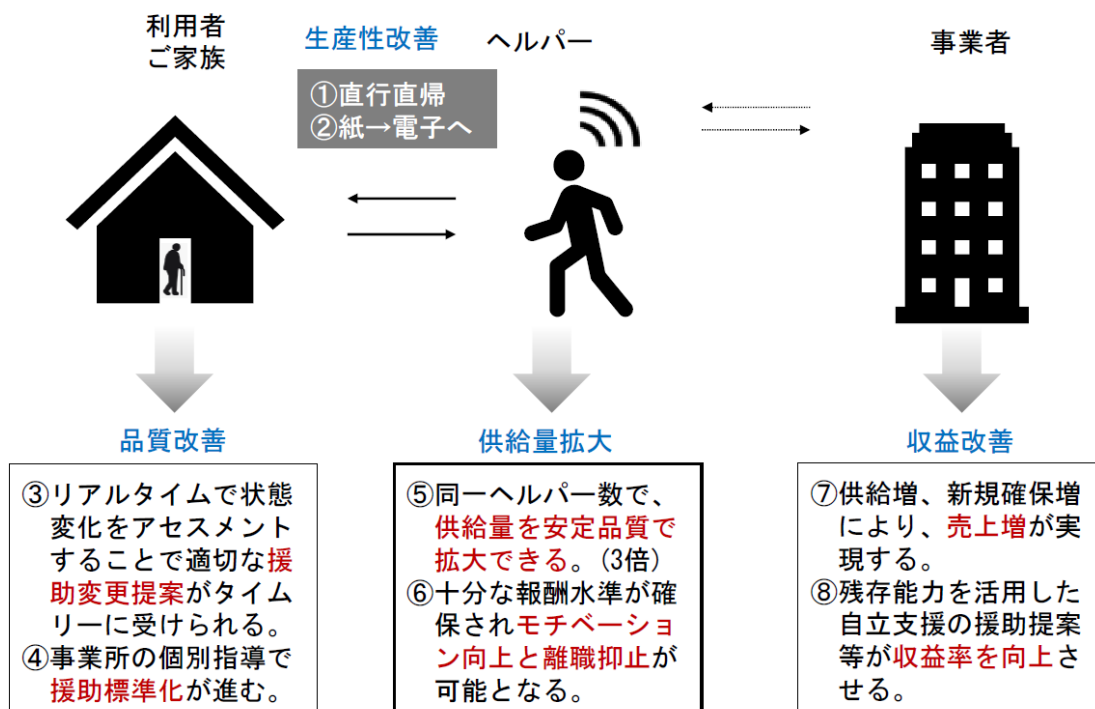
さらに、テクノロジー効果最大化のために、価値の定義を生産性改善のみから品質改善、供給量拡大、収益改善へと拡張させます。
この結果、**点**で測定される効果から**線**の効果、更に**面**の効果へ拡張できます。
→本資料3～5頁（品質改善）、6～8頁（供給量拡大）、9頁（生産性改善）、5頁（収益拡大）



© 2021 Somp Holdings, Inc. All Rights Reserved.

12

6. まとめ…品質改善・供給量拡大・生産性改善



© 2021 Somp Holdings, Inc. All Rights Reserved.

13

カ. ヒアリング調査結果

実証完了後、実証施設へのヒアリング調査を実施した。調査結果の概要は以下の通り。

図表 XI-65 生産性向上の取組状況

カテゴリ	主な意見
職員について	・ プロンプトの打ち方、AI を使いこなす・活用するところまで時間を要したが、より議事録の質をあげるために試行錯誤した。 ・ 漢字の変換ミス等があったが内容は大きな影響がなかったので、簡単な修正で対応でき、負担にはならなかった。 ・ 訪問介護というサービスの特性上、タイムスタディ調査を実施することが難しかった。 ・ AI 活用をハードルに感じる職員もいたので、導入当初の運用について相当時間をかけて検討した。 ・ 実際に使用を開始すると全員問題なく使用できた。
施設について	・ AI の使い方について、法人の担当者に適宜質問を行った。 ・ 録音の承諾を得るにあたり、会社から説明用資料の共有があった。 ・ 録音を取ることに否定的な利用者はいなかった。

図表 XI-66 委員会や取組に向けた会議の開催

カテゴリ	主な意見
開催頻度 (実証フィールド別)	・ 責任者会議を毎月1回実施した。 ・ 毎月 2 回運営会議を実施した。 ・ その他、随時簡単な相談を行った。
参加職種・役職 (実証フィールド別)	・ 管理者・リーダー以上の役職者 5 名。 ・ 本部の役員、管理者、サービス責任者、サービスケアコンダクター。
検討内容 (実証フィールド別)	・ 取組の進捗状況を確認した。 ・ プロンプトの使い方の情報共有を行った。

図表 XI-67 実証目的に対する達成状況

カテゴリ	主な意見
職員の観点	・ モニタリング・会議時間の時間短縮になった。 ・ 記録作業がなくなることで、会議中に利用者の様子を確認しながら話を進めることができた。

カテゴリ	主な意見
	・ 個別の利用者のカンファレンス、研修等に時間を回せるようになり、サービスの質の向上のための時間を増やすことができた。 ・ 元々多くはなかったが、議事録・帳票に関する残業はなくなった。 ・ 職員間での議事録の品質に差がなくなった。
施設の観点	・ 費用対効果について、導入コストに見合ったテクノロジーの導入効果があった。 ・ 苦労があまりなく、ポジティブに取り組み出来た。今後も AI 活用することで、人員不足にも対応できればと思っている。 ・ 他のテクノロジー(介護記録システム等)とも連携することで更なる効率化ができそうだと感じた。

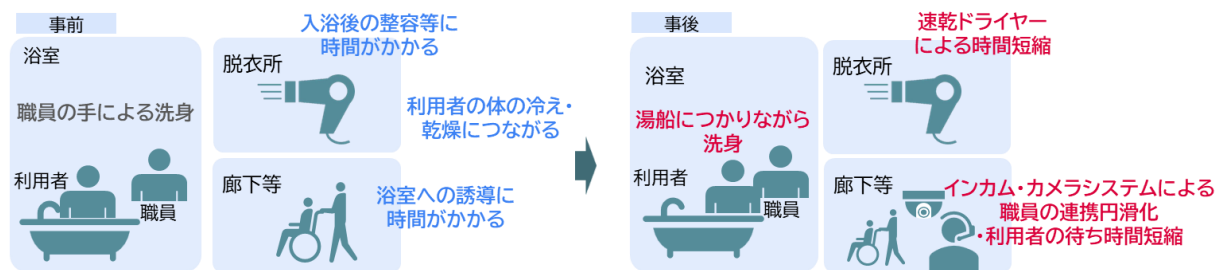
(3) 株式会社金星「洗身業務を支援するテクノロジー活用」

ア. 実証の概要

① 実証目的

ウルトラファインバブル入浴機器(無数の小さな泡が入ったお湯を浴槽にはり、その湯船につかることで洗身効果が得られる)の導入により、洗身・洗髪時間の削減と入浴時間の増加による入浴ケアの質の向上を目的とする。また、速乾ドライヤーの導入やインカム、カメラシステムの活用による職員間の連携促進により、更衣・整容や居室と浴室間の誘導時間を削減し、入浴に係る業務の効率化と職員の心理的負担の軽減を目的とする。

図表 XI-68 実証イメージ



② 実証フィールドの概要

本実証では以下の実証フィールドにて効果測定を実施した。

図表 XI-69 実証フィールドの概要

実証フィールド	法人名	施設名	サービス種別	導入機器
1	シューパルブリアン株式会社	住宅型有料老人ホーム スープ矢野	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	・ウルトラファインバブル入浴機器(ピュアット) ・速乾ドライヤー(Dyson Supersonic)
2	シューパルブリアン株式会社	ショートステイ そわか可部東	短期入所生活介護	・インカム(buddycom) ・カメラシステム(屋内 PTZ カメラ)

③ 実証期間

調査期間は以下の通りである。

図表 XI-70 調査期間

調査	時期	補足
事前調査	令和 7 年 9 月 29 日～10月10日(12 日間)	左記のうち、実証フィールド別に各 5 日間を調査期間として実施した。
事後調査①	令和 7 年10月27日～11月14日(19 日間)	
中間調査(独自調査)	令和7年 11 月 17 日～28 日(12 日間)	
事後調査②	令和 7 年12月 1 日～12日(12 日間)	
ヒアリング調査	令和8年2月6日	

④ 各調査の概要

本調査では、実証の事前と事後(2回)で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」を実施した。また、独自調査として事後①から事後②までの期間で「皮膚温度調査」および「肌水分量調査」を実施した。実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。以下に各調査の概要を記載する。

図表 XI-71 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
タイムスタディ調査 (媒体:Excel)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	- 回答方法:自記式(1 分刻みで自身が実施した作業項目を記入) - 調査スケジュール:事前(取組前)1回、事後(取組後)2 回の計3回、それぞれ 5日間分実施。 - 調査実施の時間帯:調査対象期間中の入浴介助がある勤務時間(9:30～11:00 及び13:30～16:30)
職員向けアンケート調査 (全テーマ共通)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	- 回答方法:自記式(WEB 回答) - 調査スケジュール:事前と事後2回、実証期間中それぞれについて、1名につき1回のみ回答
利用者向けアンケート調査 (全テーマ共通)	ウルトラファインバブル入浴機器によるケアを受けた利用者 (職員による代理回答)	- 回答方法:自記式(WEB 回答) - 調査スケジュール:事前と事後2回、実証期間中それぞれについて、1名につき1回のみ回答
皮膚温度調査 (独自調査)	ウルトラファインバブル入浴機器によるケアを受けた利用者	- 調査方法: - 調査スケジュール:季節変化による結果の変動を避けるため、以下の要領で

調査名	調査対象者	調査概要
		実施。 ➤ 事後①:ウルトラファインバブル入浴機器の使用有り ➤ 独自中間調査:ウルトラファインバブル入浴機器の使用無し ➤ 事後②:ウルトラファインバブル入浴機器の使用有り
肌水分量調査 (独自調査)	ウルトラファインバブル入浴機器によるケアを受けた利用者	・ 調査方法: ・ 調査スケジュール:季節変化による結果の変動を避けるため、以下の要領で実施。 ➤ 事後①:ウルトラファインバブル入浴機器の使用有り ➤ 独自中間調査:ウルトラファインバブル入浴機器の使用無し ➤ 事後②:ウルトラファインバブル入浴機器の使用有り
ヒアリング調査 (全テーマ共通)	施設管理者、部門管理者 介護職員	・ 調査方法:WEB 会議による聞き取り ・ 調査スケジュール:実証終了後に1回実施

⑤ タイムスタディ調査項目

本調査のタイムスタディ調査項目は以下のとおり。なお、事前と事後調査の調査項目は共通とした。

図表 XI-72 タイムスタディ調査項目

NO	分類	Sub-NO	項目
A	直接介護※1	1	入浴介助_洗身・洗髪
		2	入浴介助_更衣・整容・処置
		3	入浴介助_入浴
		4	入浴介助_待合室・浴室間誘導
		5	入浴介助_居室・共用スペース、待合室間誘導
		6	入浴介助_入浴後誘導
		7	その他の直接介護
B	間接業務	8	記録・文書作成・連絡調整等(※2)
		9	入浴準備
		10	その他の間接業務

NO	分類	Sub-NO	項目
C	休憩	11	休憩・待機・仮眠
D	その他	12	その他
E	余裕時間	13	余裕時間(突発でのケアや対応ができる状態)

※1 見守りによる介助を含む。

※2 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、職員間の連絡調整、文書検索等

イ. 利用者・職員概要

① 利用者概要

本調査において利用者向けアンケート調査に回答があった利用者は16名であった。

図表 XI-73 利用者概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	3	13	0	16
	割合	19%	81%	0%	100%

図表 XI-74 利用者概要:年齢

		70歳未満	70歳～75歳未満	75歳～80歳未満	80歳～85歳未満	85歳～90歳未満	90歳～95歳未満	95歳以上	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	5	3	1	5	2	0	16
	割合	0%	0%	31%	19%	6%	31%	13%	0%	100%

図表 XI-75 利用者概要:要介護度

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支援	その他(区分申請中等)	無回答	合計
総数	人数(人)	0	1	8	3	4	0	0	0	16
	割合	0%	6%	50%	19%	25%	0%	0%	0%	100%

図表 XI-76 利用者概要:障害高齢者の日常生活自立度

		J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明・未実施	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	0	2	4	3	0	2	5	0	16
	割合	0%	0%	0%	13%	25%	19%	0%	13%	31%	0%	100%

② 職員概要

本調査において職員向けアンケート調査に回答があった職員は 22 名であった。

図表 XI-77 職員概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	10	12	0	22
	割合	45%	55%	0%	100%

図表 XI-78 職員概要:年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
総数	人数(人)	0	7	2	7	4	2	0	0	22
	割合	0%	32%	9%	32%	18%	9%	0%	0%	100%

図表 XI-79 職員概要:職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓 練指導員を 含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	15	0	0	0	0	0	7	0	22
	割合	68%	0%	0%	0%	0%	0%	32%	0%	100%

図表 XI-80 職員概要:役職

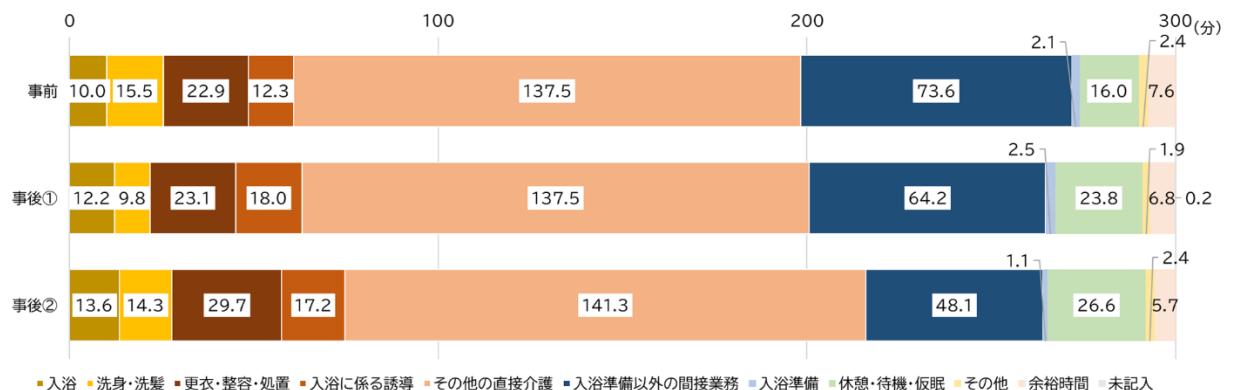
		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	4	18	0	0	22
	割合	0%	18%	82%	0%	0%	100%

ウ. タイムスタディ調査結果

「入浴」の時間は事前と比較し、事後①では 2.2 分増加し、事後②では 3.6 分増加した。「洗身・洗髪」の時間は事前と比較し、事後①では 5.7 分減少し、事後②では 1.2 分減少した。

図表 XI-81 タイムスタディ調査の結果(職員1人1日(300 分)あたり)

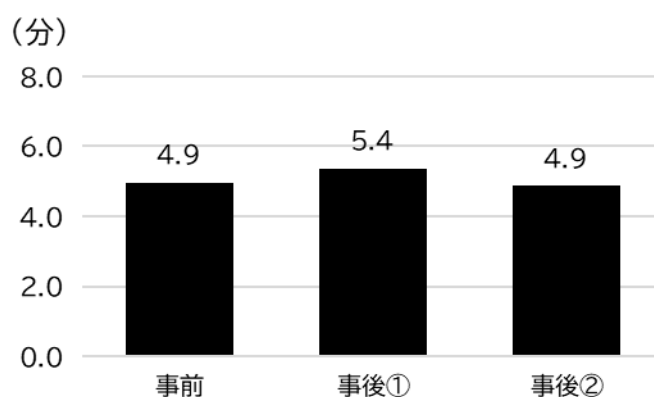
		入浴介助						その他の直接介護	間接業務			休憩	その他	余裕時間	未記入	合計(分)
		洗身・洗髪	更衣・整容・処置	入浴	待合室・浴室間誘導	居室・共用スペース、待合室間誘導	入浴後誘導		記録・文書作成・連絡調整等	入浴準備	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠				
事前	時間(分)	15.5	22.9	10.0	2.6	3.9	5.8	137.5	32.3	2.1	41.3	16.0	2.4	7.6	0.0	300
	割合	5%	8%	3%	1%	1%	2%	46%	11%	1%	14%	5%	1%	3%	0%	100%
事後①	時間(分)	9.8	23.1	12.2	2.9	6.2	8.9	137.5	31.4	2.5	32.8	23.8	1.9	6.8	0.2	300
	割合	3%	8%	4%	1%	2%	3%	46%	10%	1%	11%	8%	1%	2%	0%	100%
事後②	時間(分)	14.3	29.7	13.6	2.8	7.8	6.6	141.3	21.0	1.1	27.1	26.6	2.4	5.7	0.0	300
	割合	5%	10%	5%	1%	3%	2%	47%	7%	0%	9%	9%	1%	2%	0%	100%



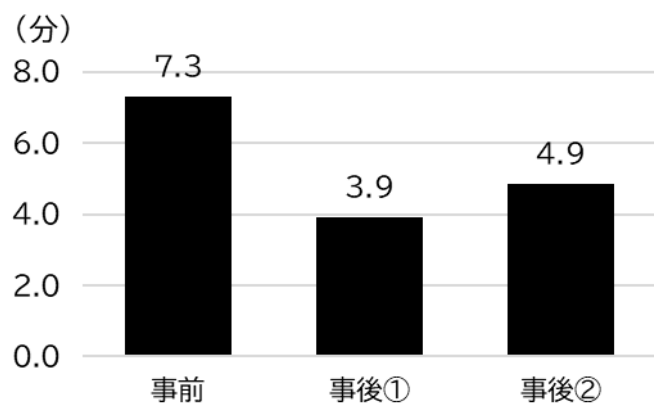
タイムスタディ調査で測定した項目のうち、「入浴」の時間と「洗身・洗髪」の時間について、全対象職員の 5 日間の積算を各調査期間中の入浴介助を行った利用者数で除し、利用者 1 人あたりのケアに要した時間を算出した。なお、各調査期間に入浴介助を行った利用者数は事前調査で 77 名、事後①で 90 名、事後②で 104 名であった。

利用者 1 人あたりの「入浴」の時間は事前、事後①、事後②で大きな差は見られなかったが、利用者 1 人あたりの「洗身・洗髪」の時間は事前から事後①で 3.4 分、事前から事後②で 2.4 分減少した。

図表 XI-82 タイムスタディ調査の結果:利用者 1 人あたりの「入浴」の時間

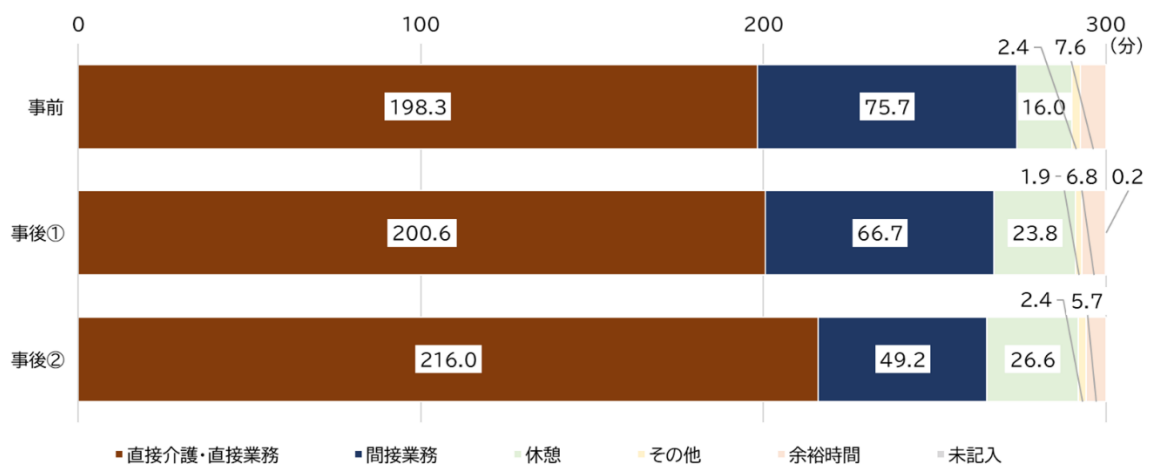


図表 XI-83 タイムスタディ調査の結果:利用者 1 人あたりの「洗身・洗髪」の時間



図表 XI-84 (参考:共通区分)タイムスタディ調査の結果(職員1人1日(300 分)あたり)

		直接介護・直接業務	間接業務	休憩	その他	余裕時間	未記入	合計(分)
事前	時間(分)	198.3	75.7	16.0	2.4	7.6	0.0	300
	割合	66%	25%	5%	1%	3%	0%	100%
事後①	時間(分)	200.6	66.7	23.8	1.9	6.8	0.2	300
	割合	67%	22%	8%	1%	2%	0%	100%
事後②	時間(分)	216.0	49.2	26.6	2.4	5.7	0.0	300
	割合	72%	16%	9%	1%	2%	0%	100%



事前 n=19、事後①n=20、事後②n=20

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

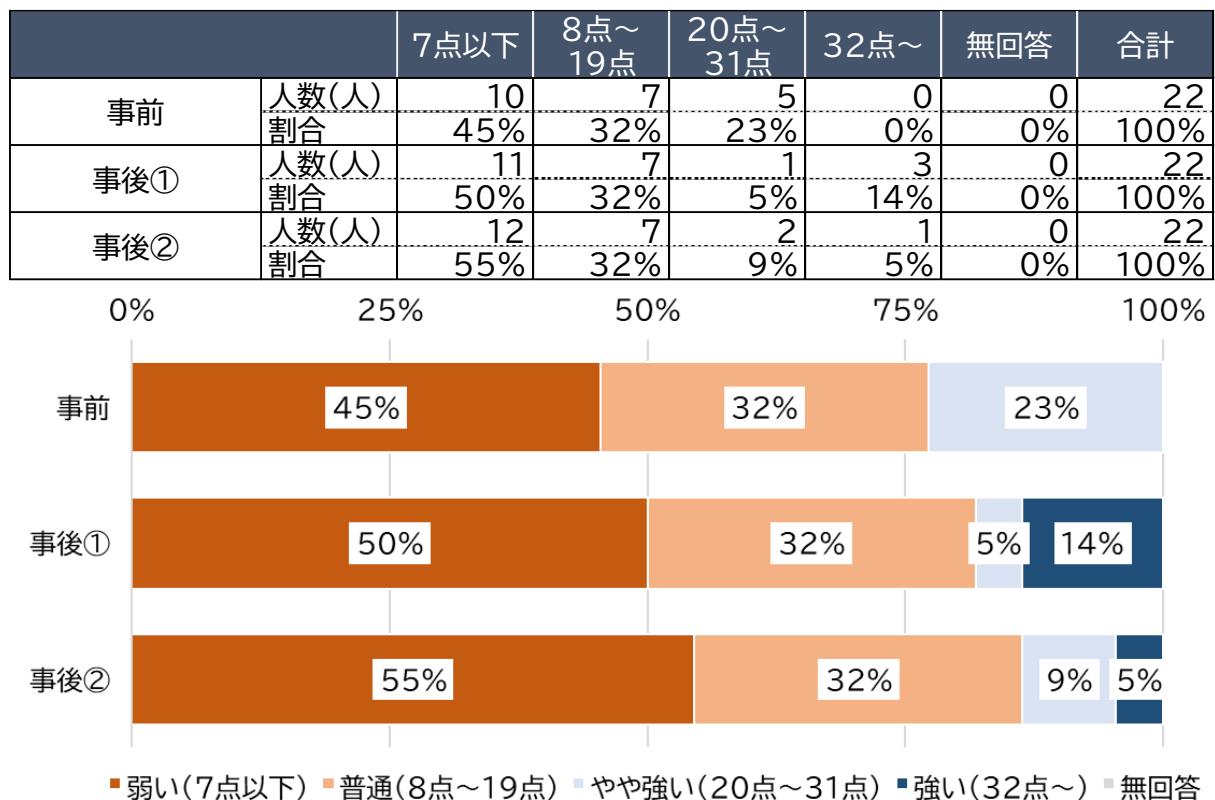
※グラフ上の数は、調査結果の和から5時間(300 分)換算した値。

工. 職員向けアンケート調査結果

① 心理的負担評価

職員の心理的ストレス反応測定尺度合計点について事前と事後 2 回の結果を比較すると、「弱い（7点以下）」と回答した職員の割合が、事前では 45%、事後①では 50%、事後②では 55%となった。

図表 XI-85 職員調査:心理的負担評価



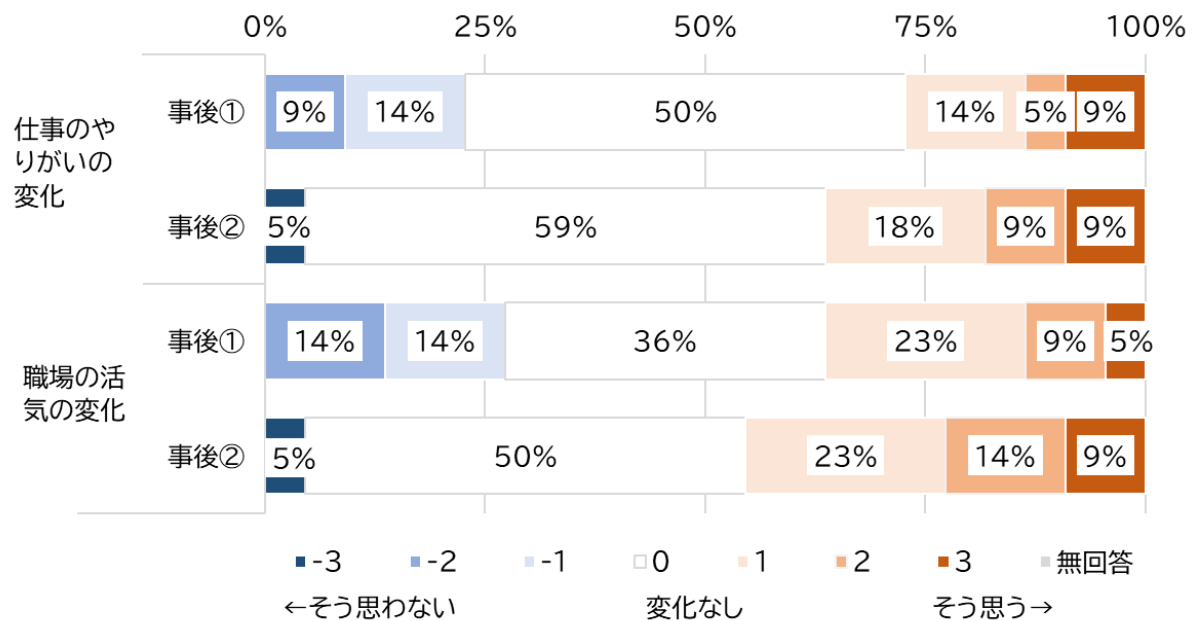
※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各 18 項目のうち 1 項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が 0、1、2、3 以外の場合は無回答処理をした。

② 機器導入によるモチベーションの変化

機器導入によるモチベーションの変化は以下の通り。

図表 XI-86 職員調査:機器導入によるモチベーションの変化

			←減少したと感じる→							増加したと感じる→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3				
仕事のやりがいの変化	事後①	人数(人)	0	2	3	11	3	1	2	0	22		
		割合	0%	9%	14%	50%	14%	5%	9%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	1	0	0	13	4	2	2	0	22		
		割合	5%	0%	0%	59%	18%	9%	9%	0%	100%		
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	0	3	3	8	5	2	1	0	22		
		割合	0%	14%	14%	36%	23%	9%	5%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	1	0	0	11	5	3	2	0	22		
		割合	5%	0%	0%	50%	23%	14%	9%	0%	100%		



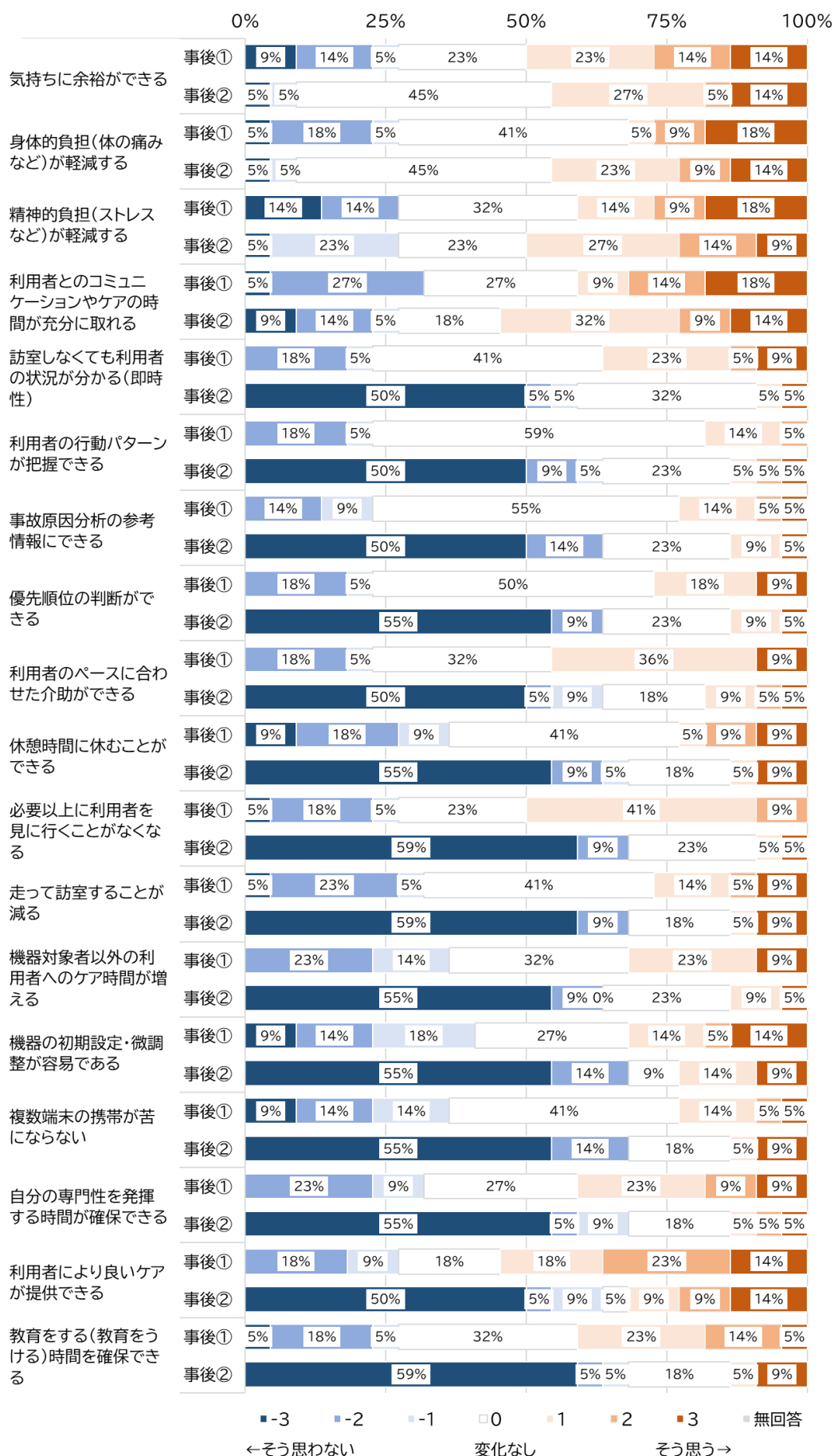
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

③ 機器導入による職員や施設業務の変化

機器導入による職員や施設業務の変化は以下の通り。

図表 XI-87 職員調査:機器導入による職員や施設業務の変化

			←そう思わない		変化なし			そう思う→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人)	2	3	1	5	5	3	3	0	22
		割合	9%	14%	5%	23%	23%	14%	14%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	1	10	6	1	3	0	22
		割合	5%	0%	5%	45%	27%	5%	14%	0%	100%
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人)	1	4	1	9	1	2	4	0	22
		割合	5%	18%	5%	41%	5%	9%	18%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	1	10	5	2	3	0	22
		割合	5%	0%	5%	45%	23%	9%	14%	0%	100%
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人)	3	3	0	7	3	2	4	0	22
		割合	14%	14%	0%	32%	14%	9%	18%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	5	5	6	3	2	0	22
		割合	5%	0%	23%	23%	27%	14%	9%	0%	100%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	事後①	人数(人)	1	6	0	6	2	3	4	0	22
		割合	5%	27%	0%	27%	9%	14%	18%	0%	100%
	事後②	人数(人)	2	3	1	4	7	2	3	0	22
		割合	9%	14%	5%	18%	32%	9%	14%	0%	100%
訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	事後①	人数(人)	0	4	1	9	5	1	2	0	22
		割合	0%	18%	5%	41%	23%	5%	9%	0%	100%
	事後②	人数(人)	11	1	1	7	1	0	1	0	22
		割合	50%	5%	5%	32%	5%	0%	5%	0%	100%
利用者の行動パターンが把握できる	事後①	人数(人)	0	4	1	13	3	1	0	0	22
		割合	0%	18%	5%	59%	14%	5%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	11	2	1	5	1	1	1	0	22
		割合	50%	9%	5%	23%	5%	5%	5%	0%	100%
事故原因分析の参考情報にできる	事後①	人数(人)	0	3	2	12	3	1	1	0	22
		割合	0%	14%	9%	55%	14%	5%	5%	0%	100%
	事後②	人数(人)	11	3	0	5	2	0	1	0	22
		割合	50%	14%	0%	23%	9%	0%	5%	0%	100%
優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	事後①	人数(人)	0	4	1	11	4	0	2	0	22
		割合	0%	18%	5%	50%	18%	0%	9%	0%	100%
	事後②	人数(人)	12	2	0	5	2	0	1	0	22
		割合	55%	9%	0%	23%	9%	0%	5%	0%	100%
利用者のペースに合わせた介助ができる	事後①	人数(人)	0	4	1	7	8	0	2	0	22
		割合	0%	18%	5%	32%	36%	0%	9%	0%	100%
	事後②	人数(人)	11	1	2	4	2	1	1	0	22
		割合	50%	5%	9%	18%	9%	5%	5%	0%	100%
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人)	2	4	2	9	1	2	2	0	22
		割合	9%	18%	9%	41%	5%	9%	9%	0%	100%
	事後②	人数(人)	12	2	1	4	1	0	2	0	22
		割合	55%	9%	5%	18%	5%	0%	9%	0%	100%
必要以上に利用者を見に行くことがなくなる	事後①	人数(人)	1	4	1	5	9	2	0	0	22
		割合	5%	18%	5%	23%	41%	9%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	13	2	0	5	1	0	1	0	22
		割合	59%	9%	0%	23%	5%	0%	5%	0%	100%
走って訪室することが減る	事後①	人数(人)	1	5	1	9	3	1	2	0	22
		割合	5%	23%	5%	41%	14%	5%	9%	0%	100%
	事後②	人数(人)	13	2	0	4	1	0	2	0	22
		割合	59%	9%	0%	18%	5%	0%	9%	0%	100%
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	事後①	人数(人)	0	5	3	7	5	0	2	0	22
		割合	0%	23%	14%	32%	23%	0%	9%	0%	100%
	事後②	人数(人)	12	2	0	5	2	0	1	0	22
		割合	55%	9%	0%	23%	9%	0%	5%	0%	100%
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人)	2	3	4	6	3	1	3	0	22
		割合	9%	14%	18%	27%	14%	5%	14%	0%	100%
	事後②	人数(人)	12	3	0	2	3	0	2	0	22
		割合	55%	14%	0%	9%	14%	0%	9%	0%	100%
複数端末の携帯が苦にならない	事後①	人数(人)	2	3	3	9	3	1	1	0	22
		割合	9%	14%	14%	41%	14%	5%	5%	0%	100%
	事後②	人数(人)	12	3	0	4	1	0	2	0	22
		割合	55%	14%	0%	18%	5%	0%	9%	0%	100%
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人)	0	5	2	6	5	2	2	0	22
		割合	0%	23%	9%	27%	23%	9%	9%	0%	100%
	事後②	人数(人)	12	1	2	4	1	1	1	0	22
		割合	55%	5%	9%	18%	5%	5%	5%	0%	100%
利用者により良いケアが提供できる	事後①	人数(人)	0	4	2	4	4	5	3	0	22
		割合	0%	18%	9%	18%	18%	23%	14%	0%	100%
	事後②	人数(人)	11	1	2	1	2	2	3	0	22
		割合	50%	5%	9%	5%	9%	9%	14%	0%	100%
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後①	人数(人)	1	4	1	7	5	3	1	0	22
		割合	5%	18%	5%	32%	23%	14%	5%	0%	100%
	事後②	人数(人)	13	1	1	4	1	0	2	0	22
		割合	59%	5%	5%	18%	5%	0%	9%	0%	100%

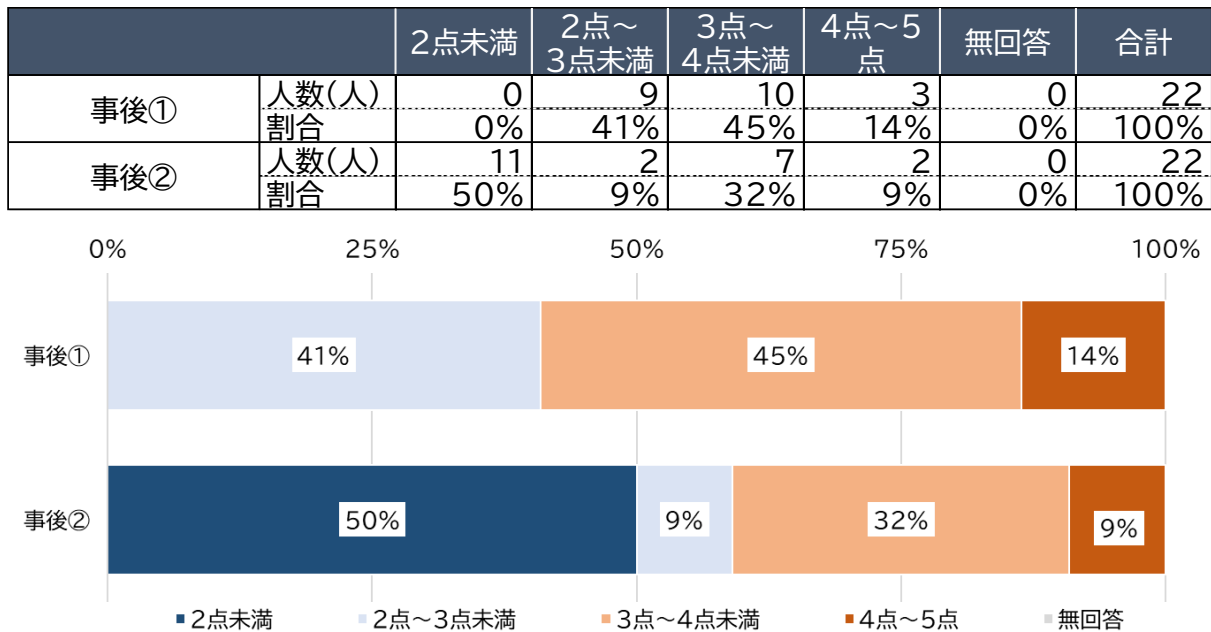


※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

④ 導入機器の満足度評価 ※出典:QUEST 福祉用具満足度評価

導入機器の満足度について事後①では「3点～4点未満」が最も多く45%、事後②では「2点未満」が最も多く50%であった。

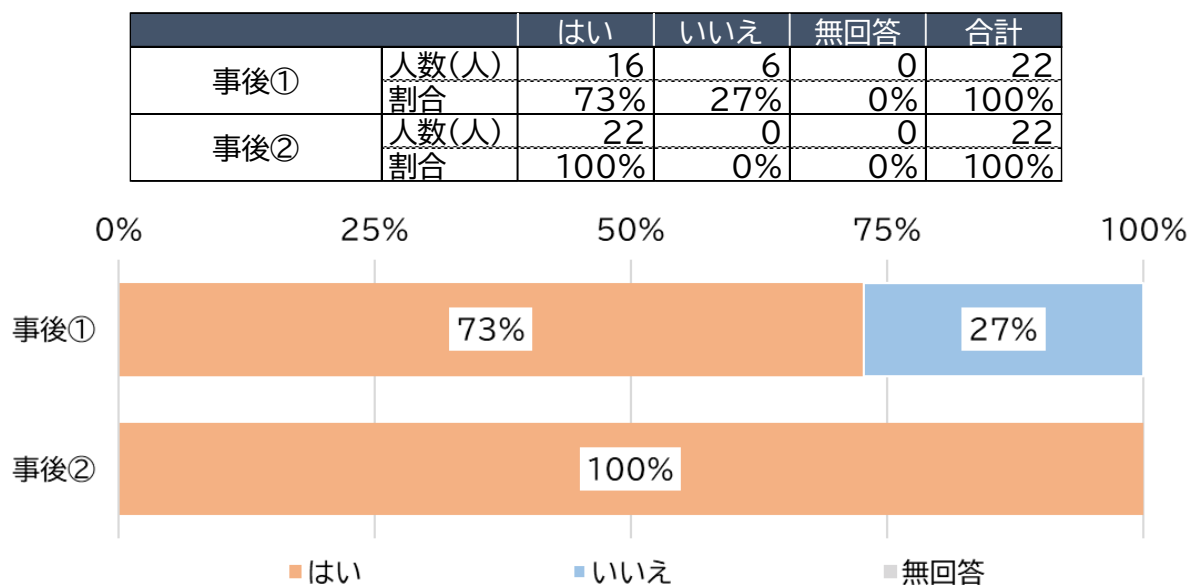
図表 XI-88 職員調査:導入機器の満足度評価(総合評価)



⑤ 導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向

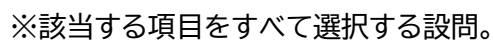
導入機器の継続利用意向については「はい」の回答が多く、事後①で73%、事後②で100%であった。

図表 XI-89 職員調査:導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向



職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により増やすことができた時間としては、「入浴・整容・更衣」「記録・文書作成・連絡調整等」を挙げる職員が多かった。

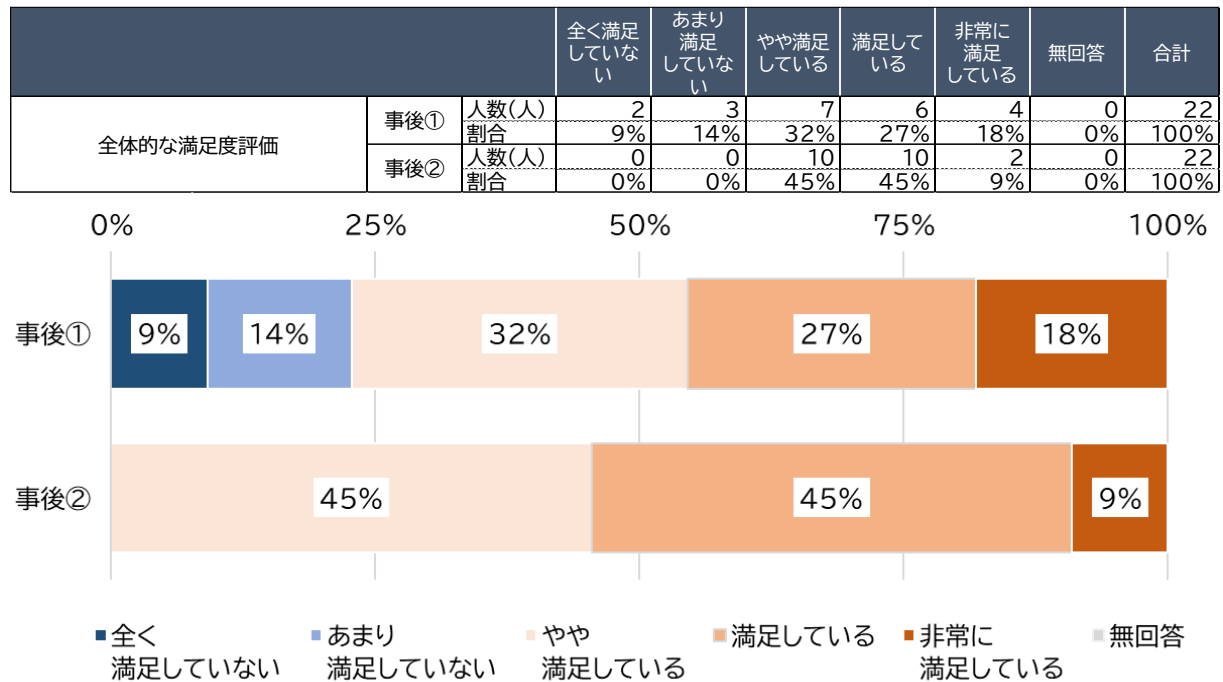
		直接介護										間接業務					休憩			その他	無回答（人）	合計（人）
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	記録・文書作成・連絡調整等	利用者へのアセスメントの作成・見直し	他の職員に対する指導・教育	その他の間接業務	休憩	仮眠	その他					
事後①	人数（人）割合	7 32%	3 14%	1 5%	3 14%	3 14%	8 36%	4 14%	3 14%	0 0%	2 9%	0 0%	3 14%	1 5%	3 14%	1 5%	0 0%	0 0%	6 27%	-	22	
事後②	人数（人）割合	3 14%	3 14%	3 14%	1 5%	2 9%	20 91%	7 32%	0 0%	0 0%	15 68%	3 14%	3 14%	0 0%	7 32%	1 5%	3 14%	3 14%	0 0%	-	22	



⑦ 満足度評価

調査で導入した機器を用いたケアに対する満足度については、「満足している」「非常に満足している」と回答した職員の割合が、事後①では 45%、事後②では 54%であった。

図表 XI-91 職員調査：満足度評価



※質問項目に対し、1(全く満足していない)～5(非常に満足している)の 5 段階で評価した。

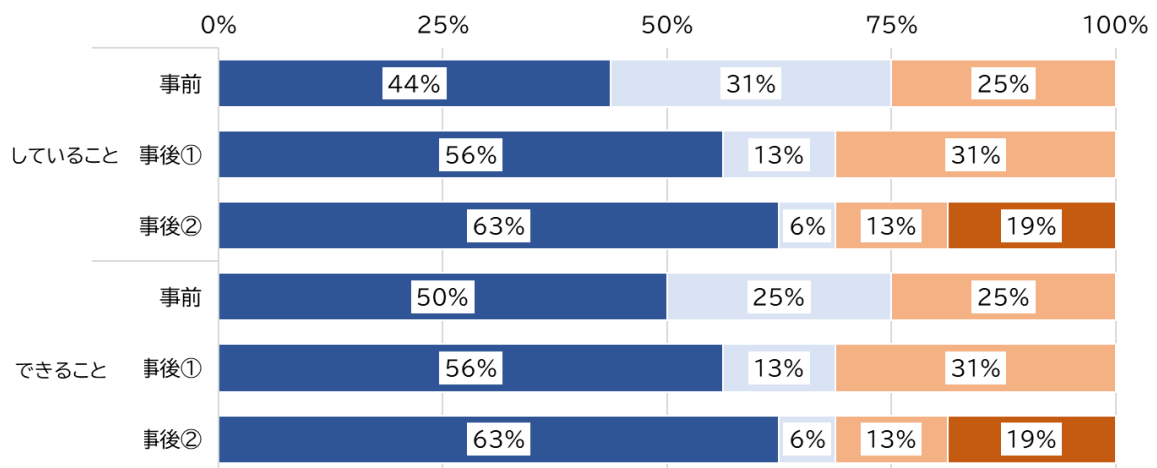
オ. 利用者向けアンケート調査結果

① ADL の変化

ADL の変化は以下の通り。

図表 XI-92 利用者調査:ADL の変化

			0点～ 20点	25点～ 40点	45点～ 60点	65点～ 100点	無回答	合計
していること	事前	人数(人)	7	5	4	0	0	16
		割合	44%	31%	25%	0%	0%	100%
	事後①	人数(人)	9	2	5	0	0	16
		割合	56%	13%	31%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	10	1	2	3	0	16
		割合	63%	6%	13%	19%	0%	100%
できること	事前	人数(人)	8	4	4	0	0	16
		割合	50%	25%	25%	0%	0%	100%
	事後①	人数(人)	9	2	5	0	0	16
		割合	56%	13%	31%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	10	1	2	3	0	16
		割合	63%	6%	13%	19%	0%	100%



■ 0～20点(ほぼ全介助) ■ 25～40点(かなりの介助) ■ 45～60点(部分介助) ■ 65～100点(ほぼ自立・自立) ■ 無回答

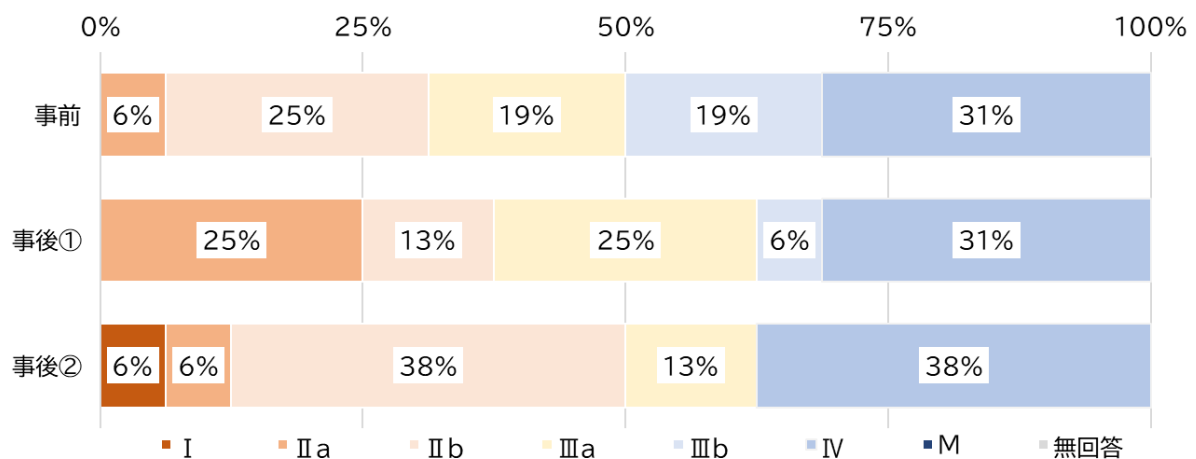
※事前調査または事後調査で、各10項目のうち1項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

② 認知症高齢者の日常生活自立度の変化

認知症高齢者の日常生活自立度は以下の通り。

図表 XI-93 利用者調査:認知症高齢者の日常生活自立度の変化

		I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	無回答	合計
事前	人数(人)	0	1	4	3	3	5	0	0	16
	割合	0%	6%	25%	19%	19%	31%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	0	4	2	4	1	5	0	0	16
	割合	0%	25%	13%	25%	6%	31%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	1	1	6	2	0	6	0	0	16
	割合	6%	6%	38%	13%	0%	38%	0%	0%	100%

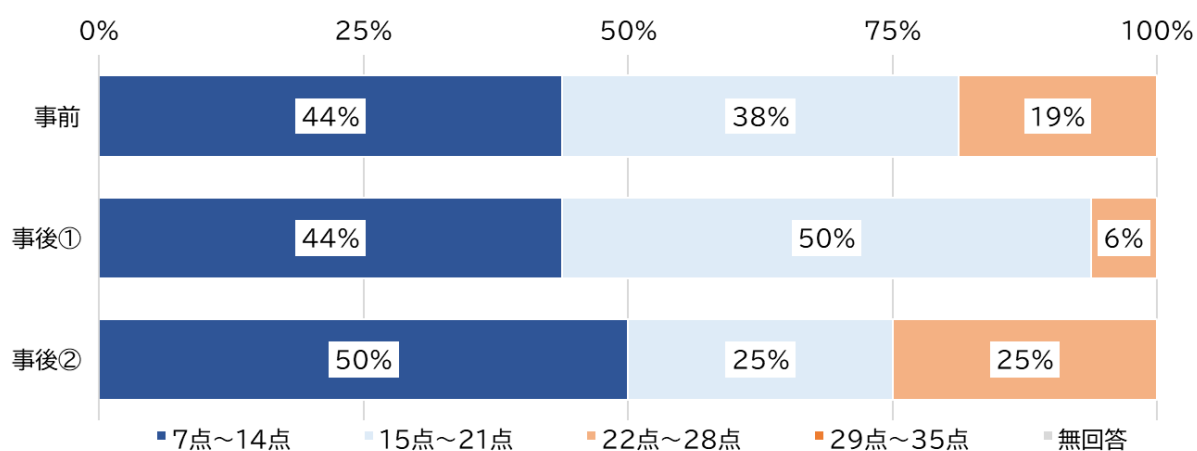


③ 生活・認知機能尺度の変化

生活・認知機能尺度の変化は以下の通り。

図表 XI-94 利用者調査:生活・認知機能尺度の変化

		7点～ 14点	15点～ 21点	22点～ 28点	29点～ 35点	無回答	合計
事前	人数(人)	7	6	3	0	0	16
	割合	44%	38%	19%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	7	8	1	0	0	16
	割合	44%	50%	6%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	8	4	4	0	0	16
	割合	50%	25%	25%	0%	0%	100%

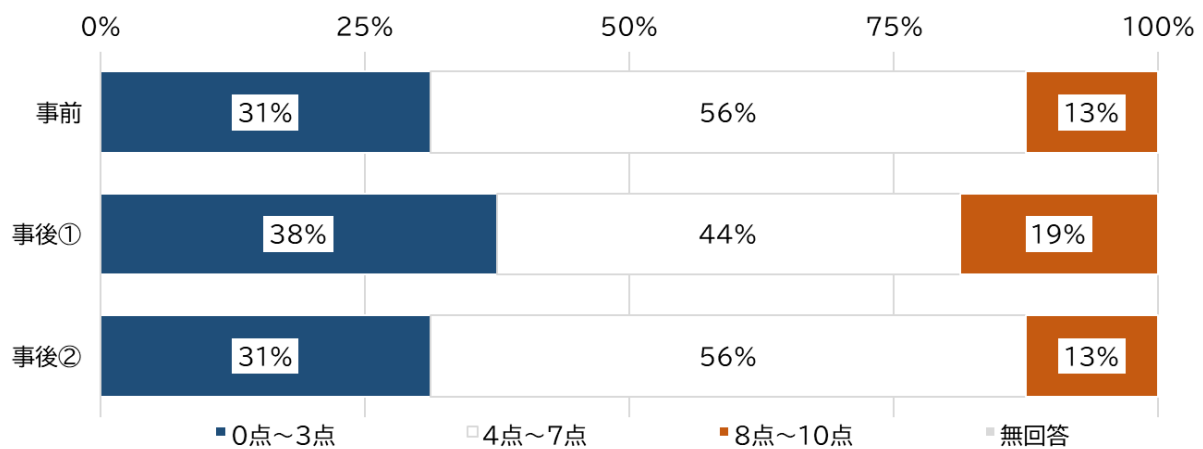


④ Vitality Index の変化

Vitality Index の変化は以下の通り。

図表 XI-95 利用者調査: Vitality Index の変化

		0点～3点	4点～7点	8点～10点	無回答	合計
事前	人数(人)	5	9	2	0	16
	割合	31%	56%	13%	0%	100%
事後①	人数(人)	6	7	3	0	16
	割合	38%	44%	19%	0%	100%
事後②	人数(人)	5	9	2	0	16
	割合	31%	56%	13%	0%	100%



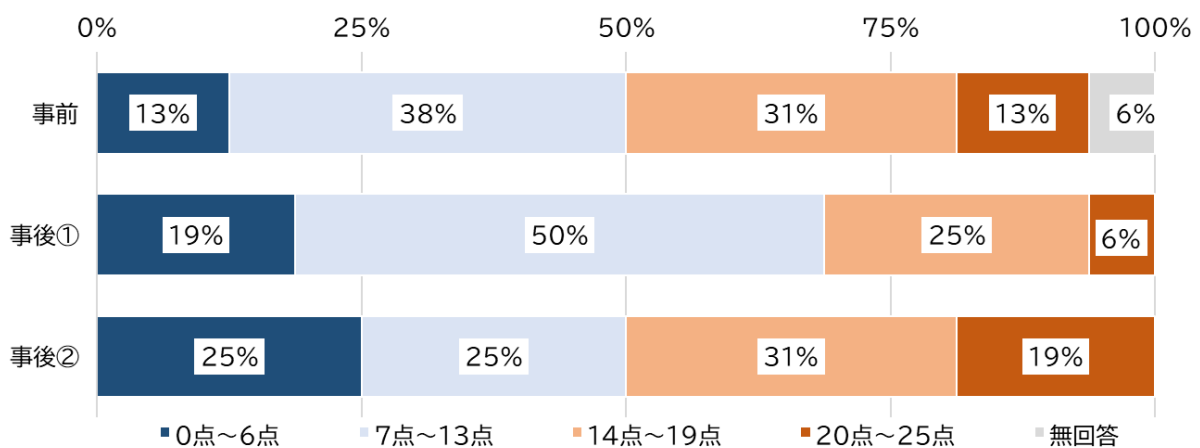
※事前調査または事後調査で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、以外の場合は無回答処理をした。

※ Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の 5 項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5 項目それぞれに0～2 点で回答し、それぞれ 2 点が最もよい状態を示す。10 点満点。

⑤ QOL(WHO-5 精神的健康状態表)の変化
QOL の変化は以下の通り。

図表 XI-96 利用者調査:QOL の変化

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
事前	人数(人)	2	6	5	2	1	16
	割合	13%	38%	31%	13%	6%	100%
事後①	人数(人)	3	8	4	1	0	16
	割合	19%	50%	25%	6%	0%	100%
事後②	人数(人)	4	4	5	3	0	16
	割合	25%	25%	31%	19%	0%	100%



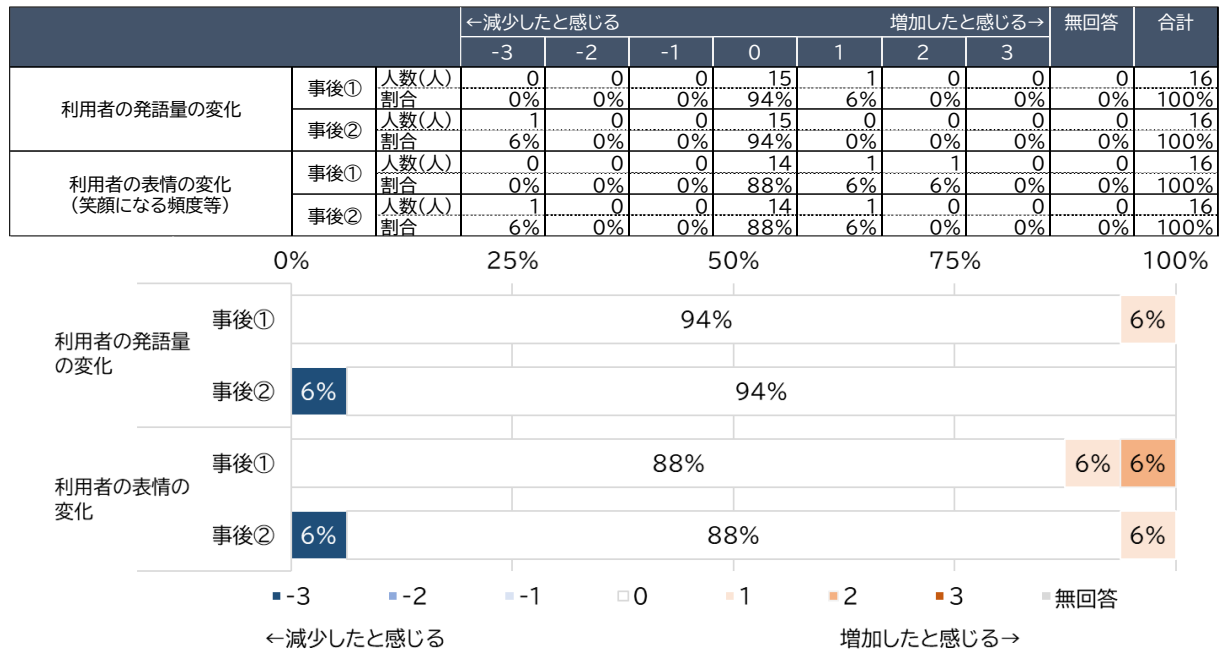
※事前または事後で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近2週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

⑥ 機器導入によるコミュニケーションの変化

機器導入によるコミュニケーションの変化は以下の通り。

図表 XI-97 利用者調査:機器導入によるコミュニケーションの変化



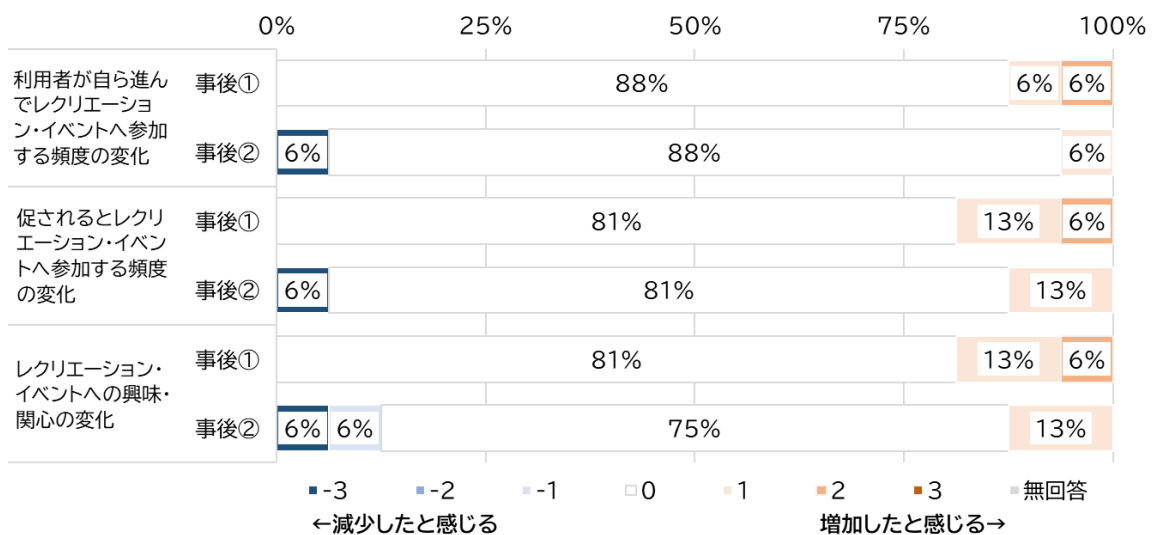
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

⑦ 機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化は以下の通り。

図表 XI-98 利用者調査:機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

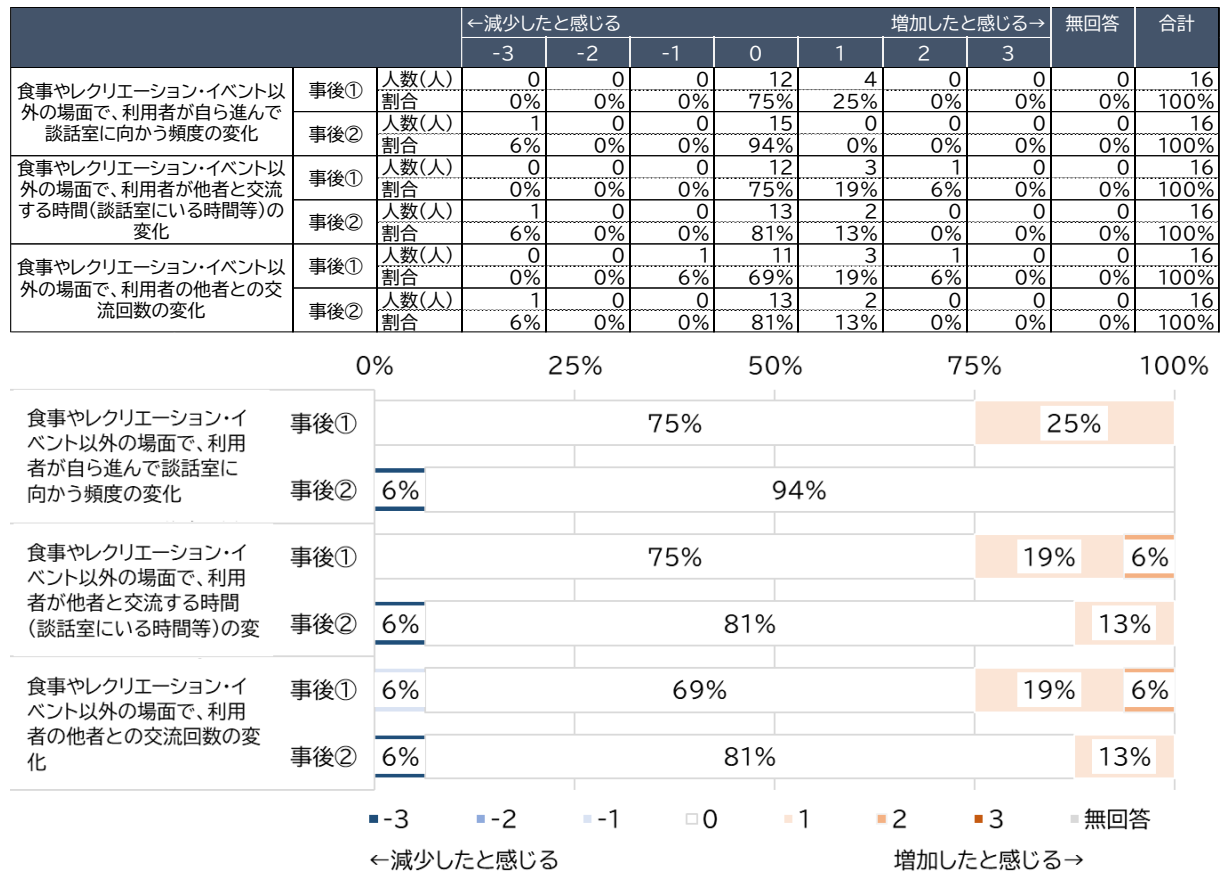
			←減少したと感じる→							増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3					
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	14	1	1	0	0	0	0	0	16
		割合	0%	0%	0%	88%	6%	6%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	0	14	1	0	0	0	0	0	0	16
		割合	6%	0%	0%	88%	6%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	13	2	1	0	0	0	0	0	16
		割合	0%	0%	0%	81%	13%	6%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	0	13	2	0	0	0	0	0	0	16
		割合	6%	0%	0%	81%	13%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	13	2	1	0	0	0	0	0	16
		割合	0%	0%	0%	81%	13%	6%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	1	12	2	0	0	0	0	0	0	16
		割合	6%	0%	6%	75%	13%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

⑧ 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化
 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化は以下の通り。

図表 XI-99 利用者調査:機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化



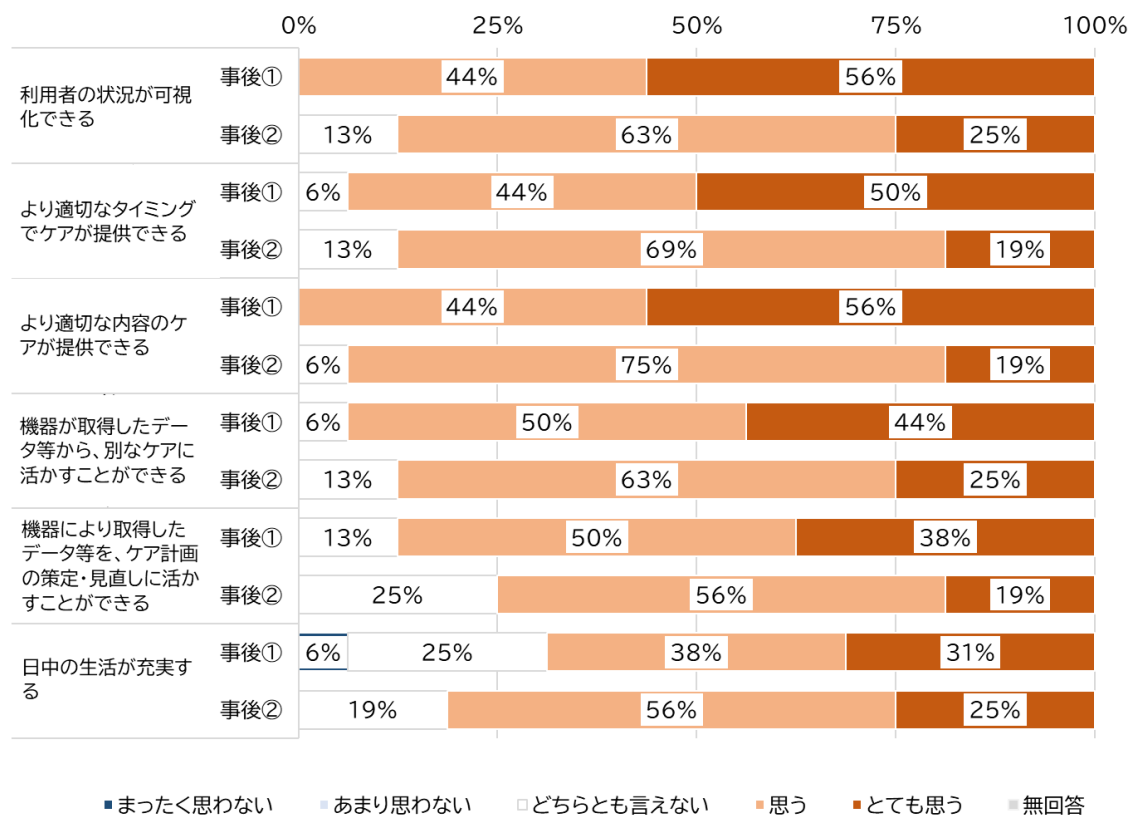
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

⑨ 機器導入によるケア内容の変更

機器導入によるケア内容の変更の変化は以下の通り。

図表 XI-100 利用者調査：機器導入によるケア内容の変更

			まったく 思わない	あまり 思わない	どちらと も言えな い	思う	とても 思う	無回答	合計
利用者の状況が可視化できる	事後①	人数(人)	0	0	0	7	9	0	16
		割合	0%	0%	0%	44%	56%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	2	10	4	0	16
		割合	0%	0%	13%	63%	25%	0%	100%
より適切なタイミングでケアが提供できる	事後①	人数(人)	0	0	1	7	8	0	16
		割合	0%	0%	6%	44%	50%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	2	11	3	0	16
		割合	0%	0%	13%	69%	19%	0%	100%
より適切な内容のケアが提供できる	事後①	人数(人)	0	0	0	7	9	0	16
		割合	0%	0%	0%	44%	56%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	1	12	3	0	16
		割合	0%	0%	6%	75%	19%	0%	100%
機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	事後①	人数(人)	0	0	1	8	7	0	16
		割合	0%	0%	6%	50%	44%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	2	10	4	0	16
		割合	0%	0%	13%	63%	25%	0%	100%
機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	事後①	人数(人)	0	0	2	8	6	0	16
		割合	0%	0%	13%	50%	38%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	4	9	3	0	16
		割合	0%	0%	25%	56%	19%	0%	100%
日中の生活が充実する	事後①	人数(人)	1	0	4	6	5	0	16
		割合	6%	0%	25%	38%	31%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	3	9	4	0	16
		割合	0%	0%	19%	56%	25%	0%	100%



※質問項目に対し、1(全く思わない)～5(とても思う)の 5 段階で評価した(回答は職員が実施)。

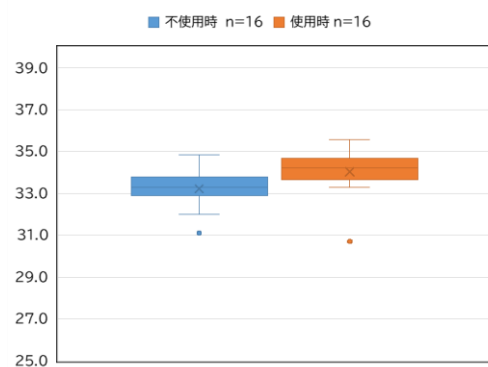
カ. 独自調査

独自調査として事後①、中間調査(事後①と事後②の間に設定し、ウルトラファインバブル入浴機器を使用しなかった場合の状態を計測)、事後②の期間にそれぞれ利用者の皮膚温度及び肌水分量を測定した。以下の図は、ウルトラファインバブル入浴機器を使用しなかった状態を測定した中間調査の結果を「不使用時」、ウルトラファインバブル入浴機器を使用した状態を測定した事後①・②を利用者ごとに平均した結果を「使用時」とし、比較したものである。事後①、中間調査、事後②のいずれの期間にも測定できた利用者数は、皮膚温度は 16 名、肌水分量は 15 名であった。

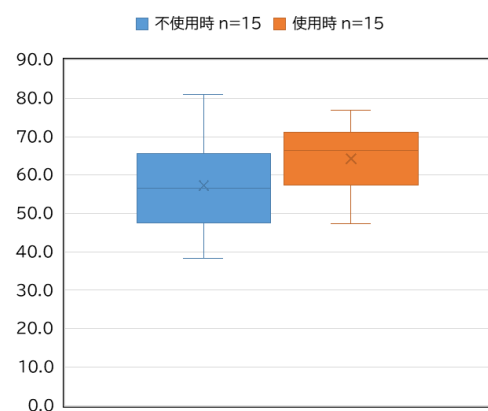
なお、皮膚温度は赤外線サーモグラフィ(Testo 875i)を用い、入浴後の吹上直後に額で測定し、肌水分量は角層水分測定プローブ(Corneometer CM825)を用い、入浴後の拭き上げ直後に右前腕にて測定した。肌水分量の測定値は、静電容量に応じて 0～120 の相対値で示される。

皮膚体温、肌水分量ともに、ウルトラファインバブル入浴機器の使用時の方が不使用時よりも高い傾向が見られた。

図表 XI-101 独自調査結果:ウルトラファインバブル入浴機器の不使用時と使用時における利用者の皮膚温度(℃)



図表 XI-102 独自調査結果:ウルトラファインバブル入浴機器の不使用時と使用時における利用者の肌水分量



※皮膚温度を計測した利用者と同じ対象としているが、1名のみ肌水分量の計測に不備があり、n=15 であった。

キ. ヒアリング調査結果

実証完了後、実証施設へのヒアリング調査を実施した。調査結果の概要は以下の通り。

図表 XI-103 生産性向上の取組状況

カテゴリ	主な意見
職員について	・ テクノロジー導入に対する理解は得られやすかった。導入前には効果の有無について心配があったが、実際に使ってみると効果があると実感できた。 ・ インカムやカメラシステムを用いた職員間の連携について、事後①・②では法人内の就労継続支援B型の事業所の利用者が介護助手として遠隔で利用者の見守りに参画していた。
利用者について	・ 事前調査時と比較し、事後②では1つの実証フィールドの事業所全体の利用者数が14名から19名に増加した。もう1つの実証フィールドでは冬季となり皮膚トラブルが発生したり平均要介護度が0.4程度高くなったりした。入浴した全利用者には保湿剤を使用するオペレーションに変更した。
施設・事業所について	・ 事後②の時期には1つの実証フィールドで実習生の受け入れがあり、職員の業務に多少の負荷がかかっていた。

図表 XI-104 委員会や取組に向けた会議の開催

カテゴリ	主な意見
開催時期・頻度	・ 1つの実証フィールドでは月に1回、生産性向上委員会を開催している。委員会以外でも、相談事項があればその都度議論を行った。 ・ もう1つの実証フィールドでは月に2回の運営会議で本実証の取組について議論を行った。
参加職種・役職	・ いずれの実証フィールドも、介護職員・看護職員のリーダー、管理者が参加。
検討内容	・ テクノロジーの操作方法やテクノロジー活用に係る相談 ・ 本実証の調査への回答方法や回答状況の確認
検討結果の周知	・ 社内で導入している情報共有ツールを通じて議論した内容を周知している。

図表 XI-105 実証目的に対する達成状況

カテゴリ	主な意見
職員の観点	・ インカムやカメラシステムを用いて浴室内外の職員が連携することでチームとしての一体感が生まれ、業務時間に関する効果だけでなく職員の心理的負担の軽減につながっている。

カテゴリ	主な意見
	・ 利用者数が増加したり実習生の受け入れで職員への負荷がかかったりしていたが、テクノロジーを導入していたおかげでケアの質を落とすことなく業務を回すことができた。 ・ 職員間の連携が円滑になることでスキマ時間に記録等を行うことができた点はタイムスタディ調査結果で見ると業務効率向上に資すると感じる。 ・ 更衣・整容・処置全体で見ると事前調査と事後調査で時間に変化がないが、速乾ドライヤーの導入によりドライヤーの使用時間は減少したと感じる。
利用者の観点	・ ウルトラファインバブル入浴機器を使用すると利用者の肌の状態が目視で分かるほど良い。 ・ ウルトラファインバブル入浴機器を使用すれば湯船につかるだけで清潔を保持できるため、入浴を負担に感じる利用者であっても入浴していただきやすい。「入浴嫌い」をしていた利用者の意識が変わった例もあった。 ・ テクノロジーの導入で職員の心理的な余裕が生まれ、利用者とのコミュニケーションの時間が増えた。初めて利用者と散歩に出掛けた例もあった。
施設・事業所の観点	・ テクノロジーの活用により、万が一職員の欠員が出ても入浴ケアを維持しながら業務を回すことができると思えた。 ・ 入浴は職員にとっても利用者にとっても負担となりやすいが、テクノロジーの活用により無理なく入浴ができるため事業所全体のケアの質向上やリスク低減につながると感じている。 ・ 生産性向上の取組を効果的に実施するためには職員の意識やモチベーションの形成が重要と考えており、本実証を通じてテクノロジー活用の実感を体験したことで、今後も限られた人員で質の高いケアを提供するための工夫に「挑戦してみよう」という意識を醸成するきっかけとなった。

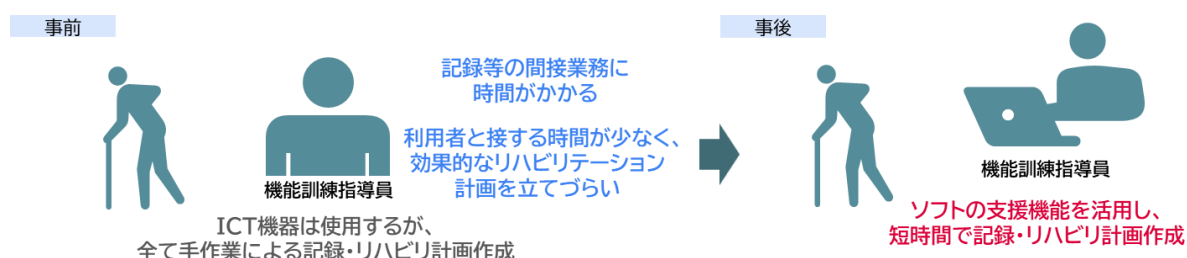
(4) 株式会社 Rehab for JAPAN「通所介護における記録作成及び計画書作成支援」

ア. 実証の概要

① 実証目的

機能訓練計画書作成支援ソフト(計画書作成や機能訓練の立案、加算算定業務の支援を行う)の導入により、利用者アセスメント・機能訓練計画書作成、機能訓練記録・文書作成、LIFE 提出関連の間接業務時間を削減することを目的とする。また、利用者面談・連絡調整、利用者とのコミュニケーションの時間の増加やソフトが出力する利用者の身体状況の変化のレポートの活用により質の高いリハビリテーションの提供を行い、利用者の ADL の維持を図る。

図表 XI-106 実証イメージ



② 実証フィールドの概要

本実証では以下の実証フィールドにて効果測定を実施した。

図表 XI-107 実証フィールドの概要

実証フィールド ^a	法人名	施設名	サービス種別	導入機器
1	エルケア株式会社	エルケアデイサービス 若江岩田	通所介護	機能訓練計画書作成支援ソフト(Rehab Cloud リハプラン)
2	エルケア株式会社	エルケアデイサービス 中崎	通所介護	

③ 実証期間

調査期間は以下の通りである。

図表 XI-108 調査期間

調査	時期	補足
事前調査	令和 7 年 9 月 29 日～10 月 4 日(6 日間)	各実証フィールドの管理者・生活相談員・機能訓練指導員の勤務について、左記のうち 5 日間を調査対象として実施した。
事後調査	令和 7 年 12 月 8 日～13 日(6 日間)	

調査	時期	補足
ヒアリング調査	令和 8 年2月 13 日・25 日	左記のうち、実証フィールド別に 1 回ずつ実施した。

④ 各調査の概要

本調査では、実証の事前と事後で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」を実施し、実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。以下に各調査の概要を記載する。

図表 XI-109 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
タイムスタディ調査 (媒体:アプリ)	各実証フィールドの管理者・生活相談員・機能訓練指導員	- 回答方法:自記式(1 分刻みで自身が実施した作業項目を記入) - 調査スケジュール:事前(取組前)1回、事後(取組後)1回の計2回、それぞれ6日間分実施。 - 調査実施の時間帯:調査対象期間中の全勤務時間
職員向けアンケート調査 (在宅向け)	各実証フィールドの管理者・生活相談員・機能訓練指導員	- 回答方法:自記式(紙面回答) - 調査スケジュール:事前と事後2回、実証期間中それぞれについて、1名につき1回のみ回答
利用者向けアンケート調査 (全テーマ共通)	調査期間中に個別機能訓練計画書の作成を行った利用者 (職員による代理回答)	- 回答方法:自記式(紙面回答) - 調査スケジュール:事前と事後2回、実証期間中それぞれについて、1名につき1回のみ回答
ヒアリング調査 (全テーマ共通)	各実証フィールドの管理者・生活相談員・機能訓練指導員	- 調査方法:WEB 会議による聞き取り - 調査スケジュール:実証終了後に1回実施

⑤ タイムスタディ調査項目

本調査のタイムスタディ調査項目は以下のとおり。なお、事前と事後調査の調査項目は共通とした。

図表 XI-110 タイムスタディ調査項目

NO	分類	Sub-NO	項目
A	機能訓練業務	1	利用者アセスメント・機能訓練計画書作成(※1)
		2	機能訓練・リハビリテーション指導
		3	機能訓練記録・文書作成(※2)
		4	利用者面談・連絡調整(※3)
		5	LIFE 提出関連(※4)
	機能訓練業務(対象利用者以外)	6	対象利用者以外の機能訓練業務
B	機能訓練業務以外の直接介護	7	利用者とのコミュニケーション(※5)
		8	その他の直接介護(※6)
C	機能訓練業務以外の間接業務	9	書類作成業務(※7)
		10	その他の間接業務
D	休憩	11	休憩・待機
E	その他	12	その他

※1 計画書の見直しを含む

※2 機能訓練記録・生活機能チェックシートの作成など

※3 機能訓練計画書や最終評価の利用者に対する説明など

※4 機能訓練の提供に関わる LIFE 関連加算算定を目的としたデータ提出関係業務(個別機能訓練加算Ⅱなど)

※5 利用者面談を除く(日常的な利用者との関わりや相談業務など)

※6 機能訓練・リハビリテーション指導、利用者とのコミュニケーションを除く

※7 個別機能訓練加算の算定に直接的に関わる業務を除く(勤務表・送迎表・業務日誌等の書類作成など)

イ. 利用者・職員概要

① 利用者概要

本調査において利用者向けアンケート調査に回答があった利用者は26名であった。

図表 XI-111 利用者概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	5	21	0	26
	割合	19%	81%	0%	100%

図表 XI-112 利用者概要:年齢

		70歳未満	70歳～75歳未満	75歳～80歳未満	80歳～85歳未満	85歳～90歳未満	90歳～95歳未満	95歳以上	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	3	5	8	6	4	0	26
	割合	0%	0%	12%	19%	31%	23%	15%	0%	100%

図表 XI-113 利用者概要:要介護度

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支援	その他(区分申請中等)	無回答	合計
総数	人数(人)	8	9	7	1	1	0	0	0	26
	割合	31%	35%	27%	4%	4%	0%	0%	0%	100%

図表 XI-114 利用者概要:障害高齢者の日常生活自立度

		J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明・未実施	無回答	合計
総数	人数(人)	2	16	7	1	0	0	0	0	0	0	26
	割合	8%	62%	27%	4%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

② 職員概要

本調査において職員向けアンケート調査に回答があった職員は6名であった。

図表 XI-115 職員概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	3	3	0	6
	割合	50%	50%	0%	100%

図表 XI-116 職員概要:年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	0	3	0	3	0	0	6
	割合	0%	0%	0%	50%	0%	50%	0%	0%	100%

図表 XI-117 職員概要:職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓練指導員を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	4	0	1	1	0	0	0	0	6
	割合	67%	0%	17%	17%	0%	0%	0%	0%	100%

図表 XI-118 職員概要:役職

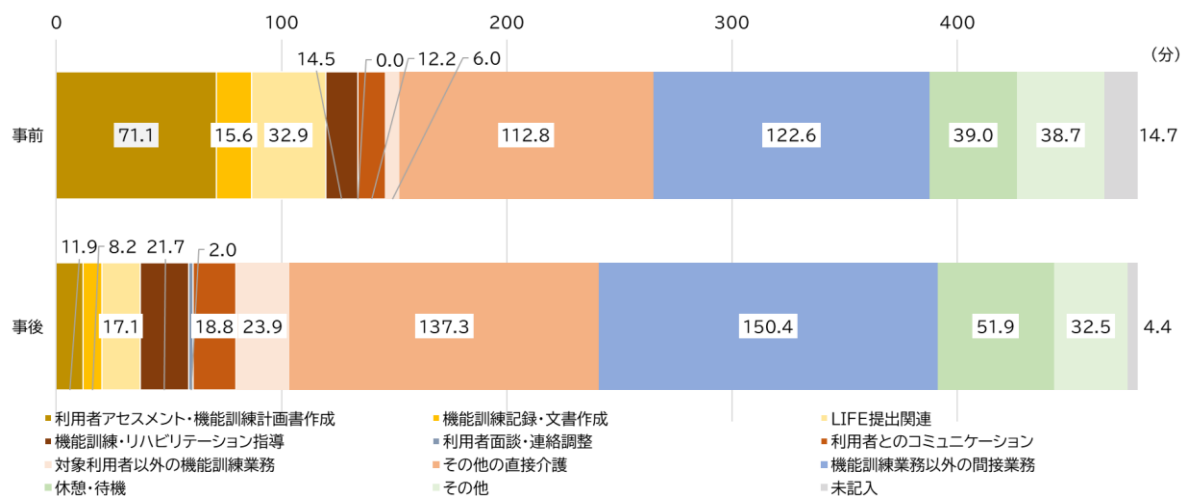
		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	2	4	0	0	6
	割合	0%	33%	67%	0%	0%	100%

ウ. タイムスタディ調査結果

「利用者アセスメント・機能訓練計画書作成」「機能訓練記録・文書作成」「LIFE 提出関連」の時間の合計は事前と比較し、事後では 91.4 分減少した。「利用者面談・連絡調整」「利用者とのコミュニケーション」の時間の合計は事前と比較し、事後で 9.0 分増加した。

図表 XI-119 タイムスタディ調査の結果(職員1人1日(480 分)あたり)

		機能訓練業務						機能訓練以外の直接介護		機能訓練業務以外の間接業務		休憩・待機	その他	未記入	合計(分)
		利用者アセスメント・機能訓練計画書作成	機能訓練・リハビリテーション指導	機能訓練記録・文書作成	利用者面談・連絡調整	LIFE 提出関連	対象利用者以外の機能訓練業務	利用者とのコミュニケーション	その他の直接介護	書類作成業務	その他の間接業務				
事前	時間(分)	71.1	14.5	15.6	0.0	32.9	6.0	12.2	112.8	108.5	14.0	39.0	38.7	14.7	480.0
	割合	15%	3%	3%	0%	7%	1%	3%	24%	23%	3%	8%	8%	3%	100%
事後	時間(分)	11.9	21.7	8.2	2.0	17.1	23.9	18.8	137.3	24.5	125.9	51.9	32.5	4.4	480.0
	割合	2%	5%	2%	0%	4%	5%	4%	29%	5%	26%	11%	7%	1%	100%

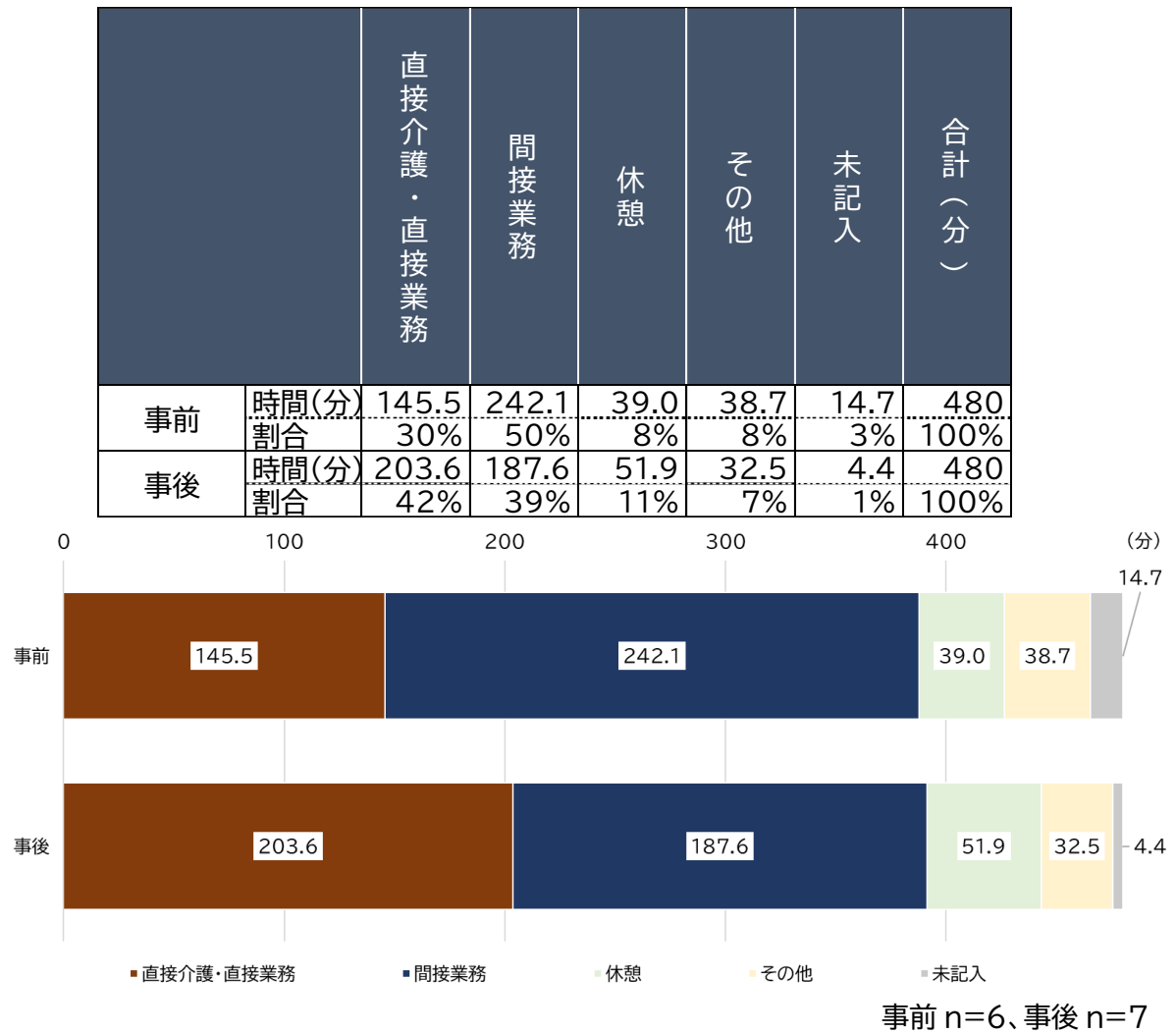


事前 n=6、事後 n=7

※6 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

図表 XI-120 (参考:共通区分)タイムスタディ調査の結果(職員1人1日(480 分)あたり)



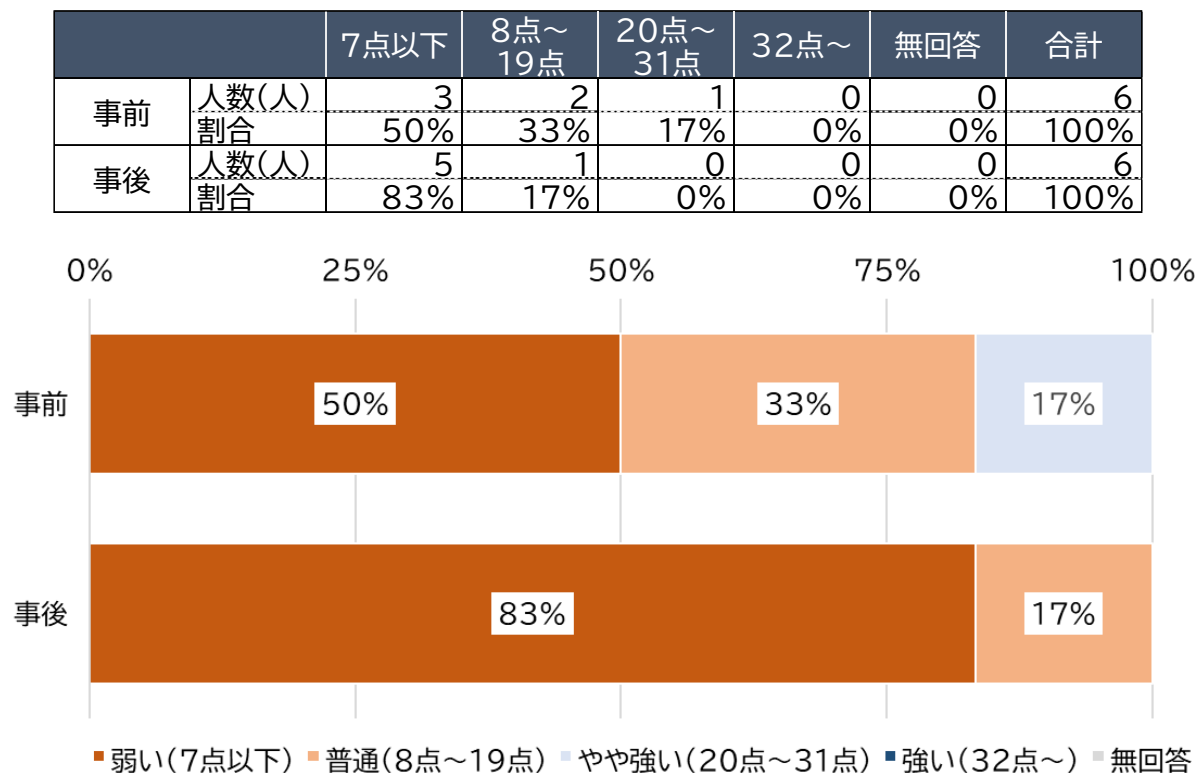
※6 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。
※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

工. 職員向けアンケート調査結果

① 心理的負担評価

職員の心理的ストレス反応測定尺度合計点について事前と事後の結果を比較すると、「弱い(7点以下)」と回答した職員の割合が、事前では 50%、事後では 83%となった。

図表 XI-121 職員調査:心理的負担評価



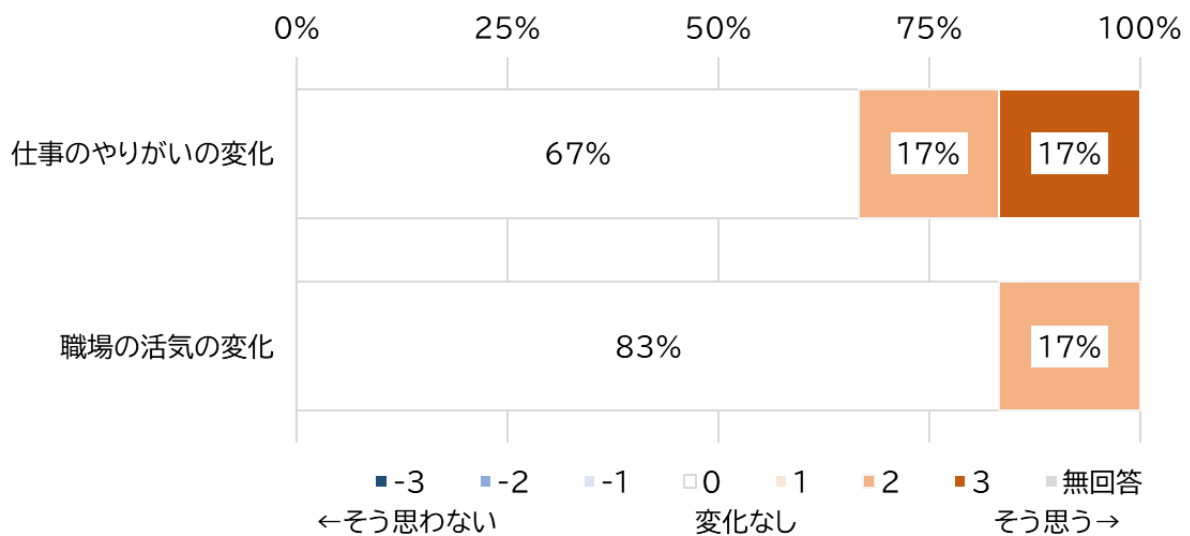
※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各 18 項目のうち 1 項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が 0、1、2、3 以外の場合は無回答処理をした。

② 機器導入によるモチベーションの変化

機器導入によるモチベーションの変化は以下の通り。

図表 XI-122 職員調査:機器導入によるモチベーションの変化

			←減少したと感じる						増加したと感じる→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
仕事のやりがいの変化	事後	人数(人)	0	0	0	4	0	1	1	0	6	
		割合	0%	0%	0%	67%	0%	17%	17%	0%	100%	
職場の活気の変化	事後	人数(人)	0	0	0	5	0	1	0	0	6	
		割合	0%	0%	0%	83%	0%	17%	0%	0%	100%	



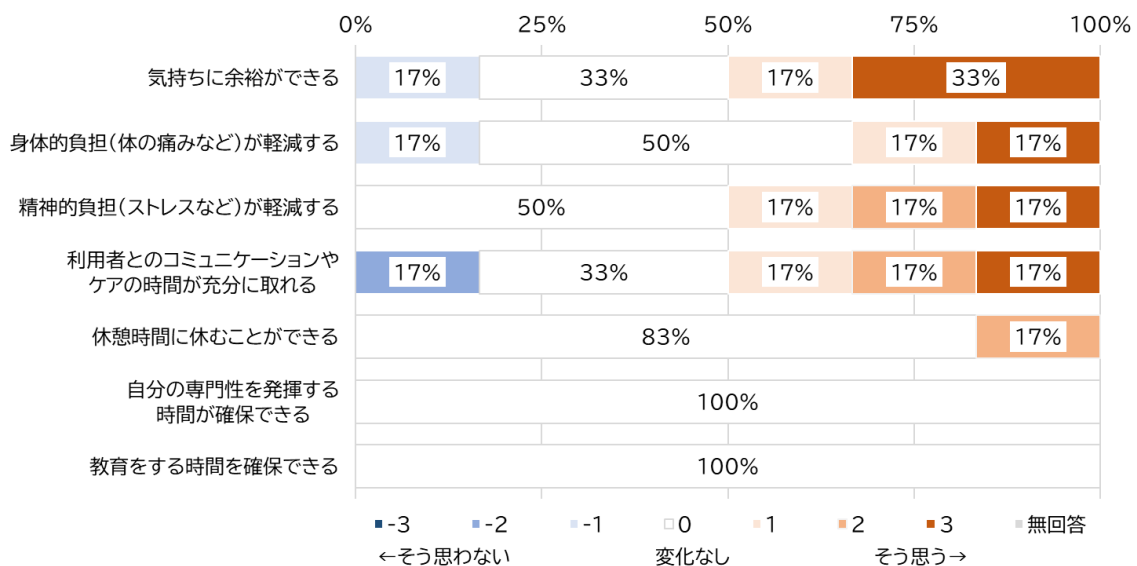
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

③ 機器導入による職員や施設業務の変化

機器導入による職員や施設業務の変化は以下の通り。

図表 XI-123 職員調査:機器導入による職員や施設業務の変化

			←そう思わない		変化なし			そう思う→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
気持ちに余裕ができる	事後	人数(人)	0	0	1	2	1	0	2	0	6
		割合	0%	0%	17%	33%	17%	0%	33%	0%	100%
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後	人数(人)	0	0	1	3	1	0	1	0	6
		割合	0%	0%	17%	50%	17%	0%	17%	0%	100%
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後	人数(人)	0	0	0	3	1	1	1	0	6
		割合	0%	0%	0%	50%	17%	17%	17%	0%	100%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	事後	人数(人)	0	1	0	2	1	1	1	0	6
		割合	0%	17%	0%	33%	17%	17%	17%	0%	100%
休憩時間に休むことができる	事後	人数(人)	0	0	0	5	0	1	0	0	6
		割合	0%	0%	0%	83%	0%	17%	0%	0%	100%
機器の初期設定・微調整が容易である	事後	人数(人)	0	0	2	4	0	0	0	0	6
		割合	0%	0%	33%	67%	0%	0%	0%	0%	100%
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後	人数(人)	0	0	0	6	0	0	0	0	6
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後	人数(人)	0	0	0	6	0	0	0	0	6
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%



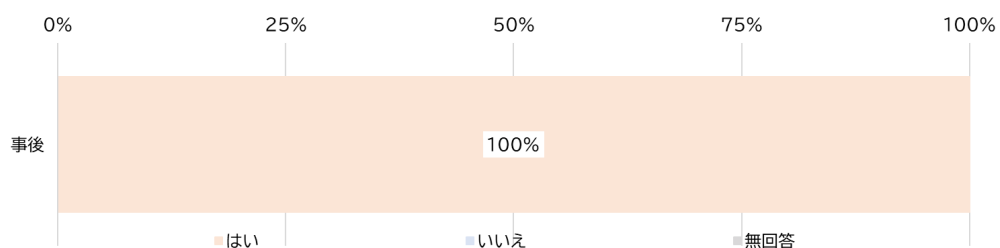
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

④ 導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向

導入機器の継続利用意向については「はい」が 100%であった。

図表 XI-124 職員調査:導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向

		はい	いいえ	無回答	合計
事後	人数(人)	6	0	0	6
	割合	100%	0%	0%	100%

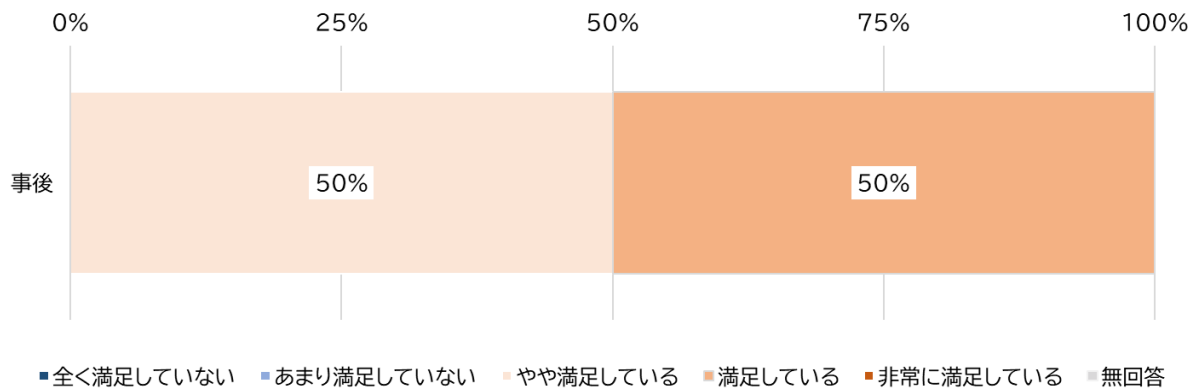


⑤ 満足度評価

調査で導入した機器を用いたケアに対する満足度について、事後では「やや満足している」と「満足している」と回答した職員の割合がそれぞれ 50%ずつであった。

図表 XI-125 職員調査：満足度評価

			全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	満足している	非常に満足している	無回答	合計
全体的な満足度評価	事後	人数(人)	0	0	3	3	0	0	6
		割合	0%	0%	50%	50%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、1(全く満足していない)～5(非常に満足している)の 5 段階で評価した。

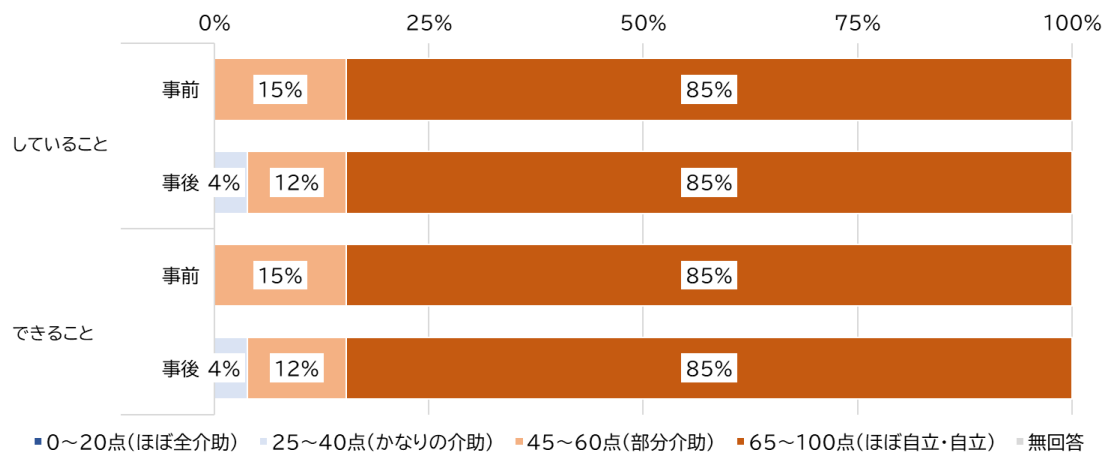
オ. 利用者向けアンケート調査結果

① ADL の変化

ADL の変化は以下の通り。

図表 XI-126 利用者調査:ADL の変化

			0点～ 20点	25点～ 40点	45点～ 60点	65点～ 100点	無回答	合計
していること	事前	人数(人)	0	0	4	22	0	26
		割合	0%	0%	15%	85%	0%	100%
	事後	人数(人)	0	1	3	22	0	26
		割合	0%	4%	12%	85%	0%	100%
できること	事前	人数(人)	0	0	4	22	0	26
		割合	0%	0%	15%	85%	0%	100%
	事後	人数(人)	0	1	3	22	0	26
		割合	0%	4%	12%	85%	0%	100%

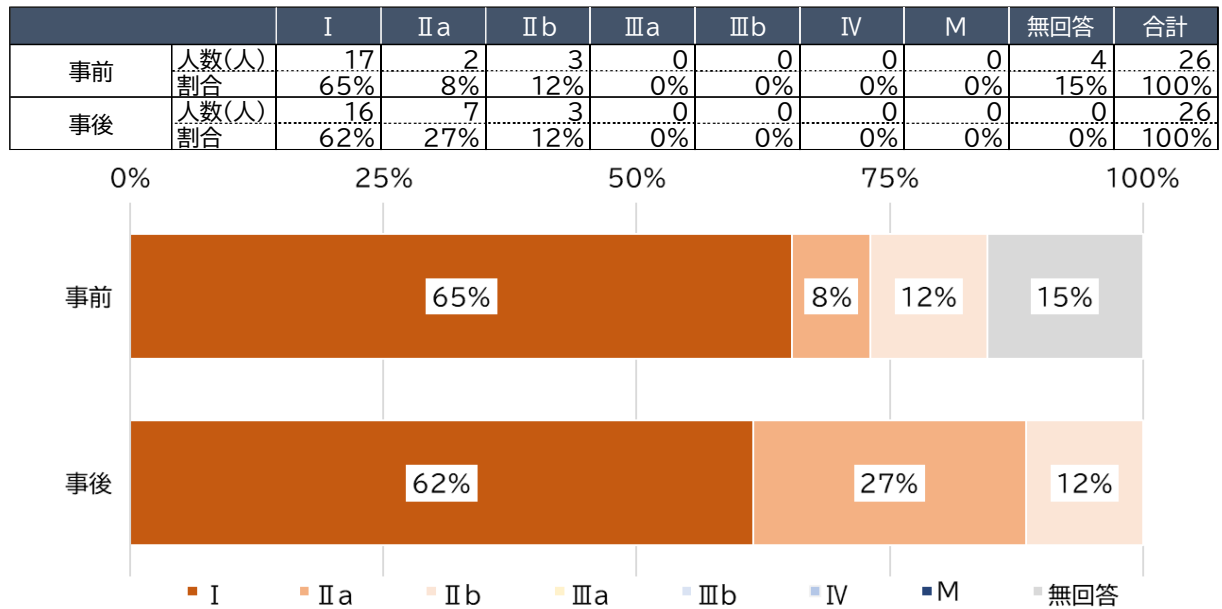


※事前調査または事後調査で、各10項目のうち1項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

② 認知症高齢者の日常生活自立度の変化

認知症高齢者の日常生活自立度は以下の通り。

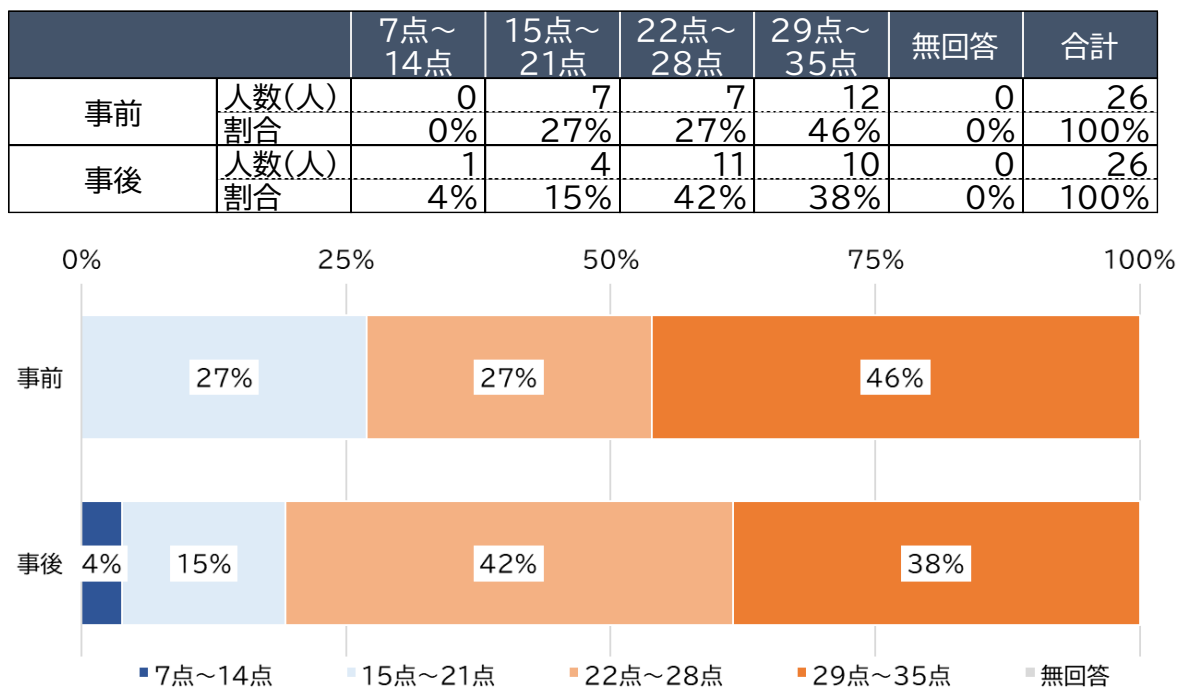
図表 XI-127 利用者調査：認知症高齢者の日常生活自立度の変化



③ 生活・認知機能尺度の変化

生活・認知機能尺度の変化は以下の通り。

図表 XI-128 利用者調査：生活・認知機能尺度の変化

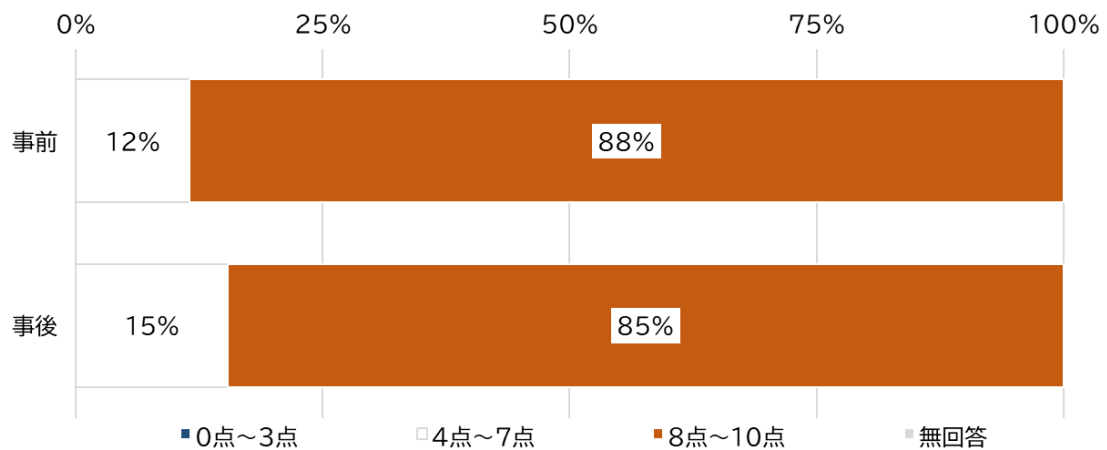


④ Vitality Index の変化

Vitality Index の変化は以下の通り。

図表 XI-129 利用者調査: Vitality Index の変化

		0点～ 3点	4点～ 7点	8点～ 10点	無回答	合計
事前	人数(人)	0	3	23	0	26
	割合	0%	12%	88%	0%	100%
事後	人数(人)	0	4	22	0	26
	割合	0%	15%	85%	0%	100%



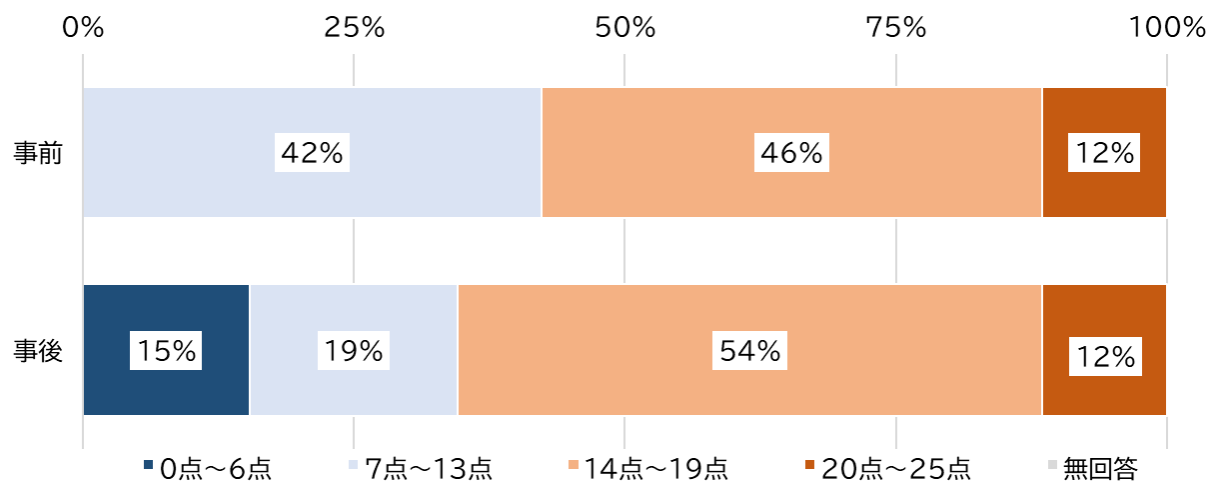
※事前調査または事後調査で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、以外の場合は無回答処理をした。

※ Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の 5 項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5 項目それぞれに0～2 点で回答し、それぞれ 2 点が最もよい状態を示す。10 点満点。

⑤ QOL(WHO-5 精神的健康状態表)の変化
QOL の変化は以下の通り。

図表 XI-130 利用者調査:QOL の変化

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
事前	人数(人)	0	11	12	3	0	26
	割合	0%	42%	46%	12%	0%	100%
事後	人数(人)	4	5	14	3	0	26
	割合	15%	19%	54%	12%	0%	100%



※事前または事後で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

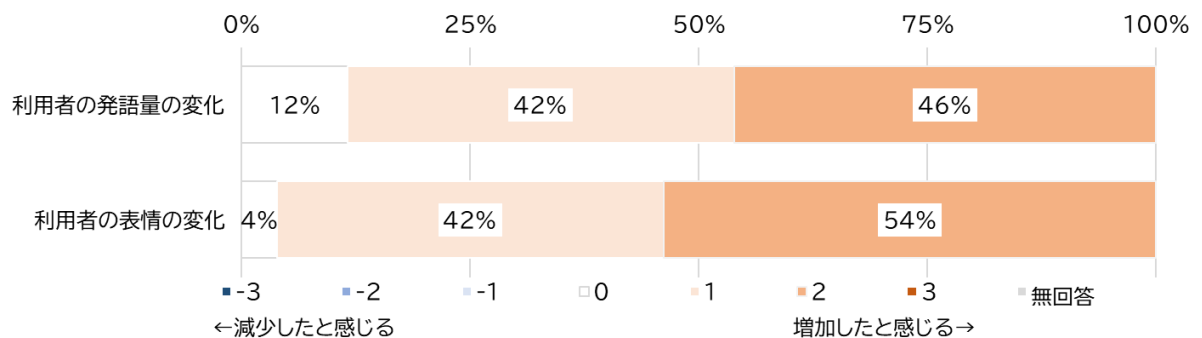
※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近2週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

⑥ 機器導入によるコミュニケーションの変化

機器導入によるコミュニケーションの変化は以下の通り。

図表 XI-131 利用者調査:機器導入によるコミュニケーションの変化

			←減少したと感じる							増加したと感じる→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3				
利用者の発語量の変化	事後	人数(人)	0	0	0	3	11	12	0	0	26		
		割合	0%	0%	0%	12%	42%	46%	0%	0%	100%		
利用者の表情の変化 (笑顔になる頻度等)	事後	人数(人)	0	0	0	1	11	14	0	0	26		
		割合	0%	0%	0%	4%	42%	54%	0%	0%	100%		



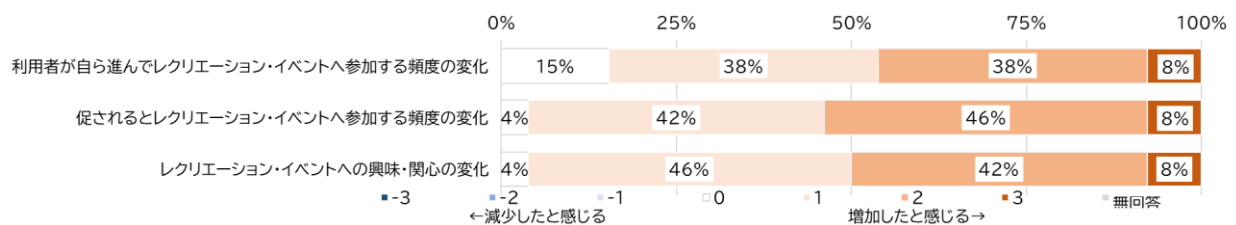
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

⑦ 機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化は以下の通り。

図表 XI-132 利用者調査:機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

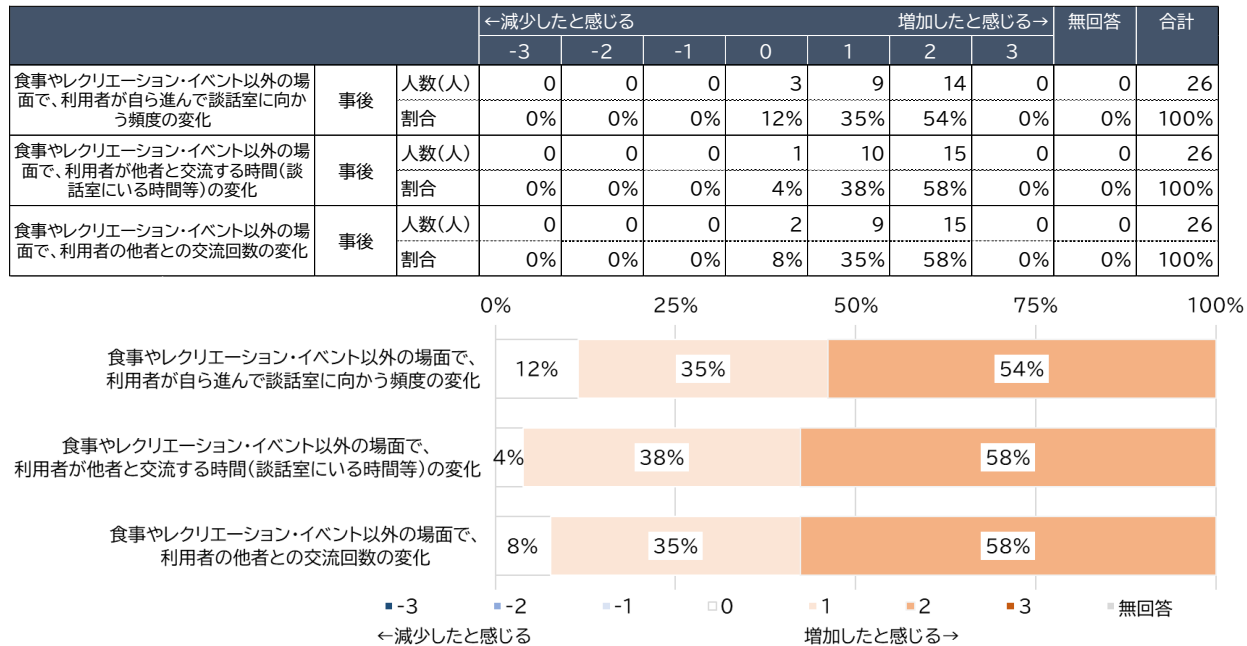
			←減少したと感じる			増加したと感じる→			無回答	合計	
			-3	-2	-1	0	1	2			3
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度	事後	人数(人)	0	0	0	4	10	10	2	0	26
		割合	0%	0%	0%	15%	38%	38%	8%	0%	100%
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後	人数(人)	0	0	0	1	11	12	2	0	26
		割合	0%	0%	0%	4%	42%	46%	8%	0%	100%
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	事後	人数(人)	0	0	0	1	12	11	2	0	26
		割合	0%	0%	0%	4%	46%	42%	8%	0%	100%



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

⑧ 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化
 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化は以下の通り。

図表 XI-133 利用者調査：機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化



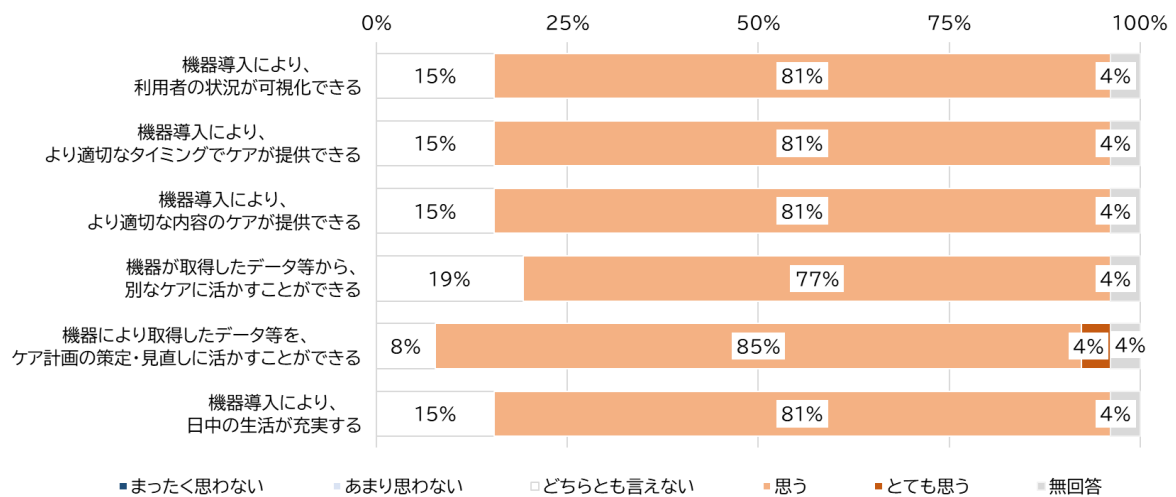
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

⑨ 機器導入によるケア内容の変更

機器導入によるケア内容の変更の変化は以下の通り。

図表 XI-134 利用者調査:機器導入によるケア内容の変更

			まったく 思わない	あまり 思わない	どちらと も言えな い	思う	とても 思う	無回答	合計
機器導入により、利用者の状況が可視化できる	事後	人数(人)	0	0	4	21	0	1	26
		割合	0%	0%	15%	81%	0%	4%	100%
機器導入により、より適切なタイミングでケアが提供できる	事後	人数(人)	0	0	4	21	0	1	26
		割合	0%	0%	15%	81%	0%	4%	100%
機器導入により、より適切な内容のケアが提供できる	事後	人数(人)	0	0	4	21	0	1	26
		割合	0%	0%	15%	81%	0%	4%	100%
機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	事後	人数(人)	0	0	5	20	0	1	26
		割合	0%	0%	19%	77%	0%	4%	100%
機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	事後	人数(人)	0	0	2	22	1	1	26
		割合	0%	0%	8%	85%	4%	4%	100%
機器導入により、日中の生活が充実する	事後	人数(人)	0	0	4	21	0	1	26
		割合	0%	0%	15%	81%	0%	4%	100%



※質問項目に対し、1(全く思わない)～5(とても思う)の 5 段階で評価した(回答は職員が実施)。

カ. ヒアリング調査結果

実証完了後、実証施設へのヒアリング調査を実施した。調査結果の概要は以下の通り。

図表 XI-135 生産性向上の取組状況

カテゴリ	主な意見
職員について	・ ソフトの導入時は使用方法に不安があったが、バンダーに随時問い合わせることで慣れていった。 ・ ソフトの使用に慣れるまではフロアを離れてオフィスに籠りきりになり、他のスタッフに負担がかかることがあったため、慣れるまではある程度の残業で対応していた。ソフトの使用に慣れれば残業は無くなった。
施設・事業所について	・ 実証フィールドのうち1カ所は法人本部の業務を担うことが多く、事前調査時に法人本部関連の書類作成業務が増えていた。

図表 XI-136 委員会や取組に向けた会議の開催

カテゴリ	主な意見
開催時期・頻度	・ 事後調査の前に、各事業所1回ずつ、バンダーからソフトの使用方法について確認するレクチャーを実施
参加職種・役職	・ 本実証の対象職員

図表 XI-137 実証目的に対する達成状況

カテゴリ	主な意見
職員の観点	・ Excel を用いた手入力によって記録や個別機能訓練計画書を作成すると、ソフトを活用する場合と比べてかなりの時間がかかる上に入力ミスリスクが高かった。ソフトを活用することで作業効率が高くなる。 ・ ソフトを使用することで、利用者に関わる時間を十分に確保しながら、短時間に集中して記録等の業務を完了できるようになった。事務作業がかなり減った分、空いた時間で利用者から話を聞く、相談に乗るといったコミュニケーションを取る時間が増えた。 ・ ソフトの活用が無い場合と比較し、残業時間はゼロになった。
利用者の観点	・ ソフト内のアセスメント項目が豊富で、利用者との会話のきっかけや情報を引き出す観点として有用だった。ソフトを用いて定期的にアセスメント内容を記録する際、前回の記録が表示される仕様のため利用者の状態変化に気付きやすい。利用者の状態が低下していることに気付いて職員に周知したことでヒヤリハットを防ぐこともできた。 ・ ソフトが出力する利用者の身体状況の変化のレポートを活用することで、グ

カテゴリ	主な意見
	ラフ等で可視化しながら分かりやすい説明を利用者・家族にできた。また、利用者が自分の状態を知ることによって身体機能に対する意識が向上した。
施設・事業所の観点	・ ソフトの使用により事業所内のバタバタした雰囲気が無くなり、事故防止につながると感じた。ソフトを使用しない場合は職員が 1 名でも抜けるとかなりの負担を感じたが、ソフト導入後はある程度のゆとりがある。

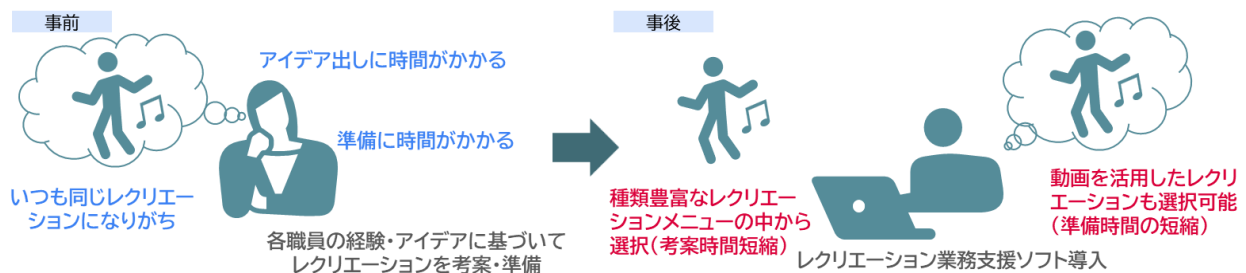
(5) TOPPAN 株式会社「通所介護におけるレクリエーション業務の生産性向上」

ア. 実証の概要

① 実証目的

レクリエーション業務支援ソフト(個々の利用者に合わせたレクリエーションの立案、スケジュール管理やレポート作成等の業務支援を行う)の導入により、レクリエーションに関する間接業務時間を削減し、職員の心理的負担を軽減することを目的とする。また、利用者に対しても、飽きずに楽しく、効果的なレクリエーションを提供することを図る。

図表 XI-138 実証イメージ



② 実証フィールドの概要

本実証では以下の実証フィールドにて効果測定を実施した。

図表 XI-139 実証フィールドの概要

実証フィールド	法人名	施設名	サービス種別	導入機器
1	社会福祉法人 慶生会	慶生会ゆったり デイサービス野崎	通所介護	レクリエーション業務支援ソフト (WAN-かいごアクティビティ)

③ 実証期間

調査期間は以下の通りである。

図表 XI-140 調査期間

調査	時期
事前調査	令和 7 年 9 月 22 日～26 日(5 日間)
事後調査①	令和 7 年 10 月 20 日～24 日(5 日間)
事後調査②	令和 8 年 1 月 5 日～9 日(5 日間)
ヒアリング調査	令和 8 年 2 月 17 日

④ 各調査の概要

本調査では、実証の事前と事後(2回)で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」を実施し、独自調査として「レクリエーション業務に関する評価」、「レクリエーションへの利用者の参加状況調査」を実施した。また、実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。以下に各調査の概要を記載する。

図表 XI-141 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
タイムスタディ調査 (媒体:紙面)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	・ 回答方法:自記式(1 分刻みで自身が実施した作業項目を記入) ・ 調査スケジュール:事前(取組前)1 回、事後(取組後)2 回の計3回、それぞれ5日間分実施。 ・ 調査実施の時間帯:調査対象期間中の全勤務時間
職員向けアンケート調査 (在宅向け)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	・ 回答方法:自記式(紙面回答) ・ 調査スケジュール:事前と事後2回、実証期間中それぞれについて、1名につき1回のみ回答
利用者向けアンケート調査 (全テーマ共通)	新たな取組によるケアを受けた利用者 (職員による代理回答)	・ 回答方法:自記式(紙面回答) ・ 調査スケジュール:事前と事後2回、実証期間中それぞれについて、1名につき1回のみ回答
レクリエーション業務に関する評価 (独自調査)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	・ 回答方法:自記式(紙面回答、職員向けアンケート調査への追加項目として実施) ・ 調査スケジュール:事前と事後2回、実証期間中それぞれについて、1名につき1回のみ回答
対象利用者のレクリエーション実施時の様子(独自調査)	新たな取組によるケアを受けた利用者 (職員による代理回答)	・ 回答方法:自記式(紙面回答) ・ 調査スケジュール:事前と事後2回、実証期間中それぞれについて、1名につき1回のみ回答
レクリエーションへの利用者の参加状況調査 (独自調査)	調査期間中に実証フィールドのサービスを利用した利用者	・ 回答方法:自記式(紙面回答) ・ 調査スケジュール:事前と事後2回、実証期間中それぞれについて、実施したレクリエーション 1 回につき 1 回、利用者の参加状況を回答

調査名	調査対象者	調査概要
ヒアリング調査 (全テーマ共通)	施設管理者、部門管理者 介護職員	- 調査方法:WEB 会議による聞き取り - 調査スケジュール:実証終了後に1回実施

⑤ タイムスタディ調査項目

本調査のタイムスタディ調査項目は以下のとおり。なお、事前と事後調査の調査項目は共通とした。

図表 XI-142 タイムスタディ調査項目

NO	分類	Sub-NO	項目
A	直接介護※1	1	直接介護(※1)
		2	レクリエーションの実施
		3	利用者とのコミュニケーション
		4	その他の直接介護
B	間接業務	5	レクリエーション準備_レクリエーション内容の検討(当日分)
		6	レクリエーション準備_レクリエーション内容の検討(翌日以降分)
		7	レクリエーション準備_備品購入(当日分)
		8	レクリエーション準備_備品購入(翌日以降)
		9	レクリエーション準備_備品などの設置
		10	レクリエーション片付け
		11	レクリエーション実施の記録
		12	記録・文書作成・連絡調整等(※2)
		13	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し
		14	送迎対応
		15	その他の間接業務
C	休憩	16	休憩・待機
D	その他	17	その他
E	余裕時間	18	余裕時間(突発でのケアや対応ができる状態)

※1 見守りによる介助を含む。

※2 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、職員間の連絡調整、文書検索等

イ. 利用者・職員概要

① 利用者概要

本調査において利用者向けアンケート調査に回答があった利用者は11名であった。

図表 XI-143 利用者概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	4	7	0	11
	割合	36%	64%	0%	100%

図表 XI-144 利用者概要:年齢

		70歳未満	70歳～75歳未満	75歳～80歳未満	80歳～85歳未満	85歳～90歳未満	90歳～95歳未満	95歳以上	無回答	合計
総数	人数(人)	1	4	2	3	1	0	0	0	11
	割合	9%	36%	18%	27%	9%	0%	0%	0%	100%

図表 XI-145 利用者概要:要介護度

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支援	その他 (区分申請中等)	無回答	合計
総数	人数(人)	1	4	2	3	1	0	0	0	11
	割合	9%	36%	18%	27%	9%	0%	0%	0%	100%

図表 XI-146 利用者概要:障害高齢者の日常生活自立度

		J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明・未実施	無回答	合計
総数	人数(人)	0	2	4	4	1	0	0	0	0	0	11
	割合	0%	18%	36%	36%	9%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

② 職員概要

本調査において職員向けアンケート調査に回答があった職員は5名であった。

図表 XI-147 職員概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	0	5	0	5
	割合	0%	100%	0%	100%

図表 XI-148 職員概要:年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	0	0	5	0	0	0	5
	割合	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	100%

図表 XI-149 職員概要:職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士 以外)	看護職員	リハビリ職 (機能訓練指 導員を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	4	1	0	0	0	0	0	0	5
	割合	80%	20%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

図表 XI-150 職員概要:役職

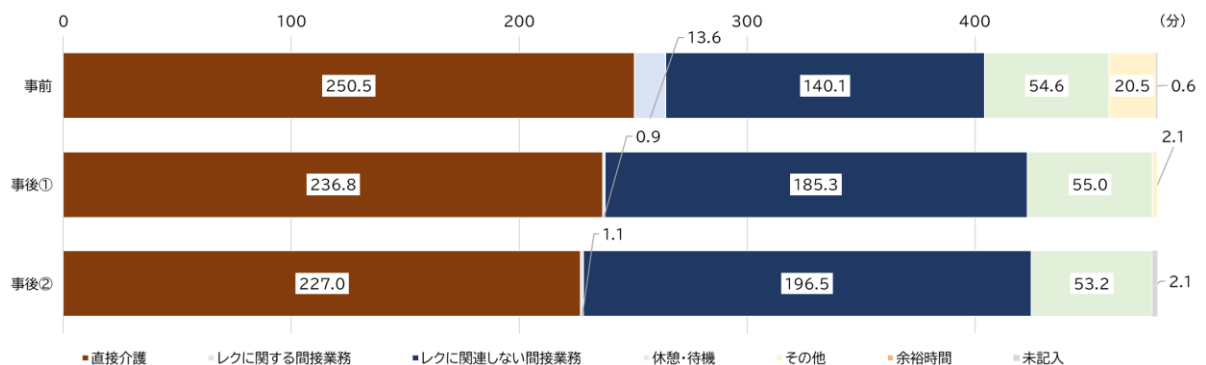
		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	5	0	0	5
	割合	0%	0%	100%	0%	0%	100%

ウ. タイムスタディ調査結果

「レクに関する間接業務」の時間は、事前と比較し、事後①で 12.7 分、事後②で 12.5 分減少した。「その他の間接業務」の時間は、事前と比較し、事後①で 45.2 分、事後②で 56.4 分増加した。

図表 XI-151 タイムスタディ調査の結果(職員1人1日(480 分)あたり)

		直接介護				間接業務														休憩・待機	その他	余裕時間	未記入	合計（分）
		直接介護	レクリエーションの実施	利用者とのコミュニケーション	その他の直接介護	レクリエーション内容の検討（当日分）	レクリエーション内容の検討（翌日以降）	レクリエーション準備・備品購入（当日分）	レクリエーション準備・備品購入（翌日以降）	レクリエーション準備・備品などの設置	レクリエーション片付け	レクリエーション実施の記録	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し	送迎対応	その他の間接業務								
事前	時間(分)	109.8	68.6	70.8	1.3	1.2	3.8	0.0	0.0	5.9	2.2	0.5	19.4	0.0	61.9	58.8	54.6	20.5	0.0	0.6	480			
	割合	23%	14%	15%	0%	0%	1%	0%	0%	1%	0%	0%	4%	0%	13%	12%	11%	4%	0%	0%	100%			
事後①	時間(分)	180.3	38.9	10.1	7.4	0.7	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	43.0	4.8	51.7	85.8	55.0	2.1	0.0	0.0	480			
	割合	38%	8%	2%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	9%	1%	11%	18%	11%	0%	0%	0%	100%			
事後②	時間(分)	159.3	49.6	4.2	13.9	0.7	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	39.2	17.6	55.9	83.8	53.2	0.0	0.0	2.1	480			
	割合	33%	10%	1%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	8%	4%	12%	17%	11%	0%	0%	0%	100%			



事前 n=6、事後①n=6、事後②n=6

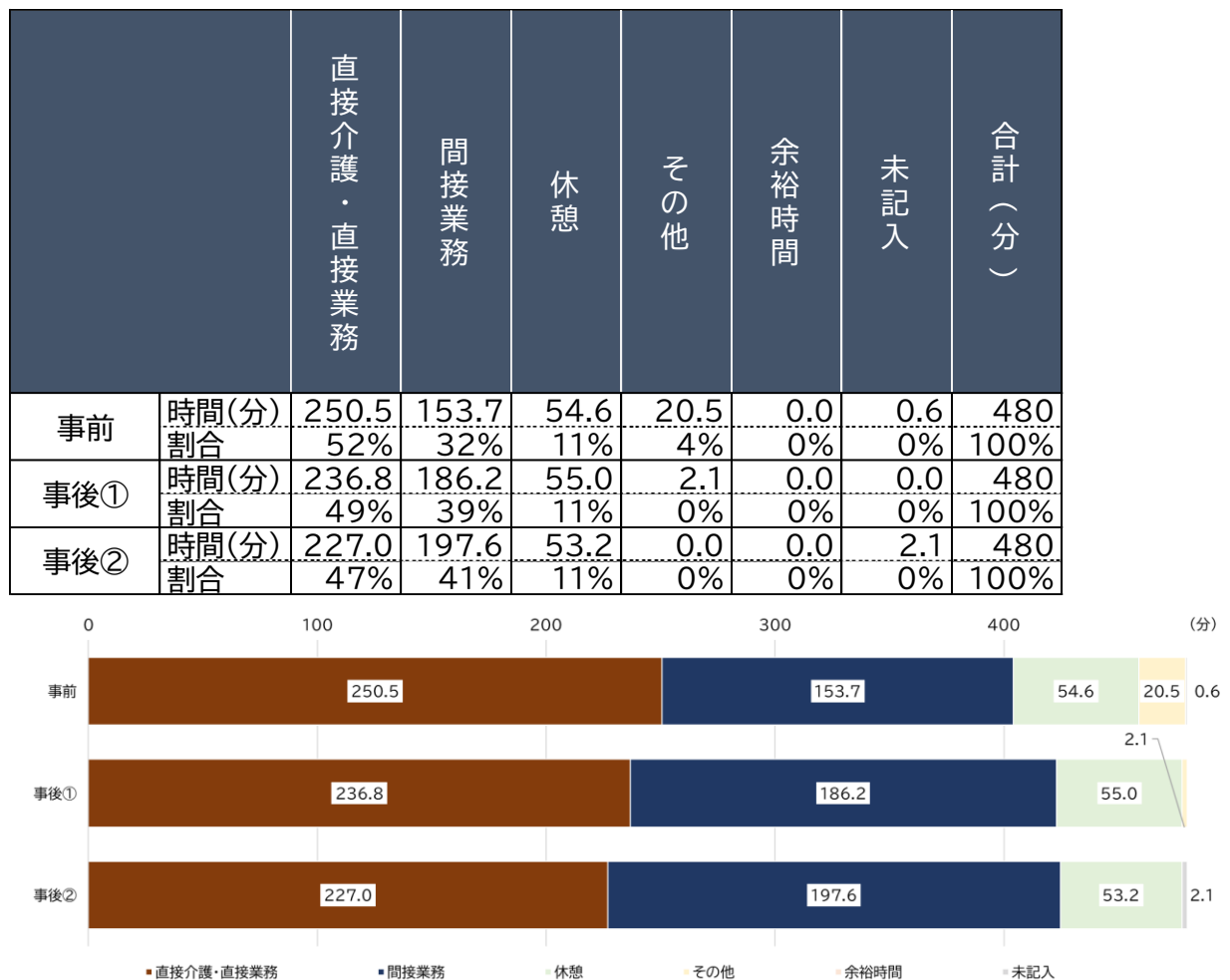
※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

※「レクリエーション準備_レクリエーション内容の検討(当日分)」「レクリエーション準備_レクリエーション内容の検討(翌日以降分)」「レクリエーション準備_備品購入(当日分)」「レクリエーション準備_備品購入(翌日以降)」「レクリエーション準備_備品などの設置」「レクリエーション片付け」「レクリエーション実施の記録」の合計を「レクに関する間接業務」として集計を実施。

※「記録・文書作成・連絡調整等」「利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し」「送迎対応」「その他の間接業務」の合計を「その他の間接業務」として集計を実施。

図表 XI-152 (参考:共通区分)タイムスタディ調査の結果(職員1人1日(480 分)あたり)



事前 n=6、事後①n=6、事後②n=6

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

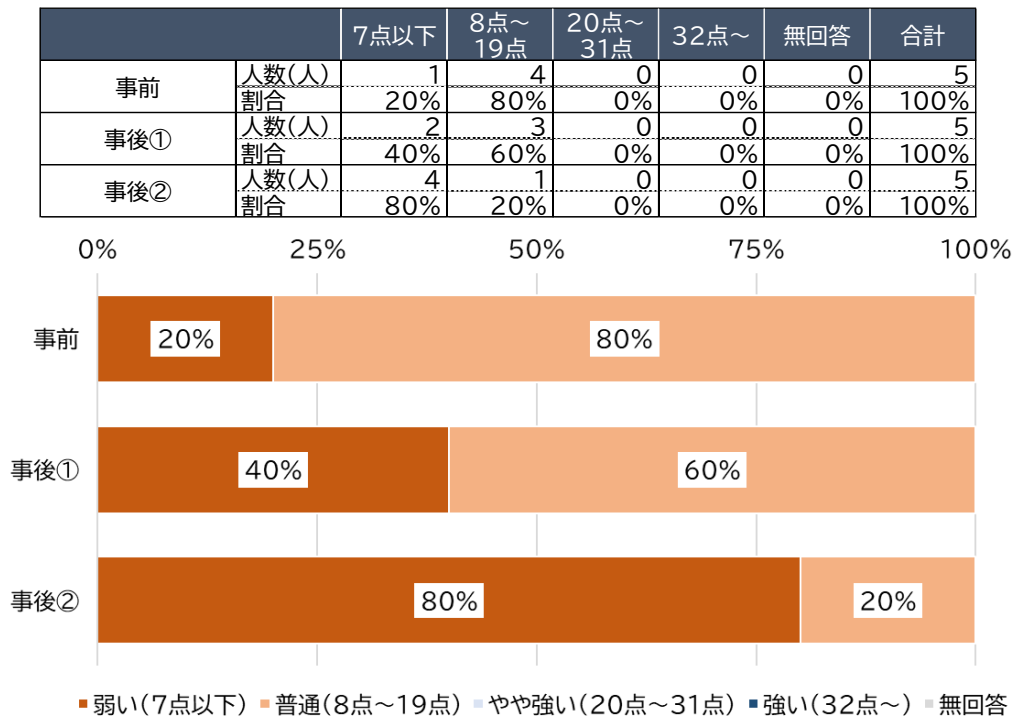
※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

工. 職員向けアンケート調査結果

① 心理的負担評価

職員の心理的ストレス反応測定尺度合計点について事前と事後 2 回の結果を比較すると、「弱い（7点以下）」と回答した職員の割合が、事前では 20%、事後①では 40%、事後②では 80%となった。

図表 XI-153 職員調査：心理的負担評価



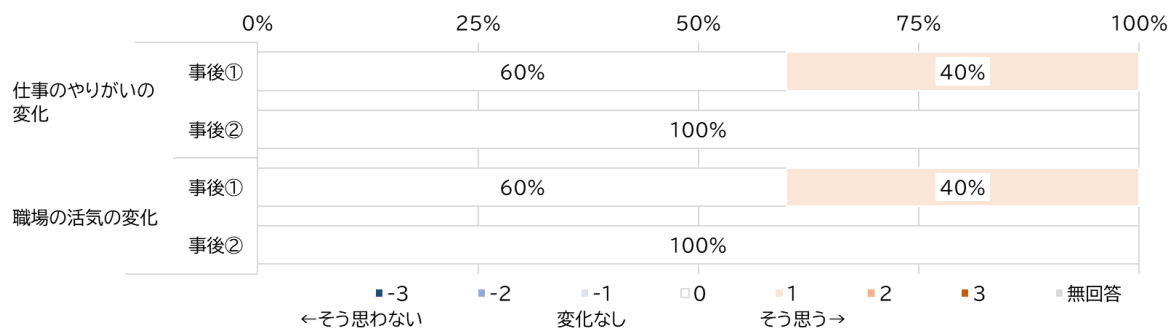
※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各 18 項目のうち 1 項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が 0、1、2、3 以外の場合は無回答処理をした。

② 機器導入によるモチベーションの変化

機器導入によるモチベーションの変化は以下の通り。

図表 XI-154 職員調査:機器導入によるモチベーションの変化

			←減少したと感じる→							増加したと感じる→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3				
仕事のやりがいの変化	事後①	人数(人)	0	0	0	3	2	0	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	60%	40%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	3	2	0	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	60%	40%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%



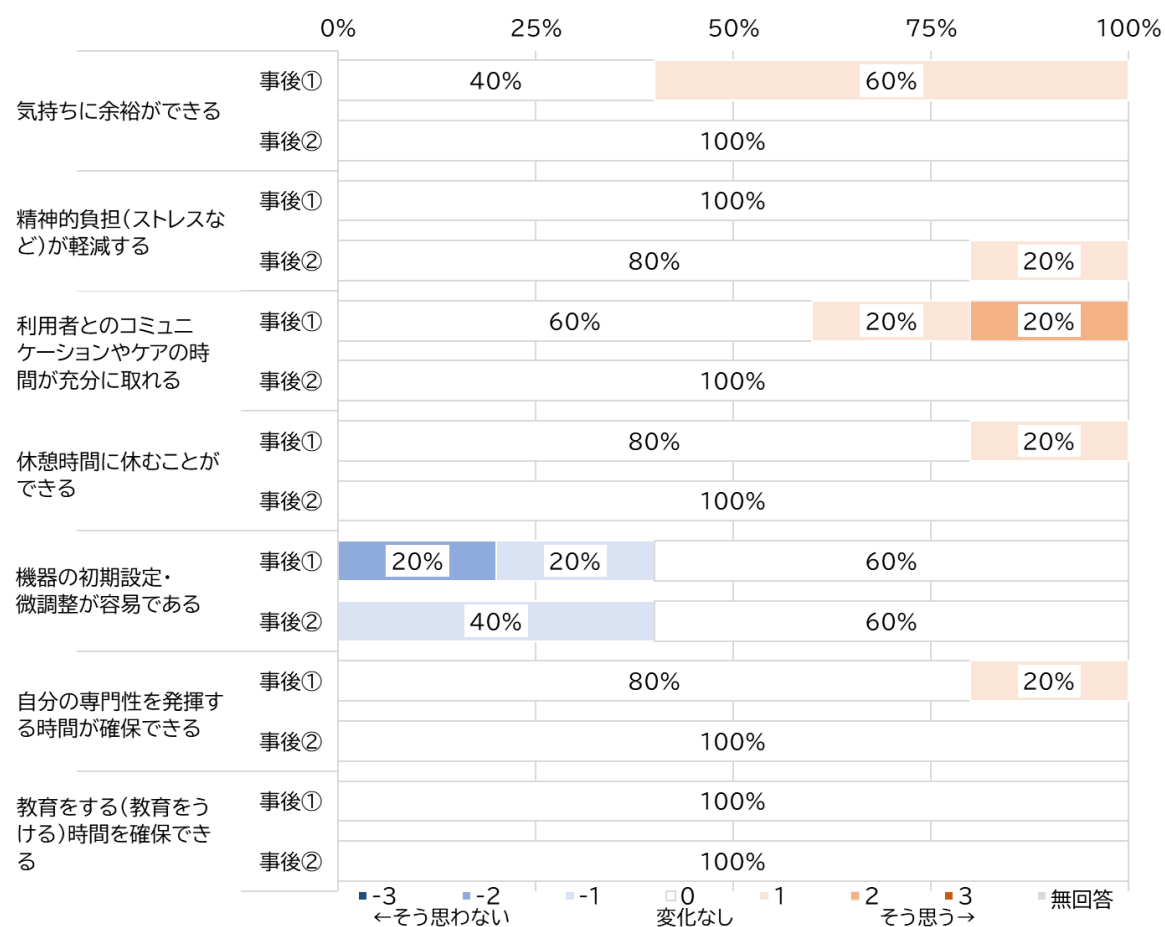
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

③ 機器導入による職員や施設業務の変化

機器導入による職員や施設業務の変化は以下の通り。

図表 XI-155 職員調査:機器導入による職員や施設業務の変化

			← そうわない		変化なし			→ そう		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人)	0	0	0	2	3	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	40%	60%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	80%	20%	0%	0%	0%	100%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	事後①	人数(人)	0	0	0	3	1	1	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	60%	20%	20%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人)	0	0	0	4	1	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	80%	20%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人)	0	1	1	3	0	0	0	0	5
		割合	0%	20%	20%	60%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	2	3	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	40%	60%	0%	0%	0%	0%	100%
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人)	0	0	0	4	1	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	80%	20%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後①	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%

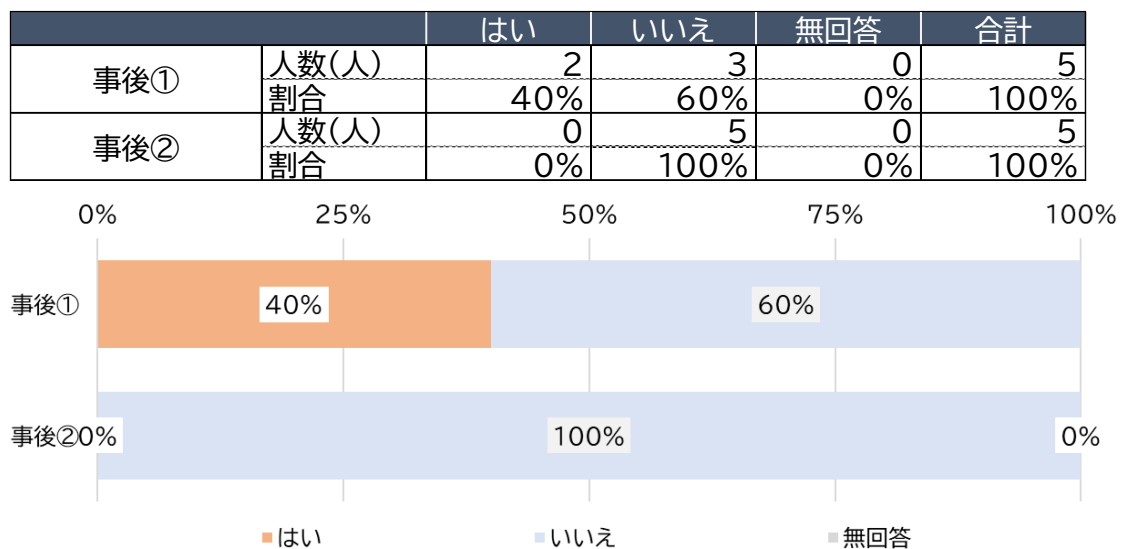


※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

④ 導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向

導入機器の継続利用意向については「はい」の回答が事後①では40%、事後②では0%であった。

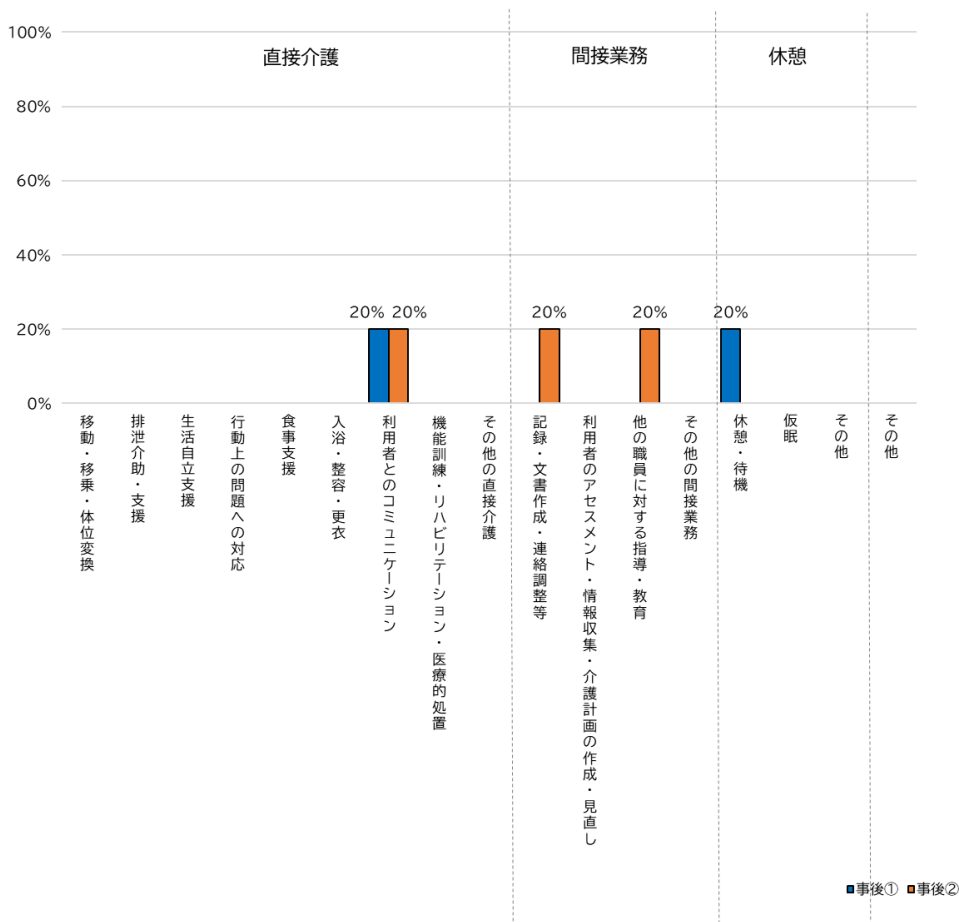
図表 XI-156 職員調査:導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向



⑤ 職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により増やすことができた時間
職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により増やすことができた時間についての回答は以下の通り。

図表 XI-157 職員調査:職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により増やすことができた時間

		直接介護									間接業務				休憩			その他	無回答（人）	合計（人）
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	記録・文書作成・連絡調整等	利用者・介護計画の作成・見直し	他の職員に対する指導・教育	その他の間接業務	休憩	仮眠	その他			
事後①	人数(人)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4	5
	割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	20%	0%	0%	0%	0%	0%	20%	0%	0%	0%	0%	80%	-
事後②	人数(人)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3	5
	割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	20%	0%	0%	20%	0%	20%	0%	0%	0%	0%	0%	60%	-

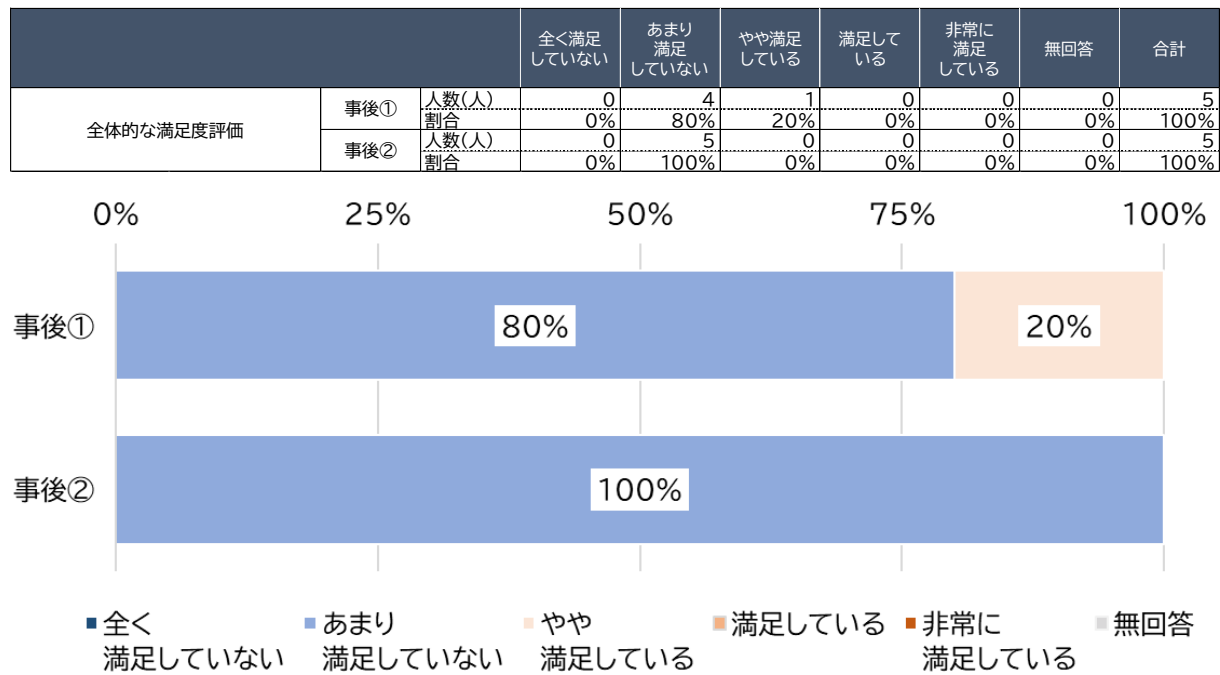


※該当する項目をすべて選択する設問。

⑥ 満足度評価

調査で導入した機器を用いたケアに対する満足度については、「やや満足している」と回答した職員の割合が、事後①では20%、事後②では0%であった。

図表 XI-158 職員調査：満足度評価



※質問項目に対し、1(全く満足していない)～5(非常に満足している)の 5 段階で評価した。

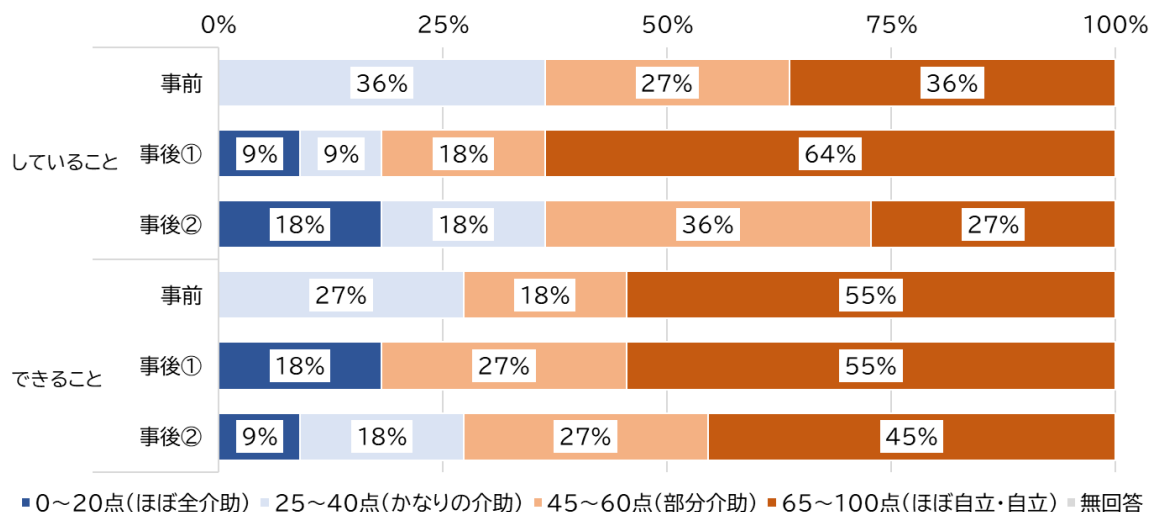
オ. 利用者向けアンケート調査結果

① ADL の変化

ADL の変化は以下の通り。

図表 XI-159 利用者調査:ADL の変化

			0点～ 20点	25点～ 40点	45点～ 60点	65点～ 100点	無回答	合計
していること	事前	人数(人)	0	4	3	4	0	11
		割合	0%	36%	27%	36%	0%	100%
	事後①	人数(人)	1	1	2	7	0	11
		割合	9%	9%	18%	64%	0%	100%
	事後②	人数(人)	2	2	4	3	0	11
		割合	18%	18%	36%	27%	0%	100%
できること	事前	人数(人)	0	3	2	6	0	11
		割合	0%	27%	18%	55%	0%	100%
	事後①	人数(人)	2	0	3	6	0	11
		割合	18%	0%	27%	55%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	2	3	5	0	11
		割合	9%	18%	27%	45%	0%	100%



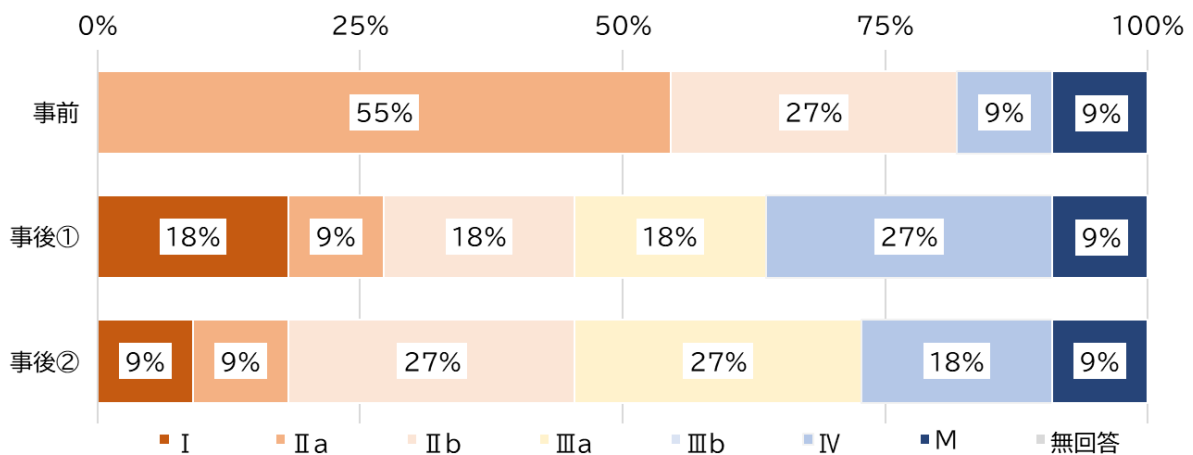
※事前調査または事後調査で、各10項目のうち1項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

② 認知症高齢者の日常生活自立度の変化

認知症高齢者の日常生活自立度は以下の通り。

図表 XI-160 利用者調査:認知症高齢者の日常生活自立度の変化

		I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	無回答	合計
事前	人数(人)	0	6	3	0	0	1	1	0	11
	割合	0%	55%	27%	0%	0%	9%	9%	0%	100%
事後①	人数(人)	2	1	2	2	0	3	1	0	11
	割合	18%	9%	18%	18%	0%	27%	9%	0%	100%
事後②	人数(人)	1	1	3	3	0	2	1	0	11
	割合	9%	9%	27%	27%	0%	18%	9%	0%	100%

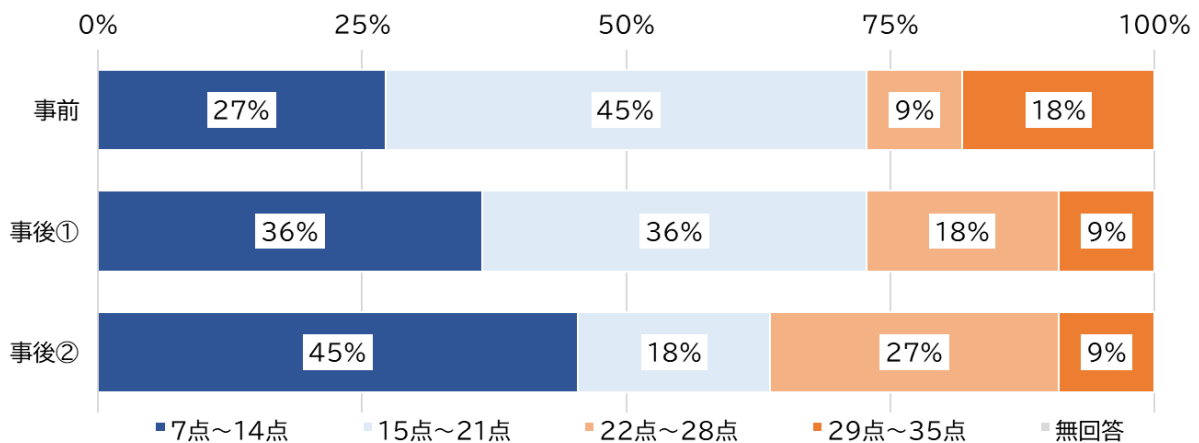


③ 生活・認知機能尺度の変化

生活・認知機能尺度の変化は以下の通り。

図表 XI-161 利用者調査:生活・認知機能尺度の変化

		7点～14点	15点～21点	22点～28点	29点～35点	無回答	合計
事前	人数(人)	3	5	1	2	0	11
	割合	27%	45%	9%	18%	0%	100%
事後①	人数(人)	4	4	2	1	0	11
	割合	36%	36%	18%	9%	0%	100%
事後②	人数(人)	5	2	3	1	0	11
	割合	45%	18%	27%	9%	0%	100%

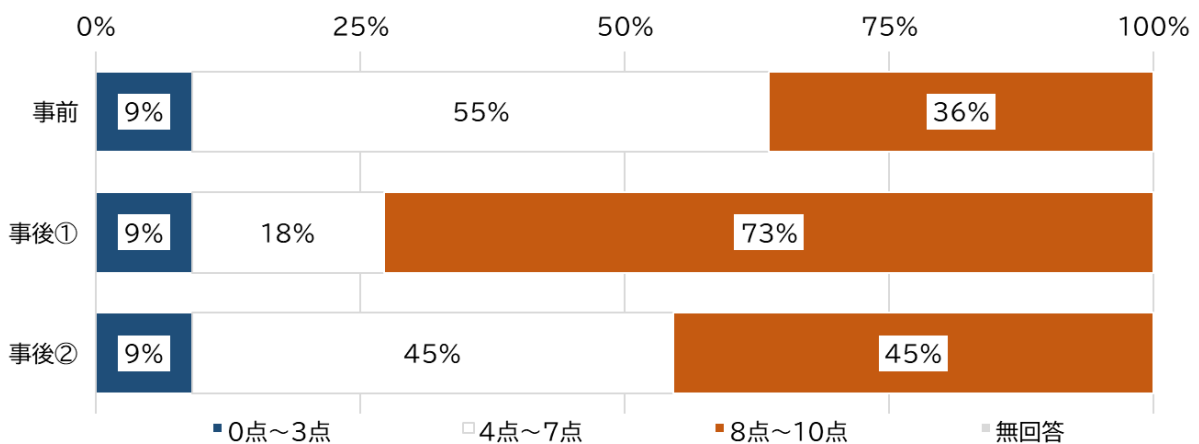


④ Vitality Index の変化

Vitality Index の変化は以下の通り。

図表 XI-162 利用者調査：Vitality Index の変化

		0点～3点	4点～7点	8点～10点	無回答	合計
事前	人数(人)	1	6	4	0	11
	割合	9%	55%	36%	0%	100%
事後①	人数(人)	1	2	8	0	11
	割合	9%	18%	73%	0%	100%
事後②	人数(人)	1	5	5	0	11
	割合	9%	45%	45%	0%	100%



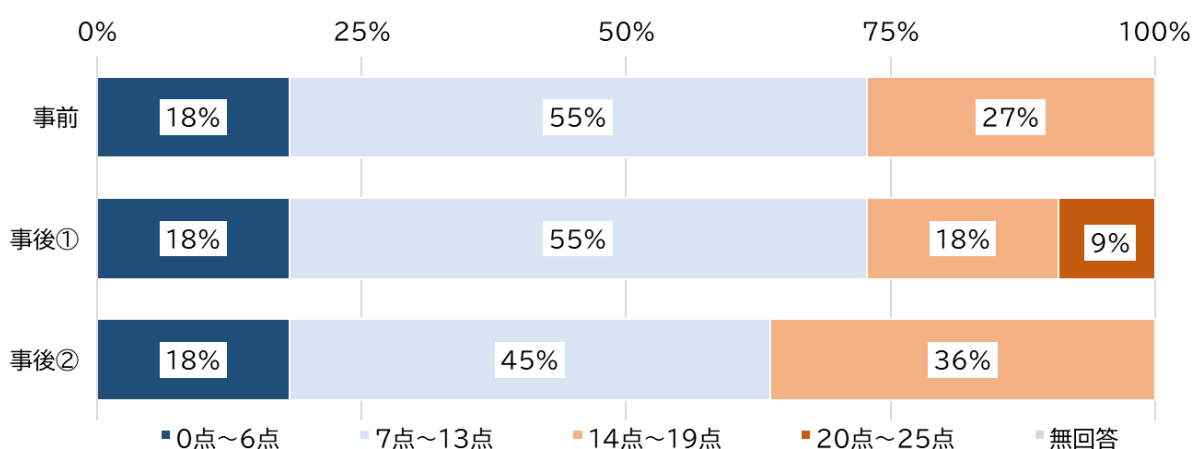
※事前調査または事後調査で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、以外の場合は無回答処理をした。

※ Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の 5 項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5 項目それぞれに0～2 点で回答し、それぞれ 2 点が最もよい状態を示す。10 点満点。

⑤ QOL(WHO-5 精神的健康状態表)の変化
QOL の変化は以下の通り。

図表 XI-163 利用者調査:QOL の変化

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
事前	人数(人)	2	6	3	0	0	11
	割合	18%	55%	27%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	2	6	2	1	0	11
	割合	18%	55%	18%	9%	0%	100%
事後②	人数(人)	2	5	4	0	0	11
	割合	18%	45%	36%	0%	0%	100%



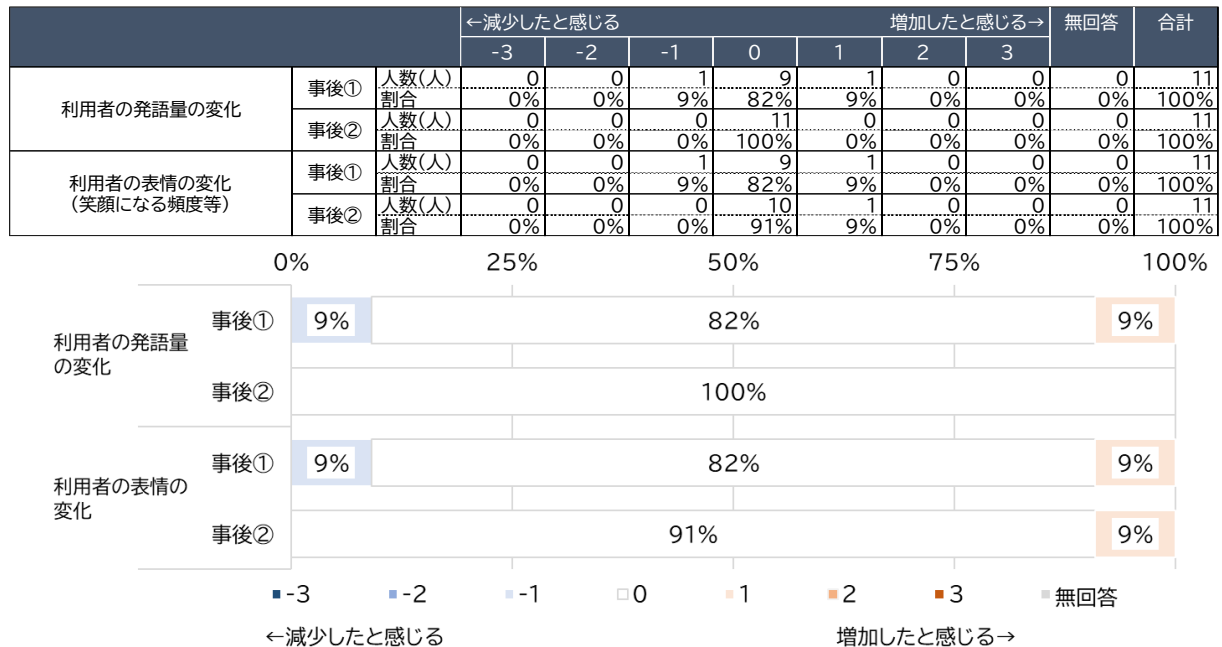
※事前または事後で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近2週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

⑥ 機器導入によるコミュニケーションの変化

機器導入によるコミュニケーションの変化は以下の通り。

図表 XI-164 利用者調査:機器導入によるコミュニケーションの変化



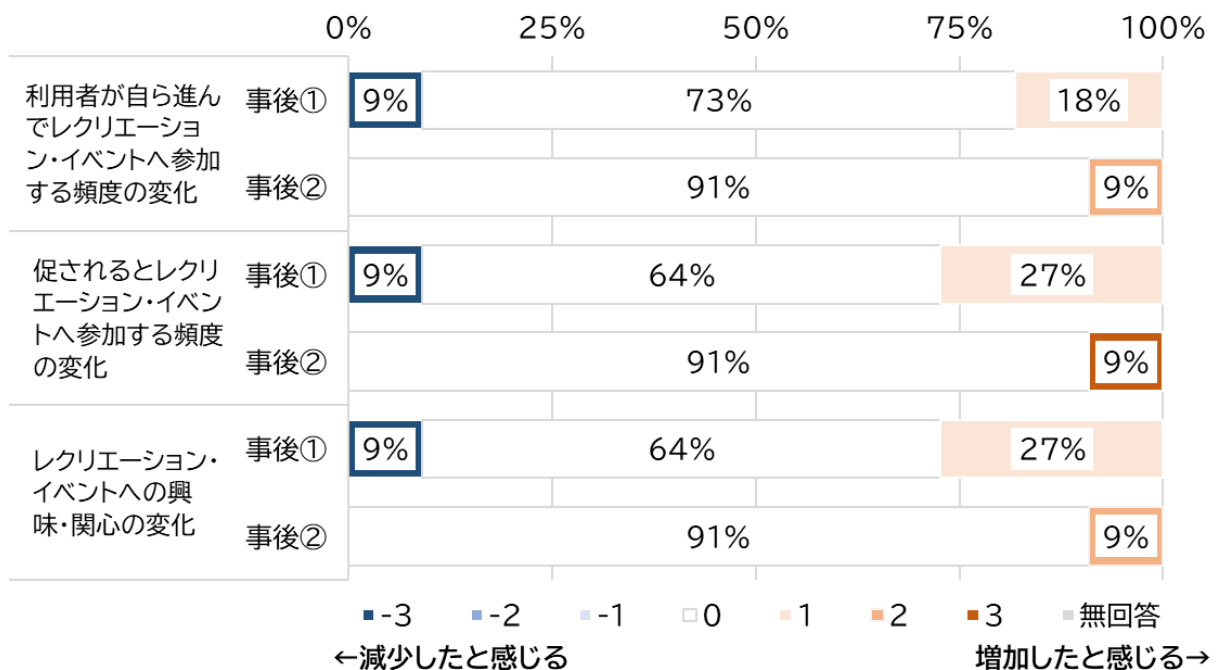
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

⑦ 機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化は以下の通り。

図表 XI-165 利用者調査:機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

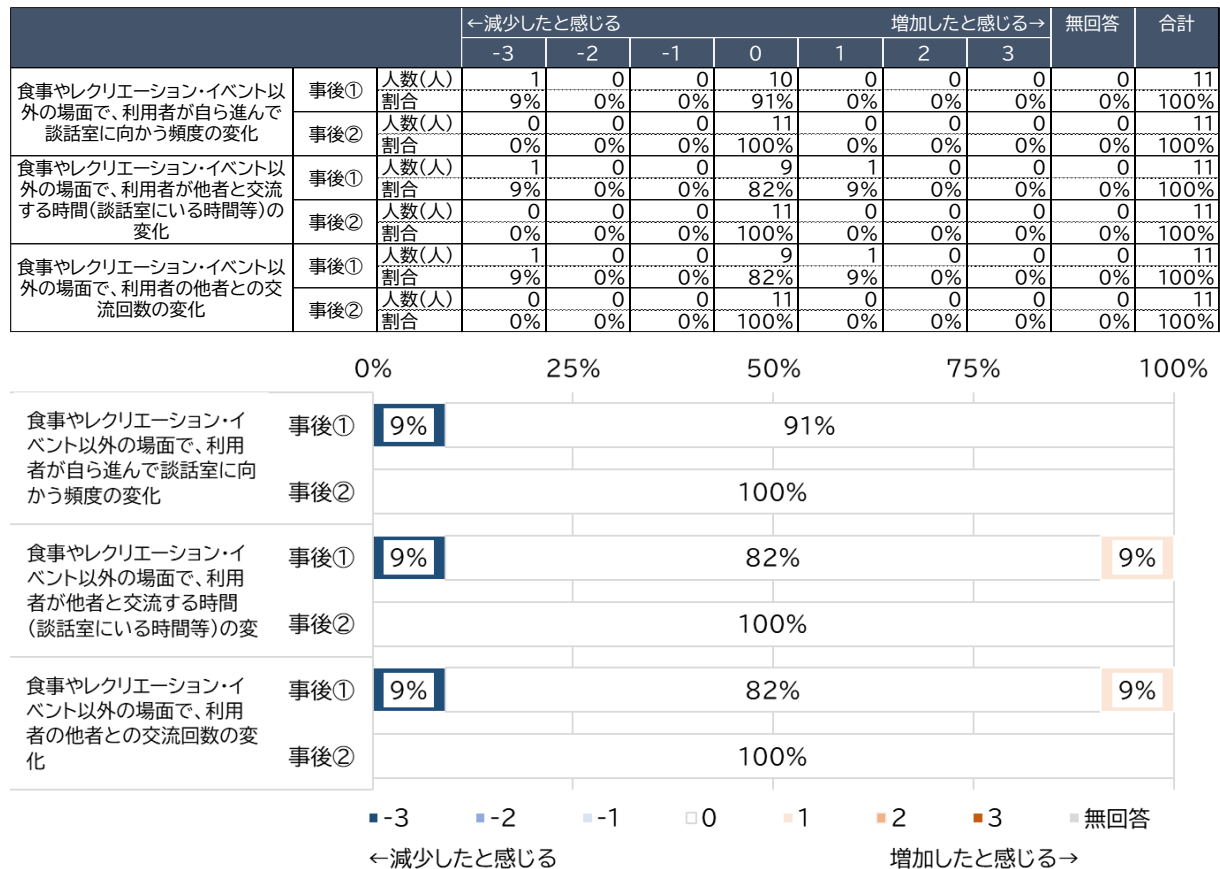
			←減少したと感じる→							増加したと感じる→	無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	1	0	0	8	2	0	0	0	0	11
		割合	9%	0%	0%	73%	18%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	10	0	1	0	0	0	11
		割合	0%	0%	0%	91%	0%	9%	0%	0%	0%	100%
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	1	0	0	7	3	0	0	0	0	11
		割合	9%	0%	0%	64%	27%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	10	0	0	1	0	0	11
		割合	0%	0%	0%	91%	0%	0%	9%	0%	0%	100%
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	事後①	人数(人)	1	0	0	7	3	0	0	0	0	11
		割合	9%	0%	0%	64%	27%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	10	0	1	0	0	0	11
		割合	0%	0%	0%	91%	0%	9%	0%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

⑧ 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化
 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化は以下の通り。

図表 XI-166 利用者調査：機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化



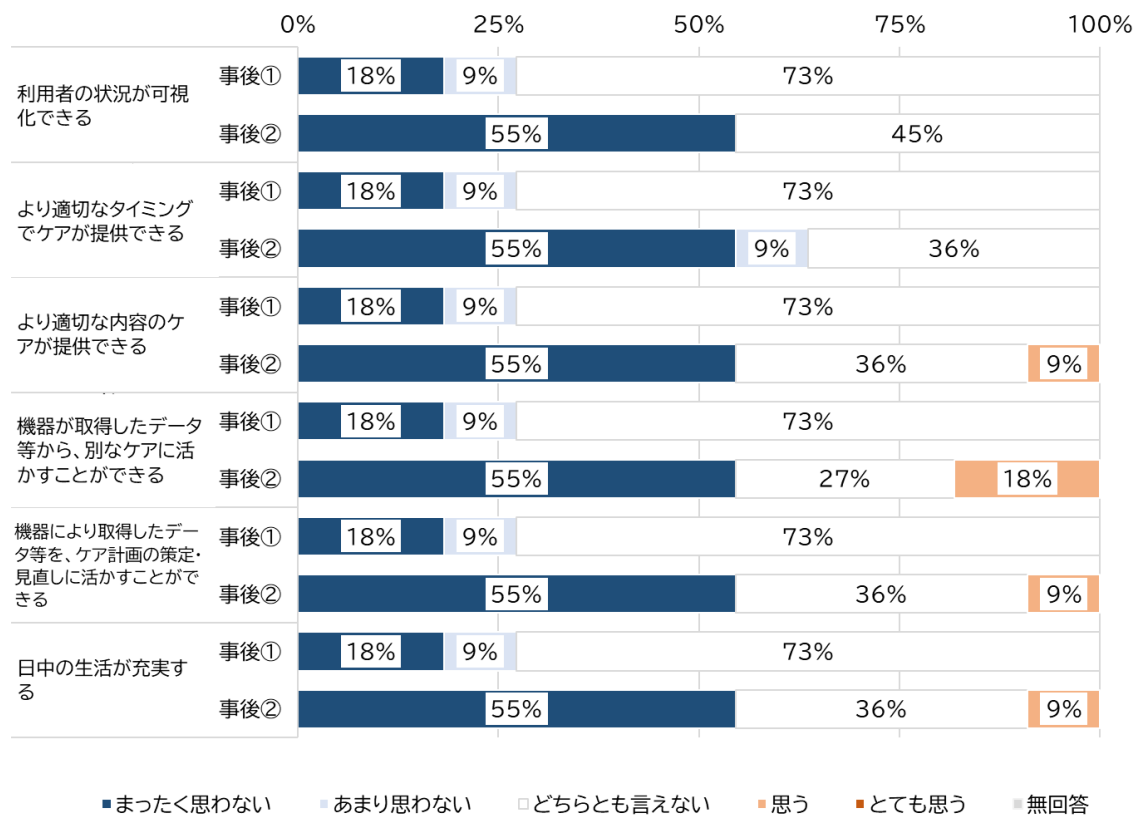
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

⑨ 機器導入によるケア内容の変更

機器導入によるケア内容の変更の変化は以下の通り。

図表 XI-167 利用者調査：機器導入によるケア内容の変更

			まったく 思わない	あまり 思わない	どちらと も言えな い	思う	とても 思う	無回答	合計
利用者の状況が可視化できる	事後①	人数(人)	2	1	8	0	0	0	11
		割合	18%	9%	73%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	6	0	5	0	0	0	11
		割合	55%	0%	45%	0%	0%	0%	100%
より適切なタイミングでケアが提供できる	事後①	人数(人)	2	1	8	0	0	0	11
		割合	18%	9%	73%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	6	1	4	0	0	0	11
		割合	55%	9%	36%	0%	0%	0%	100%
より適切な内容のケアが提供できる	事後①	人数(人)	2	1	8	0	0	0	11
		割合	18%	9%	73%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	6	0	4	1	0	0	11
		割合	55%	0%	36%	9%	0%	0%	100%
機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	事後①	人数(人)	2	1	8	0	0	0	11
		割合	18%	9%	73%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	6	0	3	2	0	0	11
		割合	55%	0%	27%	18%	0%	0%	100%
機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	事後①	人数(人)	2	1	8	0	0	0	11
		割合	18%	9%	73%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	6	0	4	1	0	0	11
		割合	55%	0%	36%	9%	0%	0%	100%
日中の生活が充実する	事後①	人数(人)	2	1	8	0	0	0	11
		割合	18%	9%	73%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	6	0	4	1	0	0	11
		割合	55%	0%	36%	9%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、1(全く思わない)～5(とても思う)の 5 段階で評価した(回答は職員が実施)。

カ. 独自調査

独自調査として、各実証期間にレクリエーション業務に関する評価と対象利用者のレクリエーション実施時の様子に関する評価、及び、レクリエーションへの利用者の参加状況調査を実施した。

レクリエーション業務に関する評価、及び、対象利用者のレクリエーション実施時の様子に関する評価に関する調査結果は以下の通り。

図表 XI-168 独自調査結果:レクリエーション業務に関する評価

			←とても感じる					特に感じない→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
負担が大きいと感じる	事前	人数(人)	0	1	2	1		1	0	0	5
		割合	0%	20%	40%	20%	0%	20%	0%	0%	100%
	事後①	人数(人)	0	0	0	3	0	0	1	1	5
		割合	0%	0%	0%	60%	0%	0%	20%	20%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
物品の購入や制作などに準備がかかっている	事前	人数(人)	1	0	1	1	1	1	0	0	5
		割合	20%	0%	20%	20%	20%	20%	0%	0%	100%
	事後①	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
片付けに時間がかかっている	事前	人数(人)	0	0	0	4	0	0	1	0	5
		割合	0%	0%	0%	80%	0%	0%	20%	0%	100%
	事後①	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	5	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%

			←とても感じる					特に感じない→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
ご利用者はたのしんでいると感じる	事前	人数(人)	0	1	0	1	1	2	0	0	0	5
		割合	0%	20%	0%	20%	20%	40%	0%	0%	0%	100%
	事後①	人数(人)	0	0	0	3	2	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	60%	40%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	3	2	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	60%	40%	0%	0%	0%	0%	100%
ご利用者に楽しいレクを提供できていると感じる	事前	人数(人)	0	1	0	1	2	1	0	0	0	5
		割合	0%	20%	0%	20%	40%	20%	0%	0%	0%	100%
	事後①	人数(人)	0	0	0	3	2	0	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	60%	40%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	3	1	1	0	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	60%	20%	20%	0%	0%	0%	100%

図表 XI-169 独自調査結果:対象利用者のレクリエーション実施時の様子

			いつも	ほとんどいつも	半分以上の期間を	半分以下の期間を	ほんのたまに	まったくない	合計
ご利用者は楽しんでいたか	事前	人数(人)	0	1	7	2	1	0	11
		割合	0%	9%	64%	18%	9%	0%	100%
	事後①	人数(人)	0	2	5	2	0	2	11
		割合	0%	18%	45%	18%	0%	18%	100%
	事後②	人数(人)	0	3	4	2	1	1	11
		割合	0%	27%	36%	18%	9%	9%	100%
ご利用者のレク参加状況について	事前	人数(人)	5	2	2	1	1	0	11
		割合	45%	18%	18%	9%	9%	0%	100%
	事後①	人数(人)	2	3	3	1	0	2	11
		割合	18%	27%	27%	9%	0%	18%	100%
	事後②	人数(人)	4	2	3	0	1	1	11
		割合	36%	18%	27%	0%	9%	9%	100%

レクリエーションへの利用者の参加状況調査として、実施したレクリエーション 1 回につき 1 回、その時間に実証フィールドに滞在していた利用者で「自ら参加」「呼びかけに応じて参加(積極的)」「呼びかけに応じて参加(消極的)」「不参加」のそれぞれに当てはまる人数の回答を求めた。

1 日に実施したレクリエーションの回数とその日に実証フィールドを利用した利用者数の積を分母、各項目の人数を分子として割合を算出した結果を以下に示す。なお、本実証フィールドでは曜日ごとにレクリエーションに参加する利用者が概ね定まっており、参加する利用者自身の特性(認知症状等)や利用者同士の親和性によりテクノロジーの導入効果が変動することが想定されたため、曜日ごとの集計を実施した。

「自ら参加」の増加が月曜日の事前から事後①、「呼びかけに応じて参加(積極的)」の増加が火曜日の事前から事後①にかけて見られ、「不参加」の減少が木曜日の事前調査及び事後①から事後②にかけて見られたが、全体として大きな変化は見られなかった。

図表 XI-170 独自調査結果:レクリエーションへの利用者の参加状況(調査期間・曜日ごと)

	月			火			水			木			金		
	事前	事後①	事後②	事前	事後①	事後②	事前	事後①	事後②	事前	事後①	事後②	事前	事後①	事後②
自ら参加	0%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0	0%	0%	0%	0%	0%	0	0%
呼びかけに応じて参加(積極的)	75%	65%	69%	70%	79%	38%	71%	59%	48%	70%	12%	46%	71%	57%	17%
呼びかけに応じて参加(消極的)	0%	0%	8%	0%	3%	33%	0%	4%	19%	0%	39%	29%	0%	0%	54%
不参加	25%	33%	23%	30%	18%	29%	29%	37%	33%	30%	48%	25%	29%	43%	29%

キ. ヒアリング調査結果

実証完了後、実証施設へのヒアリング調査を実施した。調査結果の概要は以下の通り。

図表 XI-171 生産性向上の取組状況

カテゴリ	主な意見
職員について	・ ソフトの導入に対して抵抗感は特になく、前向きに取り組んでいた。 ・ ソフトの導入を機に、なるべくソフト内の動画コンテンツを使用するようにしていたためレクリエーションに係る備品の準備等は減っていた。
利用者について	・ BPSD の強い利用者の利用がある日(火曜日以外)には、ソフトを使用したとしても職員が付きっきりで対応していた。
施設・事業所について	・ 事業所の通信環境が従前から悪く、安定的なソフトの使用ができなかった。 ・ 事後②は月初にあたり、書類作成業務が多かった。

図表 XI-172 委員会や取組に向けた会議の開催

カテゴリ	主な意見
開催時期・参加者・検討内容	・ 本実証に係るソフト導入の前に、朝礼で管理者から各職員に対してソフトの使用方法や取組の主旨について説明した。 ・ ソフトの開発ベンダーが事業所に訪問し、ソフトを試験的に使用する機会を設けた。 ・ ソフト導入後も随時ベンダーが事業所に訪問し、使用方法を確認した。

図表 XI-173 実証目的に対する達成状況

カテゴリ	主な意見
職員の観点	・ レクリエーションの内容を検討する際のネタ切れ感による負担は軽減した。 ・ ソフト内の動画コンテンツをなるべく使用したため、テーブルレク等の備品が必要なレクリエーションよりも準備時間が削減された。 ・ 口腔ケアの動画が使いやすく、今まで利用者の前に職員が立ってレクチャーしていた業務を動画で代替できた。 ・ クイズ等の動画コンテンツは利用者が内容を理解するために職員が口頭で解説する必要があった。BPSD 症状があまり強くない利用者が多い事業所の方が活用しやすいのではないかと感じた。
利用者の観点	・ レクリエーションに積極的に参加される方とそうでない方が認知症の症状の重さ等によりはっきりしている。利用者ご自身の変化は特段なかった。 ・ モニター画面を使用したレクリエーションが難しい利用者に対しては活用が難しかった。

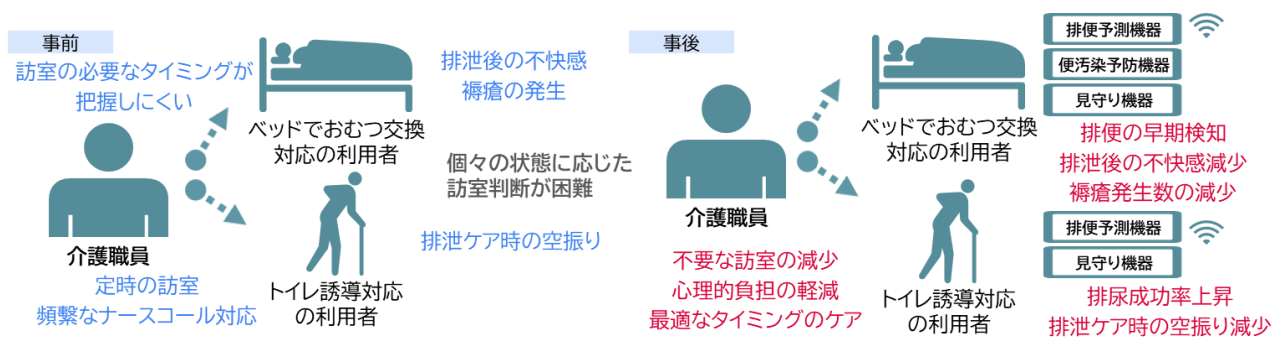
(6) DFree 株式会社「排泄パターンの把握による排泄ケアの生産性向上」

ア. 実証の概要

① 実証目的

排泄予測デバイス(超音波センサで膀胱内の尿量をリアルタイムで計測する)および便汚染予防デバイス(においセンサで便汚染につながる可能性のある排便を通知する)を導入することにより、利用者の排泄リズムを把握することによって、夜間の見守り業務における不要な訪室の削減や適切なタイミングでの排泄ケアを実践し、職員の業務負担軽減と利用者の QOL 向上を図ることを目的とした。

図表 XI-174 実証イメージ



② 実証フィールドの概要

本実証では以下の実証フィールドにて効果測定を実施した。

図表 XI-175 実証フィールドの概要

実証フィールド	法人名	施設名	サービス種別	導入機器
1	社会福祉法人 聖隷福祉事業団	介護付有料老人ホーム 松山エデンの園	特定施設	・排泄予測機器 (DFree Professional)
2	社会福祉法人 泰仁会	特別養護老人ホーム やさと	介護老人福祉施設	・便汚染予防デバイス (DFree Ben)

③ 実証期間

調査期間は以下の通りである。

図表 XI-176 調査期間

調査	時期
事前調査	令和 7 年 9 月 29 日～10 月 3 日(5 日間)

調査	時期
事後調査①	令和 7 年11月10日～14日(5 日間)
事後調査②	令和 7 年12月15日～19日(5 日間)
ヒアリング調査	令和 8 年2月27日

④ 各調査の概要

本調査では、実証の事前と事後(2回)で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」を実施し、独自調査として「訪室回数調査」を実施した。実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。以下に各調査の概要を記載する。

図表 XI-177 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
タイムスタディ調査 (媒体:紙面)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	- 回答方法:自記式(1 分刻みで自身が実施した作業項目を記入) - 調査スケジュール:事前(取組前)1 回、事後(取組後)2 回の計3回、それぞれ5日間分実施。 - 調査実施の時間帯:調査対象期間中の夜間勤務時間
職員向けアンケート調査 (全テーマ共通)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	- 回答方法:自記式(WEB 回答) - 調査スケジュール:事前と事後2回、実証期間中それぞれについて、1名につき1回のみ回答
利用者向けアンケート調査 (全テーマ共通)	新たな取組によるケアを受けた利用者 (職員による代理回答)	- 回答方法:自記式(WEB 回答) - 調査スケジュール:事前と事後2回、実証期間中それぞれについて、1名につき1回のみ回答
訪室回数調査 (独自調査)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	- 回答方法:自記式(紙面) - 調査スケジュール:事前1回、事後 2 回の計3回、それぞれ5日間分実施。 - 夜間帯の訪室について、目的別に回数を回答。
ヒアリング調査 (全テーマ共通)	部門管理者、介護職員	- 調査方法:WEB 会議による聞き取り - 調査スケジュール:実証終了後に1回実施

イ. 利用者・職員概要

① 利用者概要

本調査では、各実証フィールドにおいて、夜間帯の排泄ケアの回数が多い傾向のある利用者を対象とした。

利用者向けアンケート調査に回答があった利用者は9名であった。

図表 XI-178 利用者概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	1	8	0	9
	割合	11%	89%	0%	100%

図表 XI-179 利用者概要:年齢

		70歳未満	70歳～75歳未満	75歳～80歳未満	80歳～85歳未満	85歳～90歳未満	90歳～95歳未満	95歳以上	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	0	2	0	4	3	0	9
	割合	0%	0%	0%	22%	0%	44%	33%	0%	100%

図表 XI-180 利用者概要:要介護度

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支援	その他(区分申請中等)	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	2	5	2	0	0	0	9
	割合	0%	0%	22%	56%	22%	0%	0%	0%	100%

図表 XI-181 利用者概要:障害高齢者の日常生活自立度

		J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明・未実施	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	1	0	2	2	1	3	0	0	9
	割合	0%	0%	11%	0%	22%	22%	11%	33%	0%	0%	100%

② 職員概要

本調査において職員向けアンケート調査に回答があった職員は 26 名であった。

図表 XI-182 職員概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	5	21	0	26
	割合	19%	81%	0%	100%

図表 XI-183 職員概要:年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
総数	人数(人)	0	4	8	6	6	2	0	0	26
	割合	0%	15%	31%	23%	23%	8%	0%	0%	100%

図表 XI-184 職員概要:職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓 練指導員を 含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	15	0	6	0	0	0	5	0	26
	割合	58%	0%	23%	0%	0%	0%	19%	0%	100%

図表 XI-185 職員概要:役職

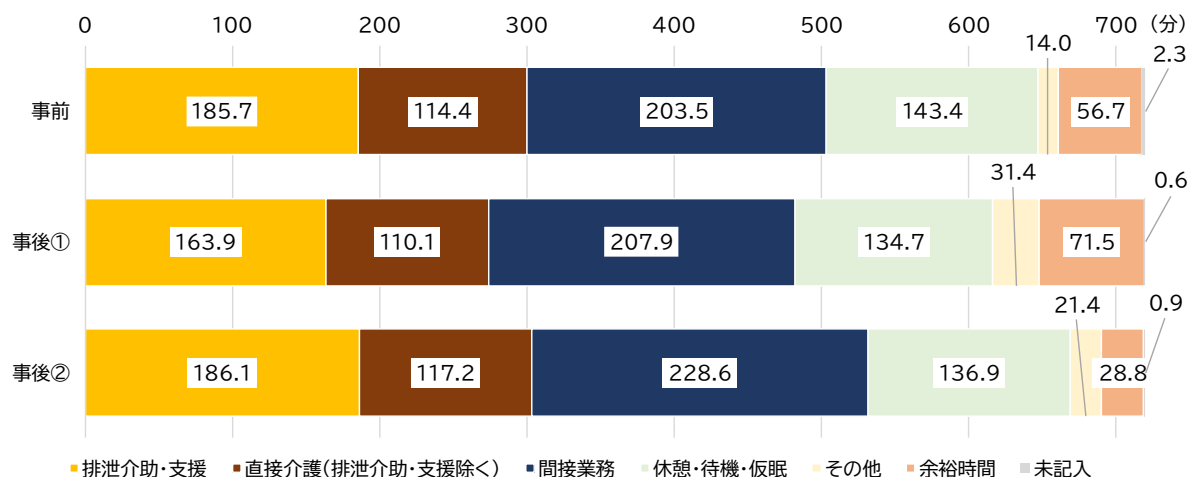
		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	3	20	3	0	26
	割合	0%	12%	77%	12%	0%	100%

ウ. タイムスタディ調査結果

「排泄介助・支援」の時間は事前と比較し、事後①では 21.8 分減少し、事後②では 0.4 分増加した。「間接業務」の時間は事前と比較し、事後①で 4.4 分増加し、事後②で 25.1 分増加した。

図表 XI-186 タイムスタディ調査の結果(職員1人1日(720 分)あたり)

		直接介護						間接業務						休憩					合計（分）
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・医療的処置等	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・介護計画の作成等	介護ロボット・ＩＣＴ機器の準備・使用・確認	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠	その他					
事前	時間(分)	34.3	185.7	46.8	15.7	12.2	5.3	36.2	117.4	13.4	3.5	32.9	143.4	14.0	56.7	2.3	720		
	割合	5%	26%	7%	2%	2%	1%	5%	16%	2%	0%	5%	20%	2%	8%	0%	100%		
事後①	時間(分)	31.7	163.9	66.3	6.1	5.6	0.5	34.2	123.2	7.1	2.2	41.1	134.7	31.4	71.5	0.6	720		
	割合	4%	23%	9%	1%	1%	0%	5%	17%	1%	0%	6%	19%	4%	10%	0%	100%		
事後②	時間(分)	36.8	186.1	61.6	7.2	5.5	6.0	37.8	121.2	12.7	5.5	51.4	136.9	21.4	28.8	0.9	720		
	割合	5%	26%	9%	1%	1%	1%	5%	17%	2%	1%	7%	19%	3%	4%	0%	100%		



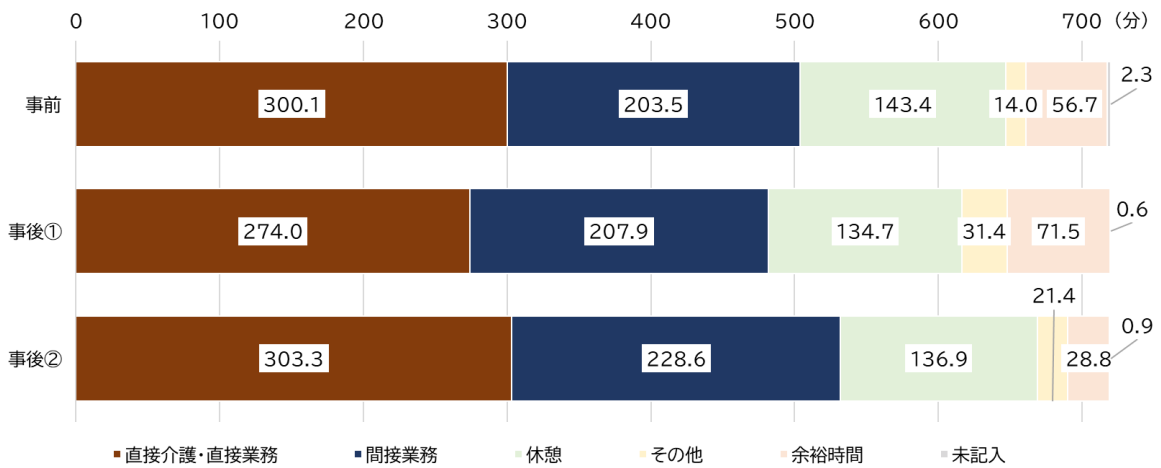
事前 n=21、事後①n=24、事後②n=25

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 12 時間(720 分)換算した値。

図表 XI-187 (参考:共通区分)タイムスタディ調査の結果(職員1人1日(720 分)あたり)

		直接介護・直接業務	間接業務	休憩	その他	余裕時間	未記入	合計(分)
事前	時間(分)	300.1	203.5	143.4	14.0	56.7	2.3	720
	割合	42%	28%	20%	2%	8%	0%	100%
事後①	時間(分)	274.0	207.9	134.7	31.4	71.5	0.6	720
	割合	38%	29%	19%	4%	10%	0%	100%
事後②	時間(分)	303.3	228.6	136.9	21.4	28.8	0.9	720
	割合	42%	32%	19%	3%	4%	0%	100%



事前 n=21、事後①n=24、事後②n=25

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 12 時間(720 分)換算した値。

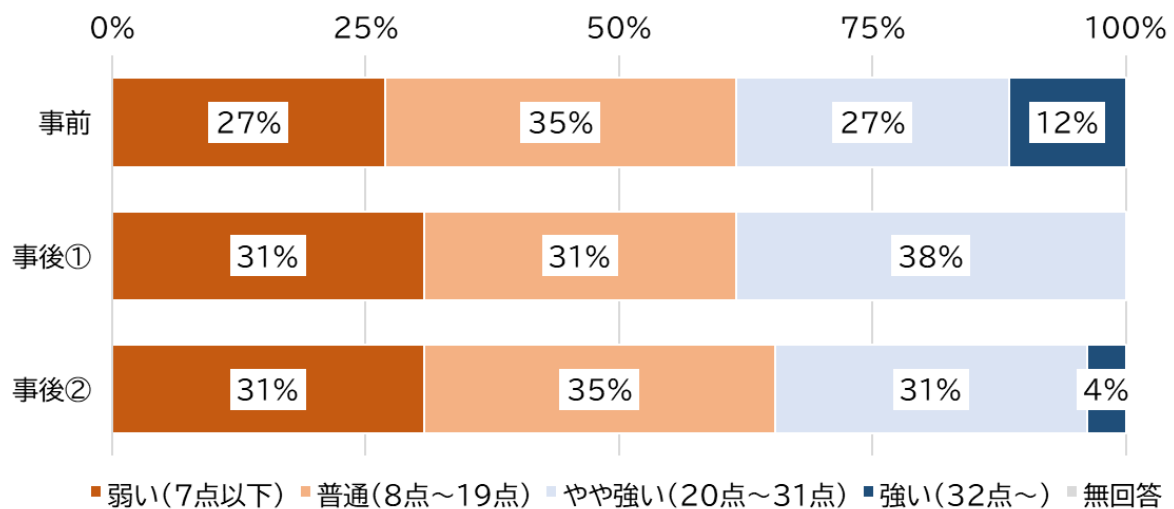
工. 職員向けアンケート調査結果

① 心理的負担評価

職員の心理的ストレス反応測定尺度合計点について事前と事後 2 回の結果を比較すると、「弱い（7点以下）」と回答した職員の割合が、事前では 27%、事後①及び事後②では 31%となった。

図表 XI-188 職員調査：心理的負担評価

		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
事前	人数(人)	7	9	7	3	0	26
	割合	27%	35%	27%	12%	0%	100%
事後①	人数(人)	8	8	10	0	0	26
	割合	31%	31%	38%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	8	9	8	1	0	26
	割合	31%	35%	31%	4%	0%	100%



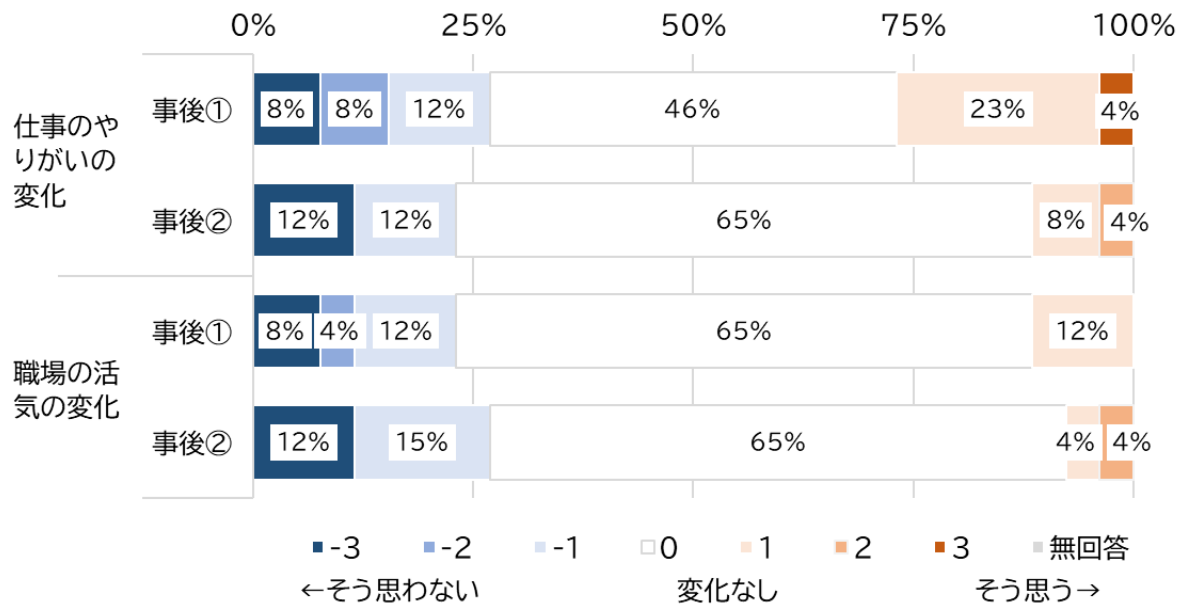
※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各 18 項目のうち 1 項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が 0、1、2、3 以外の場合は無回答処理をした。

② 機器導入によるモチベーションの変化

機器導入によるモチベーションの変化は以下の通り。

図表 XI-189 職員調査:機器導入によるモチベーションの変化

			← 減少したと感じる →							増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3					
仕事のやりがいの変化	事後①	人数(人)	2	2	3	12	6	0	1	0	26			
		割合	8%	8%	12%	46%	23%	0%	4%	0%	100%			
	事後②	人数(人)	3	0	3	17	2	1	0	0	26			
		割合	12%	0%	12%	65%	8%	4%	0%	0%	100%			
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	2	1	3	17	3	0	0	0	26			
		割合	8%	4%	12%	65%	12%	0%	0%	0%	100%			
	事後②	人数(人)	3	0	4	17	1	1	0	0	26			
		割合	12%	0%	15%	65%	4%	4%	0%	0%	100%			



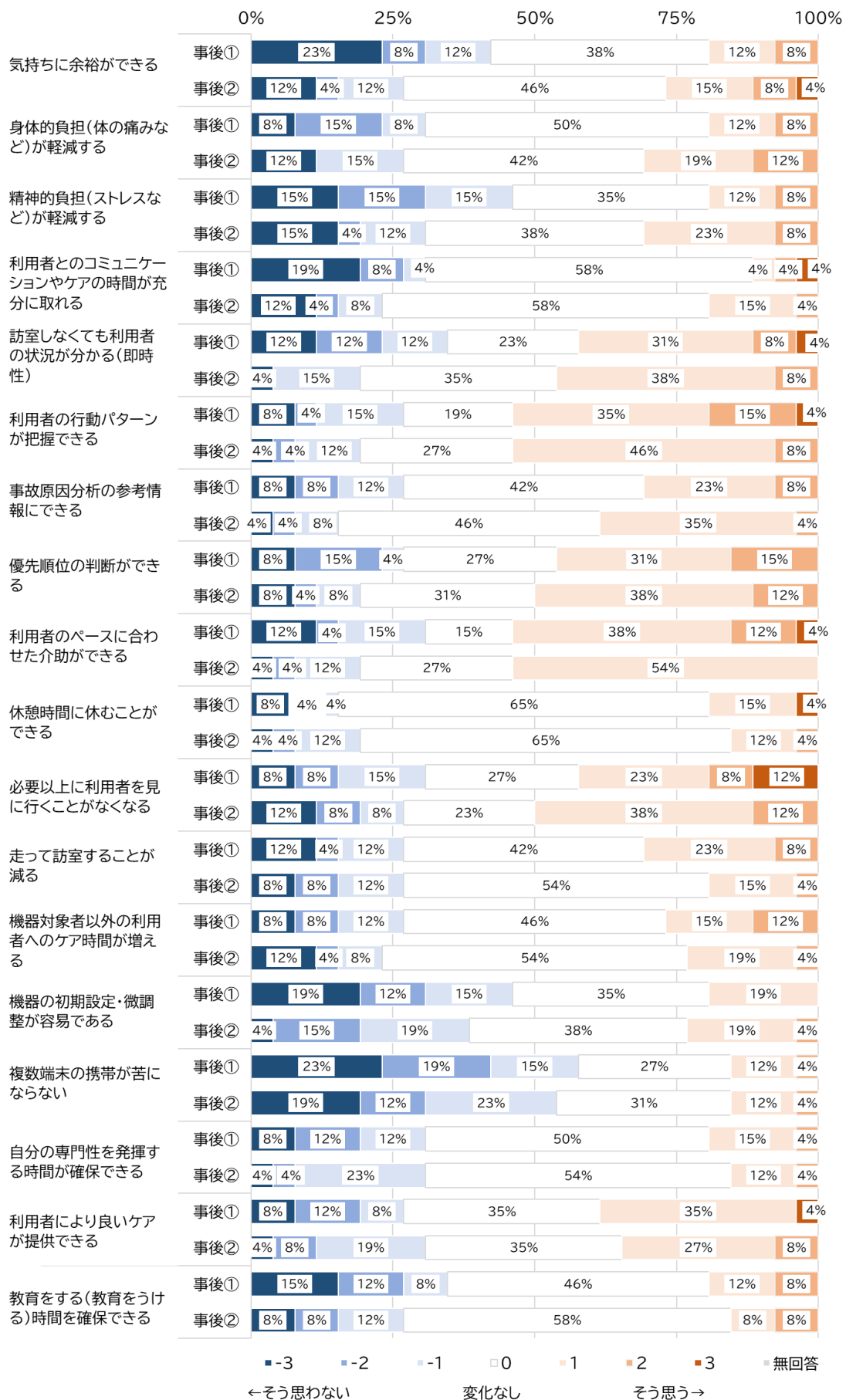
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

③ 機器導入による職員や施設業務の変化

機器導入による職員や施設業務の変化は以下の通り。

図表 XI-190 職員調査:機器導入による職員や施設業務の変化

			←そう思わない		変化なし			→そう思う		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人)	6	2	3	10	3	2	0	0	26
		割合	23%	8%	12%	38%	12%	8%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	3	1	3	12	4	2	1	0	26
		割合	12%	4%	12%	46%	15%	8%	4%	0%	100%
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人)	2	4	2	13	3	2	0	0	26
		割合	8%	15%	8%	50%	12%	8%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	3	0	4	11	5	3	0	0	26
		割合	12%	0%	15%	42%	19%	12%	0%	0%	100%
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人)	4	4	4	9	3	2	0	0	26
		割合	15%	15%	15%	35%	12%	8%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	4	1	3	10	6	2	0	0	26
		割合	15%	4%	12%	38%	23%	8%	0%	0%	100%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	事後①	人数(人)	5	2	1	15	1	1	1	0	26
		割合	19%	8%	4%	58%	4%	4%	4%	0%	100%
	事後②	人数(人)	3	1	2	15	4	1	0	0	26
		割合	12%	4%	8%	58%	15%	4%	0%	0%	100%
訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	事後①	人数(人)	3	3	3	6	8	2	1	0	26
		割合	12%	12%	12%	23%	31%	8%	4%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	4	9	10	2	0	0	26
		割合	4%	0%	15%	35%	38%	8%	0%	0%	100%
利用者の行動パターンが把握できる	事後①	人数(人)	2	1	4	5	9	4	1	0	26
		割合	8%	4%	15%	19%	35%	15%	4%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	1	3	7	12	2	0	0	26
		割合	4%	4%	12%	27%	46%	8%	0%	0%	100%
事故原因分析の参考情報にできる	事後①	人数(人)	2	2	3	11	6	2	0	0	26
		割合	8%	8%	12%	42%	23%	8%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	1	2	12	9	1	0	0	26
		割合	4%	4%	8%	46%	35%	4%	0%	0%	100%
優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	事後①	人数(人)	2	4	1	7	8	4	0	0	26
		割合	8%	15%	4%	27%	31%	15%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	2	1	2	8	10	3	0	0	26
		割合	8%	4%	8%	31%	38%	12%	0%	0%	100%
利用者のペースに合わせた介助ができる	事後①	人数(人)	3	1	4	4	10	3	1	0	26
		割合	12%	4%	15%	15%	38%	12%	4%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	1	3	7	14	0	0	0	26
		割合	4%	4%	12%	27%	54%	0%	0%	0%	100%
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人)	2	1	1	17	4	0	1	0	26
		割合	8%	4%	4%	65%	15%	0%	4%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	1	3	17	3	1	0	0	26
		割合	4%	4%	12%	65%	12%	4%	0%	0%	100%
必要以上に利用者を見に行くことがなくなる	事後①	人数(人)	2	2	4	7	6	2	3	0	26
		割合	8%	8%	15%	27%	23%	8%	12%	0%	100%
	事後②	人数(人)	3	2	2	6	10	3	0	0	26
		割合	12%	8%	8%	23%	38%	12%	0%	0%	100%
走って訪室することが減る	事後①	人数(人)	3	1	3	11	6	2	0	0	26
		割合	12%	4%	12%	42%	23%	8%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	2	2	3	14	4	1	0	0	26
		割合	8%	8%	12%	54%	15%	4%	0%	0%	100%
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	事後①	人数(人)	2	2	3	12	4	3	0	0	26
		割合	8%	8%	12%	46%	15%	12%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	3	1	2	14	5	1	0	0	26
		割合	12%	4%	8%	54%	19%	4%	0%	0%	100%
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人)	5	3	4	9	5	0	0	0	26
		割合	19%	12%	15%	35%	19%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	4	5	10	5	1	0	0	26
		割合	4%	15%	19%	38%	19%	4%	0%	0%	100%
複数端末の携帯が苦にならない	事後①	人数(人)	6	5	4	7	3	1	0	0	26
		割合	23%	19%	15%	27%	12%	4%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	5	3	6	8	3	1	0	0	26
		割合	19%	12%	23%	31%	12%	4%	0%	0%	100%
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人)	2	3	3	13	4	1	0	0	26
		割合	8%	12%	12%	50%	15%	4%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	1	6	14	3	1	0	0	26
		割合	4%	4%	23%	54%	12%	4%	0%	0%	100%
利用者により良いケアが提供できる	事後①	人数(人)	2	3	2	9	9	0	1	0	26
		割合	8%	12%	8%	35%	35%	0%	4%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	2	5	9	7	2	0	0	26
		割合	4%	8%	19%	35%	27%	8%	0%	0%	100%
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後①	人数(人)	4	3	2	12	3	2	0	0	26
		割合	15%	12%	8%	46%	12%	8%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	2	2	3	15	2	2	0	0	26
		割合	8%	8%	12%	58%	8%	8%	0%	0%	100%

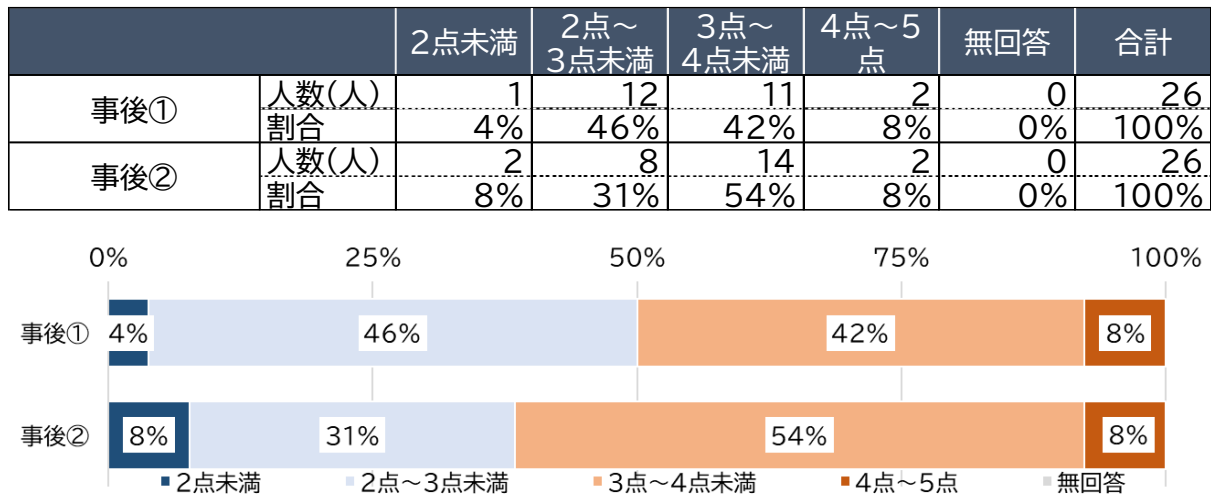


※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

④ 導入機器の満足度評価 ※出典:QUEST 福祉用具満足度評価

導入機器の満足度については、「3点～4点未満」が最も多く、事後①では42%、事後②では54%であった。

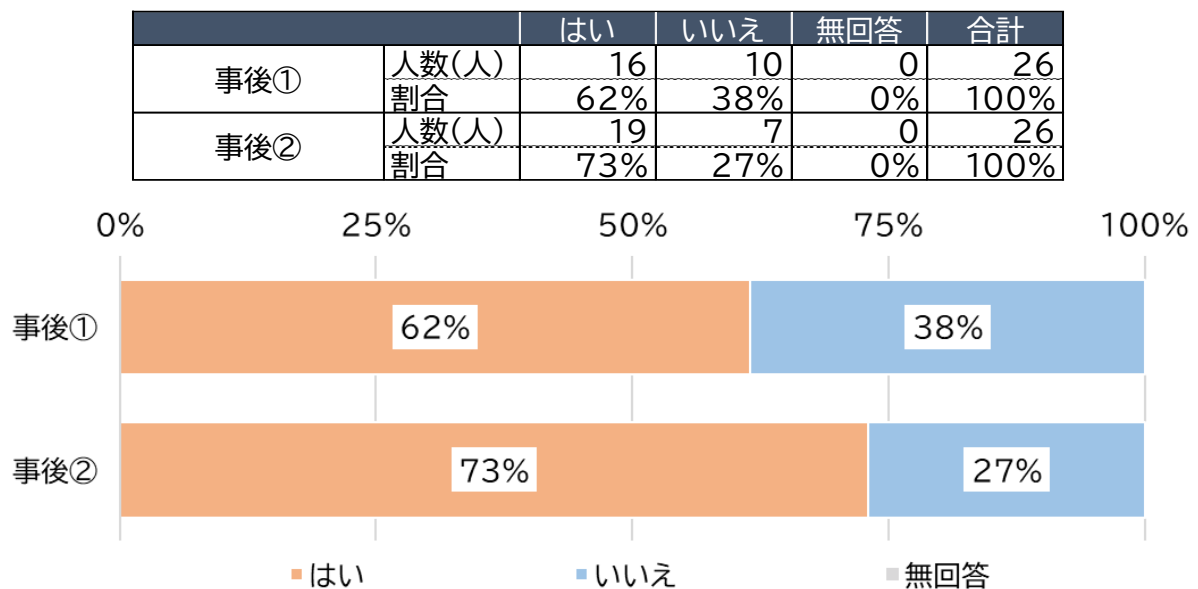
図表 XI-191 職員調査:導入機器の満足度評価(総合評価)



⑤ 導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向

導入機器の継続利用意向については「はい」の回答が多く、事後①では62%、事後②で73%であった。

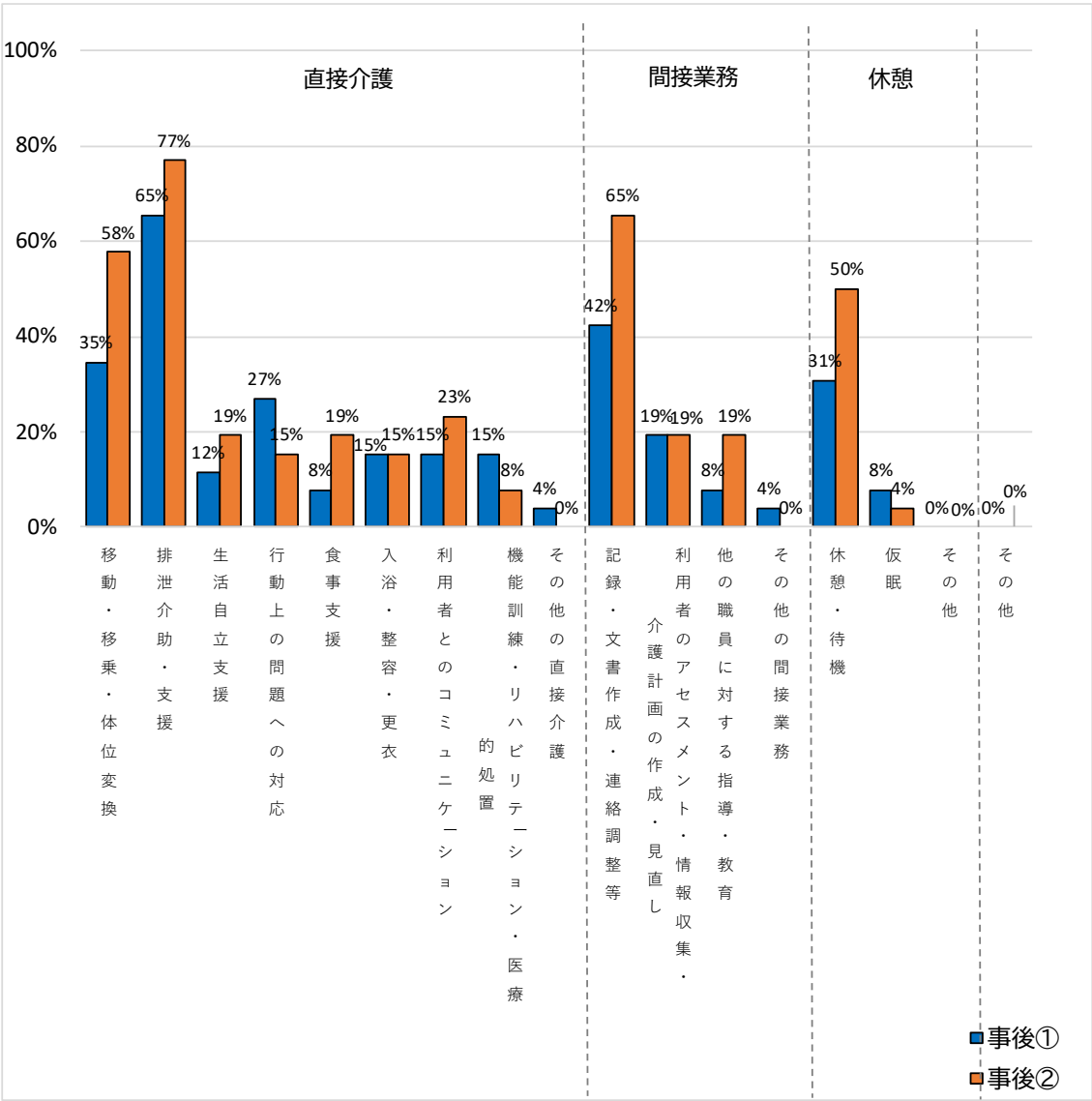
図表 XI-192 職員調査:導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向



⑥ 職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により増やすことができた時間
職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により増やすことができた時間としては、「排泄
介助・支援」「記録・文書作成・連絡等」「移動・移乗・体位交換」を挙げる職員が多かった。

図表 XI-193 職員調査:職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により
増やすことができた時間

		直接介護										間接業務					休憩			その他	無回答 (人)	合計 (人)
		移動・移乗・ 体位交換	排泄介助・ 支援	生活自立 支援	行動上の問題への 対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	機能訓練・リハビリ テーション・医療的処置	その他の直接 介護	記録・文書作成・ 連絡調整等	収集・介護計画の 作成・見直し	利用者のアセスメント・ 情報収集	他の職員に対する指導・ 教育	その他の間接 業務	休憩	仮眠	その他				
事後①	人数(人)	9	17	3	7	2	4	4	4	1	11	5	2	1	8	2	0	0	0	3	26	
	割合	35%	65%	12%	27%	8%	15%	15%	15%	4%	42%	19%	8%	4%	31%	8%	0%	0%	12%	-	26	
事後②	人数(人)	15	20	5	4	5	4	6	2	0	17	5	5	0	13	1	0	0	0	0	26	
	割合	58%	77%	19%	15%	19%	15%	23%	8%	0%	65%	19%	19%	0%	50%	4%	0%	0%	0%	-	26	



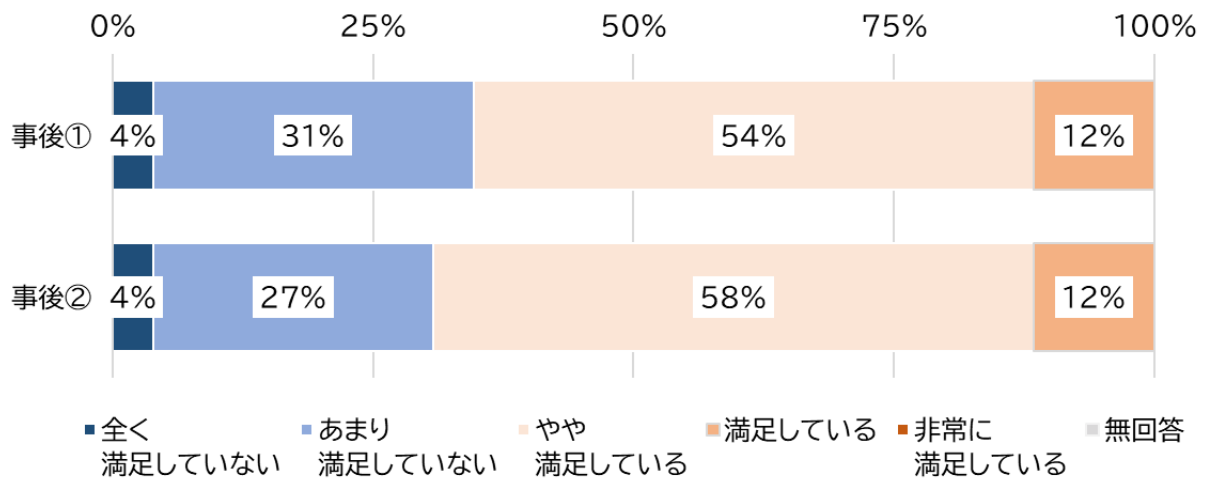
※該当する項目をすべて選択する設問。

⑦ 満足度評価

調査で導入した機器を用いたケアに対する満足度については、「やや満足している」と回答した職員の割合が、事後①では 54%、事後②では 58%であった。

図表 XI-194 職員調査：満足度評価

			全く満足 していない	あまり 満足 していない	やや満足 している	満足して いる	非常に 満足 している	無回答	合計
全体的な満足度評価	事後①	人数(人)	1	8	14	3	0	0	26
		割合	4%	31%	54%	12%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	7	15	3	0	0	26
		割合	4%	27%	58%	12%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、1(全く満足していない)～5(非常に満足している)の 5 段階で評価した。

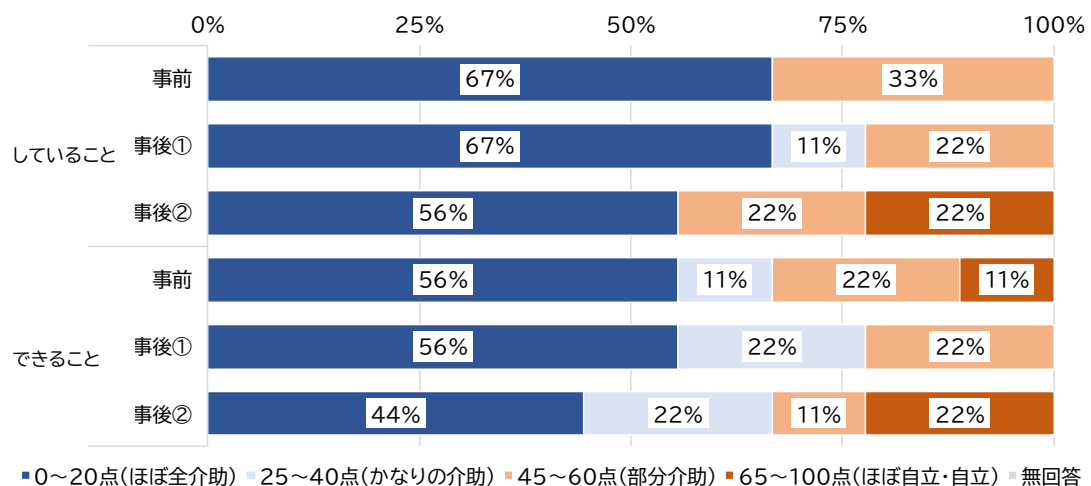
オ. 利用者向けアンケート調査結果

① ADL の変化

ADL の変化は以下の通り。

図表 XI-195 利用者調査:ADL の変化

			0点～ 20点	25点～ 40点	45点～ 60点	65点～ 100点	無回答	合計
していること	事前	人数(人)	6	0	3	0	0	9
		割合	67%	0%	33%	0%	0%	100%
	事後①	人数(人)	6	1	2	0	0	9
		割合	67%	11%	22%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	5	0	2	2	0	9
		割合	56%	0%	22%	22%	0%	100%
できること	事前	人数(人)	5	1	2	1	0	9
		割合	56%	11%	22%	11%	0%	100%
	事後①	人数(人)	5	2	2	0	0	9
		割合	56%	22%	22%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	4	2	1	2	0	9
		割合	44%	22%	11%	22%	0%	100%



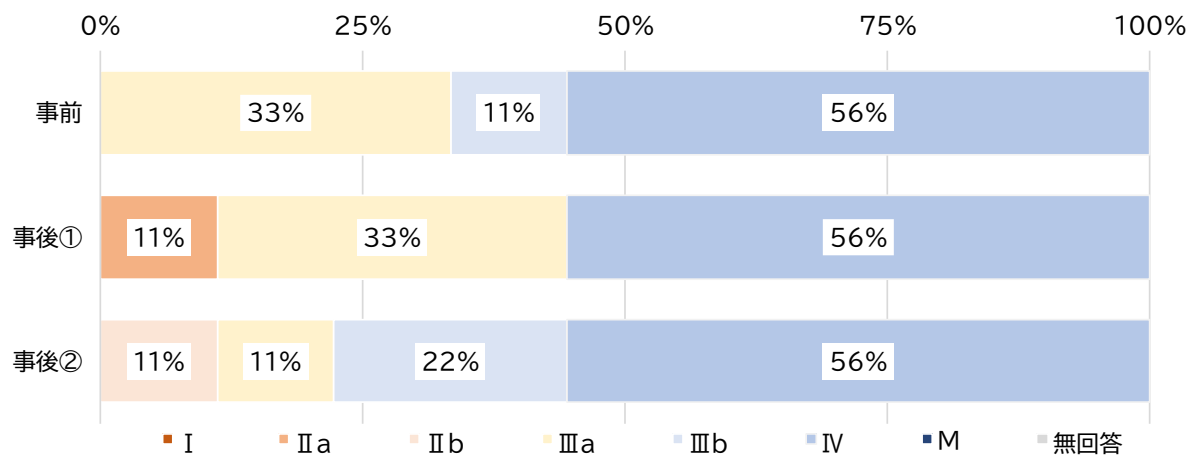
※事前調査または事後調査で、各10項目のうち1項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

② 認知症高齢者の日常生活自立度の変化

認知症高齢者の日常生活自立度は以下の通り。

図表 XI-196 利用者調査:認知症高齢者の日常生活自立度の変化

		I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	無回答	合計
事前	人数(人)	0	0	0	3	1	5	0	0	9
	割合	0%	0%	0%	33%	11%	56%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	0	1	0	3	0	5	0	0	9
	割合	0%	11%	0%	33%	0%	56%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	0	0	1	1	2	5	0	0	9
	割合	0%	0%	11%	11%	22%	56%	0%	0%	100%

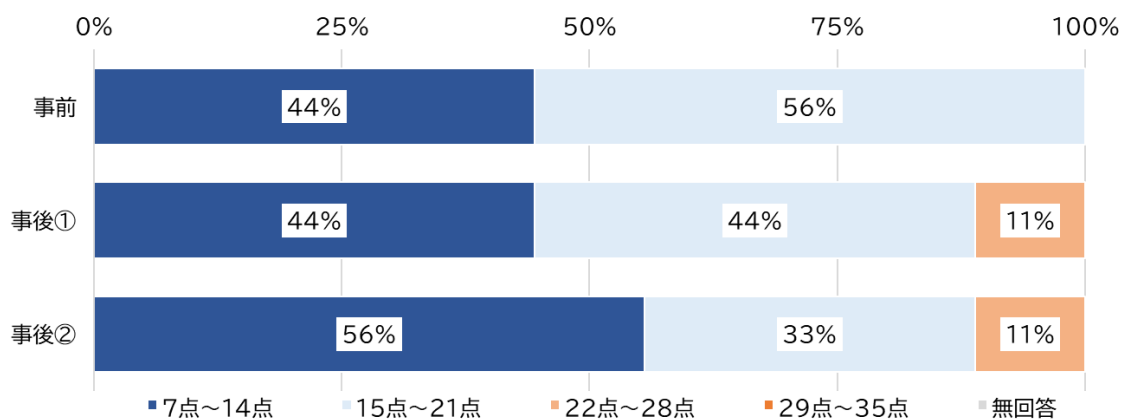


③ 生活・認知機能尺度の変化

生活・認知機能尺度の変化について、「29点～35点」の利用者の割合が、事前では0%であり、事後①および事後②では11%となった。

図表 XI-197 利用者調査:生活・認知機能尺度の変化

		7点～14点	15点～21点	22点～28点	29点～35点	無回答	合計
事前	人数(人)	4	5	0	0	0	9
	割合	44%	56%	0%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	4	4	1	0	0	9
	割合	44%	44%	11%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	5	3	1	0	0	9
	割合	56%	33%	11%	0%	0%	100%

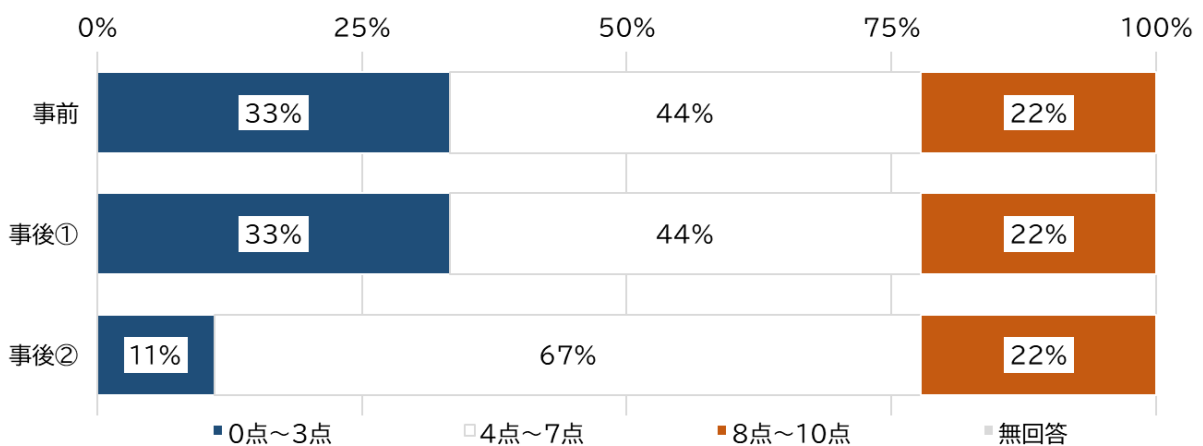


④ Vitality Index の変化

Vitality Index の変化は以下の通り。

図表 XI-198 利用者調査: Vitality Index の変化

		0点～3点	4点～7点	8点～10点	無回答	合計
事前	人数(人)	3	4	2	0	9
	割合	33%	44%	22%	0%	100%
事後①	人数(人)	3	4	2	0	9
	割合	33%	44%	22%	0%	100%
事後②	人数(人)	1	6	2	0	9
	割合	11%	67%	22%	0%	100%



※事前調査または事後調査で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、以外の場合は無回答処理をした。

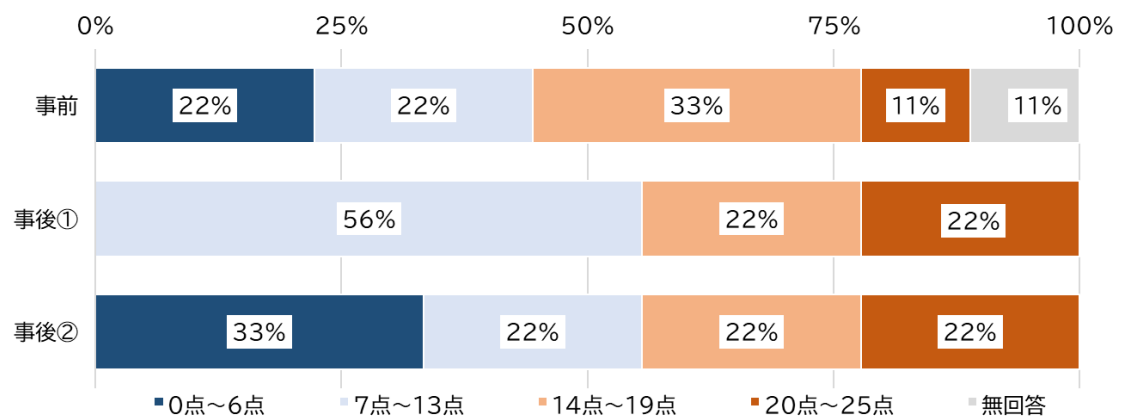
※ Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の 5 項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5 項目それぞれに0～2 点で回答し、それぞれ 2 点が最もよい状態を示す。10 点満点。

⑤ QOL(WHO-5 精神的健康状態表)の変化

QOL の変化は、「20 点以上 25 点以下」の割合が、事前では 11%、事後①および事後②では 22%となった。

図表 XI-199 利用者調査:QOL の変化

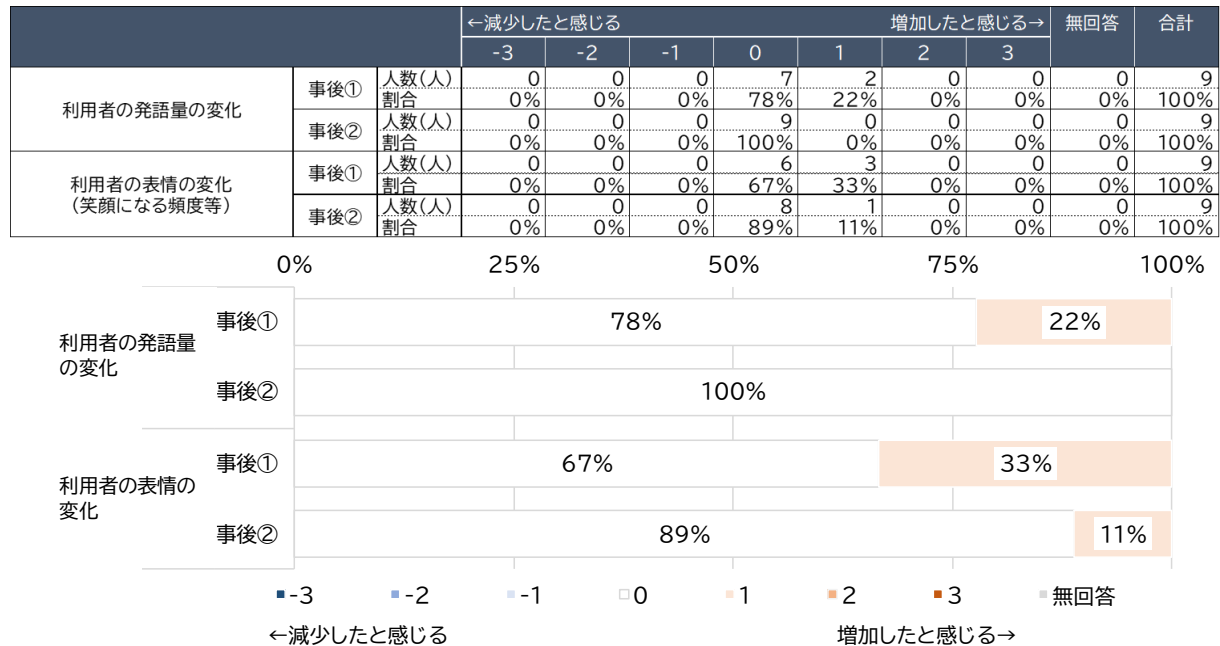
		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
事前	人数(人)	2	2	3	1	1	9
	割合	22%	22%	33%	11%	11%	100%
事後①	人数(人)	0	5	2	2	0	9
	割合	0%	56%	22%	22%	0%	100%
事後②	人数(人)	3	2	2	2	0	9
	割合	33%	22%	22%	22%	0%	100%



⑥ 機器導入によるコミュニケーションの変化

機器導入によるコミュニケーションの変化は、「0(変化なし)」に該当した利用者が最も多く、「利用者の発語量の変化」では、事後①で 78%、事後②で 100%であった。「利用者の表情の変化」では、事後①で 67%、事後②で 89%であった。

図表 XI-200 利用者調査:機器導入によるコミュニケーションの変化



※事前または事後で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

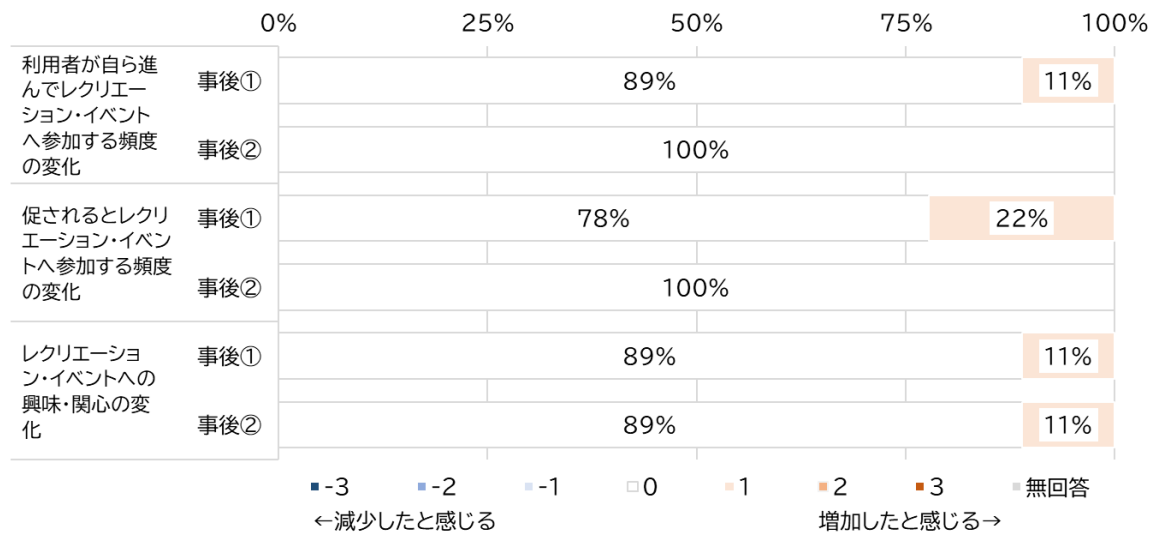
※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近2週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

⑦ 機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化は、いずれも「0(変化なし)」に該当した利用者が最も多かった。

図表 XI-201 利用者調査:機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

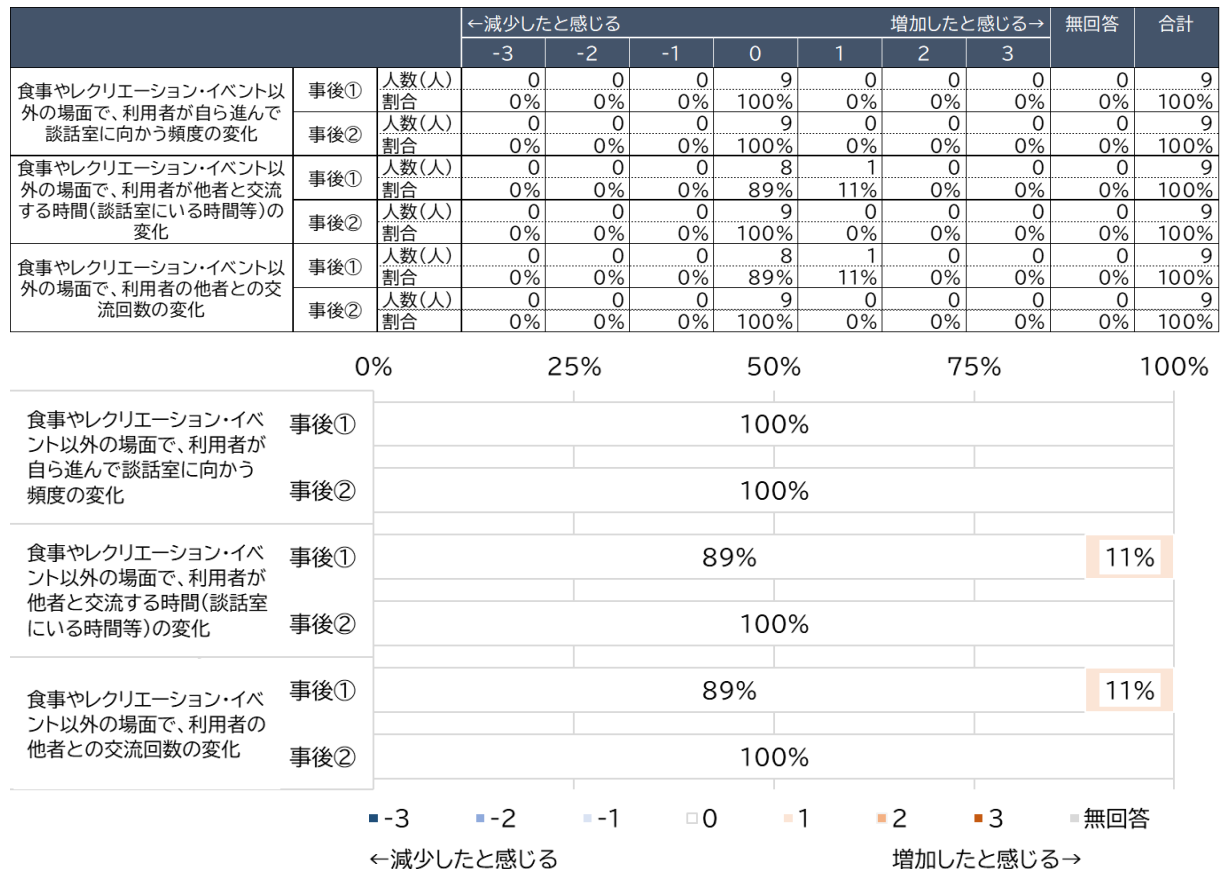
			←減少したと感じる→				増加したと感じる→				無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	8	1	0	0	0	0	9
		割合	0%	0%	0%	89%	11%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	9	0	0	0	0	0	9
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	7	2	0	0	0	0	9
		割合	0%	0%	0%	78%	22%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	9	0	0	0	0	0	9
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	8	1	0	0	0	0	9
		割合	0%	0%	0%	89%	11%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	8	1	0	0	0	0	9
		割合	0%	0%	0%	89%	11%	0%	0%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

⑧ 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化
 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化は以下の通り。

図表 XI-202 利用者調査：機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化



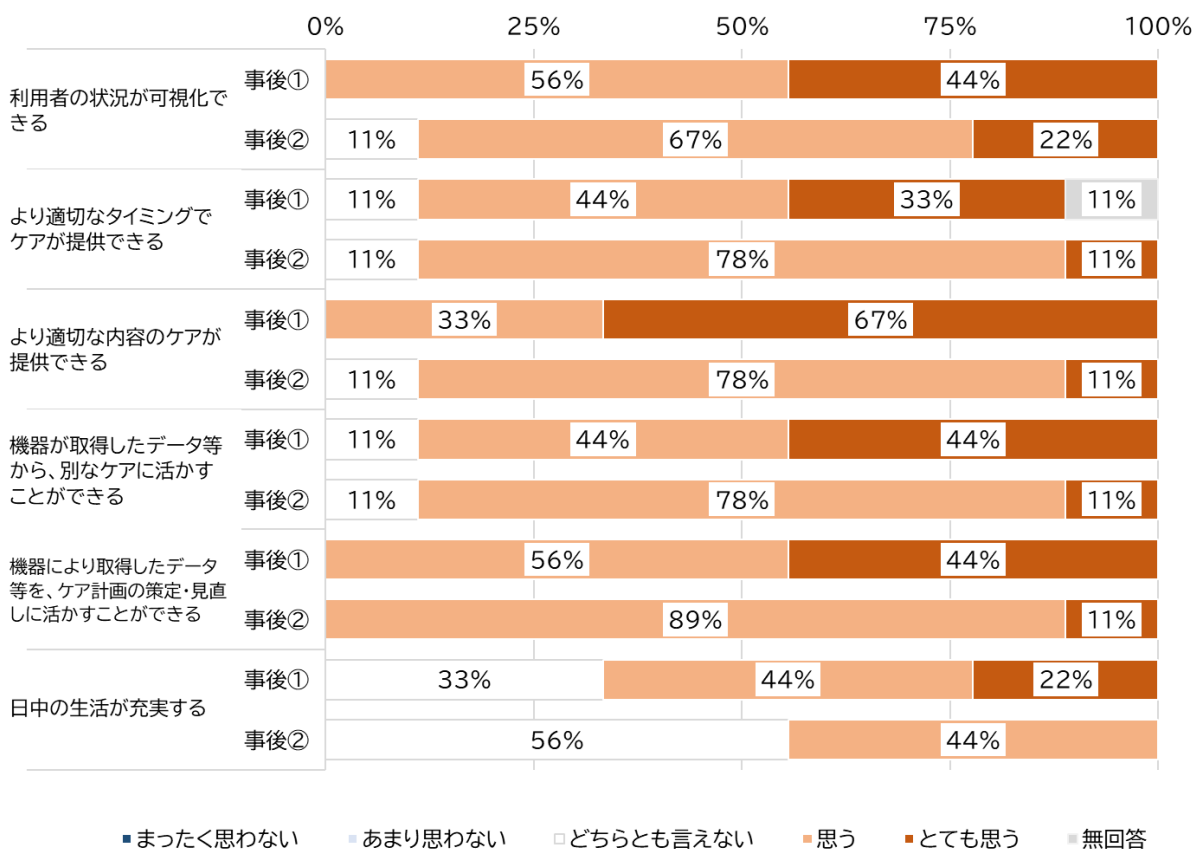
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

⑨ 機器導入によるケア内容の変更

機器導入によるケア内容の変更の変化は以下の通り。

図表 XI-203 利用者調査:機器導入によるケア内容の変更

			まったく 思わない	あまり 思わない	どちらと も言えな い	思う	とても 思う	無回答	合計
利用者の状況が可視化できる	事後①	人数(人)	0	0	0	5	4	0	9
		割合	0%	0%	0%	56%	44%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	1	6	2	0	9
		割合	0%	0%	11%	67%	22%	0%	100%
より適切なタイミングでケアが提供できる	事後①	人数(人)	0	0	1	4	3	1	9
		割合	0%	0%	11%	44%	33%	11%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	1	7	1	0	9
		割合	0%	0%	11%	78%	11%	0%	100%
より適切な内容のケアが提供できる	事後①	人数(人)	0	0	0	3	6	0	9
		割合	0%	0%	0%	33%	67%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	1	7	1	0	9
		割合	0%	0%	11%	78%	11%	0%	100%
機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	事後①	人数(人)	0	0	1	4	4	0	9
		割合	0%	0%	11%	44%	44%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	1	7	1	0	9
		割合	0%	0%	11%	78%	11%	0%	100%
機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	事後①	人数(人)	0	0	0	5	4	0	9
		割合	0%	0%	0%	56%	44%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	8	1	0	9
		割合	0%	0%	0%	89%	11%	0%	100%
日中の生活が充実する	事後①	人数(人)	0	0	3	4	2	0	9
		割合	0%	0%	33%	44%	22%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	5	4	0	0	9
		割合	0%	0%	56%	44%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、1(全く思わない)～5(とても思う)の 5 段階で評価した(回答は職員が実施)。

カ. 独自調査

各実証期間中における、夜間帯の介護職員の訪室回数と排泄ケア回数を調査した。対象利用者9名のうち、トイレ誘導(排泄予測デバイスのみ使用)の利用者3名、オムツ使用(排泄予測・便汚染予防デバイスを使用)の利用者6名について、目的別に訪室回数を集計した。

各群の利用者の概要は下記の通り。

図表 XI-204 独自調査結果:利用者の概要(トイレ誘導の利用者、オムツ利用者)

(性別)

		男性	女性	無回答	合計
トイレ誘導の利用者 (排泄予測デバイスのみ使用)	人数(人)	0	3	0	3
	割合	20%	80%	0%	100%
オムツ使用の利用者 (排泄予測・便汚染予防デバイスを使用)	人数(人)	1	5	0	6
	割合	40%	60%	0%	100%

(年齢)

		70歳未満	70歳～75歳未満	75歳～80歳未満	80歳～85歳未満	85歳～90歳未満	90歳～95歳未満	95歳以上	無回答	合計
トイレ誘導の利用者 (排泄予測デバイスのみ使用)	人数(人)	0	0	0	1	0	1	1	0	3
	割合	0%	0%	0%	20%	40%	20%	20%	0%	100%
オムツ使用の利用者 (排泄予測・便汚染予防デバイスを使用)	人数(人)	0	0	0	1	0	3	2	0	6
	割合	0%	0%	20%	20%	0%	40%	20%	0%	100%

(要介護度)

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支援	その他(区分申請中等)	無回答	合計
トイレ誘導の利用者 (排泄予測デバイスのみ使用)	人数(人)	0	0	2	1	0	0	0	0	3
	割合	20%	0%	40%	20%	20%	0%	0%	0%	100%
オムツ使用の利用者 (排泄予測・便汚染予防デバイスを使用)	人数(人)	0	0	0	4	2	0	0	0	6
	割合	0%	40%	60%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

(障害高齢者の日常生活自立度)

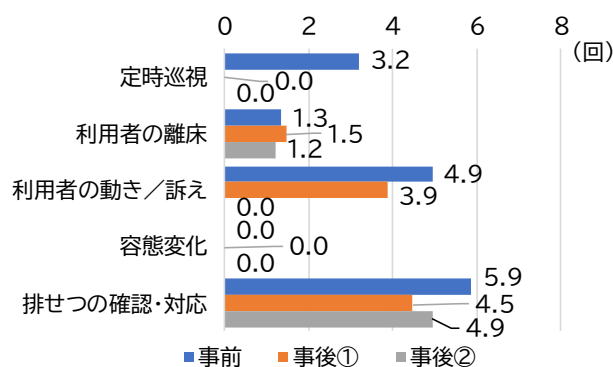
		J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明・未実施	無回答	合計
トイレ誘導の利用者 (排泄予測デバイスのみ使用)	人数(人)	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	3
	割合	0%	0%	20%	0%	0%	40%	0%	0%	40%	0%	100%
オムツ使用の利用者 (排泄予測・便汚染予防デバイスを使用)	人数(人)	0	0	0	0	0	2	1	3	0	0	6
	割合	20%	0%	0%	0%	0%	20%	0%	0%	60%	0%	100%

訪室回数について、トイレ誘導の利用者では、排泄予測デバイスの活用により、事後①および事後②における「定期巡視」を目的とした訪室が 0 回に削減した。オムツ使用の利用者においても、排泄予測・便汚染予防デバイスの活用により、事後①および事後②では「定期巡視」を目的とした訪室回数が削減した。また、トイレ誘導の利用者、オムツを使用している利用者いずれにおいても、「排泄の確認・対応」を目的とした訪室の回数は大きく変化しておらず、排泄ケアが必要なタイミングで訪室することができたと考えられる。

図表 XI-205 独自調査結果:訪室回数(利用者1人当たりの回数:1日当たり)

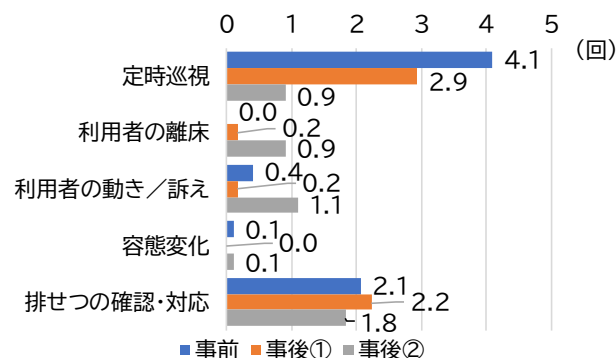
【トイレ誘導の利用者(排泄予測デバイスのみ使用)3名の平均値】

	定時巡視	利用者の離床	利用者の動き／訴え	容態変化	排せつの確認・対応
事前	3.2	1.3	4.9	0.0	5.9
事後①	0.0	1.5	3.9	0.0	4.5
事後②	0.0	1.2	0.0	0.0	4.9



【オムツ使用の利用者(排泄予測・便汚染予防デバイスを使用)6名の平均値】

	定時巡視	利用者の離床	利用者の動き／訴え	容態変化	排せつの確認・対応
事前	4.1	0.0	0.4	0.1	2.1
事後①	2.9	0.2	0.2	0.0	2.2
事後②	0.9	0.9	1.1	0.1	1.8



キ. ヒアリング調査結果

実証完了後、実証施設へのヒアリング調査を実施した。調査結果の概要は以下の通り。

図表 XI-206 生産性向上の取組状況

カテゴリ	主な意見
職員について	・ 今までの職員主体のケアから、利用者に合わせたケアができ、データが見える化されたことで負担が軽減された。排泄に合わせて体位変換やポジショニングのためのマットの使用方法も検討し、訪室回数を減らすことができたことも実感できた。 ・ 排泄予測デバイスのデータをもとに、利用者ごとに排尿量が多い時間帯を絞り込むことができ、その時間帯に合わせて排泄介助ができたので、ケアプランの見直しに役立ったと思う。 ・ 見守り支援機器と排泄予測デバイスを組み合わせることで、見守り支援機器単体よりも訪室回数を減らすことができたと思う。 ・ 夜間の巡回と排泄介助を一緒のタイミングに行うことで無駄な訪室が減った。利用者の排泄タイミングに合わせて排泄ケアができるため、失禁回数も減らすことができ、失禁後の対応(着替え、シーツ交換等)に充てていた時間を他の時間に充てることができたのはよかった。職員の負担軽減にもなった。
利用者について	・ 褥瘡予防として使用するオムツの種類の見直しや、トイレに行くための福祉用具の見直し等、自立支援につながる視点まで広げて、職員が意見交換するようになった。 ・ 夜間の訪室回数が減ることで、連続した睡眠時間が取れるようになり、日中の覚醒度も改善した利用者がいた。
施設について	・ タイムスタディに不慣れであり、紙媒体の記録に追われて業務が圧迫された影響で、超勤となる職員もいた。テクノロジーを活用した取組自体は大きな負担はなかった。 ・ 取組により、巡回が減ったことで、夜間の業務に余裕が出た。大きな事故もなかったことはリスク軽減だと思う。

図表 XI-207 委員会や取組に向けた会議の開催

カテゴリ	主な意見
開催周期・内容・参加者	・ 生産性向上委員会は月1回実施しており、今回の取組に向けた会議は別途開催した。取組期間中、4回会議を実施し、他にも適宜話し合いの機会を設けた。役職者、介護。看護職の職員の計 5～6 人が参加し、ケア内容の見直しや対象者の選定を行っている。各職員へはメールや回覧を活用して周知し、排泄ケアの時間を一覧表にしてステーションにも置いて共有

カテゴリ	主な意見
	した。 ・ 月1回グループ会議を開催しており、介護・看護職、介護支援専門員等の計 6～7 名が参加し、ケアの内容や排泄介助方法の見直し等を検討している。各職員へは施設内の SNS を活用し周知している。

図表 XI-208 実証目的に対する達成状況

カテゴリ	主な意見
利用者の観点	・ 適切なタイミングで排泄ケアができることによって、夜間の睡眠状況が改善した。眠気が強い利用者も日中の覚醒している時間を増やすことができた。 ・ 今回取組を行い、テクノロジーの活用方法が分かり、効果も実感できたので、認知症やせん妄により機器の操作が理解できないために導入を懸念していた利用者にも、テクノロジーを活用することができるのではないかと感じている。 ・ 訪室が減ることで睡眠が増え、日中の活動が増えた気がする。適切なタイミングで体位変換ができるようになった。
職員の観点	・ 取組後は職員の意識が変わり、以前よりもケアの内容に関する意見が出るようになった。 ・ 建物が 4 階建てだが、訪室が減ったことで階段移動がなくなり身体的な負担がかなり減った。 ・ 訪室が減ったことで負担が減り、他の利用者のナースコールにすぐ対応できるようになった。
施設の観点	・ 職員に余裕が生まれ、大きな事故が無くなった。尿路感染を起こす利用者が以前よりも減少したと思う。 ・ 排泄ケアで使用するパットの種類を検討し、パットのサイズを小さくする等、種類を検討することで金額が抑えられた。いづらか費用対効果はあったのではないかな。

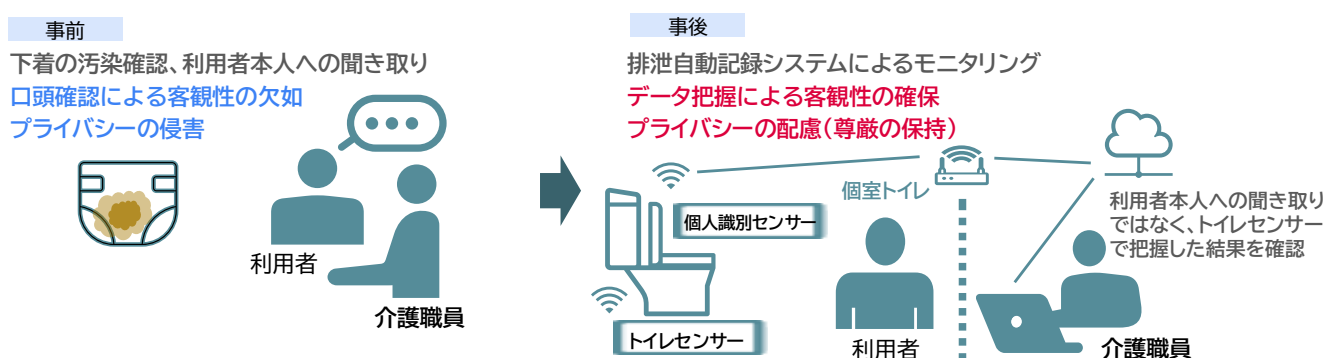
(7) 社会福祉法人友愛十字会「排泄パターンの把握による排泄ケアの生産性向上」

ア. 実証の概要

① 実証目的

自動排泄記録システム(トイレ入室者を自動で識別し、排泄物の色や形状を記録する)の導入により、トイレ動作が自立している認知症の利用者等の排泄状況を正確に把握することで、これまで自己管理が難しかった利用者の排泄状況を把握でき、介護職員による利用者の下着の汚染確認や利用者本人への聞き取りを減らすことによって、利用者の尊厳を尊重したケアの実践と介護職員の心理的負担を減らすことを目的とした。

図表 XI-209 実証イメージ



② 実証フィールドの概要

本実証では以下の実証フィールドにて効果測定を実施した。

図表 XI-210 実証フィールドの概要

実証フィールド ^a	法人名	施設名	サービス種別	導入機器
1	社会福祉法人友愛十字会	砧ホーム	介護老人福祉施設	・排泄自動記録システム(トイレ DIARY)
2	社会福祉法人友愛十字会	友愛荘	介護老人福祉施設	

③ 実証期間

調査期間は以下の通りである。

図表 XI-211 調査期間

調査	時期	補足
事前調査	令和6年9月 22 日～29 日(8 日間)	左記のうち、実証フィールド別に各 5 日間を調査期間として実施した。
事後調査①	令和 6 年 10 月 20 日～27 日(8 日間)	
事後調査②	令和 6 年 11 月 20 日～29 日(10 日間)	

調査	時期	補足
ヒアリング調査	令和7年2月2日	

⑩

④ 各調査の概要

本調査では、実証の事前と事後(2回)で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」を実施し、独自調査として「排泄状況調査」を実施した。また、実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。以下に各調査の概要を記載する。

図表 XI-212 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
タイムスタディ調査 (媒体:実証フィールド1 Excel、実証フィールド 2 紙面)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	- 回答方法:自記式(1 分刻みで自身が実施した作業項目を記入) - 調査スケジュール:事前(取組前)1 回、事後(取組後)2 回の計3回、それぞれ5日間分実施。 - 調査実施の時間帯:調査対象期間中の全勤務時間
職員向けアンケート調査 (全テーマ共通)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	- 回答方法:自記式(紙面回答) - 調査スケジュール:事前と事後2回、実証期間中それぞれについて、1名につき1回のみ回答
利用者向けアンケート調査 (全テーマ共通)	新たな取組によるケアを受けた利用者 (職員による代理回答)	- 回答方法:自記式(WEB・紙面回答) - 調査スケジュール:事前と事後2回、実証期間中それぞれについて、1名につき1回のみ回答
排泄状況調査 (独自調査)	新たな取組によるケアを受けた利用者 (職員による回答)	- 回答方法:自記式(Excel 回答) - 各実証期間を含む1か月間ごとに、対象利用者の排便回数、下剤服用回数、テクノロジーによる排便確認回数を調査。 - 調査スケジュール:事前(9 月)、事後①(10 月)、事後②(11 月)の状況を1日ごとに回答。
ヒアリング調査 (全テーマ共通)	施設管理者、部門管理者 介護職員	- 調査方法:WEB 会議による聞き取り - 調査スケジュール:実証終了後に1回実施

⑤ タイムスタディ調査項目

本調査のタイムスタディ調査項目は以下のとおり。なお、事前と事後調査の調査項目は共通とした。

図表 XI-213 タイムスタディ調査項目

NO	分類	Sub-NO	項目
A	直接介護※1	1	移動・移乗・体位変換
		2	(トイレ介助)移動・移乗
		3	(トイレ介助)排泄介助・支援
		4	(トイレ介助)排泄有無の確認(下着の確認)
		5	日常生活自立支援(※2)
		6	行動上の問題への対応(※3)
		7	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置
		8	その他の直接介護(日常生活支援、レクリエーション等)
B	間接業務	9	巡回・移動
		10	記録・文書作成・連絡調整等(※4)
		11	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し
		12	介護ロボット・ICT機器の準備・使用・確認(※5)
		13	その他の間接業務(※6)
C	休憩	14	休憩・待機・仮眠
D	その他	15	その他
E	余裕時間	16	余裕時間(突発でのケアや対応ができる状態)

※1 見守りによる介助を含む。

※2 入眠起床支援、訴えの把握

※3 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※4 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、職員間の連絡調整、文書検索等

※5 機器の充電、セッティング、設定の確認・見直し、使用(直接介護において使用する場合を除く)、画面確認、片付け作業等

※6 レクリエーションの準備等

イ. 利用者・職員概要

① 利用者概要

本調査では、トイレ動作を行うことが可能であるが、排泄回数等の自己管理が難しい利用者を対象とした。

利用者向けアンケート調査に回答があった利用者は9名であった。

図表 XI-214 利用者概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	0	9	0	9
	割合	0%	100%	0%	100%

図表 XI-215 利用者概要:年齢

		70歳未満	70歳～75歳未満	75歳～80歳未満	80歳～85歳未満	85歳～90歳未満	90歳～95歳未満	95歳以上	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	1	1	1	6	0	0	9
	割合	0%	0%	11%	11%	11%	67%	0%	0%	100%

図表 XI-216 利用者概要:要介護度

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支援	その他(区分申請中等)	無回答	合計
総数	人数(人)	0	1	7	1	0	0	0	0	9
	割合	0%	11%	78%	11%	0%	0%	0%	0%	100%

図表 XI-217 利用者概要:障害高齢者の日常生活自立度

		J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明・未実施	無回答	合計
総数	人数(人)	1	1	1	1	1	2	1	0	1	0	9
	割合	11%	11%	11%	11%	11%	22%	11%	0%	11%	0%	100%

② 職員概要

本調査において職員向けアンケート調査に回答があった職員は 24 名であった。

図表 XI-218 職員概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	16	8	0	24
	割合	67%	33%	0%	100%

図表 XI-219 職員概要:年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
総数	人数(人)	0	5	7	10	2	0	0	0	24
	割合	0%	21%	29%	42%	8%	0%	0%	0%	100%

図表 XI-220 職員概要:職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓 練指導員を 含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	23	1	0	0	0	0	0	0	24
	割合	96%	4%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

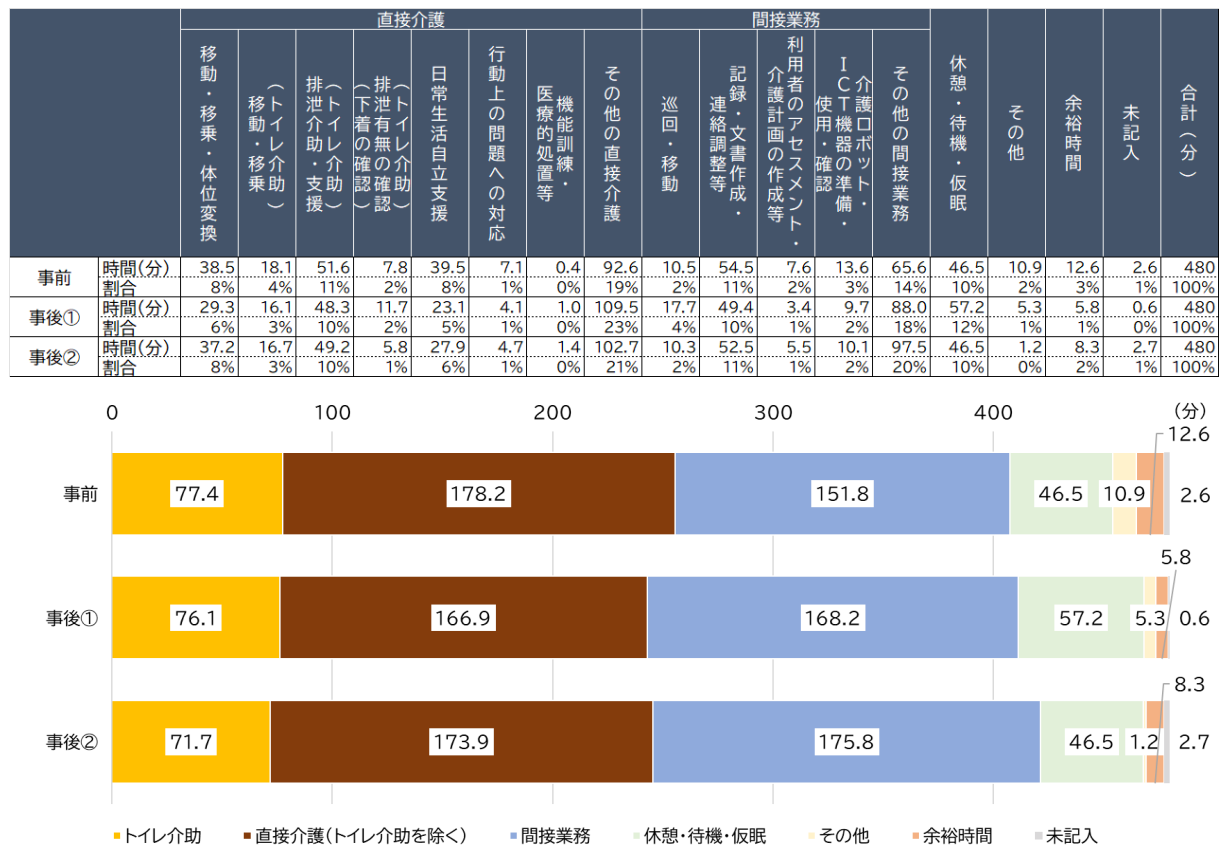
図表 XI-221 職員概要:役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	3	21	0	0	24
	割合	0%	13%	88%	0%	0%	100%

ウ. タイムスタディ調査結果

「トイレ介助」の時間は事前と比較し、事後①では 1.3 分減少し、事後②では 5.7 分減少した。「間接業務」の時間は事前と比較し、事後①で 16.4 分増加し、事後②で 24.0 分増加した。

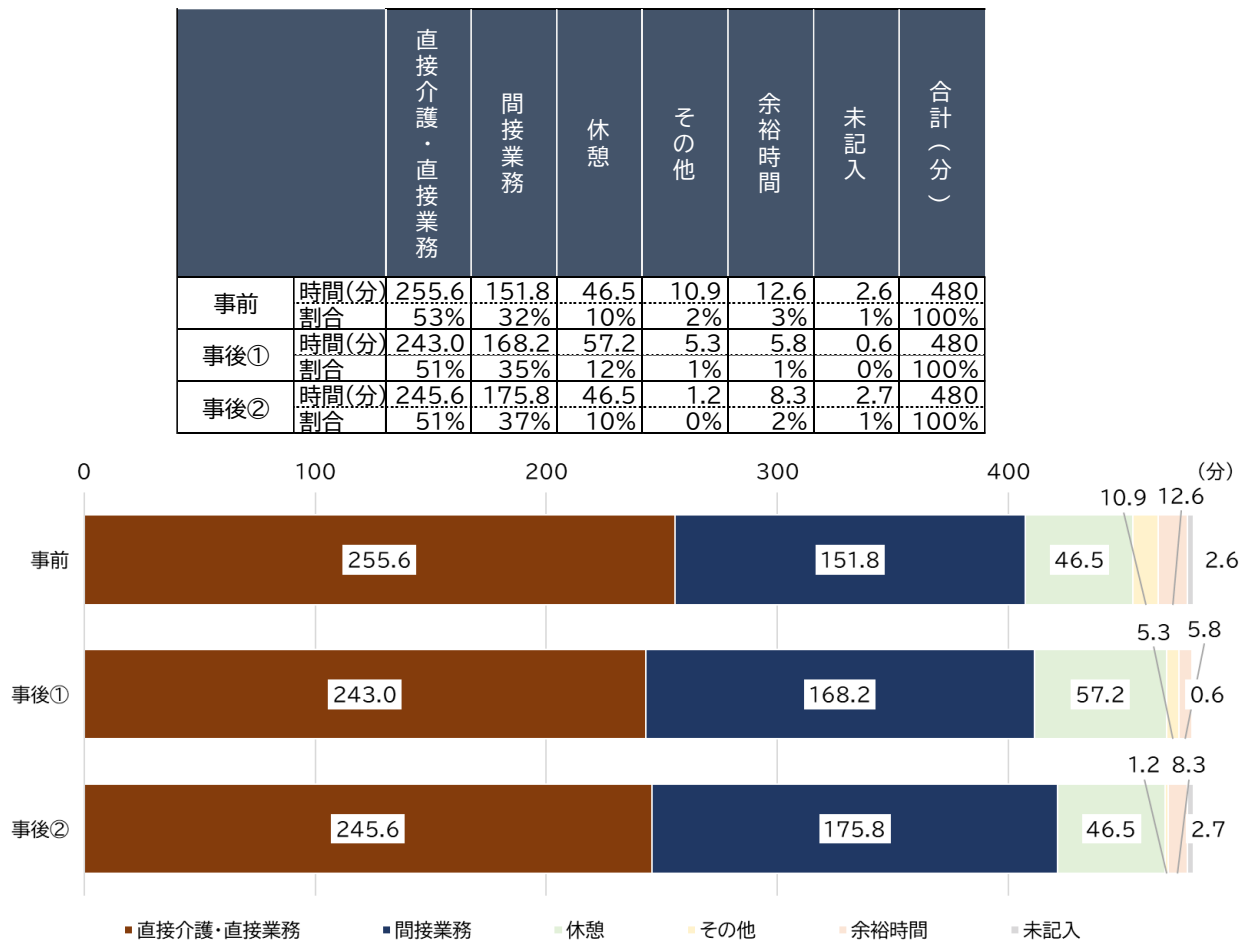
図表 XI-222 タイムスタディ調査の結果(職員1人1日(480 分)あたり)



※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

図表 XI-223 (参考:共通区分)タイムスタディ調査の結果(職員1人1日(480 分)あたり)



事前 n=25、事後①n=25、事後②n=25

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。
※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

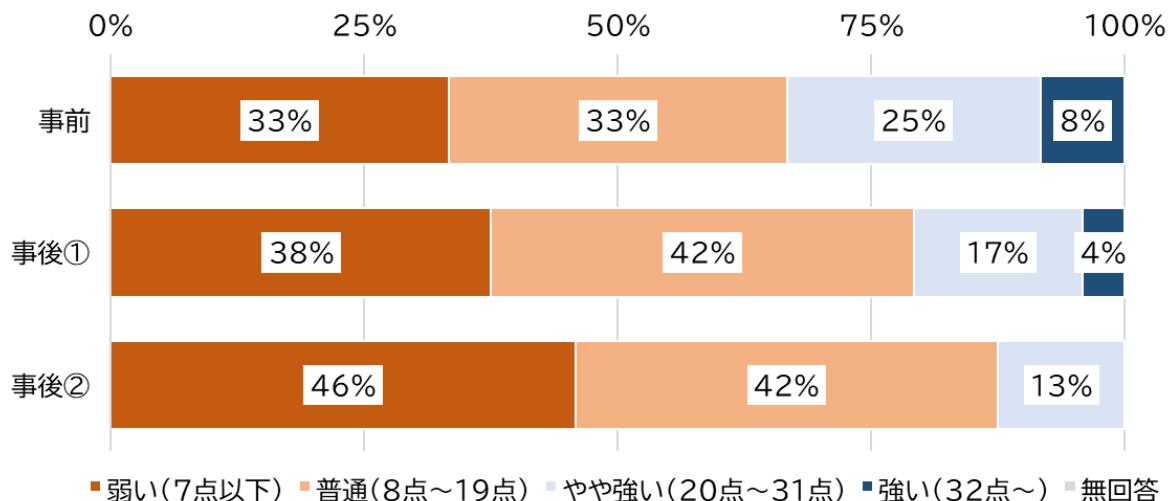
工. 職員向けアンケート調査結果

① 心理的負担評価

職員の心理的ストレス反応測定尺度合計点について事前と事後 2 回の結果を比較すると、「弱い（7点以下）」と回答した職員の割合が、事前では 33% だったが、事後①では 38%、事後②では 46% となった。

図表 XI-224 職員調査:心理的負担評価

		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
事前	人数(人)	8	8	6	2	0	24
	割合	33%	33%	25%	8%	0%	100%
事後①	人数(人)	9	10	4	1	0	24
	割合	38%	42%	17%	4%	0%	100%
事後②	人数(人)	11	10	3	0	0	24
	割合	46%	42%	13%	0%	0%	100%



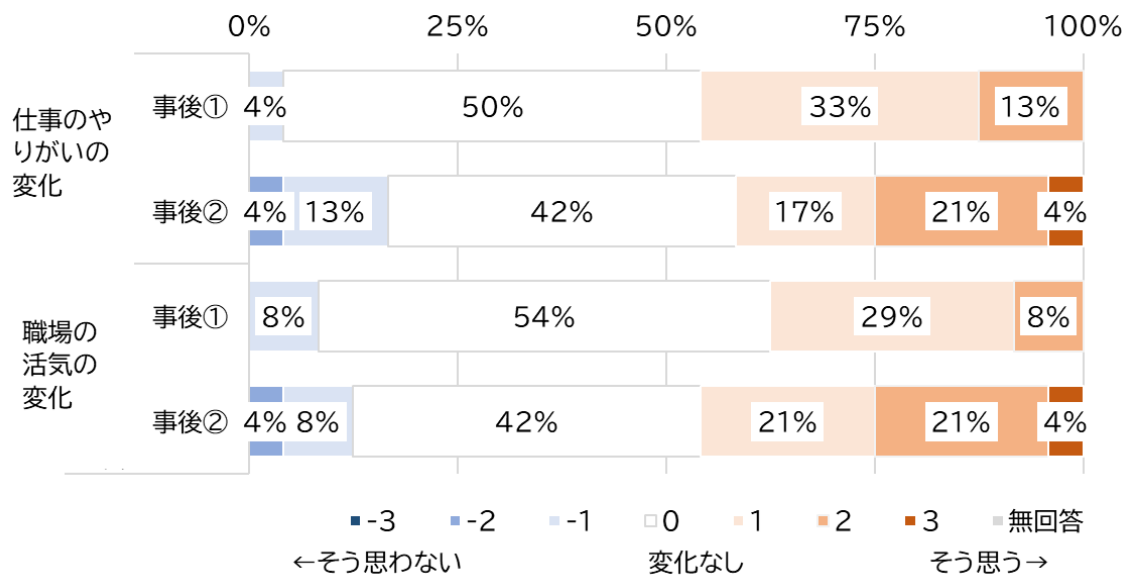
※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各 18 項目のうち 1 項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が 0、1、2、3 以外の場合は無回答処理をした。

② 機器導入によるモチベーションの変化

機器導入によるモチベーションの変化は以下の通り。

図表 XI-225 職員調査:機器導入によるモチベーションの変化

			← 減少したと感じる							増加したと感じる→	無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
仕事のやりがいの変化	事後①	人数(人)	0	0	1	12	8	3	0	0	0	24
		割合	0%	0%	4%	50%	33%	13%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	3	10	4	5	1	0	0	24
		割合	0%	4%	13%	42%	17%	21%	4%	0%	0%	100%
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	0	0	2	13	7	2	0	0	0	24
		割合	0%	0%	8%	54%	29%	8%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	2	10	5	5	1	0	0	24
		割合	0%	4%	8%	42%	21%	21%	4%	0%	0%	100%



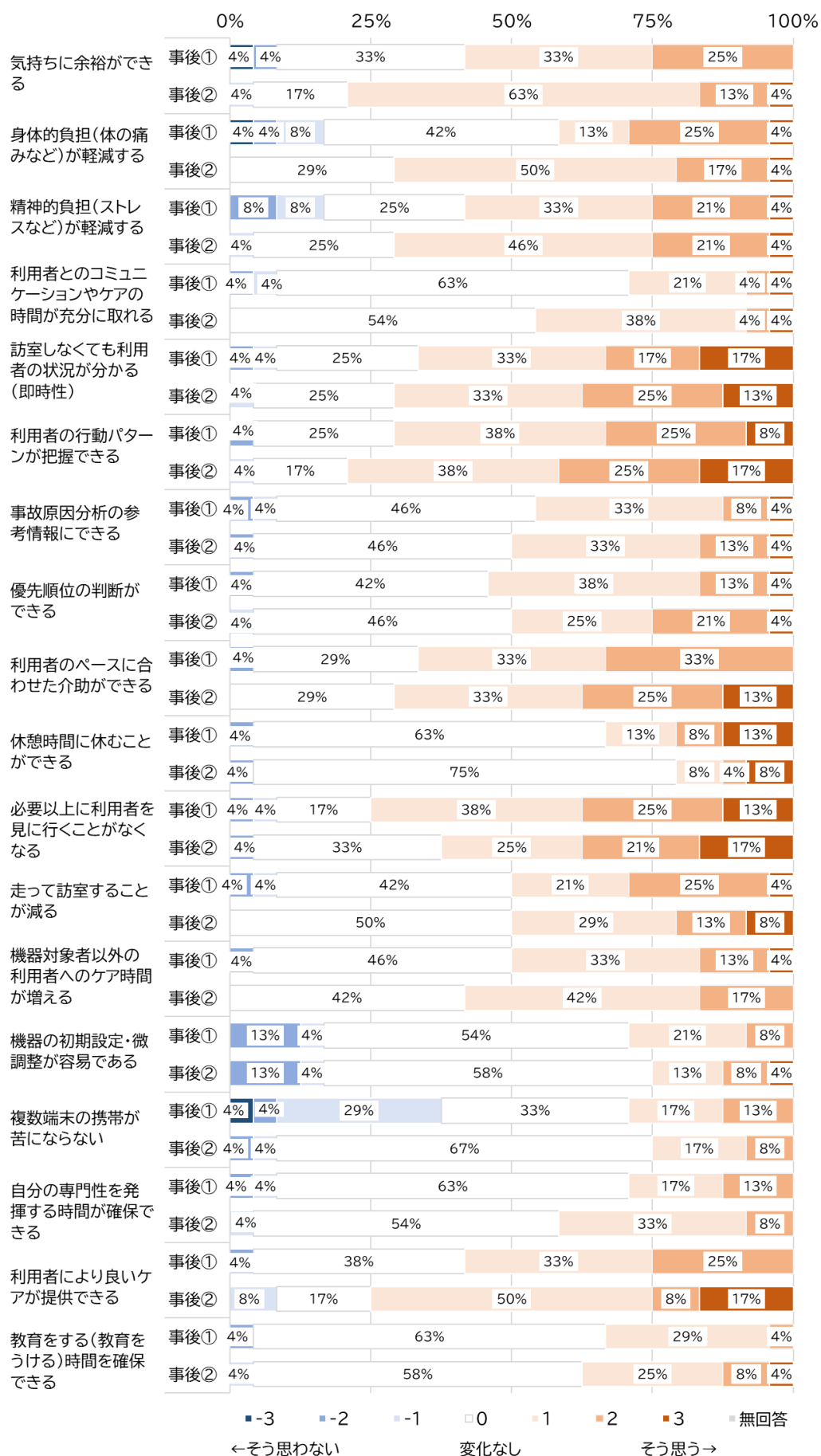
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

③ 機器導入による職員や施設業務の変化

機器導入による職員や施設業務の変化は以下の通り。

図表 XI-226 職員調査:機器導入による職員や施設業務の変化

			←そう思わない		変化なし				そう思う→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人)	1	1	0	8	8	6	0	0	0	24
		割合	4%	4%	0%	33%	33%	25%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	1	4	15	3	1	0	0	24
		割合	0%	0%	4%	17%	63%	13%	4%	0%	0%	100%
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人)	1	1	2	10	3	6	1	0	0	24
		割合	4%	4%	8%	42%	13%	25%	4%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	7	12	4	1	0	0	24
		割合	0%	0%	0%	29%	50%	17%	4%	0%	0%	100%
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人)	0	2	2	6	8	5	1	0	0	24
		割合	0%	8%	8%	25%	33%	21%	4%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	1	6	11	5	1	0	0	24
		割合	0%	0%	4%	25%	46%	21%	4%	0%	0%	100%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が十分に取れる	事後①	人数(人)	0	1	1	15	5	1	1	0	0	24
		割合	0%	4%	4%	63%	21%	4%	4%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	13	9	1	1	0	0	24
		割合	0%	0%	0%	54%	38%	4%	4%	0%	0%	100%
訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	事後①	人数(人)	0	1	1	6	8	4	4	0	0	24
		割合	0%	4%	4%	25%	33%	17%	17%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	1	6	8	6	3	0	0	24
		割合	0%	0%	4%	25%	33%	25%	13%	0%	0%	100%
利用者の行動パターンが把握できる	事後①	人数(人)	0	1	0	6	9	6	2	0	0	24
		割合	0%	4%	0%	25%	38%	25%	8%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	1	4	9	6	4	0	0	24
		割合	0%	0%	4%	17%	38%	25%	17%	0%	0%	100%
事故原因分析の参考情報にできる	事後①	人数(人)	0	1	1	11	8	2	1	0	0	24
		割合	0%	4%	4%	46%	33%	8%	4%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	0	11	8	3	1	0	0	24
		割合	0%	4%	0%	46%	33%	13%	4%	0%	0%	100%
優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	事後①	人数(人)	0	1	0	10	9	3	1	0	0	24
		割合	0%	4%	0%	42%	38%	13%	4%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	1	11	6	5	1	0	0	24
		割合	0%	0%	4%	46%	25%	21%	4%	0%	0%	100%
利用者のペースに合わせた介助ができる	事後①	人数(人)	0	1	0	7	8	8	0	0	0	24
		割合	0%	4%	0%	29%	33%	33%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	7	8	6	3	0	0	24
		割合	0%	0%	0%	29%	33%	25%	13%	0%	0%	100%
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人)	0	1	0	15	3	2	3	0	0	24
		割合	0%	4%	0%	63%	13%	8%	13%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	0	18	2	1	2	0	0	24
		割合	0%	4%	0%	75%	8%	4%	8%	0%	0%	100%
必要以上に利用者を見に行くことがなくなる	事後①	人数(人)	0	1	1	4	9	6	3	0	0	24
		割合	0%	4%	4%	17%	38%	25%	13%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	0	8	6	5	4	0	0	24
		割合	0%	4%	0%	33%	25%	21%	17%	0%	0%	100%
走って訪室することが減る	事後①	人数(人)	0	1	1	10	5	6	1	0	0	24
		割合	0%	4%	4%	42%	21%	25%	4%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	12	7	3	2	0	0	24
		割合	0%	0%	0%	50%	29%	13%	8%	0%	0%	100%
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	事後①	人数(人)	0	1	0	11	8	3	1	0	0	24
		割合	0%	4%	0%	46%	33%	13%	4%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	10	10	4	0	0	0	24
		割合	0%	0%	0%	42%	42%	17%	0%	0%	0%	100%
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人)	0	3	1	13	5	2	0	0	0	24
		割合	0%	13%	4%	54%	21%	8%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	3	1	14	3	2	1	0	0	24
		割合	0%	13%	4%	58%	13%	8%	4%	0%	0%	100%
複数端末の携帯が苦にならない	事後①	人数(人)	1	1	7	8	4	3	0	0	0	24
		割合	4%	4%	29%	33%	17%	13%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	1	16	4	2	0	0	0	24
		割合	0%	4%	4%	67%	17%	8%	0%	0%	0%	100%
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人)	0	1	1	15	4	3	0	0	0	24
		割合	0%	4%	4%	63%	17%	13%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	1	13	8	2	0	0	0	24
		割合	0%	0%	4%	54%	33%	8%	0%	0%	0%	100%
利用者により良いケアが提供できる	事後①	人数(人)	0	1	0	9	8	6	0	0	0	24
		割合	0%	4%	0%	38%	33%	25%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	2	4	12	2	4	0	0	24
		割合	0%	0%	8%	17%	50%	8%	17%	0%	0%	100%
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後①	人数(人)	0	1	0	15	7	1	0	0	0	24
		割合	0%	4%	0%	63%	29%	4%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	1	14	6	2	1	0	0	24
		割合	0%	0%	4%	58%	25%	8%	4%	0%	0%	100%

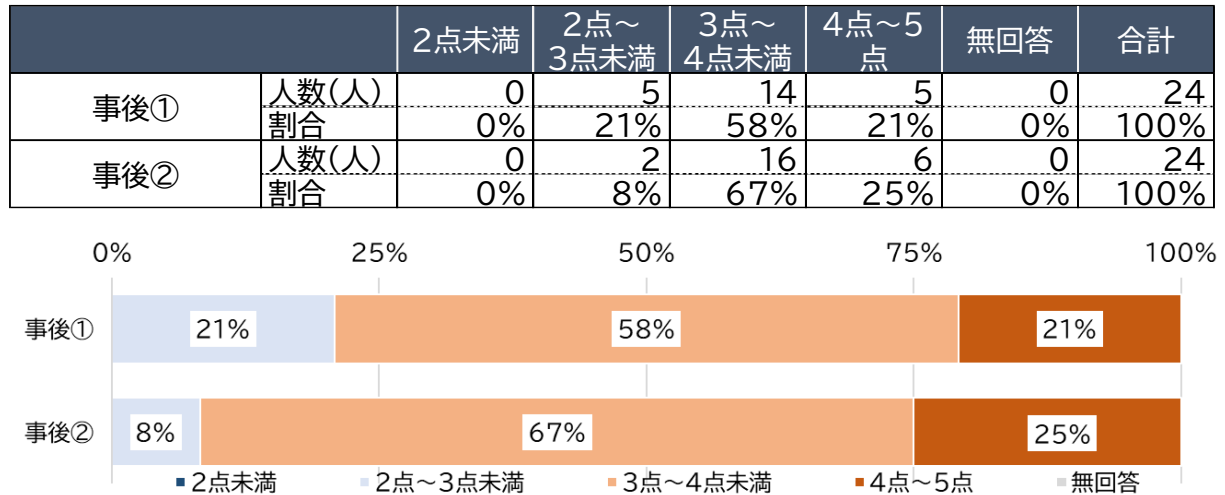


※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

④ 導入機器の満足度評価 ※出典:QUEST 福祉用具満足度評価

導入機器の満足度については、「2点～3点未満」が最も多く、事後①では58%、事後②では67%であった。

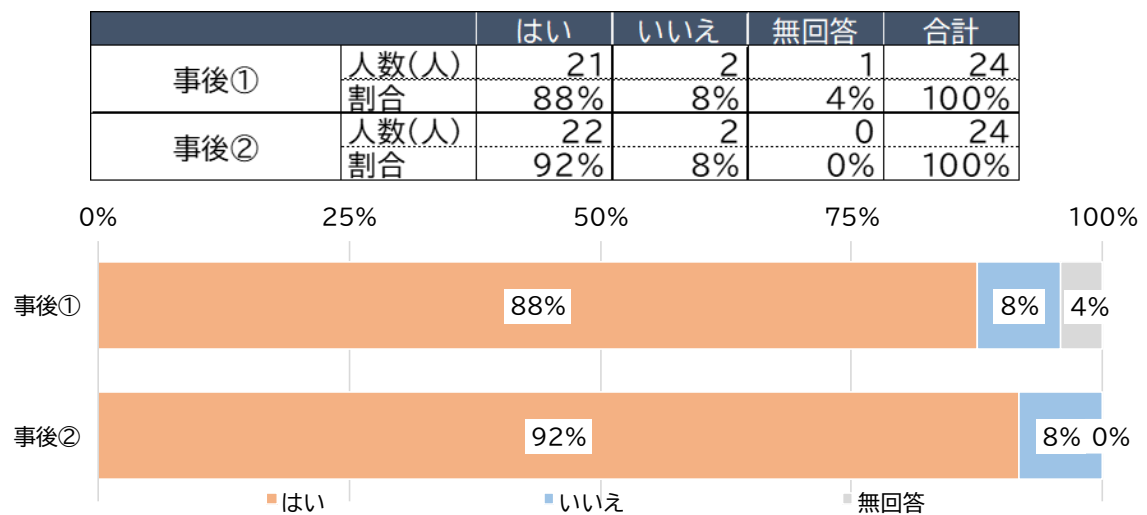
図表 XI-227 職員調査:導入機器の満足度評価(総合評価)



⑤ 導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向

導入機器の継続利用意向については「はい」の回答が多く、事後①で88%、事後②で92%であった。

図表 XI-228 職員調査:導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向

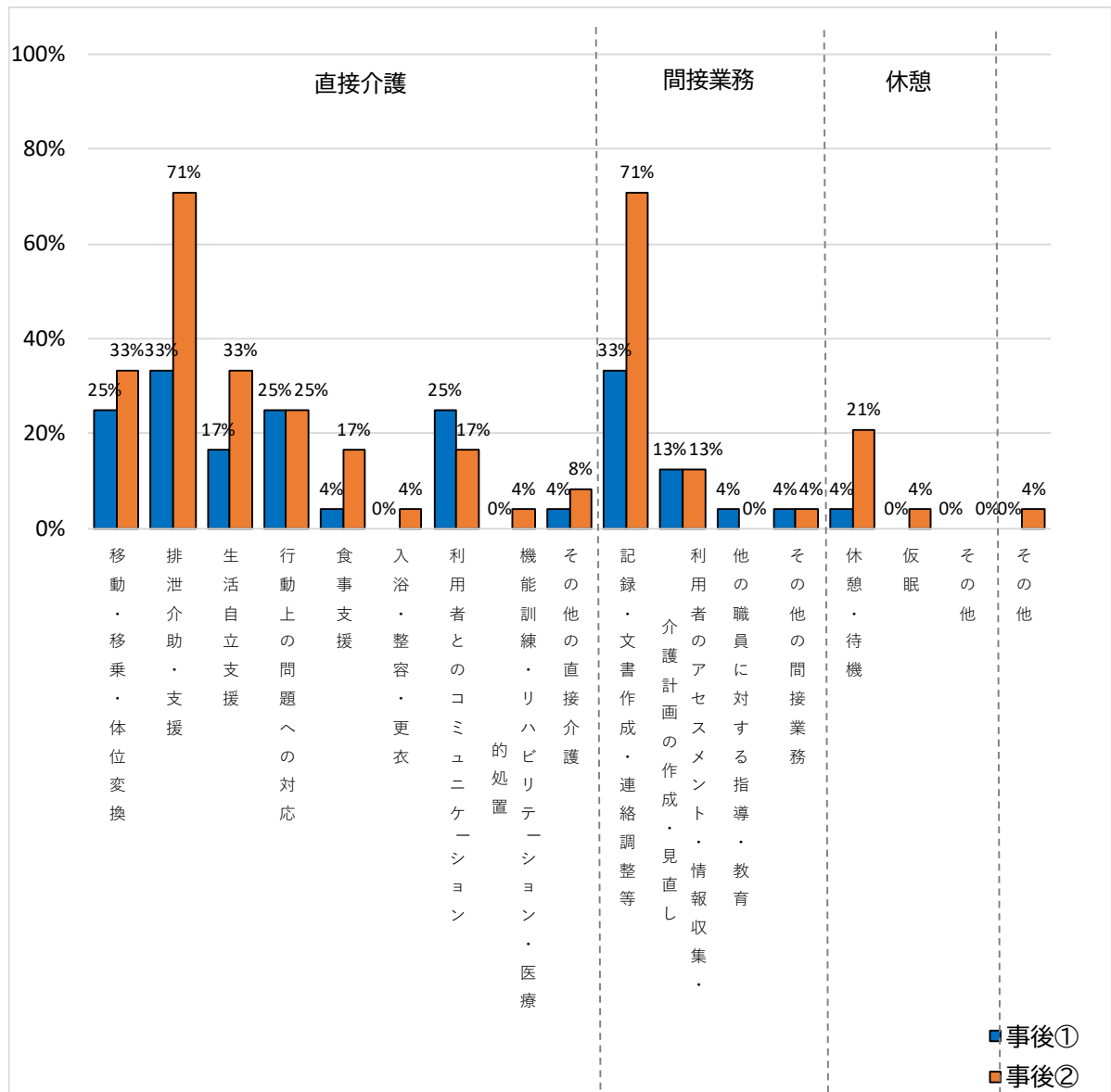


⑥ 職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により増やすことができた時間

職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により増やすことができた時間としては、「排泄介助・支援」「記録・文書作成・連絡調整等」を挙げる職員が多かった。

図表 XI-229 職員調査:職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により増やすことができた時間

		直接介護										間接業務					休憩			無回答 (人)	合計(人)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	記録・文書作成・連絡調整等	収集・介護計画の作成・見直し	利用者のアセスメント・情報	他の職員に対する指導・教育	その他の間接業務	休憩	仮眠	その他			
事後①	人数(人)	6	8	4	6	1	0	6	0	1	3	3	1	1	1	1	0	0	10	24	
	割合	25%	33%	17%	25%	4%	0%	25%	0%	4%	33%	13%	4%	4%	4%	0%	0%	0%	42%	-	
事後②	人数(人)	8	17	8	6	4	1	25	1	2	17	3	0	1	5	1	0	1	2	24	
	割合	33%	71%	33%	25%	17%	4%	17%	4%	8%	71%	13%	0%	4%	21%	4%	0%	4%	8%	-	



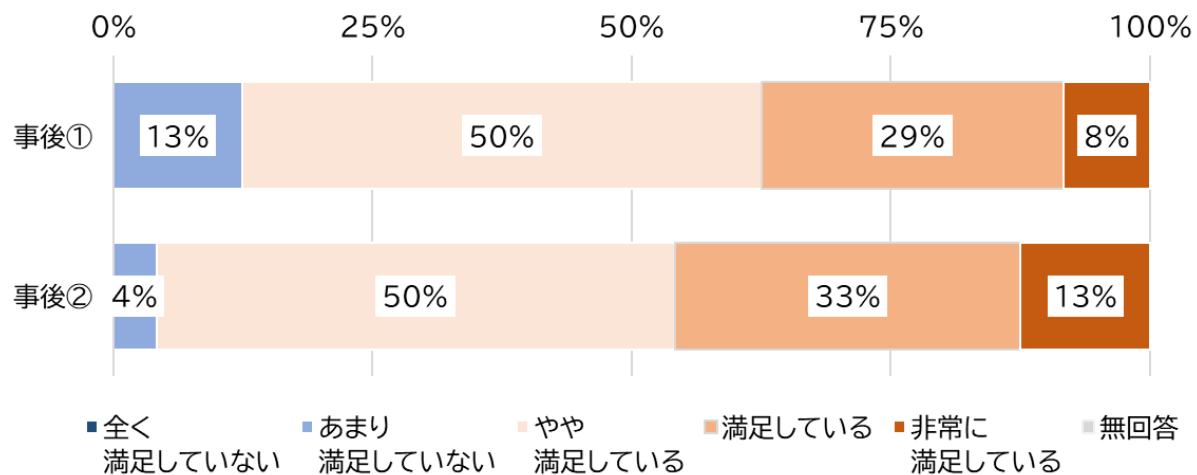
※該当する項目をすべて選択する設問。

⑦ 満足度評価

調査で導入した機器を用いたケアに対する満足度については、「やや満足している」と回答した職員の割合が、事後①後②で 50%であった。

図表 XI-230 職員調査：満足度評価

			全く満足 していない	あまり 満足 していない	やや満足 している	満足して いる	非常に 満足 している	無回答	合計
全体的な満足度評価	事後①	人数(人)	0	3	12	7	2	0	24
		割合	0%	13%	50%	29%	8%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	12	8	3	0	24
		割合	0%	4%	50%	33%	13%	0%	100%



※質問項目に対し、1(全く満足していない)～5(非常に満足している)の 5 段階で評価した。

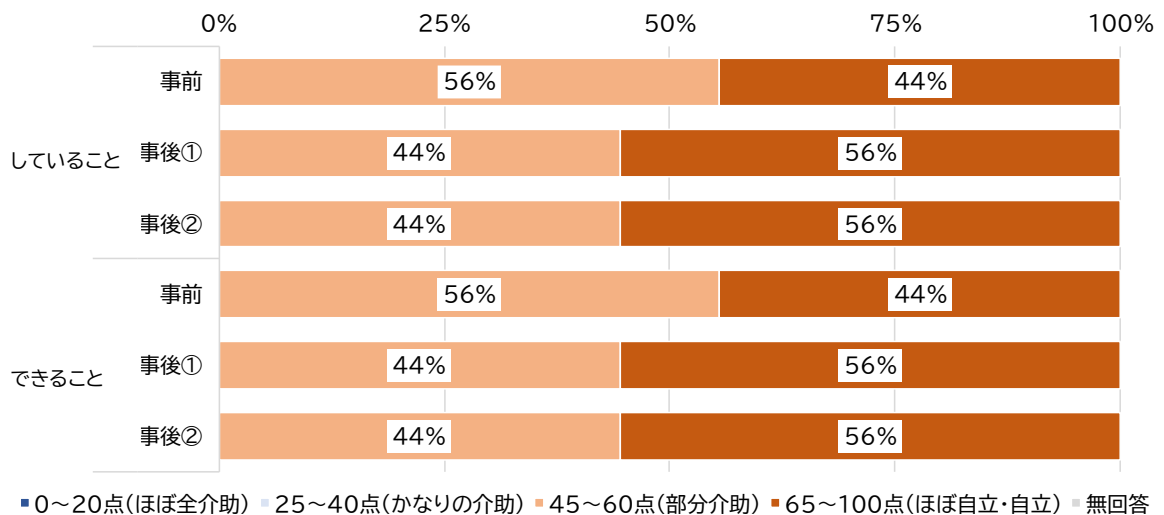
オ. 利用者向けアンケート調査結果

① ADL の変化

ADL の変化は以下の通り。

図表 XI-231 利用者調査:ADL の変化

			0点～ 20点	25点～ 40点	45点～ 60点	65点～ 100点	無回答	合計
していること	事前	人数(人)	0	0	5	4	0	9
		割合	0%	0%	56%	44%	0%	100%
	事後①	人数(人)	0	0	4	5	0	9
		割合	0%	0%	44%	56%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	4	5	0	9
		割合	0%	0%	44%	56%	0%	100%
できること	事前	人数(人)	0	0	5	4	0	9
		割合	0%	0%	56%	44%	0%	100%
	事後①	人数(人)	0	0	4	5	0	9
		割合	0%	0%	44%	56%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	4	5	0	9
		割合	0%	0%	44%	56%	0%	100%



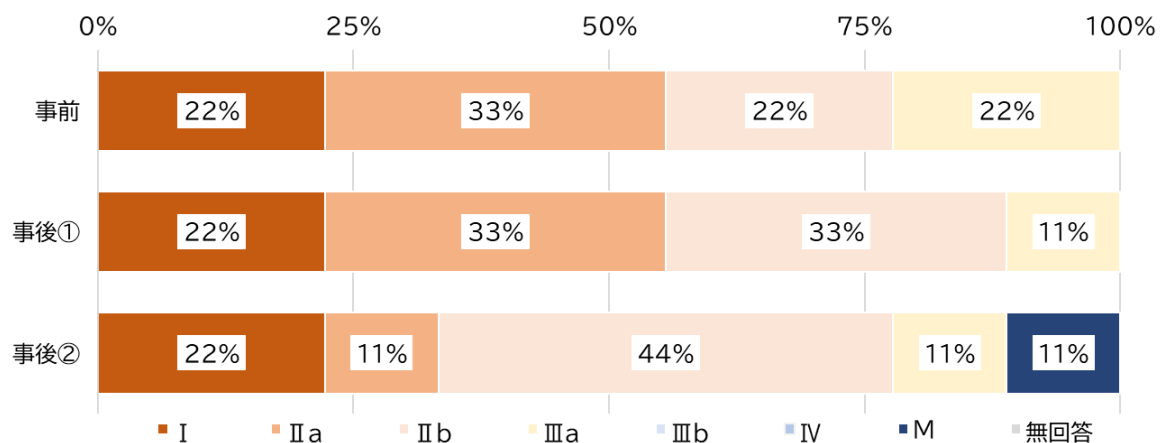
※事前調査または事後調査で、各10項目のうち1項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

② 認知症高齢者の日常生活自立度の変化

認知症高齢者の日常生活自立度は以下の通り。

図表 XI-232 利用者調査:認知症高齢者の日常生活自立度の変化

		I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	無回答	合計
事前	人数(人)	2	3	2	2	0	0	0	0	9
	割合	22%	33%	22%	22%	0%	0%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	2	3	3	1	0	0	0	0	9
	割合	22%	33%	33%	11%	0%	0%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	2	1	4	1	0	0	1	0	9
	割合	22%	11%	44%	11%	0%	0%	11%	0%	100%

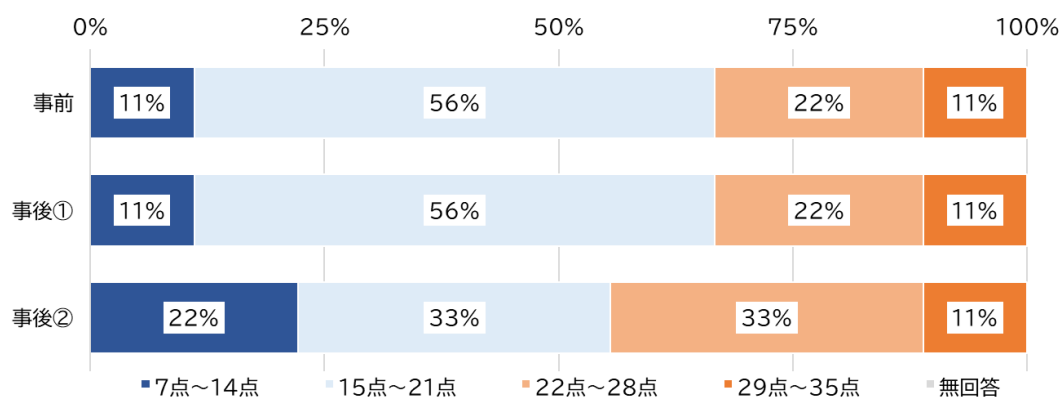


③ 生活・認知機能尺度の変化

生活・認知機能尺度の変化について、「15点～21点」の利用者の割合が、事前・事後①では56%であり、事後②では33%となった。

図表 XI-233 利用者調査:生活・認知機能尺度の変化

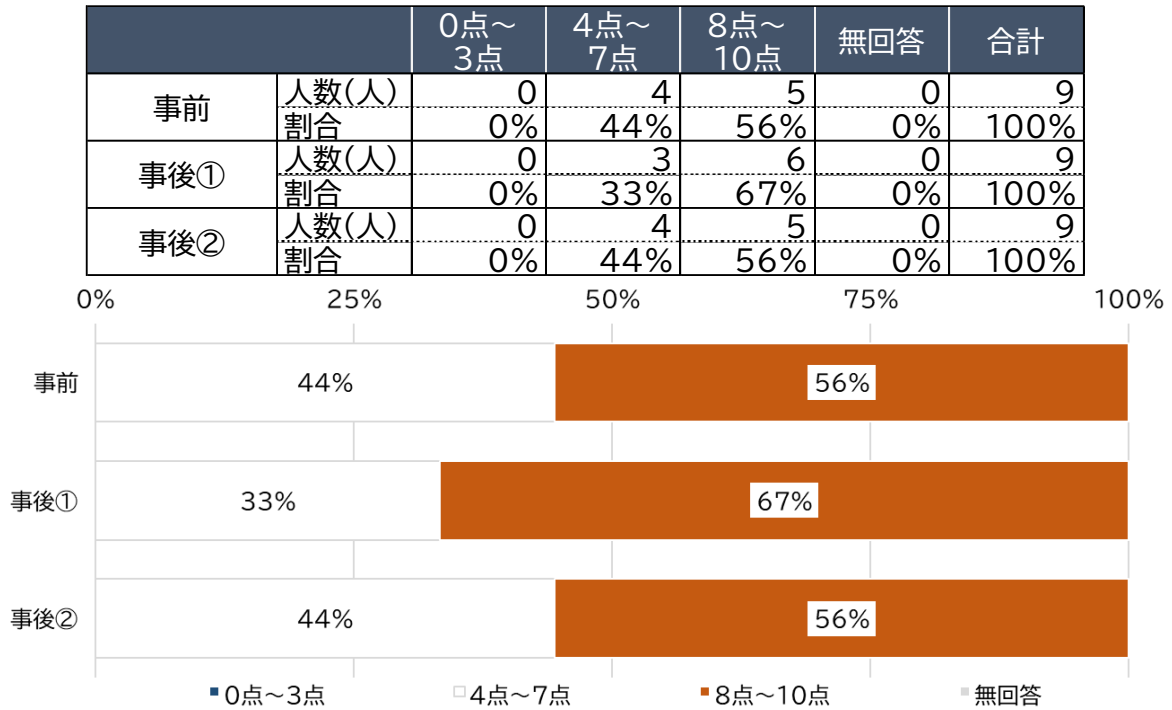
		7点～14点	15点～21点	22点～28点	29点～35点	無回答	合計
事前	人数(人)	1	5	2	1	0	9
	割合	11%	56%	22%	11%	0%	100%
事後①	人数(人)	1	5	2	1	0	9
	割合	11%	56%	22%	11%	0%	100%
事後②	人数(人)	2	3	3	1	0	9
	割合	22%	33%	33%	11%	0%	100%



④ Vitality Index の変化

Vitality Index の変化は以下の通り。

図表 XI-234 利用者調査: Vitality Index の変化



※事前調査または事後調査で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、以外の場合は無回答処理をした。

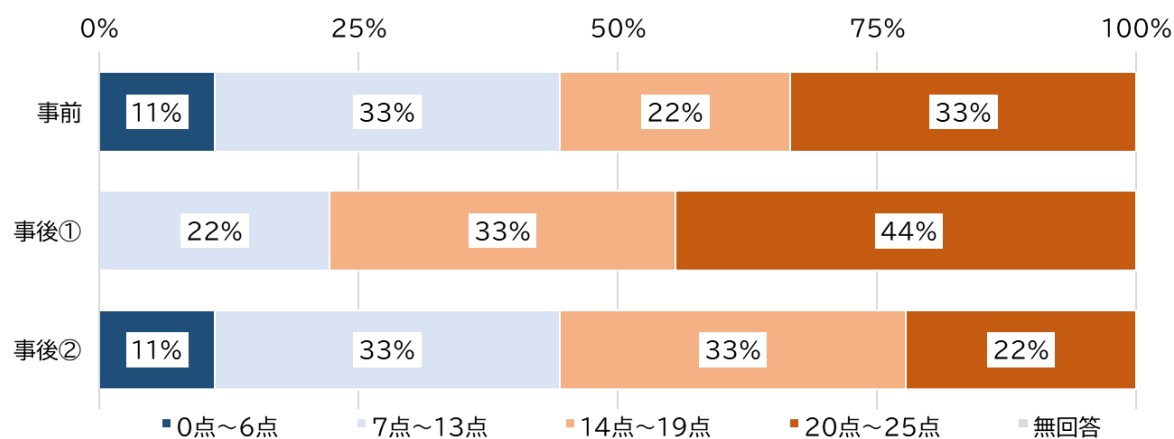
※ Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の 5 項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5 項目それぞれに0～2 点で回答し、それぞれ 2 点が最もよい状態を示す。10 点満点。

⑤ QOL(WHO-5 精神的健康状態表)の変化

QOL の変化は、「14 点以上 19 点以下」の割合が、事前では 22%、事後①②では 33%となった。

図表 XI-235 利用者調査:QOL の変化

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
事前	人数(人)	1	3	2	3	0	9
	割合	11%	33%	22%	33%	0%	100%
事後①	人数(人)	0	2	3	4	0	9
	割合	0%	22%	33%	44%	0%	100%
事後②	人数(人)	1	3	3	2	0	9
	割合	11%	33%	33%	22%	0%	100%



※事前または事後で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

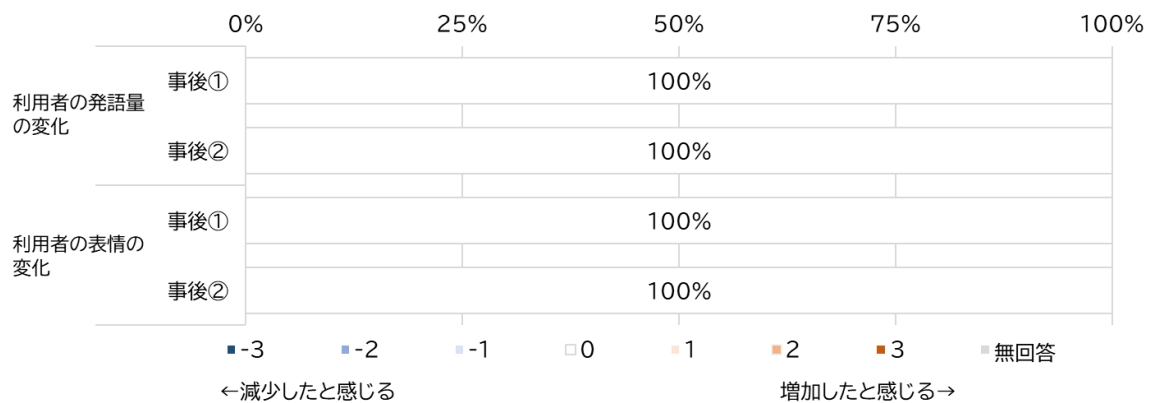
※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近2週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

⑥ 機器導入によるコミュニケーションの変化

機器導入によるコミュニケーションの変化は、「0(変化なし)」であった。

図表 XI-236 利用者調査:機器導入によるコミュニケーションの変化

			←減少したと感じる			増加したと感じる→			無回答	合計	
			-3	-2	-1	0	1	2			3
利用者の発語量の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	9	0	0	0	0	9
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	9	0	0	0	0	9
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
利用者の表情の変化 (笑顔になる頻度等)	事後①	人数(人)	0	0	0	9	0	0	0	0	9
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	9	0	0	0	0	9
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%



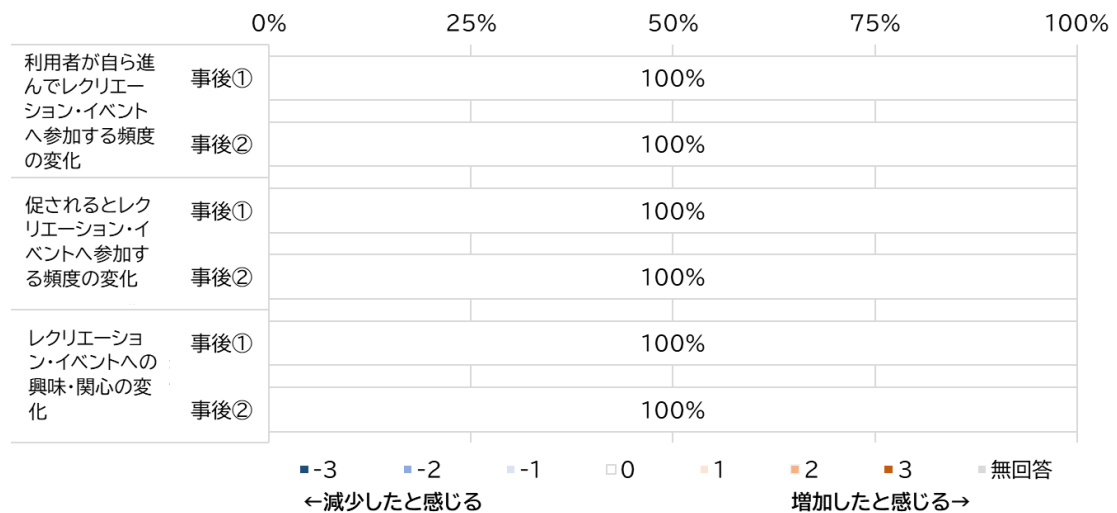
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

⑦ 機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化は、いずれも「0(変化なし)」に該当した利用者が最も多かった。

図表 XI-237 利用者調査:機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

			←減少したと感じる→					増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	9	0	0	0	0	0	9
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	9	0	0	0	0	0	9
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	9	0	0	0	0	0	9
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	9	0	0	0	0	0	9
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	9	0	0	0	0	0	9
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	9	0	0	0	0	0	9
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

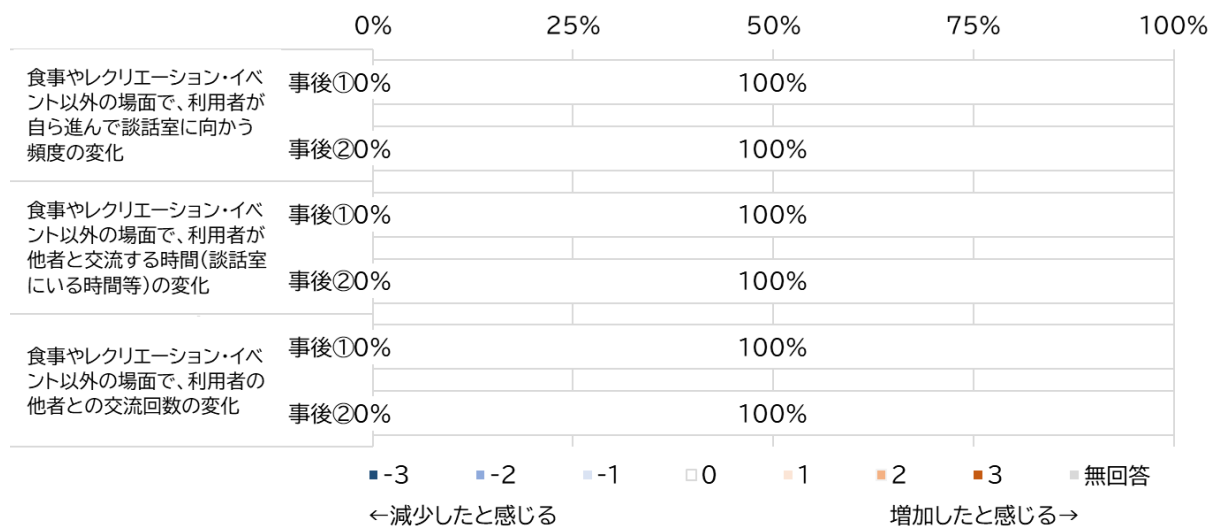


※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

⑧ 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化
 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化は以下の通り。

図表 XI-238 利用者調査：機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

			←減少したと感じる				増加したと感じる→				無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	9	0	0	0	0	0	9
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	9	0	0	0	0	0	9
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	9	0	0	0	0	0	9
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	9	0	0	0	0	0	9
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	9	0	0	0	0	0	9
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	9	0	0	0	0	0	9
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%



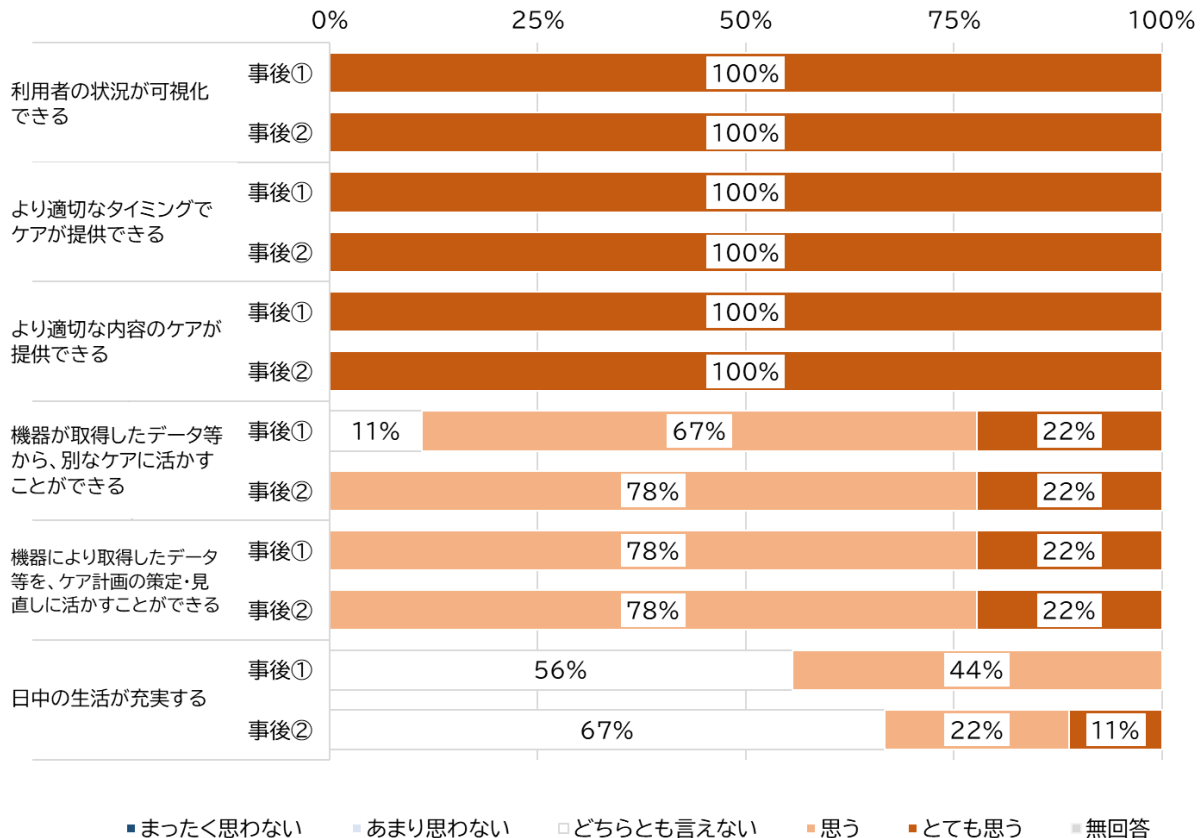
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

⑨ 機器導入によるケア内容の変更

機器導入によるケア内容の変更の変化は以下の通り。

図表 XI-239 利用者調査:機器導入によるケア内容の変更

			まったく 思わない	あまり 思わない	どちらと も言えな い	思う	とても 思う	無回答	合計
利用者の状況が可視化できる	事後①	人数(人)	0	0	0	0	9	0	9
		割合	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	0	9	0	9
		割合	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%
より適切なタイミングでケアが提供できる	事後①	人数(人)	0	0	0	0	9	0	9
		割合	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	0	9	0	9
		割合	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%
より適切な内容のケアが提供できる	事後①	人数(人)	0	0	0	0	9	0	9
		割合	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	0	9	0	9
		割合	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%
機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	事後①	人数(人)	0	0	1	6	2	0	9
		割合	0%	0%	11%	67%	22%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	7	2	0	9
		割合	0%	0%	0%	78%	22%	0%	100%
機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	事後①	人数(人)	0	0	0	7	2	0	9
		割合	0%	0%	0%	78%	22%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	7	2	0	9
		割合	0%	0%	0%	78%	22%	0%	100%
日中の生活が充実する	事後①	人数(人)	0	0	5	4	0	0	9
		割合	0%	0%	56%	44%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	6	2	1	0	9
		割合	0%	0%	67%	22%	11%	0%	100%



※質問項目に対し、1(全く思わない)～5(とても思う)の 5 段階で評価した(回答は職員が実施)。

カ. 独自調査

各実証期間を含む1か月間ごとに、対象利用者の排便回数、下剤服用回数、テクノロジーによる排便確認回数を調査した。調査時期は事前(9月)、事後①(10月)、事後②(11月)とし、テクノロジーによる排便確認回数は、トイレを使用したものの排泄がなかった場合も含めて、記録があった回数を集計対象とした。

対象となった9名の利用者のうち、排泄管理にテクノロジー活用が効果的であった利用者2名について、以下に結果を示す。

対象利用者はトイレ動作が自立しているものの利用者自身の認知症の影響により、排泄状況の記録や報告が難しい状況であった。そのため、介護職員は利用者本人から排泄状況を確認することに苦渋し、利用者の下着汚染の確認や介護職員の把握できた排泄記録をもとに下剤の服用を行っていたが、テクノロジー活用により利用者の排泄状況を適切に把握することができ、下剤の服用回数を減らすことができた。

図表 XI-240 独自調査結果:排便回数、下剤服用回数、テクノロジーによる排便確認回数調査

利用者	調査時期	排便回数	下剤服用回数	テクノロジーによる排便確認回数
利用者A	事前	9	5	0
	事後①	10	5	1
	事後②	8	0	13
利用者B	事前	11	1	0
	事後①	6	5	1
	事後②	6	0	7

※テクノロジーによる排便確認回数は、排泄がなかった場合も含めて記録があった回数を集計対象とした。

キ. ヒアリング調査結果

実証完了後、実証施設へのヒアリング調査を実施した。調査結果の概要は以下の通り。

図表 XI-241 生産性向上の取組状況

カテゴリ	主な意見
職員について	- 対象となる職員向けに説明会を実施したり、マニュアルを作成して共有することで、混乱なく導入できた。 - オペレーションに慣れるまでは、ネガティブな職員もいたが、取組のメリットの方が大きいと感じた。 - システム上で排泄状況を介護記録へ正確に記録できることによって、ケア記録の内容が充実した。
利用者について	- 前向きに受け入れてもらえた利用者が多かったが、一部、カメラによる顔認証システムを嫌がる利用者もいた。繰り返し、丁寧に説明し、同意をいただくように対応した。 - 過度な下剤の服用を減らすことができ、利用者の負担も減らせるのではないかと。
施設について	- 現場の印象として、下剤の服用が減っている印象があり、ゆくゆくは薬剤のコスト減につながるのではないかと。併せて、尿や便の漏れを防ぐパッドの使用も減り、コスト削減につながるのではないかと。 - 利用者の排便コントロールが適切に行えることで、ケアの質が向上し、職員の業務負担も減らすことができると感じた。他の業務に時間をかけられるようになったのではないかと。

図表 XI-242 委員会や取組に向けた会議の開催

カテゴリ	主な意見
開催周期・内容・参加者	- 月2回、委員会を開催し、取組の進捗やテクノロジーの使い方・取り組みの方針を確認した。役職者(施設長・介護部長・主任・副主任等)や機能訓練指導員が参加している。(実証フィールド1) - 委員会自体はないが、来年度から会議体を設置する方向である。取組にあたり、適宜、役職者(主任・副主任等)やリーダーに情報共有した。(実証フィールド2)

図表 XI-243 実証目的に対する達成状況

カテゴリ	主な意見
職員の観点	排便状況の確認を完全になくすことは難しいが、排泄の確認回数やタイミングを利用者に合わせるできるようになった。

カテゴリ	主な意見
	・ 下剤服用を利用者の排便サイクルに合わせる観点では、今後、医務の担当部署との連携を図りたい。 ・ 利用者へのケアの質は上がると感じる。施設では、職員の入れ替わりや移動により体制が安定しにくい、安定している施設であればより取組の効果が上がるのではないかと。今回の調査期間で、残業時間が発生しているのは、取組の影響よりは人手不足による影響が大きい。

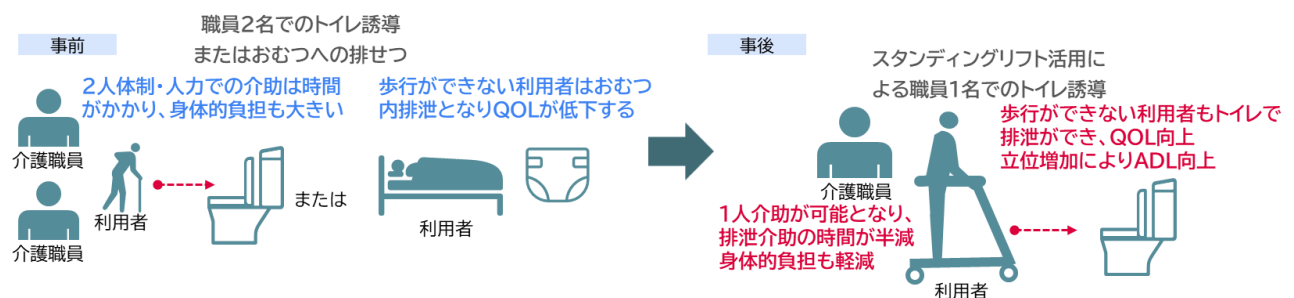
(8) ユニ・チャーム株式会社「トイレ移動やトイレ動作の自立支援」

ア. 実証の概要

① 実証目的

スタンディングリフトの活用により、それまでの介護職員 2 人体制でのトイレ誘導またはおむつ内排泄を、介護職員 1 人でのトイレ誘導に置き換えることで、利用者の立位増加による ADL 向上とおむつ内排泄回数の削減による QOL 向上、排泄介助時間短縮による職員の業務効率化と身体的負担の軽減を目的とした。

図表 XI-244 実証イメージ



② 実証フィールドの概要

本実証では以下の実証フィールドにて効果測定を実施した。

図表 XI-245 実証フィールドの概要

実証フィールド	法人名	施設名	サービス種別	導入機器
1	社会福祉法人麗寿会	ふれあいの麗寿	介護老人福祉施設	・スタンディングリフト (Hug)
2	社会福祉法人橘風会	特別養護老人ホーム ねむの丘(ユニット型)	介護老人福祉施設	・スタンディングリフト (スカイリフト)
3	社会福祉法人橘風会	特別養護老人ホーム ねむの丘(従来型)	介護老人福祉施設	

③ 実証期間

調査期間は以下の通りである。

図表 XI-246 調査期間

調査	時期	補足
事前調査	令和 7 年9月 8 日～12日(5 日間)	左記のうち、実証フィールド別に各 5 日間を調査期間とし
事後調査①	令和 7 年10月27日～31日(5 日間)	

調査	時期	補足
事後調査②	令和7年12月15日～29日(15日間)	て実施した。
ヒアリング調査	令和8年2月17、18日	

④ 各調査の概要

本調査では、実証の事前と事後(2回)で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」を実施し、独自調査として「腰痛アンケート調査」、「排泄状況調査」を実施した。また、実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。以下に各調査の概要を記載する。

図表 XI-247 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
タイムスタディ調査 (媒体:紙面)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	- 回答方法:自記式(1分刻みで自身が実施した作業項目を記入) - 調査スケジュール:事前(取組前)1回、事後(取組後)2回の計3回、それぞれ5日間分実施。 - 調査実施の時間帯:調査対象期間中の全勤務時間
職員向けアンケート調査 (全テーマ共通)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	- 回答方法:自記式(WEB 回答) - 調査スケジュール:事前と事後2回、実証期間中それぞれについて、1名につき1回のみ回答
利用者向けアンケート調査 (全テーマ共通)	新たな取組によるケアを受けた利用者 (職員による代理回答)	- 回答方法:自記式(WEB 回答) - 調査スケジュール:事前と事後2回、実証期間中それぞれについて、1名につき1回のみ回答
腰痛アンケート(独自調査)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	- 回答方法:自記式(WEB) - 調査スケジュール:事前と事後2回、実証期間中それぞれについて、1名につき1回のみ回答
排泄状況調査(独自調査)	新たな取組によるケアを受けた利用者	- 回答方法:職員が記録した排泄日誌 - 調査スケジュール:調査対象期間中の日中(7時～21時)
ヒアリング調査 (全テーマ共通)	施設管理者、部門管理者 介護職員	- 調査方法:対面による聞き取り - 調査スケジュール:実証終了後に1回実施

⑤ タイムスタディ調査項目

本調査のタイムスタディ調査項目は以下のとおり。なお、事前と事後調査の調査項目は共通とした。

図表 XI-248 タイムスタディ調査項目

NO	分類	Sub-NO	項目
A	直接介護※1	1	(トイレ誘導時の)移動・移乗
		2	(トイレ誘導時以外の)移動・移乗、体位変換
		3	排泄介助・支援
		4	日常生活自立支援(※2)
		5	行動上の問題への対応(※3)
		6	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置
		7	その他の直接介護(日常生活支援、レクリエーション等)
B	間接業務	8	巡回・移動
		9	記録・文書作成・連絡調整等(※4)
		10	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し
		11	介護ロボット・ICT機器の準備・使用・確認(※5)
		12	その他の間接業務(※6)
C	休憩	13	休憩・待機・仮眠
D	その他	14	その他
E	余裕時間	15	余裕時間(突発でのケアや対応ができる状態)

※1 見守りによる介助を含む。

※2 入眠起床支援、訴えの把握

※3 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※4 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、職員間の連絡調整、文書検索等

※5 機器の充電、セッティング、設定の確認・見直し、使用(直接介護において使用する場合を除く)、画面確認、片付け作業等

※6 レクリエーションの準備等

イ. 利用者・職員概要

⑥ 利用者概要

本調査では、事後調査時にスタンディングリフトを活用したトイレ誘導の取組を実施した利用者を対象とした。

利用者向けアンケート調査に回答があった利用者は7名であった。

図表 XI-249 利用者概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	0	7	0	7
	割合	0%	100%	0%	100%

図表 XI-250 利用者概要:年齢

		70歳未満	70歳～75歳未満	75歳～80歳未満	80歳～85歳未満	85歳～90歳未満	90歳～95歳未満	95歳以上	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	0	5	0	2	0	0	7
	割合	0%	0%	0%	71%	0%	29%	0%	0%	100%

図表 XI-251 利用者概要:要介護度

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支援	その他(区分申請中等)	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	0	5	2	0	0	0	7
	割合	0%	0%	0%	71%	29%	0%	0%	0%	100%

図表 XI-252 利用者概要:障害高齢者の日常生活自立度

		J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明・未実施	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	0	0	2	3	0	0	2	0	7
	割合	0%	0%	0%	0%	29%	43%	0%	0%	29%	0%	100%

② 職員概要

本調査において職員向けアンケート調査に回答があった職員は 51 名であった。

図表 XI-253 職員概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	14	37	0	51
	割合	27%	73%	0%	100%

図表 XI-254 職員概要:年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
総数	人数(人)	0	10	13	12	10	6	0	0	51
	割合	0%	20%	25%	24%	20%	12%	0%	0%	100%

図表 XI-255 職員概要:職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓練 指導員を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	30	0	6	0	1	0	14	0	51
	割合	59%	0%	12%	0%	2%	0%	27%	0%	100%

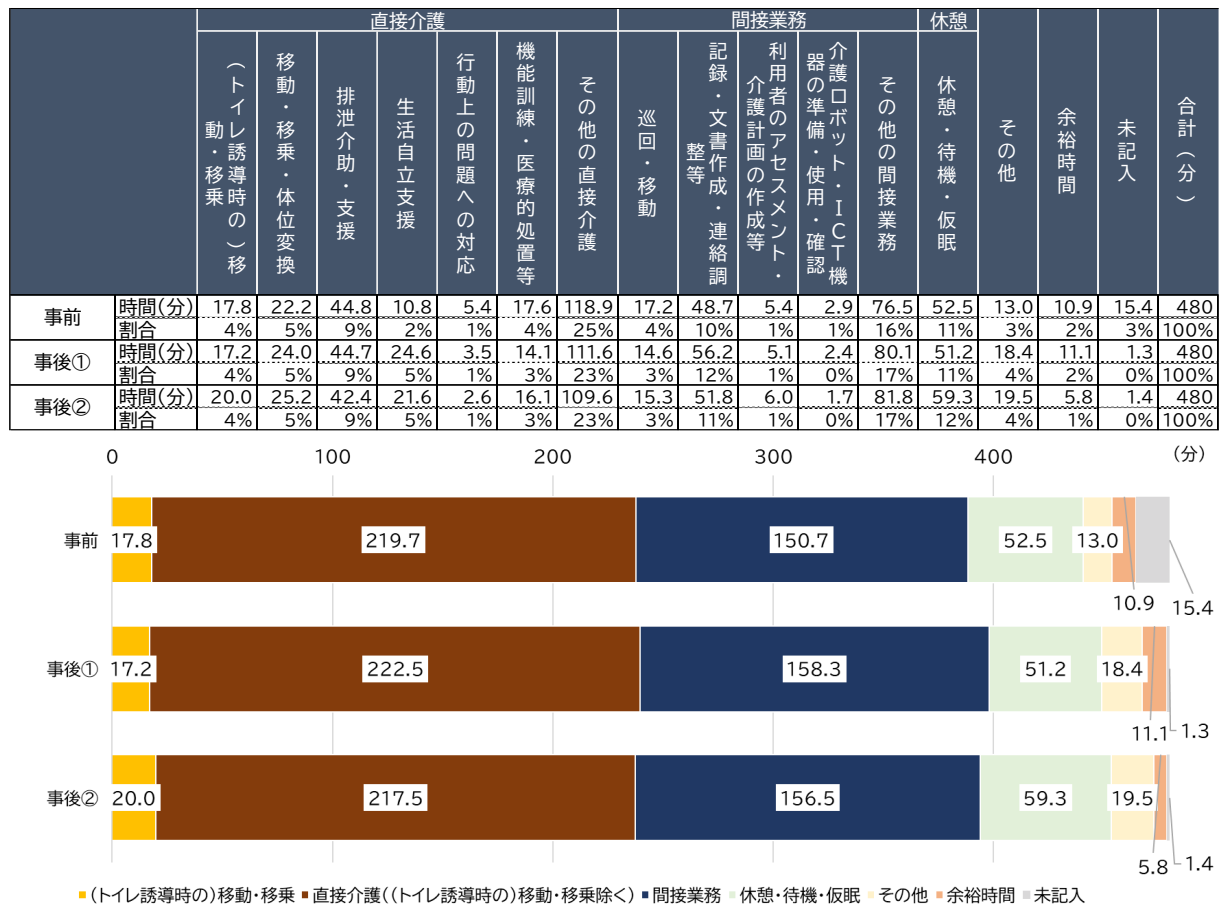
図表 XI-256 職員概要:役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	7	41	3	0	51
	割合	0%	14%	80%	6%	0%	100%

ウ. タイムスタディ調査結果

「(トイレ誘導時の)移動・移乗」の時間は事前と比較し、事後①では 0.6 分減少し、事後②では 2.2 分増加した。「直接介護((トイレ誘導時の)移動・移乗除く)」の時間は事前と比較し、事後①で 2.8 分増加し、事後②で 2.2 分減少した。

図表 XI-257 タイムスタディ調査の結果(職員1人1日(480 分)あたり)



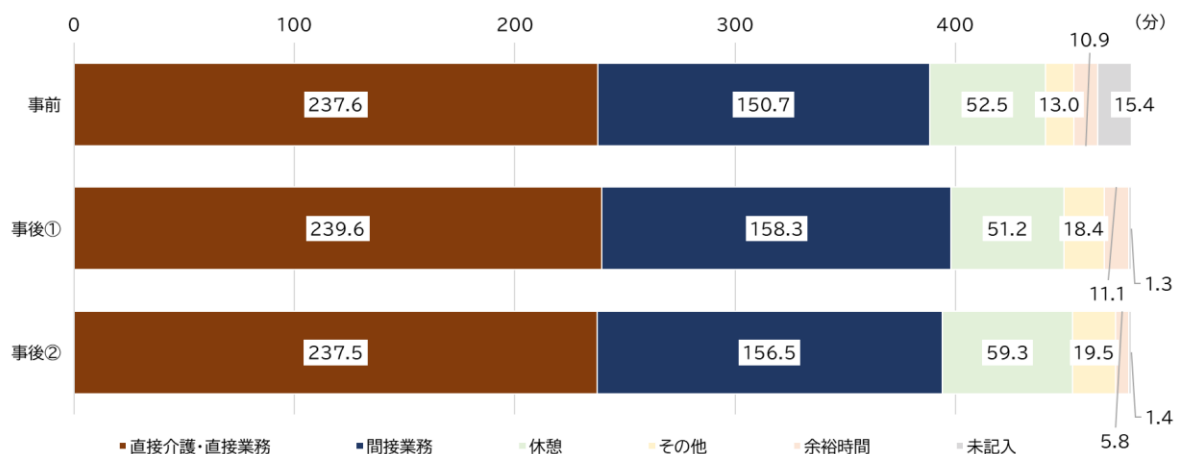
事前 n=51、事後①n=51、事後②n=50

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

図表 XI-258 (参考:共通区分)タイムスタディ調査の結果(職員1人1日(480 分)あたり)

		直接介護・直接業務	間接業務	休憩	その他	余裕時間	未記入	合計(分)
事前	時間(分)	237.6	150.7	52.5	13.0	10.9	15.4	480
	割合	49%	31%	11%	3%	2%	3%	100%
事後①	時間(分)	239.6	158.3	51.2	18.4	11.1	1.3	480
	割合	50%	33%	11%	4%	2%	0%	100%
事後②	時間(分)	237.5	156.5	59.3	19.5	5.8	1.4	480
	割合	49%	33%	12%	4%	1%	0%	100%



事前 n=51、事後①n=51、事後②n=50

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

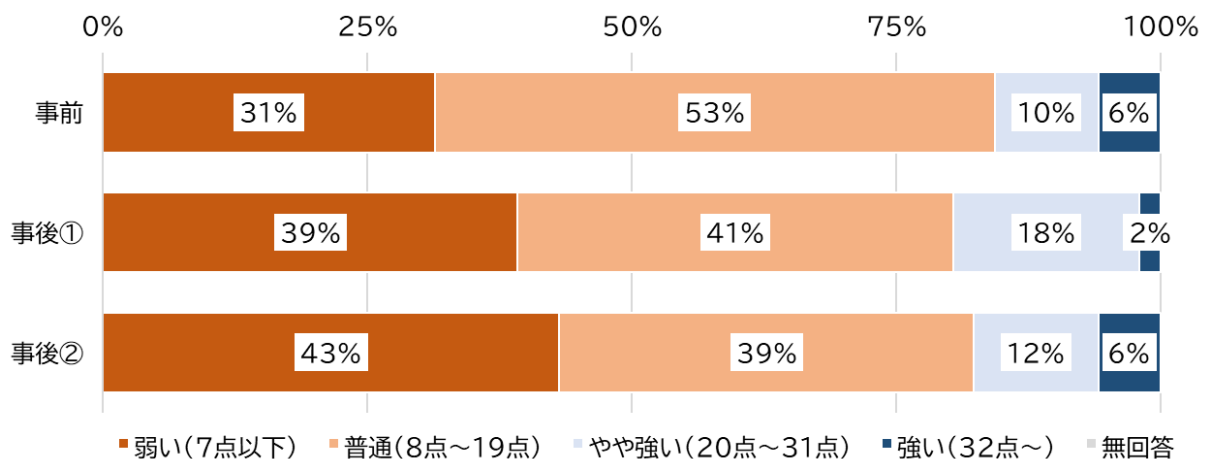
工. 職員向けアンケート調査結果

① 心理的負担評価

職員の心理的ストレス反応測定尺度合計点について事前と事後 2 回の結果を比較すると、「弱い（7点以下）」と回答した職員の割合が、事前では 31%、事後①では 39%、事後②では 43%となった。

図表 XI-259 職員調査:心理的負担評価

		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
事前	人数(人)	16	27	5	3	0	51
	割合	31%	53%	10%	6%	0%	100%
事後①	人数(人)	20	21	9	1	0	51
	割合	39%	41%	18%	2%	0%	100%
事後②	人数(人)	22	20	6	3	0	51
	割合	43%	39%	12%	6%	0%	100%

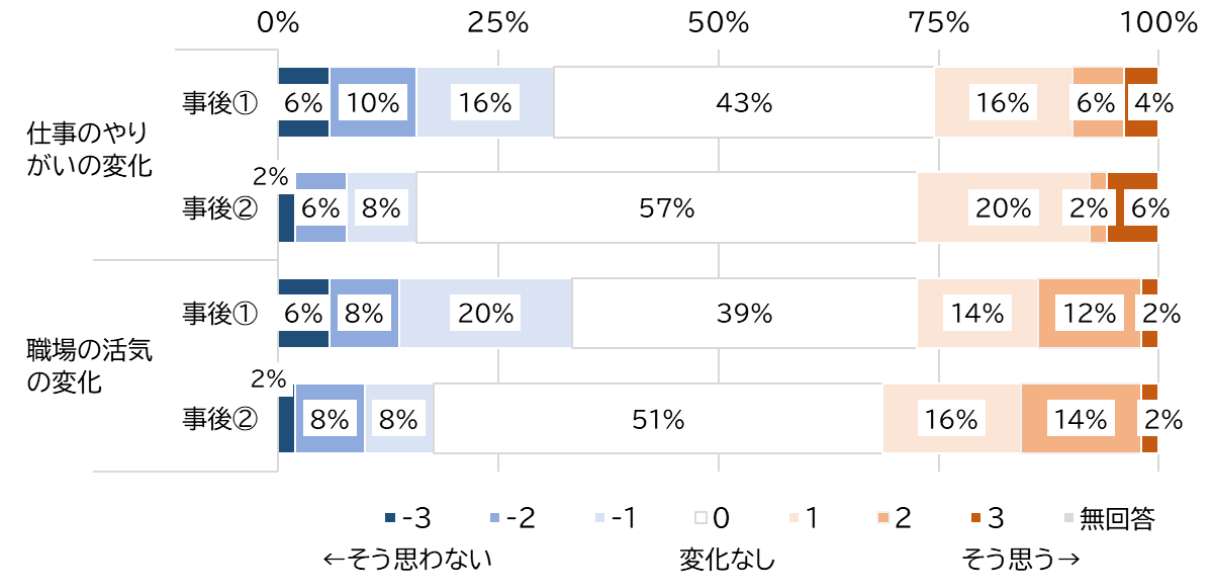


※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各 18 項目のうち 1 項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が 0、1、2、3 以外の場合は無回答処理をした。

② 機器導入によるモチベーションの変化
 機器導入によるモチベーションの変化は以下の通り。

図表 XI-260 職員調査:機器導入によるモチベーションの変化

			←減少したと感じる			増加したと感じる→				無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
仕事のやりがいの変化	事後①	人数(人)	3	5	8	22	8	3	2	0	51
		割合	6%	10%	16%	43%	16%	6%	4%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	3	4	29	10	1	3	0	51
		割合	2%	6%	8%	57%	20%	2%	6%	0%	100%
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	3	4	10	20	7	6	1	0	51
		割合	6%	8%	20%	39%	14%	12%	2%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	4	4	26	8	7	1	0	51
		割合	2%	8%	8%	51%	16%	14%	2%	0%	100%



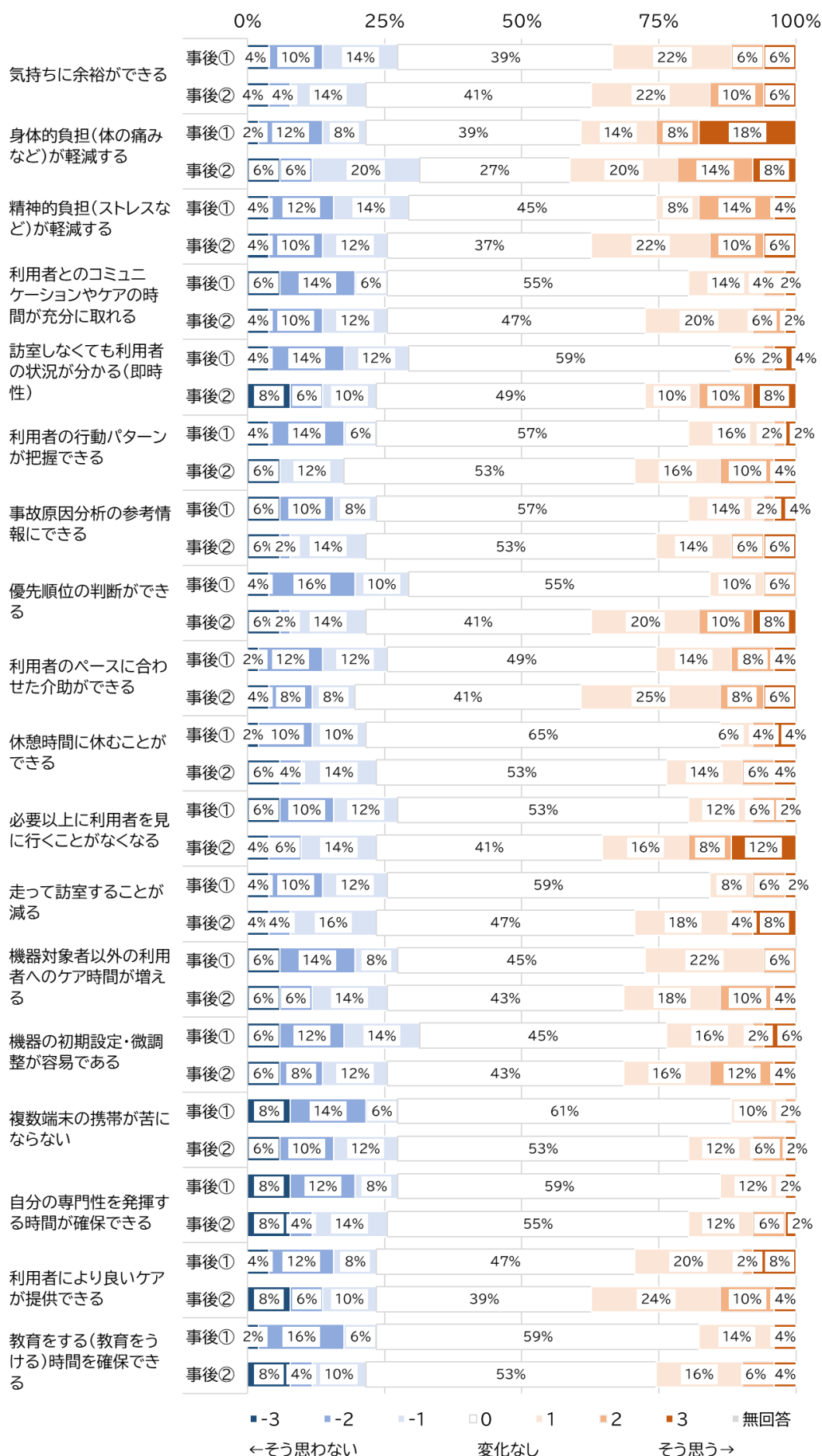
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

③ 機器導入による職員や施設業務の変化

機器導入による職員や施設業務の変化は以下の通り。

図表 XI-261 職員調査:機器導入による職員や施設業務の変化

			←そう思わない		変化なし				→そう思う		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人) 割合	2 4%	5 10%	7 14%	20 39%	11 22%	3 6%	3 6%	0 0%	51 100%	
	事後②	人数(人) 割合	2 4%	2 4%	7 14%	21 41%	11 22%	5 10%	3 6%	0 0%	51 100%	
身体的負担(体の痛み など)が軽減する	事後①	人数(人) 割合	1 2%	6 12%	4 8%	20 39%	7 14%	4 8%	9 18%	0 0%	51 100%	
	事後②	人数(人) 割合	3 6%	3 6%	10 20%	14 27%	10 20%	7 14%	4 8%	0 0%	51 100%	
精神的負担(ストレスな ど)が軽減する	事後①	人数(人) 割合	2 4%	6 12%	7 14%	23 45%	4 8%	7 14%	2 4%	0 0%	51 100%	
	事後②	人数(人) 割合	2 4%	5 10%	6 12%	19 37%	11 22%	5 10%	3 6%	0 0%	51 100%	
利用者とのコミュニケー ションやケアの時間が 充分に取れる	事後①	人数(人) 割合	3 6%	7 14%	3 6%	28 55%	7 14%	2 4%	1 2%	0 0%	51 100%	
	事後②	人数(人) 割合	2 4%	5 10%	6 12%	24 47%	10 20%	3 6%	1 2%	0 0%	51 100%	
訪室しなくても利用者 の状況が分かる(即時 性)	事後①	人数(人) 割合	2 4%	7 14%	6 12%	30 59%	3 6%	1 2%	2 4%	0 0%	51 100%	
	事後②	人数(人) 割合	4 8%	3 6%	5 10%	25 49%	5 10%	5 10%	4 8%	0 0%	51 100%	
利用者の行動パターン が把握できる	事後①	人数(人) 割合	2 4%	7 14%	3 6%	29 57%	8 16%	1 2%	1 2%	0 0%	51 100%	
	事後②	人数(人) 割合	3 6%	0 0%	6 12%	27 53%	8 16%	5 10%	2 4%	0 0%	51 100%	
事故原因分析の参考情 報にできる	事後①	人数(人) 割合	3 6%	5 10%	4 8%	29 57%	7 14%	1 2%	2 4%	0 0%	51 100%	
	事後②	人数(人) 割合	3 6%	1 2%	7 14%	27 53%	7 14%	3 6%	3 6%	0 0%	51 100%	
優先順位の判断ができ る(同時コールの発生、 他の利用者の介護中)	事後①	人数(人) 割合	2 4%	8 16%	5 10%	28 55%	5 10%	3 6%	0 0%	0 0%	51 100%	
	事後②	人数(人) 割合	3 6%	1 2%	7 14%	21 41%	10 20%	5 10%	4 8%	0 0%	51 100%	
利用者のペースに合わ せた介助ができる	事後①	人数(人) 割合	1 2%	6 12%	6 12%	25 49%	7 14%	4 8%	2 4%	0 0%	51 100%	
	事後②	人数(人) 割合	2 4%	4 8%	4 8%	21 41%	13 25%	4 8%	3 6%	0 0%	51 100%	
休憩時間に休むことが できる	事後①	人数(人) 割合	1 2%	5 10%	5 10%	33 65%	3 6%	2 4%	2 4%	0 0%	51 100%	
	事後②	人数(人) 割合	3 6%	2 4%	7 14%	27 53%	7 14%	3 6%	2 4%	0 0%	51 100%	
必要以上に利用者を見 に行くことがなくなる	事後①	人数(人) 割合	3 6%	5 10%	6 12%	27 53%	6 12%	3 6%	1 2%	0 0%	51 100%	
	事後②	人数(人) 割合	2 4%	3 6%	7 14%	21 41%	8 16%	4 8%	6 12%	0 0%	51 100%	
走って訪室することが 減る	事後①	人数(人) 割合	2 4%	5 10%	6 12%	30 59%	4 8%	3 6%	1 2%	0 0%	51 100%	
	事後②	人数(人) 割合	2 4%	2 4%	8 16%	24 47%	9 18%	2 4%	4 8%	0 0%	51 100%	
機器対象者以外の利用 者へのケア時間が増え る	事後①	人数(人) 割合	3 6%	7 14%	4 8%	23 45%	11 22%	3 6%	0 0%	0 0%	51 100%	
	事後②	人数(人) 割合	3 6%	3 6%	7 14%	22 43%	9 18%	5 10%	2 4%	0 0%	51 100%	
機器の初期設定・微調 整が容易である	事後①	人数(人) 割合	3 6%	6 12%	7 14%	23 45%	8 16%	1 2%	3 6%	0 0%	51 100%	
	事後②	人数(人) 割合	3 6%	4 8%	6 12%	22 43%	8 16%	6 12%	2 4%	0 0%	51 100%	
複数端末の携帯が苦に ならない	事後①	人数(人) 割合	4 8%	7 14%	3 6%	31 61%	5 10%	1 2%	0 0%	0 0%	51 100%	
	事後②	人数(人) 割合	3 6%	5 10%	6 12%	27 53%	6 12%	3 6%	1 2%	0 0%	51 100%	
自分の専門性を発揮す る時間が確保できる	事後①	人数(人) 割合	4 8%	6 12%	4 8%	30 59%	6 12%	0 0%	1 2%	0 0%	51 100%	
	事後②	人数(人) 割合	4 8%	2 4%	7 14%	28 55%	6 12%	3 6%	1 2%	0 0%	51 100%	
利用者により良いケア が提供できる	事後①	人数(人) 割合	2 4%	6 12%	4 8%	24 47%	10 20%	1 2%	4 8%	0 0%	51 100%	
	事後②	人数(人) 割合	4 8%	3 6%	5 10%	20 39%	12 24%	5 10%	2 4%	0 0%	51 100%	
教育をする(教育をうけ る)時間を確保できる	事後①	人数(人) 割合	1 2%	8 16%	3 6%	30 59%	7 14%	0 0%	2 4%	0 0%	51 100%	
	事後②	人数(人) 割合	4 8%	2 4%	5 10%	27 53%	8 16%	3 6%	2 4%	0 0%	51 100%	



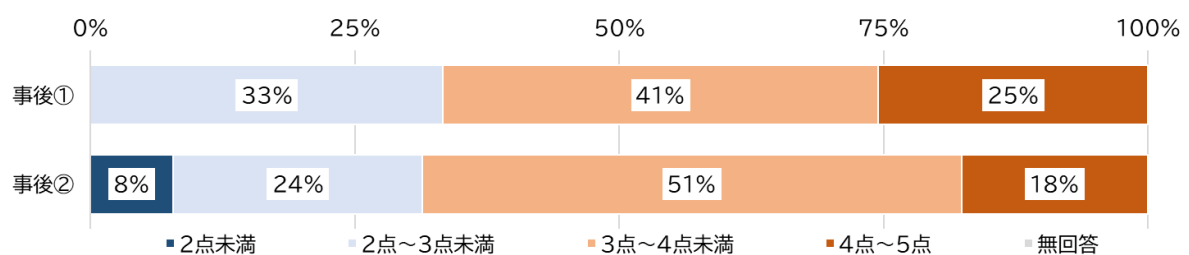
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

④ 導入機器の満足度評価 ※出典:QUEST 福祉用具満足度評価

導入機器の満足度については、「3点～4点未満」が最も多く、事後①では41%、事後②では51%であった。

図表 XI-262 職員調査:導入機器の満足度評価(総合評価)

		2点未満	2点～3点未満	3点～4点未満	4点～5点	無回答	合計
事後①	人数(人)	0	17	21	13	0	51
	割合	0%	33%	41%	25%	0%	100%
事後②	人数(人)	4	12	26	9	0	51
	割合	8%	24%	51%	18%	0%	100%

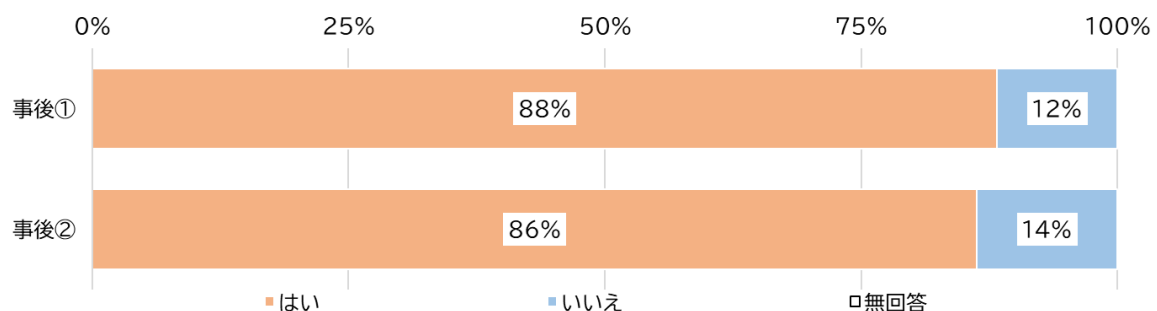


⑤ 導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向

導入機器の継続利用意向については「はい」の回答が多く、事後①で88%、事後②で86%であった。

図表 XI-263 職員調査:導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向

		はい	いいえ	無回答	合計
事後①	人数(人)	45	6	0	51
	割合	88%	12%	0%	100%
事後②	人数(人)	44	7	0	51
	割合	86%	14%	0%	100%

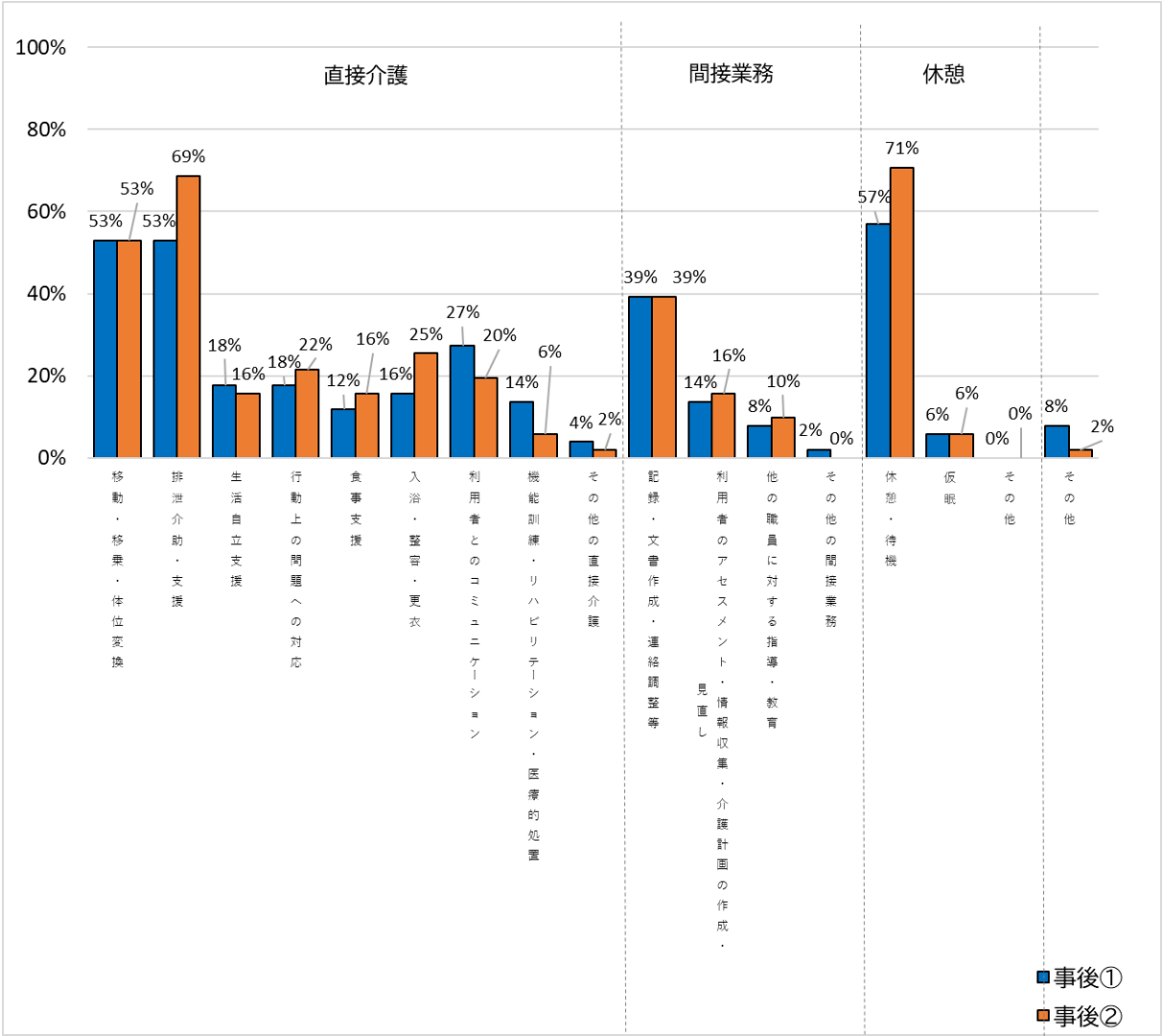


⑥ 職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により増やすことができた時間

職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により増やすことができた時間としては、「休憩・待機」「排泄介助・支援」「移動・移乗・体位変換」を挙げる職員が多かった。

図表 XI-264 職員調査:職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により増やすことができた時間

		直接介護									間接業務				休憩			その他	無回答（人）	合計（人）
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し	他の職員に対する指導・教育	その他の間接業務	休憩	仮眠	その他			
事後①	人数(人)	27	27	9	9	6	8	14	7	2	20	7	4	1	29	3	0	4	3	51
	割合	53%	53%	18%	18%	12%	16%	27%	14%	4%	39%	14%	8%	2%	57%	6%	0%	8%	6%	
事後②	人数(人)	27	35	8	11	8	13	10	3	1	20	8	5	0	36	3	0	1	4	51
	割合	53%	69%	16%	22%	16%	25%	20%	6%	2%	39%	16%	10%	0%	71%	6%	0%	2%	8%	

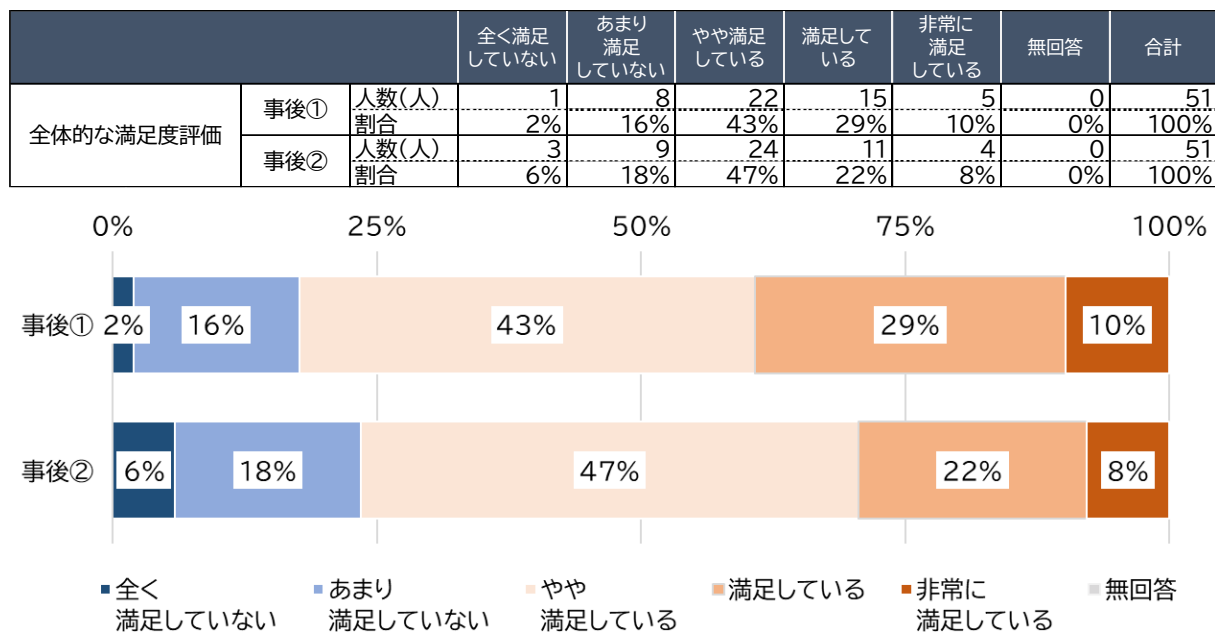


※該当する項目をすべて選択する設問。

⑦ 満足度評価

調査で導入した機器を用いたケアに対する満足度については、「やや満足している」と回答した職員の割合が、事後①では43%、事後②では47%であった。

図表 XI-265 職員調査：満足度評価



※質問項目に対し、1(全く満足していない)～5(非常に満足している)の 5 段階で評価した。

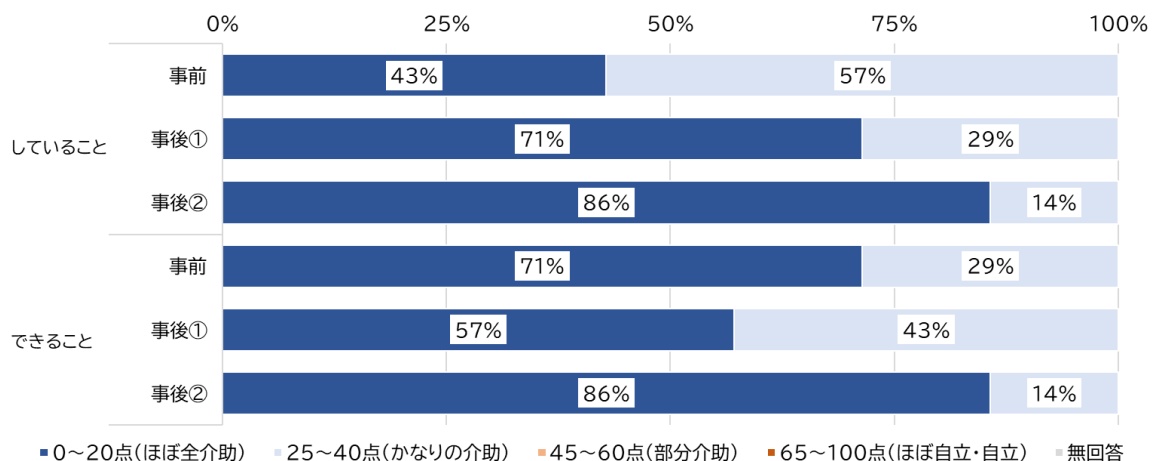
オ. 利用者向けアンケート調査結果

① ADL の変化

ADL の変化は以下の通り。

図表 XI-266 利用者調査:ADL の変化

			0点～ 20点	25点～ 40点	45点～ 60点	65点～ 100点	無回答	合計
していること	事前	人数(人)	3	4	0	0	0	7
		割合	43%	57%	0%	0%	0%	100%
	事後①	人数(人)	5	2	0	0	0	7
		割合	71%	29%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	6	1	0	0	0	7
		割合	86%	14%	0%	0%	0%	100%
できること	事前	人数(人)	5	2	0	0	0	7
		割合	71%	29%	0%	0%	0%	100%
	事後①	人数(人)	4	3	0	0	0	7
		割合	57%	43%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	6	1	0	0	0	7
		割合	86%	14%	0%	0%	0%	100%



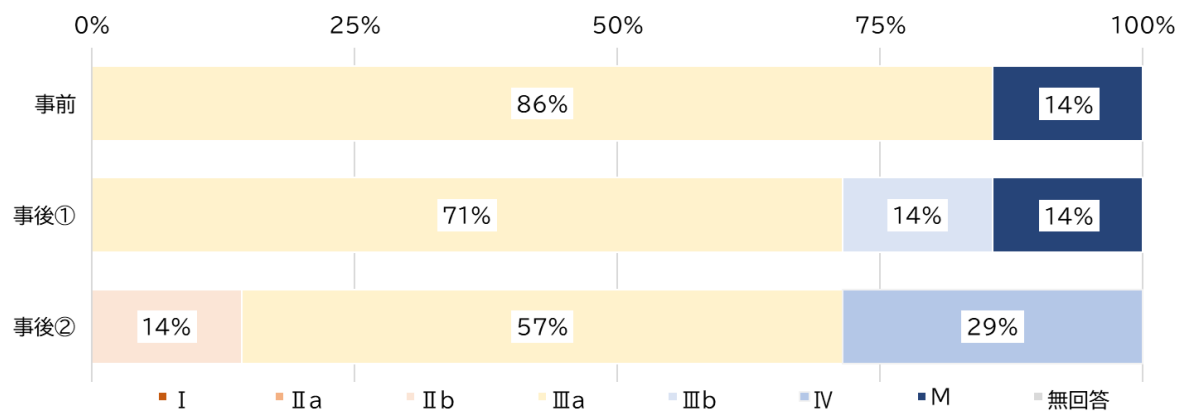
※事前調査または事後調査で、各10項目のうち1項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

② 認知症高齢者の日常生活自立度の変化

認知症高齢者の日常生活自立度は以下の通り。

図表 XI-267 利用者調査:認知症高齢者の日常生活自立度の変化

		I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	無回答	合計
事前	人数(人)	0	0	0	6	0	0	1	0	7
	割合	0%	0%	0%	86%	0%	0%	14%	0%	100%
事後①	人数(人)	0	0	0	5	1	0	1	0	7
	割合	0%	0%	0%	71%	14%	0%	14%	0%	100%
事後②	人数(人)	0	0	1	4	0	2	0	0	7
	割合	0%	0%	14%	57%	0%	29%	0%	0%	100%

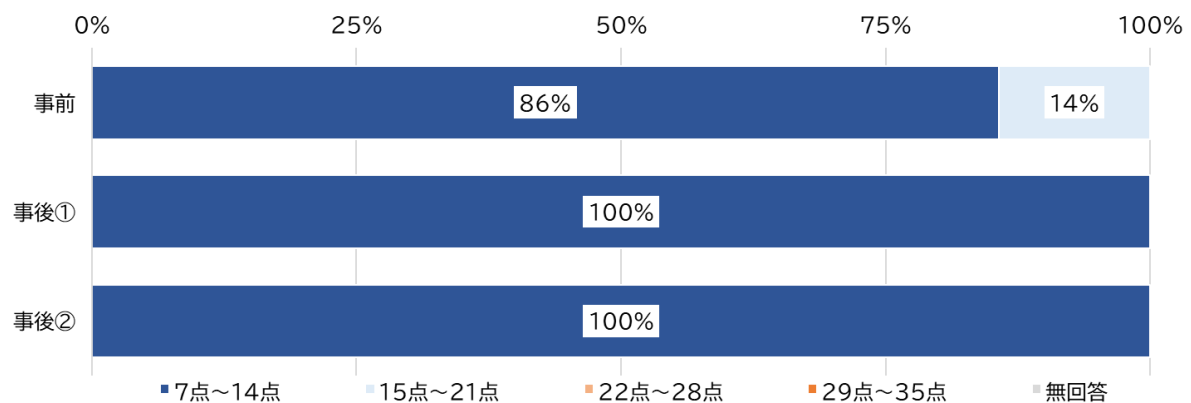


③ 生活・認知機能尺度の変化

生活・認知機能尺度の変化は以下の通り。

図表 XI-268 利用者調査:生活・認知機能尺度の変化

		7点～14点	15点～21点	22点～28点	29点～35点	無回答	合計
事前	人数(人)	6	1	0	0	0	7
	割合	86%	14%	0%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	7	0	0	0	0	7
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	7	0	0	0	0	7
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	100%

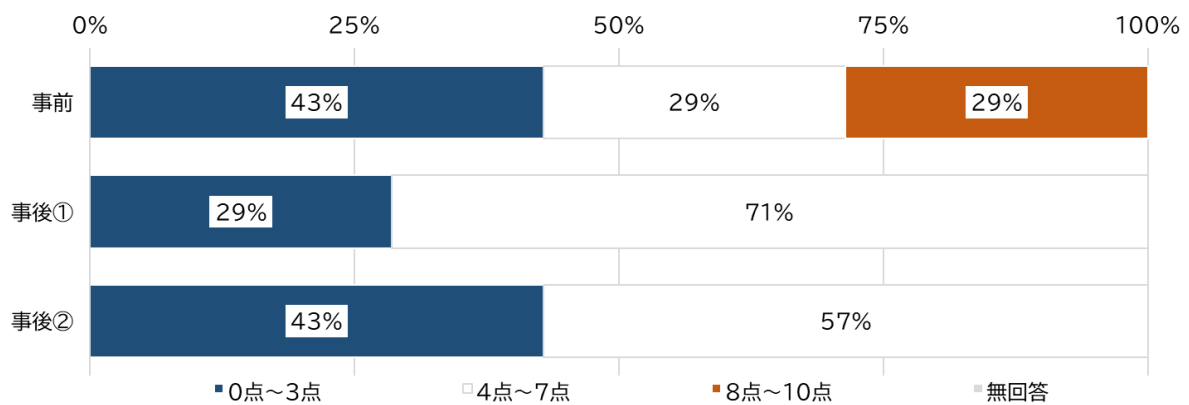


④ Vitality Index の変化

Vitality Index の変化は以下の通り。

図表 XI-269 利用者調査: Vitality Index の変化

		0点～3点	4点～7点	8点～10点	無回答	合計
事前	人数(人)	3	2	2	0	7
	割合	43%	29%	29%	0%	100%
事後①	人数(人)	2	5	0	0	7
	割合	29%	71%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	3	4	0	0	7
	割合	43%	57%	0%	0%	100%



※事前調査または事後調査で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、以外の場合は無回答処理をした。

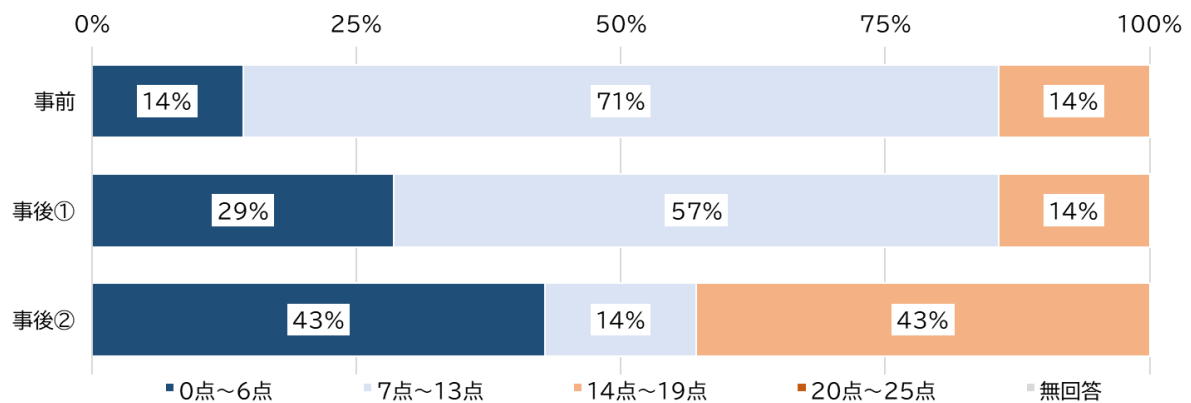
※ Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の 5 項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5 項目それぞれに0～2 点で回答し、それぞれ 2 点が最もよい状態を示す。10 点満点。

⑤ QOL(WHO-5 精神的健康状態表)の変化

QOL の変化は、「14 点以上 19 点以下」の割合が、事前、事後①では 14%、事後②では 43%となった。一方、「0 点以上 6 点以下」の割合が、事前 14%、事後①29%、事後②43%となった。

図表 XI-270 利用者調査:QOL の変化

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
事前	人数(人)	1	5	1	0	0	7
	割合	14%	71%	14%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	2	4	1	0	0	7
	割合	29%	57%	14%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	3	1	3	0	0	7
	割合	43%	14%	43%	0%	0%	100%



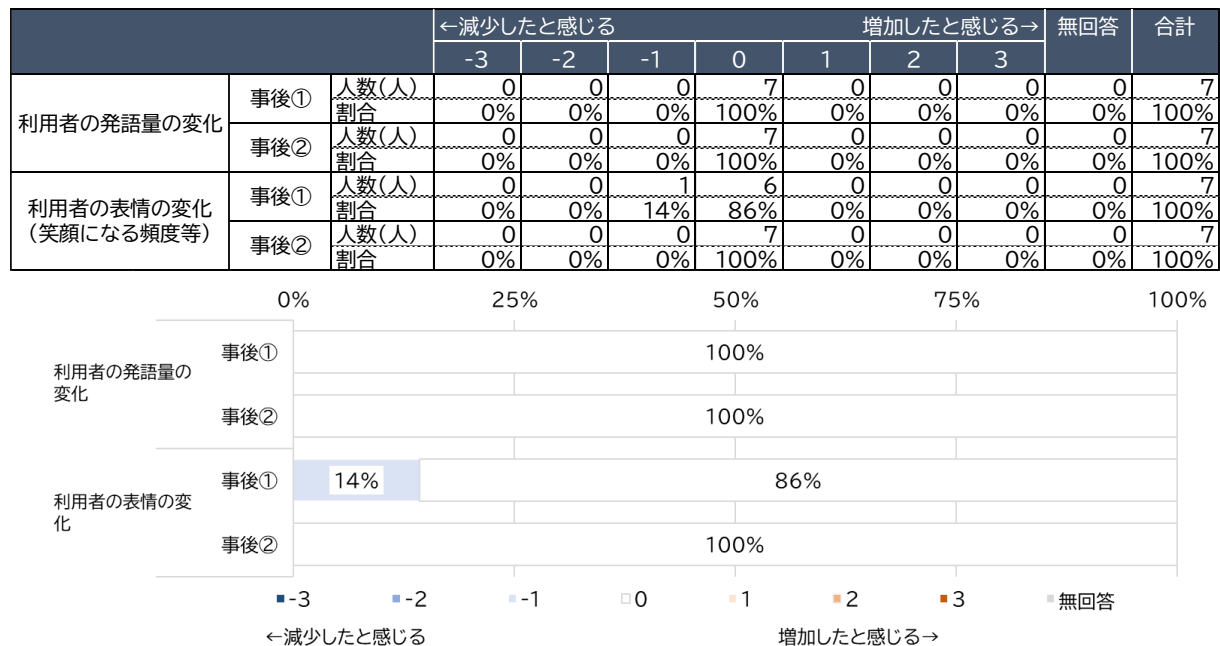
※事前または事後で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近2週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

⑥ 機器導入によるコミュニケーションの変化

機器導入によるコミュニケーションの変化は、「0(変化なし)」と回答する利用者が最も多く、「利用者の発語量の変化」では、事後①及び事後②で 100%であった。「利用者の表情の変化」では、事後①で 95%、事後②で 100%であった。

図表 XI-271 利用者調査:機器導入によるコミュニケーションの変化



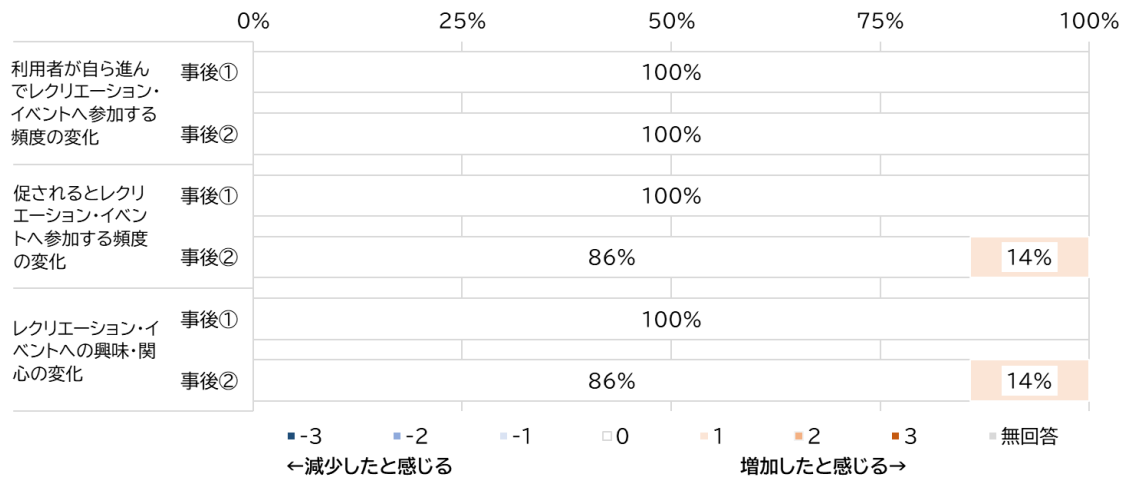
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

⑦ 機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化は、いずれも「0(変化なし)」と回答する利用者が最も多かった。

図表 XI-272 利用者調査:機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

			←減少したと感じる				増加したと感じる→				無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	7	0	0	0	0	0	7
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	7	0	0	0	0	0	7
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	7	0	0	0	0	0	7
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	6	1	0	0	0	0	7
		割合	0%	0%	0%	86%	14%	0%	0%	0%	0%	100%
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	7	0	0	0	0	0	7
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	6	1	0	0	0	0	7
		割合	0%	0%	0%	86%	14%	0%	0%	0%	0%	100%

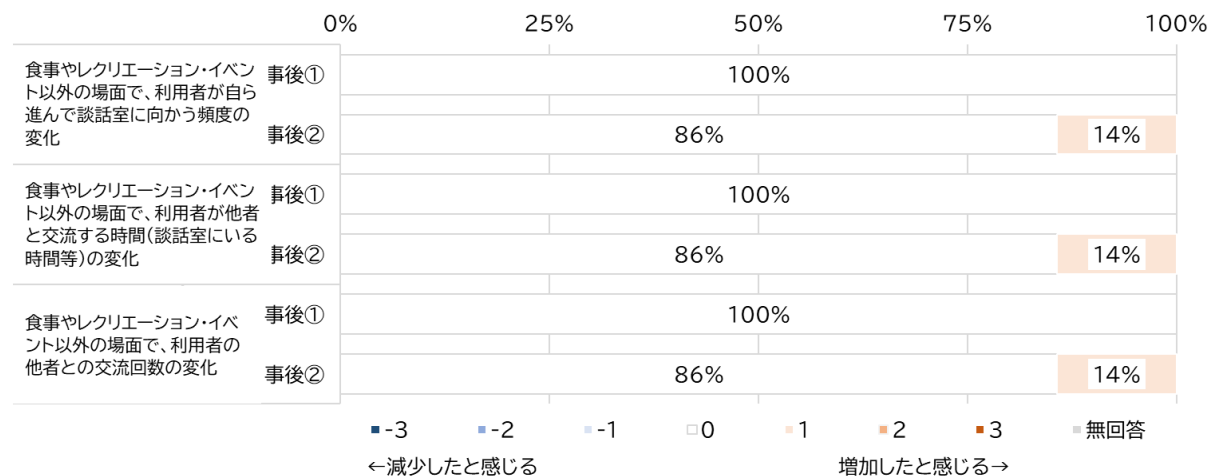


※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

⑧ 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化
 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化は以下の通り。

図表 XI-273 利用者調査：機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

			←減少したと感じる			増加したと感じる→			無回答	合計	
			-3	-2	-1	0	1	2			3
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	7	0	0	0	0	7
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	6	1	0	0	0	7
		割合	0%	0%	0%	86%	14%	0%	0%	0%	100%
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	7	0	0	0	0	7
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	6	1	0	0	0	7
		割合	0%	0%	0%	86%	14%	0%	0%	0%	100%
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	7	0	0	0	0	7
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	6	1	0	0	0	7
		割合	0%	0%	0%	86%	14%	0%	0%	0%	100%



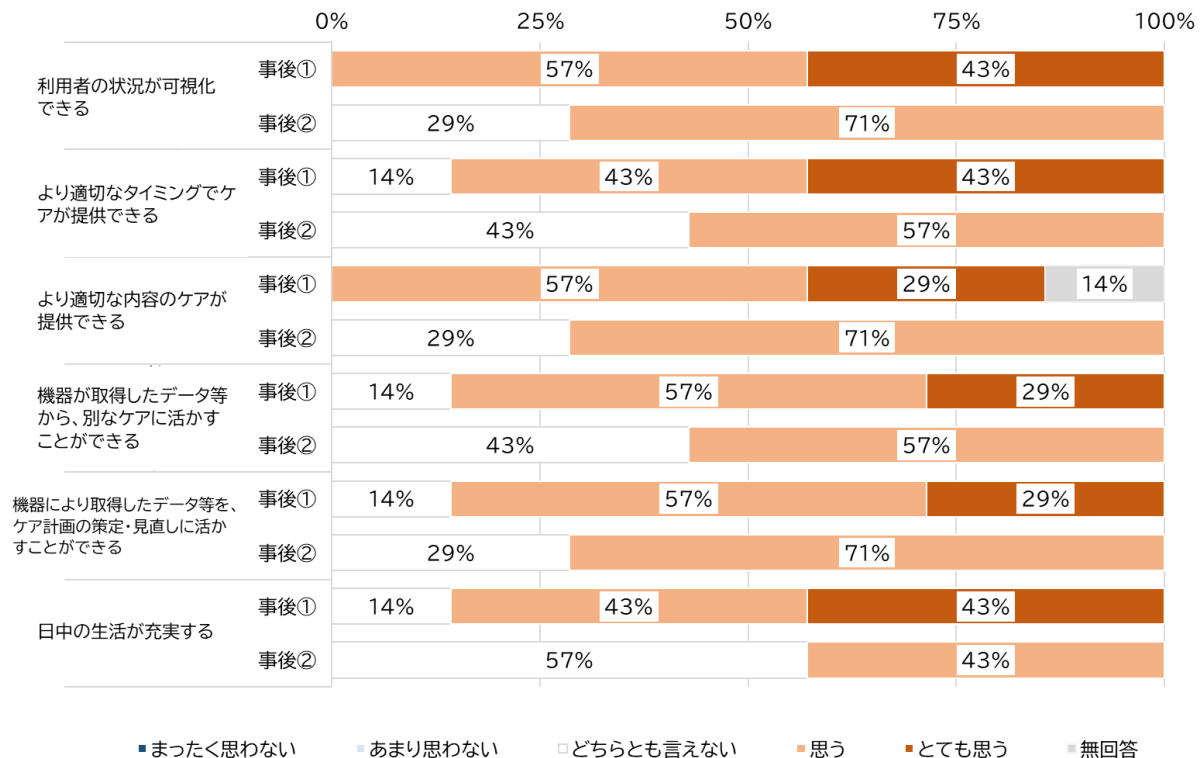
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

⑨ 機器導入によるケア内容の変更

機器導入によるケア内容の変更の変化は以下の通り。

図表 XI-274 利用者調査:機器導入によるケア内容の変更

			まったく 思わない	あまり 思わない	どちらと も言えな い	思う	とても 思う	無回答	合計
利用者の状況が可視化 できる	事後①	人数(人)	0	0	0	4	3	0	7
		割合	0%	0%	0%	57%	43%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	2	5	0	0	7
		割合	0%	0%	29%	71%	0%	0%	100%
より適切なタイミング でケアが提供できる	事後①	人数(人)	0	0	1	3	3	0	7
		割合	0%	0%	14%	43%	43%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	3	4	0	0	7
		割合	0%	0%	43%	57%	0%	0%	100%
より適切な内容のケア が提供できる	事後①	人数(人)	0	0	0	4	2	1	7
		割合	0%	0%	0%	57%	29%	14%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	2	5	0	0	7
		割合	0%	0%	29%	71%	0%	0%	100%
機器が取得したデータ 等から、別なケアに活 かすことができる	事後①	人数(人)	0	0	1	4	2	0	7
		割合	0%	0%	14%	57%	29%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	3	4	0	0	7
		割合	0%	0%	43%	57%	0%	0%	100%
機器により取得した データ等を、ケア計画の 策定・見直しに活かす ことができる	事後①	人数(人)	0	0	1	4	2	0	7
		割合	0%	0%	14%	57%	29%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	2	5	0	0	7
		割合	0%	0%	29%	71%	0%	0%	100%
日中の生活が充実する	事後①	人数(人)	0	0	1	3	3	0	7
		割合	0%	0%	14%	43%	43%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	4	3	0	0	7
		割合	0%	0%	57%	43%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、1(全く思わない)～5(とても思う)の 5 段階で評価した(回答は職員が実施)。

カ. 独自調査

① 腰痛アンケート調査

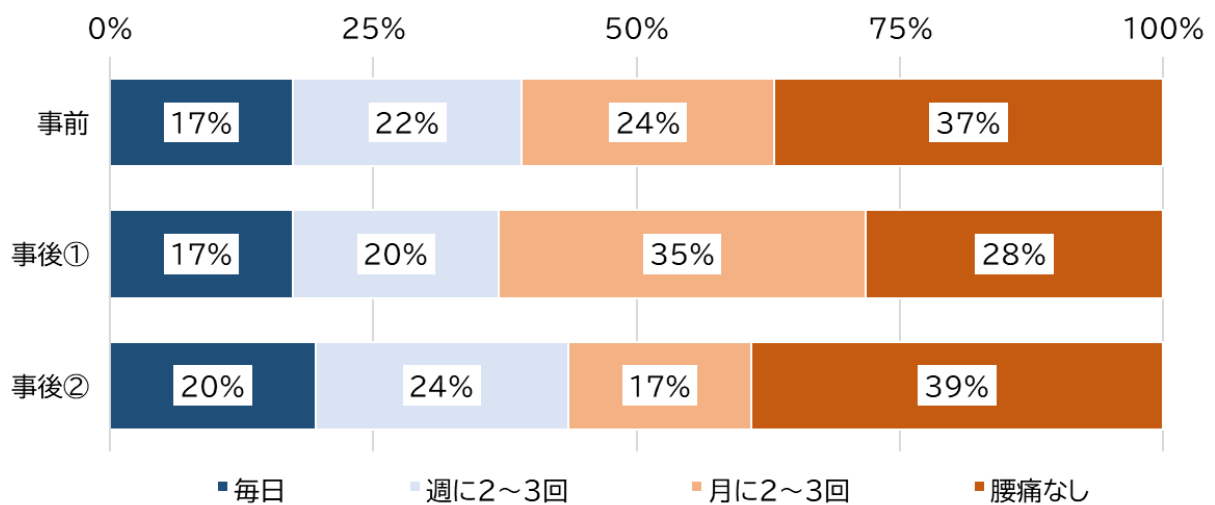
腰痛アンケートにて事前/事後①/事後②のすべてに回答のあった職員 46 名を対象に、各実証期間中における腰痛の状況について集計を行った。

A) 腰痛を感じる頻度

腰痛を感じる頻度は以下の通り。

図表 XI-275 腰痛を感じる頻度

		毎日	週に2～3回	月に2～3回	腰痛なし	合計
事前	人数(人)	8	10	11	17	46
	割合	17%	22%	24%	37%	100%
事後①	人数(人)	8	9	16	13	46
	割合	17%	20%	35%	28%	100%
事後②	人数(人)	9	11	8	18	46
	割合	20%	24%	17%	39%	100%

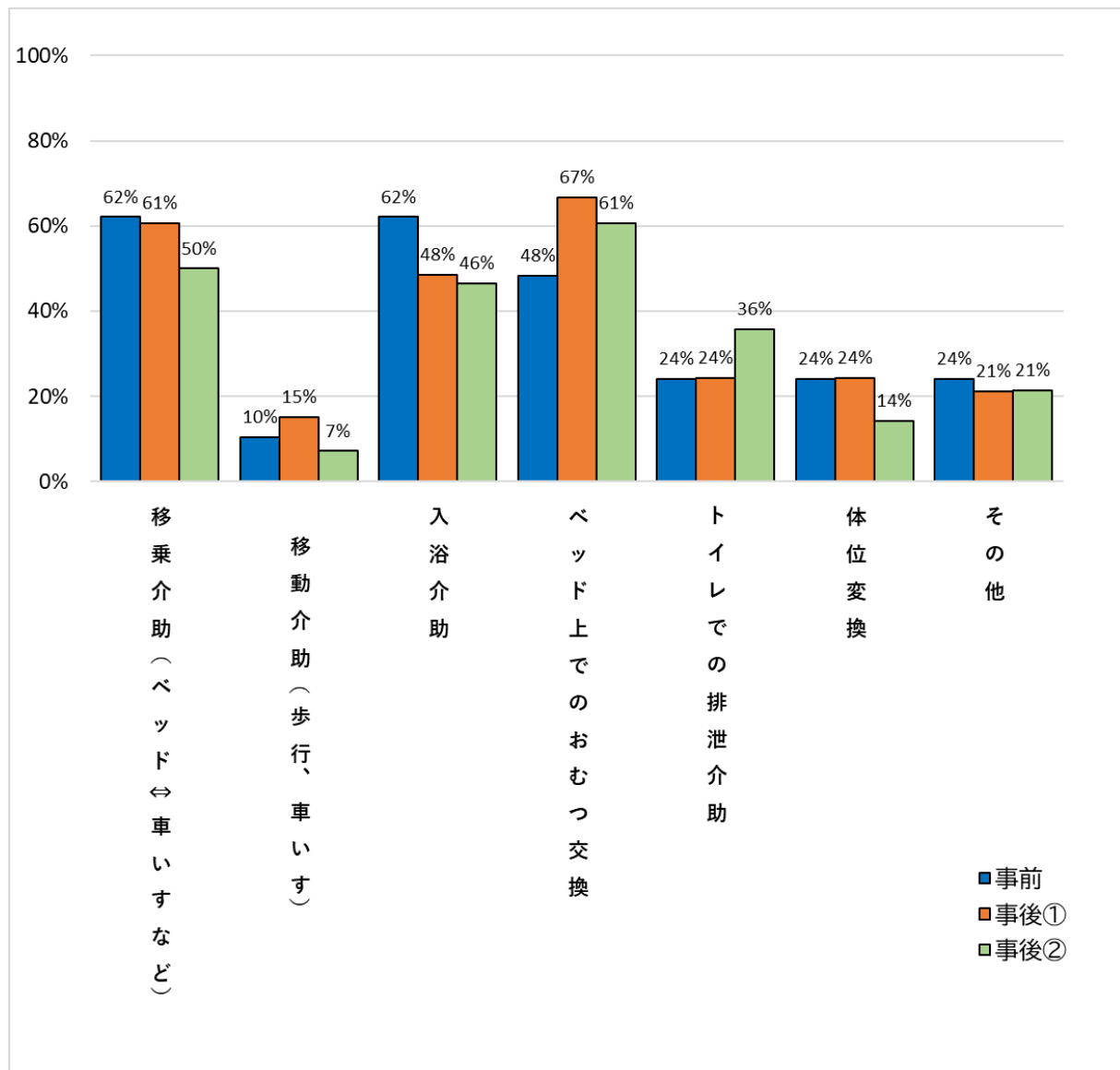


B) 腰痛を感じる場面

現在腰痛を感じる場面、または過去に腰痛を感じたことがある場面について回答いただいたが、ここでは実証期間中の腰痛の変化について分析するため、A)腰痛を感じる頻度で「腰痛なし」以外を回答した職員の回答のみを集計した。結果は以下の通り。

図表 XI-276 腰痛を感じる場面(複数回答可)

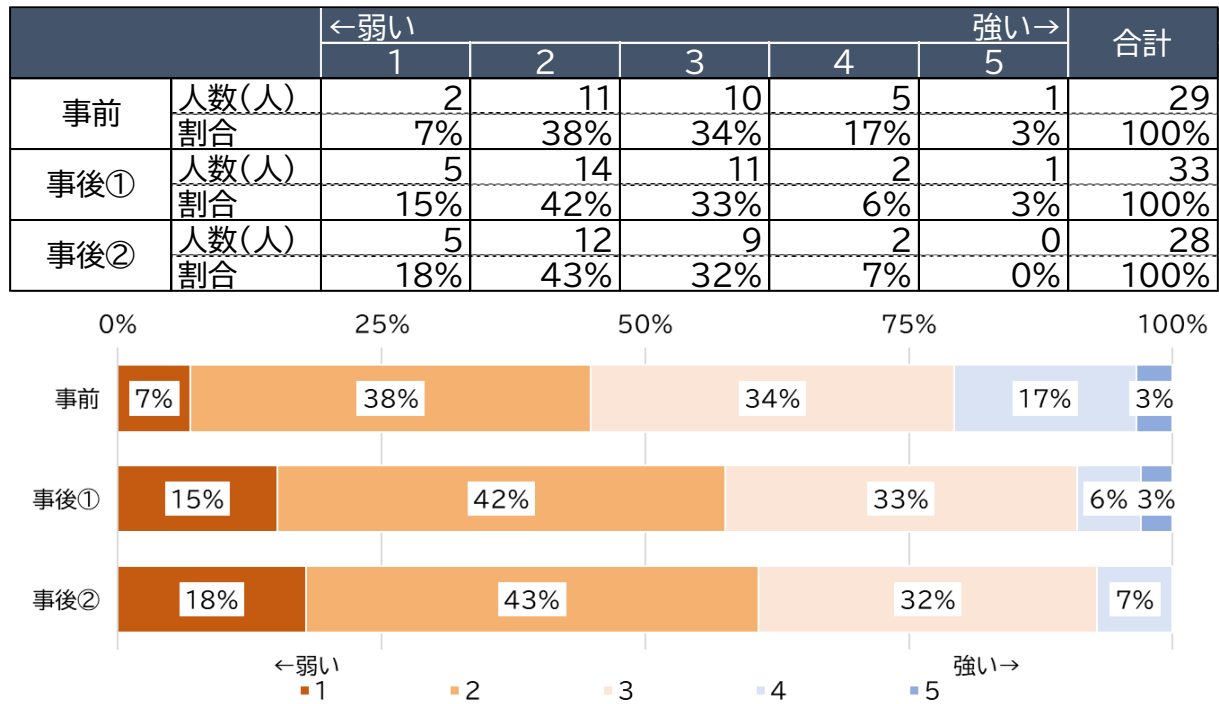
		移乗介助 (ベッド⇄ 車いすな ど)	移動介助 (歩行、車 いす)	入浴介助	ベッド上 でのおむ つ交換	トイレでの 排泄介助	体位変換	その他	合計
事前	人数(人)	18	3	18	14	7	7	7	29
	割合	62%	10%	62%	48%	24%	24%	24%	100%
事後①	人数(人)	20	5	16	22	8	8	7	33
	割合	61%	15%	48%	67%	24%	24%	21%	100%
事後②	人数(人)	14	2	13	17	10	4	6	28
	割合	50%	7%	46%	61%	36%	14%	21%	100%



C) 腰痛の程度

腰痛の程度は、「1～2(弱い)」と回答した職員の割合が、事前では45%、事後①では57%、事後②では61%となった。

図表 XI-277 腰痛の程度

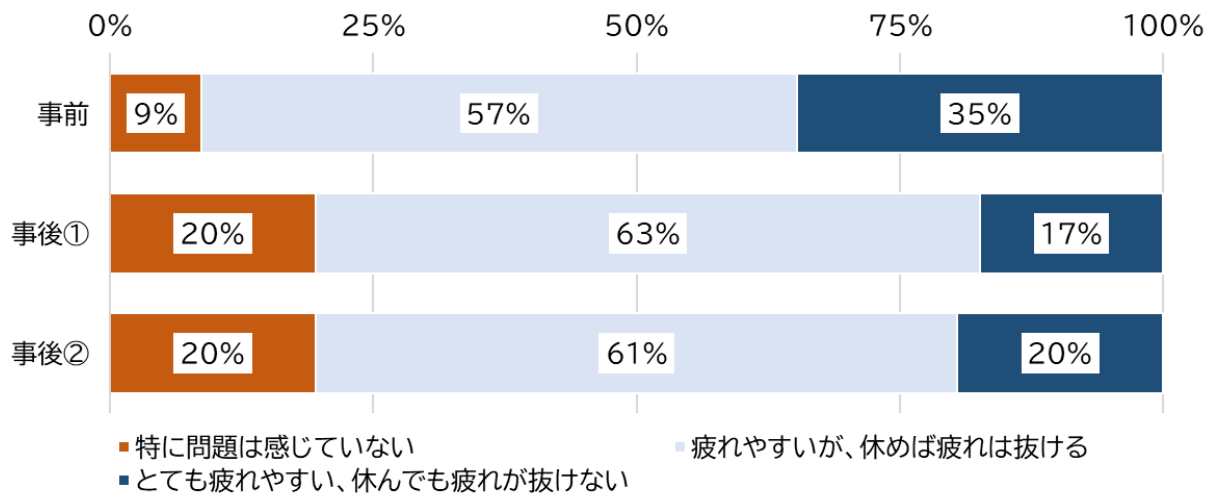


D) 身体的疲労感

腰痛以外を含む身体的疲労感は以下の通り。

図表 XI-278 身体的疲労感

		特に問題は感じて いない	疲れやすいが、休め ば疲れは抜ける	とても疲 れやすい、休んでも 疲れが抜けない	合計
事前	人数(人)	4	26	16	46
	割合	9%	57%	35%	100%
事後①	人数(人)	9	29	8	46
	割合	20%	63%	17%	100%
事後②	人数(人)	9	28	9	46
	割合	20%	61%	20%	100%



② 排泄状況調査

対象利用者7名について、実証期間中における排泄日誌の情報を集計した。集計は日中(7時～21時)における排泄状況とした。7名全体の結果では、オムツ交換の割合は事前 41.0%から事後②では 45.9%と増加した。一方、失禁の割合は、事前 68.4%から事後②66.7%と減少し、排泄無の割合も、事前 9.4%から事後②6.3%に減少した。

図表 XI-279 日中の排泄状況(対象利用者7名)

		ケア回数	トイレ誘導	オムツ交換	下剤等処置	失禁	排泄無
事前	回数	117	59	48	10	80	11
	割合	-	50.4%	41.0%	8.5%	68.4%	9.4%
事後①	回数	124	61	53	9	79	17
	割合	-	49.2%	42.7%	7.3%	63.7%	13.7%
事後②	回数	111	52	51	8	74	7
	割合	-	46.8%	45.9%	7.2%	66.7%	6.3%

※ケア回数:職員が定時のトイレ誘導・オムツ交換、または利用者の意思表示によりトイレ誘導・オムツ交換を行った回数

※トイレ誘導:職員が定時のトイレ誘導または利用者の意思表示によりトイレ誘導を行った回数

※オムツ交換:職員が定時のオムツ交換または利用者の意思表示によりオムツ交換を行った回数

※下剤等処置:ケア加入時に排便状況を考慮し下剤等の投薬を行った回数

※失禁:トイレ誘導またはオムツ交換時に、オムツ・パットへの排泄や衣類汚染を確認した回数

※排泄無:トイレ誘導・オムツ交換時に排泄が確認できなかった回数

対象利用者7名のうち、事前調査時点でトイレ誘導(介護職員によるトイレ誘導を実施した)利用者は4名、オムツ対応(オムツ交換のみ)の利用者は3名であった。日中の排泄状況は以下の通り。

オムツ対応の利用者ではスタンディングリフトの活用が難しく、トイレ誘導の回数を増やすことが難しかった。

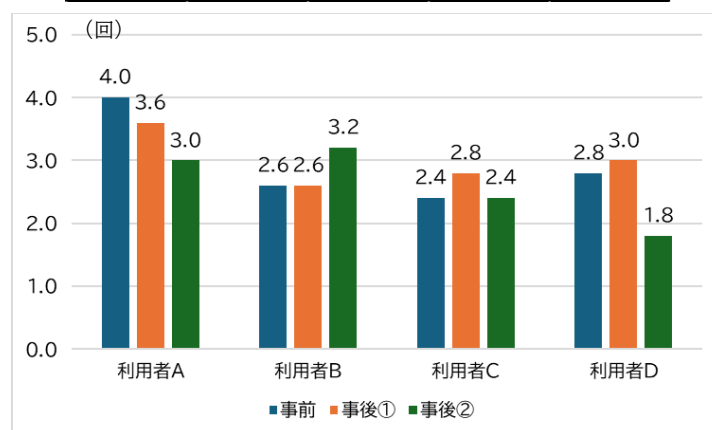
図表 XI-280 日中の排泄状況(トイレ誘導4名、オムツ対応3名)

			ケア回数	トイレ誘導	オムツ交換	下剤等処置	失禁	排泄無
事前	トイレ誘導	回数	63	59	2	2	42	6
		割合	-	93.7%	3.2%	3.2%	66.7%	9.5%
	オムツ対応	回数	54	0	46	8	38	5
		割合	-	0.0%	85.2%	14.8%	70.4%	9.3%
事後①	トイレ誘導	回数	77	60	7	9	45	8
		割合	-	77.9%	9.1%	11.7%	58.4%	10.4%
	オムツ対応	回数	47	1	46	0	34	9
		割合	-	2.1%	97.9%	0.0%	72.3%	19.1%
事後②	トイレ誘導	回数	65	52	7	6	40	5
		割合	-	80.0%	10.8%	9.2%	61.5%	7.7%
	オムツ対応	回数	46	0	44	2	34	2
		割合	-	0.0%	95.7%	4.3%	73.9%	4.3%

トイレ誘導の利用者4名を集計したところ、1名(利用者 B)は事後②でトイレ誘導回数が増加しており、スタンディングリフトを有効活用できた場合にトイレ誘導回数を増加することができた。

図表 XI-281 トイレ誘導およびオムツ・パットを使用する利用者4名のトイレ誘導回数

トイレ 誘導回数	利用者A	利用者B	利用者C	利用者D
事前	4.0	2.6	2.4	2.8
事後①	3.6	2.6	2.8	3.0
事後②	3.0	3.2	2.4	1.8



※1日あたりの平均回数を算出。

キ. ヒアリング調査結果

実証完了後、実証施設へのヒアリング調査を実施した。調査結果の概要は以下の通り。

図表 XI-282 生産性向上の取組状況

カテゴリ	主な意見
職員について	・ 職員から小さな反発はあったが、効果が出たので理解してもらえた。 ・ 機器の使用が浸透するまでに少し時間がかかった。 ・ 利用者によっては機器がうまく使えない場合もあった。 ・ 実証終了時には、今後は他の利用者にも利用したいという意見があった。
施設について	・ 現場は継続して取組をし、管理者が常に現場をサポートしながら対応した。 ・ 今回の実証を通じ、機器の利用者ごとへの適性のノウハウが蓄積された。

図表 XI-283 委員会や取組に向けた会議の開催

カテゴリ	主な意見
開催頻度 (実証フィールド別)	・ 施設での委員会を月次で開催。 ・ 施設の役職者会議を月次開催し、月次の現場定例会議で情報共有した。
参加職種・役職 (実証フィールド別)	・ リーダー以上の役職が参加。 ・ 役職者会議はリーダー以上、現場定例会議は全職員が参加。
検討内容 (実証フィールド別)	・ 各リーダーが課題を持ち寄って議論をした。 ・ 実証についての課題や困りごとを持ち寄り、ノウハウ共有などをした。 ・ 取組状況の共有、トイレ介助だけでなく移動にも活用できないかといった、取組内容を相談した。

図表 XI-284 実証目的に対する達成状況

カテゴリ	主な意見
利用者の観点	・ オムツからトイレ誘導にしたことで排便状況が改善した。 ・ 利用者に関わることができる時間が増えた。 ・ 皮下出血の事故が減った。 ・ 移乗回数が減り利用者の負担が軽減された。 ・ 自分の足で立ち上がることで自分の足で移動したという達成感があり、笑顔も見られた。 ・ 排泄中の姿勢保持にも役立った。
職員の観点	・ 排泄ケアの業務時間が月 5 時間ほど減り、記録業務の時間をより確保でき

カテゴリ	主な意見
	るようになった。 ・ トイレでの排泄ができたことが利用者だけでなく、職員にとっても良い経験だった。 ・ 腰痛の軽減を実感できた。
施設の観点	・ 費用対効果としては、約2年で投資分を回収できると見込んでいるが、数字では出せない効果を感じている。 ・ 実証を通じた学びが多く、今後の発展への意欲にもつながった。

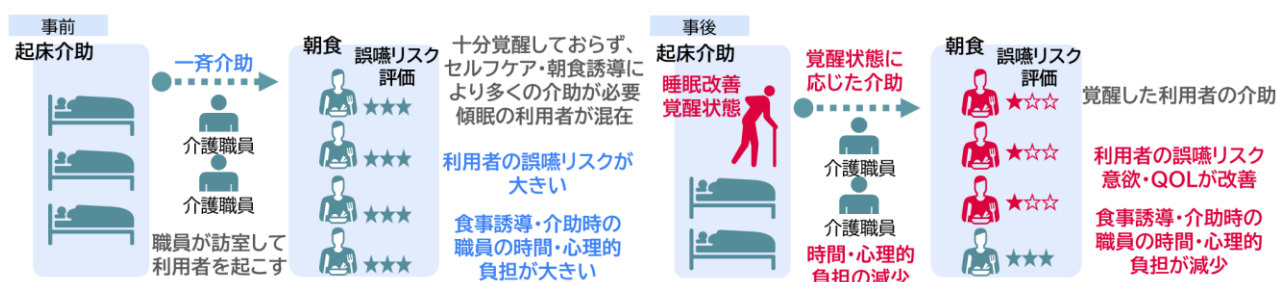
(9) パラマウントベッド株式会社「覚醒状態に応じた起床によるセルフケアや朝食の自立支援」

ア. 実証の概要

① 実証目的

見守り支援機器を活用して利用者の起床するタイミングを客観的に把握し、利用者の覚醒状況に合わせた起床介助および朝食介助を実施することにより、利用者の誤嚥リスクを軽減させ、利用者の食事のADL向上・自立を促し、介護職員の業務負担軽減を図ることを目的とした。

図表 XI-285 実証イメージ



② 実証フィールドの概要

本実証では以下の実証フィールドにて効果測定を実施した。

図表 XI-286 実証フィールドの概要

実証フィールド	法人名	施設名	サービス種別	導入機器
1	社会福祉法人 斑山会	ケアハウスゼーレ	特定施設	・見守り支援機器(眠りSCAN)
2	社会福祉法人 敬心福祉会	特別養護老人ホーム 千歳敬心苑	介護老人福祉施設	・摂食嚥下管理パッケージ(GOKURI)※

※ネックバンドから、喉の音、姿勢等の生体データを取得し、嚥下能力のモニタリングを行う。

③ 実証期間

調査期間は以下の通りである。

図表 XI-287 調査期間

調査	時期	補足
事前調査	令和 7 年11月10日～14日(5 日間)	左記のうち、実証フィールド別に各 5 日間を調査期間として実施した。
事後調査①	令和 7 年11月24日～12月15日(22日間)	
事後調査②	令和 7 年 12 月 22 日～令和 8 年 1 月 9 日(19 日間)	

調査	時期	補足
ヒアリング調査	令和8年1月 15 日、2月 18 日	

④ 各調査の概要

本調査では、実証の事前と事後(2回)で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」を実施し、独自調査として「嚥下機能評価」を実施した。また、実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。以下に各調査の概要を記載する。

図表 XI-288 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
タイムスタディ調査 (媒体:紙面)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	・ 回答方法:自記式(1 分刻みで自身が実施した作業項目を記入) ・ 調査スケジュール:事前(取組前)1 回、事後(取組後)2 回の計3回、それぞれ5日間分実施。 ・ 調査実施の時間帯:調査対象期間中の起床・朝食にかかる時間帯
職員向けアンケート調査 (全テーマ共通)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	・ 回答方法:自記式(WEB 回答) ・ 調査スケジュール:事前と事後2回、実証期間中それぞれについて、1名につき1回のみ回答
利用者向けアンケート調査 (全テーマ共通)	新たな取組によるケアを受けた利用者 (職員による代理回答)	・ 回答方法:自記式(WEB 回答) ・ 調査スケジュール:事前と事後2回、実証期間中それぞれについて、1名につき1回のみ回答
嚥下機能評価(独自調査)	新たな取組によるケアを受けた利用者 (職員による計測)	・ 回答方法:自記式(紙面回答) ・ 摂食嚥下管理パッケージを用いて、朝食前に利用者の嚥下機能を評価 ・ 調査スケジュール:事前1回、事後 2 回の計3回、それぞれ5日間分実施。
ヒアリング調査 (全テーマ共通)	部門管理者、介護職員	・ 調査方法:現地訪問による聞き取り ・ 調査スケジュール:実証終了後に1回ずつ実施

⑤ タイムスタディ調査項目

本調査のタイムスタディ調査項目は以下のとおり。今回は、対象利用者に対し、職員が起床および朝食の介助にかかる業務に要した時間を調査した。なお、事前と事後調査の調査項目は共通とした。

図表 XI-289 タイムスタディ調査項目

NO	項目
1	利用者の起床・整容
2	食堂への移動
3	朝食の準備
4	食事介助
5	食後の対応

- 1 例：起床の声かけ・誘導、トイレ介助、洗顔・整髪・着替えの支援、体調確認（バイタルチェックなど）
- 2 例：歩行介助・車椅子移動、座位の安定確認（姿勢調整、クッション使用など）
- 3 例：食事の配膳、お茶や水の提供、食事前の口腔体操（嚥下予防）
- 4 例：スプーンでの補助・声かけなど、誤嚥防止のための観察、食事中のコミュニケーション（安心感の提供）
- 5 例：口腔ケア（歯磨き・うがい）、トイレ誘導、居室への移動、記録（介護記録システムへの入力）

イ. 利用者・職員概要

① 利用者概要

本調査において利用者向けアンケート調査に回答があった利用者は10名であった。

図表 XI-290 利用者概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	2	8	0	10
	割合	20%	80%	0%	100%

図表 XI-291 利用者概要:年齢

		70歳未満	70歳～75歳未満	75歳～80歳未満	80歳～85歳未満	85歳～90歳未満	90歳～95歳未満	95歳以上	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	1	3	4	2	0	0	10
	割合	0%	0%	10%	30%	40%	20%	0%	0%	100%

図表 XI-292 利用者概要:要介護度

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支援	その他(区分申請中等)	無回答	合計
総数	人数(人)	1	0	5	4	0	0	0	0	10
	割合	10%	0%	50%	40%	0%	0%	0%	0%	100%

図表 XI-293 利用者概要:障害高齢者の日常生活自立度

		J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明・未実施	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	1	2	5	2	0	0	0	0	10
	割合	0%	0%	10%	20%	50%	20%	0%	0%	0%	0%	100%

② 職員概要

本調査において職員向けアンケート調査に回答があった職員は 18 名であった。

図表 XI-294 職員概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	9	9	0	18
	割合	50%	50%	0%	100%

図表 XI-295 職員概要:年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
総数	人数(人)	0	1	7	4	4	2	0	0	18
	割合	0%	6%	39%	22%	22%	11%	0%	0%	100%

図表 XI-296 職員概要:職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓 練指導員を 含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	13	4	0	0	0	0	1	0	18
	割合	72%	22%	0%	0%	0%	0%	6%	0%	100%

※その他:介護支援専門員

図表 XI-297 職員概要:役職

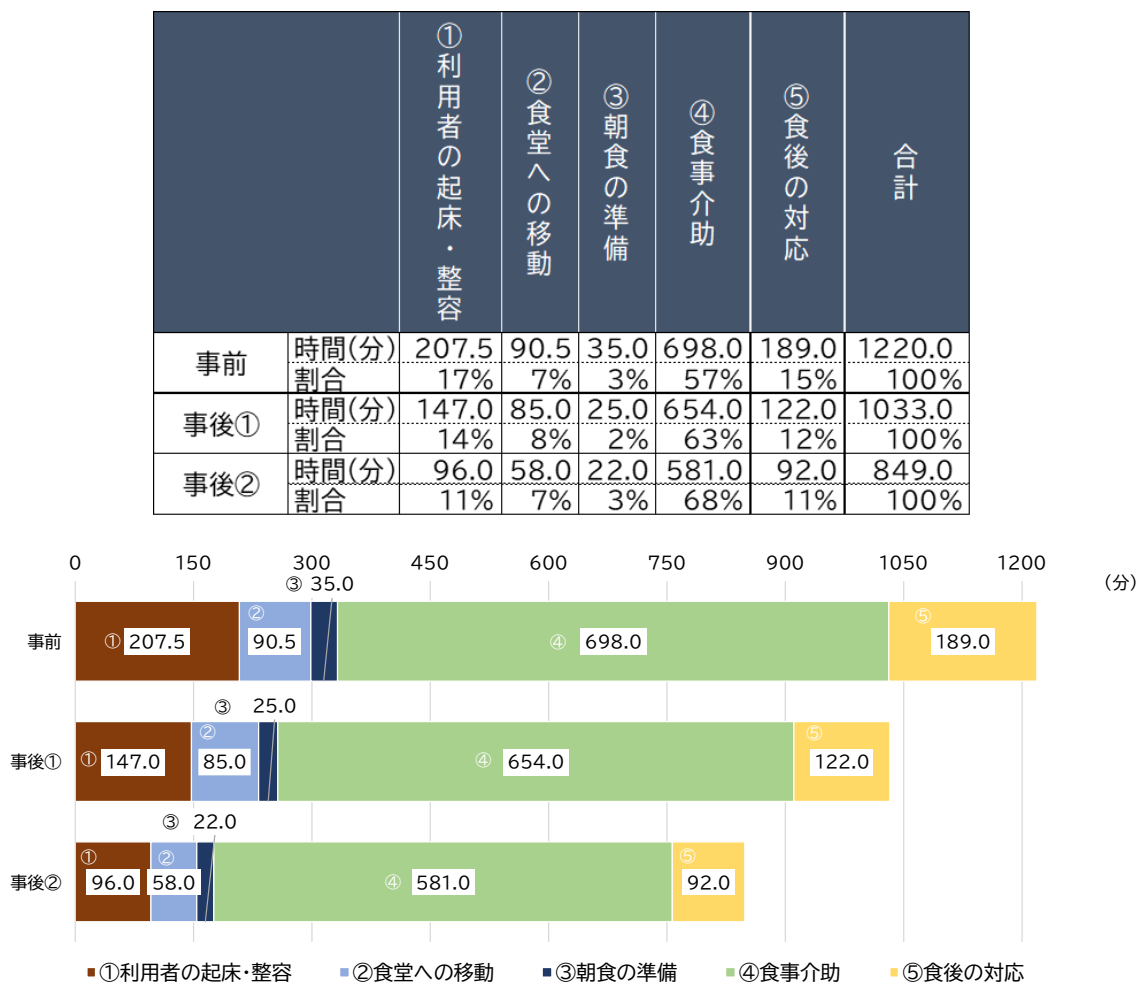
		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	5	13	0	0	18
	割合	0%	28%	72%	0%	0%	100%

ウ. タイムスタディ調査結果

対象利用者に対し、職員が起床および朝食にかかる業務に要した時間を調査した。図表 XI-298 は利用者10 名分の総業務時間(5日間)、図表 XI-299 は利用者1名あたりの総業務時間(1日あたり)の業務時間を示す。

事前と比較し、事後①では総業務時間の合計が 187 分(利用者1名あたり 1 日あたり 3.7 分)減少し、事後②では総業務時間の合計が 371 分(利用者1名あたり 1 日あたり 7.4 分)減少した。

図表 XI-298 タイムスタディ調査の結果(起床および朝食にかかる介助の総業務時間)

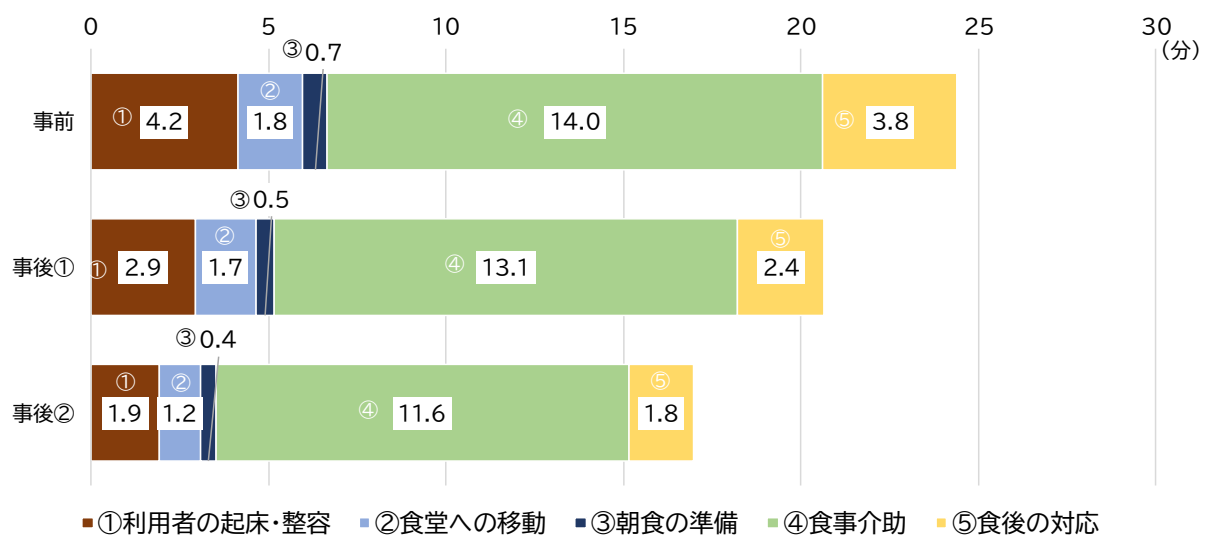


※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施

※グラフ上の数は、利用者10 名分の総業務時間(5日間)を示す。

図表 XI-299 タイムスタディ調査の結果(起床および朝食にかかる介助の総業務時間:1利用者、1日あたり)

		① 利用者の起床・ 整容	② 食堂への移動	③ 朝食の準備	④ 食事介助	⑤ 食後の対応	合計
事前	時間(分)	4.2	1.8	0.7	14.0	3.8	24.4
	割合	0%	0%	0%	1%	0%	2%
事後①	時間(分)	2.9	1.7	0.5	13.1	2.4	20.7
	割合	0%	0%	0%	1%	0%	2%
事後②	時間(分)	1.9	1.2	0.4	11.6	1.8	17.0
	割合	0%	0%	0%	1%	0%	2%



事前 n=10、事後①n=10、事後②n=10(対象利用者)

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施

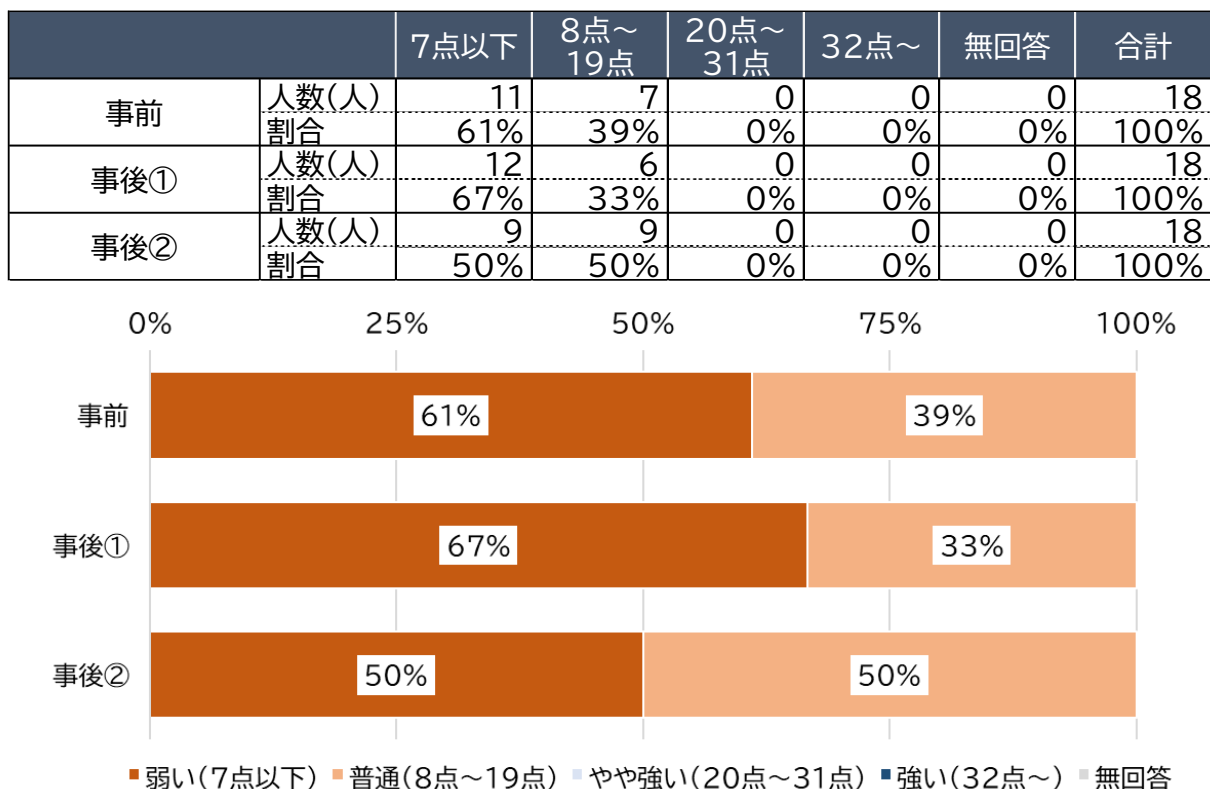
※グラフ上の数は、利用者1名あたりの総業務時間(1日あたり)を示す。

工. 職員向けアンケート調査結果

① 心理的負担評価

職員の心理的ストレス反応測定尺度合計点について事前と事後 2 回の結果を比較すると、「弱い（7 点以下）」と回答した職員の割合が、事前では 61%、事後①では 67%、事後②では 50%となった。

図表 XI-300 職員調査：心理的負担評価



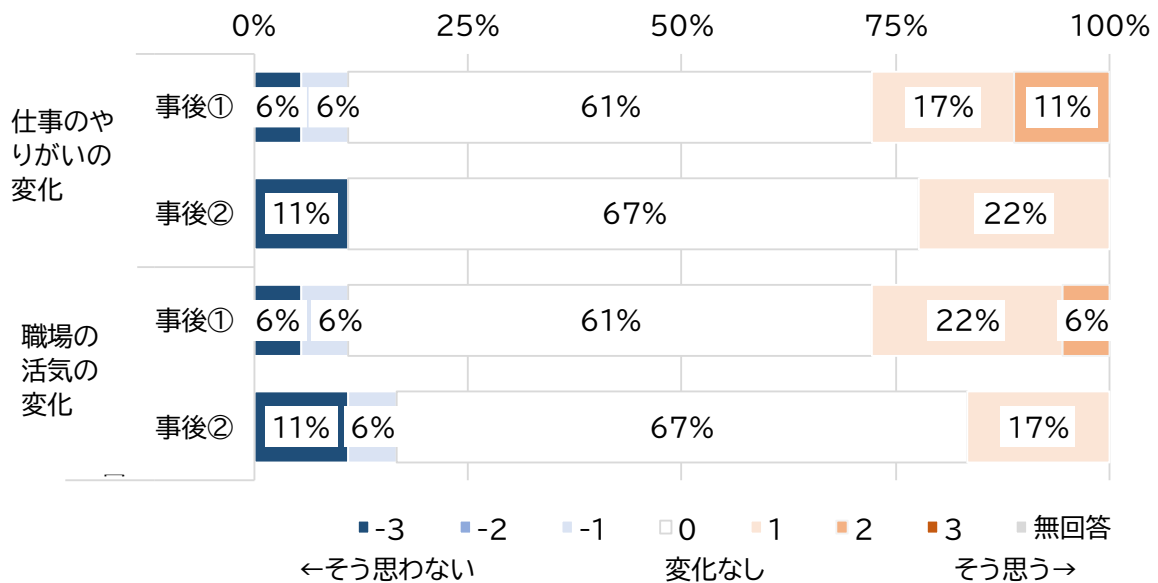
※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各 18 項目のうち 1 項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が 0、1、2、3 以外の場合は無回答処理をした。

② 機器導入によるモチベーションの変化

機器導入によるモチベーションの変化は以下の通り。

図表 XI-301 職員調査:機器導入によるモチベーションの変化

			←減少したと感じる→							増加したと感じる→	無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
仕事のやりがいの変化	事後①	人数(人)	1	0	1	11	3	2	0	0	0	18
		割合	6%	0%	6%	61%	17%	11%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	2	0	0	12	4	0	0	0	0	18
		割合	11%	0%	0%	67%	22%	0%	0%	0%	0%	100%
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	1	0	1	11	4	1	0	0	0	18
		割合	6%	0%	6%	61%	22%	6%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	2	0	1	12	3	0	0	0	0	18
		割合	11%	0%	6%	67%	17%	0%	0%	0%	0%	100%



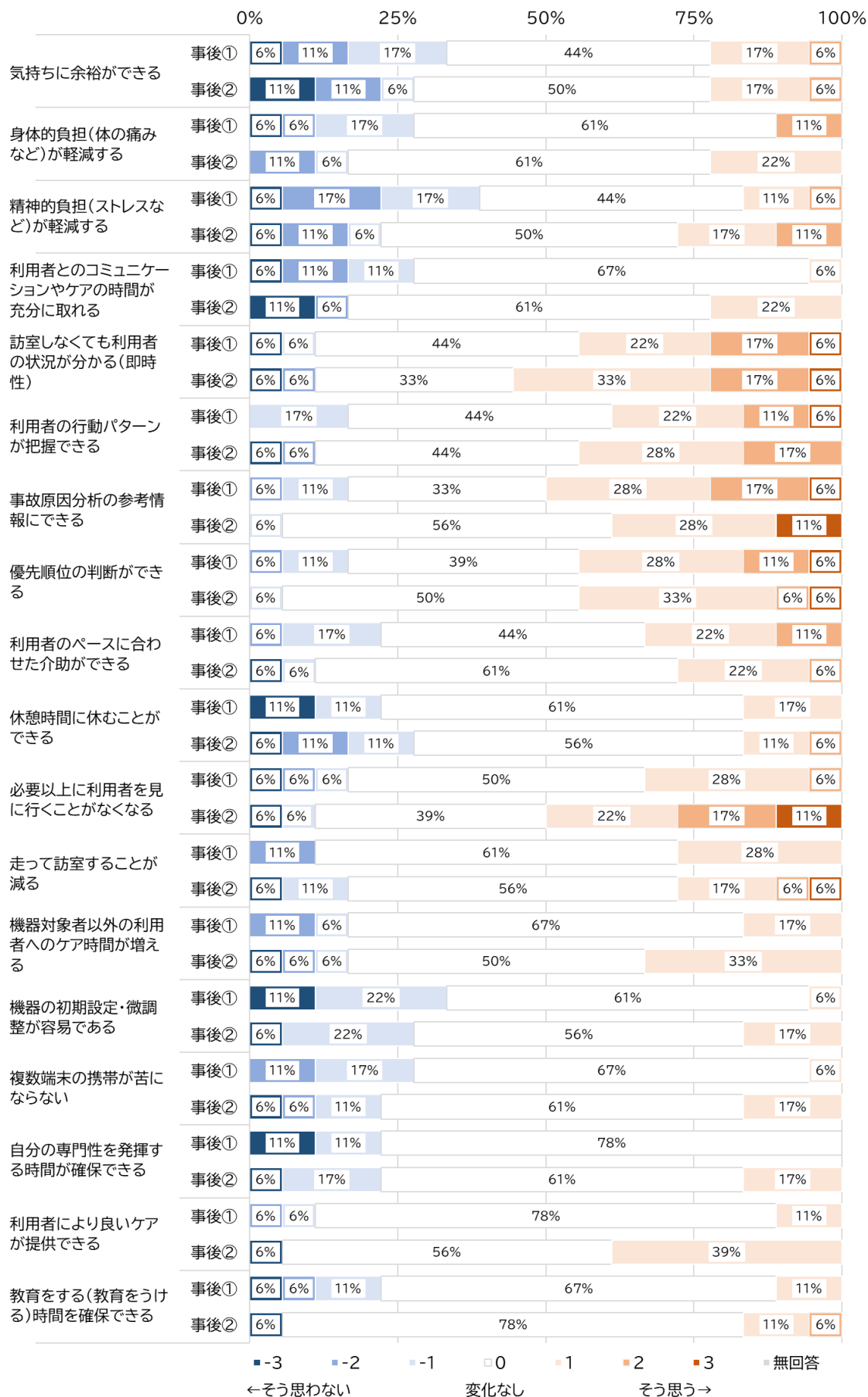
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

③ 機器導入による職員や施設業務の変化

機器導入による職員や施設業務の変化は以下の通り。

図表 XI-302 職員調査:機器導入による職員や施設業務の変化

			←そう思わない		変化なし			そう思う→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人)	1	2	3	8	3	1	0	0	18
		割合	6%	11%	17%	44%	17%	6%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	2	2	1	9	3	1	0	0	18
		割合	11%	11%	6%	50%	17%	6%	0%	0%	100%
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人)	1	1	3	11	0	2	0	0	18
		割合	6%	6%	17%	61%	0%	11%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	2	1	11	4	0	0	0	18
		割合	0%	11%	6%	61%	22%	0%	0%	0%	100%
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人)	1	3	3	8	2	1	0	0	18
		割合	6%	17%	17%	44%	11%	6%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	2	1	9	3	2	0	0	18
		割合	6%	11%	6%	50%	17%	11%	0%	0%	100%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	事後①	人数(人)	1	2	2	12	1	0	0	0	18
		割合	6%	11%	11%	67%	6%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	2	1	0	11	4	0	0	0	18
		割合	11%	6%	0%	61%	22%	0%	0%	0%	100%
訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	事後①	人数(人)	1	0	1	8	4	3	1	0	18
		割合	6%	0%	6%	44%	22%	17%	6%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	1	0	6	6	3	1	0	18
		割合	6%	6%	0%	33%	33%	17%	6%	0%	100%
利用者の行動パターンが把握できる	事後①	人数(人)	0	0	3	8	4	2	1	0	18
		割合	0%	0%	17%	44%	22%	11%	6%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	1	0	8	5	3	0	0	18
		割合	6%	6%	0%	44%	28%	17%	0%	0%	100%
事故原因分析の参考情報にできる	事後①	人数(人)	0	1	2	6	5	3	1	0	18
		割合	0%	6%	11%	33%	28%	17%	6%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	1	10	5	0	2	0	18
		割合	0%	0%	6%	56%	28%	0%	11%	0%	100%
優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	事後①	人数(人)	0	1	2	7	5	2	1	0	18
		割合	0%	6%	11%	39%	28%	11%	6%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	1	9	6	1	1	0	18
		割合	0%	0%	6%	50%	33%	6%	6%	0%	100%
利用者のペースに合わせた介助ができる	事後①	人数(人)	0	1	3	8	4	2	0	0	18
		割合	0%	6%	17%	44%	22%	11%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	1	11	4	1	0	0	18
		割合	6%	0%	6%	61%	22%	6%	0%	0%	100%
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人)	2	0	2	11	3	0	0	0	18
		割合	11%	0%	11%	61%	17%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	2	2	10	2	1	0	0	18
		割合	6%	11%	11%	56%	11%	6%	0%	0%	100%
必要以上に利用者を見に行くことがなくなる	事後①	人数(人)	1	1	1	9	5	1	0	0	18
		割合	6%	6%	6%	50%	28%	6%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	1	7	4	3	2	0	18
		割合	6%	0%	6%	39%	22%	17%	11%	0%	100%
走って訪室することが減る	事後①	人数(人)	0	2	0	11	5	0	0	0	18
		割合	0%	11%	0%	61%	28%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	2	10	3	1	1	0	18
		割合	6%	0%	11%	56%	17%	6%	6%	0%	100%
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	事後①	人数(人)	0	2	1	12	3	0	0	0	18
		割合	0%	11%	6%	67%	17%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	1	1	9	6	0	0	0	18
		割合	6%	6%	6%	50%	33%	0%	0%	0%	100%
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人)	2	0	4	11	1	0	0	0	18
		割合	11%	0%	22%	61%	6%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	4	10	3	0	0	0	18
		割合	6%	0%	22%	56%	17%	0%	0%	0%	100%
複数端末の携帯が苦にならない	事後①	人数(人)	0	2	3	12	1	0	0	0	18
		割合	0%	11%	17%	67%	6%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	1	2	11	3	0	0	0	18
		割合	6%	6%	11%	61%	17%	0%	0%	0%	100%
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人)	2	0	2	14	0	0	0	0	18
		割合	11%	0%	11%	78%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	3	11	3	0	0	0	18
		割合	6%	0%	17%	61%	17%	0%	0%	0%	100%
利用者により良いケアが提供できる	事後①	人数(人)	0	1	1	14	2	0	0	0	18
		割合	0%	6%	6%	78%	11%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	0	10	7	0	0	0	18
		割合	6%	0%	0%	56%	39%	0%	0%	0%	100%
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後①	人数(人)	1	1	2	12	2	0	0	0	18
		割合	6%	6%	11%	67%	11%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	0	14	2	1	0	0	18
		割合	6%	0%	0%	78%	11%	6%	0%	0%	100%



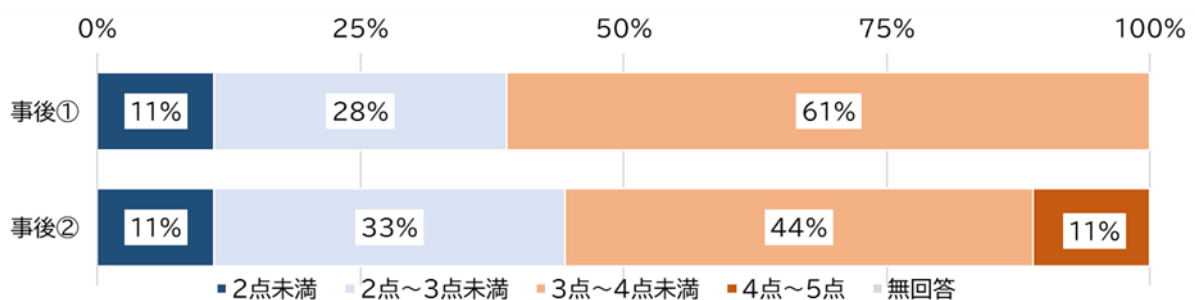
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

④ 導入機器の満足度評価 ※出典:QUEST 福祉用具満足度評価

導入機器の満足度については、「4点～5点」と回答した職員は、事後①では0%だったが、事後②では11%であった。

図表 XI-303 職員調査:導入機器の満足度評価(総合評価)

		2点未満	2点～ 3点未満	3点～ 4点未満	4点～5 点	無回答	合計
事後①	人数(人)	2	5	11	0	0	18
	割合	11%	28%	61%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	2	6	8	2	0	18
	割合	11%	33%	44%	11%	0%	100%

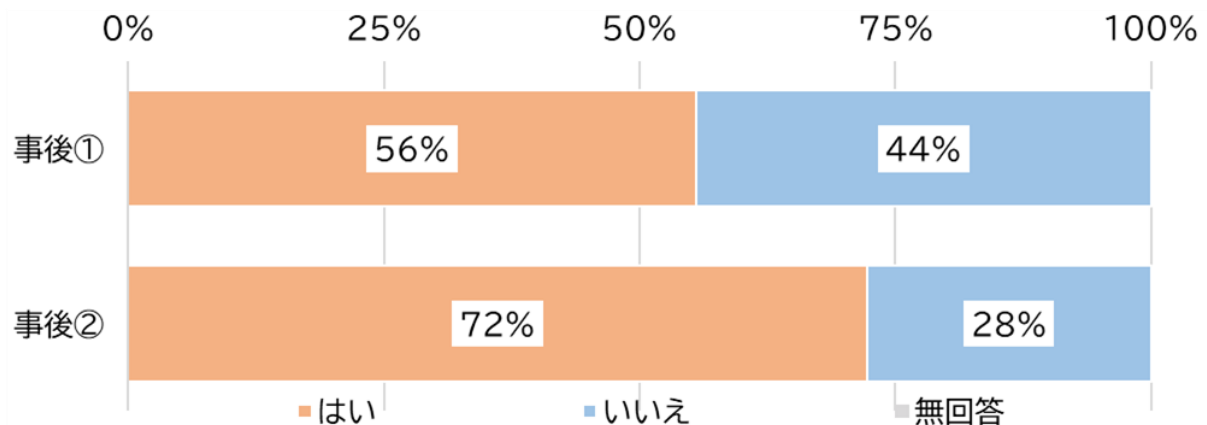


⑤ 導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向

導入機器の継続利用意向については「はい」の回答が多く、事後①では56%、事後②で72%であった。

図表 XI-304 職員調査:導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向

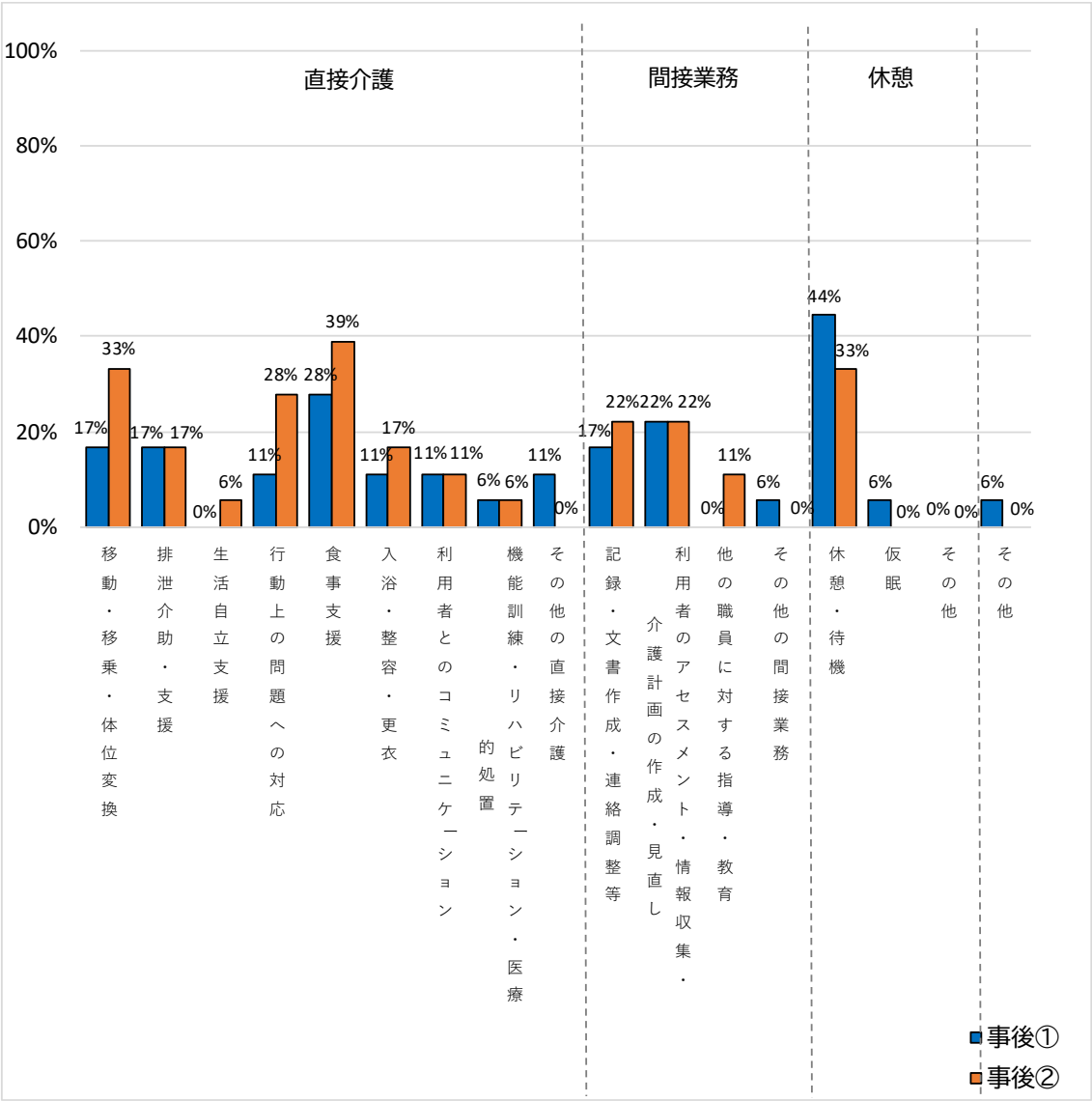
		はい	いいえ	無回答	合計
事後①	人数(人)	10	8	0	18
	割合	56%	44%	0%	100%
事後②	人数(人)	13	5	0	18
	割合	72%	28%	0%	100%



⑥ 職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により増やすことができた時間
職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により増やすことができた時間としては、「休憩・待機」「食事支援」を挙げる職員が多かった。

図表 XI-305 職員調査:職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により増やすことができた時間

		直接介護										間接業務				休憩			その他	無回答（人）	合計（人）
		移動、移乗、体位変換	排泄介助、支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴、整容、更衣	利用者とのコミュニケーション	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	記録、文書作成、連絡調整等	収集、介護計画の作成・見直し	利用者のアセスメント・情報	他の職員に対する指導・教育	その他の間接業務	休憩	仮眠	その他			
事後①	人数(人) 割合	3 17%	3 17%	0 0%	2 11%	5 28%	2 11%	2 11%	1 6%	2 11%	3 17%	4 22%	0 0%	1 6%	8 44%	1 6%	0 0%	1 6%	3 17%	18	
事後②	人数(人) 割合	6 33%	3 17%	1 6%	5 28%	7 39%	3 17%	2 11%	1 6%	0 0%	4 22%	4 22%	2 11%	0 0%	6 33%	6 33%	0 0%	0 0%	0 0%	2 11%	18

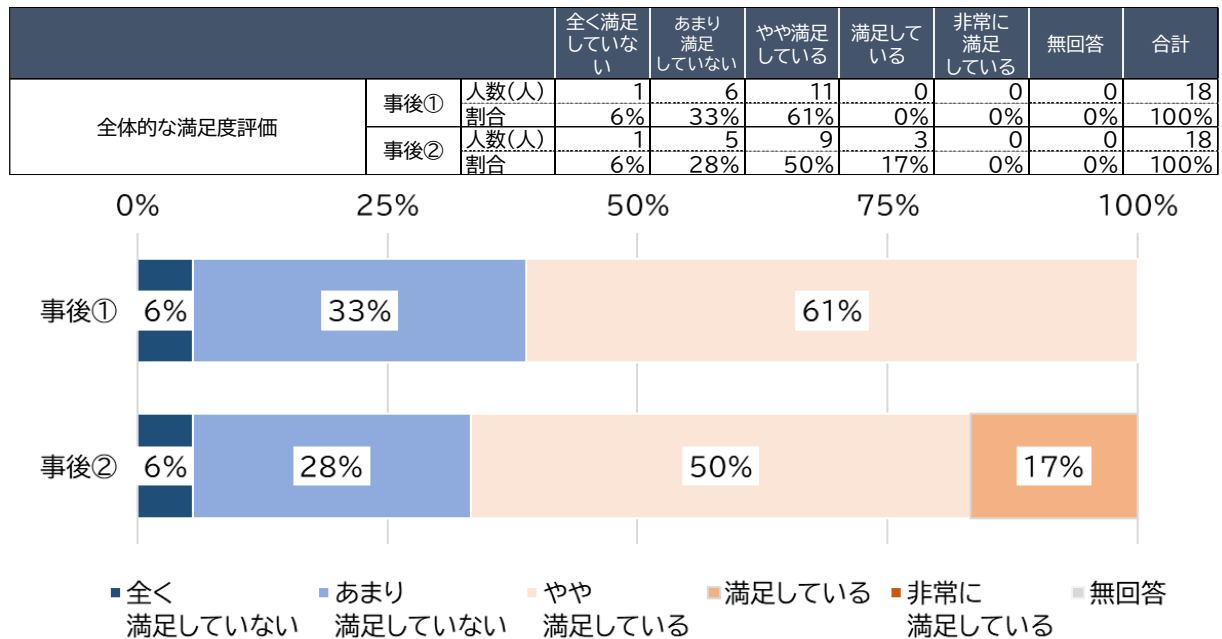


※該当する項目をすべて選択する設問。

⑦ 満足度評価

調査で導入した機器を用いたケアに対する満足度については、「やや満足している」と回答した職員の割合が、事後①では 61%、事後②では 50%であった。

図表 XI-306 職員調査：満足度評価



※質問項目に対し、1(全く満足していない)～5(非常に満足している)の 5 段階で評価した。

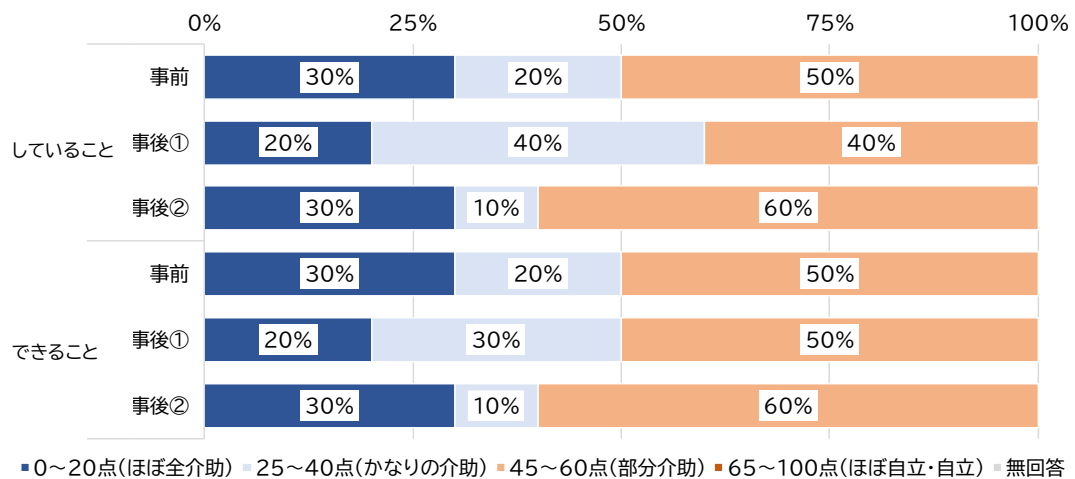
オ. 利用者向けアンケート調査結果

① ADL の変化

ADL の変化は以下の通り。

図表 XI-307 利用者調査:ADL の変化

			0点～ 20点	25点～ 40点	45点～ 60点	65点～ 100点	無回答	合計
していること	事前	人数(人)	3	2	5	0	0	10
		割合	30%	20%	50%	0%	0%	100%
	事後①	人数(人)	2	4	4	0	0	10
		割合	20%	40%	40%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	3	1	6	0	0	10
		割合	30%	10%	60%	0%	0%	100%
できること	事前	人数(人)	3	2	5	0	0	10
		割合	30%	20%	50%	0%	0%	100%
	事後①	人数(人)	2	3	5	0	0	10
		割合	20%	30%	50%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	3	1	6	0	0	10
		割合	30%	10%	60%	0%	0%	100%



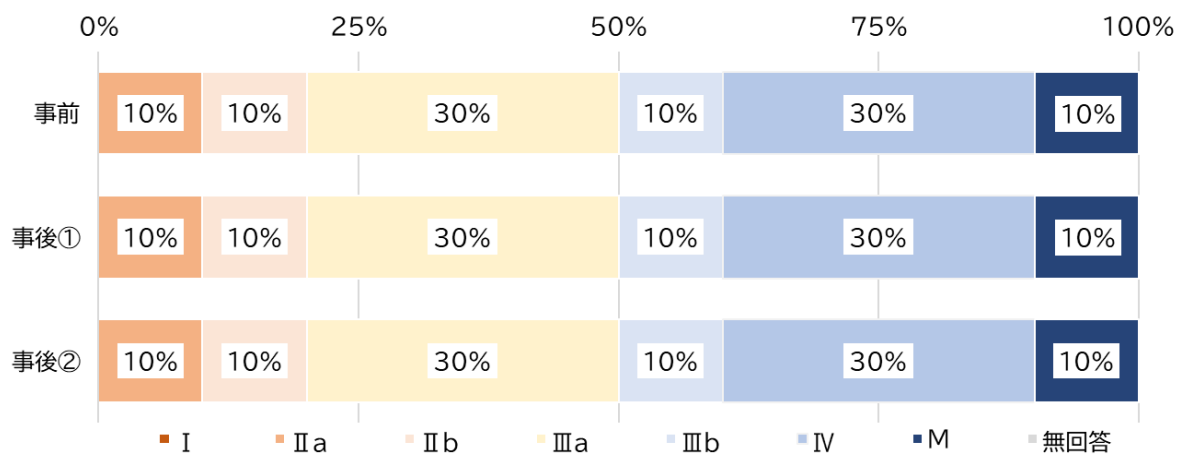
※事前調査または事後調査で、各10項目のうち1項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

② 認知症高齢者の日常生活自立度の変化

認知症高齢者の日常生活自立度は以下の通り。

図表 XI-308 利用者調査:認知症高齢者の日常生活自立度の変化

		I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	無回答	合計
事前	人数(人)	0	1	1	3	1	3	1	0	10
	割合	0%	10%	10%	30%	10%	30%	10%	0%	100%
事後①	人数(人)	0	1	1	3	1	3	1	0	10
	割合	0%	10%	10%	30%	10%	30%	10%	0%	100%
事後②	人数(人)	0	1	1	3	1	3	1	0	10
	割合	0%	10%	10%	30%	10%	30%	10%	0%	100%

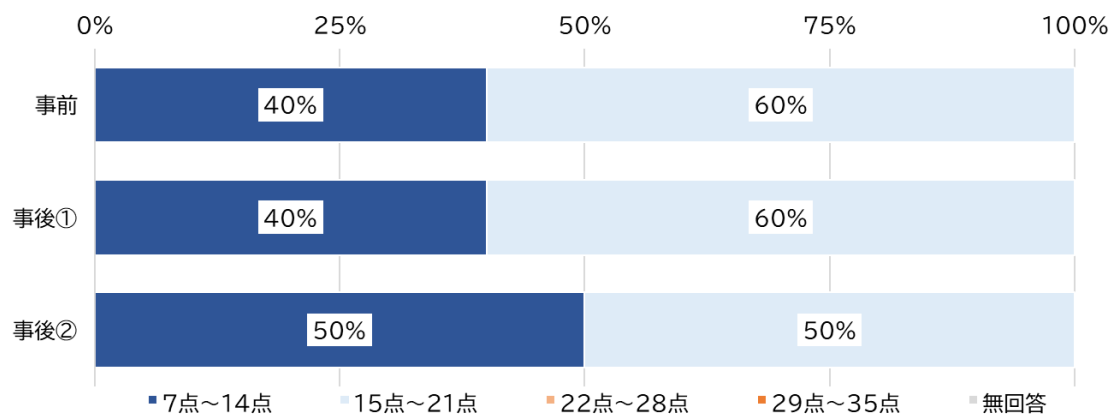


③ 生活・認知機能尺度の変化

生活・認知機能尺度の変化について、「7点～14点」の利用者の割合が、事前および事後①では40%、事後②では50%となった。

図表 XI-309 利用者調査：生活・認知機能尺度の変化

		7点～ 14点	15点～ 21点	22点～ 28点	29点～ 35点	無回答	合計
事前	人数(人)	4	6	0	0	0	10
	割合	40%	60%	0%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	4	6	0	0	0	10
	割合	40%	60%	0%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	5	5	0	0	0	10
	割合	50%	50%	0%	0%	0%	100%

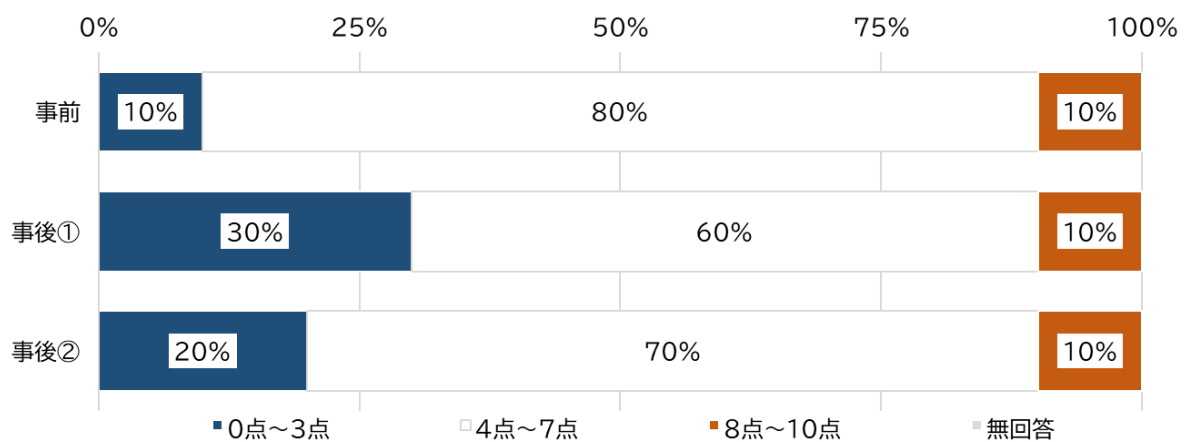


④ Vitality Index の変化

Vitality Index の変化は以下の通り。

図表 XI-310 利用者調査: Vitality Index の変化

		0点～3点	4点～7点	8点～10点	無回答	合計
事前	人数(人)	1	8	1	0	10
	割合	10%	80%	10%	0%	100%
事後①	人数(人)	3	6	1	0	10
	割合	30%	60%	10%	0%	100%
事後②	人数(人)	2	7	1	0	10
	割合	20%	70%	10%	0%	100%



※事前調査または事後調査で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、以外の場合は無回答処理をした。

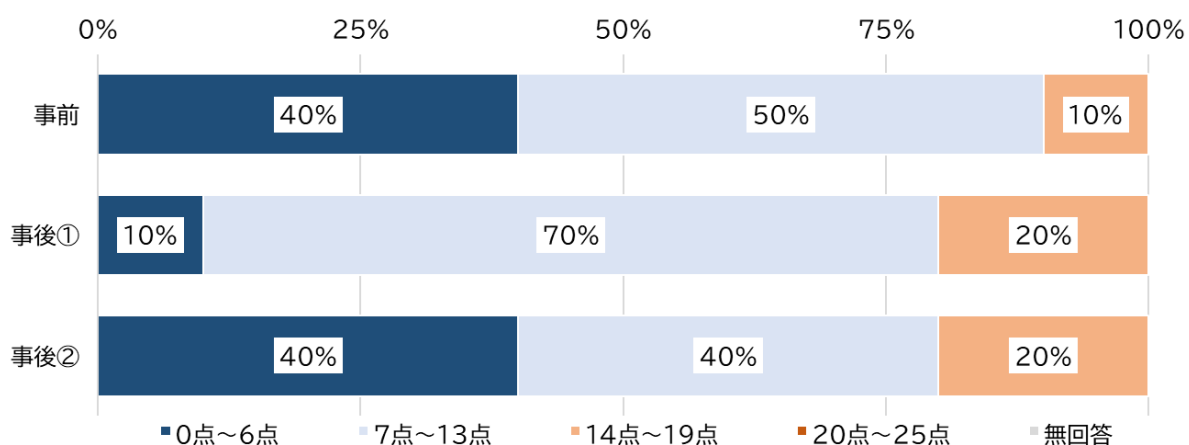
※ Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の 5 項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5 項目それぞれに0～2 点で回答し、それぞれ 2 点が最もよい状態を示す。10 点満点。

⑤ QOL(WHO-5 精神的健康状態表)の変化

QOL の変化は、「20 点以上 25 点以下」の割合が、事前では10%、事後①および事後②では 20%となった。

図表 XI-311 利用者調査:QOL の変化

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
事前	人数(人)	4	5	1	0	0	10
	割合	40%	50%	10%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	1	7	2	0	0	10
	割合	10%	70%	20%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	4	4	2	0	0	10
	割合	40%	40%	20%	0%	0%	100%



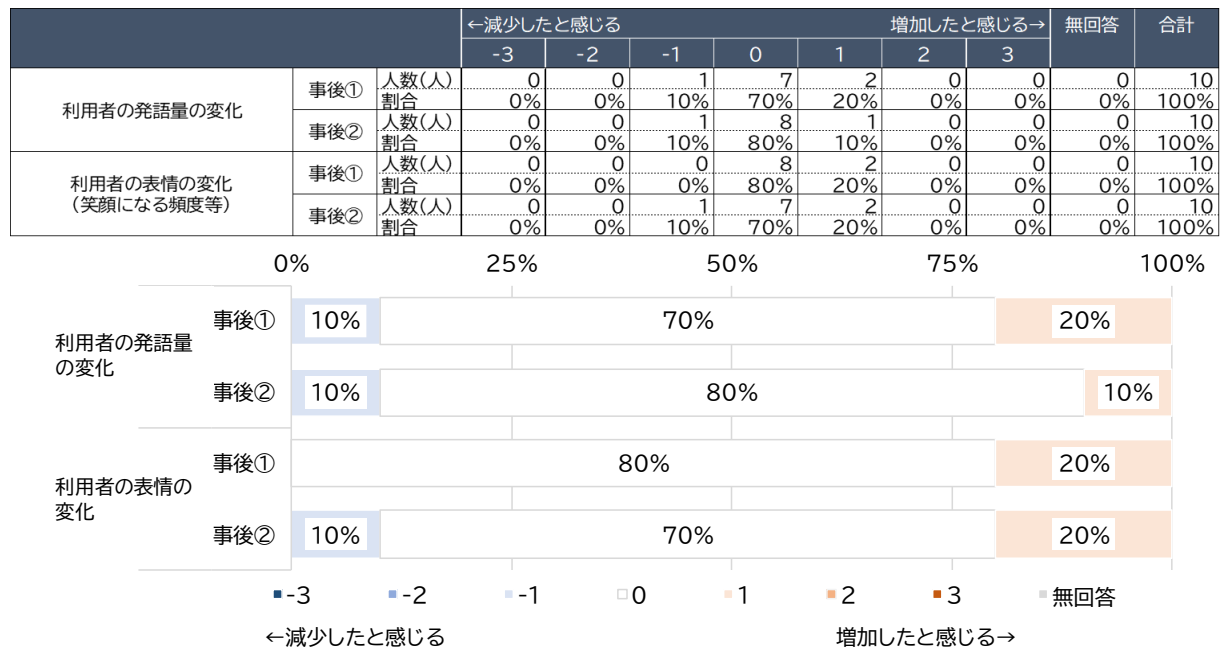
※事前または事後で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近2週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

⑥ 機器導入によるコミュニケーションの変化

機器導入によるコミュニケーションの変化は、「0(変化なし)」と回答する利用者が最も多く、「利用者の発語量の変化」では、事後①で 70%、事後②で 80%であった。「利用者の表情の変化」では、事後①で 70%、事後②で 80%であった。

図表 XI-312 利用者調査:機器導入によるコミュニケーションの変化



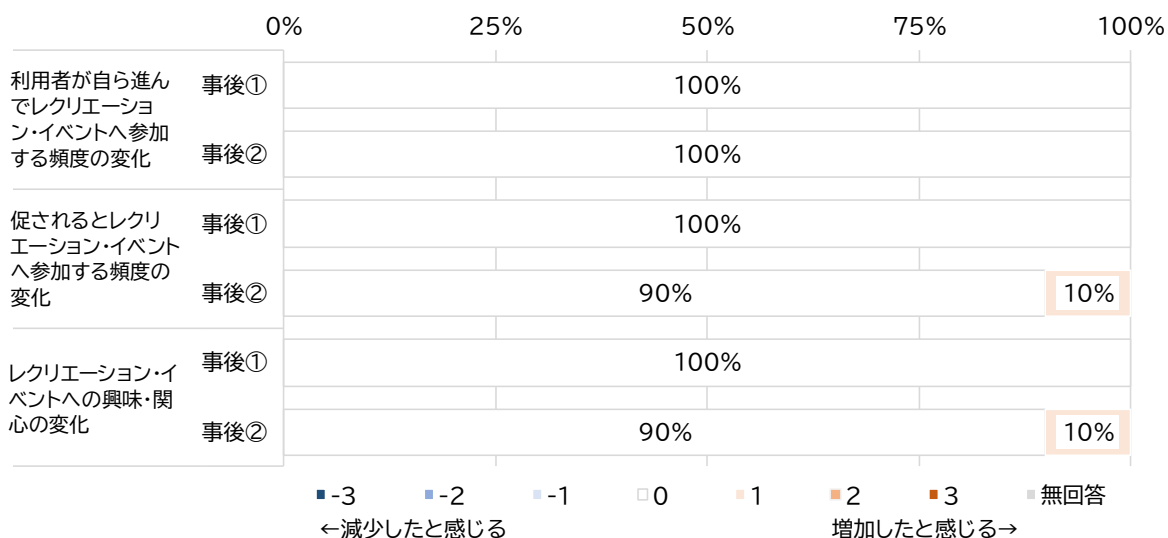
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

⑦ 機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化は、いずれも「0(変化なし)」に該当した利用者が最も多かった。

図表 XI-313 利用者調査:機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

			←減少したと感じる→				増加したと感じる→				無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	10	0	0	0	0	0	10
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	10	0	0	0	0	0	10
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	10	0	0	0	0	0	10
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	9	1	0	0	0	0	10
		割合	0%	0%	0%	90%	10%	0%	0%	0%	0%	100%
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	10	0	0	0	0	0	10
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	9	1	0	0	0	0	10
		割合	0%	0%	0%	90%	10%	0%	0%	0%	0%	100%

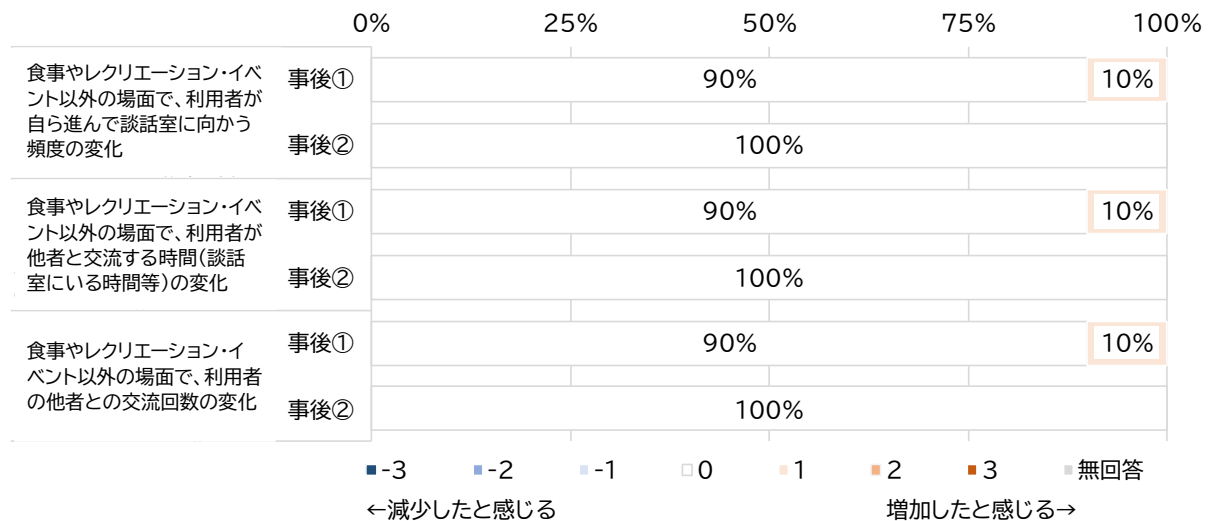


※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

⑧ 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化
 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化は以下の通り。

図表 XI-314 利用者調査：機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

			←減少したと感じる					増加したと感じる→				無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3				
食事やレクリエーション・イベント以外の場面、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	9	1	0	0	0	0	0	10
		割合	0%	0%	0%	90%	10%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	10
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
食事やレクリエーション・イベント以外の場面、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	9	1	0	0	0	0	0	10
		割合	0%	0%	0%	90%	10%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	10
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
食事やレクリエーション・イベント以外の場面、利用者の他者との交流回数の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	9	1	0	0	0	0	0	10
		割合	0%	0%	0%	90%	10%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	10
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%



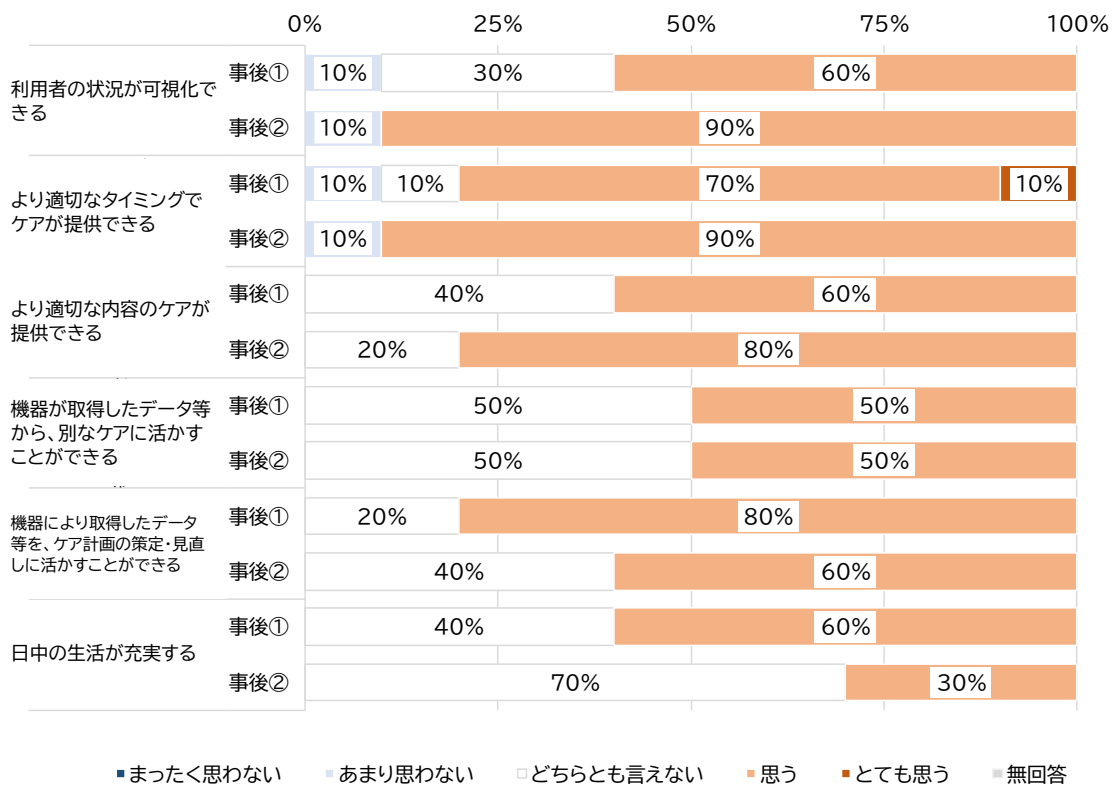
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

⑨ 機器導入によるケア内容の変更

機器導入によるケア内容の変更の変化は以下の通り。

図表 XI-315 利用者調査:機器導入によるケア内容の変更

			まったく 思わない	あまり 思わない	どちらと も言えな い	思う	とても 思う	無回答	合計
利用者の状況が可視化できる	事後①	人数(人)	0	1	3	6	0	0	10
		割合	0%	10%	30%	60%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	0	9	0	0	10
		割合	0%	10%	0%	90%	0%	0%	100%
より適切なタイミングでケアが提供できる	事後①	人数(人)	0	1	1	7	1	0	10
		割合	0%	10%	10%	70%	10%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	0	9	0	0	10
		割合	0%	10%	0%	90%	0%	0%	100%
より適切な内容のケアが提供できる	事後①	人数(人)	0	0	4	6	0	0	10
		割合	0%	0%	40%	60%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	2	8	0	0	10
		割合	0%	0%	20%	80%	0%	0%	100%
機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	事後①	人数(人)	0	0	5	5	0	0	10
		割合	0%	0%	50%	50%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	5	5	0	0	10
		割合	0%	0%	50%	50%	0%	0%	100%
機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	事後①	人数(人)	0	0	2	8	0	0	10
		割合	0%	0%	20%	80%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	4	6	0	0	10
		割合	0%	0%	40%	60%	0%	0%	100%
日中の生活が充実する	事後①	人数(人)	0	0	4	6	0	0	10
		割合	0%	0%	40%	60%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	7	3	0	0	10
		割合	0%	0%	70%	30%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、1(全く思わない)～5(とても思う)の 5 段階で評価した(回答は職員が実施)。

カ. 独自調査

本調査で実施した、利用者の覚醒状況に合わせた起床介助の取組による、利用者の誤嚥リスクの変化を把握するため、各実証期間中における対象利用者の嚥下機能を調査した。嚥下機能の評価には摂食嚥下管理パッケージ(GOKURI)を用い、評価した項目は、推定摂食嚥下状況(FILS)、水飲みレベル(SC)、誤嚥リスク、推定嚥下障害重症度(DSS)、食事時間とした。各調査における利用者ごとの嚥下機能評価結果、事後②における変化(事前との比較)を以下に示す。

本調査で対象とした利用者は、嚥下機能が低下している方とし、介護職員による食事動作の介助が必要な利用者が多かった。今回、見守り支援機器を用いて利用者の起床するタイミングを客観的に把握し、利用者の覚醒状況に合わせた起床介助を実践した結果、事前に比べ事後②時点において、嚥下機能評価のいずれかの項目で改善が見られた利用者は5名であった。そのうち、利用者5はADL(食事)が事前0点から事後②5点に改善した。また、利用者8・10の2名は嚥下機能の改善に伴い、安定して食事を食べることができるようになり、食事時間が増加した。

食事時間について、仮説としては、嚥下機能の改善とともに食事時間は短縮することを想定していたが、利用者8・10のように食事を完食できるようになったことで、食事時間が増加したケースもあった。食事時間が増加したケースであっても、利用者の主体性を尊重した自立支援の効果が把握できた。

図表 XI-316 独自調査結果:各調査における嚥下機能評価結果(各調査期間における平均値)

利用者	推定摂食嚥下状況(FILS)			水飲みレベル(SC)			誤嚥リスク			推定嚥下障害重症度(DSS)			食事時間(単位:分)		
	スコア範囲:1~10点 (10点:良好)			スコア範囲:1~8点 (8点:良好)			スコア範囲:1~8点 (8点:不良)			スコア範囲:1~7点 (7点:正常)			最初の飲み込み～ 最後の飲み込みまでの時間		
	事前	事後①	事後②	事前	事後①	事後②	事前	事後①	事後②	事前	事後①	事後②	事前	事後①	事後②
1	7.6	6.6	7.8	5.6	5.0	5.6	4.6	5.0	4.8	4.6	4.2	4.6	19.1	17.0	14.8
2	4.0	5.4	7.2	3.2	4.2	4.8	7.2	5.8	5.8	2.2	3.6	3.8	9.6	9.5	11.8
3	8.8	9.0	8.8	6.8	7.0	6.8	3.4	3.6	3.4	5.8	6.0	5.8	15.3	11.6	13.1
4	6.6	7.4	8.2	4.8	5.6	6.2	5.4	4.6	3.8	3.8	4.6	5.2	21.1	18.8	21.0
5	6.4	6.4	8.0	4.8	4.8	6.0	6.0	6.0	5.0	3.8	3.8	5.0	28.3	27.1	27.6
6	7.0	8.0	6.8	5.0	6.0	4.6	6.0	5.0	6.2	4.0	5.0	3.6	11.4	14.3	19.1
7	9.0	8.6	8.2	7.0	6.6	6.2	3.0	3.4	3.8	6.0	5.6	5.2	8.8	10.9	11.6
8	6.8	8.2	8.4	5.2	6.2	6.4	4.8	4.0	3.6	4.2	5.2	5.4	15.9	19.0	20.1
9	8.4	8.0	7.8	6.4	6.0	5.8	3.6	4.0	4.2	5.4	5.0	4.8	18.5	26.6	22.8
10	6.8	8.2	7.8	5.0	6.2	5.8	5.6	4.8	5.2	4.2	5.2	4.8	9.8	16.5	13.9
平均値	7.1	7.6	7.9	5.4	5.8	5.8	5.0	4.6	4.6	4.4	4.8	4.8	15.8	17.1	17.6

図表 XI-317 独自調査結果:嚥下機能・食事動作の事後②における変化(事前との比較)

利用者	FILS	SC	誤嚥 リスク	DSS	食事時 間	ADL(食事) 事前→事後②	備考(現場職員の見解)
1					減少	10→5	日によってばらつきがあり、現場の印象としても、大きな変化は見られなかった。
2	○	○	○	○		5→5	嚥下機能は改善傾向で、現場の印象としても、一部介助を要するものの、安定して食事ができる時間が増えた印象がある。
3						5→5	起床時の覚醒状態にかかわらず、認知機能低下の影響が大きく、嚥下機能そのものに変化がみられなかった。
4	○	○	○	○		5→5	現場の印象として誤嚥リスクが高く、取組前後で嚥下機能や食事動作に大きな変化を感じなかったが、客観的に評価することができ、職員の安心感につながった。
5	○	○	○	○		0→5	もともと食欲のない利用者だったが、嚥下機能の改善に伴い、食事の意欲が向上した。特に事後②では5日間で3日間は自力で食事を摂取することができた。
6					増加	0→0	事後②の後、救急搬送され、入院している状況であった。嚥下の状態も良くなかった。
7						10→5	事後調査時、風邪症状があった。事前の方が、全身状態が良かった印象がある。
8	○	○	○	○	増加	5→5	覚醒状態が安定し、嚥下機能も改善傾向で、食事の意欲が向上した。事後では、介助下でおかずを食べられるようになったことで、食事の時間が増えた。
9					増加	10→5	嚥下機能に大きな変化はなく、現場感覚としても、そこまで大きな変化は見えてとれなかった。
10	○				増加	0→0	覚醒状態が安定し、食事の意欲も向上した。全介助ではあるが、事後では安定して食事できるようになり、食事を完食できることが増え、食事の時間が増えた。

※1 事前と比較した事後②での変化

○:1グレード以上の改善

▲:1グレード以上の増悪

増加・減少:3分以上の変化があった場合

※2 ADL(食事):しているADLとし、評価基準は Barthel Index とした(利用者向けアンケート調査にて実施)

10点:自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える

5点:部分介助(たとえば、おかずを切って細かくしてもらう)

0点:全介助

キ. ヒアリング調査結果

実証完了後、実証施設へのヒアリング調査を実施した。調査結果の概要は以下の通り。

図表 XI-318 生産性向上の取組状況について

カテゴリ	主な意見
職員について	・ 従来のオペレーションでは、夜勤者1名で、早番3名の計4名体制で約 30 名の利用者に対するモーニングケアを行っていた。ギリギリの体制で運用していたため、今回の取組でオペレーションが増えることにより介護職員の負担は増えたと思う。 ・ 今回の取組で、介護職員が何をして、業務やケアに対してどんな効果が出せるのか、想像ができないところもあった。職員への説明が難しく、取組に対する反発も多かった。 ・ 特に、今回の取組では、嚥下機能評価のための準備に時間がかかることが課題であった(水飲みテスト用の水の準備や、食事場面の動画撮影の準備等)。そのため、事後①では計測に必要な準備を管理者が行い、対象となる介護職員の負担を増やしすぎないように工夫して実施した。 ・ 事後①では、介護職員も機器にまだ不慣れで、取組は苦戦した。また、これまでは介護職員の業務状況に応じて利用者の起床介助をおこなっていたが、オペレーション変更後は利用者の覚醒状態に応じて起床介助をするため、時間を有効に使えない場面もあり、介護職員の生産性が下がった印象だった。 ・ 事後②では、介護職員の機器の扱いも慣れ、職員自ら嚥下機能評価の準備や機器のセッティングをするようになった。また、嚥下機能評価を実施し、「今日はこの利用者様の調子が良さそう」「今日はこの利用者様の調子が良くなさそう」といった評価を共有するようになり、現場職員の意識も変わってきたように感じている。
利用者について	・ 嚥下機能低下の利用者を対象としており、比較的介護度の重度な方が対象であったため、利用者も嚥下機能評価のテスト内容に関する理解が難しく、事後①では苦労した。 ・ 取り組み効果を実感できた利用者がいた。全介助ではあるものの、覚醒状態の改善により嚥下機能が安定して食事が取れるようになり、ケアの新たな視点をもらうことができたと思った。現場職員も目に見えて改善が分かった。

図表 XI-319 委員会や会議の開催について

カテゴリ	主な意見
開催状況	・ 取組の実施にあたっては、職員会議で概要を説明し、管理者より対象職員へ個別に説明を実施し、周知した。また、生産性向上推進体制加算は算定して

カテゴリ	主な意見
	いないものの、算定に向けて委員会は立ち上げたので、定期的に委員会で協議を行いながら、取組を進めた。 ・ 月1回、全体の会議を開催しており、各部門の役職者（養護部門、在宅部門、総務部等）、施設長等が参加し、法人内における課題等を検討している。そのなかで生産性向上に向けた方針を確認し、取組を検討している。

図表 XI-320 実証目的に対する達成状況について

カテゴリ	主な意見
利用者の観点	・ 対象利用者の中には取組の効果で、食事の自立度が改善した方もいた。また、誤嚥リスクの高い利用者もあり、客観的に評価できて良かった。 ・ 特に、事後②では、もともと意欲もない利用者が自力で食事を摂取することができたケースがあり、現場としては最も取組効果を感じた。
職員の観点	・ 実証期間中は、たまたま現場の介護職員の欠員状態が重なり、バタバタしていたため、職員の生産性の観点では改善はあまり感じなかった。 ・ 取組を実施してみて、見守り支援機器の活用が1歩前進したことは成果と思う。利用者の変化をすぐに把握できるので、利用者が危険行動を起こす前に職員が対応し、事故等を未然に防ぐことができている。
施設の観点	・ 誤嚥リスクの見える化による、ケアの安心感やリスク低減につながったと実感している。 ・ 今回は嚥下機能・食事能力低下が明確な対象者5名に対し、取り組みを行ったが、嚥下機能低下が軽度の利用者に対しても応用できる取り組みだと感じた。 ・ 今回の取組を法人内で広めていくためには、オペレーションや勤務体制も含めて、抜本的に取り組む必要があると思う。そもそも夜勤帯は1人のオペレーションで対応しており、できることには限界がある。夜勤帯の体制を見直すことも視野に入れて検討する必要があるのではないか。

図表 XI-321 その他

カテゴリ	主な意見
	・ 現在、嚥下に関する加算は取得していないが、今後、取組を機に加算取得も検討できればと思う。また、今後、生産性向上推進体制加算の取得を目指す方針であるが、申請書類を作成する事務作業が負担である。支援ツールがあるとありがたい。

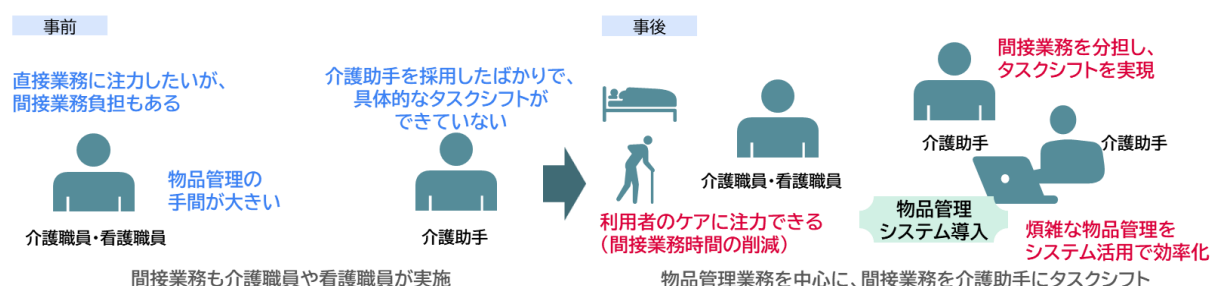
(10) 社会医療法人社団陽正会「介護医療院におけるテクノロジー導入による業務効率化」

ア. 実証の概要

① 実証目的

物品管理システム(タグ・ラベルを活用し、システム上で在庫管理を行う)の導入と介護助手の活用により、物品の在庫管理や補充等にかかる介護職員の間接業務時間を削減し、直接介護時間の増加や心理的負担を軽減することを目的とする。また、排せつ介助に係る間接業務の介護助手へのタスクシフトを進めることで、介護職員の間接業務時間のさらなる削減を図る。

図表 XI-322 実証イメージ



② 実証フィールドの概要

本実証では以下の実証フィールドにて効果測定を実施した。

図表 XI-323 実証フィールドの概要

実証フィールド ^a	法人名	施設名	サービス種別	導入機器等
1	社会医療法人社団 陽正会	介護医療院みのり	介護医療院	・在庫管理システム (IritoDe) ・介護助手 2 名

③ 実証期間

調査期間は以下の通りである。

図表 XI-324 調査期間

調査	時期
事前調査	過去の調査データを使用
事後調査①	令和 7 年10月14日～18 日(5日間)
事後調査②	令和8年1月5日～9日(5 日間)
ヒアリング調査	令和8年 2 月 20 日

④ 各調査の概要

本調査では、実証の事前と事後(2回)で「タイムスタディ調査」と「職員向けアンケート調査」を実施し、実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。なお、事前調査の結果として過去に実施した調査結果を使用した。また、独自調査として事後(2回)では「看護職員向け調査」を実施した。以下に各調査の概要を記載する。

図表 XI-325 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
タイムスタディ調査 (媒体:紙面)	調査期間中に実証 フィールドで勤務した 介護職員	・ 回答方法:自記式(1 分刻みで自身が実施した作業項目を記入) ・ 調査スケジュール:事後(取組後)2 回、それぞれ5日間分実施。 ・ 調査実施の時間帯:調査対象期間中の全勤務時間
看護職員向け調査 (独自調査)	調査期間中に実証 フィールドで勤務した 看護職員	・ 回答方法: ➤ タイムスタディ調査:自記式(1 分刻みで自身が実施した作業項目を記入) ➤ アンケート調査:自記式(紙面回答) ・ 調査スケジュール: ➤ タイムスタディ調査:事後(取組後)2 回、それぞれ5日間分実施。 ➤ アンケート調査:事後(取組後)2 回、1 名につき1回のみ回答 ・ タイムスタディ調査実施の時間帯:調査対象期間中の全勤務時間
職員向けアンケート 調査 (全テーマ共通)	調査期間中に実証 フィールドで勤務した 職員	・ 回答方法:自記式(紙面回答) ・ 調査スケジュール:事後(取組後)2 回、1 名につき1回のみ回答
ヒアリング調査 (全テーマ共通)	施設管理者、部門管理 者 介護職員	・ 調査方法:WEB 会議による聞き取り ・ 調査スケジュール:実証終了後に1回実施

⑤ タイムスタディ調査項目

本調査のタイムスタディ調査項目は以下のとおり。なお、事前と事後調査の調査項目は共通とした。

図表 XI-326 タイムスタディ調査項目

NO	分類	Sub-NO	項目
A	直接介護	1	移動・移乗・体位交換
		2	排泄介助・支援
		3	入浴(清拭)・整容・更衣
		4	利用者とのコミュニケーション(※余暇活動、レクリエーションを含む)
		5	日常生活自立支援(※入眠起床支援、訴えの把握)
		6	行動上の問題への対応(※徘徊・不穏・昼夜逆転など BPSD への対応)
		7	食事支援(※食事摂取介助)
		8	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置
		9	その他の直接介護(※経口摂取者の口腔ケア、入退所対応、見守り、服薬介助、介護職員が行う配薬)
B	間接業務	10	巡回・移動(※コール・センサー対応を含む)
		11	記録・文書作成・連絡調整等(※利用者に対する記録などの作成、勤務表作成、申し送り、職員間連絡調整、家族・外部対応、会議/委員会)
		12	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し(※ケアプランカンファレンス)
		13	見守り機器の使用・確認
		14	介護ロボット・ICT 機器の準備・調整・片付け(※機器の充電、セッティング、設定確認、見直し、使用(直接介護で使用する場合を除く)画面確認、片付けなど)
		15	他の職員に対する指導・教育
		16	食事・おやつの配膳・下膳等
		17	排泄介助の準備・片付け(※陰洗ボトル、カート準備・カート補充、物品片付け)
		18	入浴業務の準備・片付け(※浴室、脱衣場準備・片付け、浴槽湯はり、着替え準備、洗濯物)
		19	リネン交換・ベッドメイク(※入退所時の居室準備、片付けも含む)
		20	居室清掃・片付け(※環境整備・ゴミ出し)
		21	消毒などの感染症対応(※消毒交換、入所者手指消毒、感染予防のための消毒清掃)
		22	その他の間接業務(※レクリエーションの準備・片付け)
C	休憩	23	休憩・待機・仮眠

NO	分類	Sub-NO	項目
D	その他	24	物品管理・補充(※物品管理・補充)
		25	その他
E	余裕時間	26	余裕時間(突発でのケアや対応ができる状態)(※材料待ちなど、摩耗や不具合が生じた用具の交換など不規則または偶然起こった現象の対応、トイレにいったり汗を拭いたり水分補給したりなど、疲労回復のための休憩も含む)

イ. 職員概要

② 職員概要

本調査において職員向けアンケート調査に回答があった職員は18名であった。

図表 XI-327 職員概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	6	12	0	18
	割合	33%	67%	0%	100%

図表 XI-328 職員概要:年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
総数	人数(人)	0	1	3	6	5	3	0	0	18
	割合	0%	6%	17%	33%	28%	17%	0%	0%	100%

図表 XI-329 職員概要:職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ職 (機能訓練 指導員を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	12	6	0	0	0	0	0	0	18
	割合	67%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

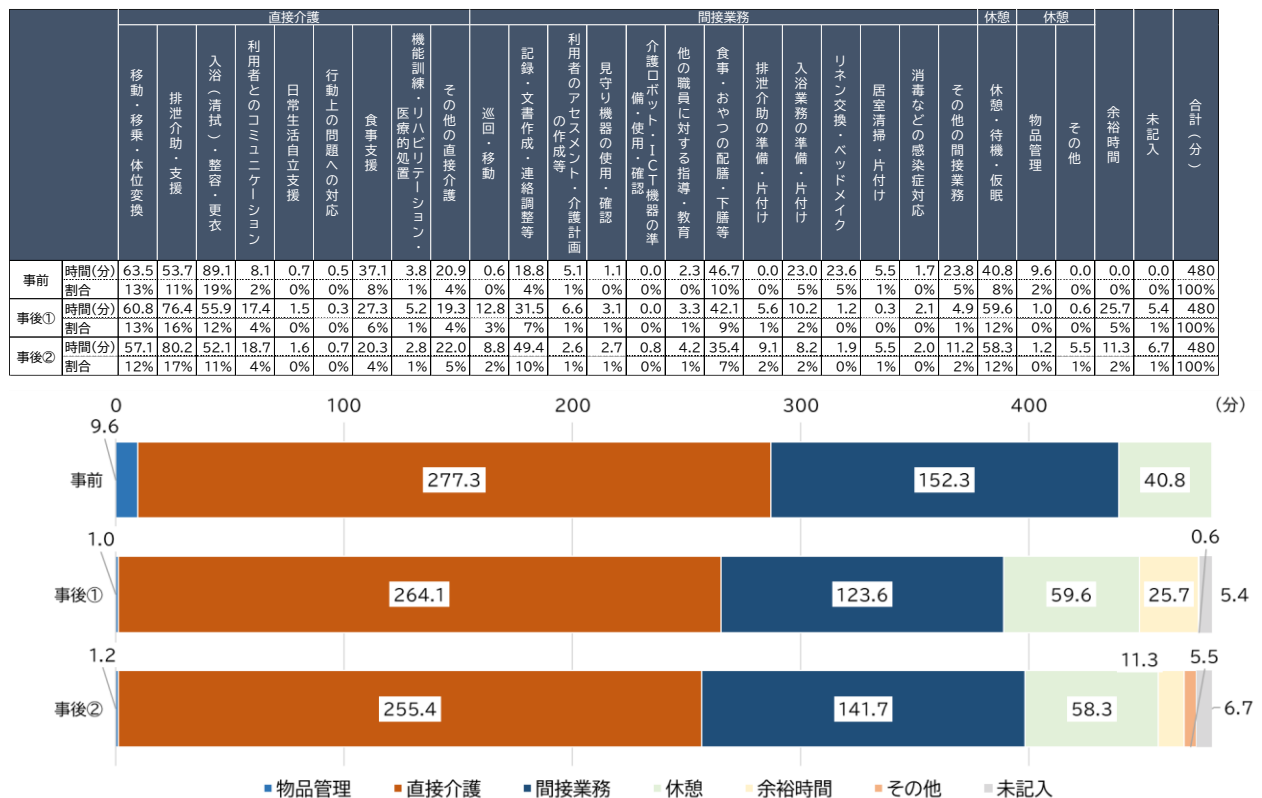
図表 XI-330 職員概要:役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	6	9	3	0	18
	割合	0%	33%	50%	17%	0%	100%

ウ. タイムスタディ調査結果

「物品管理」の時間は事前と比較し、事後①では 8.6 分、事後②では 8.4 分減少した。「間接業務」の時間は事前と比較し、事後①では 28.7 分、事後②では 10.6 分減少した。「余裕時間」は事前と比較し、事後①で 25.7 分、事後②で 11.3 分増加した。

図表 XI-331 タイムスタディ調査の結果(職員1人1日(480 分)あたり)



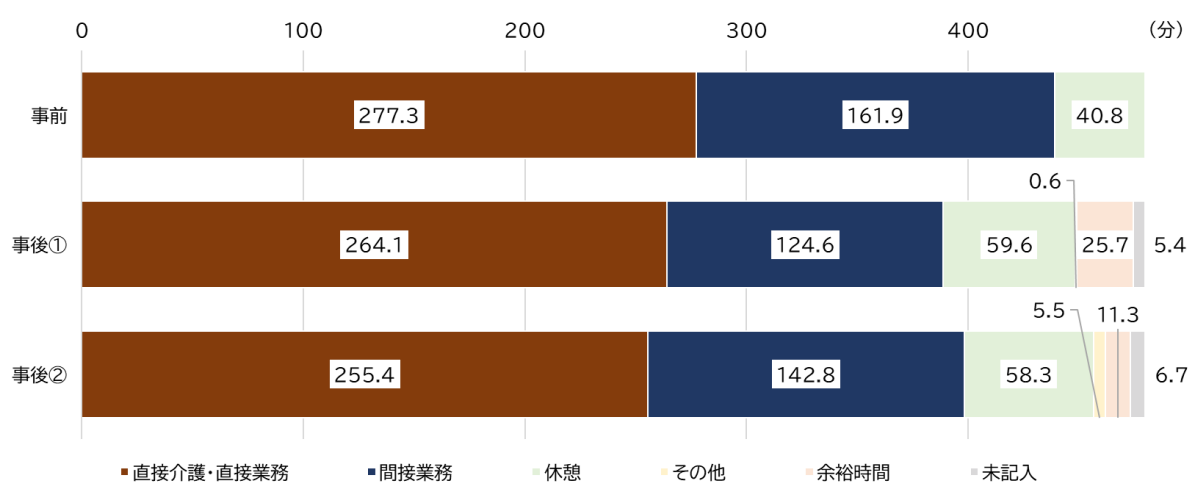
事前 n=19、事後①n=19、事後②n=18

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

図表 XI-332 (参考:共通区分)タイムスタディ調査の結果(職員1人1日(480 分)あたり)

		直接介護・直接業務	間接業務	休憩	その他	余裕時間	未記入	合計(分)
事前	時間(分)	277.3	161.9	40.8	0.0	0.0	0.0	480
	割合	58%	34%	8%	0%	0%	0%	100%
事後①	時間(分)	264.1	124.6	59.6	0.6	25.7	5.4	480
	割合	55%	26%	12%	0%	5%	1%	100%
事後②	時間(分)	255.4	142.8	58.3	5.5	11.3	6.7	480
	割合	53%	30%	12%	1%	2%	1%	100%



事前 n=19、事後①n=19、事後②n=18

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

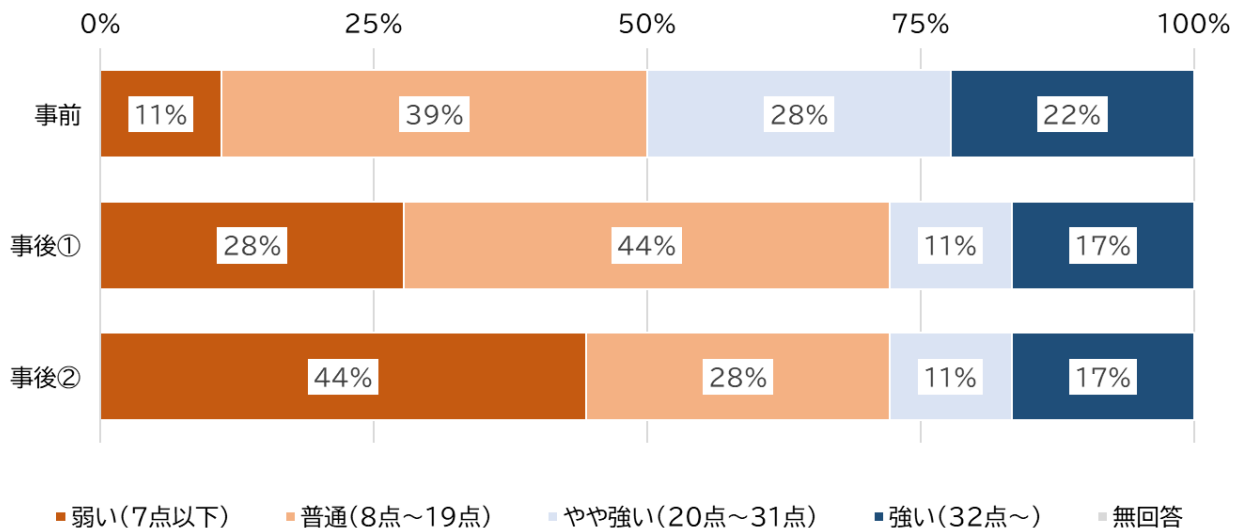
工. 職員向けアンケート調査結果

① 心理的負担評価

職員の心理的ストレス反応測定尺度合計点について事前と事後 2 回の結果を比較すると、「弱い（7点以下）」と回答した職員の割合が、事前では11%、事後①では 28%、事後②では 44%となった。

図表 XI-333 職員調査:心理的負担評価

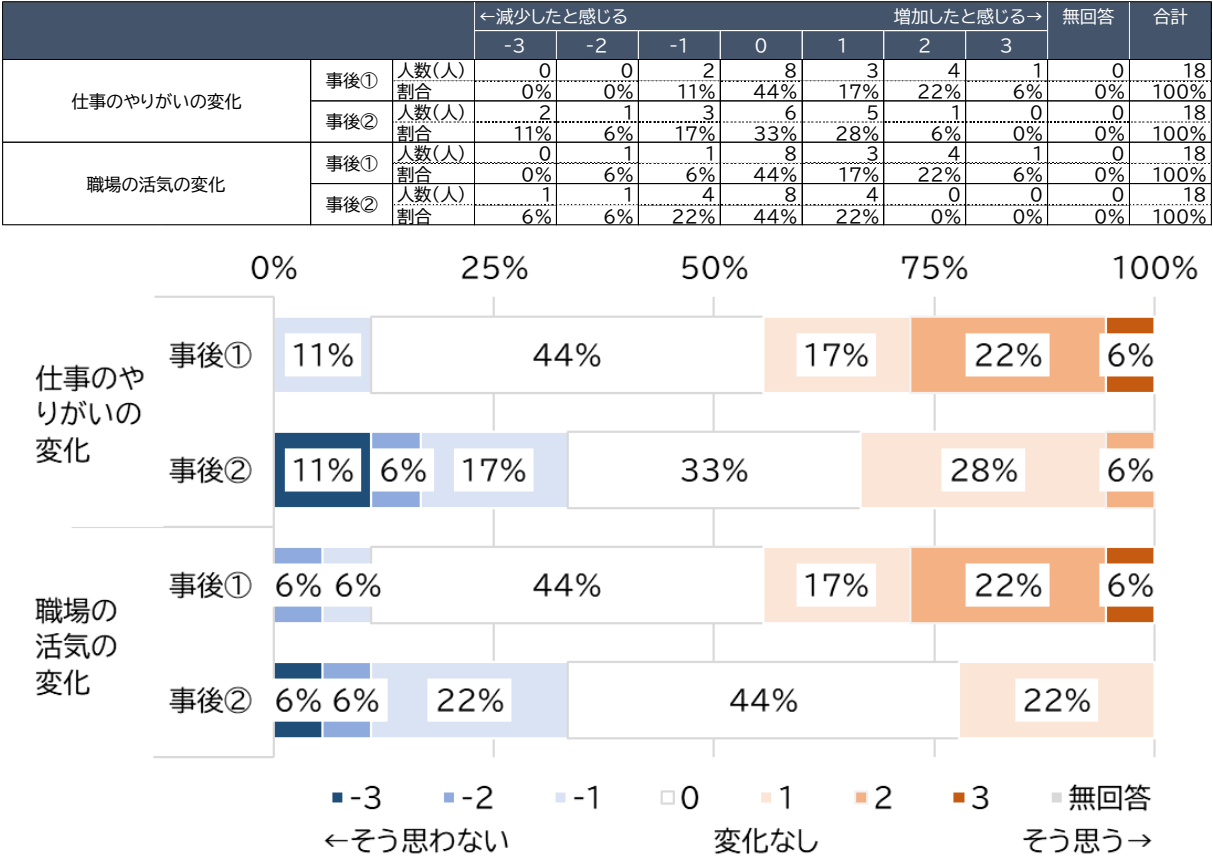
		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
事前	人数(人)	2	7	5	4	0	18
	割合	11%	39%	28%	22%	0%	100%
事後①	人数(人)	5	8	2	3	0	18
	割合	28%	44%	11%	17%	0%	100%
事後②	人数(人)	8	5	2	3	0	18
	割合	44%	28%	11%	17%	0%	100%



※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各 18 項目のうち 1 項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が 0、1、2、3 以外の場合は無回答処理をした。

② 機器導入によるモチベーションの変化
 機器導入によるモチベーションの変化は以下の通り。

図表 XI-334 職員調査:機器導入によるモチベーションの変化



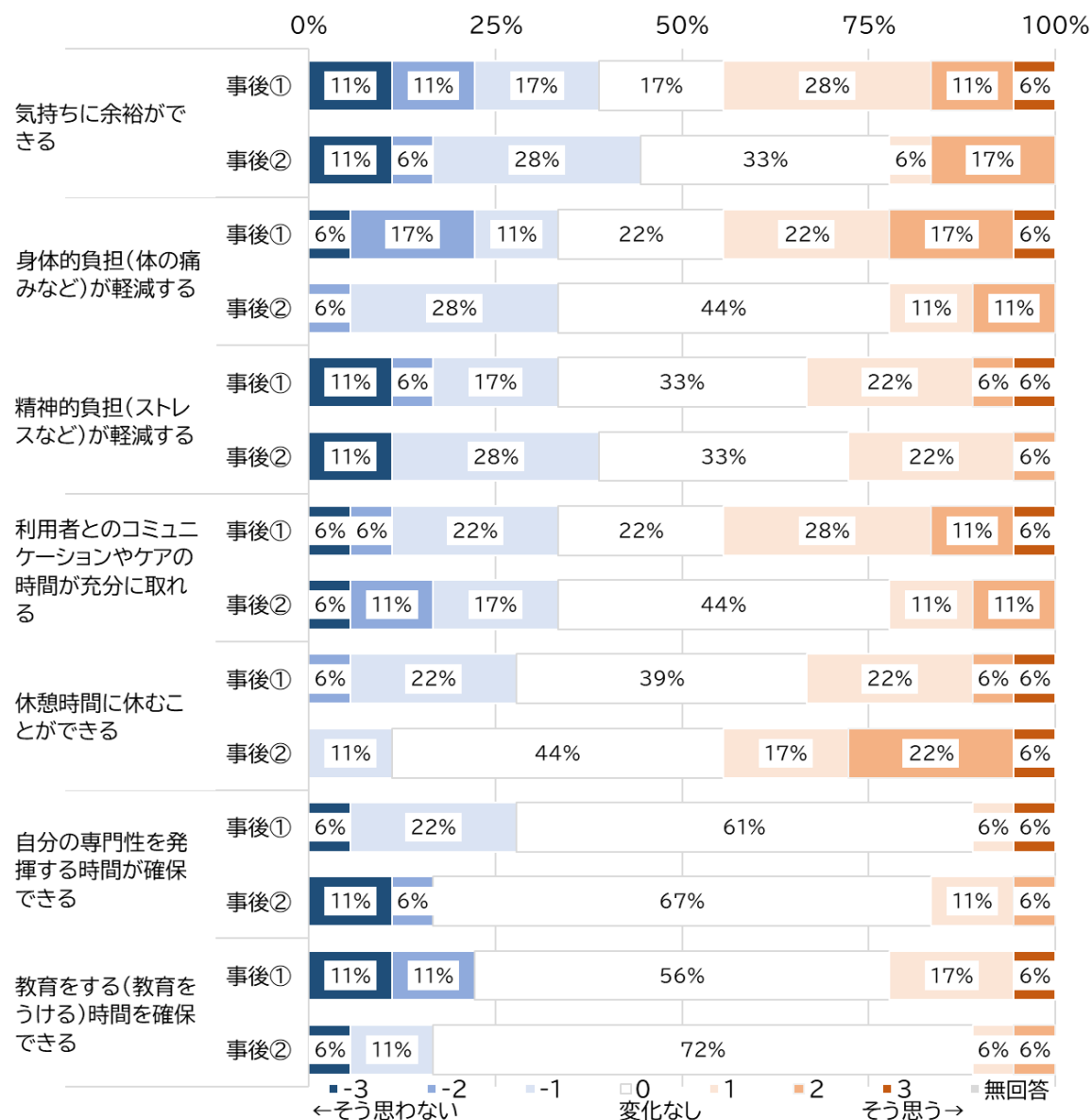
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

③ 機器導入による職員や施設業務の変化

機器導入による職員や施設業務の変化は以下の通り。

図表 XI-335 職員調査:機器導入による職員や施設業務の変化

			←そう思わない		変化なし				そう思う→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人)	2	2	3	3	5	2	1	0	0	18
		割合	11%	11%	17%	17%	28%	11%	6%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	2	1	5	6	1	3	0	0	0	18
		割合	11%	6%	28%	33%	6%	17%	0%	0%	100%	
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人)	1	3	2	4	4	3	1	0	0	18
		割合	6%	17%	11%	22%	22%	17%	6%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	1	5	8	2	2	0	0	0	18
		割合	0%	6%	28%	44%	11%	11%	0%	0%	100%	
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人)	2	1	3	6	4	1	1	0	0	18
		割合	11%	6%	17%	33%	22%	6%	6%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	2	0	5	6	4	1	0	0	0	18
		割合	11%	0%	28%	33%	22%	6%	0%	0%	100%	
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	事後①	人数(人)	1	1	4	4	5	2	1	0	0	18
		割合	6%	6%	22%	22%	28%	11%	6%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	1	2	3	8	2	2	0	0	0	18
		割合	6%	11%	17%	44%	11%	11%	0%	0%	100%	
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人)	0	1	4	7	4	1	1	0	0	18
		割合	0%	6%	22%	39%	22%	6%	6%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	2	8	3	4	1	0	0	18
		割合	0%	0%	11%	44%	17%	22%	6%	0%	100%	
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人)	1	2	2	10	3	0	0	0	0	18
		割合	6%	11%	11%	56%	17%	0%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	4	0	3	9	1	0	1	0	0	18
		割合	22%	0%	17%	50%	6%	0%	6%	0%	100%	
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人)	1	0	4	11	1	0	1	0	0	18
		割合	6%	0%	22%	61%	6%	0%	6%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	2	1	0	12	2	1	0	0	0	18
		割合	11%	6%	0%	67%	11%	6%	0%	0%	100%	
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後①	人数(人)	2	2	0	10	3	0	1	0	0	18
		割合	11%	11%	0%	56%	17%	0%	6%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	1	0	2	13	1	1	0	0	0	18
		割合	6%	0%	11%	72%	6%	6%	0%	0%	100%	



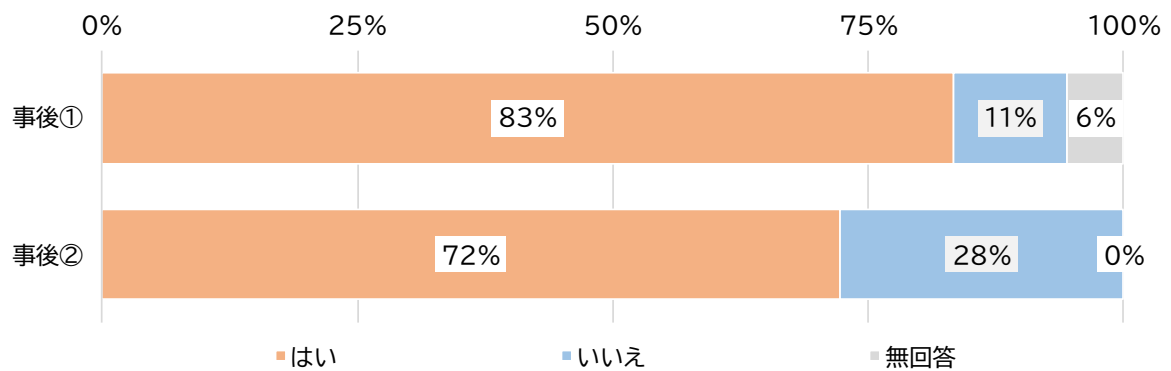
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

④ 導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向

導入機器の継続利用意向については「はい」の回答が多く、事後①で 83%、事後②で 72%であった。

図表 XI-336 職員調査:導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向

		はい	いいえ	無回答	合計
事後①	人数(人)	15	2	1	18
	割合	83%	11%	6%	100%
事後②	人数(人)	13	5	0	18
	割合	72%	28%	0%	100%

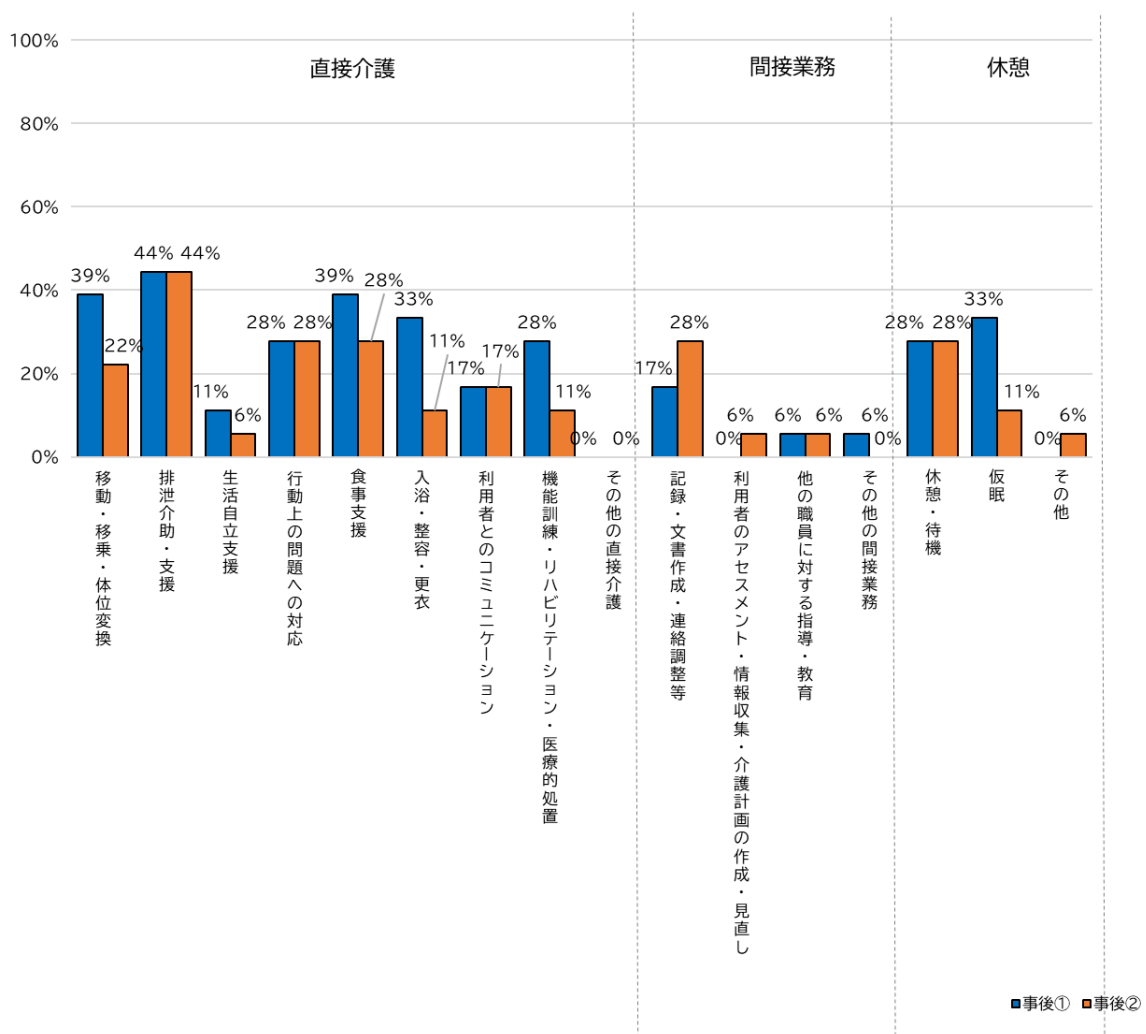


⑤ 職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により増やすことができた時間

職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により増やすことができた時間としては、「排泄介助・支援」が最も多かった。

図表 XI-337 職員調査:職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により増やすことができた時間

		直接介護									間接業務				休憩		その他	無回答（人）	合計（人）	
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	記録・文書作成・連絡調整等	収集・介護計画の作成・見直し	利用者のアセスメント・情報	他の職員に対する指導・教育	その他の間接業務	休憩				仮眠
事後①	人数(人)	7	8	2	5	7	6	3	5	0	3	0	0	1	1	5	6	0	6	18
	割合	39%	44%	11%	28%	39%	33%	17%	28%	0%	17%	0%	6%	6%	28%	33%	0%	33%	-	
事後②	人数(人)	4	8	1	5	5	2	3	2	0	5	1	1	0	5	2	1	2	2	18
	割合	22%	44%	6%	28%	28%	11%	17%	11%	0%	28%	6%	6%	0%	28%	11%	6%	11%	-	



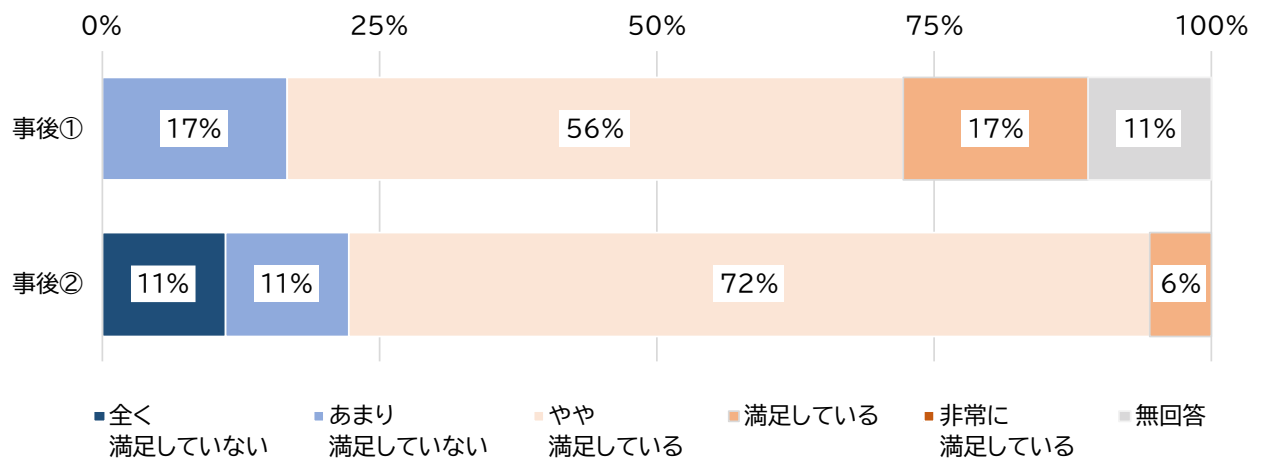
※該当する項目をすべて選択する設問。

⑥ 満足度評価

調査で導入した機器を用いたケアに対する満足度の結果は以下の通り。

図表 XI-338 職員調査：満足度評価

			全く満足 していない	あまり 満足 していない	やや満足 している	満足して いる	非常に 満足 している	無回答	合計
全体的な満足度評価	事後①	人数(人)	0	3	10	3	0	2	18
		割合	0%	17%	56%	17%	0%	11%	100%
	事後②	人数(人)	2	2	13	1	0	0	18
		割合	11%	11%	72%	6%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、1(全く満足していない)～5(非常に満足している)の 5 段階で評価した。

オ. 独自調査

1) 看護職員向けタイムスタディ調査

独自調査として、事後①と事後②の期間に看護職員のタイムスタディ調査を実施した。看護職員向けのタイムスタディ調査項目は以下の通り。

図表 XI-339 独自調査:看護職員向けタイムスタディ調査項目

NO	分類	Sub-NO	項目
A'	直接看護(看護のみ)	1	バイタル測定(※入浴者も含む)
		2	処置(胃管交換)
		3	処置(そのほか処置)(※創部・坐薬・浣腸・インシュリン・バルン交換・PEG/気切部ガーゼ交換・テープ張替え・喀痰吸引・エアークレジットを含む))
		4	検査(※老検、臨時 x-p、採血、BS チェック)
		5	服薬管理(※看護職員が行う配薬業務(薬袋セット・ダブルチェック・定時処方・薬局対応) 薬を飲ませる介助は直接介護の9へ)
		6	経管栄養管理(準備)(※薬溶かす・配る・注入前吸痰・ポジショニング)
		7	経管栄養管理(実施)(※チューブつなぐ、注入開始)
		8	経管栄養管理(回収)(※チューブを外す)
		9	医師対応(指示受け)
		10	医師対応(指示ひらい)
		11	口腔ケア(※経管栄養の方の口腔ケア)
		12	受診(定時・臨時)(※受診の付き添い(受診前の準備は間接業務の22、受診の記録は間接業務の11))
A	直接介護(共通)	1	移動・移乗・体位交換
		2	排泄介助・支援
		3	入浴(清拭)・整容・更衣
		4	利用者とのコミュニケーション(※余暇活動、レクリエーションを含む)
		5	日常生活自立支援(※入眠起床支援、訴えの把握)
		6	行動上の問題への対応(※徘徊・不穏・昼夜逆転など BPSD への対応)
		7	食事支援(※食事摂取介助)
		8	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置
		9	その他の直接介護(※経口摂取者の口腔ケア、入退所対応、見守り、服薬介助、介護職員が行う配薬)
B	間接業務	10	巡回・移動(※コール・センサー対応を含む)
		11	記録・文書作成・連絡調整等(※利用者に対する記録などの作成、勤務表作成、申し送り、職員間連絡調整、家族・外部対応、会議/委員会)

NO	分類	Sub-NO	項目
	(共通)	12	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し(※ケアプランカンファレンス)
		13	見守り機器の使用・確認
		14	介護ロボット・ICT 機器の準備・調整・片付け(※機器の充電、セッティング、設定確認、見直し、使用(直接介護で使用する場合を除く)画面確認、片付けなど)
		15	他の職員に対する指導・教育
		16	食事・おやつの配膳・下膳等
		17	排泄介助の準備・片付け(※陰洗ボトル、カート準備・カート補充、物品片付け)
		18	入浴業務の準備・片付け(※浴室、脱衣場準備・片付け、浴槽湯はり、着替え準備、洗濯物)
		19	リネン交換・ベッドメイク(※入退所時の居室準備、片付けも含む)
		20	居室清掃・片付け(※環境整備・ゴミ出し)
		21	消毒などの感染症対応(※消毒交換、入所者手指消毒、感染予防のための消毒清掃)
		22	その他の間接業務(※レクリエーションの準備・片付け)
C	休憩	23	休憩・待機・仮眠
D	その他	24	物品管理・補充(※物品管理・補充)
		25	その他
E	余裕時間	26	余裕時間(突発でのケアや対応ができる状態(※材料待ちなど、摩耗や不具合が生じた用具の交換など不規則または偶然起こった現象の対応、トイレにいたり汗を拭いたり水分補給したりなど、疲労回復のための休憩も含む)

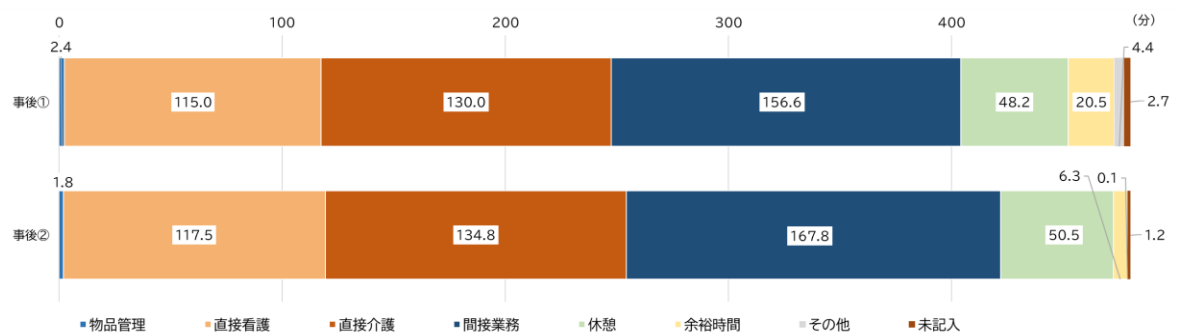
看護職員のタイムスタディ調査結果は以下の通り。

「物品管理」の時間は事後①では 1.4 分、事後②では 1.8 分であり、大きな変化は無かった。「間接業務」の時間は事後①では 168.6 分、事後②では 167.8 分であり、大きな変化は無かった。「余裕時間」は事前と比較し、事後①で 0 分であったが、事後②で 6.3 分に増加した。

図表 XI-340 タイムスタディ調査の結果(職員1人1日(480 分)あたり)

		直接看護												直接介護									
		バイタル測定	処置（胃管交換）	処置（そのほか処置）	検査	服薬管理	経管栄養管理（準備）	経管栄養管理（実施）	経管栄養管理（回収）	医師対応（指示受け）	医師対応（指示ひらい）	口腔ケア	受診（定時・臨時）	移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	入浴（清拭）・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	日常生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	
事後①	時間(分)	22.1	1.9	35.9	1.7	9.4	10.6	8.7	8.0	6.7	9.7	0.3	0.0	14.6	47.2	28.7	3.5	1.2	1.0	23.4	0.5	9.9	
	割合	5%	0%	7%	0%	2%	2%	2%	2%	1%	2%	0%	0%	3%	10%	6%	1%	0%	0%	5%	0%	2%	
事後②	時間(分)	20.7	2.1	27.8	1.9	12.1	12.5	9.5	6.7	8.4	7.3	0.1	8.3	17.3	39.4	37.7	2.5	0.0	0.6	27.6	0.0	9.8	
	割合	4%	0%	6%	0%	3%	3%	2%	1%	2%	2%	0%	2%	4%	8%	8%	1%	0%	0%	6%	0%	2%	

		間接業務														休憩	その他		余裕時間	未記入	合計（分）
		巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・介護計画の作成等	見守り機器の使用・確認	介護ロボット・ICT機器の準備・使用・確認	他の職員に対する指導・教育	食事・おやつ配膳・下膳等	排泄介助の準備・片付け	入浴業務の準備・片付け	リネン交換・ベッドメイキング	居室清掃・片付け	消毒などの感染症対応	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠	物品管理	その他				
事後①	時間(分)	13.7	77.2	27.9	0.2	0.1	3.0	11.9	4.9	1.5	1.2	0.5	1.9	12.7	48.2	2.4	4.4	20.5	2.7	480.0	
	割合	3%	16%	6%	0%	0%	1%	2%	1%	0%	0%	0%	0%	3%	10%	1%	1%	4%	1%	100%	
事後②	時間(分)	9.8	112.9	12.5	1.0	0.7	6.0	11.4	1.8	1.4	0.3	0.0	2.0	8.1	50.5	1.8	0.1	6.3	1.2	480.0	
	割合	2%	24%	3%	0%	0%	1%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	11%	0%	0%	1%	0%	100%	



事後①n=13、事後②n=11

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

2) 看護職員向けアンケート調査

独自調査として、事後①と事後②の期間に看護職員向けにアンケート調査を実施した。調査項目は本調査の介護職員向けアンケート調査と同様であった。

① 職員概要

本調査において、看護職員向けアンケート調査に回答があった職員は 11 名であった

図表 XI-341 職員概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	1	10	0	11
	割合	9%	91%	0%	100%

図表 XI-342 職員概要:年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
総数	人数(人)	0	1	2	2	4	2	0	0	11
	割合	0%	9%	18%	18%	36%	18%	0%	0%	100%

図表 XI-343 職員概要:職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓 練指導員を 含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	11	0	0	0	0	0	11
	割合	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

図表 XI-344 職員概要:役職

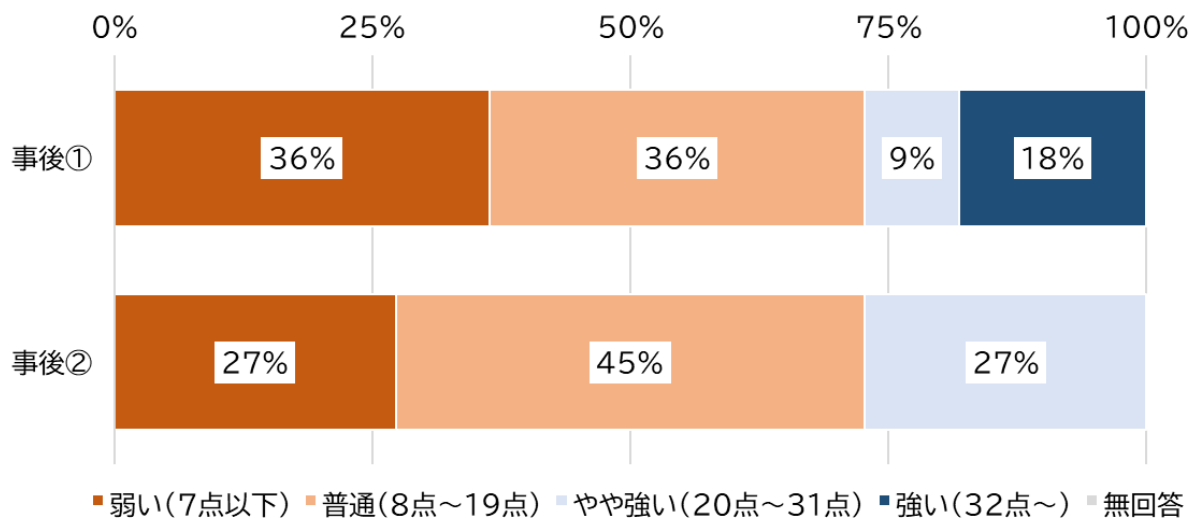
		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	2	8	0	1	11
	割合	0%	18%	73%	0%	9%	100%

② 心理的負担評価

職員の心理的ストレス反応測定尺度合計点について事後２回の結果を比較すると、「強い(32点以上)」の職員の割合が、事後①では18%だったが、事後②では0%となった。

図表 XI-345 職員調査:心理的負担評価

		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
事後①	人数(人)	4	4	1	2	0	11
	割合	36%	36%	9%	18%	0%	100%
事後②	人数(人)	3	5	3	0	0	11
	割合	27%	45%	27%	0%	0%	100%



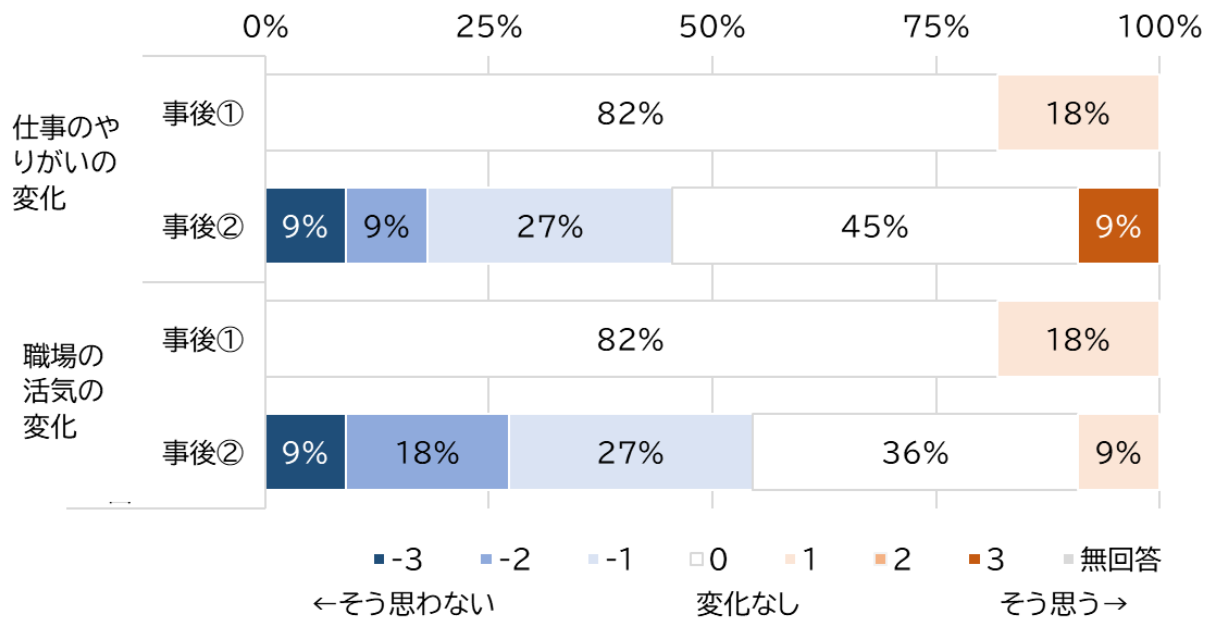
※心理的負担評価(SRS-18)は、18項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19点を「普通」、20～31点を「やや強い」、32点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各18項目のうち1項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が0、1、2、3以外の場合は無回答処理をした。

② 機器導入によるモチベーションの変化

機器導入によるモチベーションの変化は以下の通り。

図表 XI-346 職員調査:機器導入によるモチベーションの変化

			←減少したと感じる→							増加したと感じる→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3				
仕事のやりがいの変化	事後①	人数(人)	0	0	0	9	2	0	0	0	0	0	11
		割合	0%	0%	0%	82%	18%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	1	3	5	0	0	1	0	0	0	11
		割合	9%	9%	27%	45%	0%	0%	9%	0%	0%	0%	100%
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	9	2	0	0	0	0	0	11
		割合	0%	0%	0%	82%	18%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	2	3	4	1	0	0	0	0	0	11
		割合	9%	18%	27%	36%	9%	0%	0%	0%	0%	0%	100%



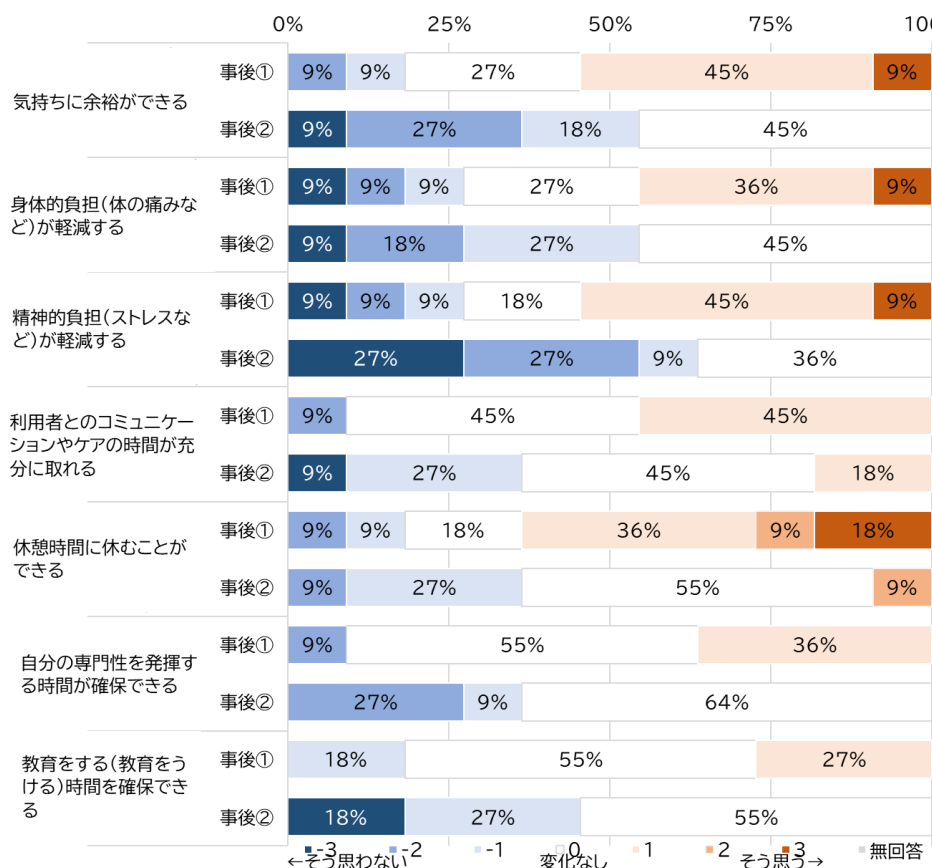
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

③ 機器導入による職員や施設業務の変化

機器導入による職員や施設業務の変化は以下の通り。

図表 XI-347 職員調査:機器導入による職員や施設業務の変化

			←そう思わない		変化なし			→そう思う		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	1 9%	1 9%	3 27%	5 45%	0 0%	1 9%	0 0%	11 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 9%	3 27%	2 18%	5 45%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	11 100%
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人) 割合	1 9%	1 9%	1 9%	3 27%	4 36%	0 0%	1 9%	0 0%	11 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 9%	2 18%	3 27%	5 45%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	11 100%
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人) 割合	1 9%	1 9%	1 9%	2 18%	5 45%	0 0%	1 9%	0 0%	11 100%
	事後②	人数(人) 割合	3 27%	3 27%	1 9%	4 36%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	11 100%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が十分に取れる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	1 9%	0 0%	5 45%	5 45%	0 0%	0 0%	0 0%	11 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 9%	0 0%	3 27%	5 45%	2 18%	0 0%	0 0%	0 0%	11 100%
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	1 9%	1 9%	2 18%	4 36%	1 9%	2 18%	0 0%	11 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	1 9%	3 27%	6 55%	0 0%	1 9%	0 0%	0 0%	11 100%
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人) 割合	1 9%	1 9%	2 18%	6 55%	1 9%	0 0%	0 0%	0 0%	11 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 18%	2 18%	2 18%	5 45%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	11 100%
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	1 9%	0 0%	6 55%	4 36%	0 0%	0 0%	0 0%	11 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	3 27%	1 9%	7 64%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	11 100%
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	2 18%	6 55%	3 27%	0 0%	0 0%	0 0%	11 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 18%	0 0%	3 27%	6 55%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	11 100%

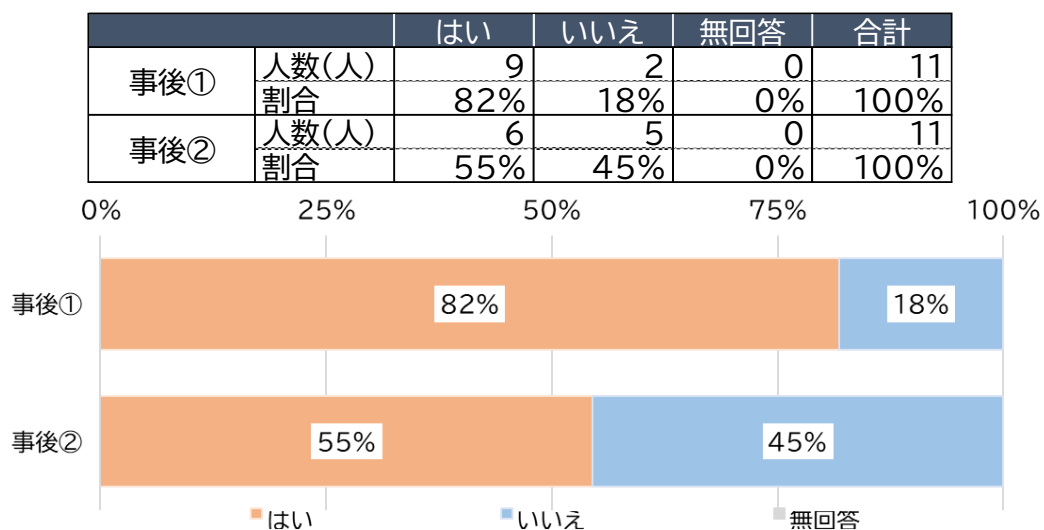


※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

④ 導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向

導入機器の継続利用意向については「はい」の回答が多く、事後①で82%、事後②で55%であった。

図表 XI-348 職員調査:導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向

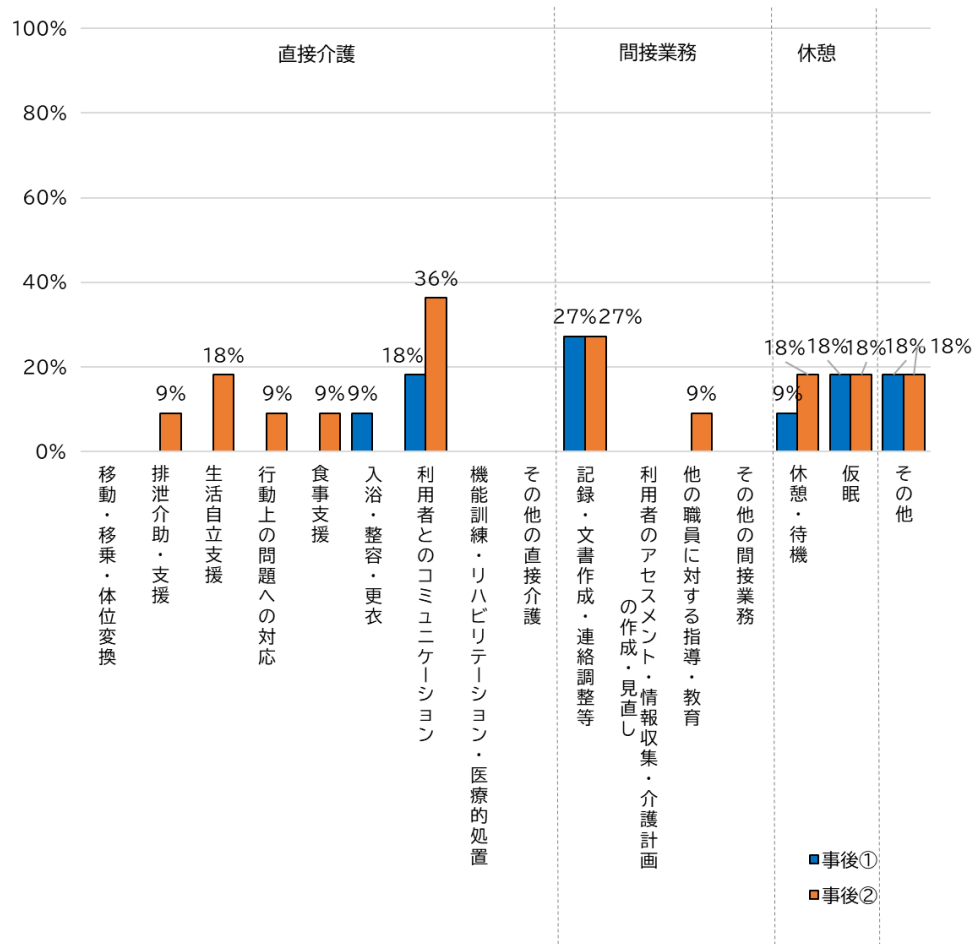


⑤ 職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により増やすことができた時間

職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により増やすことができた時間としては、「利用者とのコミュニケーション」を挙げる職員が多かった。

図表 XI-349 職員調査:職員間の適切な役割分担(タスク・シフト／シェア)により増やすことができた時間

		直接介護									間接業務				休憩		その他	無回答（人）	合計（人）	
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	記録・文書作成・連絡調整等	収集・介護計画の作成・見直し	利用者のアセスメント・情報	他の職員に対する指導・教育	その他の間接業務	休憩				仮眠
事後①	人数(人)	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3	0	0	0	0	1	2	2	7	11
	割合	0%	0%	0%	0%	0%	9%	18%	0%	0%	27%	0%	0%	0%	0%	9%	18%	18%	64%	-
事後②	人数(人)	0	1	2	1	1	0	4	0	0	3	0	1	0	0	2	2	2	5	11
	割合	0%	9%	18%	9%	9%	0%	36%	0%	0%	27%	0%	9%	0%	0%	18%	18%	18%	45%	-



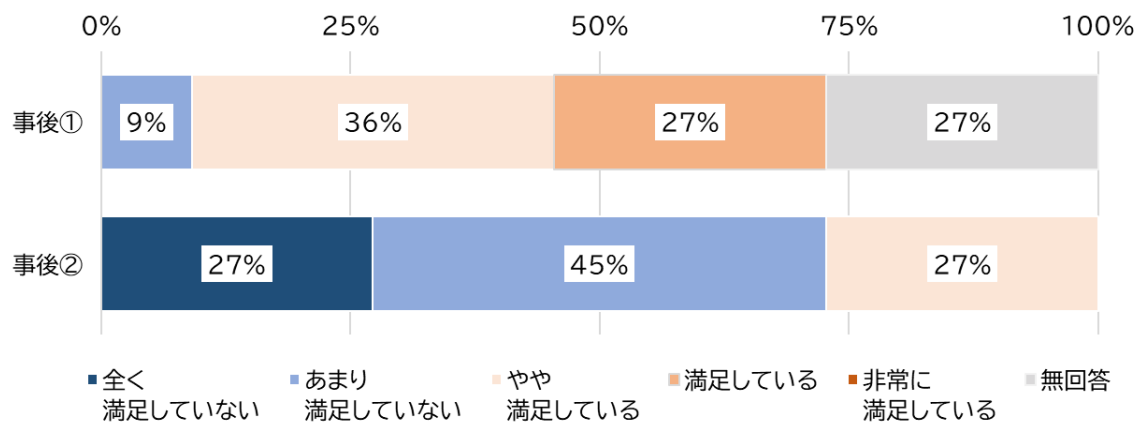
※該当する項目をすべて選択する設問。

⑥ 満足度評価

調査で導入した機器を用いたケアに対する満足度については、「やや満足している」「満足している」と回答した職員の割合が、事後①では73%、事後②では27%であった。

図表 XI-350 職員調査：満足度評価

			全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	満足している	非常に満足している	無回答	合計
全体的な満足度評価	事後①	人数(人)	0	1	4	3	0	3	11
		割合	0%	9%	36%	27%	0%	27%	100%
	事後②	人数(人)	3	5	3	0	0	0	11
		割合	27%	45%	27%	0%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、1(全く満足していない)～5(非常に満足している)の 5 段階で評価した。

カ. ヒアリング調査結果

実証完了後、実証施設へのヒアリング調査を実施した。調査結果の概要は以下の通り。

図表 XI-351 生産性向上の取組状況

カテゴリ	主な意見
職員について	・ 物品管理システムの導入による各フロアへの物品補充のオペレーション変更を行うとともに、5S 活動を行った。物品管理業務は基本的に介護助手にタスクシフトした。 ・ 事後①から事後②までの期間に、排泄介助の準備・片付け業務を整理して介護助手にタスクシフトした。また、それまではフロアごとに管理していたおむつを、各居室におむつ BOX を設置することで排泄介助のオペレーションを改善した。 ・ 取組当初は生産性向上の新しい取組に賛同しない職員もいたため、くり返し取組の目的を説明して理解してもらった。
施設・事業所について	・ 事後②の頃は職員の離職が発生したため、タスクシフトの効果を実感しにくかった。

図表 XI-352 委員会や取組に向けた会議の開催

カテゴリ	主な意見
開催時期・頻度	・ 月に1度、業務運営委員会を実施
参加職種・役職	・ 各職種リーダー、各職種主任、各課長、施設長、事務長
検討内容	・ 人材育成、生産性向上の目標達成のための話し合い
検討結果の周知	・ 議事録を Teams で回付している。

図表 XI-353 実証目的に対する達成状況

カテゴリ	主な意見
職員の観点	・ 以前のオペレーションでは、物品補充に1日約1時間かかっていた。勤務時間内にできないことも多く、職員の負担となっていた。オペレーション変更後は、誰もが短時間でできるようになったので、業務効率、負担軽減を感じる。 ・ 物品補充や排泄介助の準備・片付けのオペレーション変更について、当初はこれまでのやり方を変える抵抗感や拒否感をもつ職員もいた。しかし取組の目的をくり返し説明し、職員同士の対話や職員からの声を聞くことで、徐々

カテゴリ	主な意見
	に前向きな雰囲気が出ていた。新しいオペレーションにも慣れ、スムーズに業務が回るようになってきた。 ・ 介護職員の余裕時間が増え、爪きりや耳掃除や個別ケアなど、細やかなケアに時間を使えるようになった。レクリエーションの内容やケアについて考える時間が取れるようになった。
利用者の観点	・ コミュニケーションの時間が増えたことによる効果か、おやつの時間や個別機能訓練にも積極的に参加してくれる利用者が増えた。
施設・事業所の観点	・ 実在庫が可視化され適正に管理できるようになったことで、時間外業務の削減や消耗備品の節約につながり、費用削減効果を実感している。

(11) 株式会社やさしい手「記録業務の効率化・遠隔支援や多職種連携の効率化」

ア. 実証の概要

① 実証目的

文字起こし機能と AI による要約を活用した記録業務の効率化と、インカムによるリアルタイム情報共有による事業所内外の連携・連絡の効率化により、職員の間接業務負担の軽減とサービスの質の向上を図ることを目的とした。

図表 XI-354 実証イメージ



② 実証フィールドの概要

本実証では以下の実証フィールドにて効果測定を実施した。

図表 XI-355 実証フィールドの概要

実証フィールド	法人名	施設名	サービス種別	導入機器
1	株式会社 やさしい手	ゆめふる荏原	通所介護	・記録業務支援(むすぼな AI) ・インカム(BONX)
2	株式会社 やさしい手	ゆめふる錦糸町	通所介護	
3	株式会社 やさしい手	ゆめふる調布	通所介護	
4	株式会社 やさしい手	やさしい手小山 訪問介護事業所	訪問介護	
5	株式会社 やさしい手	看多機かえりえ上北沢	複合型サービス	
6	株式会社 やさしい手	やさしい手練馬 居宅介護支援事業所	居宅介護支援	
7	株式会社 やさしい手	やさしい手加古川尾上 居宅介護支援事業所	居宅介護支援	
8	株式会社 やさしい手	やさしい手逗子 居宅介護支援事業所	居宅介護支援	

③ 実証期間

調査期間は以下の通りである。

図表 XI-356 調査期間

調査	時期	補足
事前調査	令和 7 年9月22日～30日(9 日間)	左記のうち、実証フィールド別に各 5 日間を調査期間として実施した。
事後調査①	令和 7 年10月20日～11月28日(9 日間)	
事後調査②	令和 7 年12月15日～25日(11日間)	
ヒアリング調査	令和8年 2 月 5・19・20 日	

④ 各調査の概要

本調査では、実証の事前と事後(2回)で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」を実施し、実証フィールド5では独自調査として「移動回数調査」を実施した。また、実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。以下に各調査の概要を記載する。

図表 XI-357 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
タイムスタディ調査 (媒体:実証フィールド 1～3・5 Excel、実証フィールド4・6～8 アプリ)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	- 回答方法:自記式(1 分刻みで自身が実施した作業項目を記入) - 調査スケジュール:事前(取組前)1回、事後(取組後)2 回の計3回、それぞれ5日間分実施。 - 調査実施の時間帯:調査対象期間中の全勤務時間
職員向けアンケート調査 (在宅向け)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	- 回答方法:自記式(WEB 回答) - 調査スケジュール:事前1回、事後 2 回、実証期間中それぞれについて、1 名につき1回のみ回答
移動回数調査 (実証フィールド5のみ実施)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	- 回答方法:自記式(Excel 回答) - 各実証期間中における、事務所(当該事業所4階)とサービス提供場所(当該事業所3階)間の移動回数を対象職員ごとに回答。 - 調査スケジュール:事前1回、事後 2 回の計3回、それぞれ5日間分実施。
ヒアリング調査 (全テーマ共通)	施設管理者、部門管理者 介護職員	- 調査方法:WEB 会議による聞き取り - 調査スケジュール:実証終了後に1回実施

⑤ タイムスタディ調査項目

本調査のタイムスタディ調査項目は以下のとおり。なお、事前と事後調査の調査項目は共通とした。

図表 XI-358 タイムスタディ調査項目

<通所介護事業所向け:実証フィールド1～3>

NO	分類	Sub-NO	項目
A	直接介護	1	直接介護・リハビリテーション(※1)
		2	利用者とのコミュニケーション
B	間接業務	3	記録業務(介護記録や利用者に関する記録等)
		4	文書作成(報酬請求等に関連する文書の作成や事務手続き、勤務表などの作成等)
		5	情報連携・連絡調整(事業所内)(※2)
		6	情報連携(他事業所・家族)(※3)
		7	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し
		8	テクノロジーの準備・使用・確認(※4)
		9	移動 / 送迎
		10	その他間接業務
C	休憩	11	休憩・待機
D	その他	12	その他

※1 見守りによる介助を含む。

※2 申し送り、職員間の連絡調整、事業所内の情報連携

※3 他事業所や家族への情報連携(利用者の状況報告、実績報告など)

※4 ベンダーとの連絡調整、職員への教育・活用定着支援等の導入初期対応

<訪問介護事業所向け:実証フィールド4>

NO	分類	Sub-NO	項目
A	直接介護	1	直接介護
		2	利用者等とのコミュニケーション
B	間接業務	3	記録業務
		4	文書作成
		5	連携・連絡(事業所内)
		6	連携・連絡(他事業所・家族)
		7	連携・連絡(介護支援専門員)
		8	利用者の情報収集、契約関連業務
		9	サービス担当者会議への参加
		10	クレーム、問い合わせ対応

NO	分類	Sub-NO	項目
		11	サービス派遣調整業務
		12	研修、指導・教育等
		13	テクノロジー導入対応
		14	移動
		15	その他間接業務
C	休憩	16	休憩・待機
D	その他	17	その他

※1 見守りによる介助を含む。

※2 申し送り、職員間の連絡調整、事業所内の情報連携

※3 他事業所や家族への情報連携(利用者の状況報告、実績報告など)

※4 介護支援専門員への情報連携(利用者の状況報告、実績報告など)

※5 OJT、引継ぎ等のための同行訪問等も含む

※6 ベンダーとの連絡調整、職員への教育・活用定着支援等の導入初期対応

<複合型サービス事業所向け(看護小規模多機能型居宅介護):実証フィールド5>

NO	分類	Sub-NO	項目
A	直接介護	1	直接介護・医療的処置(※1)
		2	利用者・家族との直接的なコミュニケーション
B	間接業務	3	(情報連携のための)巡回・移動
		4	(情報連携の目的以外の)巡回・移動
		5	記録業務(介護記録や利用者に関する記録等)
		6	文書作成(報酬請求等に関連する文書の作成や事務手続き、勤務表などの作成等)
		7	職員間の連絡調整(事業所内:申し送り、職員間の情報連携等)
		8	医師等との連絡調整(事業所外も含む)
		9	報告書・計画書の作成
		10	他サービス事業所、事業所外の介護支援専門員への情報連携・連絡調整
		11	利用者・家族への情報連携・連絡調整(電話、SNS、オンライン等を含む)
		12	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し
		13	会議・ミーティング(事業所外・オンラインも含む)
		14	ケアプラン作成・修正

NO	分類	Sub-NO	項目
		15	新規利用者のアセスメント・契約
		16	新規情報の共有申し送り作成
		17	営業ツール作成
		18	営業活動(事業所外も含む)
		19	テクノロジーの準備・使用・確認(※2)
		20	その他の間接業務(※3)
C	休憩	21	休憩・待機
D	その他	22	その他
E	余裕時間	23	余裕時間(突発でのケアや対応ができる状態)

※1 見守りによる介助を含む。

※2 機器の充電、セッティング、設定の確認・見直し、使用(直接介護において使用する場合を除く)、画面確認、片付け作業等

※3 レクリエーションの準備等

<居宅介護支援事業所向け:実証フィールド6～8>

NO	分類	Sub-NO	項目
A	利用者対応	1	担当利用者宅訪問①(初回)※1
		2	担当利用者宅訪問②(定期)
		3	担当以外の利用者宅への訪問
		4	主治医・医療機関等への訪問
		5	地域包括・関係機関への訪問
		6	利用者に関する連絡業務等
		7	サービス担当者会議等
		8	サービス事業者等との連携
		9	その他の利用者関連業務
B	間接業務	10	ケアプラン等の書類の作成
		11	各事業所へのケアプラン交付等
		12	報酬請求に関わる事務作業
		13	ケアプラン作成以外の利用者業務
		14	その他の事務作業
		15	介護保険外サービスの支援業務
		16	事業所内の支援・人材育成等
		17	外部研修への参加等
C	休憩	18	休憩・移動
D	その他	19	その他
E		20	ケアマネジメント以外のその他業務

※1 利用者への交付、同意取得を含む

イ. 職員概要

① 職員概要

本調査において職員向けアンケート調査に回答があった職員は 23 名であった。

図表 XI-359 職員概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	6	17	0	23
	割合	26%	74%	0%	100%

図表 XI-360 職員概要:年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
総数	人数(人)	0	3	5	6	7	2	0	0	23
	割合	0%	13%	22%	26%	30%	9%	0%	0%	100%

図表 XI-361 職員概要:職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓 練指導員を 含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	11	0	3	0	2	0	7	0	23
	割合	48%	0%	13%	0%	9%	0%	30%	0%	100%

※その他:介護支援専門員

図表 XI-362 職員概要:役職

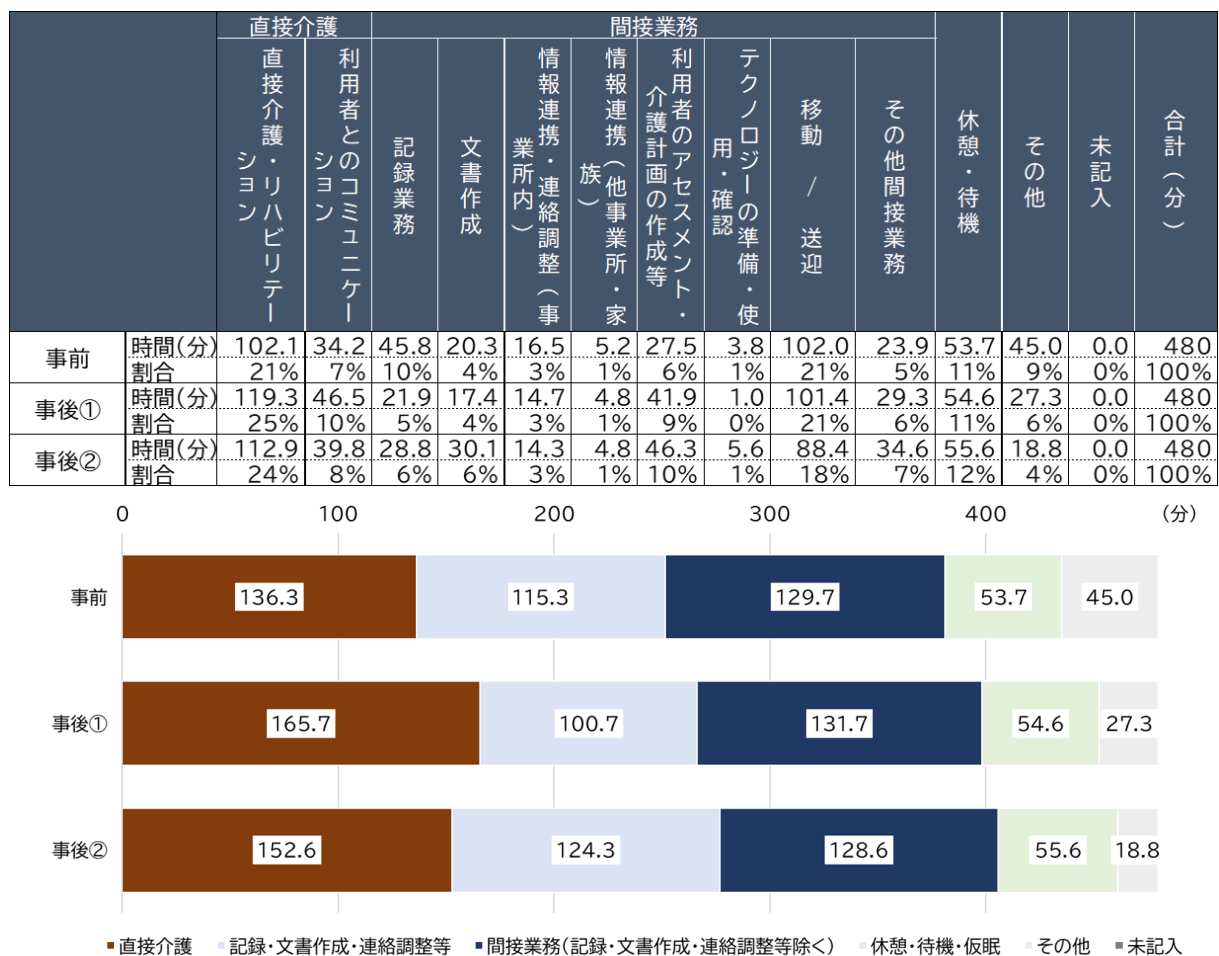
		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	10	12	1	0	23
	割合	0%	43%	52%	4%	0%	100%

ウ. タイムスタディ調査結果

1) 通所介護事業所

「記録・文書作成・連絡調整等」の時間は事前と比較し、事後①では 14.6 分減少したが、事後②では 9.0 分増加した。「間接業務(記録・文書作成・連絡調整等除く)」の時間は事前と比較し、事後①で 2.0 分増加したが、事後②で 1.1 分減少した。

図表 XI-363 タイムスタディ調査の結果(通所介護:職員1人1日(480 分)あたり)



事前 n=5、事後①n=5、事後②n=5

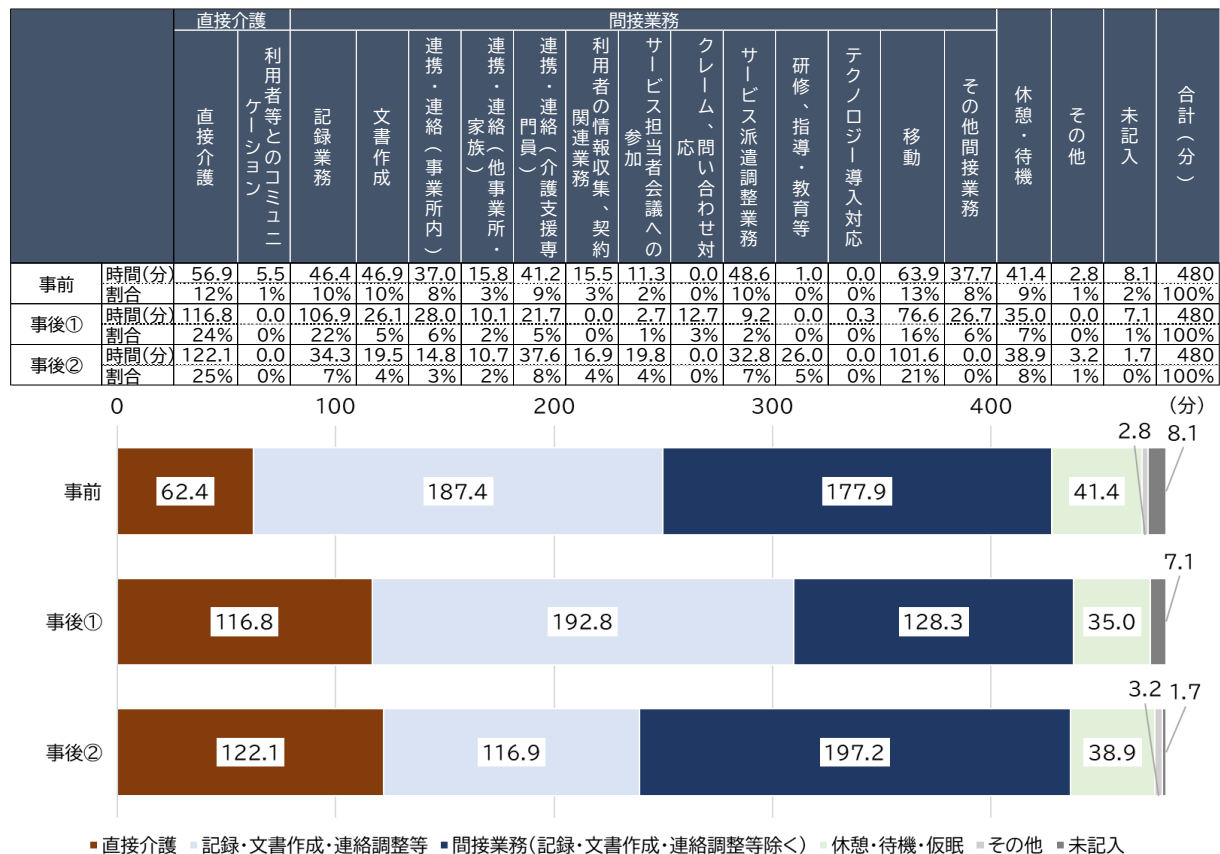
※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

2) 訪問介護事業所

「記録・文書作成・連絡調整等」の時間は事前と比較し、事後①では 5.4 分増加したが、事後②では 70.5分減少した。「間接業務(記録・文書作成・連絡調整等除く)」の時間は事前と比較し、事後①で 49.6 分減少したが、事後②で 19.3 分増加した。

図表 XI-364 タイムスタディ調査の結果(訪問介護:職員1人1日(480 分)あたり)



事前 n=3、事後①n=3、事後②n=3

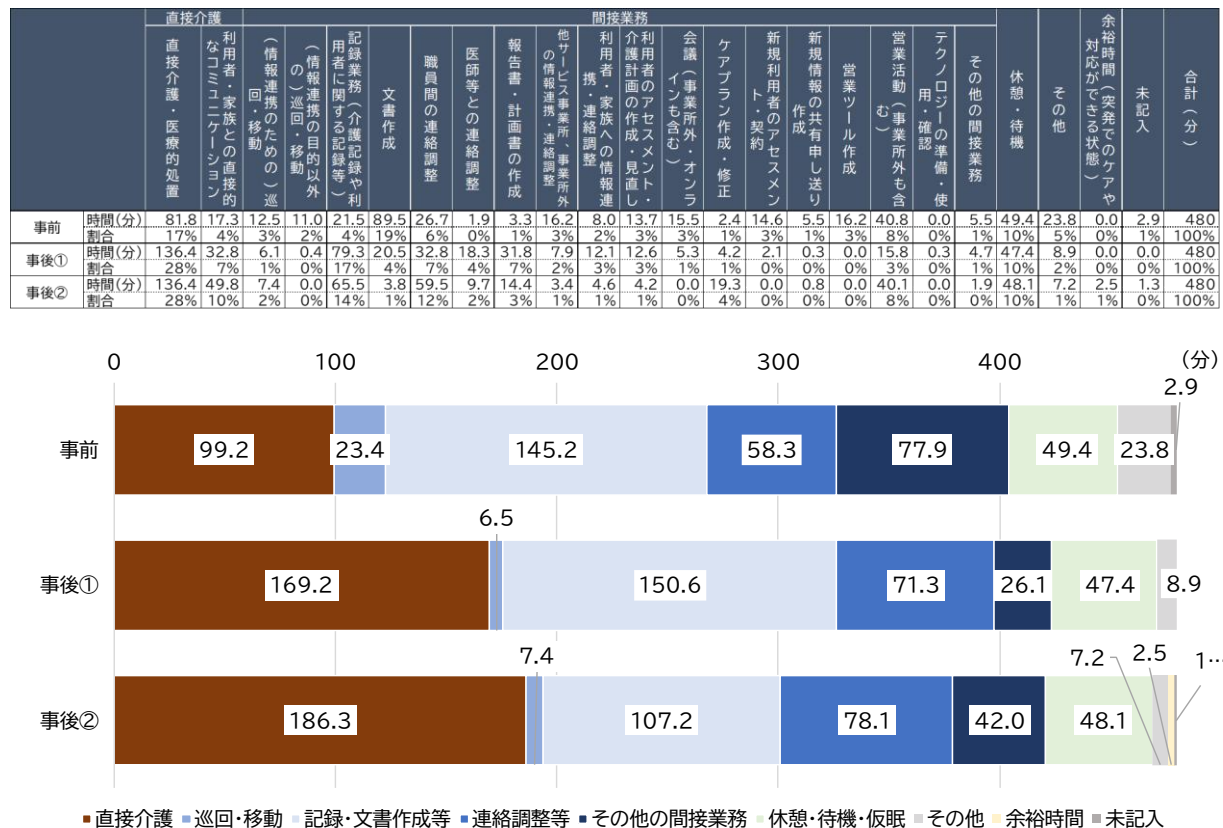
※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

3) 複合型サービス事業所(看護小規模多機能型居宅介護)

「巡回・移動」の時間は事前と比較し、事後①では 16.9 分減少し、事後②では 16.0 分減少した。
「記録・文書作成・連絡調整等」の時間は事前と比較し、事後①で 5.4 分増加したが、事後②で 38.0 分減少した。

図表 XI-365 タイムスタディ調査の結果(複合型サービス:職員1人1日(480 分)あたり)



※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

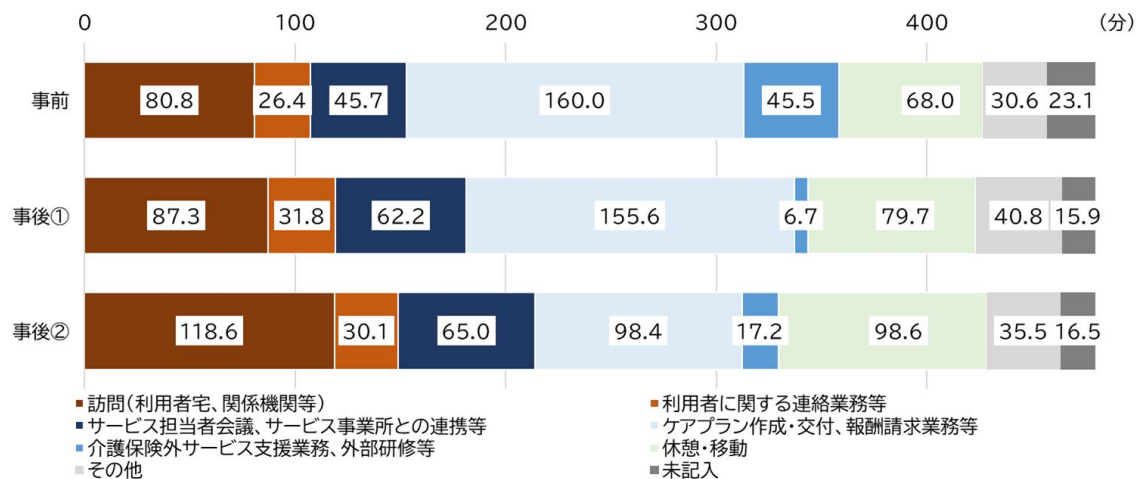
※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

4) 居宅介護支援事業所

「ケアプラン作成・交付、報酬請求業務等」の時間は事前と比較し、事後①では 4.4 分減少し、事後②では 61.6 分減少した。「訪問(利用者宅、関係機関等)」の時間は事前と比較し、事後①で 6.5 分増加し、事後②で 37.8 分増加した。

図表 XI-366 タイムスタディ調査の結果(居宅介護支援:職員1人1日(480 分)あたり)

		利用者対応										間接業務										休憩・移動	その他	ケアマネジメント以外のその他業務	未記入	合計（分）
		担当利用者宅訪問①（初回）	担当利用者宅訪問②（定期）	担当以外の利用者宅への訪問	主治医・医療機関等への訪問	地域包括・関係機関への訪問	利用者に関する連絡業務等	サービス担当者会議等	サービス事業者等との連携	その他の利用者関連業務	ケアプラン等の書類の作成	各事業所へのケアプラン交付等	報酬請求に関する事務作業	ケアプラン作成以外の利用者業務	その他の事務作業	介護保険外サービスの支援業務	事業所内の支援・人材育成等	外部研修への参加等								
事前	時間(分)	0.3	76.1	0.0	0.5	4.0	26.4	20.1	23.5	2.1	61.7	12.6	0.8	63.7	21.2	0.3	0.0	45.2	68.0	1.6	29.0	23.1	480			
	割合	0%	16%	0%	0%	1%	6%	4%	5%	0%	13%	3%	0%	13%	4%	0%	0%	9%	14%	0%	6%	5%	100%			
事後①	時間(分)	5.7	75.9	0.0	4.7	1.0	31.8	19.0	26.6	16.7	76.2	6.4	0.0	54.9	18.0	0.0	0.0	6.7	79.7	5.6	35.3	15.9	480			
	割合	1%	16%	0%	1%	0%	7%	4%	6%	3%	16%	1%	0%	11%	4%	0%	0%	1%	17%	1%	7%	3%	100%			
事後②	時間(分)	8.3	96.8	0.1	4.9	8.6	30.1	20.9	21.5	22.6	56.0	3.7	0.0	32.0	6.7	0.0	2.2	15.0	98.6	13.5	21.9	16.5	480			
	割合	2%	20%	0%	1%	2%	6%	4%	4%	5%	12%	1%	0%	7%	1%	0%	0%	3%	21%	3%	5%	3%	100%			



事前 n=5、事後①n=5、事後②n=5

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

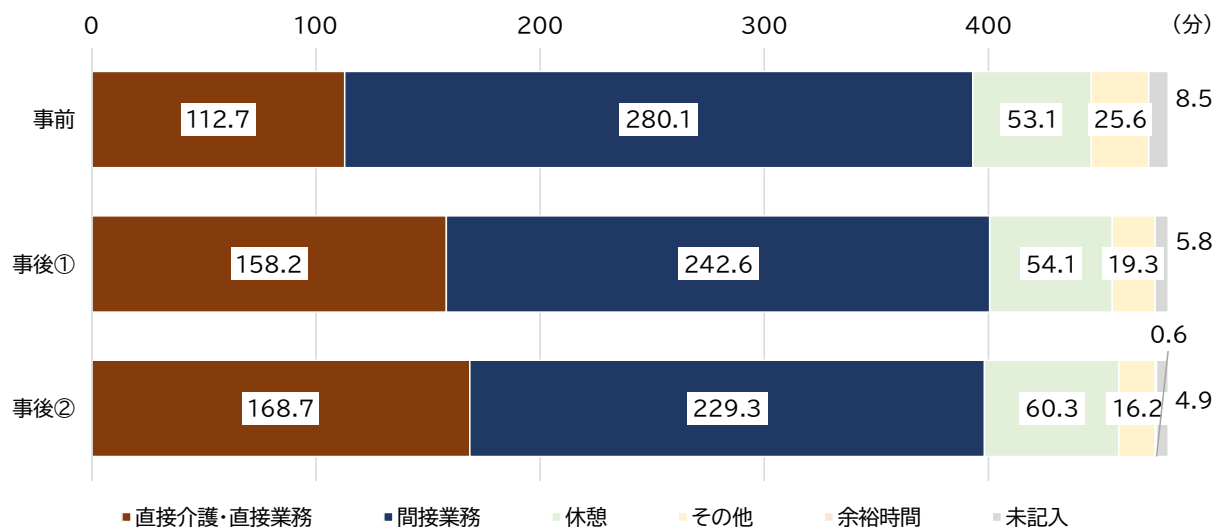
※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

5) 4つのサービス種別のまとめ

4つのサービス種別でそれぞれ実施したタイムスタディ調査について、各調査項目を6つの共通区分に整理し、全体の結果を集計した。参考として、以下に掲載する。

図表 XI-367 (参考:共通区分)タイムスタディ調査の結果(職員1人1日(480 分)あたり)

		直接介護・直接業務	間接業務	休憩	その他	余裕時間	未記入	合計(分)
事前	時間(分)	112.7	280.1	53.1	25.6	0.0	8.5	480
	割合	23%	58%	11%	5%	0%	2%	100%
事後①	時間(分)	158.2	242.6	54.1	19.3	0.0	5.8	480
	割合	33%	51%	11%	4%	0%	1%	100%
事後②	時間(分)	168.7	229.3	60.3	16.2	0.6	4.9	480
	割合	35%	48%	13%	3%	0%	1%	100%



事前 n=17、事後①n=17、事後②n=17

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

図表 XI-368 (参考:共通区分)タイムスタディ調査:全体の業務量に対する「直接介護・直接業務」および「間接業務」の占める割合(事前と事後②の比較)

直接介護・直接業務

	通所介護	訪問介護	複合型サービス	居宅介護支援
事前	28.4%	13.0%	20.7%	31.9%
事後②	31.8%	25.4%	38.8%	44.5%

間接業務

	通所介護	訪問介護	複合型サービス	居宅介護支援
事前	51.0%	76.1%	63.5%	42.8%
事後②	52.7%	65.4%	48.9%	24.1%

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※全体の業務量に対する「直接介護・直接業務」および「間接業務」の占める割合について、サービス種別ごとに算出。

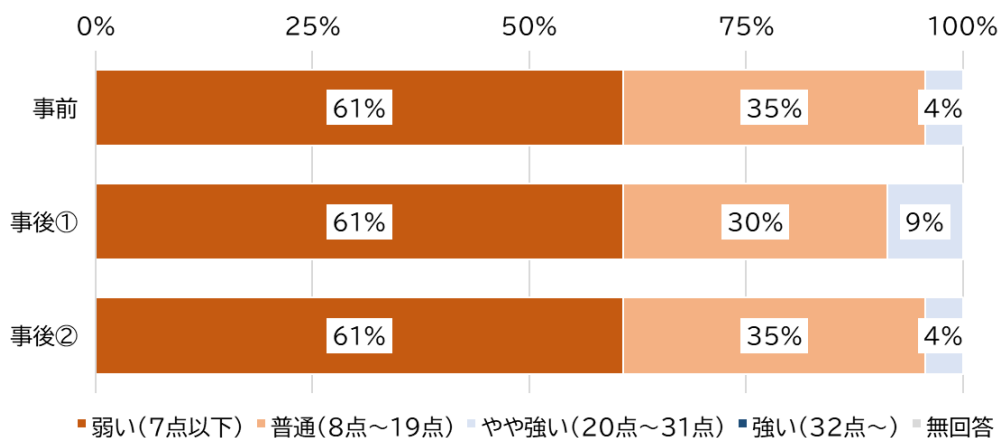
工. 職員向けアンケート調査結果

① 心理的負担評価

職員の心理的ストレス反応測定尺度合計点について、明らかな変化はみられなかった。

図表 XI-369 職員調査:心理的負担評価

		7点以下	8点～ 19点	20点～ 31点	32点～	無回答	合計
事前	人数(人)	14	8	1	0	0	23
	割合	61%	35%	4%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	14	7	2	0	0	23
	割合	61%	30%	9%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	14	8	1	0	0	23
	割合	61%	35%	4%	0%	0%	100%



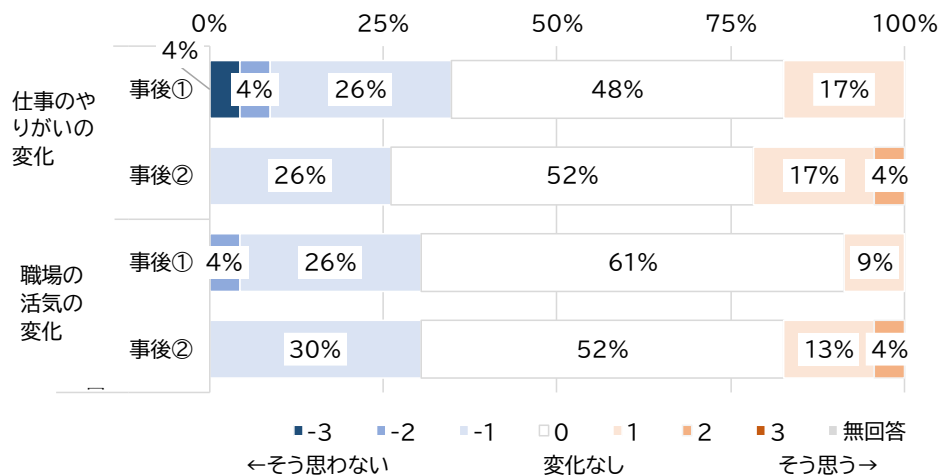
※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各 18 項目のうち 1 項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が 0、1、2、3 以外の場合は無回答処理をした。

② 機器導入によるモチベーションの変化

機器導入によるモチベーションの変化は以下の通り。

図表 XI-370 職員調査：機器導入によるモチベーションの変化

			←減少したと感じる→							増加したと感じる→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3				
仕事のやりがいの変化	事後①	人数(人)	1	1	6	11	4	0	0	0	0	23	
		割合	4%	4%	26%	48%	17%	0%	0%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	6	12	4	1	0	0	0	23	
		割合	0%	0%	26%	52%	17%	4%	0%	0%	0%	100%	
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	0	1	6	14	2	0	0	0	0	23	
		割合	0%	4%	26%	61%	9%	0%	0%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	7	12	3	1	0	0	0	23	
		割合	0%	0%	30%	52%	13%	4%	0%	0%	0%	100%	



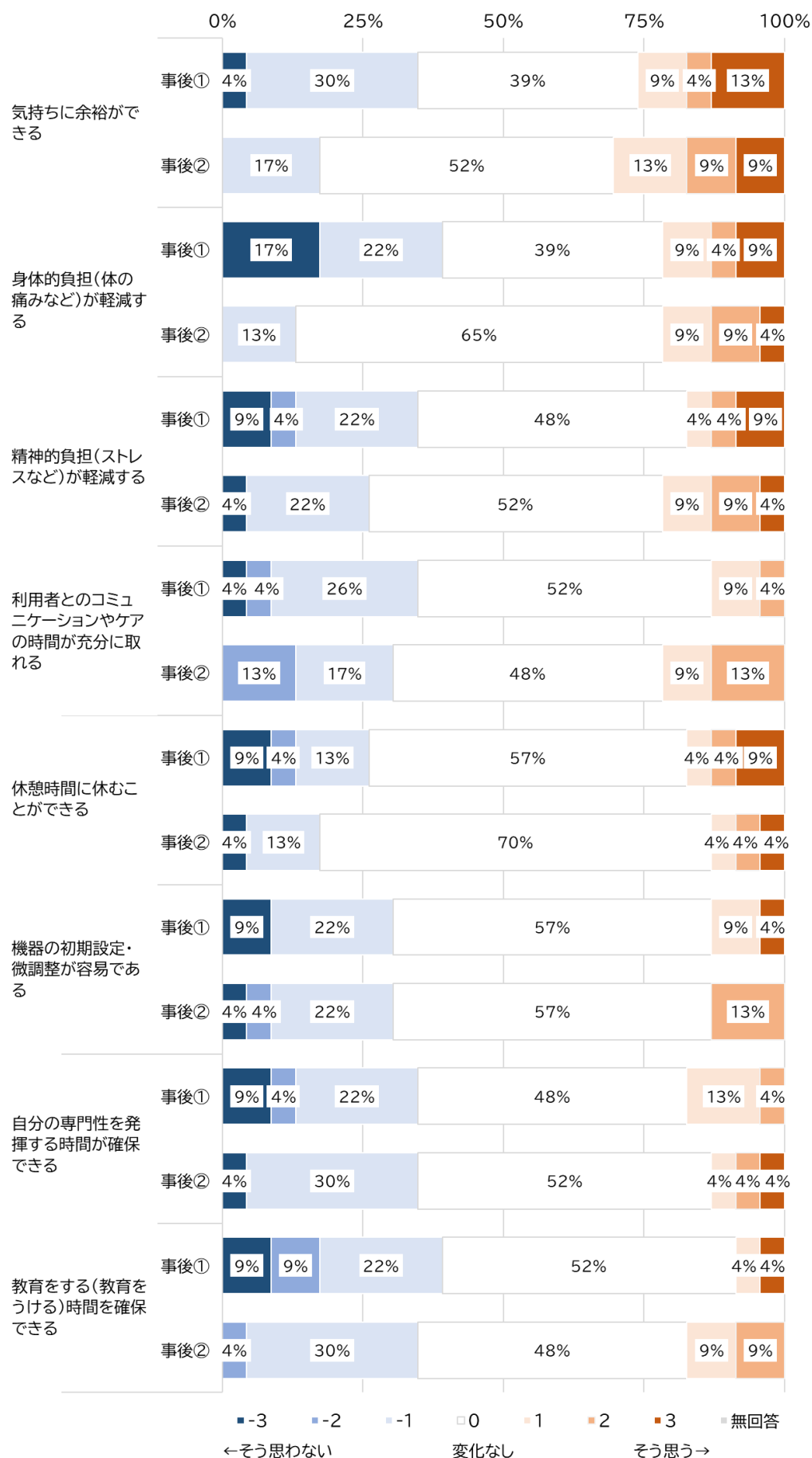
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

③ 機器導入による職員や施設業務の変化

機器導入による職員や施設業務の変化は以下の通り。

図表 XI-371 職員調査:機器導入による職員や施設業務の変化

			← そう思わない		変化なし			そう思う→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人)	1	0	7	9	2	1	3	0	23
		割合	4%	0%	30%	39%	9%	4%	13%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	4	12	3	2	2	0	23
		割合	0%	0%	17%	52%	13%	9%	9%	0%	100%
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人)	4	0	5	9	2	1	2	0	23
		割合	17%	0%	22%	39%	9%	4%	9%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	3	15	2	2	1	0	23
		割合	0%	0%	13%	65%	9%	9%	4%	0%	100%
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人)	2	1	5	11	1	1	2	0	23
		割合	9%	4%	22%	48%	4%	4%	9%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	5	12	2	2	1	0	23
		割合	4%	0%	22%	52%	9%	9%	4%	0%	100%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	事後①	人数(人)	1	1	6	12	2	1	0	0	23
		割合	4%	4%	26%	52%	9%	4%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	3	4	11	2	3	0	0	23
		割合	0%	13%	17%	48%	9%	13%	0%	0%	100%
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人)	2	1	3	13	1	1	2	0	23
		割合	9%	4%	13%	57%	4%	4%	9%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	3	16	1	1	1	0	23
		割合	4%	0%	13%	70%	4%	4%	4%	0%	100%
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人)	2	0	5	13	2	0	1	0	23
		割合	9%	0%	22%	57%	9%	0%	4%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	1	5	13	0	3	0	0	23
		割合	4%	4%	22%	57%	0%	13%	0%	0%	100%
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人)	2	1	5	11	3	1	0	0	23
		割合	9%	4%	22%	48%	13%	4%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	7	12	1	1	1	0	23
		割合	4%	0%	30%	52%	4%	4%	4%	0%	100%
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後①	人数(人)	2	2	5	12	1	0	1	0	23
		割合	9%	9%	22%	52%	4%	0%	4%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	7	11	2	2	0	0	23
		割合	0%	4%	30%	48%	9%	9%	0%	0%	100%

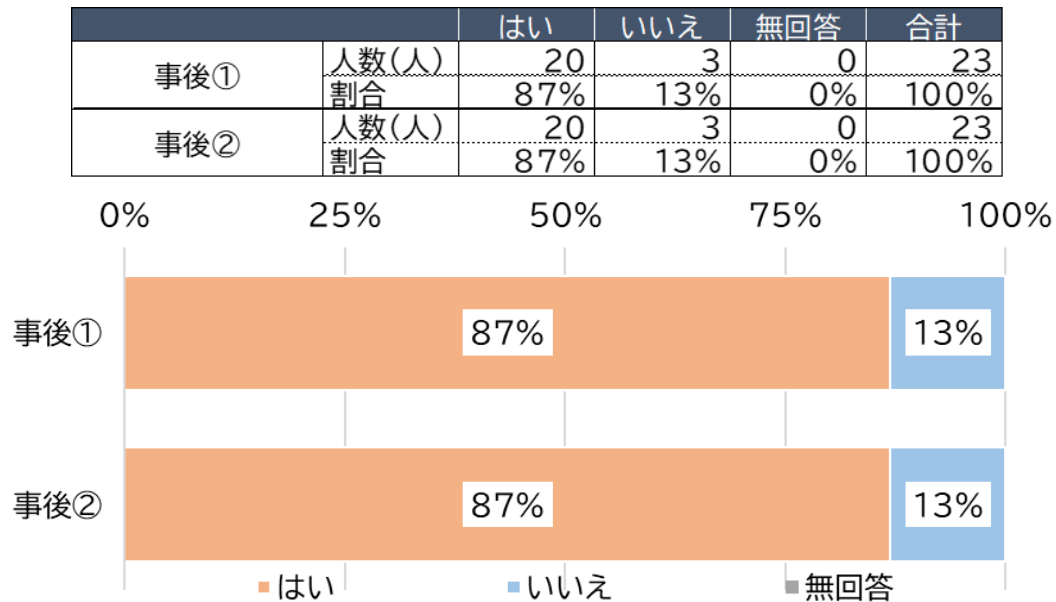


※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

④ 導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向

導入機器の継続利用意向については「はい」の回答が多く、事後①及び事後②で 87%であった。

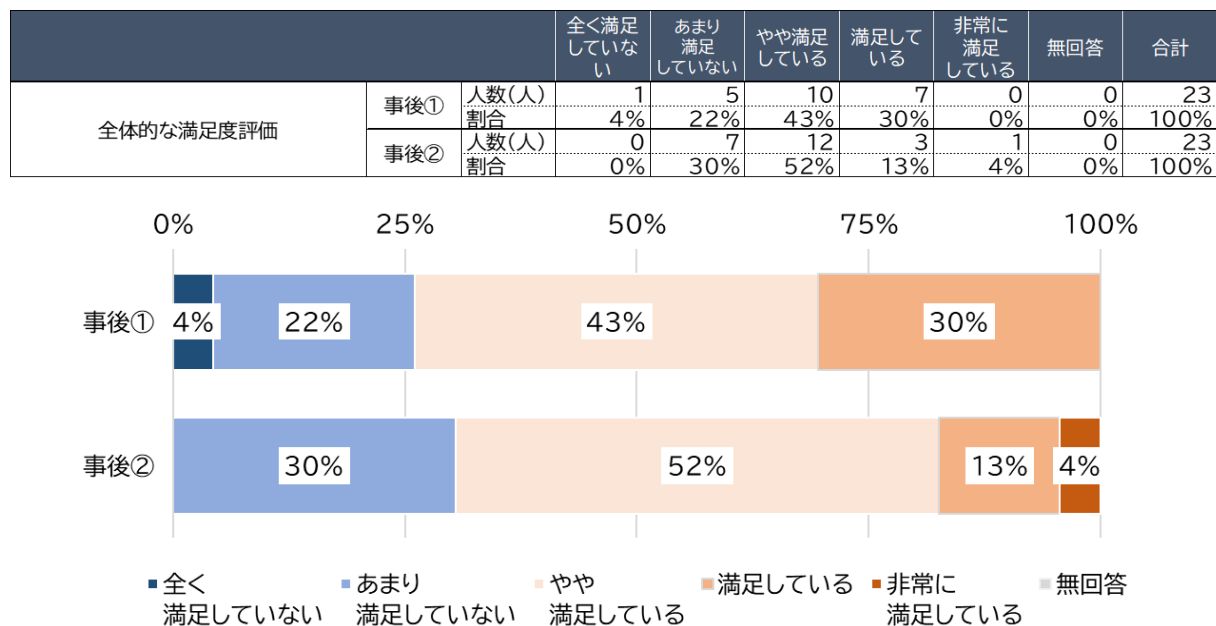
図表 XI-372 職員調査:導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向



⑤ 満足度評価

調査で導入した機器を用いたケアに対する満足度については、「やや満足している」と回答した職員の割合が、事後①では 43%、事後②では 52%であった。

図表 XI-373 職員調査:満足度評価



※質問項目に対し、1(全く満足していない)～5(非常に満足している)の 5 段階で評価した。

オ. 独自調査

複合型サービス事業所(看護小規模多機能型居宅介護)において、各実証期間中における、事務所(当該事業所4階)とサービス提供場所(当該事業所3階)間の移動回数を調査した。対象は事前・事後①②調査に全て参加した職員4名とし、各職員における各調査期間の事業所内の移動回数の平均値を算出した。全ての職員において、事後②調査では事前に比べ移動回数が減少しており、情報連携の効率化により、身体的な負担も減少した。

図表 XI-374 独自調査結果(複合型サービス):移動回数調査(移動した回数:1人当たり)

職員	事前	事後②
A	8.8	3.2
B	3.8	2.8
C	6.0	1.8
D	6.0	1.0

※施設内の事務所・サービス提供場所への移動回数(1日当たりの平均)

※事後①は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で職員の移動制限を実施していたため、事前と事後②の比較とした

カ. ヒアリング調査結果

実証完了後、実証施設へのヒアリング調査を実施した。調査結果の概要は以下の通り。

図表 XI-375 生産性向上の取組状況について

カテゴリ	主な意見
職員について	・ 3事業所のうち、1事業所では AI を使いこなせていない職員がいた。60 代の職員は、使い方が難しい面もあったようで、AI を使わずにアナログな作業の方が良いとのことだった。(通所介護) ・ インカムやモバイル端末、ソフトウェアの操作など、テクノロジーの操作に苦手意識の強い職員に対し、説明や操作時間を多めにとる等の配慮をした。(訪問介護) ・ 会議体の記録作成に時間を要していたのが課題であった。また、事務所とサービス提供エリアの階が分かれているので、移動が大変なことに加え本当に移動すべき用事なのか判断が難しかった。AI による文書や営業ツールの作成、インカムによる情報連携により、管理者や相談員、看護職員の業務効率化が図れた一方で、あまり文書作成の機会が少ない介護職員は AI 活用が難しいところがあった。インカムについては、職員が個人携帯を支給されていないため初期設定が大変だった。(複合型サービス) ・ 全社的に AI を使い始め、全介護支援専門員が使う方向で進めているところ

カテゴリ	主な意見
	である。各拠点のエリア長がテンプレートをカスタマイズし、介護支援専門員が使いやすいように工夫している。全社的には AI カフェを随時開催しており、社内担当者へ自由に質問できる環境があるが、必要に応じて事業所内でも OJT の時間を取り、AI を活用してもらった。(居宅介護支援)
利用者について	・ 取組による利用者への影響は特段なかった。(通所介護、訪問介護) ・ インカムは以前、使用したこともあり、利用者の受け入れは良かった。AI 文字起こしのための録音については、理由を丁寧に説明しご理解いただけたので、特に問題はなかった。(複合型サービス) ・ タブレット端末を持参して利用者宅へ訪問したが、録音することについては、利用者によって警戒されることもあった。概ね、丁寧に説明することで理解いただけている。(居宅介護支援) ・ 利用者によっては、タブレット端末の操作を気にする場合もあったので、配慮して操作するようにした。(居宅介護支援)
施設について	・ 記録業務の負担が減り、円滑に介護業務を行えるようになったと思う。(通所介護、訪問介護) ・ 介護支援専門員は休憩がとれないのも課題であるが、取組を継続・発展することによって、今後も活用できると思った。(居宅介護支援)

図表 XI-376 委員会や取組に向けた会議の開催について

カテゴリ	主な意見
開催概要	・ 事業所内での定例会議は特段設けていないが、取組に関して、対象となる職員へ適宜説明会や打合せを実施した。(通所介護) ・ 月3回開催している会議で、取組に関する周知や認識合わせを実施した。(訪問介護) ・ 3か月に1回、看護部門・介護部門の主任等の役職者が参加する会議を開催しており、取組の内容や課題を共有している。R8 年1月より生産性向上推進体制加算(Ⅱ)を取得している。(複合型サービス) ・ 週1回程度、会議は開催しており、取組状況や課題等を共有し、検討している。法人で連絡ツールアプリを導入しており、グループチャット等を活用でき、必要な情報を届けたい職員に共有することが可能であるため、職員への周知はしやすい環境である。(居宅介護支援)

図表 XI-377 実証目的に対する達成状況について

カテゴリ	主な意見
利用者の観点	・ AI が利用者の症状、基礎データから、緊急対応の必要性を示してくれるため、早期に変化を把握して対応することができた。また、アセスメント結果を介護記録やレポートに落とすことができ、他事業所等とも連携を図ることで、ケアの質があがるのではないかと懸念している。ただし、そこまで活用できている事業所とそうではない事業所があり、差が出ることを懸念している。また、職員も AI に頼りきりになってしまうと、自身で思考する能力が低下するのではないかと懸念している。(通所介護) ・ 医療面での専門知識について、AI を活用するとポイントが表示される。訪問介護の利用者の中には、訪問看護も利用している方がいるので、医療連携が必要な視点も表示してくれるのはありがたい。AI を使って文字起こしされるので、普段は見落としていたようなことについて発見があり、職員の振り返りになり、ケアの参考となった。(訪問介護) ・ AI を活用することにより、介護支援専門員の景観年数や能力によってばらつくことが減り、ケアプランの質がベースアップしたと思う。(居宅介護支援)
職員の観点	・ 記録が必要な業務が多く、事務時間の確保が難しかったため、残業が多かった。介護記録や文書作成の際に、入力漏れや誤字脱字が多いことが課題であったが、ある程度の内容を担保でき、業務が楽になった。(通所介護) ・ 記録に時間がかかっていたが、業務負担軽減につながっており、残業も記録業務の影響が大きかったが改善したと思う。また、記録業務支援ソフトを活用することで介護記録が具体的な内容になる。経験年数によらず、どの職員もある程度の質が担保できると思う。(訪問介護) ・ AI は、これからもっとできることが増えると感じている。将来的には書かない介護を目指したい。ゆくゆくは疾患別の予後予測・危険性も情報が出せるようになり、ケアの質もあがるのではないかと。(総合型サービス) ・ 介護支援専門員の課題として、利用者のアセスメントやサービス担当者会議の記録作成作業が追い付いていないところが課題だった。慣れるまでは負担があったものの、テクノロジーを活用することで、作業時間も大幅に削減し、利用者への対応にタスクシフトできた。(居宅介護支援)
施設の観点	・ 栄養アセスメント加算を算定しているが、その文書に必要な内容も AI に分析してもらい、作業の効率化が図れた。(通所介護) ・ 担当件数が限られていたが、利用者の件数を増やせそうな感じがある。費用対効果を考えてみても、テクノロジーを活用するメリットがあると思う。(訪問介護) ・ 令和 8 年3月で開所1年になるが、管理職等、職種によっては残業が多いため、記録に関する業務を軽減することができ、残業改善にもつながると思う。(複合型サービス)

カテゴリ	主な意見
	・ 現在では、テクノロジーなしでは仕事が回らない状況になりつつあり、1人の介護支援専門員で 49 件の利用者を担当することもできている。(居宅介護支援)

図表 XI-378 その他

カテゴリ	主な意見
	・ 今後、導入することに興味のあるテクノロジーとして、コミュニケーションロボがある。必要最低限の職員で業務を行っているため、見守りや声掛けなどテクノロジーを活用できるのではないかと感じている。また、国への申請資料等、事務作業はまだまだ多いので、もう少し軽減できないかと感じている。今後、業務効率化に向けて、テクノロジーを活用していくにあたり、補助金や加算は付けてほしいと思う。介護を魅力ある仕事にしていくため、賃金面も含めて、対策してほしいと願っている。(通所介護) ・ 記録業務の効率化は測れているものの、まだまだ書類関連は簡素化し、業務負担を減らしてほしい。(複合型サービス) ・ 介護支援専門員の採用が難しく、人材確保は厳しい状況である。介護支援専門員1名あたりの持ち件数をあげていくことが求められている。基本報酬をあげ、介護支援専門員に還付してほしい。テクノロジーを活用し、職員の負担軽減とケアの質も高まる実感が得られたので、積極的に取り組んでいる事業所には加算等を付けてほしいと願っている。(居宅介護支援)

(12) パラマウントベッド株式会社「介護支援専門員のモニタリング業務の生産性向上」

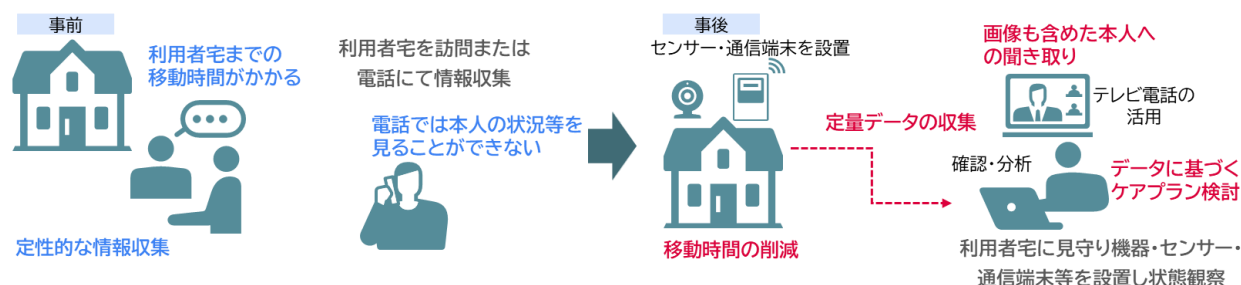
ア. 実証の概要

① 実証目的

利用者宅にセンサー・通信端末等を設置し、遠隔からの定量的な状態観察を実施することで、利用者の状況が見えないことによる職員の心理的負担と移動負担を軽減し、また利用者の状態に応じたケアプランの作成や必要なサービス介入の実現を目的とした。

また、実証地域を都市部と中山間地域で区分することで、より職員の移動負担が大きい中山間地域において負担軽減効果が大きくなることを検証することを目的とした。

図表 XI-379 実証イメージ



② 実証フィールドの概要

本実証では以下の実証フィールドにて効果測定を実施した。フィールド 1, 2 を都市部、3, 4 を中山間地域としてそれぞれ集計した。

図表 XI-380 実証フィールドの概要

実証 フィールド	法人名	施設名	サービス種別	区分	導入機器
1	コウダイ ケアサービ ス 株式会社	コウダイケアサー ビス居宅介護支 援事業所	居宅介護支援	都市部	・人感センサー(ZigBee) ・通 信 端 末 (ケ ア ビ ー HBT-00001) ・見 守 り 支 援 機 器 (眠 り SCAN)
2	ALSOK 介 護 株 式 会 社	ALSOK 介 護 居 宅 介 護 支 援 事 業 所 他	居宅介護支援		
3	株式会社 ライフケア	居宅介護支援事 業所 虹	居宅介護支援	中山間 地域	
4	社 会 福 祉 法 人 ぽけっと	ぽけっと 居宅介護支援事 業所	居宅介護支援		

③ 実証期間

調査期間は以下の通りである。

図表 XI-381 調査期間

調査	時期	補足
事前調査	令和 7 年11月 1 日～30日(30日間)	左記のうち、実証フィールド別に各 5 日間を調査期間として実施した。
事後調査①	令和 7 年12月 1 日～31日(31日間)	
事後調査②	令和 7 年 1 月 1 日～31日(31日間)	
ヒアリング調査	令和8年 2 月 16・19 日、3 月 5 日	

④ 各調査の概要

本調査では、実証の事前と事後(2回)で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」を実施し、独自調査として「睡眠状況調査」を実施した。また、実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。以下に各調査の概要を記載する。

2. 図表 XI-382 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
タイムスタディ調査 (媒体:Excel)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	- 回答方法:自記式(1 分刻みで自身が実施した作業項目を記入) - 調査スケジュール:事前(取組前)1 回、事後(取組後)2 回の計3回、それぞれ5日間分実施。 - 調査実施の時間帯:調査対象期間中の全勤務時間
職員向けアンケート調査 (在宅向け)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	- 回答方法:自記式(WEB 回答) - 調査スケジュール:事前と事後2回、実証期間中それぞれについて、1名につき1回のみ回答
利用者向けアンケート調査 (全テーマ共通)	新たな取組によるケアを受けた利用者 (職員による代理回答)	- 回答方法:自記式(WEB 回答) - 調査スケジュール:事前と事後2回、実証期間中それぞれについて、1名につき1回のみ回答
睡眠状況調査(独自調査)	新たな取組によるケアを受けた利用者	- 回答方法:見守り支援機器による自動記録 - 調査スケジュール:事前1回、事後 2 回の計3回、それぞれ1か月間実施。

調査名	調査対象者	調査概要
ヒアリング調査 (全テーマ共通)	施設管理者、部門管理者 介護職員	- 調査方法:WEB 会議による聞き取り - 調査スケジュール:実証終了後に1回実施

⑤ タイムスタディ調査項目

本調査のタイムスタディ調査項目は以下のとおり。なお、事前と事後調査の調査項目は共通とした。

図表 XI-383 タイムスタディ調査項目

NO	分類	Sub-NO	項目
A	調査対象利用者への直接業務	1	アセスメント・ヒアリング(オンライン)※1
		2	アセスメント・ヒアリング(利用者宅への訪問)
		3	利用者との連絡(テレビ電話)※2
		4	利用者との連絡(テレビ電話以外)※2
		5	定期モニタリング・サービス担当者会議・カンファレンス(オンライン)※3
		6	定期モニタリング・サービス担当者会議・カンファレンス(現地、移動・待機時間含む)※3
		7	ケアプラン作成※4
		8	テクノロジー活用に係る時間※5
		9	その他の訪問(移動・待機時間含む)
		10	その他、個別利用者への直接業務

※1 今回の実証で使用する機器(睡眠センサー・人感センサー・通信端末)を使用してのアセスメント・ヒアリングに要した時間。定期モニタリングを除く。

※2 連絡調整や緊急時の連絡に要した時間。モニタリング、サービス担当者会議、カンファレンスを除く。

※3 「サービス担当者に対する照会(依頼)内容」を作成した時間を含む。

※4 サービス実施状況の把握(モニタリング)のために、厚生労働省が標準様式として示している「居宅介護支援経過」を作成した時間を含む。

※5 実証機器の準備に要した時間や、データの読み取りに要した時間。

イ. 利用者・職員概要

① 利用者概要

本調査において利用者向けアンケート調査に回答があった利用者は 29 名であった。

図表 XI-384 利用者概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
都市部	人数(人)	6	6	0	12
	割合	50%	50%	0%	100%
中山間地域	人数(人)	5	12	0	17
	割合	29%	71%	0%	100%
総数	人数(人)	11	18	0	29
	割合	38%	62%	0%	100%

図表 XI-385 利用者概要:年齢

		70歳未満	70歳～ 75歳未満	75歳～ 80歳未満	80歳～ 85歳未満	85歳～ 90歳未満	90歳～ 95歳未満	95歳以上	無回答	合計
都市部	人数(人)	0	1	3	2	4	0	2	0	12
	割合	0%	8%	25%	17%	33%	0%	17%	0%	100%
中山間地域	人数(人)	1	2	1	4	4	3	2	0	17
	割合	6%	12%	6%	24%	24%	18%	12%	0%	100%
総数	人数(人)	1	3	4	6	8	3	4	0	29
	割合	3%	10%	14%	21%	28%	10%	14%	0%	100%

図表 XI-386 利用者概要:要介護度

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要 支援	その他(区 分申請中 等)	無回答	合計
都市部	人数(人)	2	2	5	0	0	3	0	0	12
	割合	17%	17%	42%	0%	0%	25%	0%	0%	100%
中山間地域	人数(人)	5	6	3	1	2	0	0	0	17
	割合	29%	35%	18%	6%	12%	0%	0%	0%	100%
総数	人数(人)	7	8	8	1	2	3	0	0	29
	割合	24%	28%	28%	3%	7%	10%	0%	0%	100%

図表 XI-387 利用者概要:障害高齢者の日常生活自立度

		J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明・未 実施	無回答	合計
都市部	人数(人)	1	2	4	3	1	1	0	0	0	0	12
	割合	8%	17%	33%	25%	8%	8%	0%	0%	0%	0%	100%
中山間地域	人数(人)	1	1	4	5	4	0	1	1	0	0	17
	割合	6%	6%	24%	29%	24%	0%	6%	6%	0%	0%	100%
総数	人数(人)	2	3	8	8	5	1	1	1	0	0	29
	割合	7%	10%	28%	28%	17%	3%	3%	3%	0%	0%	100%

② 職員概要

本調査において職員向けアンケート調査に回答があった職員は 11 名であった。

図表 XI-388 職員概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
都市部	人数(人)	2	2	0	4
	割合	50%	50%	0%	100%
中山間地域	人数(人)	1	6	0	7
	割合	14%	86%	0%	100%
総数	人数(人)	3	8	0	11
	割合	27%	73%	0%	100%

図表 XI-389 職員概要:年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
都市部	人数(人)	0	0	1	1	2	0	0	0	4
	割合	0%	0%	25%	25%	50%	0%	0%	0%	100%
中山間地域	人数(人)	0	0	1	3	0	2	1	0	7
	割合	0%	0%	14%	43%	0%	29%	14%	0%	100%
総数	人数(人)	0	0	2	4	2	2	1	0	11
	割合	0%	0%	18%	36%	18%	18%	9%	0%	100%

図表 XI-390 職員概要:職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓練 指導員を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
都市部	人数(人)	1	0	0	0	0	0	3	0	4
	割合	25%	0%	0%	0%	0%	0%	75%	0%	100%
中山間地域	人数(人)	0	0	0	0	0	0	7	0	7
	割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%
総数	人数(人)	1	0	0	0	0	0	10	0	11
	割合	9%	0%	0%	0%	0%	0%	91%	0%	100%

図表 XI-391 職員概要:役職

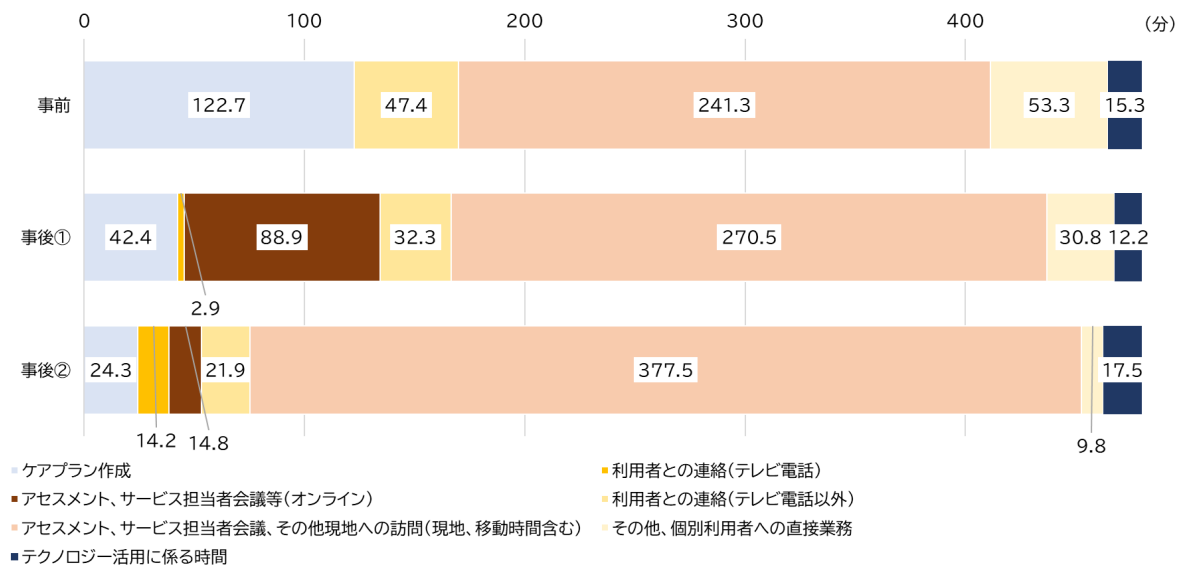
		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
都市部	人数(人)	0	2	1	1	0	4
	割合	0%	50%	25%	25%	0%	100%
中山間地域	人数(人)	0	2	5	0	0	7
	割合	0%	29%	71%	0%	0%	100%
総数	人数(人)	0	4	6	1	0	11
	割合	0%	36%	55%	9%	0%	100%

ウ. タイムスタディ調査結果

都市部では、「ケアプラン作成」の時間は事前と比較し、事後①では 80.3 分減少し、事後②では 98.4 分減少した。「利用者との連絡(テレビ通話)」と「アセスメント・サービス担当者会議等(オンライン)」の時間は、事後①で 91.8 分、事後②で 29.0 分となった。

図表 XI-392 タイムスタディ調査の結果(職員1人1日(480 分)あたり)(都市部)

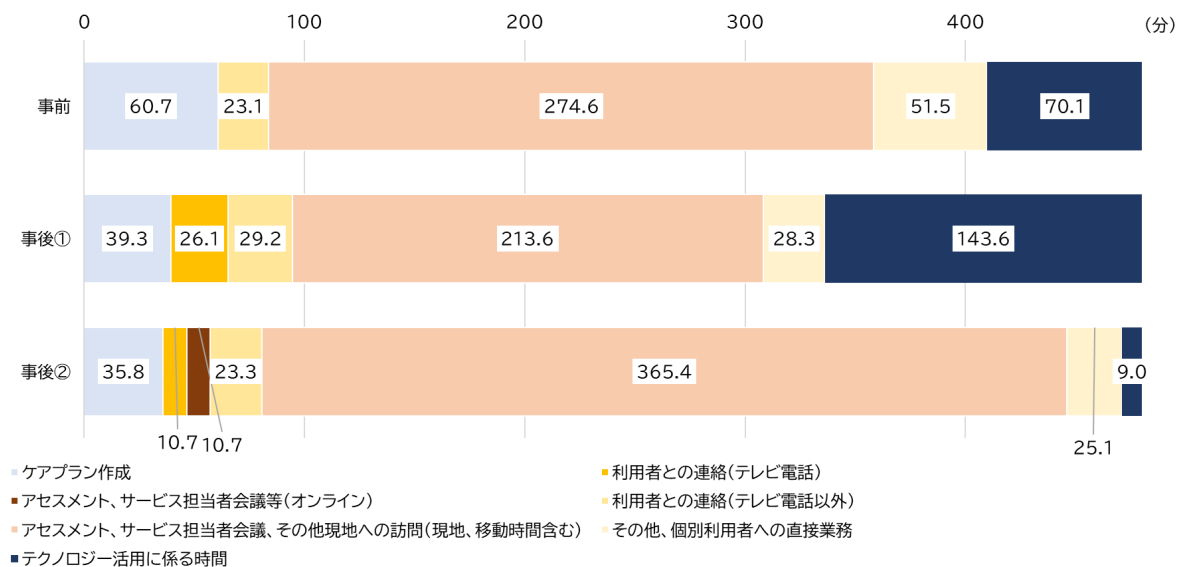
		調査対象利用者への直接業務										合計(分)
		アセスメント・ヒアリング (オンライン)	アセスメント・ヒアリング (利用者宅への訪問)	利用者との連絡(テレビ電話)	利用者との連絡 (テレビ電話以外)	定期モニタリング・サービス担 当者会議・カンファレンス (オンライン)	定期モニタリング・サービス担 当者会議・カンファレンス (現地、移動・待機時間含む)	ケアプラン作成	テクノロジー活用に係る時間	(移動・待機時間含む) その他の訪問	その他、個別利用者への 直接業務	
事前	時間(分)	0.0	63.8	0.0	47.4	0.0	177.5	122.7	15.3	0.0	53.3	480.0
	割合	0%	13%	0%	10%	0%	37%	26%	3%	0%	11%	100%
事後①	時間(分)	0.0	39.5	2.9	32.3	88.9	105.9	42.4	12.2	125.0	30.8	480.0
	割合	0%	8%	1%	7%	19%	22%	9%	3%	26%	6%	100%
事後②	時間(分)	14.8	63.2	14.2	21.9	0.0	275.8	24.3	17.5	38.5	9.8	480.0
	割合	3%	13%	3%	5%	0%	57%	5%	4%	8%	2%	100%



中山間地域では、「ケアプラン作成」の時間は事前と比較し、事後①では 21.4 分減少し、事後②では 24.9 分減少した。「利用者との連絡(テレビ通話)」と「アセスメント・サービス担当者会議等(オンライン)」の時間は、事後①で 26.1 分、事後②で 21.4 分となった。

図表 XI-393 タイムスタディ調査の結果(職員1人1日(480 分)あたり)(中山間地域)

		調査対象利用者への直接業務										合計(分)
		アセスメント・ヒアリング (オンライン)	アセスメント・ヒアリング (利用者宅への訪問)	利用者との連絡(テレビ電話)	利用者との連絡 (テレビ電話以外)	定期モニタリング・サービス担 当者会議・カンファレンス (オンライン)	定期モニタリング・サービス担 当者会議・カンファレンス(現 地、移動・待機時間含む)	ケアプラン作成	テクノロジー活用に係る時間	(移動・待機時間含む) その他の訪問	その他、個別利用者への 直接業務	
事前	時間(分)	0.0	104.8	0.0	23.1	0.0	133.8	60.7	70.1	36.1	51.5	480.0
	割合	0%	22%	0%	5%	0%	28%	13%	15%	8%	11%	100%
事後①	時間(分)	0.0	93.4	26.1	29.2	0.0	86.3	39.3	143.6	33.8	28.3	480.0
	割合	0%	19%	5%	6%	0%	18%	8%	30%	7%	6%	100%
事後②	時間(分)	0.0	90.9	10.7	23.3	10.7	89.1	35.8	9.0	185.4	25.1	480.0
	割合	0%	19%	2%	5%	2%	19%	7%	2%	39%	5%	100%

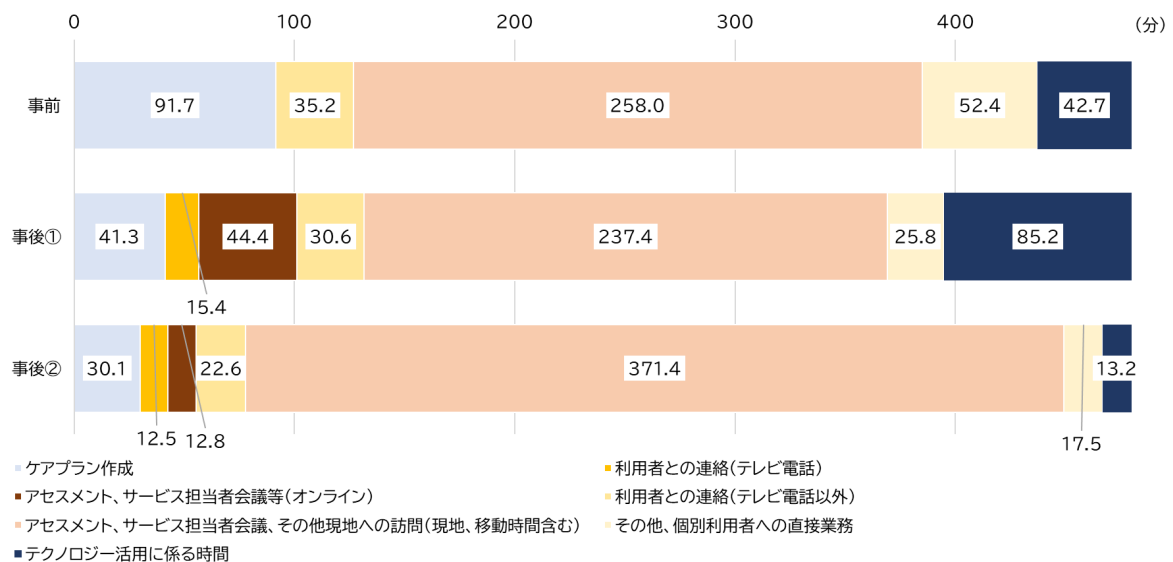


参考として、都市部と中山間地域の結果を合算した結果は以下の通り。

「ケアプラン作成」の時間は事前と比較し、事後①では 50.4 分減少し、事後②では 61.6 分減少した。「利用者との連絡(テレビ通話)」と「アセスメント・サービス担当者会議等(オンライン)」の時間は、事後①で 59.8 分、事後②で 25.3 分となった。

図表 XI-394 タイムスタディ調査の結果(職員1人1日(480 分)あたり)(全体)

		調査対象利用者への直接業務										合計(分)
		アセスメント・ヒアリング (オンライン)	アセスメント・ヒアリング (利用者宅への訪問)	利用者との連絡(テレビ電話)	利用者との連絡 (テレビ電話以外)	定期モニタリング・サービス担 当者会議・カンファレンス (オンライン)	定期モニタリング・サービス担 当者会議・カンファレンス(現 地、移動・待機時間含む)	ケアプラン作成	テクノロジー活用に係る時間	その他の訪問 (移動・待機時間含む)	その他、個別利用者への 直接業務	
事前	時間(分)	0.0	84.3	0.0	35.2	0.0	155.6	91.7	42.7	18.0	52.4	480.0
	割合	0%	18%	0%	7%	0%	32%	19%	9%	4%	11%	100%
事後①	時間(分)	0.0	64.1	15.4	30.6	44.4	92.6	41.3	85.2	80.7	25.8	480.0
	割合	0%	13%	3%	6%	9%	19%	9%	18%	17%	5%	100%
事後②	時間(分)	7.4	77.0	12.5	22.6	5.4	182.5	30.1	13.2	112.0	17.5	480.0
	割合	2%	16%	3%	5%	1%	38%	6%	3%	23%	4%	100%



事前 n=11、事後①n=12、事後②n=10

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

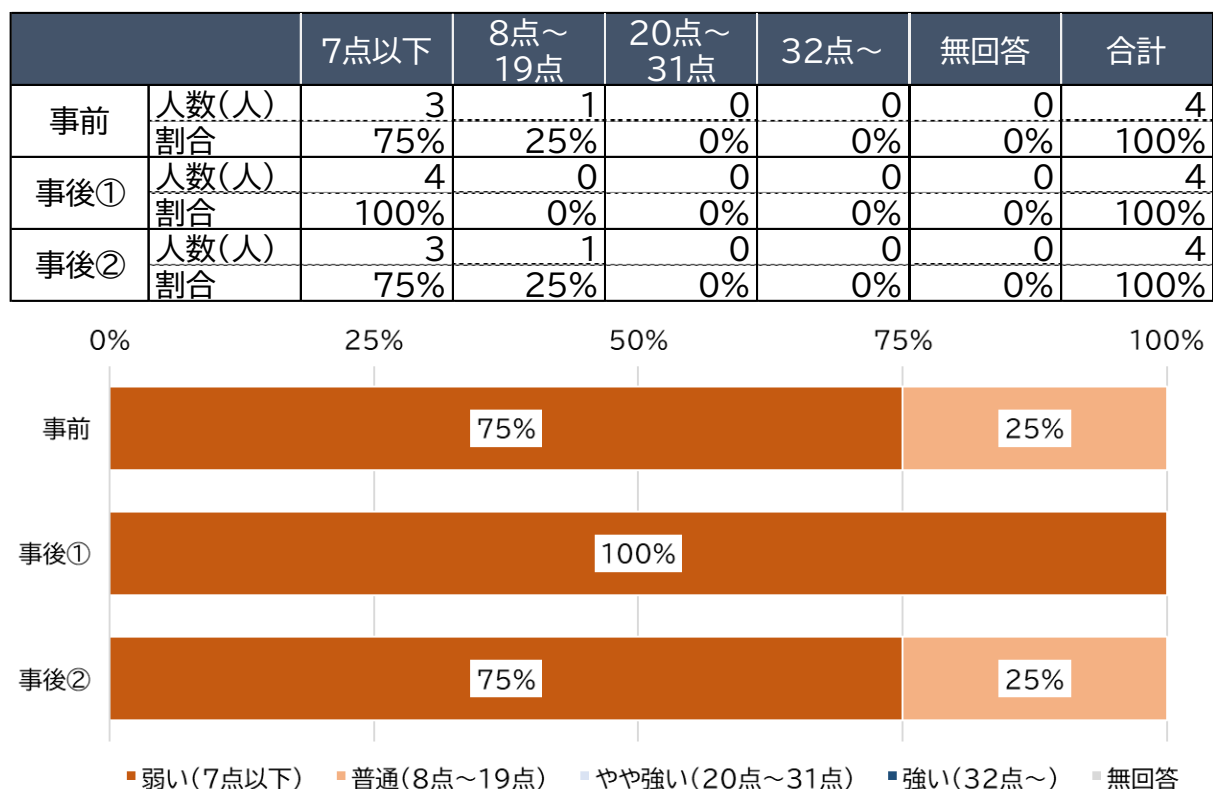
工. 職員向けアンケート調査結果

① 心理的負担評価

職員の心理的ストレス反応測定尺度合計点について事前と事後 2 回の結果を比較すると、都市部では事前から事後②まで変化はなかった。

中山間地域では、「弱い(7 点以下)」と回答した職員の割合が、事前では 57%、事後①及び事後②では 71%となった。

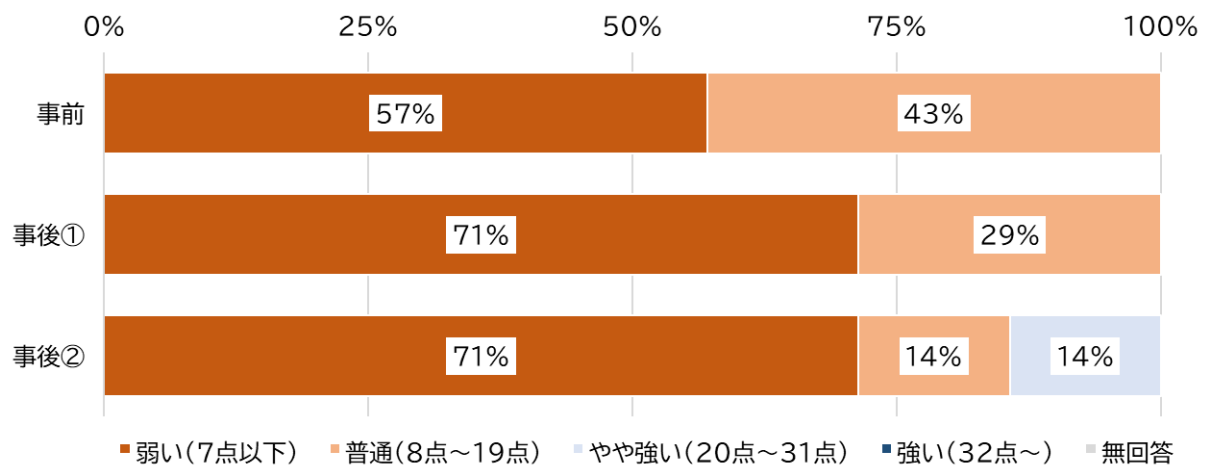
図表 XI-395 職員調査:心理的負担評価(都市部)



※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各 18 項目のうち 1 項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が 0、1、2、3 以外の場合は無回答処理をした。

図表 XI-396 職員調査:心理的負担評価(中山間地域)

		7点以下	8点～ 19点	20点～ 31点	32点～	無回答	合計
事前	人数(人)	4	3	0	0	0	7
	割合	57%	43%	0%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	5	2	0	0	0	7
	割合	71%	29%	0%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	5	1	1	0	0	7
	割合	71%	14%	14%	0%	0%	100%



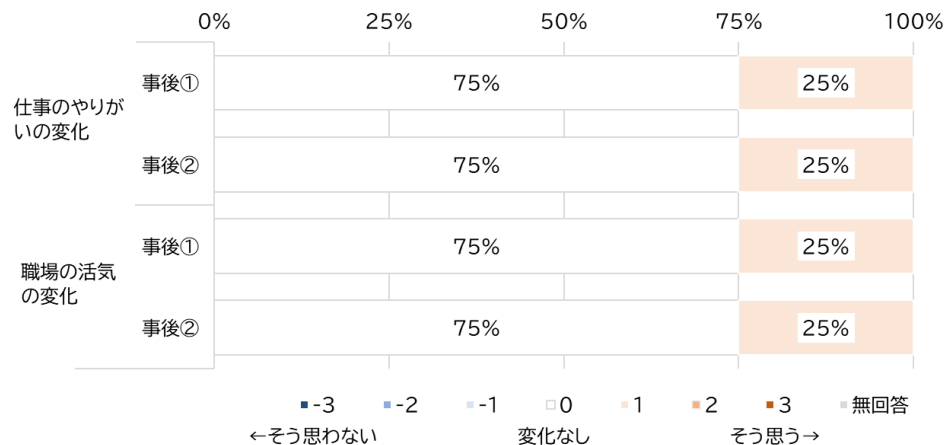
※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各 18 項目のうち 1 項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が 0、1、2、3 以外の場合は無回答処理をした。

② 機器導入によるモチベーションの変化

機器導入によるモチベーションの変化は以下の通り。

図表 XI-397 職員調査:機器導入によるモチベーションの変化(都市部)

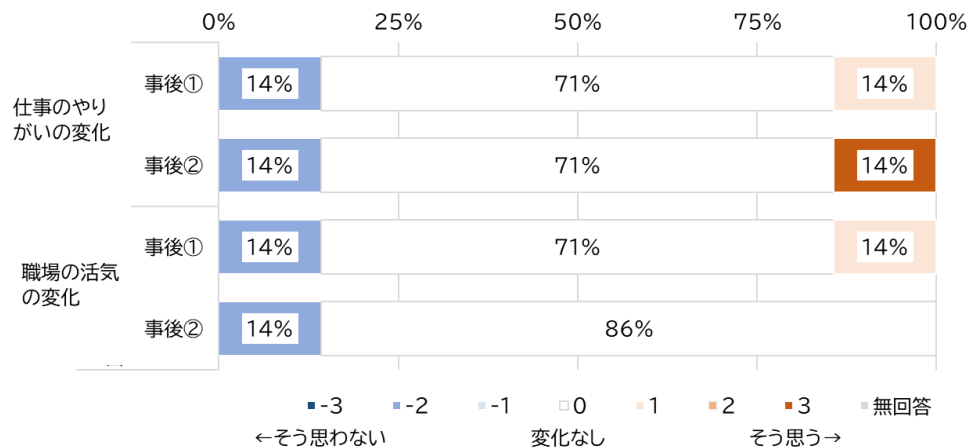
			←減少したと感じる						増加したと感じる→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
仕事のやりがいの 変化	事後①	人数(人)	0	0	0	3	1	0	0	0	4	
		割合	0%	0%	0%	75%	25%	0%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	0	3	1	0	0	0	4	
		割合	0%	0%	0%	75%	25%	0%	0%	0%	100%	
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	3	1	0	0	0	4	
		割合	0%	0%	0%	75%	25%	0%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	0	3	1	0	0	0	4	
		割合	0%	0%	0%	75%	25%	0%	0%	0%	100%	



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

図表 XI-398 職員調査:機器導入によるモチベーションの変化(中山間地域)

			←減少したと感じる				増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
仕事のやりがいの 変化	事後①	人数(人)	0	1	0	5	1	0	0	0	7
		割合	0%	14%	0%	71%	14%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	0	5	0	0	1	0	7
		割合	0%	14%	0%	71%	0%	0%	14%	0%	100%
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	0	1	0	5	1	0	0	0	7
		割合	0%	14%	0%	71%	14%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	0	6	0	0	0	0	7
		割合	0%	14%	0%	86%	0%	0%	0%	0%	100%



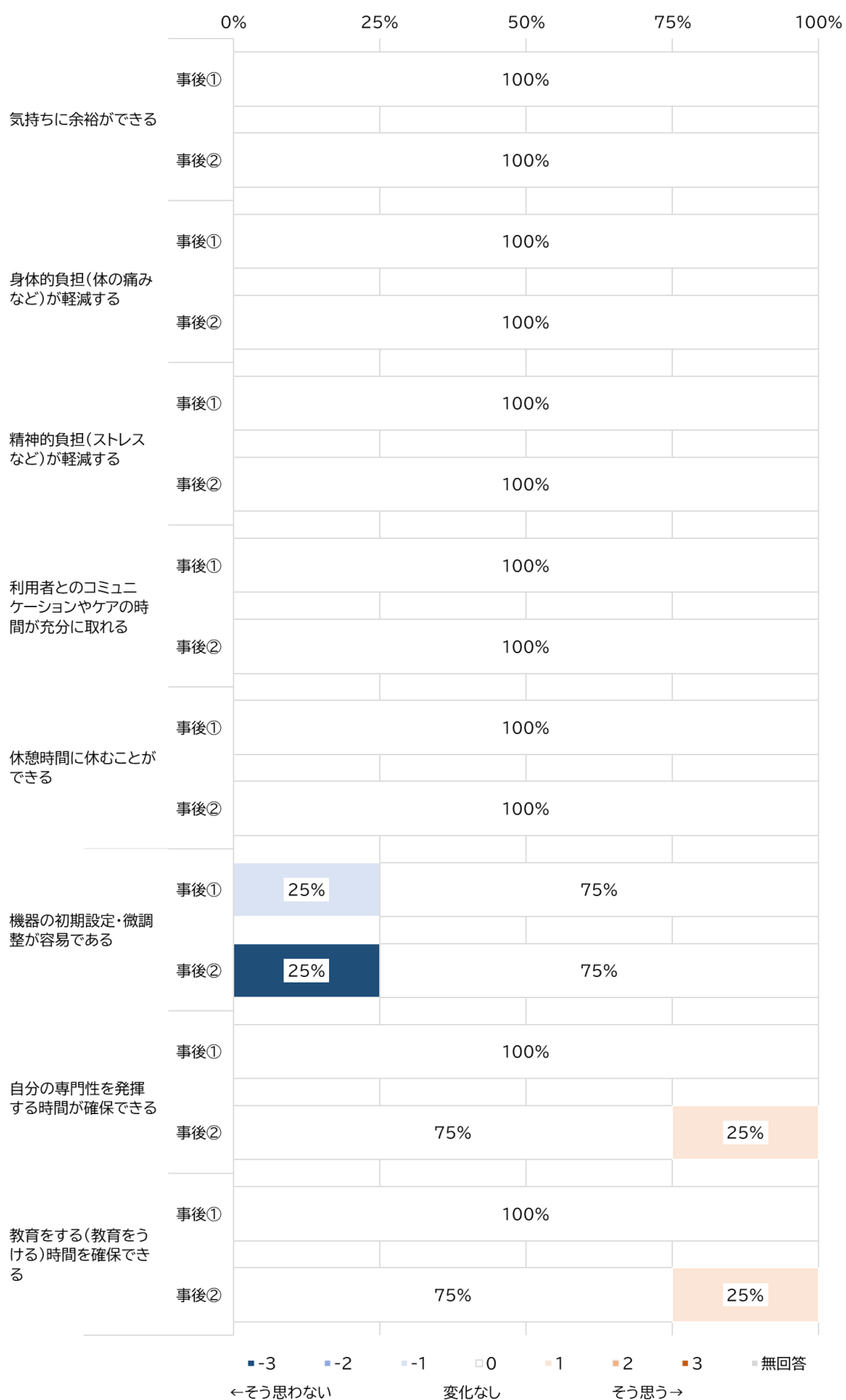
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

③ 機器導入による職員や施設業務の変化

機器導入による職員や施設業務の変化は以下の通り。

図表 XI-399 職員調査：機器導入による職員や施設業務の変化(都市部)

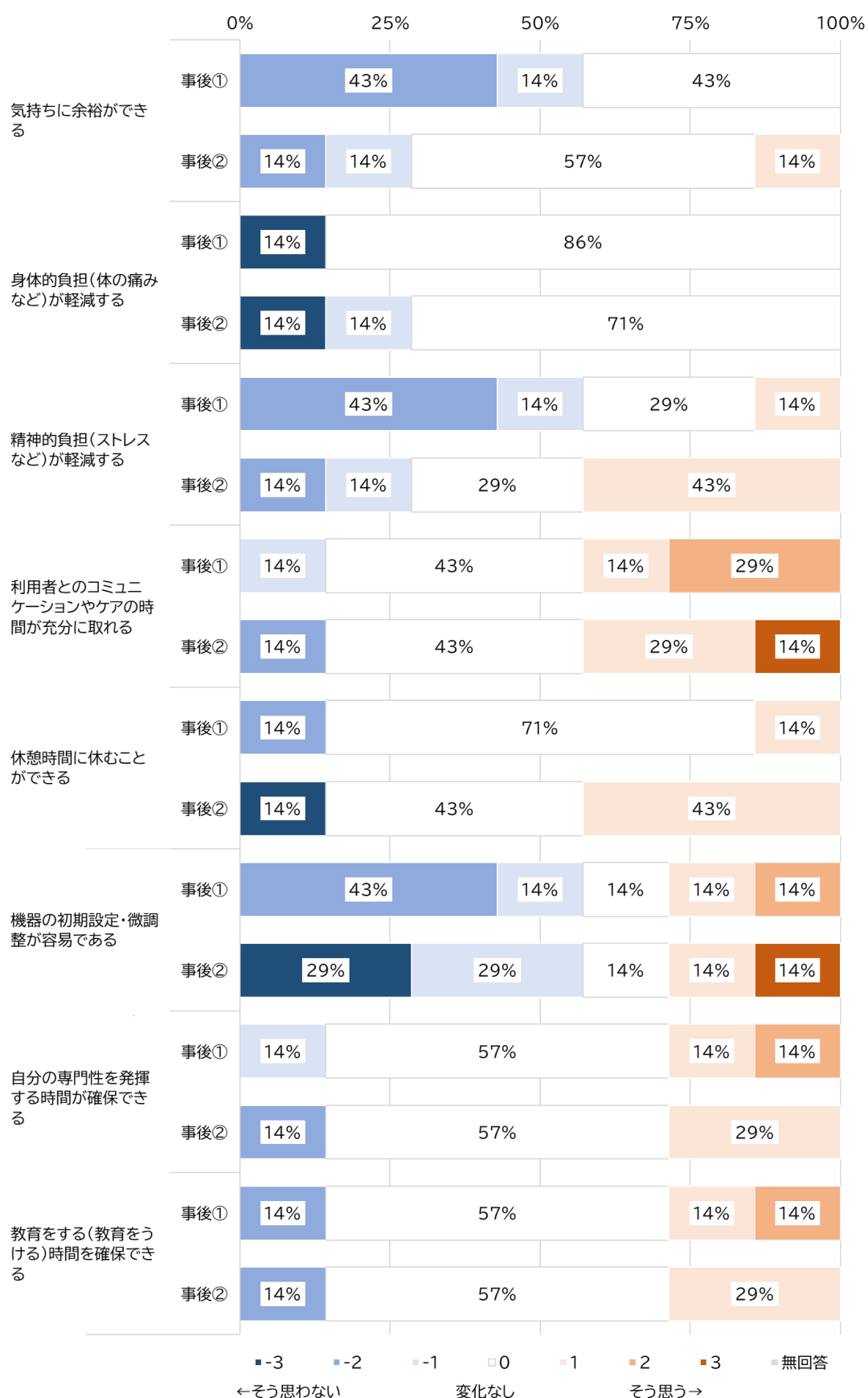
			←そう思わない		変化なし		→そう思う		無回答	合計	
			-3	-2	-1	0	1	2			3
気持ちに余裕がで きる	事後①	人数(人)	0	0	0	4	0	0	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	0	0	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
身体的負担(体の痛 みなど)が軽減する	事後①	人数(人)	0	0	0	4	0	0	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	0	0	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
精神的負担(ストレ スなど)が軽減する	事後①	人数(人)	0	0	0	4	0	0	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	0	0	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
利用者とのコミュニ ケーションやケアの 時間が充分に取れ る	事後①	人数(人)	0	0	0	4	0	0	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	0	0	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
休憩時間に休むこ とができる	事後①	人数(人)	0	0	0	4	0	0	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	0	0	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
機器の初期設定・微 調整が容易である	事後①	人数(人)	0	0	1	3	0	0	0	0	4
		割合	0%	0%	25%	75%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	0	3	0	0	0	0	4
		割合	25%	0%	0%	75%	0%	0%	0%	0%	100%
自分の専門性を発 揮する時間が確保 できる	事後①	人数(人)	0	0	0	4	0	0	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	3	1	0	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	75%	25%	0%	0%	0%	100%
教育をする(教育を つける)時間を確保 できる	事後①	人数(人)	0	0	0	4	0	0	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	3	1	0	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	75%	25%	0%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

図表 XI-400 職員調査:機器導入による職員や施設業務の変化(中山間地域)

			←そう思わない		変化なし		そう思う→		無回答	合計	
			-3	-2	-1	0	1	2			3
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人)	0	3	1	3	0	0	0	0	7
		割合	0%	43%	14%	43%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	1	4	1	0	0	0	7
		割合	0%	14%	14%	57%	14%	0%	0%	0%	100%
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人)	1	0	0	6	0	0	0	0	7
		割合	14%	0%	0%	86%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	1	5	0	0	0	0	7
		割合	14%	0%	14%	71%	0%	0%	0%	0%	100%
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人)	0	3	1	2	1	0	0	0	7
		割合	0%	43%	14%	29%	14%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	1	2	3	0	0	0	7
		割合	0%	14%	14%	29%	43%	0%	0%	0%	100%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	事後①	人数(人)	0	0	1	3	1	2	0	0	7
		割合	0%	0%	14%	43%	14%	29%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	0	3	2	0	1	0	7
		割合	0%	14%	0%	43%	29%	0%	14%	0%	100%
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人)	0	1	0	5	1	0	0	0	7
		割合	0%	14%	0%	71%	14%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	0	3	3	0	0	0	7
		割合	14%	0%	0%	43%	43%	0%	0%	0%	100%
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人)	0	3	1	1	1	1	0	0	7
		割合	0%	43%	14%	14%	14%	14%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	2	0	2	1	1	0	1	0	7
		割合	29%	0%	29%	14%	14%	0%	14%	0%	100%
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人)	0	0	1	4	1	1	0	0	7
		割合	0%	0%	14%	57%	14%	14%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	0	4	2	0	0	0	7
		割合	0%	14%	0%	57%	29%	0%	0%	0%	100%
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後①	人数(人)	0	1	0	4	1	1	0	0	7
		割合	0%	14%	0%	57%	14%	14%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	0	4	2	0	0	0	7
		割合	0%	14%	0%	57%	29%	0%	0%	0%	100%

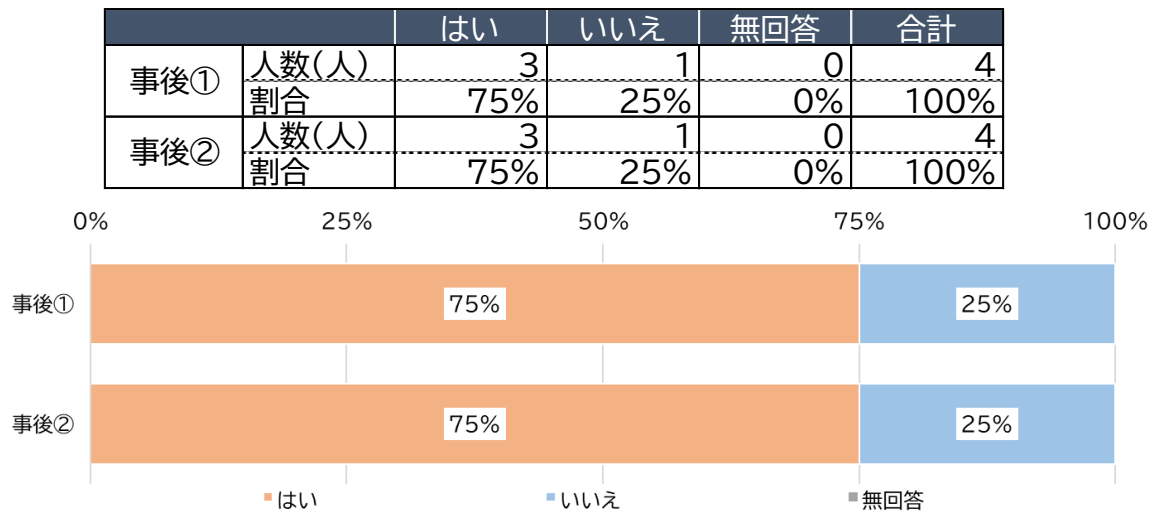


※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

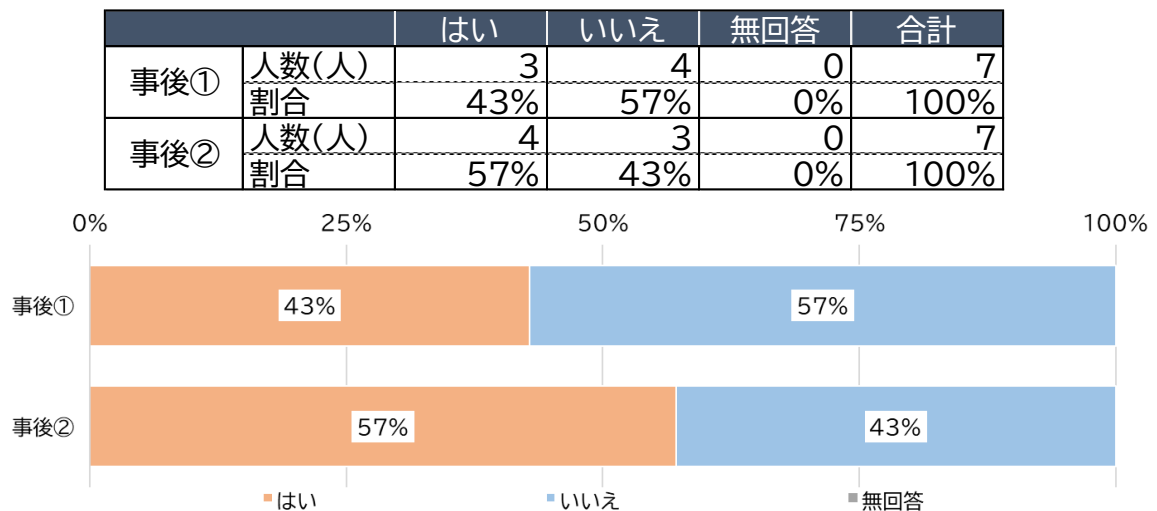
④ 導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向

導入機器の継続利用意向について、都市部では「はい」の回答が事後①及び事後②で75%であった。中山間地域では、「はい」の回答は事後①で43%、事後②で57%であった。

図表 XI-401 職員調査:導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向(都市部)



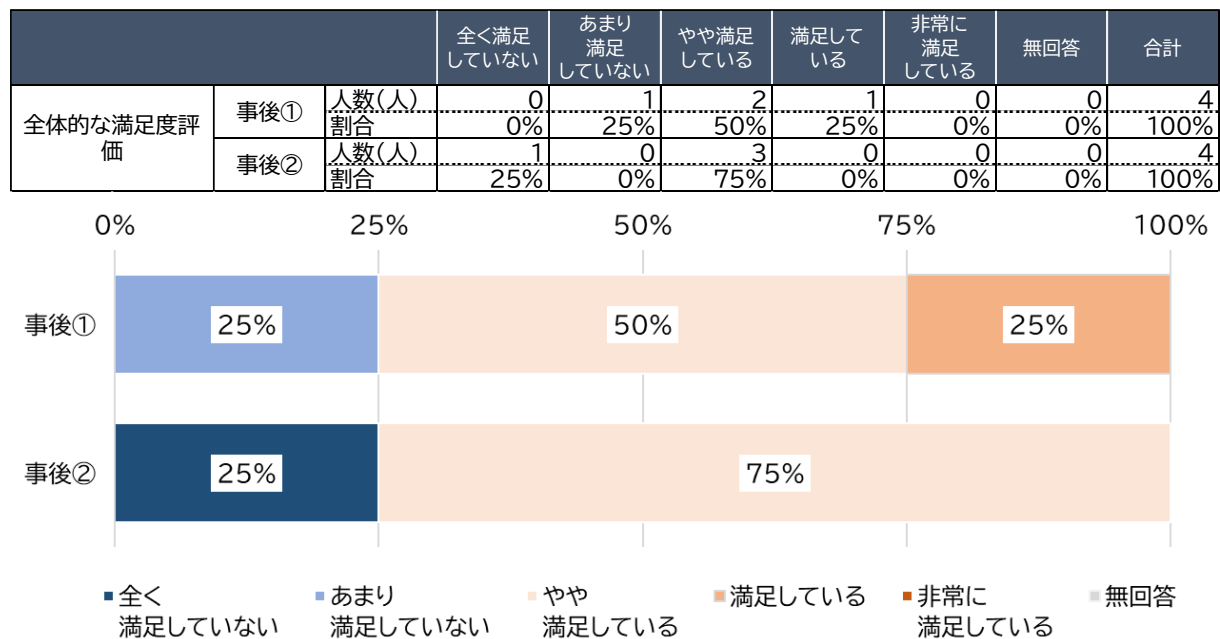
図表 XI-402 職員調査:導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向(中山間地域)



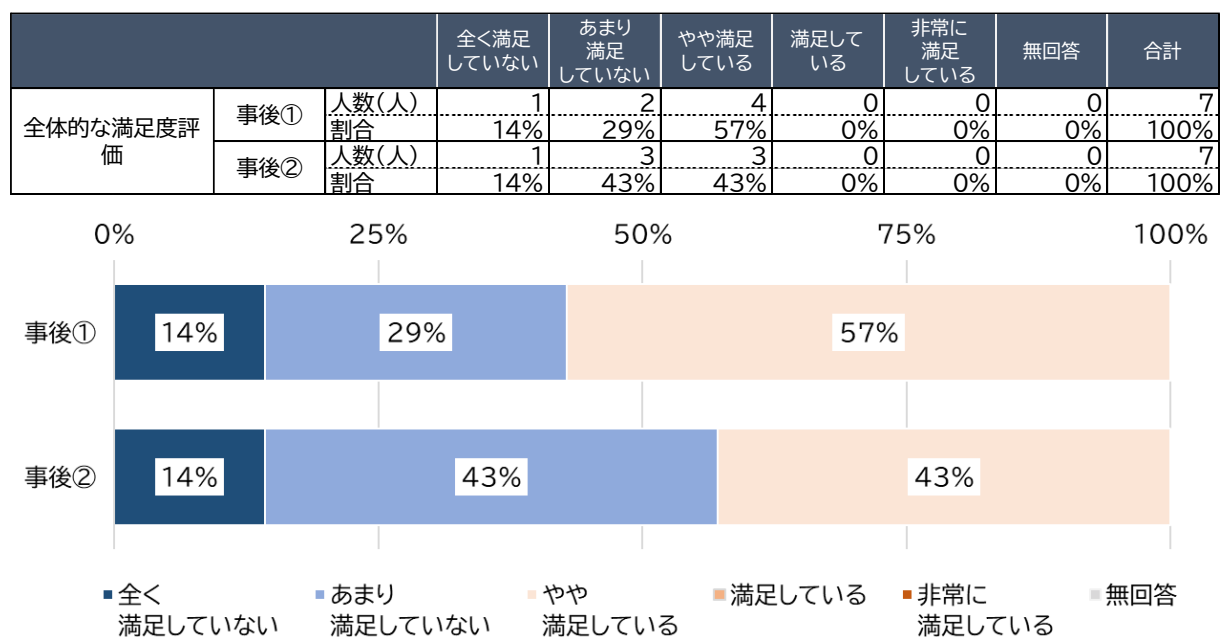
⑤ 満足度評価

調査で導入した機器を用いたケアに対する満足度については、「やや満足している」または「満足している」と回答した職員の割合が、都市部では事後①及び事後②で75%であった。中山間地域では、「やや満足している」と回答した職員の割合は事後①で57%、事後②で43%であった。

図表 XI-403 職員調査:満足度評価(都市部)



図表 XI-404 職員調査:満足度評価(中山間地域)



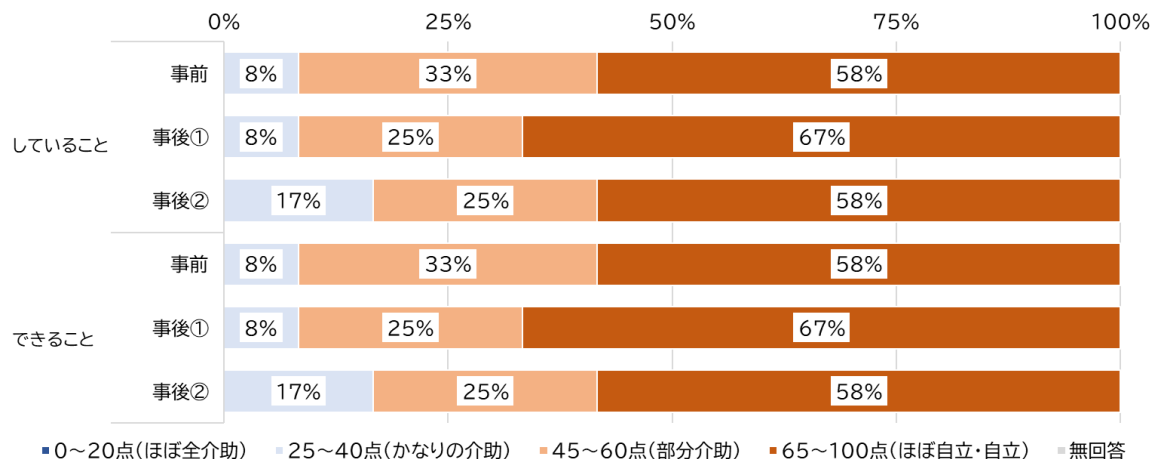
オ. 利用者向けアンケート調査結果

① ADL の変化

ADL の変化は以下の通り。

図表 XI-405 利用者調査:ADL の変化(都市部)

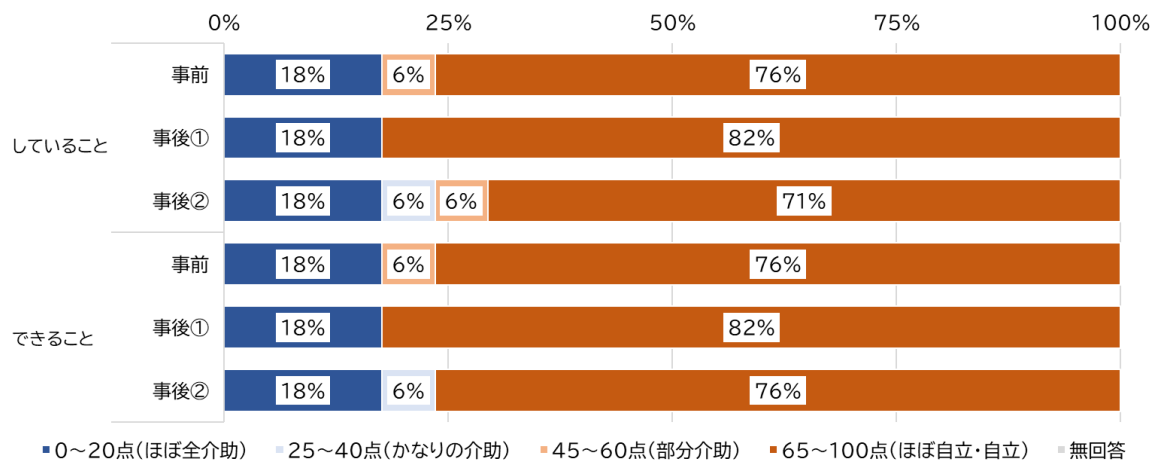
			0点～ 20点	25点～ 40点	45点～ 60点	65点～ 100点	無回答	合計
していること	事前	人数(人)	0	1	4	7	0	12
		割合	0%	8%	33%	58%	0%	100%
	事後①	人数(人)	0	1	3	8	0	12
		割合	0%	8%	25%	67%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	2	3	7	0	12
		割合	0%	17%	25%	58%	0%	100%
できること	事前	人数(人)	0	1	4	7	0	12
		割合	0%	8%	33%	58%	0%	100%
	事後①	人数(人)	0	1	3	8	0	12
		割合	0%	8%	25%	67%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	2	3	7	0	12
		割合	0%	17%	25%	58%	0%	100%



※事前調査または事後調査で、各10項目のうち1項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

図表 XI-406 利用者調査:ADLの変化(中山間地域)

			0点～ 20点	25点～ 40点	45点～ 60点	65点～ 100点	無回答	合計
していること	事前	人数(人)	3	0	1	13	0	17
		割合	18%	0%	6%	76%	0%	100%
	事後①	人数(人)	3	0	0	14	0	17
		割合	18%	0%	0%	82%	0%	100%
	事後②	人数(人)	3	1	1	12	0	17
		割合	18%	6%	6%	71%	0%	100%
できること	事前	人数(人)	3	0	1	13	0	17
		割合	18%	0%	6%	76%	0%	100%
	事後①	人数(人)	3	0	0	14	0	17
		割合	18%	0%	0%	82%	0%	100%
	事後②	人数(人)	3	1	0	13	0	17
		割合	18%	6%	0%	76%	0%	100%



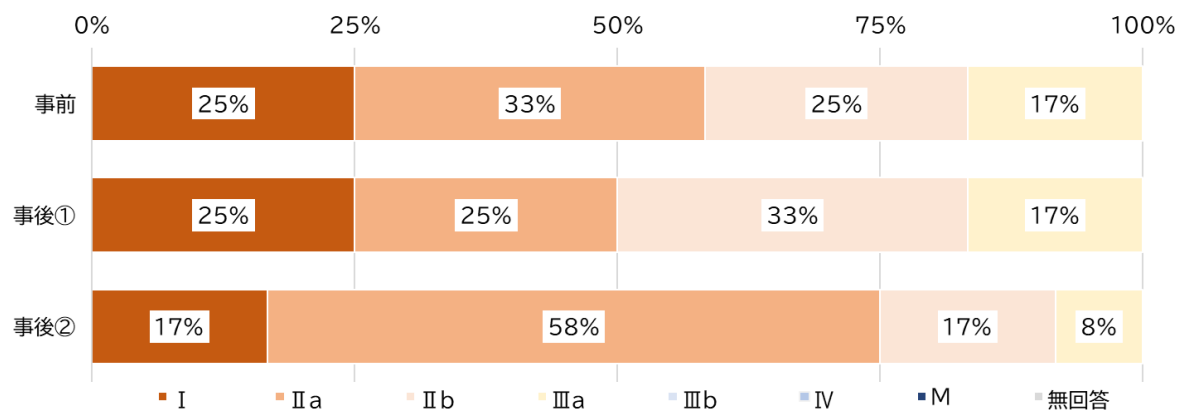
※事前調査または事後調査で、各10項目のうち1項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

② 認知症高齢者の日常生活自立度の変化

認知症高齢者の日常生活自立度は以下の通り。

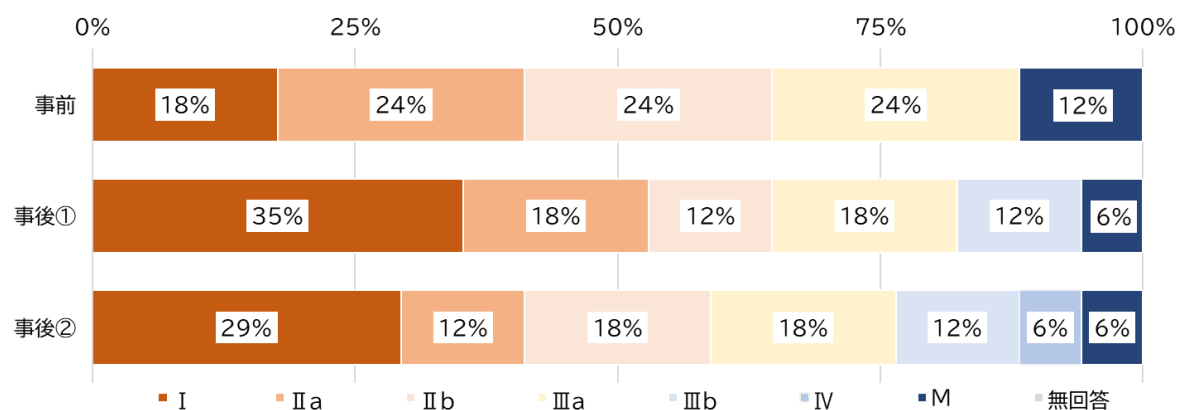
図表 XI-407 利用者調査:認知症高齢者の日常生活自立度の変化(都市部)

		I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M	無回答	合計
事前	人数(人)	3	4	3	2	0	0	0	0	12
	割合	25%	33%	25%	17%	0%	0%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	3	3	4	2	0	0	0	0	12
	割合	25%	25%	33%	17%	0%	0%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	2	7	2	1	0	0	0	0	12
	割合	17%	58%	17%	8%	0%	0%	0%	0%	100%



図表 XI-408 利用者調査:認知症高齢者の日常生活自立度の変化(中山間地域)

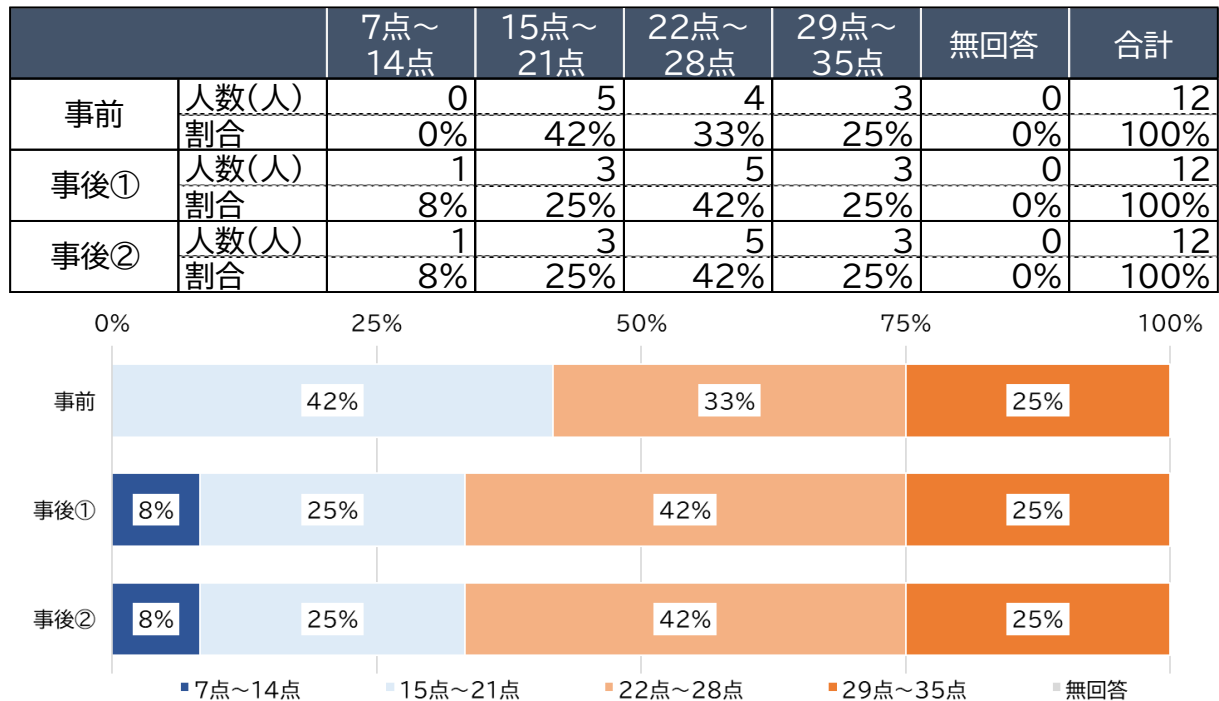
		I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M	無回答	合計
事前	人数(人)	3	4	4	4	0	0	2	0	17
	割合	18%	24%	24%	24%	0%	0%	12%	0%	100%
事後①	人数(人)	6	3	2	3	2	0	1	0	17
	割合	35%	18%	12%	18%	12%	0%	6%	0%	100%
事後②	人数(人)	5	2	3	3	2	1	1	0	17
	割合	29%	12%	18%	18%	12%	6%	6%	0%	100%



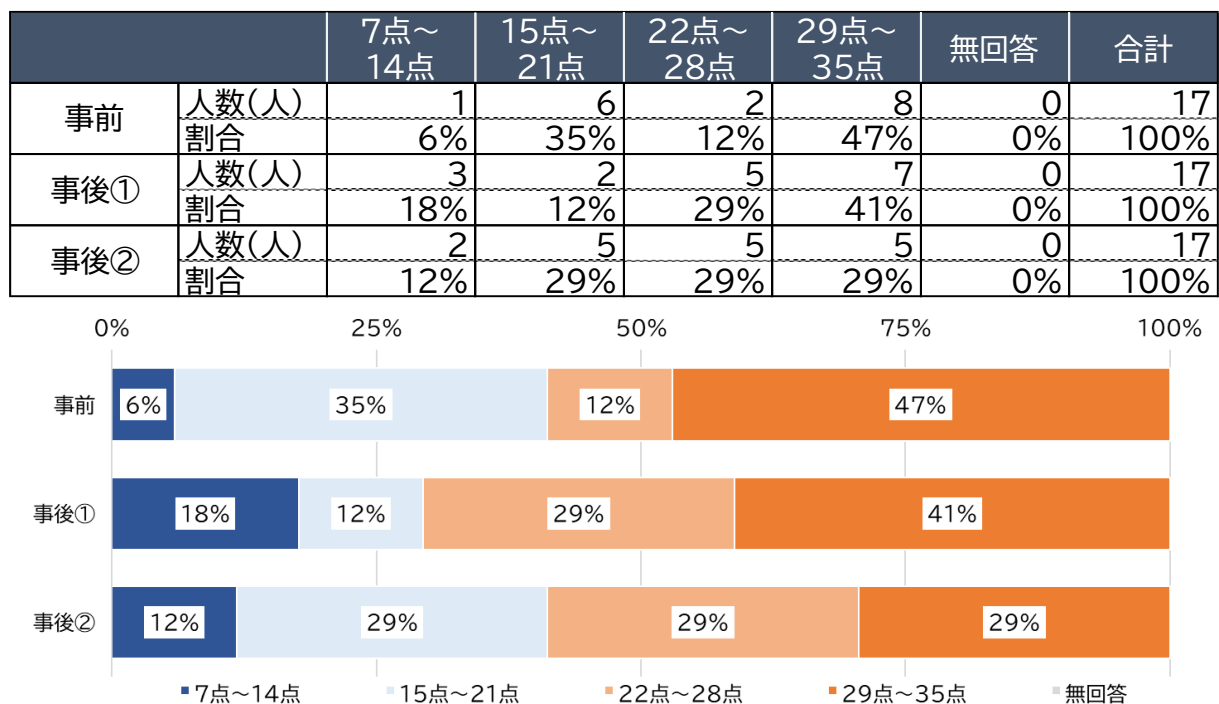
③ 生活・認知機能尺度の変化

生活・認知機能尺度の変化は以下の通り。

図表 XI-409 利用者調査:生活・認知機能尺度の変化(都市部)



図表 XI-410 利用者調査:生活・認知機能尺度の変化(中山間地域)

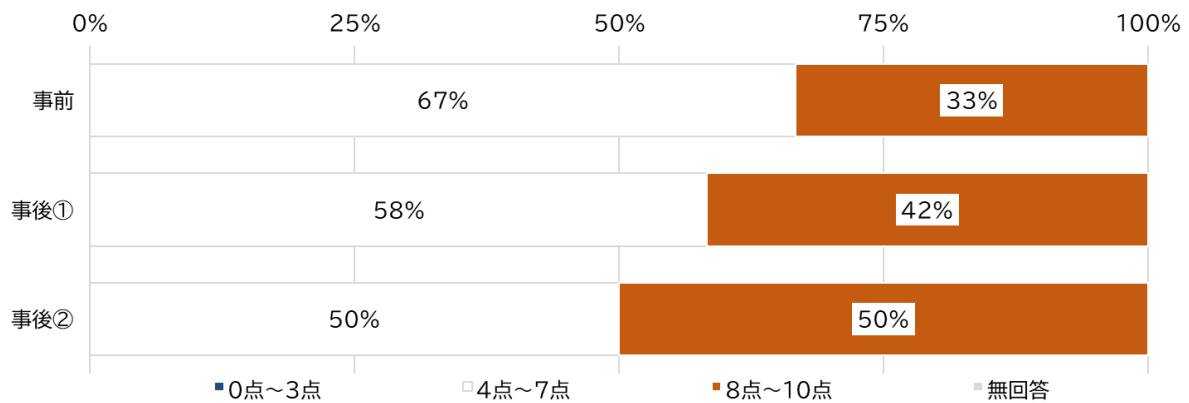


④ Vitality Index の変化

Vitality Index の変化は以下の通り。

図表 XI-411 利用者調査: Vitality Index の変化(都市部)

		0点～ 3点	4点～ 7点	8点～ 10点	無回答	合計
事前	人数(人)	0	8	4	0	12
	割合	0%	67%	33%	0%	100%
事後①	人数(人)	0	7	5	0	12
	割合	0%	58%	42%	0%	100%
事後②	人数(人)	0	6	6	0	12
	割合	0%	50%	50%	0%	100%

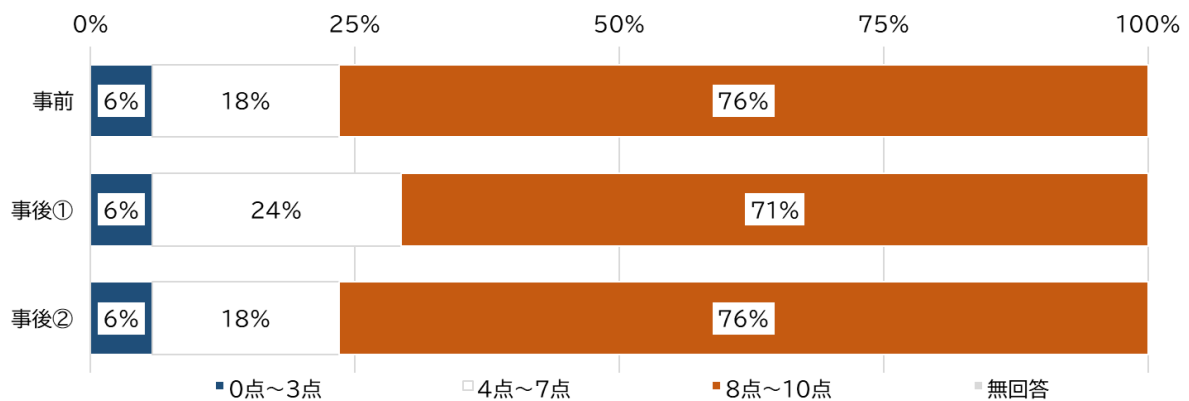


※事前調査または事後調査で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、以外の場合は無回答処理をした。

※ Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の 5 項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5 項目それぞれに0～2 点で回答し、それぞれ 2 点が最もよい状態を示す。10 点満点。

図表 XI-412 利用者調査: Vitality Index の変化(中山間地域)

		0点～3点	4点～7点	8点～10点	無回答	合計
事前	人数(人)	1	3	13	0	17
	割合	6%	18%	76%	0%	100%
事後①	人数(人)	1	4	12	0	17
	割合	6%	24%	71%	0%	100%
事後②	人数(人)	1	3	13	0	17
	割合	6%	18%	76%	0%	100%



※事前調査または事後調査で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、以外の場合は無回答処理をした。

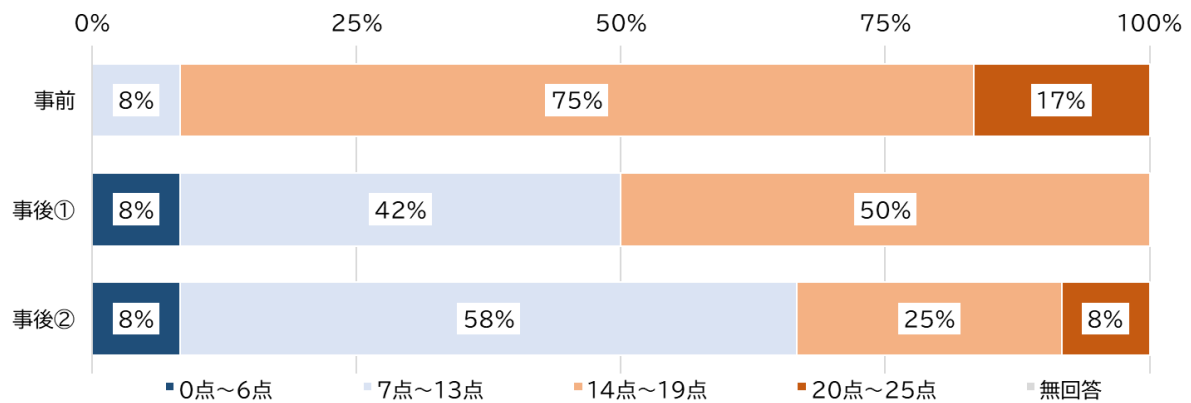
※ Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の 5 項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5 項目それぞれに0～2 点で回答し、それぞれ 2 点が最もよい状態を示す。10 点満点。

⑤ QOL(WHO-5 精神的健康状態表)の変化

QOL の変化は、都市部では「13 点以下」の割合が事前 8%から事後②で 66%に増加し、中山間地域では、「13 点以下」の割合は事前 35%から事後②で 29%に減少した。

図表 XI-413 利用者調査:QOL の変化(都市部)

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
事前	人数(人)	0	1	9	2	0	12
	割合	0%	8%	75%	17%	0%	100%
事後①	人数(人)	1	5	6	0	0	12
	割合	8%	42%	50%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	1	7	3	1	0	12
	割合	8%	58%	25%	8%	0%	100%

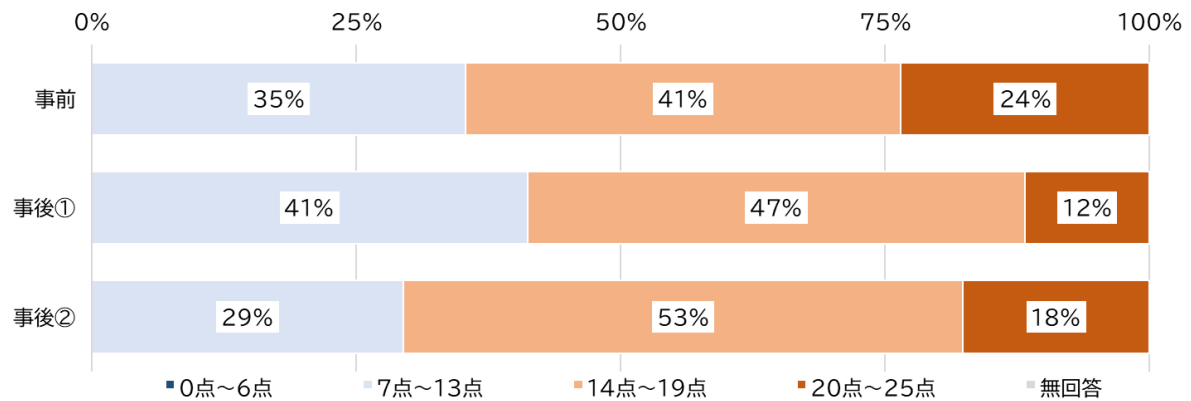


※事前または事後で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近2週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

図表 XI-414 利用者調査:QOL の変化(中山間地域)

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
事前	人数(人)	0	6	7	4	0	17
	割合	0%	35%	41%	24%	0%	100%
事後①	人数(人)	0	7	8	2	0	17
	割合	0%	41%	47%	12%	0%	100%
事後②	人数(人)	0	5	9	3	0	17
	割合	0%	29%	53%	18%	0%	100%



※事前または事後で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

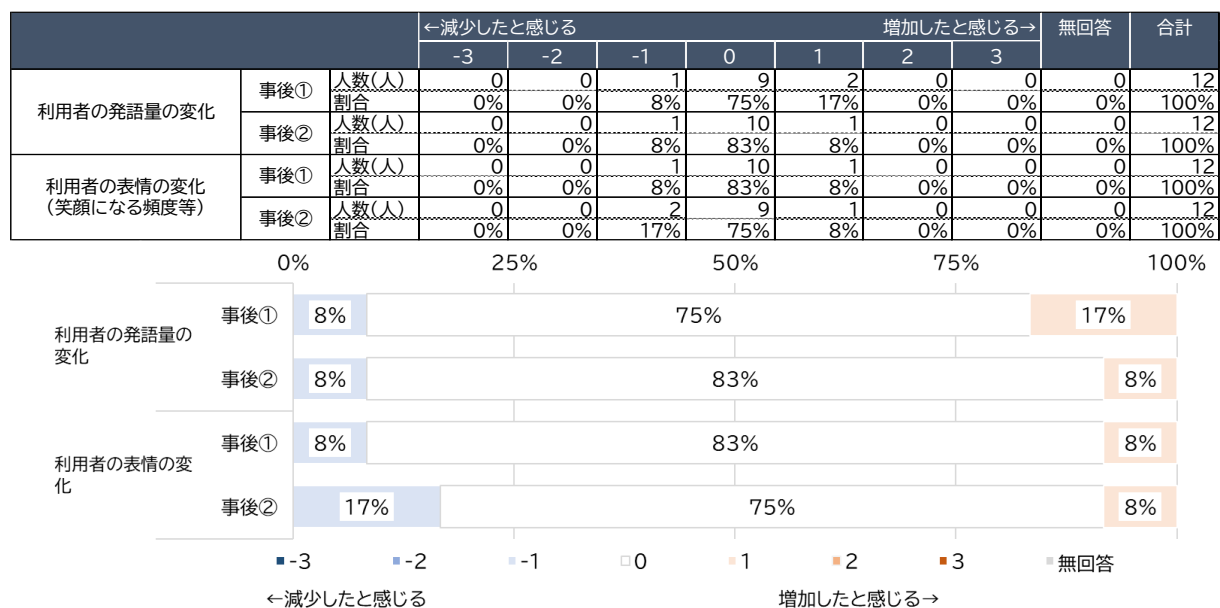
※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近2週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

⑥ 機器導入によるコミュニケーションの変化

都市部では、機器導入によるコミュニケーションの変化は、「1～3(増加した)」と回答する利用者の割合が、「利用者の発語量の変化」では、事後①で 17%、事後②で 8%であった。「利用者の表情の変化」では、事後①及び事後②で 8%であった。

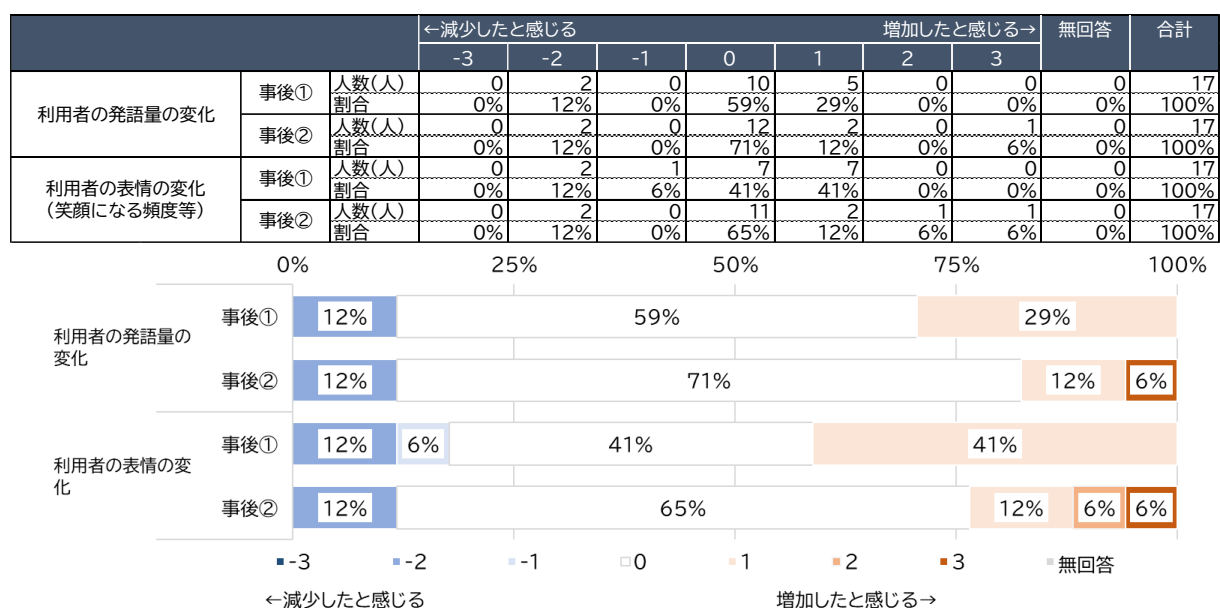
中山間地域では、「1～3(増加した)」と回答する利用者の割合が、「利用者の発語量の変化」では、事後①で 29%、事後②で 18%であった。「利用者の表情の変化」では、事後①で 41%、事後②で 24%であった。

図表 XI-415 利用者調査：機器導入によるコミュニケーションの変化(都市部)



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

図表 XI-416 利用者調査：機器導入によるコミュニケーションの変化(中山間地域)

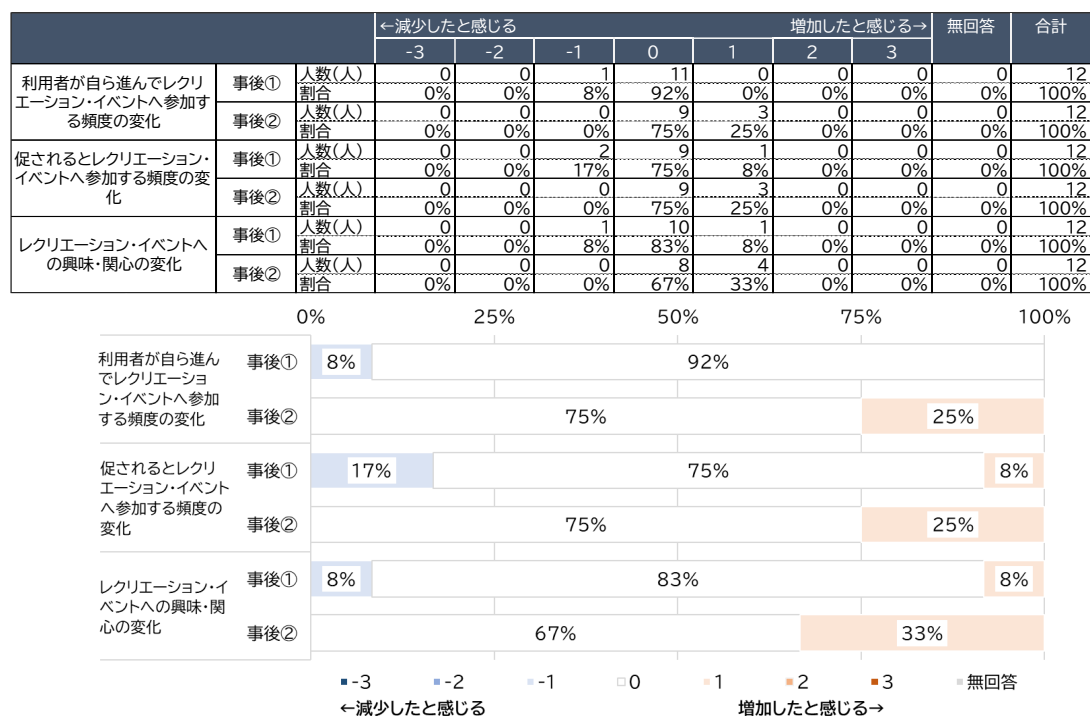


※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

⑦ 機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化は、いずれも「0(変化なし)」と回答する利用者が最も多かった。

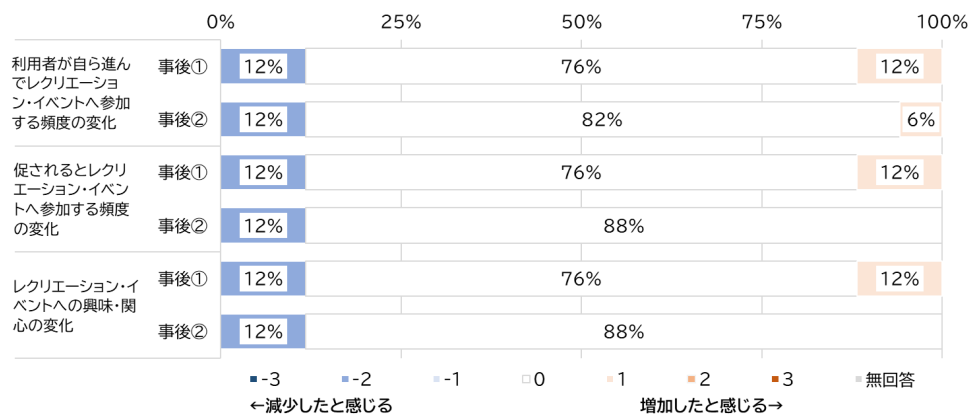
図表 XI-417 利用者調査:機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化(都市部)



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

図表 XI-418 利用者調査:機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化(中山間地域)

			←減少したと感じる→						増加したと感じる→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	2	0	13	2	0	0	0	0	17
		割合	0%	12%	0%	76%	12%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	2	0	14	1	0	0	0	0	17
		割合	0%	12%	0%	82%	6%	0%	0%	0%	0%	100%
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	2	0	13	2	0	0	0	0	17
		割合	0%	12%	0%	76%	12%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	2	0	15	0	0	0	0	0	17
		割合	0%	12%	0%	88%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	事後①	人数(人)	0	2	0	13	2	0	0	0	0	17
		割合	0%	12%	0%	76%	12%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	2	0	15	0	0	0	0	0	17
		割合	0%	12%	0%	88%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

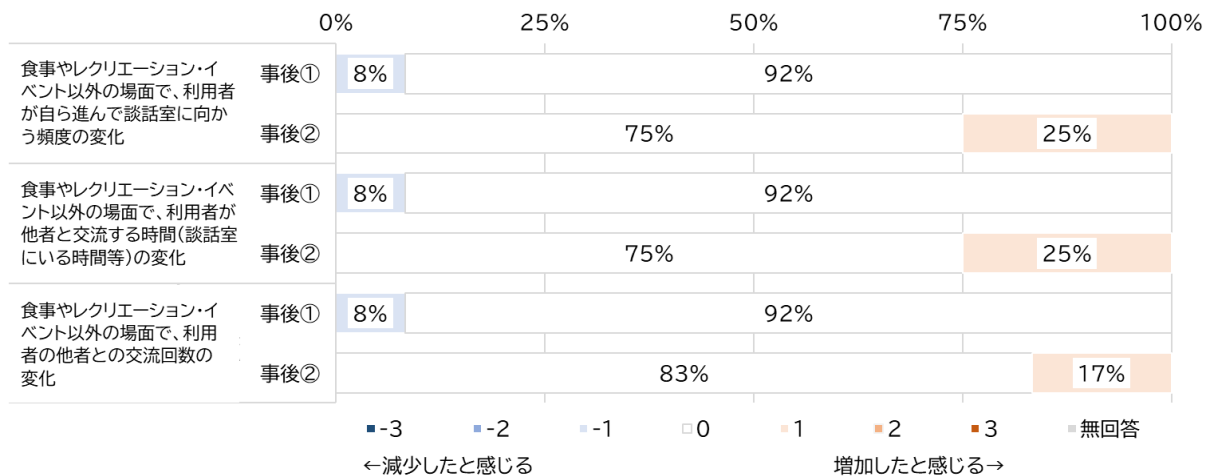


※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

⑧ 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化
機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化は以下の通り。

図表 XI-419 利用者調査：機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化(都市部)

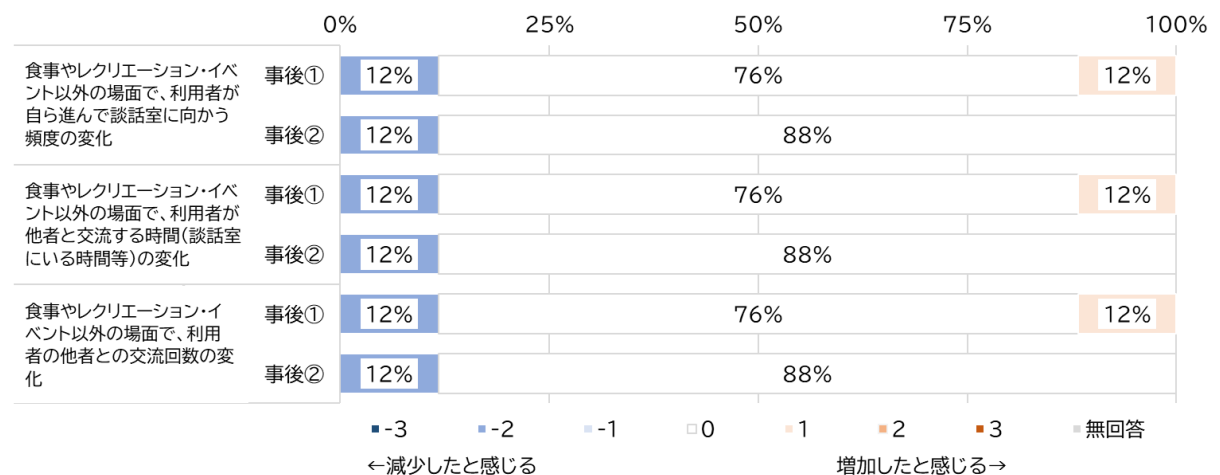
			←減少したと感じる→					増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
食事やレクリエーション・イベント以外の場面、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	1	11	0	0	0	0	0	12
		割合	0%	0%	8%	92%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	9	3	0	0	0	0	12
		割合	0%	0%	0%	75%	25%	0%	0%	0%	0%	100%
食事やレクリエーション・イベント以外の場面、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	事後①	人数(人)	0	0	1	11	0	0	0	0	0	12
		割合	0%	0%	8%	92%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	9	3	0	0	0	0	12
		割合	0%	0%	0%	75%	25%	0%	0%	0%	0%	100%
食事やレクリエーション・イベント以外の場面、利用者の他者との交流回数の変化	事後①	人数(人)	0	0	1	11	0	0	0	0	0	12
		割合	0%	0%	8%	92%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	10	2	0	0	0	0	12
		割合	0%	0%	0%	83%	17%	0%	0%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

図表 XI-420 利用者調査:機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化(中山間地域)

			←減少したと感じる					増加したと感じる→				無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3				
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	事後①	人数(人)	0	2	0	13	2	0	0	0	0	0	17
		割合	0%	12%	0%	76%	12%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	2	0	15	0	0	0	0	0	0	17
		割合	0%	12%	0%	88%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	事後①	人数(人)	0	2	0	13	2	0	0	0	0	0	17
		割合	0%	12%	0%	76%	12%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	2	0	15	0	0	0	0	0	0	17
		割合	0%	12%	0%	88%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化	事後①	人数(人)	0	2	0	13	2	0	0	0	0	0	17
		割合	0%	12%	0%	76%	12%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	2	0	15	0	0	0	0	0	0	17
		割合	0%	12%	0%	88%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%



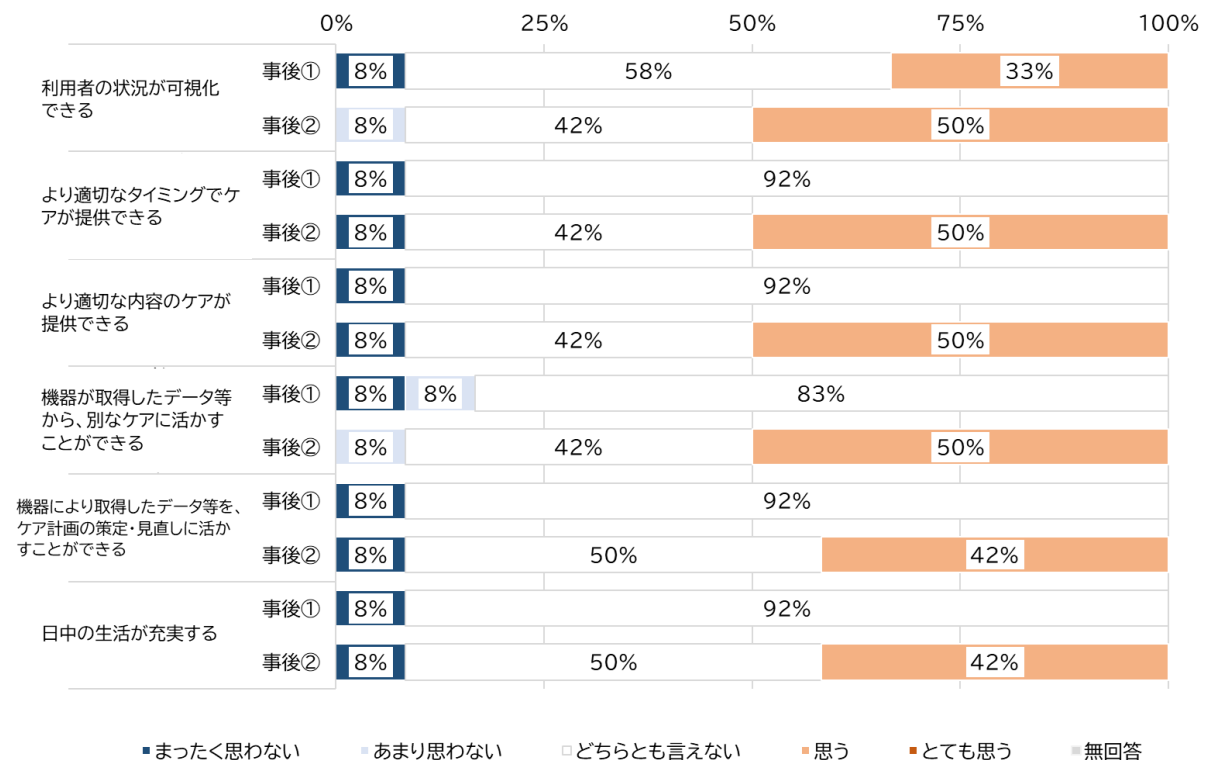
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

⑨ 機器導入によるケア内容の変更

機器導入によるケア内容の変更の変化は以下の通り。

図表 XI-421 利用者調査:機器導入によるケア内容の変更(都市部)

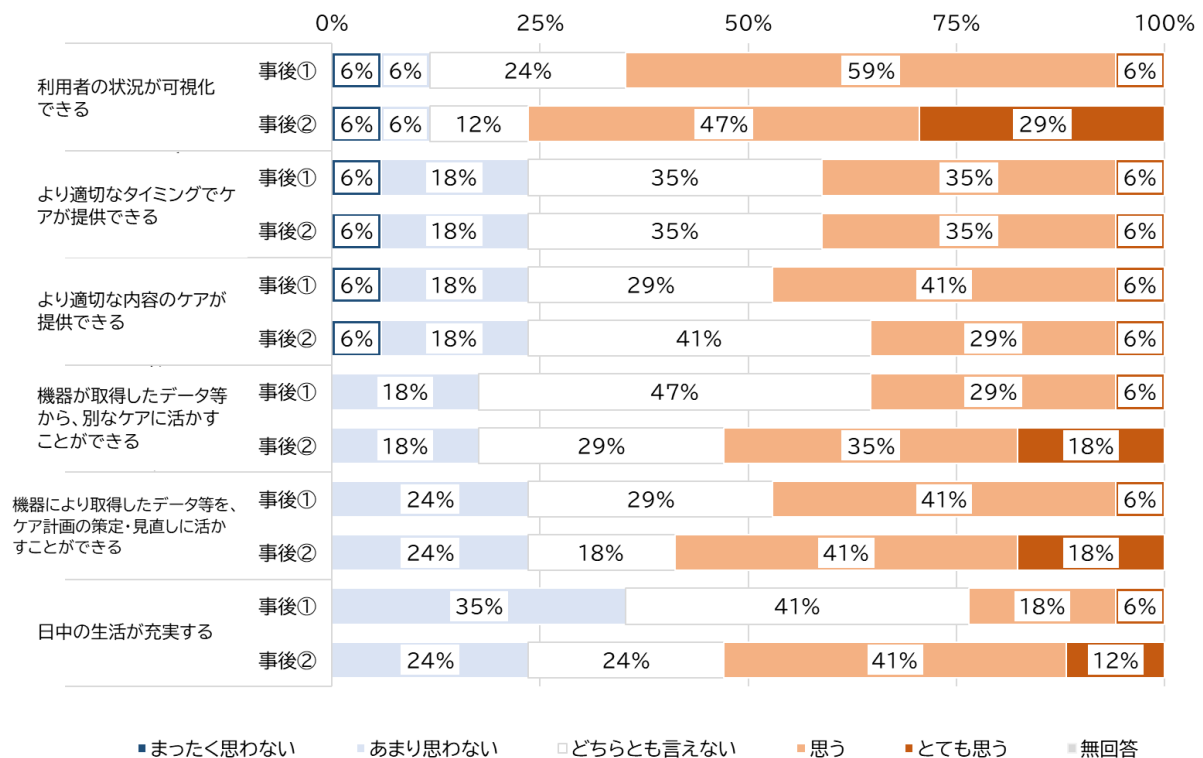
			まったく 思わない	あまり 思わない	どちらと も言えな い	思う	とても 思う	無回答	合計
利用者の状況が可視化で きる	事後①	人数(人)	1	0	7	4	0	0	12
		割合	8%	0%	58%	33%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	5	6	0	0	12
		割合	0%	8%	42%	50%	0%	0%	100%
より適切なタイミングでケア が提供できる	事後①	人数(人)	1	0	11	0	0	0	12
		割合	8%	0%	92%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	5	6	0	0	12
		割合	8%	0%	42%	50%	0%	0%	100%
より適切な内容のケアが提 供できる	事後①	人数(人)	1	0	11	0	0	0	12
		割合	8%	0%	92%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	5	6	0	0	12
		割合	8%	0%	42%	50%	0%	0%	100%
機器が取得したデータ等 から、別なケアに活かすこと ができる	事後①	人数(人)	1	1	10	0	0	0	12
		割合	8%	8%	83%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	5	6	0	0	12
		割合	0%	8%	42%	50%	0%	0%	100%
機器により取得したデータ等 を、ケア計画の策定・見直し に活かすことができる	事後①	人数(人)	1	0	11	0	0	0	12
		割合	8%	0%	92%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	6	5	0	0	12
		割合	8%	0%	50%	42%	0%	0%	100%
日中の生活が充実する	事後①	人数(人)	1	0	11	0	0	0	12
		割合	8%	0%	92%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	6	5	0	0	12
		割合	8%	0%	50%	42%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、1(全く思わない)～5(とても思う)の 5 段階で評価した(回答は職員が実施)。

図表 XI-422 利用者調査：機器導入によるケア内容の変更(中山間地域)

			まったく 思わない	あまり 思わない	どちらと も言えな い	思う	とても 思う	無回答	合計
利用者の状況が可視化できる	事後①	人数(人)	1	1	4	10	1	0	17
		割合	6%	6%	24%	59%	6%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	1	2	8	5	0	17
		割合	6%	6%	12%	47%	29%	0%	100%
より適切なタイミングでケアが提供できる	事後①	人数(人)	1	3	6	6	1	0	17
		割合	6%	18%	35%	35%	6%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	3	6	6	1	0	17
		割合	6%	18%	35%	35%	6%	0%	100%
より適切な内容のケアが提供できる	事後①	人数(人)	1	3	5	7	1	0	17
		割合	6%	18%	29%	41%	6%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	3	7	5	1	0	17
		割合	6%	18%	41%	29%	6%	0%	100%
機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	事後①	人数(人)	0	3	8	5	1	0	17
		割合	0%	18%	47%	29%	6%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	3	5	6	3	0	17
		割合	0%	18%	29%	35%	18%	0%	100%
機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	事後①	人数(人)	0	4	5	7	1	0	17
		割合	0%	24%	29%	41%	6%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	4	3	7	3	0	17
		割合	0%	24%	18%	41%	18%	0%	100%
日中の生活が充実する	事後①	人数(人)	0	6	7	3	1	0	17
		割合	0%	35%	41%	18%	6%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	4	4	7	2	0	17
		割合	0%	24%	24%	41%	12%	0%	100%



※質問項目に対し、1(全く思わない)～5(とても思う)の 5 段階で評価した(回答は職員が実施)。

カ. 独自調査

各実証期間中における利用者の睡眠状況について、見守り支援機器で自動記録される在床・睡眠時間データの集計を行った。

データは各実証期間の該当月について、それぞれ 24 時間×1 か月分記録した。

以下の表は、利用者の夜間の睡眠効率(1 か月平均)と 1 日の夜間離床回数(1 か月平均)について集計した結果である。なお、睡眠効率は、(夜間の睡眠時間)/(夜間の在床時間)として算出した。

本調査では、事前調査実施後、睡眠記録を参考としたケア内容の見直しを行った利用者とそれ以外の利用者に分けて集計を行った。

睡眠記録を参考にケア内容の変更を行った利用者について、睡眠効率は事前から事後②で 2.8% 増加し、離床回数は事前から事後②で 1.7 回削減された。

図表 XI-423 夜間の睡眠効率と離床回数

	夜間睡眠効率			夜間離床回数 (回)		
	事前	事後①	事後②	事前	事後①	事後②
ケア変更あり(n=3)	79.4%	83.3%	82.2%	5.4	4.7	3.7
ケア変更なし(n=26)	76.6%	76.7%	75.7%	3.2	3.4	3.5

キ. ヒアリング調査結果

実証完了後、実証施設へのヒアリング調査を実施した。調査結果の概要は以下の通り。

図表 XI-424 生産性向上の取組状況

カテゴリ	主な意見
利用者について	・ タブレット端末を用いた電話は、タブレット端末で電話ができることをご利用者が理解しにくく、呼び出し音に驚かれることがあった。 ・ タブレット端末を用いた通話により、積極的なコミュニケーションが実現できた利用者もいた。 ・ 認知症がある方が人感センサーを別の場所に移動してしまうことやコンセン トを抜いてしまうがあった。 ・ リーフレットを用いた利用者説明を行うことで、スムーズに利用者の同意を 得られた。
職員について	・ どのような利用者に合っている機器なのかを考えるのに時間がかかった。 ・ タブレット端末の接続状況が悪く、スムーズな会話ができなかった。 ・ 職員の高齢化もあり、テクノロジーの活用方法の習得に時間がかかった。 ・ 自治体の方針により、テレビ電話でのモニタリングは行わなかった。

図表 XI-425 委員会や取組に向けた会議の開催

カテゴリ	主な意見
開催頻度 (実証フィールド別)	・ 定期的な開催はなし。 ・ 月次で開催。 ・ 実証開始前に 1 回開催。
参加職種・役 職 (実 証 フィールド別)	・ 介護支援専門員のみ。 ・ 介護支援専門員と管理者が 1 対 1 で実施。 ・ その他、職員間の連絡ノートで情報共有をした。
検討内容 (実証フィール ド別)	・ 介護支援専門員同士で、機器の効果や違和感についてその都度話をしてい た。 ・ 機器の導入理由の説明をした。

図表 XI-426 実証目的に対する達成状況

カテゴリ	主な意見
利用者の観点	・ 睡眠状況の可視化により、本人・ご家族の安心につながった。 ・ 利用者とのコミュニケーション時間が確保できるようになった。
職員の観点	・ 把握できる情報が増えることで、ケアプランの作成がしやすくなった。 ・ タブレット端末の通話により顔が見えるようになった効果なのか、利用者からの電話の回数が減少し、業務効率が上がった。 ・ 利用者がよく睡眠をとれていることを確認でき、職員の安心感につながった。 ・ ケアプランの作成やサービス担当者会議にかかる時間が削減できた。
施設の観点	・ 人感センサーの情報がデータ化されたら分析・活用できるかもしれない。 ・ 機器の理解が深まることでどのような利用者にマッチしているかが分かるようになり、より良い効果が望める。

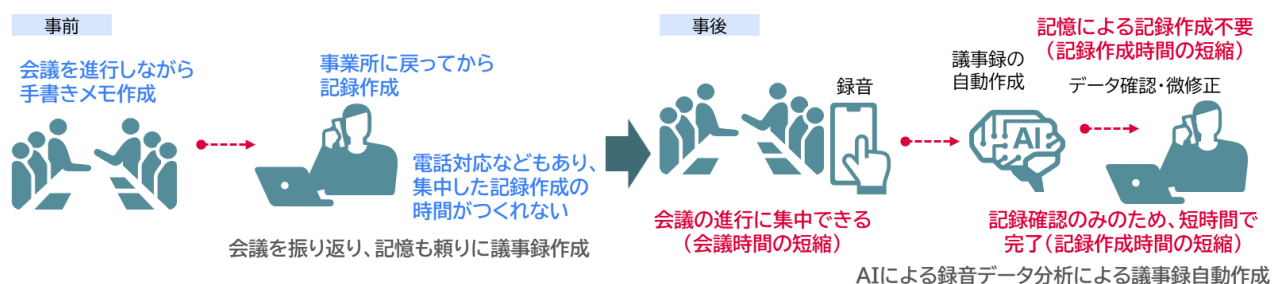
(13) 社会福祉法人青祥会「議事録作成 AI ツールの活用による居宅介護支援業務の生産性向上」

ア. 実証の概要

① 実証目的

AI 議事録作成支援ツール(音声データから文字起こしを行い、指定のフォーマットに則った会議議事録や記録の作成を支援する)を導入し、会議時間・議事録作成時間の短縮を図る。職員がケアマネジメント業務に注力することによる利用者への直接業務時間の増加と、間接業務時間短縮による職員 1 人あたりの担当件数増加、また職員の会議運営負担軽減による心理的負担の軽減を目的とした。

図表 XI-427 実証イメージ



② 実証フィールドの概要

本実証では以下の実証フィールドにて効果測定を実施した。

図表 XI-428 実証フィールドの概要

実証フィールド	法人名	施設名	サービス種別	導入機器
1	社会福祉法人青祥会	アンタレスケアプランセンター	居宅介護支援	・AI 議事録作成支援ツール(noman)
2	社会福祉法人青祥会	秦荘ケアプランセンター	居宅介護支援	

③ 実証期間

調査期間は以下の通りである。

図表 XI-429 調査期間

調査	時期	補足
事前調査	令和 7 年 9 月 1 日～30日(30日間)	左記のうち、実証フィールド別に各1か月間を調査期間として実施した。
事後調査①	令和 7 年10月 6 日～11月 5 日(31日間)	
事後調査②	令和 7 年11月21日～12月20日	

調査	時期	補足
	(30日間)	
ヒアリング調査	令和8年2月3日	

④ 各調査の概要

本調査では、実証の事前と事後(2回)で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」を実施し、独自調査として「AI 議事録作成支援ツール利活用状況調査」を実施した。また、実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。以下に各調査の概要を記載する。

図表 XI-430 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
タイムスタディ調査 (媒体:Excel)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	・ 回答方法:自記式(1 分刻みで自身が実施した作業項目を記入) ・ 調査スケジュール:事前(取組前)1 回、事後(取組後)2 回の計3回、それぞれ1か月間実施。 ・ 調査実施の時間帯:調査対象期間中の全勤務時間
職員向けアンケート調査 (在宅向け)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	・ 回答方法:自記式(WEB) ・ 調査スケジュール:事前と事後2回、実証期間中それぞれについて、1名につき1回のみ回答
AI 議事録作成支援ツール 利活用状況調査(独自調査)	調査期間中に実証フィールドで勤務した職員	・ 回答方法:自記式 ・ 議事録・会議録の作成にあたり、AI 議事録作成支援ツールを使用した回数と時間を調査。 ・ 調査スケジュール:事前1回、事後 2 回の計3回、それぞれ1か月間実施。
ヒアリング調査 (全テーマ共通)	施設管理者、部門管理者 介護職員	・ 調査方法:WEB 会議による聞き取り ・ 調査スケジュール:実証終了後に1回実施

⑤ タイムスタディ調査項目

本調査のタイムスタディ調査項目は以下のとおり。なお、事前と事後調査の調査項目は共通とした。

図表 XI-431 タイムスタディ調査項目

分類	NO	項目
利用者への直接業務	A1	担当利用者宅への訪問
	A2	担当以外の利用者宅への訪問(同行訪問含む)
	A3	主治医・医療機関等への訪問:入院時情報連携
	A4	主治医・医療機関等への訪問:退院カンファレンス
	A5	主治医・医療機関等への訪問(薬局含む):その他
	A6	担当利用者に関する要件での地域包括支援センター・関係機関等への訪問(市役所等含む)
	A7	利用者・家族の来所対応
	A8	利用者に関する要件での連絡業務(電話・FAX・E-mail・SNS 含む)
	A9	サービス担当者会議
	A10	居宅サービス事業者等への専門的な意見の照会
	A11	認定調査立ち合い
	A12	行政手続きの同行
	A13	更新や区分変更などの代行申請
	A14	利用者に関する突発的な事態への対応(担当不問)
	A15	担当利用者に関するケアプランの作成(第1表～第7表)
	A16	その他、担当利用者に関する業務
間接業務	B1	報酬請求に関する業務
	B2	ケアプラン第1表～第7表までの送付業務(郵送・FAX)
	B3	ケアプラン第1表～第7表までの送付業務(関係事業所直接配達)
	B4	ケアプラン第1表～第7表までの送付業務(利用者・家族直接配達)
	B5	関係機関との連携・会議等(自立支援会議等への参加とその準備を含む)
	B6	事業所内でのカンファレンス・研修・委員会等
	B7	各種会議開催日程調整連絡と会議準備
	B8	議事録・会議録等作成(サービス担当者会議)
	B9	議事録・会議録等作成(退院退所カンファレンス記録)
	B10	議事録・会議録等作成(モニタリング訪問記録)

分類	NO	項目
	B11	議事録・会議録等作成(主治医面談記録)
	B12	議事録・会議録等作成(入院時情報の記録)
	B13	議事録・会議録等作成(初回アセスメント記録)
	B14	議事録・会議録等作成(リハビリテーションマネジメント会議の記録)
	B15	議事録・会議録等作成(事業所内カンファレンス・内部研修・委員会等記録)
	B16	ケアプラン作成以外の記録等入力業務
	B17	事業所内介護支援専門員への支援・相談対応・人材育成
	B18	外部研修への参加
	B19	研修報告書作成
その他	B20	移動時間
	B21	ケアマネジメントに関係しないその他業務
	B22	休憩

イ. 職員概要

① 職員概要

本調査において職員向けアンケート調査に回答があった職員は8名であった。

図表 XI-432 職員概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	1	7	0	8
	割合	13%	88%	0%	100%

図表 XI-433 職員概要:年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	0	3	4	1	0	0	8
	割合	0%	0%	0%	38%	50%	13%	0%	0%	100%

図表 XI-434 職員概要:職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓練 指導員を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	1	0	0	0	0	0	7	0	8
	割合	13%	0%	0%	0%	0%	0%	88%	0%	100%

図表 XI-435 職員概要:役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	3	4	1	0	8
	割合	0%	38%	50%	13%	0%	100%

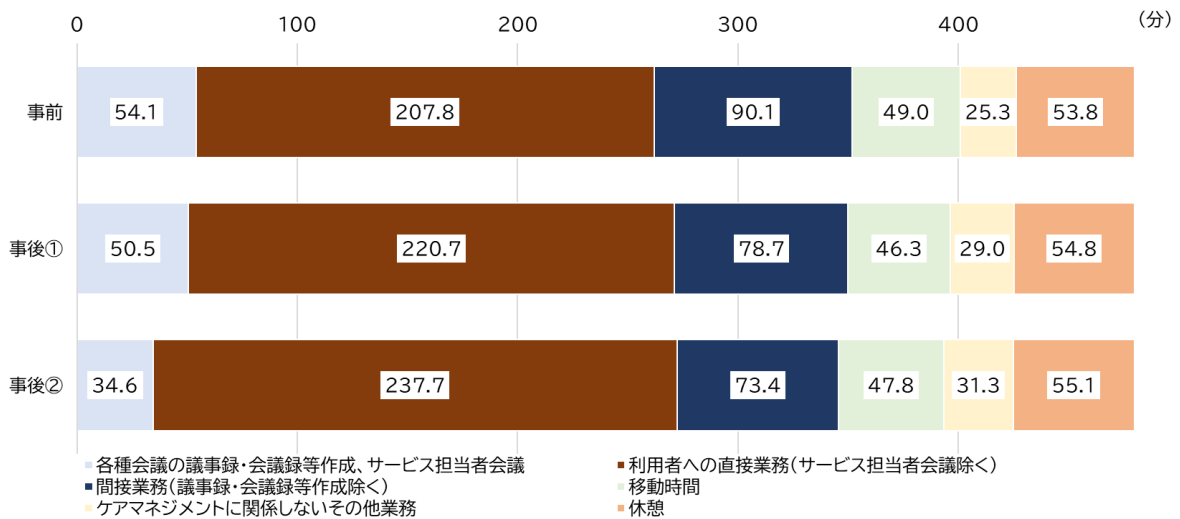
ウ. タイムスタディ調査結果

「各種会議の議事録・会議録等作成、サービス担当者会議」の時間は事前と比較し、事後①では 3.6 分減少し、事後②では 19.5 分減少した。「利用者への直接業務(サービス担当者会議除く)」の時間は事前と比較し、事後①で 12.9 分増加し、事後②で 29.9 分増加した。

図表 XI-436 タイムスタディ調査の結果(職員1人1日(480 分)あたり)

		利用者への直接業務															間接業務															移動時間	ケアマネジメントに係属しないその他業務	休憩	合計（分）
	利用者宅への訪問	主治医・医療機関・地域包括支援センター・関係機関等への訪問	利用者・家族の来所対応	利用者に関する要件での連絡業務	サービス担当者会議	居宅サービス事業者等への専門的な意見の照会	認定調査立ち合い	行政手続きの同行	更新や区分変更などの代行申請	利用者に関する突発的な事態への対応	担当利用者に關するケアプランの作成	その他、担当利用者に関する業務	報酬請求に関する業務	ケアプラン第1表（第7表までの送付業務）	関係機関との連携・会議等へ自立支援会議等への参加と準備を含む）	事業所内でのカンファレンス・研修・委員会等	各種会議開催日程調整連絡と会議準備	議事録・会議録等作成	議事録・会議録等作成以外の人材育成	ケアプラン作成以外の記録等入力業務	事業所内ケアマネジメントへの支援・相談対応・人	外部研修への参加	研修報告書作成												
事前	時間(分)	60.3	11.2	1.7	46.6	7.5	0.6	3.8	0.3	0.8	3.7	48.5	30.4	19.9	5.6	1.3	9.7	3.0	46.6	33.4	0.5	13.8	2.7	49.0	25.3	53.8	480								
	割合	13%	2%	0%	10%	2%	0%	1%	0%	0%	1%	10%	6%	4%	1%	0%	2%	1%	10%	7%	0%	3%	1%	10%	5%	11%	100%								
事後①	時間(分)	57.6	10.0	1.5	47.5	9.6	0.8	2.9	0.1	0.8	10.2	51.6	37.8	20.7	6.2	2.8	9.1	4.5	41.0	29.8	0.9	4.4	0.3	46.3	29.0	54.8	480								
	割合	12%	2%	0%	10%	2%	0%	1%	0%	2%	2%	11%	8%	4%	1%	1%	2%	1%	9%	6%	0%	1%	0%	10%	6%	11%	100%								
事後②	時間(分)	65.0	10.2	0.8	53.9	6.9	0.1	0.8	0.1	0.2	6.0	34.6	66.1	22.5	4.6	0.6	8.4	5.3	27.6	23.3	0.8	6.0	1.9	47.8	31.3	55.1	480								
	割合	14%	2%	0%	11%	1%	0%	0%	0%	0%	1%	7%	14%	5%	1%	0%	2%	1%	6%	5%	0%	1%	0%	10%	7%	11%	100%								

※一部項目について合算



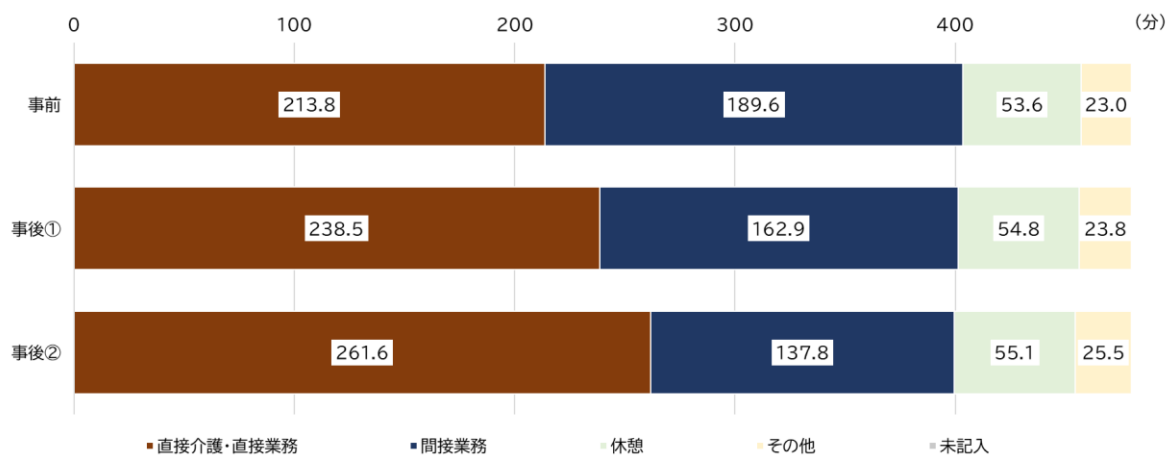
事前 n=8、事後①n=8、事後②n=8

※30 日間(31 日間)の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

図表 XI-437 (参考:共通区分)タイムスタディ調査の結果(職員1人1日(480 分)あたり)

		直接介護・直接業務	間接業務	休憩	その他	未記入	合計(分)
事前	時間(分)	213.8	189.6	53.6	23.0	0.0	480
	割合	45%	40%	11%	5%	0%	100%
事後①	時間(分)	238.5	162.9	54.8	23.8	0.0	480
	割合	50%	34%	11%	5%	0%	100%
事後②	時間(分)	261.6	137.8	55.1	25.5	0.0	480
	割合	55%	29%	11%	5%	0%	100%



事前 n=8、事後①n=8、事後②n=8

※30 日間(31 日間)の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

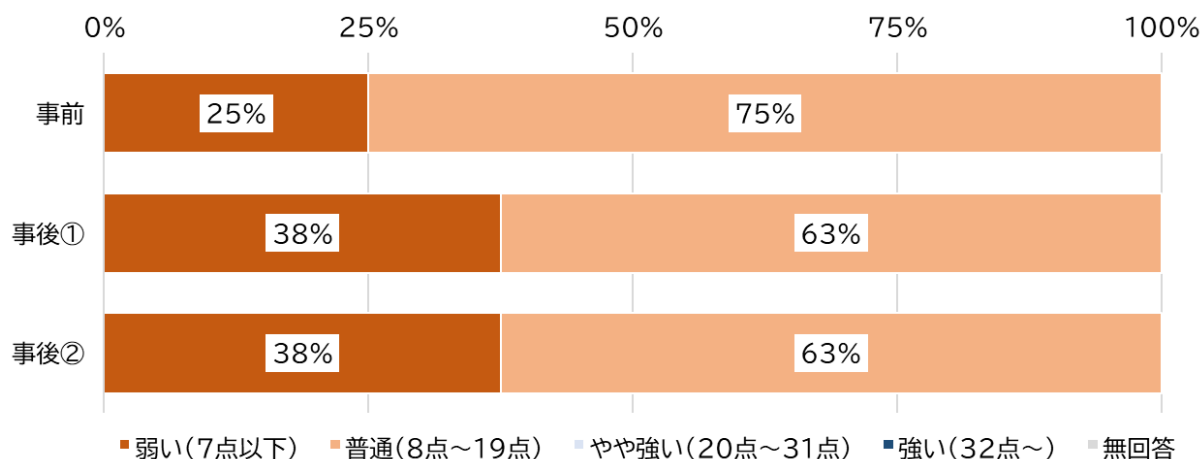
工. 職員向けアンケート調査結果

① 心理的負担評価

職員の心理的ストレス反応測定尺度合計点について事前と事後 2 回の結果を比較すると、「弱い(7点以下)」を回答した職員の割合が、事前では 25%、事後①及び事後②では 38%となった。

図表 XI-438 職員調査:心理的負担評価

		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
事前	人数(人)	2	6	0	0	0	8
	割合	25%	75%	0%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	3	5	0	0	0	8
	割合	38%	63%	0%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	3	5	0	0	0	8
	割合	38%	63%	0%	0%	0%	100%



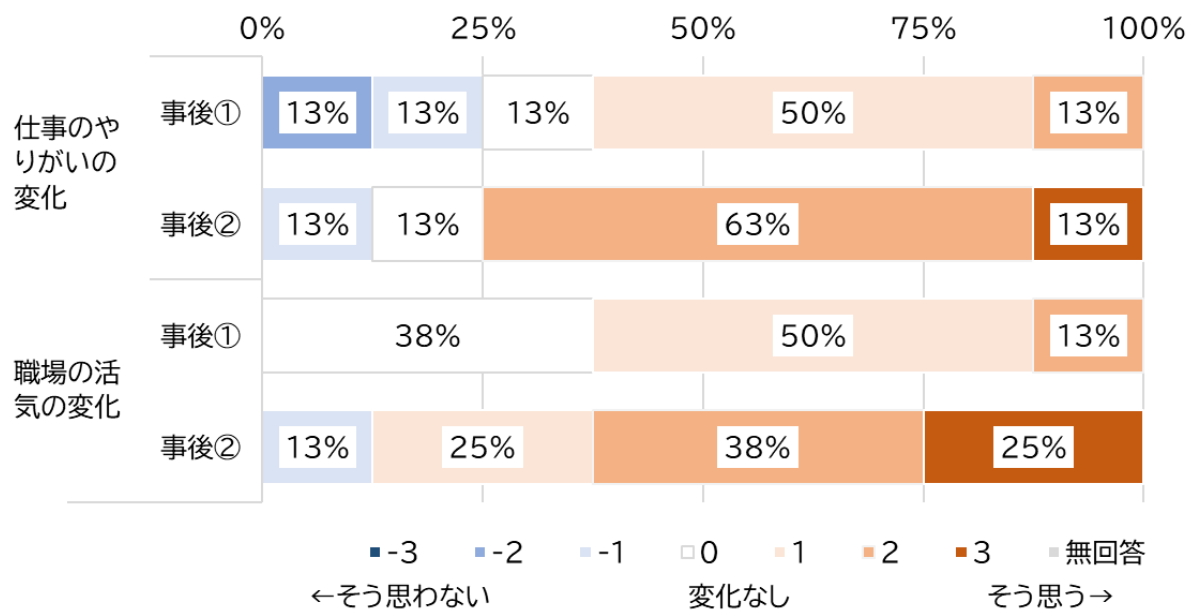
※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各 18 項目のうち 1 項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が 0、1、2、3 以外の場合は無回答処理をした。

② 機器導入によるモチベーションの変化

機器導入によるモチベーションの変化は以下の通り。

図表 XI-439 職員調査:機器導入によるモチベーションの変化

			←減少したと感じる			増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2		
仕事のやりがい の変化	事後①	人数(人)	0	1	1	1	4	1	0	8
		割合	0%	13%	13%	13%	50%	13%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	1	1	0	5	1	8
		割合	0%	0%	13%	13%	0%	63%	13%	100%
職場の活気の変 化	事後①	人数(人)	0	0	0	3	4	1	0	8
		割合	0%	0%	0%	38%	50%	13%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	1	0	2	3	2	8
		割合	0%	0%	13%	0%	25%	38%	25%	100%



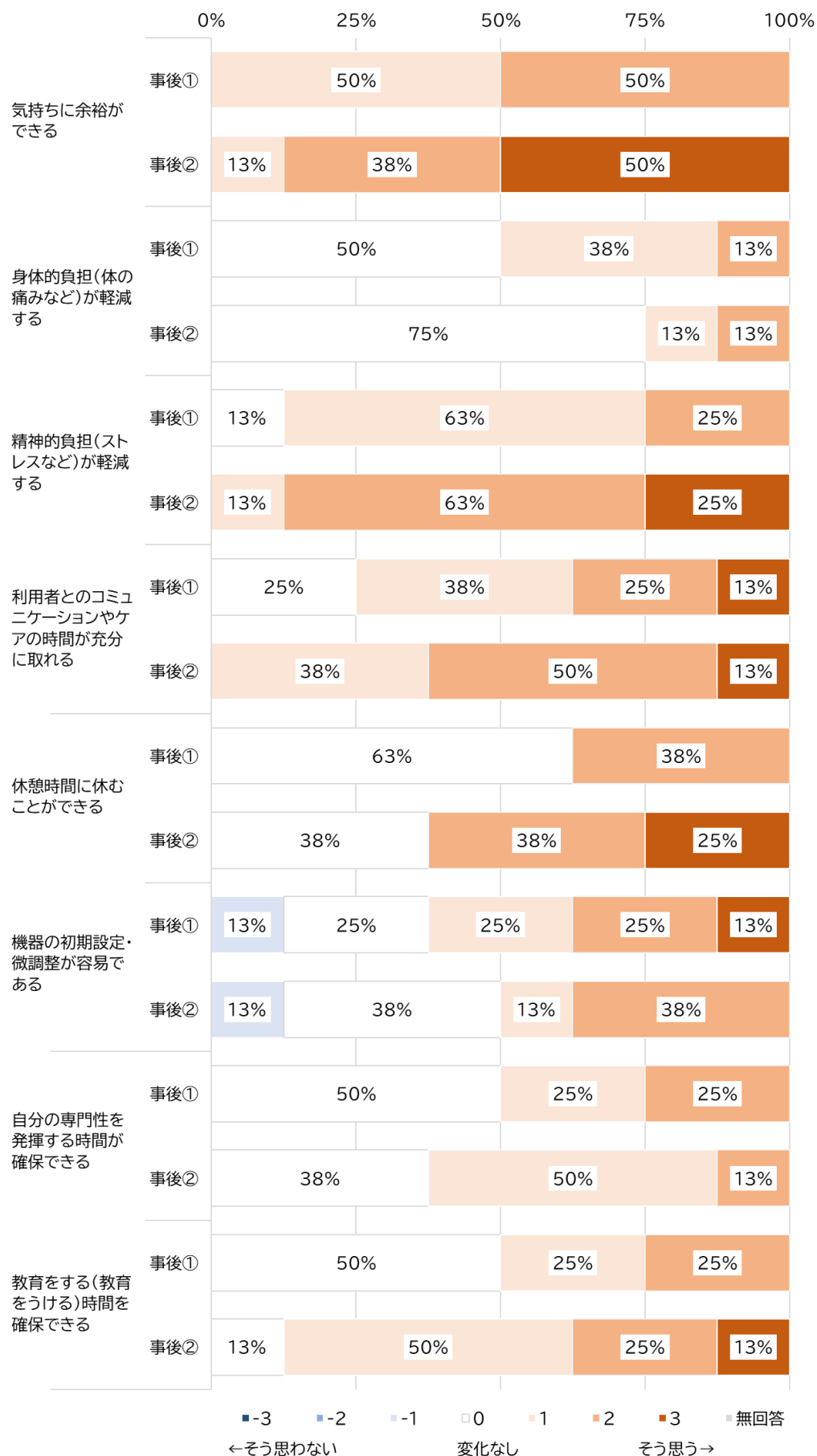
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

③ 機器導入による職員や施設業務の変化

機器導入による職員や施設業務の変化は以下の通り。

図表 XI-440 職員調査:機器導入による職員や施設業務の変化

			←そう思わない		変化なし				→そう思う		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人)	0	0	0	0	4	4	0	0	0	8
		割合	0%	0%	0%	0%	50%	50%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	0	1	3	4	0	0	8
		割合	0%	0%	0%	0%	13%	38%	50%	0%	0%	100%
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人)	0	0	0	4	3	1	0	0	0	8
		割合	0%	0%	0%	50%	38%	13%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	6	1	1	0	0	0	8
		割合	0%	0%	0%	75%	13%	13%	0%	0%	0%	100%
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人)	0	0	0	1	5	2	0	0	0	8
		割合	0%	0%	0%	13%	63%	25%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	0	1	5	2	0	0	8
		割合	0%	0%	0%	0%	13%	63%	25%	0%	0%	100%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	事後①	人数(人)	0	0	0	2	3	2	1	0	0	8
		割合	0%	0%	0%	25%	38%	25%	13%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	0	3	4	1	0	0	8
		割合	0%	0%	0%	0%	38%	50%	13%	0%	0%	100%
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人)	0	0	0	5	0	3	0	0	0	8
		割合	0%	0%	0%	63%	0%	38%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	3	0	3	2	0	0	8
		割合	0%	0%	0%	38%	0%	38%	25%	0%	0%	100%
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人)	0	0	1	2	2	2	1	0	0	8
		割合	0%	0%	13%	25%	25%	25%	13%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	1	3	1	3	0	0	0	8
		割合	0%	0%	13%	38%	13%	38%	0%	0%	0%	100%
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人)	0	0	0	4	2	2	0	0	0	8
		割合	0%	0%	0%	50%	25%	25%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	3	4	1	0	0	0	8
		割合	0%	0%	0%	38%	50%	13%	0%	0%	0%	100%
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後①	人数(人)	0	0	0	4	2	2	0	0	0	8
		割合	0%	0%	0%	50%	25%	25%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	1	4	2	1	0	0	8
		割合	0%	0%	0%	13%	50%	25%	13%	0%	0%	100%

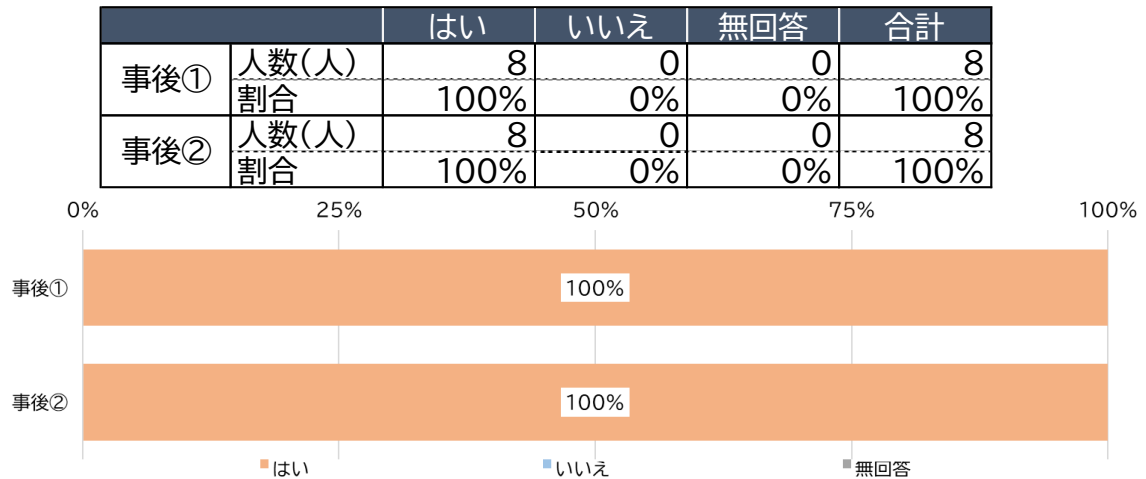


※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。

④ 導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向

導入機器の継続利用意向については「はい」の回答が事後①及び事後②で 100%であった。

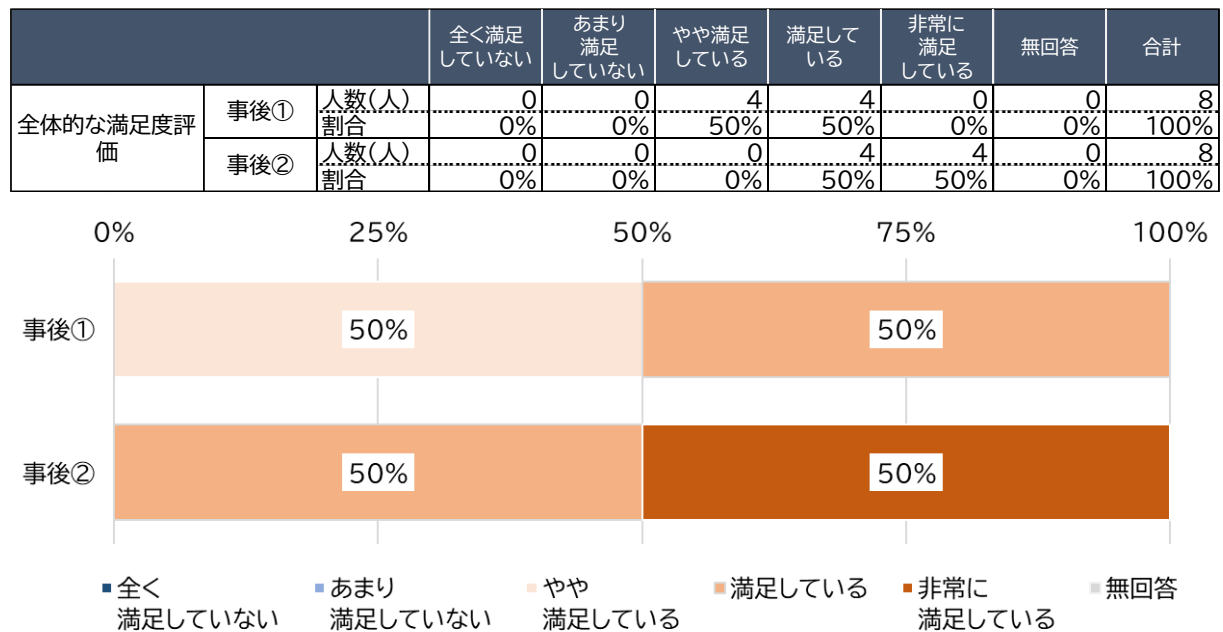
図表 XI-441 職員調査:導入機器の満足度評価 機器の継続利用意向



⑤ 満足度評価

調査で導入した機器を用いたケアに対する満足度については、「満足している」または「非常に満足している」と回答した職員の割合が、事後①では 50%、事後②では 100%であった。

図表 XI-442 職員調査:満足度評価



※質問項目に対し、1(全く満足していない)～5(非常に満足している)の 5 段階で評価した。

オ. 独自調査

事後調査期間中における、AI 議事録作成支援ツールの利活用回数と議事録作成にかかった時間について集計を行った。以下の表は、AI 議事録作成支援ツールを利活用できた場合と利活用できなかった場合の、議事録作成に要した会議 1 件当たりの平均時間を示している。

AI 議事録作成支援ツールを利活用したことで、議事録作成に要した会議 1 件当たりの平均時間は、事後②では AI 議事録作成支援ツールを利活用できなかった場合の 22.7 分から 12.2 分に減少し、AI 議事録作成支援ツールの利活用による議事録作成時間の短縮が確認できた。

図表 XI-443 独自調査結果:AI 議事録作成支援ツールの利活用回数と議事録作成にかかった時間(事後②時点)

		回数	会議後の 別途対応 (※) の合計時間 (分)	議事録作成に かかった合計 時間 (分)	議事録作成 1件に要した 平均時間 (分)
AI議事録作成 支援ツールを 利活用できた会議	録音が可能な会議	106	—	1957	12.2
	録音が不可な会議	92	455		
AI議事録作成支援ツールを 利活用できなかった会議		19	—	432	22.7

※録音が不可の会議では、会議後に職員が要点を録音し、その録音をもとに AI 議事録作成支援ツールが議事録を作成した。

※録音が不可の会議で、会議後の別途対応ができない場合は AI 議事録作成支援ツールを利活用せずに議事録を作成した。

カ. ヒアリング調査結果

実証完了後、実証施設へのヒアリング調査を実施した。調査結果の概要は以下の通り。

図表 XI-444 機器導入後の課題・対応

カテゴリ	主な意見
職員について	・ スマートフォンの導入に不安を感じる職員も多かったが、職員間で AI 議事録作成支援ツールの使い方の工夫等を情報交換することで、最終的には全職員が AI 議事録作成支援ツールを活用できるようになった。 ・ 職員間で AI 議事録作成支援ツールの活用状況に差があったため、事業所内のケースカンファレンスで支援を行った。 ・ 病院・医療機関の録音はハードルが高かったが、事前に録音に関する説明を行い、許可をいただくことで、病院等でも使用できる機会が増えた。
利用者について	・ 録音・文字起こしについて、利用者によっては抵抗感を示される方もいたが、テクノロジー活用の必要性を記載した説明書をもとに説明することで最終的には許可をいただけることが多かった。

図表 XI-445 生産性向上に向けた委員会開催の概要

カテゴリ	主な意見
開催頻度 (実証フィールド別)	・ 週次で情報共有を行った。 ・ 事前調査開始から事後②終了までに、計 5 回開催した。
参加職種・役職（実証フィールド別）	・ 介護支援専門員全員と管理者 ・ 実証対象の介護支援専門員全員と、所属長、部署長
検討内容 (実証フィールド別)	・ タイムスタディ調査について、週次で集計結果を確認した。また、AI 議事録作成支援ツールのメーカーにも参加いただき、全フィールド合同で対象職員への説明会を行った。 ・ 調査の認識合わせやタイムスタディ調査の回答方法の認識合わせを行った。

図表 XI-446 実証目的に対する達成状況と今後の課題

カテゴリ	主な意見
職員の観点	・ 今まで議事録作成で発生していた残業時間がほぼ 0 になった。 ・ 議事録作成の負担がなくなったことで、精神的な負担も軽減された。 ・ 議事録作成の時間が削減されたことで、利用者宅への訪問時にゆっくりとお話を伺うことができるようになった。 ・ 担当件数の増加に対応する余力が出るようになった。
施設の観点	・ 記録を当日中に作成することが容易になったため、情報共有がスムーズになった。また、記録が残ることで引継ぎが容易になり、有給休暇の取得がしやすくなった。

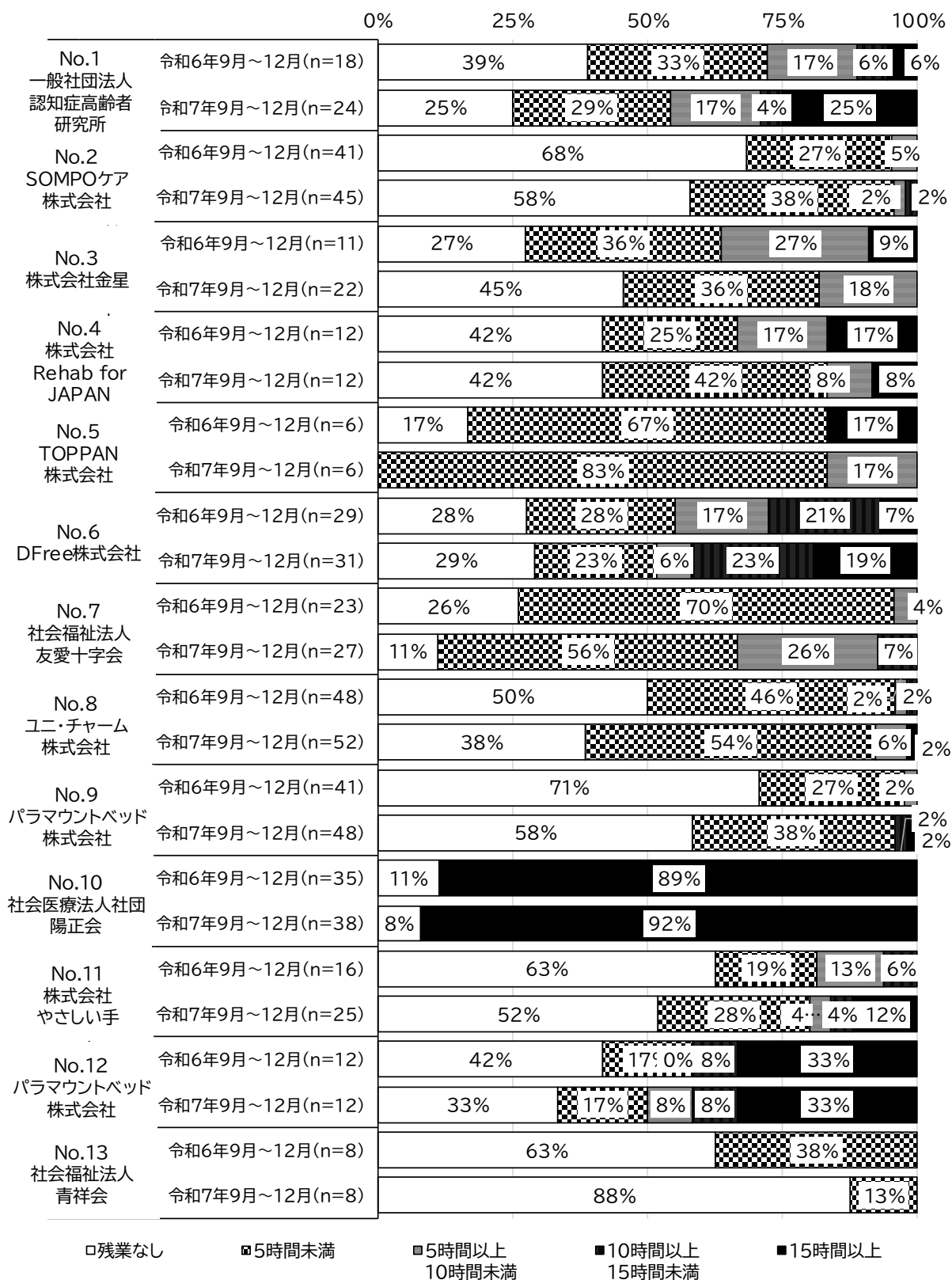
3. 業務時間等調査

(1) 職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間

職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間について、集計結果は以下の通り。

図表 XI-447 職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間

No.	提案者(法人名)	実証フィールド全体	残業なし	5時間未満	5時間以上 10時間未満	10時間以上 15時間未満	15時間以上	平均時間
1	一般社団法人 認知症高齢者研究所	令和6年9月～12月(n=18)	人数(人)	7	6	3	1	1
			割合	39%	33%	17%	6%	6%
		令和7年9月～12月(n=24)	人数(人)	6	7	4	1	6
			割合	25%	29%	17%	4%	25%
2	SOMPOケア株式会社	令和6年9月～12月(n=41)	人数(人)	28	11	2	0	0
			割合	68%	27%	5%	0%	0%
		令和7年9月～12月(n=45)	人数(人)	26	17	1	1	0
			割合	58%	38%	2%	2%	0%
3	株式会社金星	令和6年9月～12月(n=11)	人数(人)	3	4	3	0	1
			割合	27%	36%	27%	0%	9%
		令和7年9月～12月(n=22)	人数(人)	10	8	4	0	0
			割合	45%	36%	18%	0%	0%
4	株式会社 Rehab for JAPAN	令和6年9月～12月(n=12)	人数(人)	5	3	2	0	2
			割合	42%	25%	17%	0%	17%
		令和7年9月～12月(n=12)	人数(人)	5	5	1	0	1
			割合	42%	42%	8%	0%	8%
5	TOPPAN株式会社	令和6年9月～12月(n=6)	人数(人)	1	4	0	0	1
			割合	17%	67%	0%	0%	17%
		令和7年9月～12月(n=6)	人数(人)	0	5	1	0	0
			割合	0%	83%	17%	0%	0%
6	DFree株式会社	令和6年9月～12月(n=29)	人数(人)	8	8	5	6	2
			割合	28%	28%	17%	21%	7%
		令和7年9月～12月(n=31)	人数(人)	9	7	2	7	6
			割合	29%	23%	6%	23%	19%
7	社会福祉法人 友愛十字会	令和6年9月～12月(n=23)	人数(人)	6	16	1	0	0
			割合	26%	70%	4%	0%	0%
		令和7年9月～12月(n=27)	人数(人)	3	15	7	2	0
			割合	11%	56%	26%	7%	0%
8	ユニ・チャーム株式会社	令和6年9月～12月(n=48)	人数(人)	24	22	1	1	0
			割合	50%	46%	2%	2%	0%
		令和7年9月～12月(n=52)	人数(人)	20	28	3	0	1
			割合	38%	54%	6%	0%	2%
9	パラマウントベッド 株式会社	令和6年9月～12月(n=41)	人数(人)	29	11	1	0	0
			割合	71%	27%	2%	0%	0%
		令和7年9月～12月(n=48)	人数(人)	28	18	0	1	1
			割合	58%	38%	0%	2%	2%
10	社会医療法人社団 陽正会	令和6年9月～12月(n=35)	人数(人)	4	0	0	0	31
			割合	11%	0%	0%	0%	89%
		令和7年9月～12月(n=38)	人数(人)	3	0	0	0	35
			割合	8%	0%	0%	0%	92%
11	株式会社やさしい手	令和6年9月～12月(n=16)	人数(人)	10	3	2	1	0
			割合	63%	19%	13%	6%	0%
		令和7年9月～12月(n=25)	人数(人)	13	7	1	1	3
			割合	52%	28%	4%	4%	12%
12	パラマウントベッド 株式会社	令和6年9月～12月(n=12)	人数(人)	5	2	0	1	4
			割合	42%	17%	0%	8%	33%
		令和7年9月～12月(n=12)	人数(人)	4	2	1	1	4
			割合	33%	17%	8%	8%	33%
13	社会福祉法人青祥会	令和6年9月～12月(n=8)	人数(人)	5	3	0	0	0
			割合	63%	38%	0%	0%	0%
		令和7年9月～12月(n=8)	人数(人)	7	1	0	0	0
			割合	88%	13%	0%	0%	0%



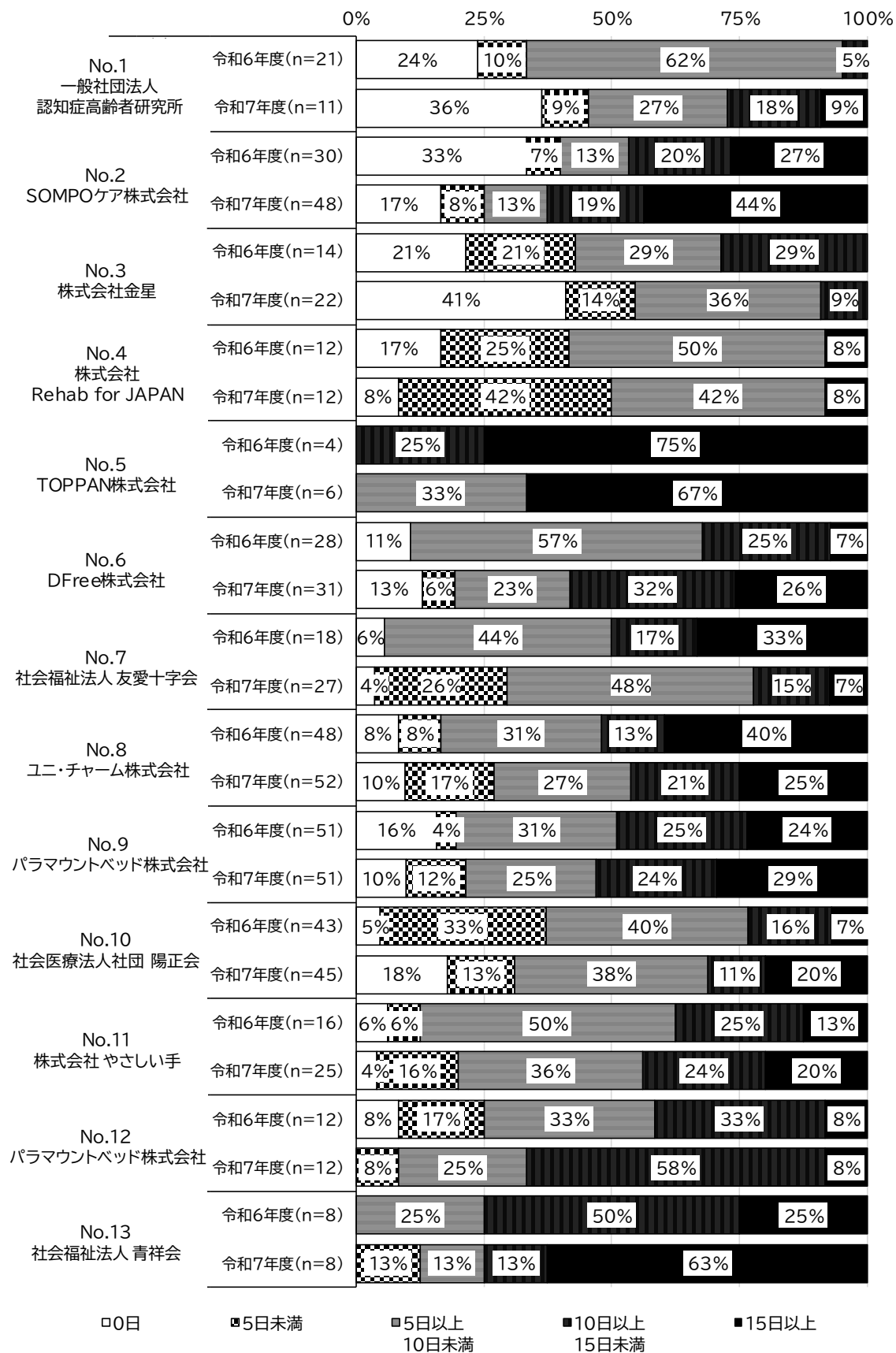
(2) 職員 1 人 12 か月あたりの有給休暇取得日数

職員 1 人 12 か月あたりの有給休暇取得日数について、集計結果は以下の通り。

なお、令和7年度の取得日数は、12 か月に満たない場合、取得日数(a)の実績を把握した月(b)で除し、12 か月換算した推計値(a/b×12)を算出し、以下に取りまとめた。

図表 XI-448 有給休暇の取得状況の変化

採択 No.	提案者(法人名)	実証フィールド全体		0日	5日未満	5日以上 10日未満	10日以上 15日未満	15日以上	平均日数
1	一般社団法人認知症高 齢者研究所	令和6年度(n=21)	人数(人) 割合	5 24%	2 10%	13 62%	1 5%	0 0%	4.76
		令和7年度(n=11)	人数(人) 割合	4 36%	1 9%	3 27%	2 18%	1 9%	6.30
2	SOMPOケア株式会社	令和6年度(n=30)	人数(人) 割合	10 33%	2 7%	4 13%	6 20%	8 27%	8.37
		令和7年度(n=48)	人数(人) 割合	8 17%	4 8%	6 13%	9 19%	21 44%	13.63
3	株式会社金星	令和6年度(n=14)	人数(人) 割合	3 21%	3 21%	4 29%	4 29%	0 0%	5.36
		令和7年度(n=22)	人数(人) 割合	9 41%	3 14%	8 36%	2 9%	0 0%	4.06
4	株式会社 Rehab for JAPAN	令和6年度(n=12)	人数(人) 割合	2 17%	3 25%	6 50%	0 0%	1 8%	4.92
		令和7年度(n=12)	人数(人) 割合	1 8%	5 42%	5 42%	0 0%	1 8%	6.11
5	TOPPAN株式会社	令和6年度(n=4)	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	1 25%	3 75%	17.38
		令和7年度(n=6)	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	2 33%	0 0%	4 67%	21.25
6	DFree株式会社	令和6年度(n=28)	人数(人) 割合	3 11%	0 0%	16 57%	7 25%	2 7%	8.59
		令和7年度(n=31)	人数(人) 割合	4 13%	2 6%	7 23%	10 32%	8 26%	11.51
7	社会福祉法人 友愛十 字会	令和6年度(n=18)	人数(人) 割合	1 6%	0 0%	8 44%	3 17%	6 33%	11.76
		令和7年度(n=27)	人数(人) 割合	1 4%	7 26%	13 48%	4 15%	2 7%	8.45
8	ユニ・チャーム株式会社	令和6年度(n=48)	人数(人) 割合	4 8%	4 8%	15 31%	6 13%	19 40%	11.61
		令和7年度(n=52)	人数(人) 割合	5 10%	9 17%	14 27%	11 21%	13 25%	9.24
9	パラマウントベッド株式 会社	令和6年度(n=51)	人数(人) 割合	8 16%	2 4%	16 31%	13 25%	12 24%	9.60
		令和7年度(n=51)	人数(人) 割合	5 10%	6 12%	13 25%	12 24%	15 29%	11.11
10	社会医療法人社団 陽 正会	令和6年度(n=43)	人数(人) 割合	2 5%	14 33%	17 40%	7 16%	3 7%	7.05
		令和7年度(n=45)	人数(人) 割合	8 18%	6 13%	17 38%	5 11%	9 20%	8.95
11	株式会社やさしい手	令和6年度(n=16)	人数(人) 割合	1 6%	1 6%	8 50%	4 25%	2 13%	7.38
		令和7年度(n=25)	人数(人) 割合	1 4%	4 16%	9 36%	6 24%	5 20%	10.84
12	パラマウントベッド株式 会社	令和6年度(n=12)	人数(人) 割合	1 8%	2 17%	4 33%	4 33%	1 8%	7.63
		令和7年度(n=12)	人数(人) 割合	0 0%	1 8%	3 25%	7 58%	1 8%	10.08
13	社会福祉法人青祥会	令和6年度(n=8)	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	2 25%	4 50%	2 25%	12.19
		令和7年度(n=8)	人数(人) 割合	0 0%	1 13%	1 13%	1 13%	5 63%	15.83

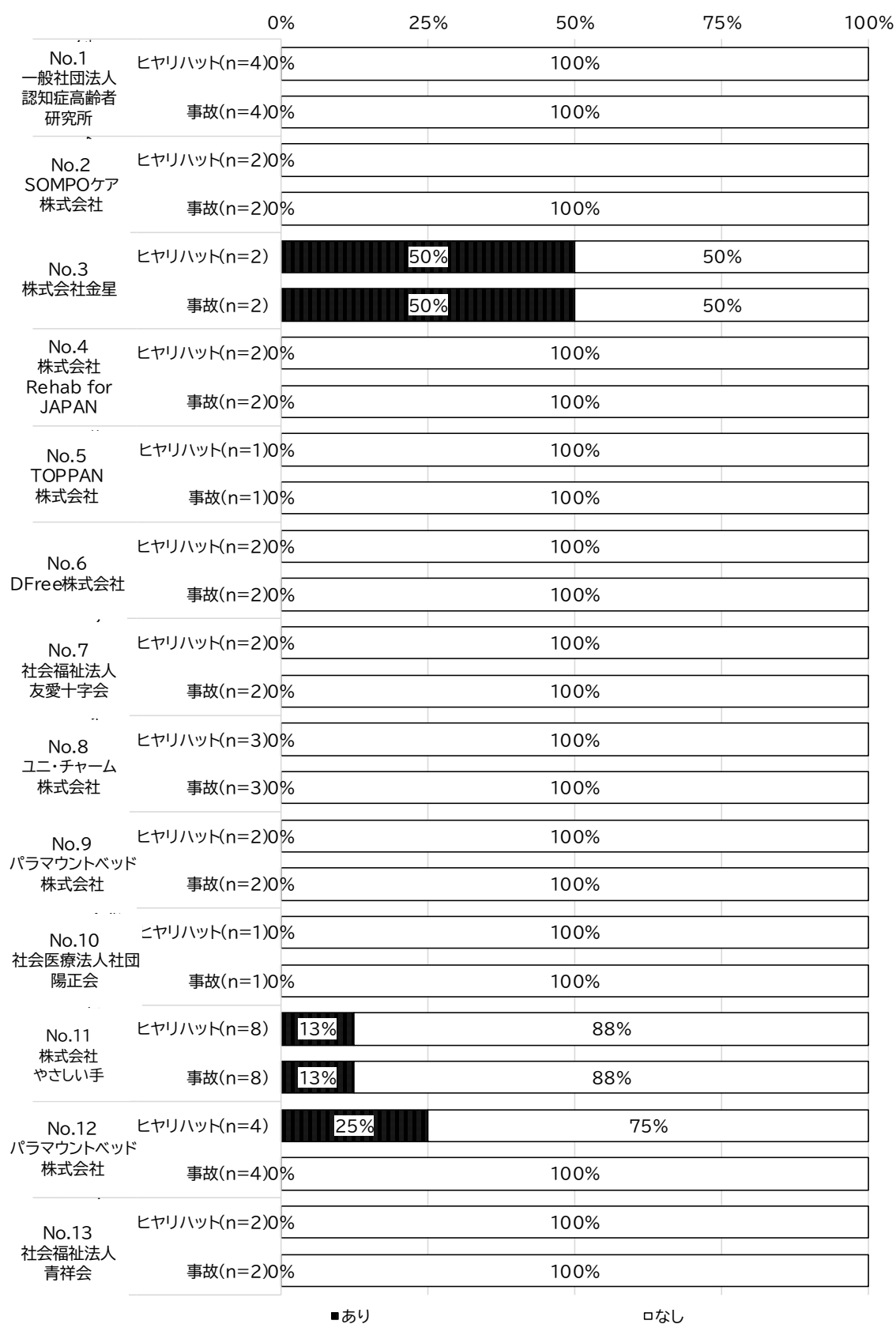


(3) 実証期間中のヒヤリハット・事故

実証期間中のヒヤリハット・事故についての結果は以下の通り。

図表 XI-449 実証期間中のヒヤリハット・事故の発生有無

No.	提案者(法人名)	実証フィールド全体		あり	なし
1	一般社団法人 認知症高齢者研究所	ヒヤリハット	施設数(件) 割合	0 0%	4 100%
		事故	施設数(件) 割合	0 0%	4 100%
2	SOMPOケア株式会社	ヒヤリハット	施設数(件) 割合	0 0%	2 100%
		事故	施設数(件) 割合	0 0%	2 100%
3	株式会社金星	ヒヤリハット	施設数(件) 割合	1 50%	1 50%
		事故	施設数(件) 割合	1 50%	1 50%
4	株式会社 Rehab for JAPAN	ヒヤリハット	施設数(件) 割合	0 0%	2 100%
		事故	施設数(件) 割合	0 0%	2 100%
5	TOPPAN株式会社	ヒヤリハット	施設数(件) 割合	0 0%	1 100%
		事故	施設数(件) 割合	0 0%	1 100%
6	DFree株式会社	ヒヤリハット	施設数(件) 割合	0 0%	2 100%
		事故	施設数(件) 割合	0 0%	2 100%
7	社会福祉法人 友愛十字会	ヒヤリハット	施設数(件) 割合	0 0%	2 100%
		事故	施設数(件) 割合	0 0%	2 100%
8	ユニ・チャーム株式会社	ヒヤリハット	施設数(件) 割合	0 0%	3 100%
		事故	施設数(件) 割合	0 0%	3 100%
9	パラマウントベッド 株式会社	ヒヤリハット	施設数(件) 割合	0 0%	2 100%
		事故	施設数(件) 割合	0 0%	2 100%
10	社会医療法人社団 陽正会	ヒヤリハット	施設数(件) 割合	0 0%	1 100%
		事故	施設数(件) 割合	0 0%	1 100%
11	株式会社やさしい手	ヒヤリハット	施設数(件) 割合	1 13%	7 88%
		事故	施設数(件) 割合	1 13%	7 88%
12	パラマウントベッド 株式会社	ヒヤリハット	施設数(件) 割合	1 25%	3 75%
		事故	施設数(件) 割合	0 0%	4 100%
13	社会福祉法人青祥会	ヒヤリハット	施設数(件) 割合	0 0%	2 100%
		事故	施設数(件) 割合	0 0%	2 100%



図表 XI-450 実証期間中のヒヤリハットの内容・再発防止策

No.	提案者(法人名)	内容	再発防止策
12	パラマウント ベッド株式会社	人感センサーが何度も落ちてしまった。	壁にかけるのをやめて、 置き型にもらった。

XII. 実証結果:③継続的調査

1. 実証概要

(1) 実証目的

過年度事業に参加した実証事業所等を対象に、実証終了後の継続的な業務改善の取組の内容や効果(介護サービスの質の維持・向上、職員の負担軽減、効率的な人員配置の実現等の観点)、取組を継続していくなかでの課題等の把握を行う。

(2) 実証仮説

生産性向上の取組を継続的に取り組むために要する期間や得られる効果について、以下の点を仮説とした。

- テクノロジーの導入、利活用が定着するまで2年程度を要する。
- 業務改善の取組による効果が得られるまで2年程度を要する。
- テクノロジーの利活用により、職員の負担軽減(残業時間の減少、有給休暇の取得率向上)に繋がり、人材の定着に繋がる
- テクノロジーの利活用をアピールすることで、職員の新規採用に繋がる。

(3) 調査機器

本調査では以下の機器を用いた。なお、導入状況は施設によって異なっていた。

- ・ 見守り機器
- ・ ICT 機器(インカム・介護記録ソフト等)
- ・ その他施設が導入活用する機器
- ・ いわゆる介護助手の活用等のタスクシフト・タスクシェアの実施 等

(4) 対象施設

本調査の対象施設は以下の通り。

過年度調査参加事業所のうち、生産性向上推進体制加算を算定している施設を合計 20 施設・事業所にて調査を実施した。

図表 XII-1 実証対象施設

No	法人名	施設名	サービス 種別	加算※	過年度参加				
					R2	R3	R4	R5	R6
1	社会福祉法人 弘陵福祉会	特別養護老人 ホーム六甲の館	介護老人福 祉施設	加算(Ⅰ)			○	○	○
2	社会福祉法人	特別養護老人	介護老人福	加算(Ⅰ)		○			○

No	法人名	施設名	サービス 種別	加算※	過年度参加				
					R2	R3	R4	R5	R6
	神戸中央福祉会	ホーム塩屋さくら苑	福祉施設						
3	社会福祉法人尾瀬長寿会	地域密着型特別養護老人ホーム桜花苑さらし	地域密着型介護老人福祉施設	加算(Ⅰ)	○				○
4	社会福祉法人おおさわの福祉会	地域密着型特別養護老人ホームささづ苑	地域密着型介護老人福祉施設	加算(Ⅰ)		○	○		○
5	株式会社connect	グループホームおおきな木	認知症対応型共同生活介護	加算(Ⅰ)			○		○
6	社会福祉法人一乗谷友愛会	特別養護老人ホームあさくら苑	介護老人福祉施設	加算(Ⅱ)				○	○
7	社会福祉法人尾瀬長寿会	特別養護老人ホーム 桜花苑	介護老人福祉施設	加算(Ⅱ)			○		○
8	社会福祉法人友愛十字会	砧ホーム	介護老人福祉施設	加算(Ⅱ)	○			○	
9	社会福祉法人光栄会	特別養護老人ホーム白水園	介護老人福祉施設	加算(Ⅱ)	○	○	○		
10	社会福祉法人よつば会	特別養護老人ホーム夕凧の里	介護老人福祉施設	加算(Ⅱ)		○			
11	社会福祉法人浩仁会	地域密着型特別養護老人ホームセント・ケアおおの	地域密着型介護老人福祉施設	加算(Ⅱ)		○			○
12	医療法人財団五省会	介護老人保健施設みどり苑	介護老人保健施設	加算(Ⅱ)	○	○	○	○	○
13	社会福祉法人青祥会	介護老人保健施設 長浜メディアセンター	介護老人保健施設	加算(Ⅱ)		○	○	○	
14	社会福祉法人愛の会	いりり端水戸	認知症対応型共同生活介護	加算(Ⅱ)		○		○	
15	社会福祉法人浩仁会	グループホームセント・ケア おおの	認知症対応型共同生活介護	加算(Ⅱ)				○	

No	法人名	施設名	サービス 種別	加算※	過年度参加				
					R2	R3	R4	R5	R6
16	株式会社ヒラ マツ	特定施設入居者 生活介護 虹の夢 津	特定施設入 居者生活介 護	加算(Ⅰ)					○
17	コスモスケア株 式会社	グループホームコ スモス松陵	認知症対応 型共同生活 介護	加算(Ⅱ)					○
18	株式会社 チャーム・ケア・ コーポレーショ ン	チャーム西宮用海 町	特定施設入 居者生活介 護	加算(Ⅱ)					○
19	株式会社 チャーム・ケア・ コーポレーショ ン	チャーム南田辺	特定施設入 居者生活介 護	加算(Ⅱ)					○
20	ALSOK 介護 株式会社	介護付有料老人 ホーム みんなの 家・土呂栄光荘	特定施設入 居者生活介 護	加算(Ⅱ)					○

※生産性向上推進体制加算を示している。

(5) 実証方法

ア. 実証調査の時期

調査の時期は以下の通りである。

図表 XII-2 調査の時期

調査	時期
追加調査	令和 7 年 7 月～9 月のうち平日 5 日間
ヒアリング調査	令和 7 年 10 月～令和 8 年 1 月

※新型コロナウイルス感染症の影響等の影響により、各施設の調査時期には幅がある。

イ. 各調査の概要

実証結果を把握するため、追加調査で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」、「業務時間等調査」を実施し、実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。各調査の概要は以下の通り。

図表 XII-3 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
タイムスタディ調査	調査対象のユニット、フロアでケアを行った介護職員	- 回答方法:自記式(1 分刻みで自身が実施した作業項目を記入)または Web による回答 - 調査スケジュール:追加調査の計 1 回。各日に勤務した職員全員が回答 - 調査実施の時間帯:実際に勤務した時間全て
職員向けアンケート調査	調査対象のユニット、フロアの介護職員	- 回答方式:Web による回答 - 調査スケジュール:追加調査期間中、職員 1 名につき 1 回のみ回答
利用者向けアンケート調査	調査対象のユニット、フロアの利用者	- 回答方式: Web による回答 ※職員による利用者への聞き取りによる回答。 - 調査スケジュール:追加調査期間中、利用者 1 名につき 1 回のみ回答
業務時間等調査	調査対象のユニット、フロアの介護職員	- 調査方法:自記式 - 調査スケジュール:事後調査②終了後に、実証に参加した職員全員について施設管理者等が回答
ヒアリング調査	施設管理者等	- 調査方法:Web 会議または訪問(対面)による聞き取り - 調査スケジュール:調査終了後に 1 回実施

ウ. 本実証で目指すところ

介護テクノロジーを効果的に活用していくためには、介護現場の課題に合わせたテクノロジーの導入に加え、利用者の状況やテクノロジーの機能に応じた適切な業務手順の変更が必要である。

一方、テクノロジー導入後、「テクノロジーがうまく使えない」「導入したが使わなくなった」等、介護テクノロジーを継続的に活用していくことが難しいといった現場の声が聞かれるところである。

介護テクノロジー等を効果的に活用していくにあたって、現場で想定される以下の課題の解決に資するよう、継続的な取組による効果や工夫点等について把握するものとする。

図表 XII-4 継続的な業務改善の取組において想定される課題

想定される課題	
効果検証 	➤ 業務改善の取組における効果が継続的に得られているのか、定量的に把握することが難しい。
人材育成 	➤ 業務改善の取組内容が事業所内の職員に中々定着できない。 ➤ 職員間で取組内容にずれが生じる。
PDCA 	➤ 一度業務改善の取組を実施することで満足してしまい、見直しがされていない。 ➤ 業務改善の取組の一環として新たに介護テクノロジーを導入したが使いこなせない。

(6) 調査項目

調査項目として、タイムスタディ調査及び職員向けアンケート調査、利用者向けアンケート調査、業務時間等調査、ヒアリング調査を行った。

ア. タイムスタディ調査

タイムスタディ調査の調査項目では、「A.直接介護(小分類 6 つ)」「B.間接業務(小分類 5 つ)」「C. 休憩・待機・仮眠」「D. その他、未記入」「E.余裕時間」の 6 分類で整理し、計 14 項目を用意した。

図表 XII-5 タイムスタディ調査 項目

No	分類	Sub -No	項目
A	直接介護(※1)	1	移動・以上・体位交換
		2	排泄介助・支援
		3	生活自立支援(※2)
		4	行動上の問題への対応(※3)
		5	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置
		6	その他の直接介護(日常生活支援、レクリエーション等)
B	間接業務	7	巡回・移動
		8	記録・文書作成・連絡調整等(※4)
		9	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し
		10	介護テクノロジー・ICT 機器の準備・使用・確認(※5)
		11	その他の間接業務(※6)
C	休憩	12	休憩・待機・仮眠
D	その他	13	その他
E	余裕時間	14	余裕時間(突発でのケアや対応ができる状態)

※1 見守りによる介助を含む。

※2 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握

※3 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※4 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、職員間の連絡調整、文書検索等

※5 機器の充電、セッティング、設定の確認・見直し、使用(直接介護において使用する場合を除く)、画面確認、片付け作業等

※6 レクリエーションの準備等

イ. 職員向けアンケート調査

職員向けアンケート調査の調査項目は、心理的負担評価(心理的ストレス反応測定尺度 (Stress Response Scale-18 に基づく)や、テクノロジー導入等によるモチベーションの変化とした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

ウ. 利用者向けアンケート調査

利用者向けアンケート調査の調査項目は、対象利用者の ADL の変化、認知機能の変化、心理的な影響(意欲の指標 Vitality index に基づく)、QOL の変化とした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

エ. 業務時間等調査

業務時間等調査では、実証終了後に 1 回調査を行った。

調査内容は、オペレーション変更を通じた労働時間や有給休暇の取得状況の変化や、実証期間中のヒヤリハット・事故、採用者数や利用者数、人員配置数(特定施設入居者生活介護のみ)を調査項目とした。調査票は、参考資料を参照されたい。

オ. ヒアリング調査

上記調査終了後、ヒアリング調査を実施した。なお、ヒアリング調査では、対象施設の職員に対し調査を行った。

(7) 継続的な取組による業務改善に係る分析方法

テクノロジーの導入・利活用が定着するまで2年程度を要すると考えられる仮説から、「2 年以上前の事業に参加経験のある事業所」及び「昨年の事業のみ参加経験のある事業所」に分けて整理した。

図表 XII-6 分析方法 過年度調査の参加状況

過年度調査 参加状況	介護老人 福祉施設	介護老人 保健施設	認知症対応型 共同生活介護	特定施設入居 者生活介護	合計
<u>2 年以上前の 事業に参加 (令和 2～5 年度)</u>	10	2	3	0	15
昨年の事業のみ参加 (令和 6 年度のみ)	0	0	1	4	5
合計	10	2	4	4	20

※介護老人福祉施設には、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護を含む

また、2 年以上前の事業に参加した施設のうち、過年度調査時点より実施している生産性向上の取組内容のうち、多くの施設が実施した「見守り機器の導入・活用」及び「記録業務・連絡調整の効率化」分類した。

上記を踏まえ、「2 年以上前の事業に参加経験のある事業所」のうち、生産性向上の取組の内容ごとに分け、追加分析を行った。

図表 XII-7 分析方法 過年度調査時点より実施している生産性向上の取組

生産性向上の取組内容	サービス種別			生産性向上推進体制加算		計
	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	認知症対応型共同生活介護	加算(Ⅰ)	加算(Ⅱ)	
<u>見守り機器の導入・活用</u>	8	2	2	3	9	12
<u>記録業務・連絡調整の効率化</u>	8	2	2	4	8	12

※各施設において様々な取組を行っているが、ヒアリング調査において、生産性向上委員会で議論している等、特に過年度調査時点と比較し、取組を実施したと回答のあった内容を集計した。

※「見守り機器の導入・活用」及び「記録業務・連絡調整の効率化」それぞれ取り組んでいる施設は 10 施設(サービス種別:介護老人福祉施設 6 施設、介護老人保健施設 2 施設、認知症対応型共同生活介護 2 事業所、生産性向上推進体制加算別:加算(Ⅰ)3 施設、加算(Ⅱ)7 施設)。

2. 実証結果

(1) 利用者・職員概要

ア. 利用者概要

図表 XII-8 利用者概要 性別

		男性	女性	無回答	合計
R2	人数(人)	6	23	0	29
	割合	21%	79%	0%	100%
R3	人数(人)	10	27	0	37
	割合	27%	73%	0%	100%
R4	人数(人)	12	33	0	45
	割合	27%	73%	0%	100%
R5	人数(人)	7	30	0	37
	割合	19%	81%	0%	100%
R6	人数(人)	71	378	0	449
	割合	16%	84%	0%	100%
R7	人数(人)	135	564	0	699
	割合	19%	81%	0%	100%

図表 XII-9 利用者概要 年齢

		70歳未満	70歳～75歳未満	75歳～80歳未満	80歳～85歳未満	85歳～90歳未満	90歳～95歳未満	95歳以上	無回答	合計
R2	人数(人)	0	0	0	0	0	0	30	0	30
	割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%
R3	人数(人)	0	0	0	0	0	0	37	0	37
	割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%
R4	人数(人)	0	0	0	0	0	0	45	1	45
	割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	2%	100%
R5	人数(人)	0	0	0	0	0	0	38	0	38
	割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%
R6	人数(人)	0	0	0	0	0	0	449	0	449
	割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%
R7	人数(人)	10	19	46	109	163	208	144	0	699
	割合	1%	3%	7%	16%	23%	30%	21%	0%	100%

図表 XII-10 利用者概要 要介護度

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支援	その他(区分申請中等)	無回答	合計
R2	人数(人)	3	1	9	11	5	0	0	0	29
	割合	10%	3%	31%	38%	17%	0%	0%	0%	100%
R3	人数(人)	1	11	9	9	5	0	2	0	37
	割合	3%	30%	24%	24%	14%	0%	5%	0%	100%
R4	人数(人)	0	3	17	14	11	0	0	0	45
	割合	0%	7%	38%	31%	24%	0%	0%	0%	100%
R5	人数(人)	1	5	14	13	5	0	0	0	38
	割合	3%	13%	37%	34%	13%	0%	0%	0%	100%
R6	人数(人)	69	75	98	109	64	30	4	0	449
	割合	15%	17%	22%	24%	14%	7%	1%	0%	100%
R7	人数(人)	88	96	189	196	100	25	4	0	698
	割合	13%	14%	27%	28%	14%	4%	1%	0%	100%

イ. 職員概要

図表 XII-11 職員概要 性別

		男性	女性	無回答	合計
R2	人数(人)	21	27	0	48
	割合	44%	56%	0%	100%
R3	人数(人)	30	68	0	98
	割合	31%	69%	0%	100%
R4	人数(人)	27	45	0	72
	割合	38%	63%	0%	100%
R5	人数(人)	22	54	0	76
	割合	29%	71%	0%	100%
R6	人数(人)	34	98	0	132
	割合	26%	74%	0%	100%
R7	人数(人)	138	270	0	408
	割合	34%	66%	0%	100%

図表 XII-12 職員概要 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
R2	人数(人)	0	10	20	16	4	1	0	0	51
	割合	0%	20%	39%	31%	8%	2%	0%	0%	100%
R3	人数(人)	0	20	29	22	23	4	0	0	98
	割合	0%	20%	30%	22%	23%	4%	0%	0%	100%
R4	人数(人)	2	16	14	23	16	1	0	0	72
	割合	3%	22%	19%	32%	22%	1%	0%	0%	100%
R5	人数(人)	1	20	13	23	13	6	1	0	77
	割合	1%	26%	17%	30%	17%	8%	1%	0%	100%
R6	人数(人)	2	23	21	32	38	13	3	0	132
	割合	2%	17%	16%	24%	29%	10%	2%	0%	100%
R7	人数(人)	2	93	78	93	91	38	13	0	408
	割合	0%	23%	19%	23%	22%	9%	3%	0%	100%

図表 XII-13 職員概要 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能 訓練指導 員を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
R2	人数(人)	42	6	3	0	0	0	0	0	51
	割合	82%	12%	6%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
R3	人数(人)	68	26	4	0	0	0	1	1	100
	割合	68%	26%	4%	0%	0%	0%	1%	1%	100%
R4	人数(人)	55	15	2	0	0	0	0	1	73
	割合	75%	21%	3%	0%	0%	0%	0%	1%	100%
R5	人数(人)	57	9	7	3	0	0	1	0	77
	割合	74%	12%	9%	4%	0%	0%	1%	0%	100%
R6	人数(人)	54	46	20	0	5	2	5	0	132
	割合	41%	35%	15%	0%	4%	2%	4%	0%	100%
R7	人数(人)	250	94	38	7	1	3	15	0	408
	割合	61%	23%	9%	2%	0%	1%	4%	0%	100%

図表 XII-14 職員概要 役職

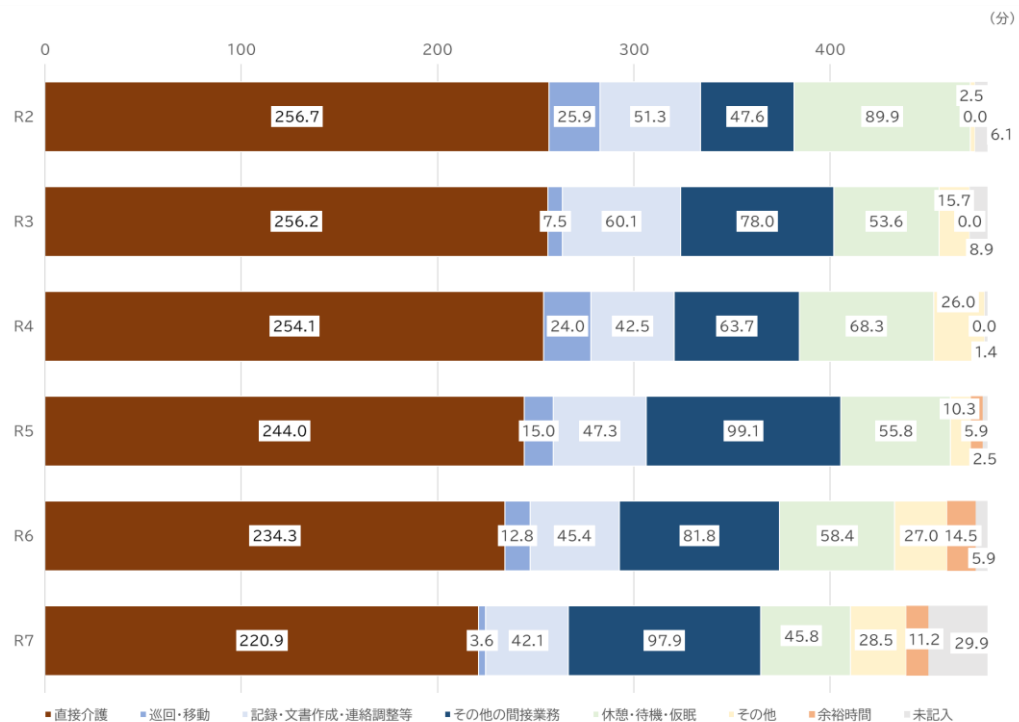
		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
R2	人数(人)	0	9	0	41	1	51
	割合	0%	18%	0%	80%	2%	100%
R3	人数(人)	0	24	0	76	0	100
	割合	0%	24%	0%	76%	0%	100%
R4	人数(人)	0	17	0	54	2	73
	割合	0%	23%	0%	74%	3%	100%
R5	人数(人)	0	17	0	60	0	77
	割合	0%	22%	0%	78%	0%	100%
R6	人数(人)	0	21	0	111	0	132
	割合	0%	16%	0%	84%	0%	100%
R7	人数(人)	0	88	293	27	0	408
	割合	0%	22%	72%	7%	0%	100%

(2) タイムスタディ調査結果

タイムスタディ調査の結果について、日勤職員及び夜勤職員に分けて調査した結果は以下の通り。
 なお、勤務終了時刻が翌日に跨ぐ勤務又は勤務開始時刻が 0 時台の勤務であった職員を夜勤職員として集計した。

図表 XII-15 タイムスタディ調査の結果(介護職員 1 人 1 日(480 分)あたり) 日勤職員

		直接介護						間接業務						休憩					合計（分）
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	情報収集・介護計画の作成・見直し	利用者のアセスメント・ICＴ機器の準備・調整・片付け	介護テクノロジー・ICＴ機器の準備・調整	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠					
R2	時間(分)	29.3	70.0	4.5	33.4	9.4	110.0	25.9	51.3	0.6	0.0	47.0	89.9	2.5	0.0	6.1	480.0		
	割合	6%	15%	1%	7%	2%	23%	5%	11%	0%	0%	10%	19%	1%	0%	1%	100%		
R3	時間(分)	29.2	52.8	19.7	0.0	0.0	154.5	7.5	60.1	14.9	2.5	60.6	53.6	15.7	0.0	8.9	480.0		
	割合	6%	11%	4%	0%	0%	32%	2%	13%	3%	1%	13%	11%	3%	0%	2%	100%		
R4	時間(分)	43.3	76.4	30.8	1.9	1.4	100.3	24.0	42.5	2.9	4.4	56.4	68.3	26.0	0.0	1.4	480.0		
	割合	9%	16%	6%	0%	0%	21%	5%	9%	1%	1%	12%	14%	5%	0%	0%	100%		
R5	時間(分)	32.0	50.5	37.4	7.8	7.1	109.4	15.0	47.3	3.2	0.4	95.6	55.8	10.3	5.9	2.5	480.0		
	割合	7%	11%	8%	2%	1%	23%	3%	10%	1%	0%	20%	12%	2%	1%	1%	100%		
R6	時間(分)	28.9	52.0	26.6	2.9	10.1	113.8	12.8	45.4	5.5	3.3	72.9	58.4	27.0	14.5	5.9	480.0		
	割合	6%	11%	6%	1%	2%	24%	3%	9%	1%	1%	15%	12%	6%	3%	1%	100%		
R7	時間(分)	26.0	46.2	26.9	2.7	7.1	112.1	3.6	42.1	5.1	3.6	89.2	45.8	28.5	11.2	29.9	480.0		
	割合	5%	10%	6%	1%	1%	23%	1%	9%	1%	1%	19%	10%	6%	2%	6%	100%		

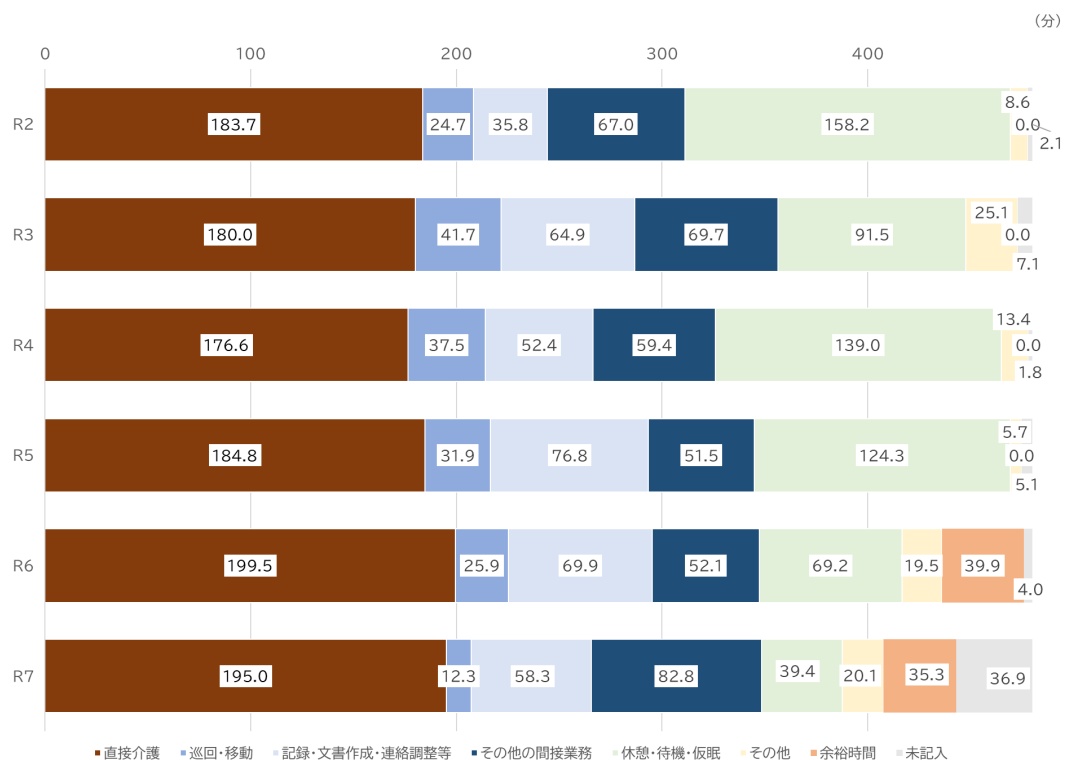


令和 2 年度 n=24(2施設)
 令和 3 年度 n=49(3施設)
 令和 4 年度 n=39(4施設)
 令和 5 年度 n=76(6施設)
 令和 6 年度 n=183(8施設)
 令和 7 年度 n=371(20施設)

※5日間の自記式または Web アプリによる職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。
 ※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

図表 XII-16 タイムスタディ調査の結果(介護職員 1 人 1 日(480 分)あたり) 夜勤職員

		直接介護						間接業務						休憩	その他	余裕時間	未記入	合計（分）
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	情報収集・見直し	利用者のアセスメント・作成・見直し	ICT機器の準備・調整・片付け	介護技術の習得・調整	その他の間接業務				
R2	時間(分)	36.3	92.8	16.5	30.1	0.0	7.9	24.7	35.8	0.0	49.0	18.0	158.2	8.6	0.0	2.1	480.0	
	割合	8%	19%	3%	6%	0%	2%	5%	7%	0%	10%	4%	33%	2%	0%	0%	100%	
R3	時間(分)	28.4	86.7	24.1	19.8	0.0	21.0	41.7	64.9	3.4	12.3	54.0	91.5	25.1	0.0	7.1	480.0	
	割合	6%	18%	5%	4%	0%	4%	9%	14%	1%	3%	11%	19%	5%	0%	1%	100%	
R4	時間(分)	42.6	89.7	26.5	6.0	0.2	11.5	37.5	52.4	0.8	12.6	46.0	139.0	13.4	0.0	1.8	480.0	
	割合	9%	19%	6%	1%	0%	2%	8%	11%	0%	3%	10%	29%	3%	0%	0%	100%	
R5	時間(分)	25.4	69.6	30.1	29.8	0.3	29.6	31.9	76.8	0.4	7.3	43.7	124.3	5.7	0.0	5.1	480.0	
	割合	5%	14%	6%	6%	0%	6%	7%	16%	0%	2%	9%	26%	1%	0%	1%	100%	
R6	時間(分)	20.7	66.6	24.5	13.9	4.4	69.5	25.9	69.9	3.6	3.1	45.4	69.2	19.5	39.9	4.0	480.0	
	割合	4%	14%	5%	3%	1%	14%	5%	15%	1%	1%	9%	14%	4%	8%	1%	100%	
R7	時間(分)	28.2	70.7	16.8	5.9	1.3	72.2	12.3	58.3	3.6	5.2	73.9	39.4	20.1	35.3	36.9	480.0	
	割合	6%	15%	3%	1%	0%	15%	3%	12%	1%	1%	15%	8%	4%	7%	8%	100%	



令和 2 年度 n=21(3施設)
 令和 3 年度 n=64(7 施設)
 令和 4 年度 n=45(6 施設)
 令和 5 年度 n=37(6 施設)
 令和 6 年度 n=98(9 施設)
 令和 7 年度 n=163(18 施設)

※5日間の自記式または Web アプリによる職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。
 ※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

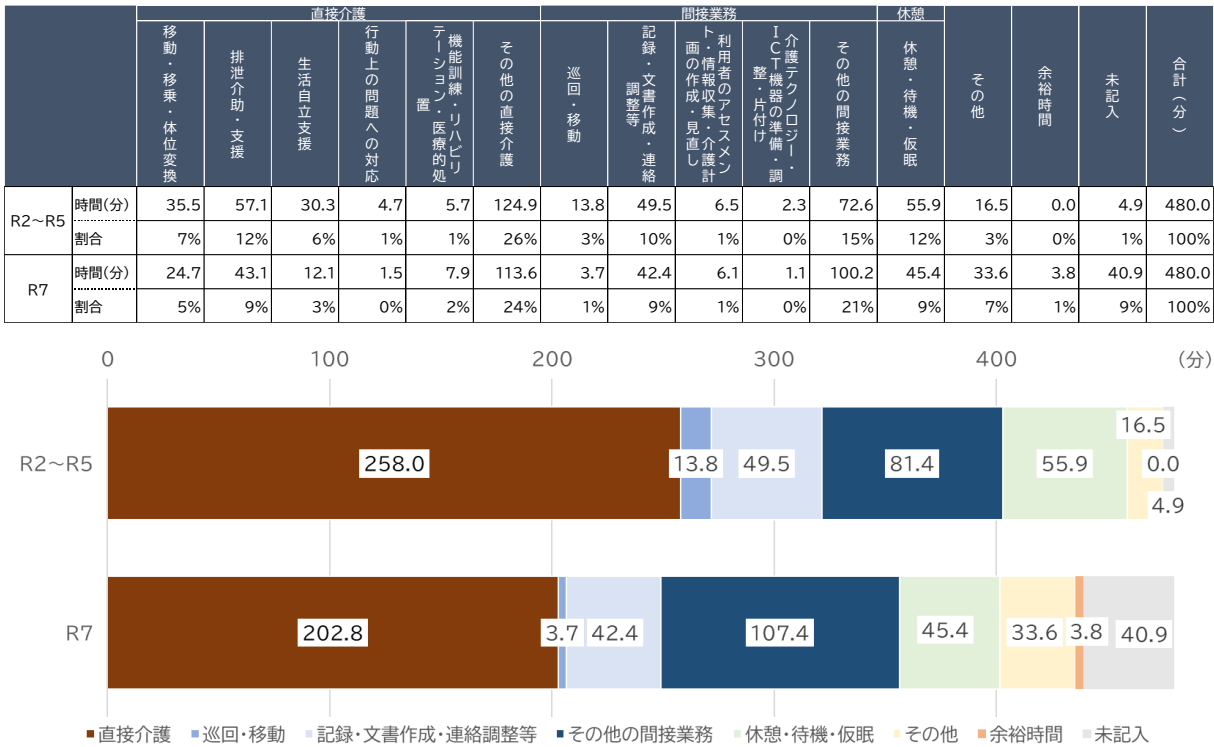
①. 見守り機器の導入・活用

見守り機器の導入・活用に係る取組を実施している施設の調査結果は以下の通り。
日勤職員及び夜勤職員ともに「巡回・移動」に係る時間が減少する結果であった。

ア. 日勤職員

見守り機器の導入・活用に係る取組を実施している施設の日勤職員の調査結果は以下の通り。

図表 XII-17 タイムスタディ調査の結果(介護職員 1 人 1 日(480 分)あたり)
見守り機器 日勤職員



令和 2 年度～令和5年度 n=153(8 施設)

令和7年度 n=118(8 施設)

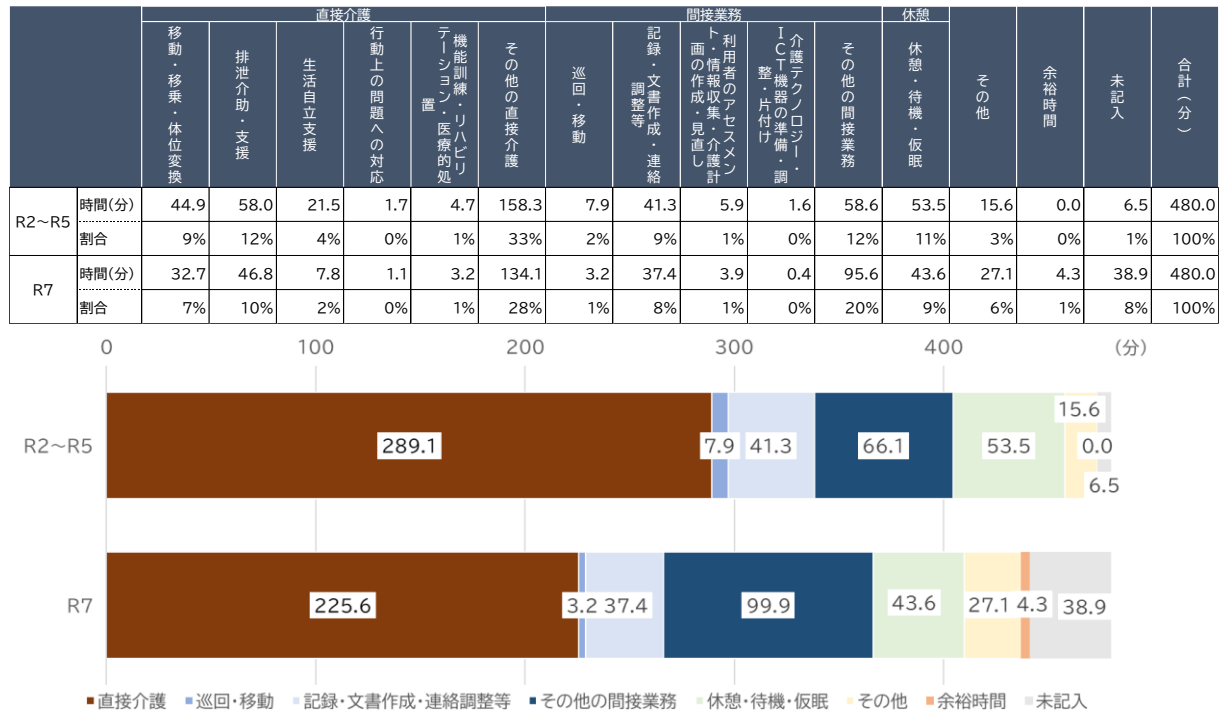
※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。
※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。
※日勤職員の過年度データのない施設は集計対象外としている。

(ア) サービス種別

サービス種別の調査結果は以下の通り。

1. 介護老人福祉施設

図表 XII-18 タイムスタディ調査の結果 見守り機器 日勤職員 介護老人福祉施設



令和2年度～令和5年度 n=90(5施設)

令和7年度 n=55(5施設)

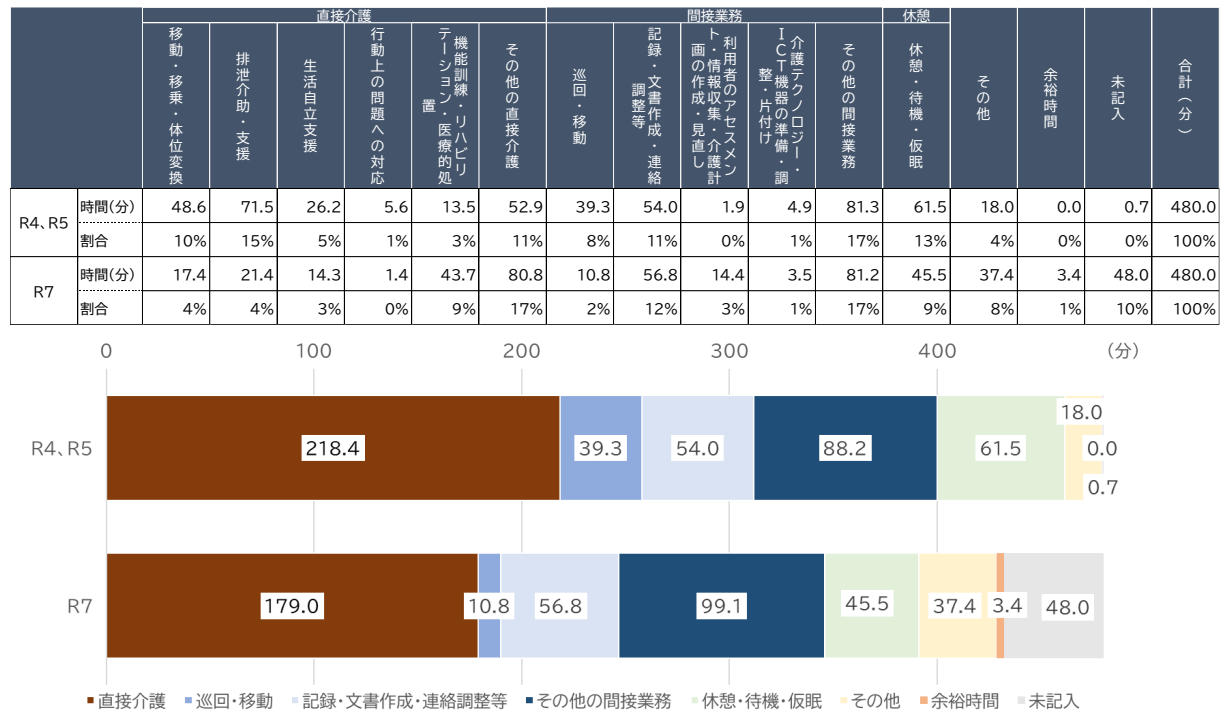
※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から8時間(480分)換算した値。

※日勤職員の過年度データのない施設は集計対象外としている。

2. 介護老人保健施設

図表 XII-19 タイムスタディ調査の結果 見守り機器 日勤職員 介護老人保健施設



令和4年度、令和5年度 n=29(1施設)

令和7年度 n=45(1施設)

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

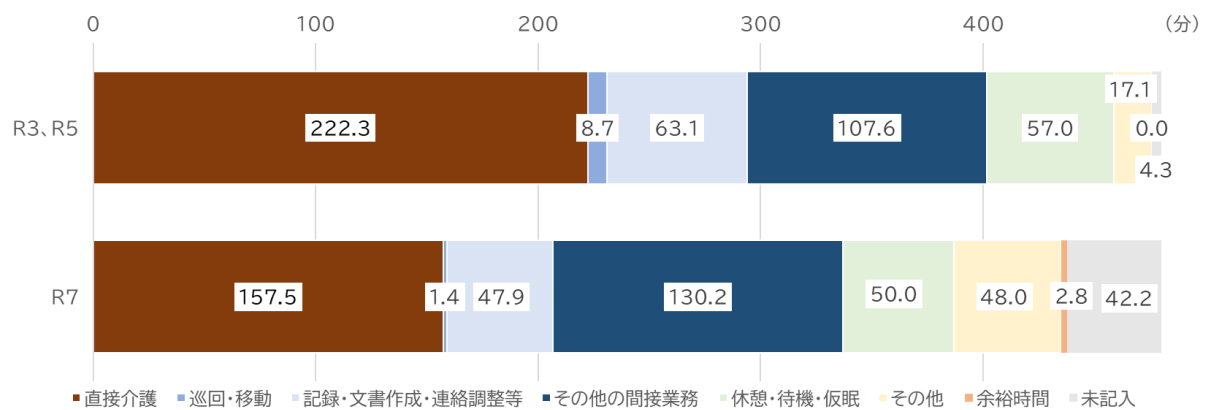
※グラフ上の数は、調査結果の和から8時間(480分)換算した値。

※日勤職員の過年度データのない施設は集計対象外としている。

3. 認知症対応型共同生活介護

図表 XII-20 タイムスタディ調査の結果 見守り機器
日勤職員 認知症対応型共同生活介護

		直接介護						間接業務						休憩		その他	余裕時間	未記入	合計（分）
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し	ICT機器の準備・調整・片付け	介護テクノロジー・その他の間接業務	休憩・待機・仮眠						
R3、R5	時間(分)	7.9	45.7	50.5	10.0	2.3	105.9	8.7	63.1	10.7	1.9	94.9	57.0	17.1	0.0	4.3	480.0		
	割合	2%	10%	11%	2%	0%	22%	2%	13%	2%	0%	20%	12%	4%	0%	1%	100%		
R7	時間(分)	8.2	44.9	21.7	2.3	1.7	78.8	1.4	47.9	7.4	1.7	121.0	50.0	48.0	2.8	42.2	480.0		
	割合	2%	9%	5%	0%	0%	16%	0%	10%	2%	0%	25%	10%	10%	1%	9%	100%		



令和3年度、令和5年度 n=34(2事業所)

令和7年度 n=18(2事業所)

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から8時間(480分)換算した値。

※日勤職員の過年度データのない施設は集計対象外としている。

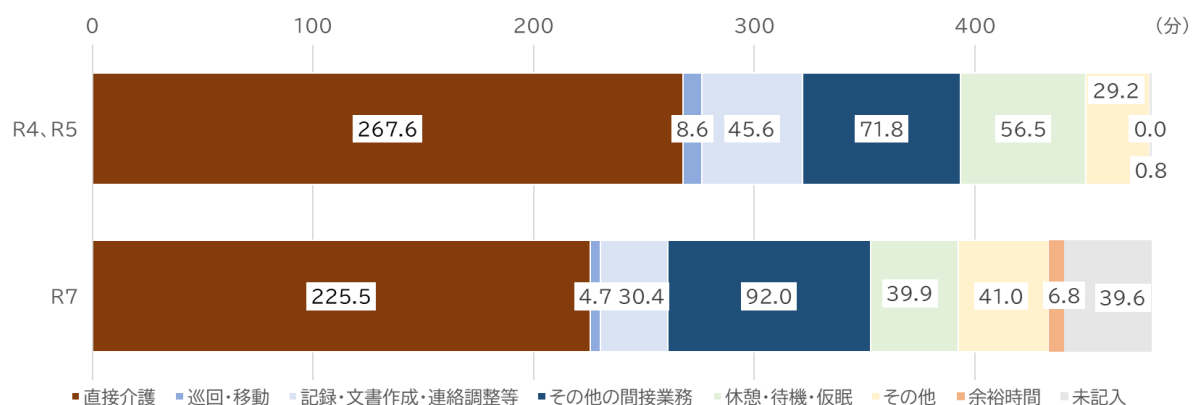
(イ) 生産性向上推進体制加算の算定状況別

生産性向上推進体制加算の算定状況別の調査結果は以下の通り。

1. 加算(Ⅰ)

図表 XII-21 タイムスタディ調査の結果 見守り機器
日勤職員 生産性向上推進体制加算(Ⅰ)

		直接介護						間接業務					休憩	その他	余裕時間	未記入	合計(分)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	面談・情報収集・介護計画の作成・見直し	利用者のアセスメント・片付け	介護テクノロジー・ICT機器の準備・調整	その他の間接業務				
R4, R5	時間(分)	37.6	58.9	36.6	1.4	4.7	128.3	8.6	45.6	4.1	3.8	63.9	56.5	29.2	0.0	0.8	480.0
	割合	8%	12%	8%	0%	1%	27%	2%	10%	1%	1%	13%	12%	6%	0%	0%	100%
R7	時間(分)	25.6	49.5	8.7	0.4	5.1	136.4	4.7	30.4	1.6	0.4	89.9	39.9	41.0	6.8	39.6	480.0
	割合	5%	10%	2%	0%	1%	28%	1%	6%	0%	0%	19%	8%	9%	1%	8%	100%



令和 4 年度、令和5年度 n=23(2 施設)

令和7年度 n=15(2 施設)

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

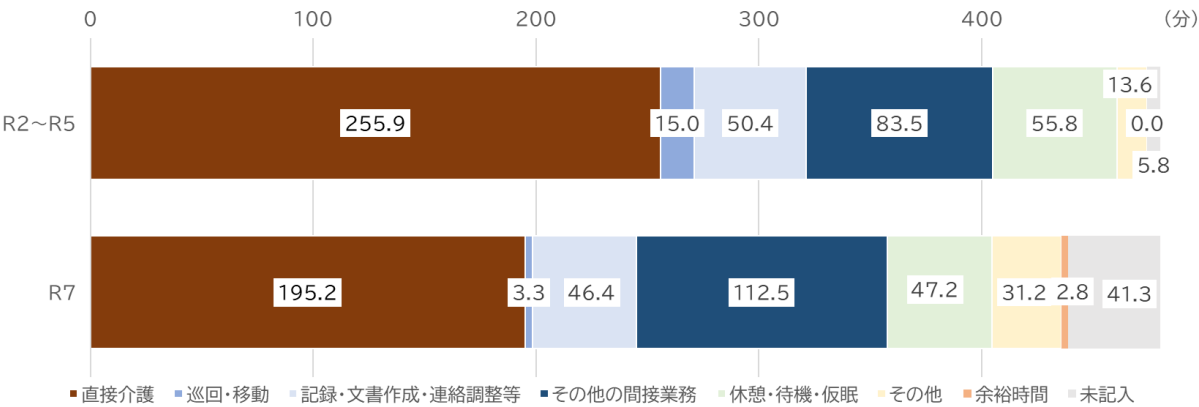
※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

※日勤職員の過年度データのない施設は集計対象外としている。

2. 加算(Ⅱ)

図表 XII-22 タイムスタディ調査の結果 見守り機器
日勤職員 生産性向上推進体制加算(Ⅱ)

		直接介護						間接業務					休憩	その他	余裕時間	未記入	合計(分)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・情報の収集・見直し	介護テクノロジー・ICT機器の準備・調整・片付け	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠				
R2～R5	時間(分)	35.0	56.7	28.9	5.4	5.9	124.1	15.0	50.4	7.0	1.9	74.6	55.8	13.6	0.0	5.8	480.0
	割合	7%	12%	6%	1%	1%	26%	3%	11%	1%	0%	16%	12%	3%	0%	1%	100%
R7	時間(分)	24.4	41.0	13.2	1.8	8.8	106.0	3.3	46.4	7.6	1.4	103.6	47.2	31.2	2.8	41.3	480.0
	割合	5%	9%	3%	0%	2%	22%	1%	10%	2%	0%	22%	10%	6%	1%	9%	100%



令和 2 年度～令和5年度 n=130(6 施設)

令和7年度 n=103(6 施設)

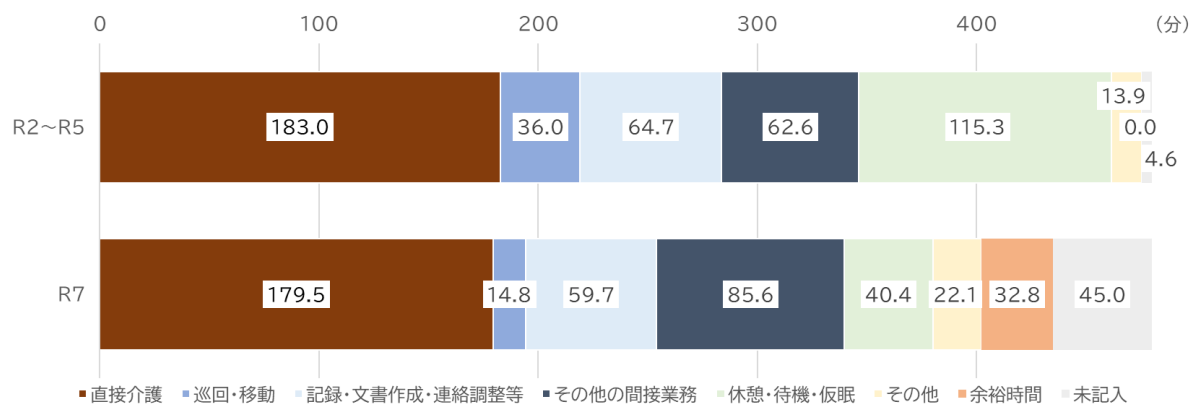
※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。
※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。
※日勤職員の過年度データのない施設は集計対象外としている。

イ. 夜勤職員

見守り機器の導入・活用に係る取組を実施している施設の夜勤職員の調査結果は以下の通り。

図表 XII-23 タイムスタディ調査の結果(介護職員 1 人 1 日(480 分)あたり)
見守り機器 夜勤職員

		直接介護						間接業務					休憩	その他	余裕時間	未記入	合計(分)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	情報収集・介護計画の作成・見直し	介護テクノロジー・ICT機器の準備・調整・片付け	介護テクノロジー・ICT機器の準備・調整	その他の間接業務				
R2～5	時間(分)	33.1	86.0	25.4	18.9	0.1	19.4	36.0	64.7	1.6	17.6	43.4	115.3	13.9	0.0	4.6	480.0
	割合	7%	18%	5%	4%	0%	4%	8%	13%	0%	4%	9%	24%	3%	0%	1%	100%
R7	時間(分)	25.3	73.0	16.2	2.9	1.2	61.0	14.8	59.7	5.6	1.8	78.2	40.4	22.1	32.8	45.0	480.0
	割合	5%	15%	3%	1%	0%	13%	3%	12%	1%	0%	16%	8%	5%	7%	9%	100%



令和 2 年度～令和5年度 n=161(10施設)

令和7年度 n=90(10施設)

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

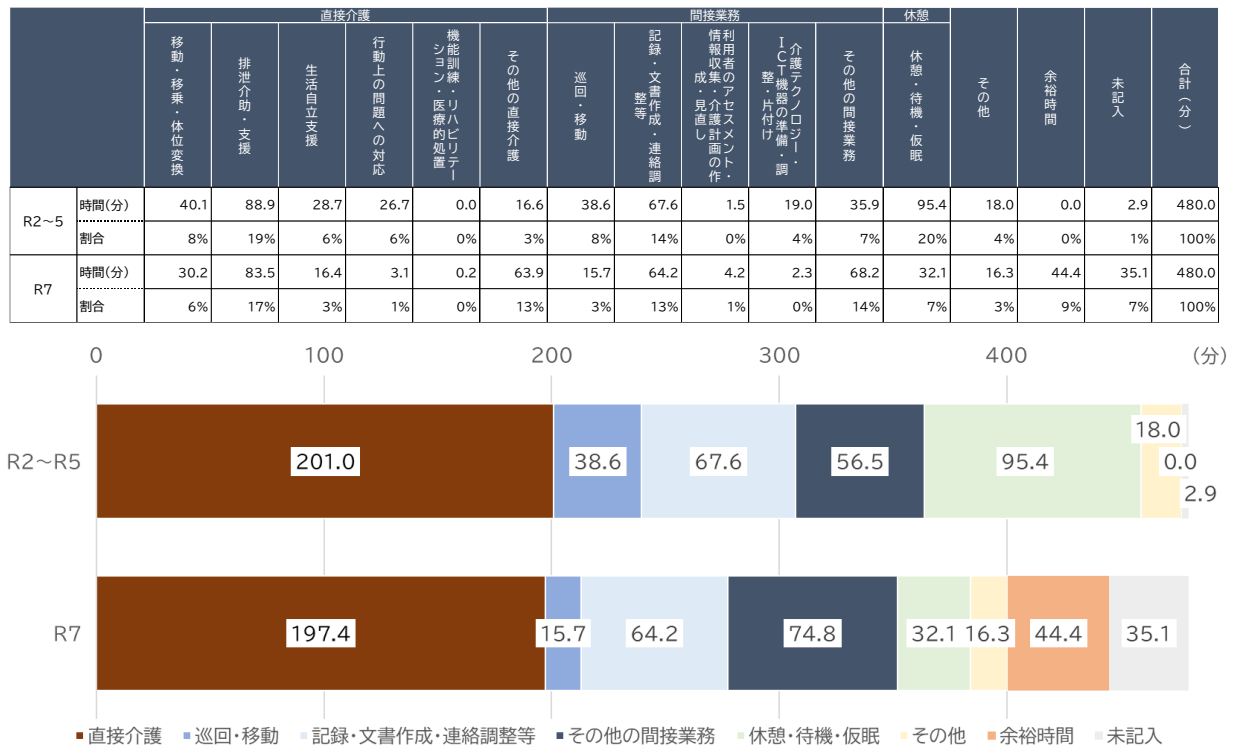
※夜勤職員の過年度データのない施設は集計対象外としている。

(ア) サービス種別

サービス種別の調査結果は以下の通り。

1. 介護老人福祉施設

図表 XII-24 タイムスタディ調査の結果 見守り機器 夜勤職員 介護老人福祉施設



令和2年度～令和5年度 n=57(6施設)

令和7年度 n=38(6施設)

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

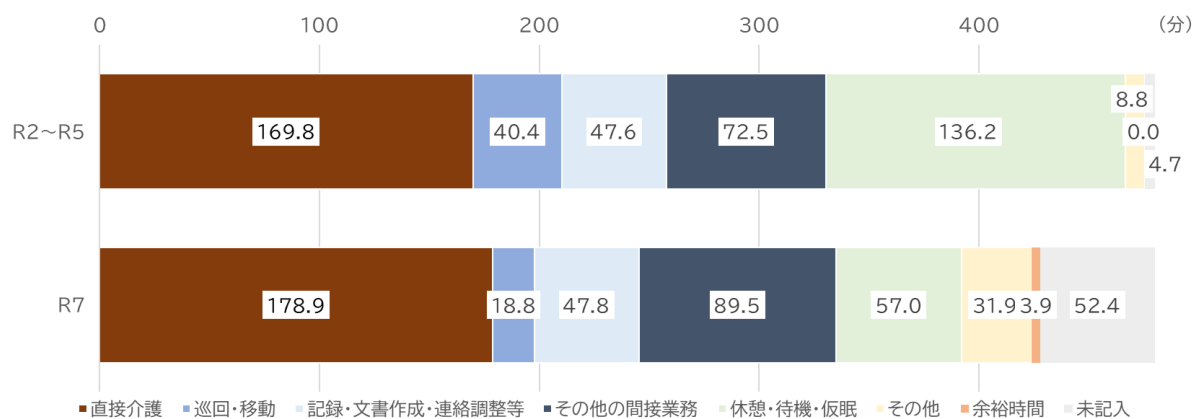
※グラフ上の数は、調査結果の和から8時間(480分)換算した値。

※夜勤職員の過年度データのない施設は集計対象外としている。

2. 介護老人保健施設

図表 XII-25 タイムスタディ調査の結果 見守り機器 夜勤職員 介護老人保健施設

		直接介護						間接業務						休憩	その他	余裕時間	未記入	合計（分）
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	情報収集・介護計画の作成・見直し	利用者のアセスメント・情報取集・介護計画の作成・片付け	介護テクノロジー・ICT機器の準備・調整	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠				
R2～5	時間(分)	35.4	93.2	17.6	9.3	0.1	14.2	40.4	47.6	0.2	23.2	49.2	136.2	8.8	0.0	4.7	480.0	
	割合	7%	19%	4%	2%	0%	3%	8%	10%	0%	5%	10%	28%	2%	0%	1%	100%	
R7	時間(分)	26.5	54.7	24.6	3.0	5.3	64.7	18.8	47.8	3.6	1.9	83.9	57.0	31.9	3.9	52.4	480.0	
	割合	6%	11%	5%	1%	1%	13%	4%	10%	1%	0%	17%	12%	7%	1%	11%	100%	



令和2年度～令和5年度 n=89(2施設)

令和7年度 n=41(2施設)

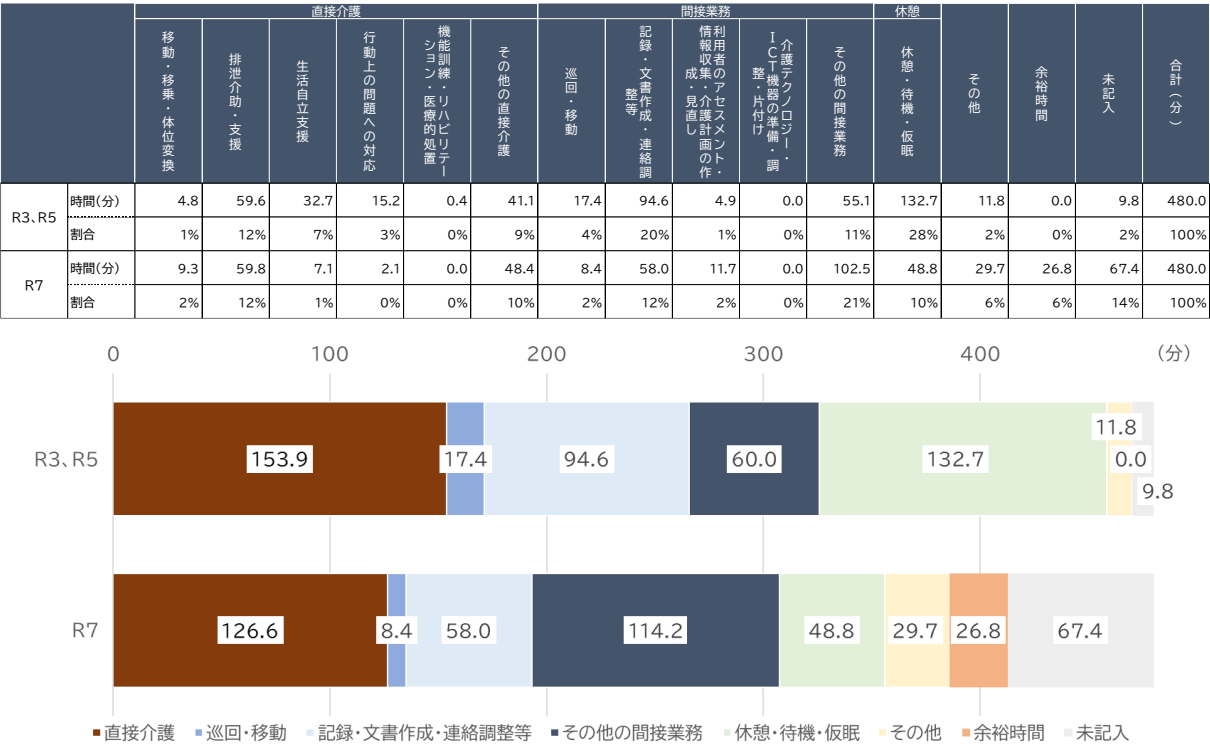
※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から8時間(480分)換算した値。

※夜勤職員の過年度データのない施設は集計対象外としている。

3. 認知症対応型共同生活介護

図表 XII-26 タイムスタディ調査の結果 見守り機器
夜勤職員 認知症対応型共同生活介護



令和3年度、令和5年度 n=15(2事業所)
令和7年度 n=11(2事業所)

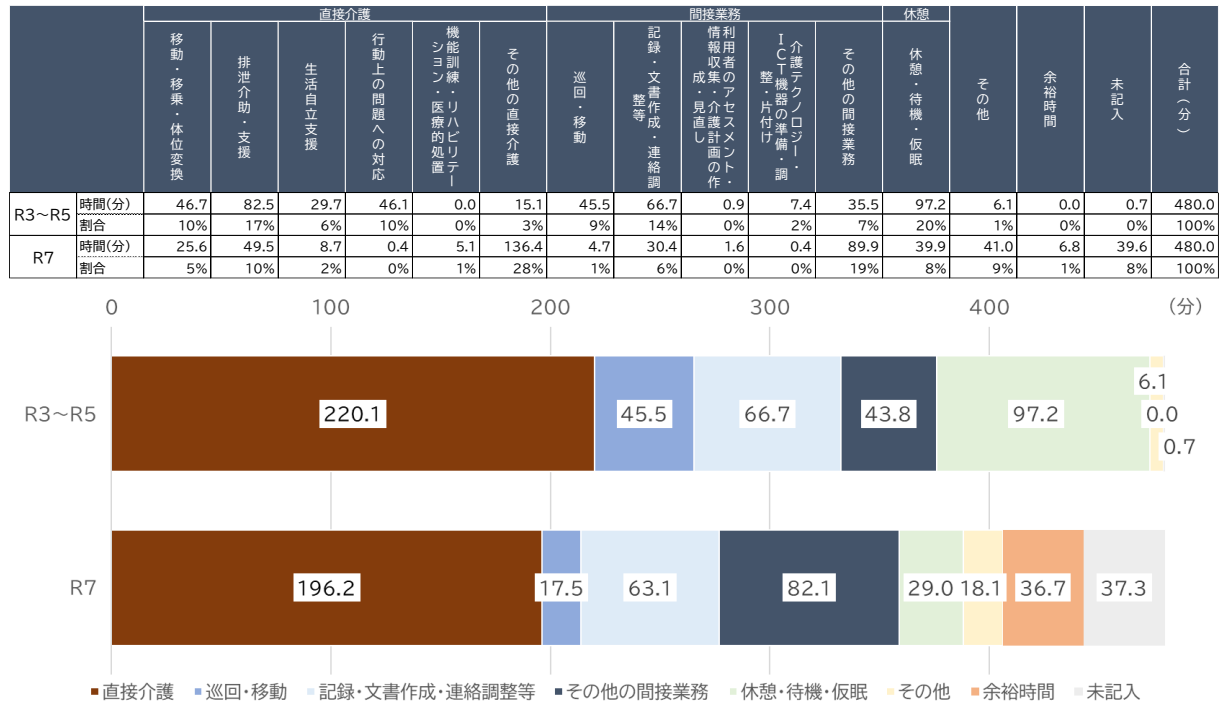
※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。
※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。
※夜勤職員の過年度データのない施設は集計対象外としている。

(イ) 生産性向上推進体制加算の算定状況別

生産性向上推進体制加算の算定状況別の調査結果は以下の通り。

1. 加算(Ⅰ)

図表 XII-27 タイムスタディ調査の結果 見守り機器
夜勤職員 生産性向上推進体制加算(Ⅰ)



令和3年度～令和5年度 n=26(3施設)

令和7年度 n=15(3施設)

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

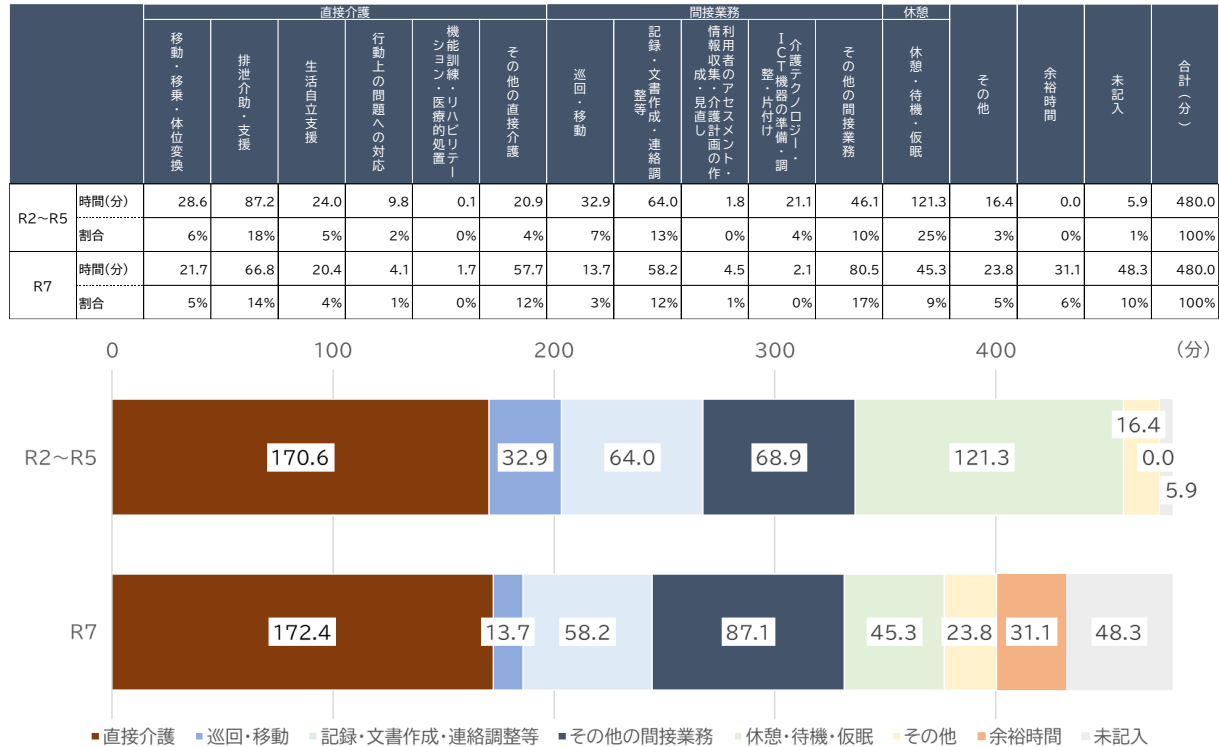
※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

※夜勤職員の過年度データのない施設は集計対象外としている。

2. 加算(Ⅱ)

図表 XII-28 タイムスタディ調査の結果 見守り機器

夜勤職員 生産性向上推進体制加算(Ⅱ)



令和2年度～令和5年度 n=135(7施設)

令和7年度 n=75(7施設)

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から8時間(480分)換算した値。

※夜勤職員の過年度データのない施設は集計対象外としている。

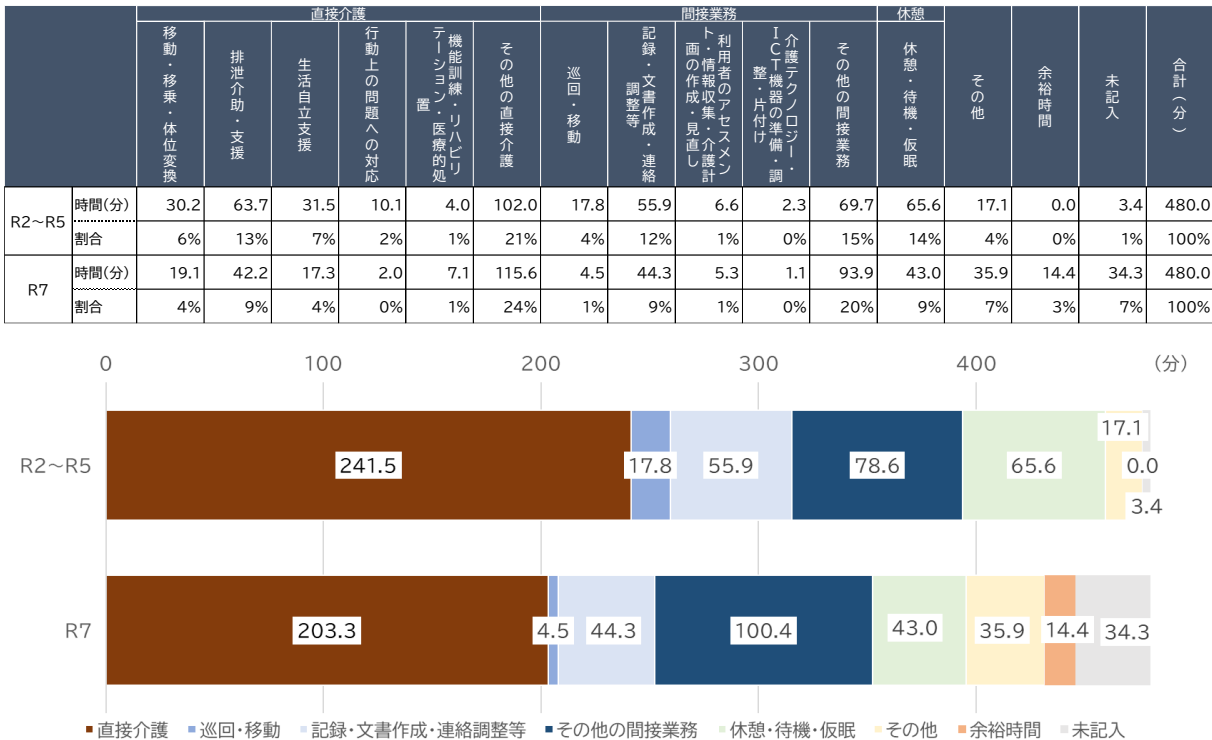
②. 記録業務・連絡調整の効率化

記録業務・連絡調整の効率化に係る取組を実施している施設の調査結果は以下のとおり。
日勤職員及び夜勤職員ともに「記録・文書作成・連絡調整等」に係る時間が減少する結果であった。

ア. 日勤職員

記録業務・連絡調整の効率化に係る取組を実施している施設の日勤職員の調査結果は以下の通り。

図表 XII-29 タイムスタディ調査の結果(介護職員 1 人 1 日(480 分)あたり)
記録業務等 日勤職員



令和 2 年度～令和5年度 n=139(9 施設)
令和7年度 n=135(9 施設)

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。
※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。
※日勤職員の過年度データのない施設は集計対象外としている。

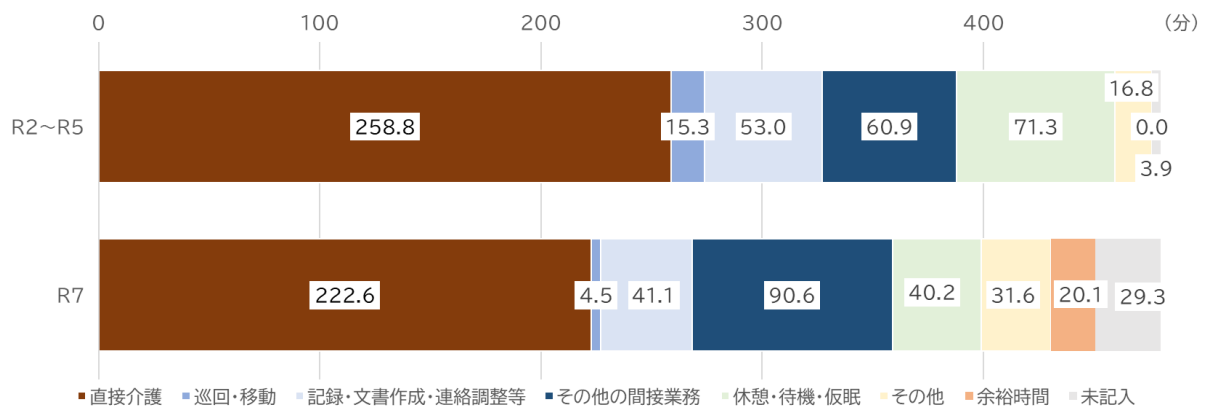
(ア) サービス種別

サービス種別の調査結果は以下の通り。

1. 介護老人福祉施設

図表 XII-30 タイムスタディ調査の結果 記録業務等 日勤職員 介護老人福祉施設

		直接介護						間接業務					休憩		その他	余裕時間	未記入	合計(分)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し	ICT機器の準備・調整・片付け	介護テクノロジー・その他の間接業務	休憩・待機・仮眠					
R2～R5	時間(分)	35.2	70.2	23.7	11.6	1.7	116.5	15.3	53.0	6.1	1.6	53.3	71.3		16.8	0.0	3.9	480.0
	割合	7%	15%	5%	2%	0%	24%	3%	11%	1%	0%	11%	15%		4%	0%	1%	100%
R7	時間(分)	23.1	44.8	16.4	2.0	2.8	133.7	4.5	41.1	3.1	0.5	87.0	40.2		31.6	20.1	29.3	480.0
	割合	5%	9%	3%	0%	1%	28%	1%	9%	1%	0%	18%	8%		7%	4%	6%	100%



令和2年度～令和5年度 n=76(6施設)

令和7年度 n=72(6施設)

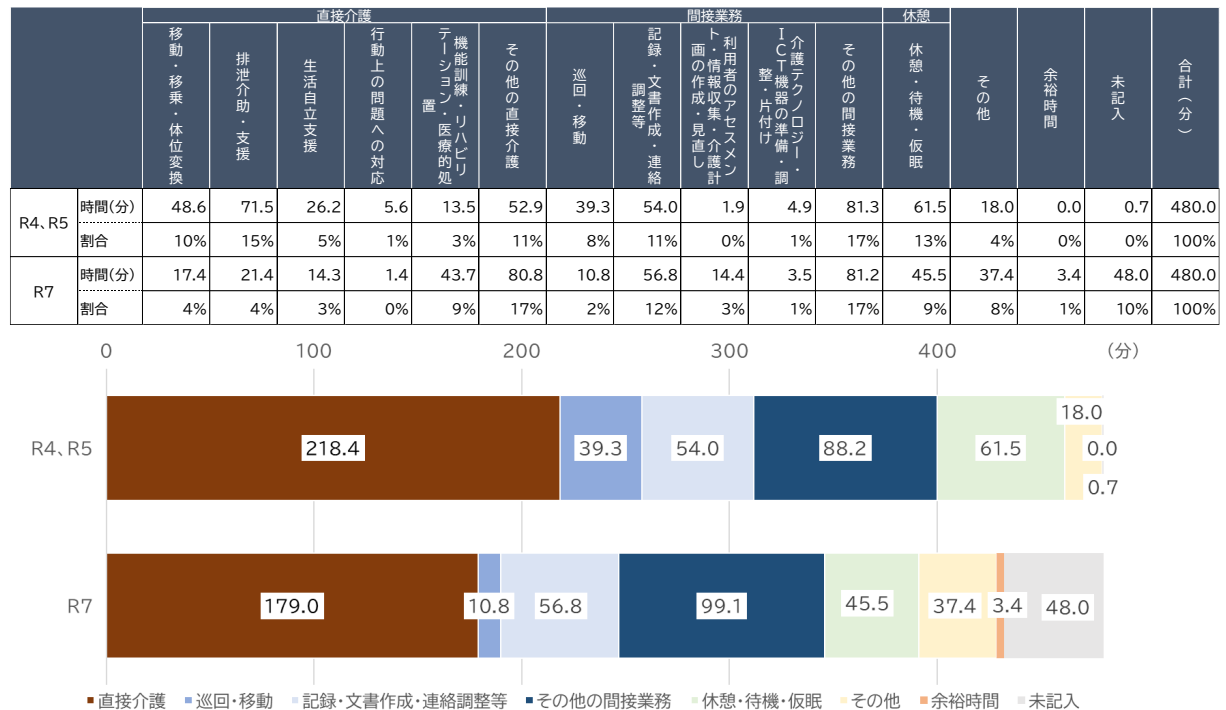
※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から8時間(480分)換算した値。

※日勤職員の過年度データのない施設は集計対象外としている。

2. 介護老人保健施設

図表 XII-31 タイムスタディ調査の結果 記録業務等 日勤職員 介護老人保健施設



令和4年度、令和5年度 n=29(1施設)

令和7年度 n=45(1施設)

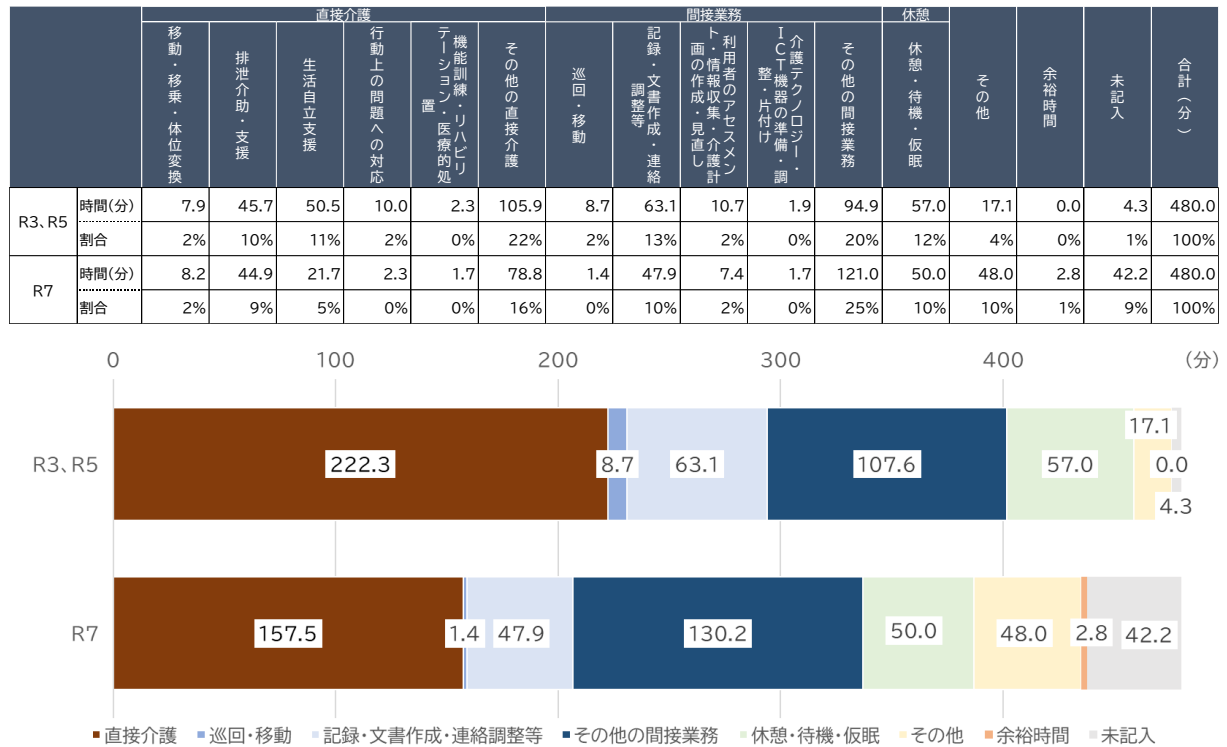
※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から8時間(480分)換算した値。

※日勤職員の過年度データのない施設は集計対象外としている。

3. 認知症対応型共同生活介護

図表 XII-32 タイムスタディ調査の結果 記録業務等
日勤職員 認知症対応型共同生活介護



令和3年度、令和5年度 n=34(2事業所)

令和7年度 n=18(2事業所)

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から8時間(480分)換算した値。

※日勤職員の過年度データのない施設は集計対象外としている。

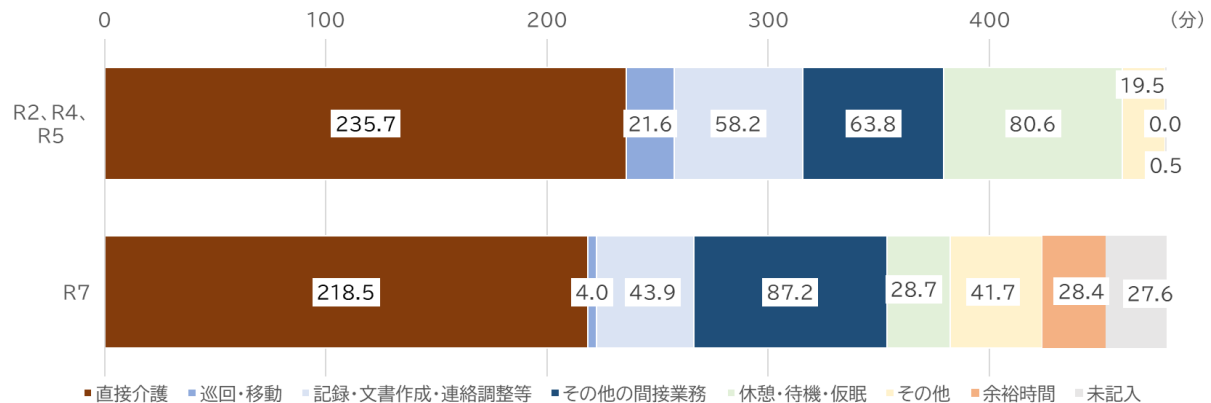
(イ) 生産性向上推進体制加算の算定状況別

生産性向上推進体制加算の算定状況別の調査結果は以下の通り。

1. 加算(Ⅰ)

図表 XII-33 タイムスタディ調査の結果 記録業務等
日勤職員 生産性向上推進体制加算(Ⅰ)

		直接介護						間接業務					休憩		その他	余裕時間	未記入	合計（分）
		移動・移果・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し	介護テクノロジー・ICT機器の準備・調整・片付け	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠					
R2、R4、R5	時間(分)	28.1	68.4	27.5	23.2	3.1	85.5	21.6	58.2	2.7	2.5	58.5	80.6	19.5	0.0	0.5	480.0	
	割合	6%	14%	6%	5%	1%	18%	5%	12%	1%	1%	12%	17%	4%	0%	0%	100%	
R7	時間(分)	20.6	45.6	18.0	1.8	3.7	128.8	4.0	43.9	3.5	0.5	83.1	28.7	41.7	28.4	27.6	480.0	
	割合	4%	9%	4%	0%	1%	27%	1%	9%	1%	0%	17%	6%	9%	6%	6%	100%	



令和 2 年度、令和 4 年度、令和 5 年度 n=28(3 施設)

令和 7 年度 n=23(3 施設)

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

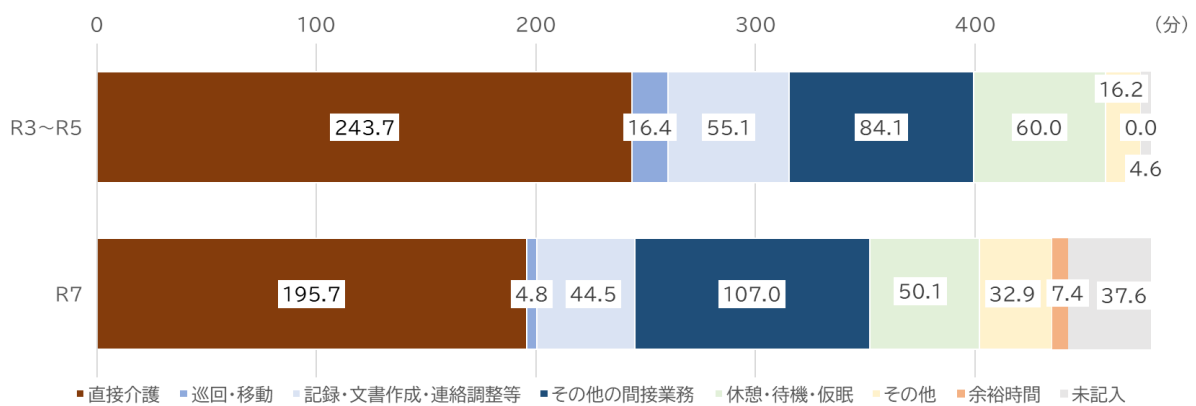
※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

※日勤職員の過年度データのない施設は集計対象外としている。

2. 加算(Ⅱ)

図表 XII-34 タイムスタディ調査の結果 記録業務等
日勤職員 生産性向上推進体制加算(Ⅱ)

		直接介護						間接業務					休憩	その他	余裕時間	未記入	合計（分）
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し	ICT機器の準備・調整・片付け	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠				
R3～R5	時間(分)	31.0	62.0	33.0	5.2	4.3	108.2	16.4	55.1	8.0	2.2	73.9	60.0	16.2	0.0	4.6	480.0
	割合	6%	13%	7%	1%	1%	23%	3%	11%	2%	0%	15%	12%	3%	0%	1%	100%
R7	時間(分)	18.4	40.5	17.0	2.0	8.7	109.1	4.8	44.5	6.2	1.4	99.3	50.1	32.9	7.4	37.6	480.0
	割合	4%	8%	4%	0%	2%	23%	1%	9%	1%	0%	21%	10%	7%	2%	8%	100%



令和3年度～令和5年度 n=111(6施設)

令和7年度 n=112(6施設)

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から8時間(480分)換算した値。

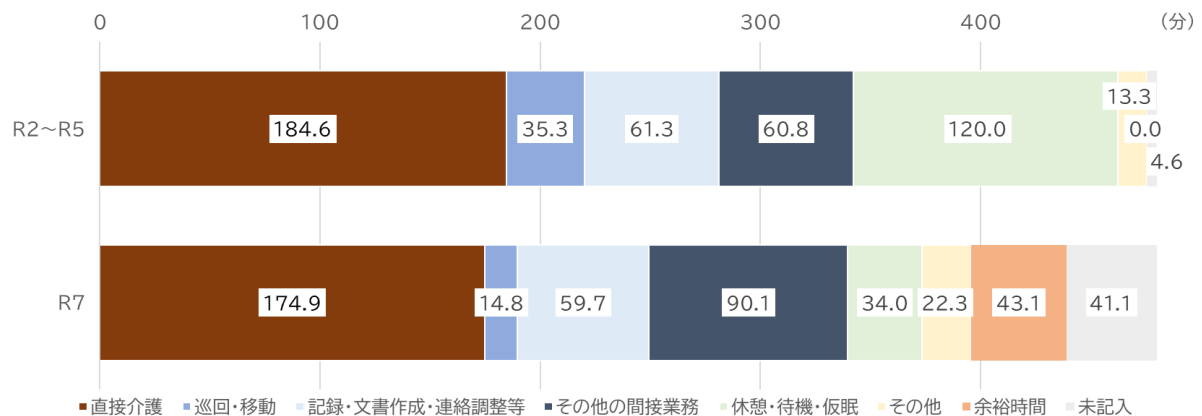
※日勤職員の過年度データのない施設は集計対象外としている。

イ. 夜勤職員

記録業務・連絡調整の効率化に係る取組を実施している施設の夜勤職員の調査結果は以下の通り。

図表 XII-35 タイムスタディ調査の結果(介護職員 1 人 1 日(480 分)あたり)
記録業務等 夜勤職員

		直接介護						間接業務						休憩	その他	余裕時間	未記入	合計（分）
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	情報収集・介護計画の作成・見直し	利用者のアセスメント・作成	ICT機器の準備・調整・片付け	介護技術の準備・調整	その他の間接業務				
R2～R5	時間(分)	33.2	84.2	26.3	21.6	0.1	19.3	35.3	61.3	1.6	17.6	41.6	120.0	13.3	0.0	4.6	480.0	
	割合	7%	18%	5%	4%	0%	4%	7%	13%	0%	4%	9%	25%	3%	0%	1%	100%	
R7	時間(分)	25.1	69.4	12.2	4.1	1.1	62.9	14.8	59.7	5.6	8.6	75.8	34.0	22.3	43.1	41.1	480.0	
	割合	5%	14%	3%	1%	0%	13%	3%	12%	1%	2%	16%	7%	5%	9%	9%	100%	



令和 2 年度～令和5年度 n=155(10施設)

令和7年度 n=81(10施設)

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

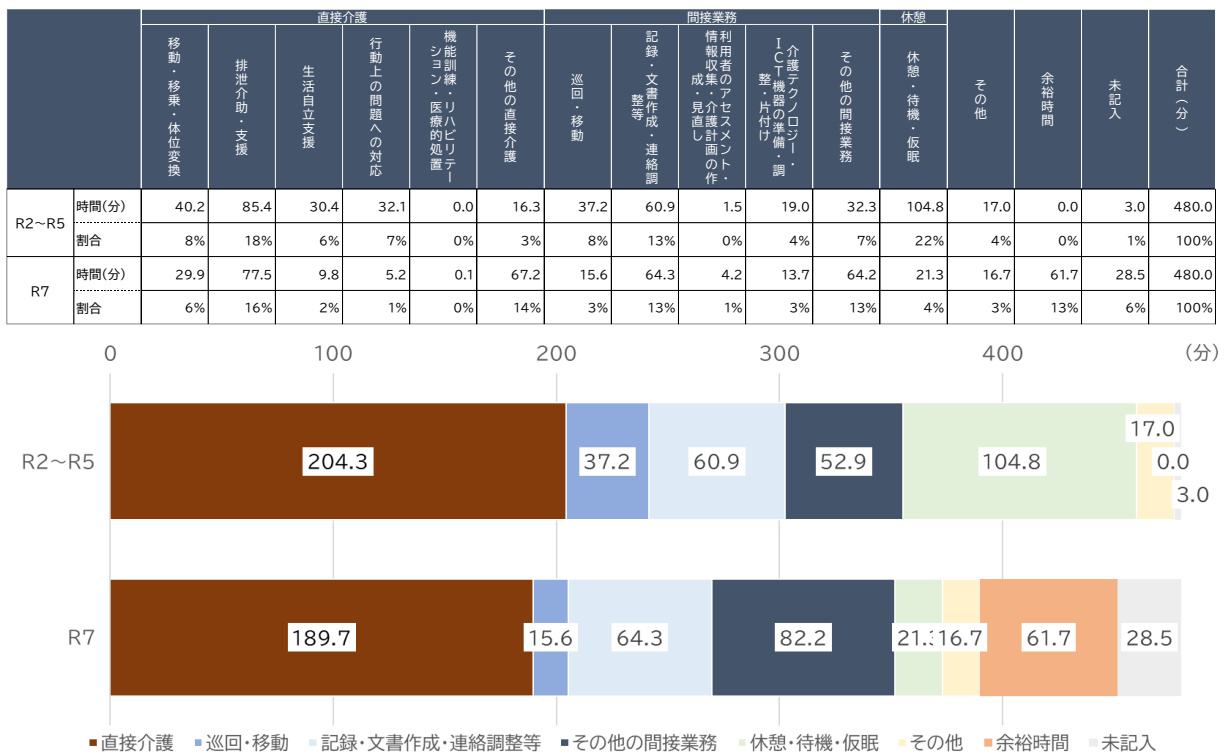
※夜勤職員の過年度データのない施設は集計対象外としている。

(ア) サービス種別

サービス種別の調査結果は以下の通り。

1. 介護老人福祉施設

図表 XII-36 タイムスタディ調査の結果 記録業務等
夜勤職員 介護老人福祉施設



令和2年度～令和5年度 n=29(6施設)

令和7年度 n=51(6施設)

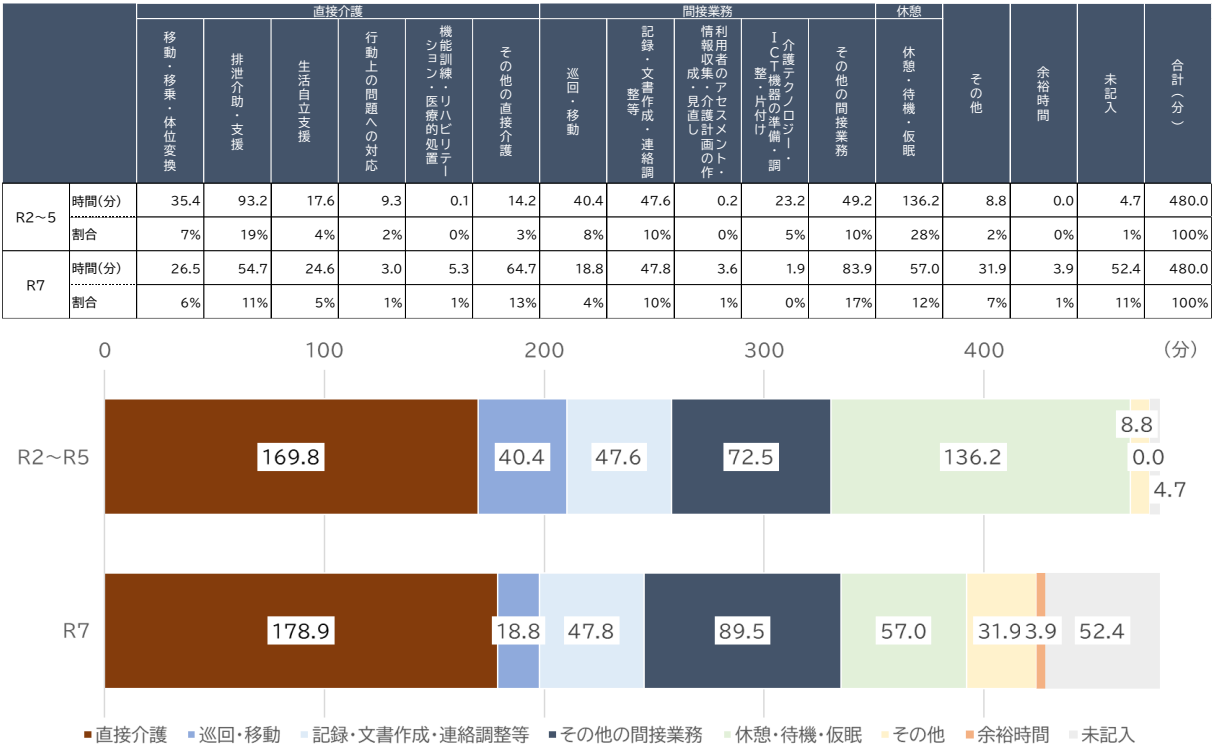
※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から8時間(480分)換算した値。

※夜勤職員の過年度データのない施設は集計対象外としている。

2. 介護老人保健施設

図表 XII-37 タイムスタディ調査の結果 記録業務等
夜勤職員 介護老人保健施設



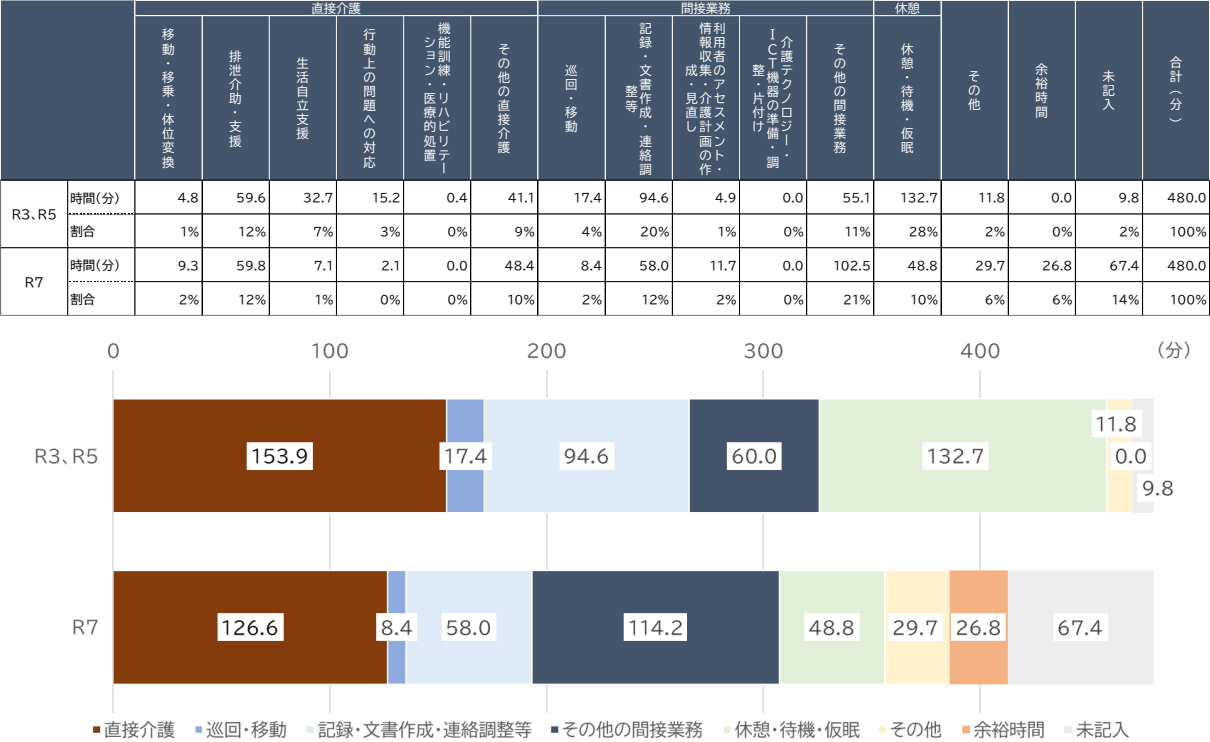
令和 2 年度～令和5年度 n=89(2施設)

令和7年度 n=41(2施設)

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。
※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。
※夜勤職員の過年度データのない施設は集計対象外としている。

3. 認知症対応型共同生活介護

図表 XII-38 タイムスタディ調査の結果 記録業務等
夜勤職員 認知症対応型共同生活介護



令和3年度、令和5年度 n=15(2事業所)
令和7年度 n=11(2事業所)

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。
※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。
※夜勤職員の過年度データのない施設は集計対象外としている。

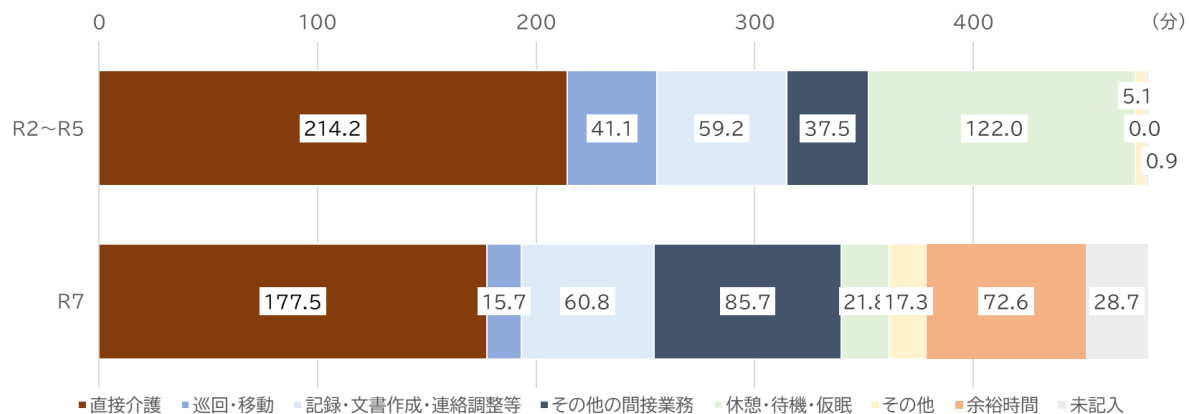
(イ) 生産性向上推進体制加算の算定状況別

生産性向上推進体制加算の算定状況別の調査結果は以下の通り。

1. 加算(Ⅰ)

図表 XII-39 タイムスタディ調査の結果 記録業務等
夜勤職員 生産性向上推進体制加算(Ⅰ)

		直接介護						間接業務						休憩	その他	余裕時間	未記入	合計（分）
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	情報収集・アセスメントの作成・見直し計画の作成	利用者のアセスメント・ICT機器の準備・調整・片付け	介護テクノロジー・ICT機器の準備・調整	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠				
R2～R5	時間(分)	44.0	77.5	30.7	49.4	0.0	12.6	41.1	59.2	0.8	6.2	30.6	122.0	5.1	0.0	0.9	480.0	
	割合	9%	16%	6%	10%	0%	3%	9%	12%	0%	1%	6%	25%	1%	0%	0%	100%	
R7	時間(分)	30.9	78.8	8.0	3.1	0.0	56.7	15.7	60.8	6.1	17.9	61.7	21.8	17.3	72.6	28.7	480.0	
	割合	6%	16%	2%	1%	0%	12%	3%	13%	1%	4%	13%	5%	4%	15%	6%	100%	



令和2年度～令和5年度 n=53(4施設)

令和7年度 n=18(4施設)

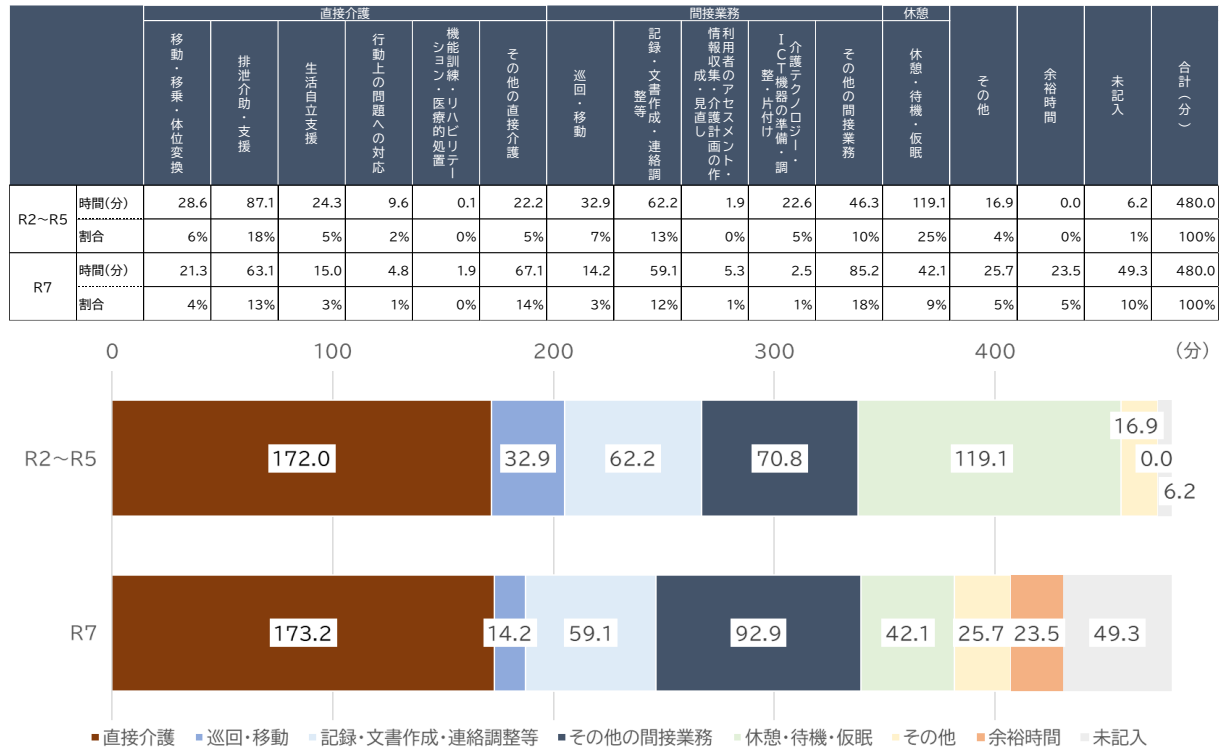
※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から8時間(480分)換算した値。

※夜勤職員の過年度データのない施設は集計対象外としている。

2. 加算(Ⅱ)

図表 XII-40 タイムスタディ調査の結果 記録業務等
夜勤職員 生産性向上推進体制加算(Ⅱ)



令和2年度～令和5年度 n=126(6施設)

令和7年度 n=63(6施設)

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から8時間(480分)換算した値。

※夜勤職員の過年度データのない施設は集計対象外としている。

(3) 職員向けアンケート調査結果

職員向けアンケート調査結果は以下の通り。

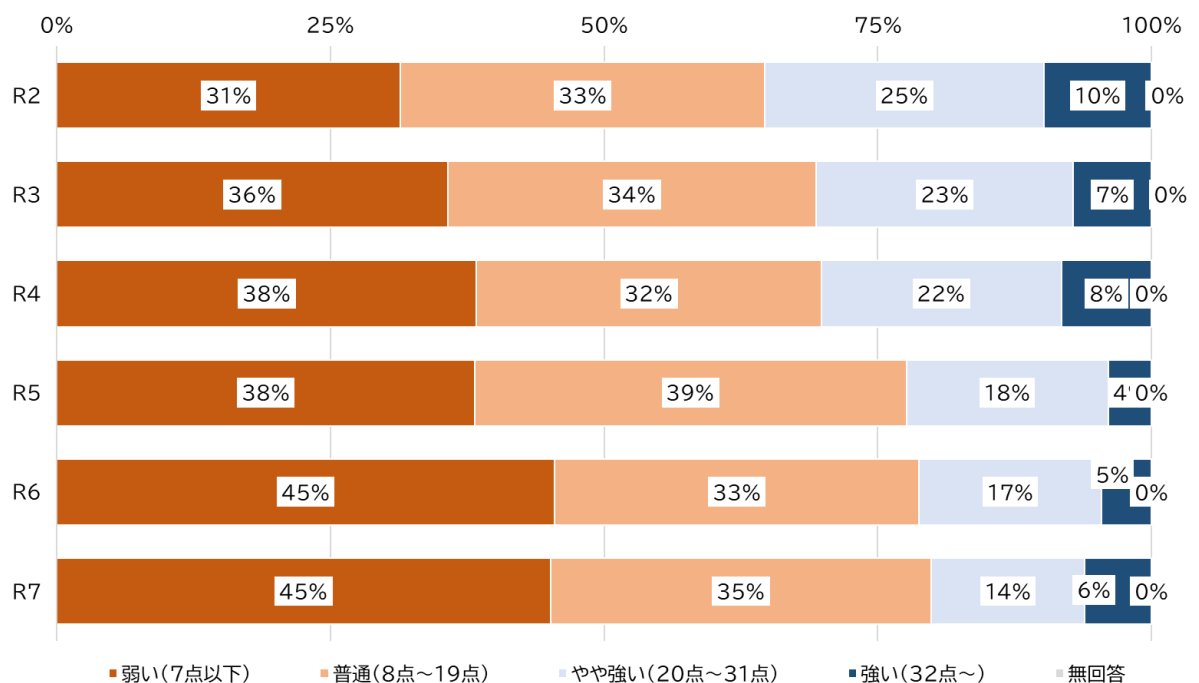
なお、追加集計による分析については、過年度調査における事前調査の調査項目にある、心理的負担評価(SRS-18)のみとした。

ア. 心理的負担評価(SRS-18)

心理的負担評価(SRS-18)の結果は以下の通り。

図表 XII-41 職員向けアンケート調査 心理的負担評価(SRS-18)結果

		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
R2	人数(人)	16	17	13	5	0	51
	割合	31%	33%	25%	10%	0%	100%
R3	人数(人)	35	33	23	7	0	98
	割合	36%	34%	23%	7%	0%	100%
R4	人数(人)	28	23	16	6	0	73
	割合	38%	32%	22%	8%	0%	100%
R5	人数(人)	29	30	14	3	0	76
	割合	38%	39%	18%	4%	0%	100%
R6	人数(人)	60	44	22	6	0	132
	割合	45%	33%	17%	5%	0%	100%
R7	人数(人)	184	142	57	25	0	408
	割合	45%	35%	14%	6%	0%	100%

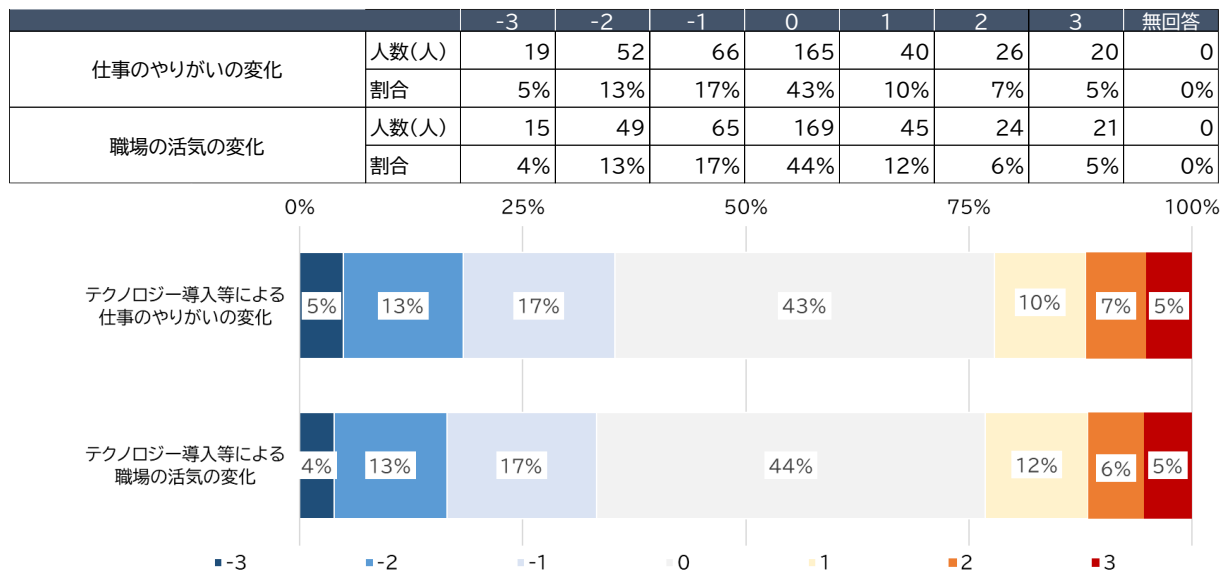


※心理的負担評価(SRS-18)は、18項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19点を「普通」、20～31点を「やや強い」、32点以上を「強い」と評価した。

イ. 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

生産性向上の取組によるモチベーションの変化の結果は以下の通り。

図表 XII-42 職員向けアンケート調査 生産性向上の取組によるモチベーションの変化



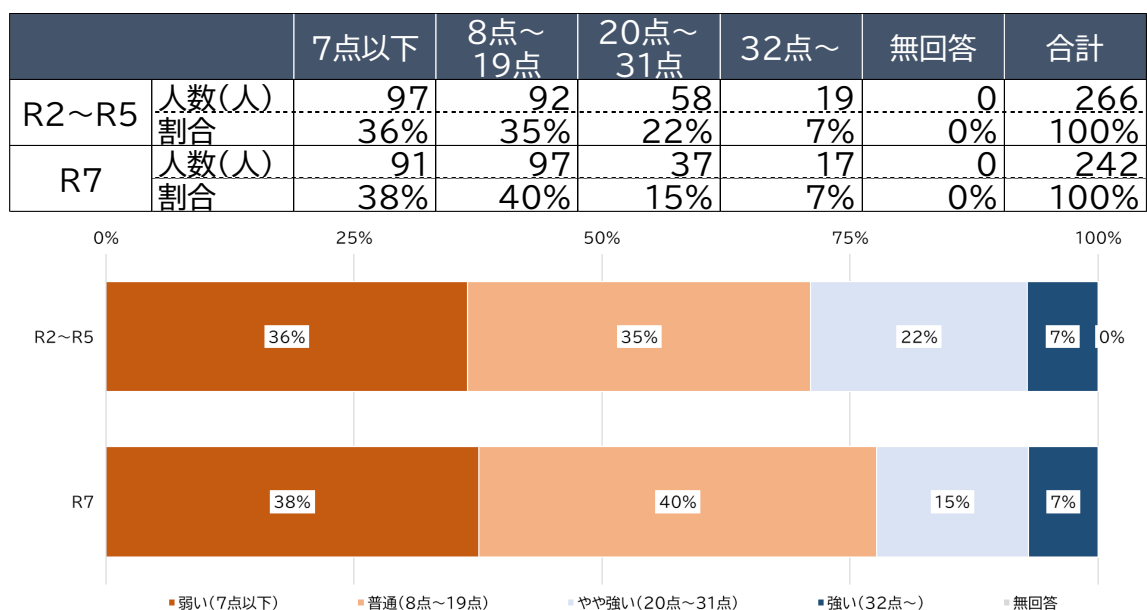
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。

① 見守り機器の導入・活用

ア. 心理的負担評価(SRS-18)

心理的負担評価(SRS-18)の結果は以下の通り。

図表 XII-43 職員向けアンケート調査 心理的負担評価(SRS-18)結果 見守り機器



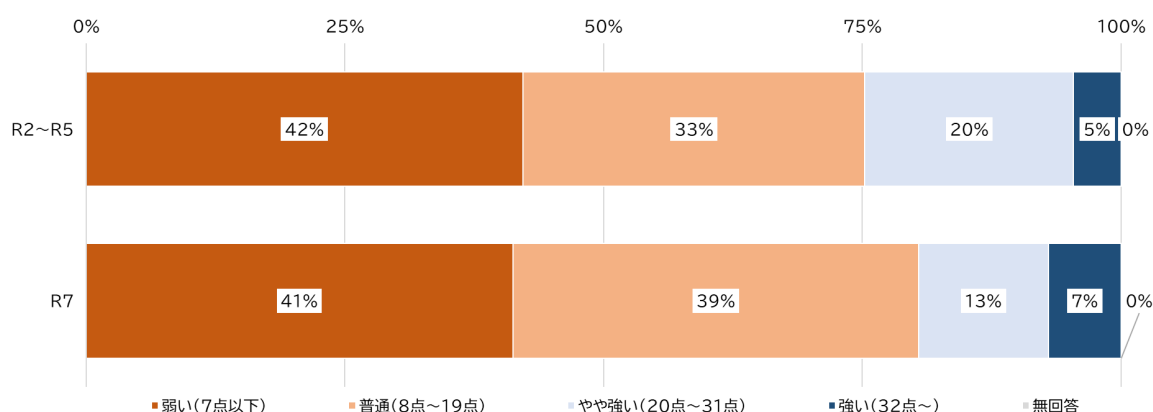
※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0 点)」～「その通りだ(3 点)」で評価する。合計点が 0～7 点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。

(ア) サービス種別

1. 介護老人福祉施設

図表 XII-44 職員向けアンケート調査 心理的負担評価(SRS-18)結果
見守り機器 介護老人福祉施設

		7点以下	8点～ 19点	20点～ 31点	32点～	無回答	合計
R2～R5	人数(人)	46	36	22	5	0	109
	割合	42%	33%	20%	5%	0%	100%
R7	人数(人)	59	56	18	10	0	143
	割合	41%	39%	13%	7%	0%	100%

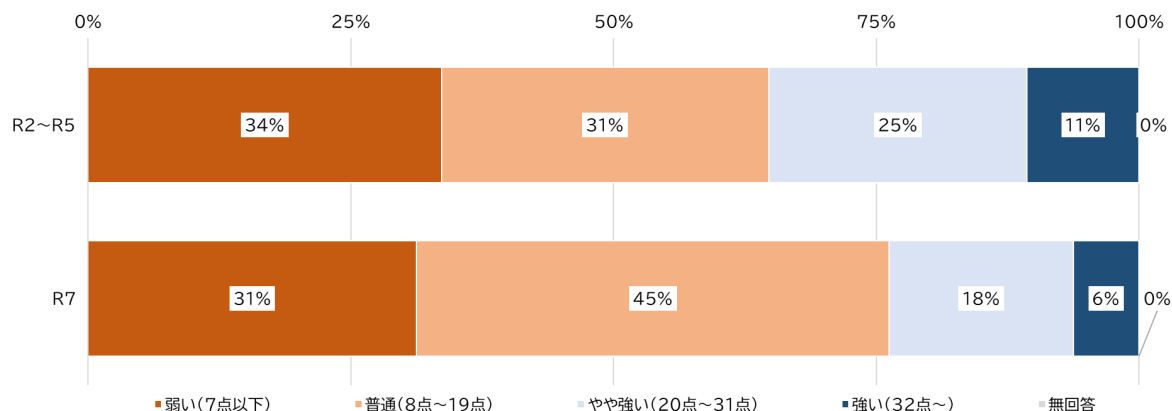


※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0 点)」～「その通りだ(3 点)」で評価する。合計点が 0～7 点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。

2. 介護老人保健施設

図表 XII-45 職員向けアンケート調査 心理的負担評価(SRS-18)結果
見守り機器 介護老人保健施設

		7点以下	8点～ 19点	20点～ 31点	32点～	無回答	合計
R2～R5	人数(人)	41	38	30	13	0	122
	割合	34%	31%	25%	11%	0%	100%
R7	人数(人)	25	36	14	5	0	80
	割合	31%	45%	18%	6%	0%	100%

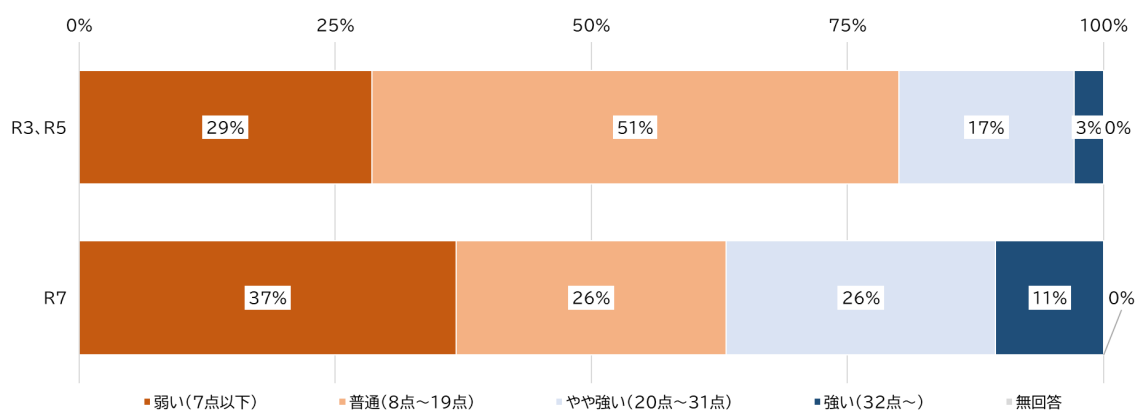


※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0 点)」～「その通りだ(3 点)」で評価する。合計点が 0～7 点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。

3. 認知症対応型共同生活介護

図表 XII-46 職員向けアンケート調査 心理的負担評価(SRS-18)結果
見守り機器 認知症対応型共同生活介護

		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
R3、R5	人数(人)	10	18	6	1	0	35
	割合	29%	51%	17%	3%	0%	100%
R7	人数(人)	7	5	5	2	0	19
	割合	37%	26%	26%	11%	0%	100%

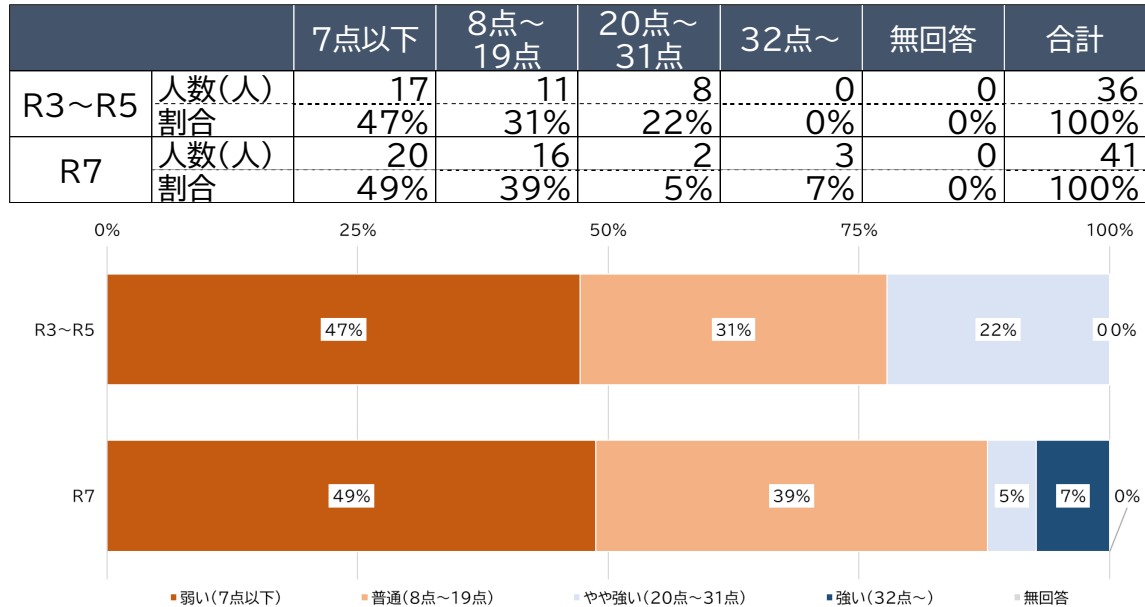


※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0 点)」～「その通りだ(3 点)」で評価する。合計点が 0～7 点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。

(イ) 生産性向上推進体制加算の算定状況別

1. 生産性向上推進体制加算(Ⅰ)

図表 XII-47 職員向けアンケート調査 心理的負担評価(SRS-18)結果
見守り機器 生産性向上推進体制加算(Ⅰ)

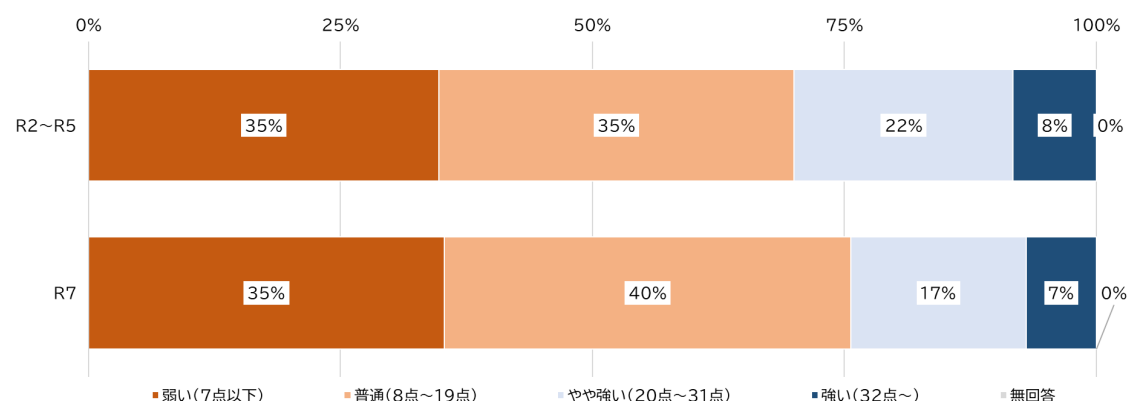


※心理的負担評価(SRS-18)は、18項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19点を「普通」、20～31点を「やや強い」、32点以上を「強い」と評価した。

2. 生産性向上推進体制加算(Ⅱ)

図表 XII-48 職員向けアンケート調査 心理的負担評価(SRS-18)結果
見守り機器 生産性向上推進体制加算(Ⅱ)

		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
R2～R5	人数(人)	80	81	50	19	0	230
	割合	35%	35%	22%	8%	0%	100%
R7	人数(人)	71	81	35	14	0	201
	割合	35%	40%	17%	7%	0%	100%



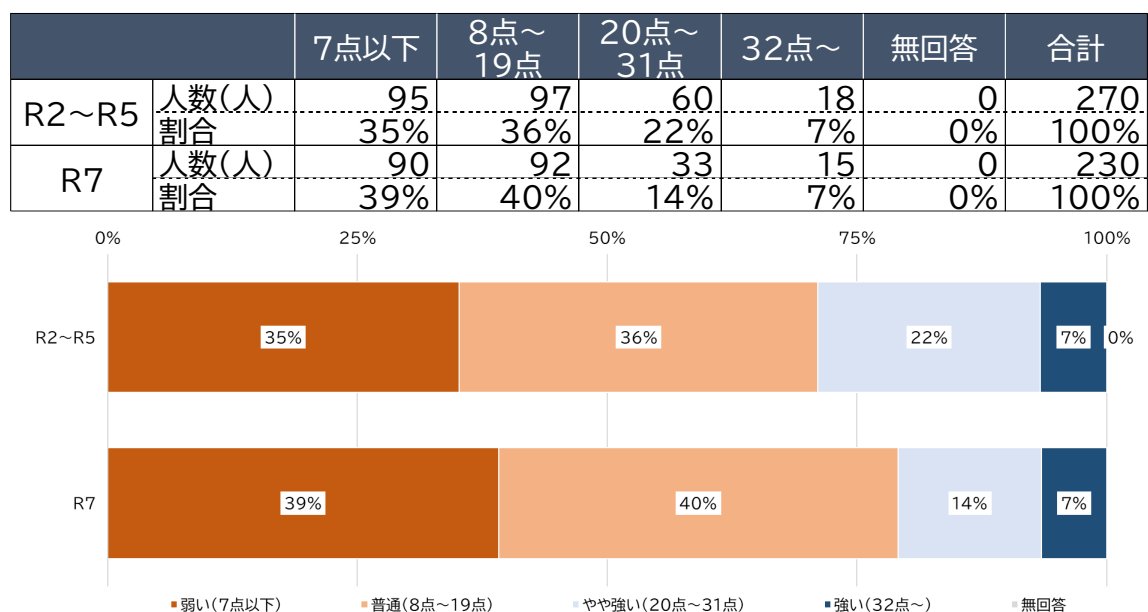
※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0 点)」～「その通りだ(3 点)」で評価する。合計点が 0～7 点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。

② 記録業務・連絡調整の効率化

ア. 心理的負担評価(SRS-18)

心理的負担評価(SRS-18)の結果は以下の通り。

図表 XII-49 職員向けアンケート調査 心理的負担評価(SRS-18)結果 記録業務等

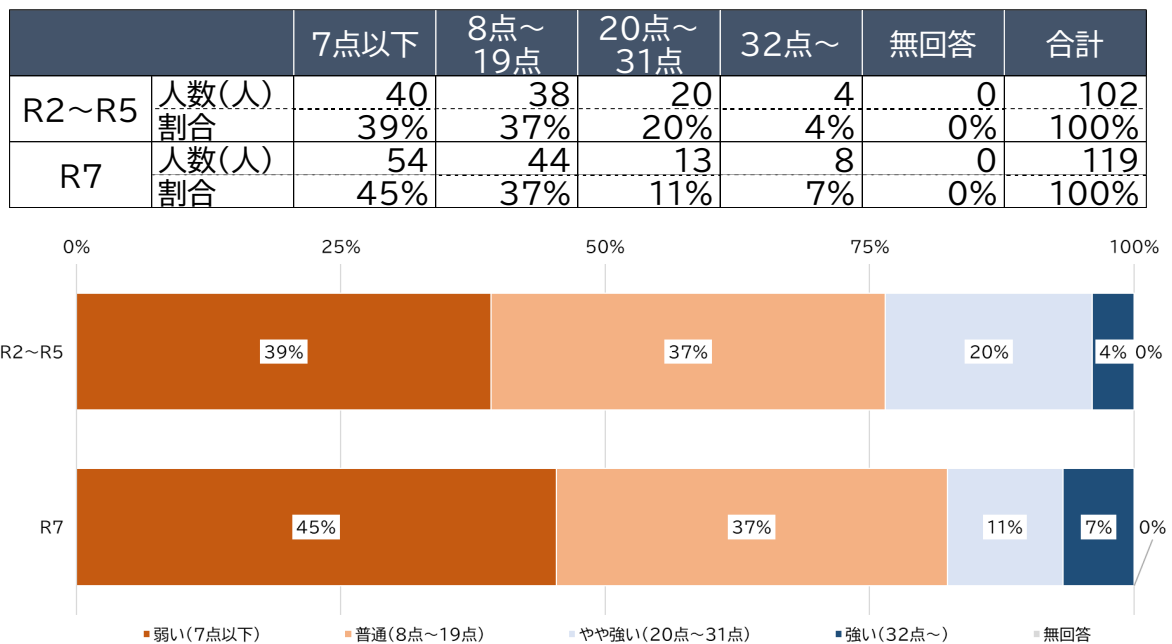


※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0 点)」～「その通りだ(3 点)」で評価する。合計点が 0～7 点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。

(ア) サービス種別

1. 介護老人福祉施設

図表 XII-50 職員向けアンケート調査 心理的負担評価(SRS-18)結果
記録業務等 介護老人福祉施設

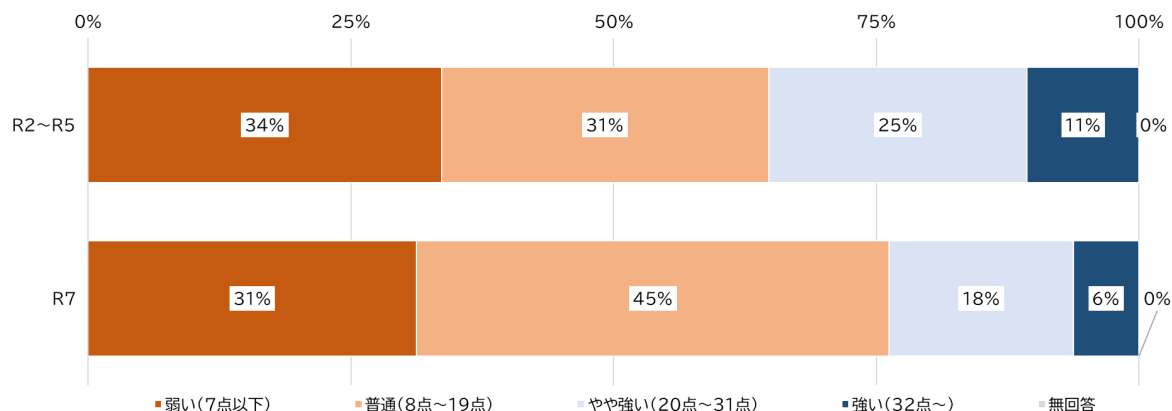


※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0 点)」～「その通りだ(3 点)」で評価する。合計点が 0～7 点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。

2. 介護老人保健施設

図表 XII-51 職員向けアンケート調査 心理的負担評価(SRS-18)結果
記録業務等 介護老人保健施設

		7点以下	8点～ 19点	20点～ 31点	32点～	無回答	合計
R2～R5	人数(人)	41	38	30	13	0	122
	割合	34%	31%	25%	11%	0%	100%
R7	人数(人)	25	36	14	5	0	80
	割合	31%	45%	18%	6%	0%	100%

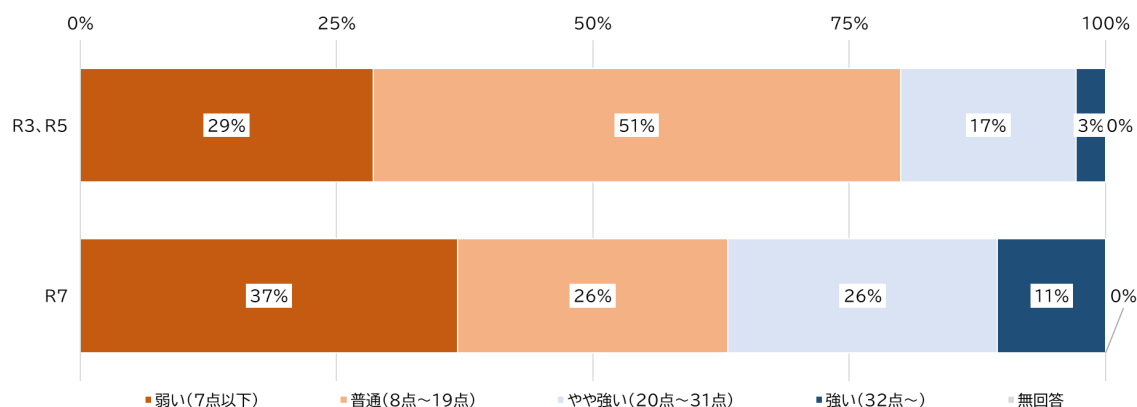


※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0 点)」～「その通りだ(3 点)」で評価する。合計点が 0～7 点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。

3. 認知症対応型共同生活介護

図表 XII-52 職員向けアンケート調査 心理的負担評価(SRS-18)結果
記録業務等 認知症対応型共同生活介護

		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
R3、R5	人数(人)	10	18	6	1	0	35
	割合	29%	51%	17%	3%	0%	100%
R7	人数(人)	7	5	5	2	0	19
	割合	37%	26%	26%	11%	0%	100%

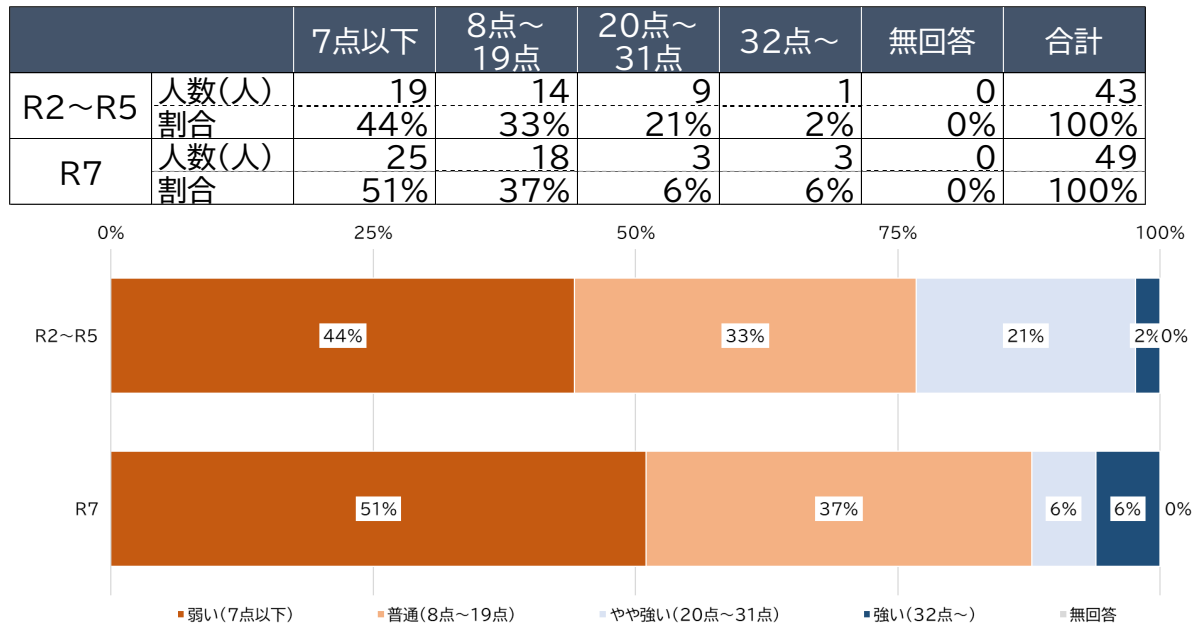


※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0 点)」～「その通りだ(3 点)」で評価する。合計点が 0～7 点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。

(イ) 生産性向上推進体制加算の算定状況別

1. 生産性向上推進体制加算(Ⅰ)

図表 XII-53 職員向けアンケート調査 心理的負担評価(SRS-18)結果
記録業務等 生産性向上推進体制加算(Ⅰ)

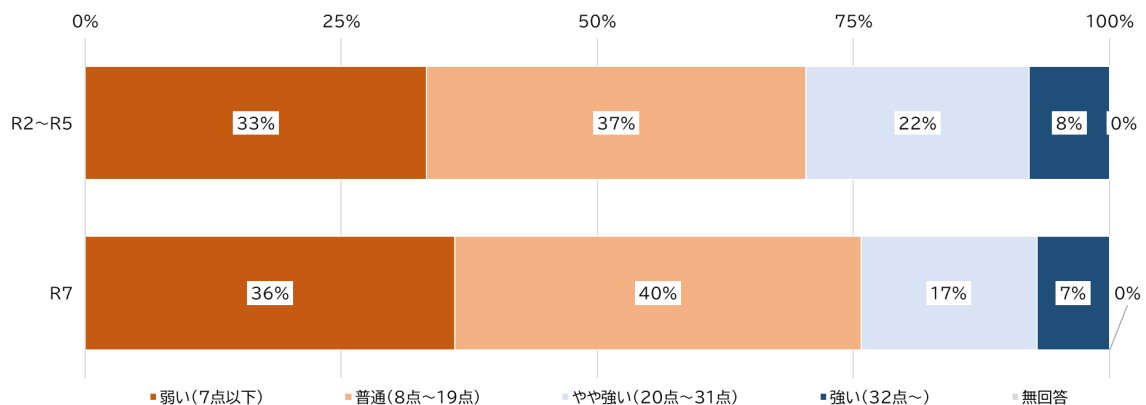


※心理的負担評価(SRS-18)は、18項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19点を「普通」、20～31点を「やや強い」、32点以上を「強い」と評価した。

2. 生産性向上推進体制加算(Ⅱ)

図表 XII-54 職員向けアンケート調査 心理的負担評価(SRS-18)結果
記録業務等 生産性向上推進体制加算(Ⅱ)

		7点以下	8点～ 19点	20点～ 31点	32点～	無回答	合計
R2～R5	人数(人)	72	80	47	17	0	216
	割合	33%	37%	22%	8%	0%	100%
R7	人数(人)	61	67	29	12	0	169
	割合	36%	40%	17%	7%	0%	100%



※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0 点)」～「その通りだ(3 点)」で評価する。合計点が 0～7 点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。

(4) 利用者向けアンケート調査結果

利用者アンケート調査結果は以下の通り。

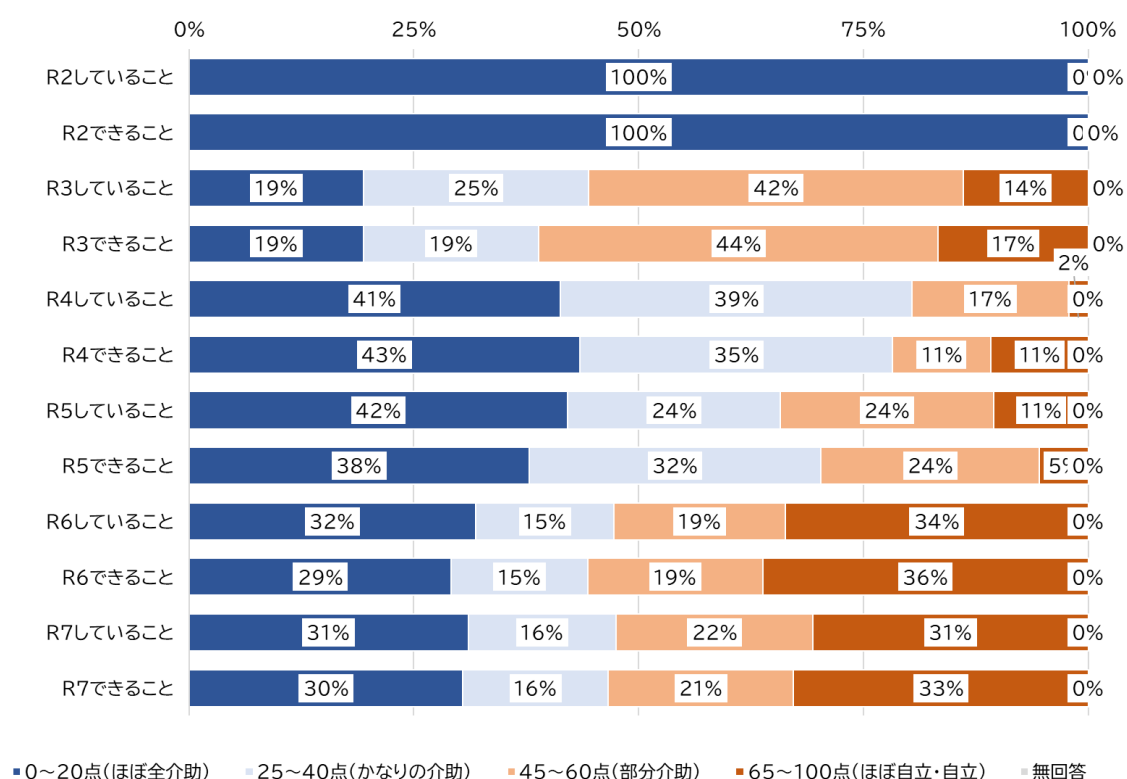
なお、追加集計による分析については、生産性向上の取組による影響が、直接的にADLや認知機能等に影響するものだけではないことを踏まえ、QOLの変化のみとした。

ア. ADL の変化

日常生活動作(ADL)(Barthel Index)の変化は以下の通り。

図表 XII-55 利用者向けアンケート調査 日常生活動作(ADL)(Barthel Index)

			0点～20点	25点～40点	45点～60点	65点～100点	無回答	合計
していること	R2	人数(人)	26	0	0	0	0	26
		割合	100%	0%	0%	0%	0%	100%
できること	R2	人数(人)	26	0	0	0	0	26
		割合	100%	0%	0%	0%	0%	100%
していること	R3	人数(人)	7	9	15	5	0	36
		割合	19%	25%	42%	14%	0%	100%
できること	R3	人数(人)	7	7	16	6	0	36
		割合	19%	19%	44%	17%	0%	100%
していること	R4	人数(人)	19	18	8	1	0	46
		割合	41%	39%	17%	2%	0%	100%
できること	R4	人数(人)	20	16	5	5	0	46
		割合	43%	35%	11%	11%	0%	100%
していること	R5	人数(人)	16	9	9	4	0	38
		割合	42%	24%	24%	11%	0%	100%
できること	R5	人数(人)	14	12	9	2	0	37
		割合	38%	32%	24%	5%	0%	100%
していること	R6	人数(人)	141	68	84	149	0	442
		割合	32%	15%	19%	34%	0%	100%
できること	R6	人数(人)	129	67	86	160	0	442
		割合	29%	15%	19%	36%	0%	100%
していること	R7	人数(人)	217	115	153	214	0	699
		割合	31%	16%	22%	31%	0%	100%
できること	R7	人数(人)	213	113	144	229	0	699
		割合	30%	16%	21%	33%	0%	100%

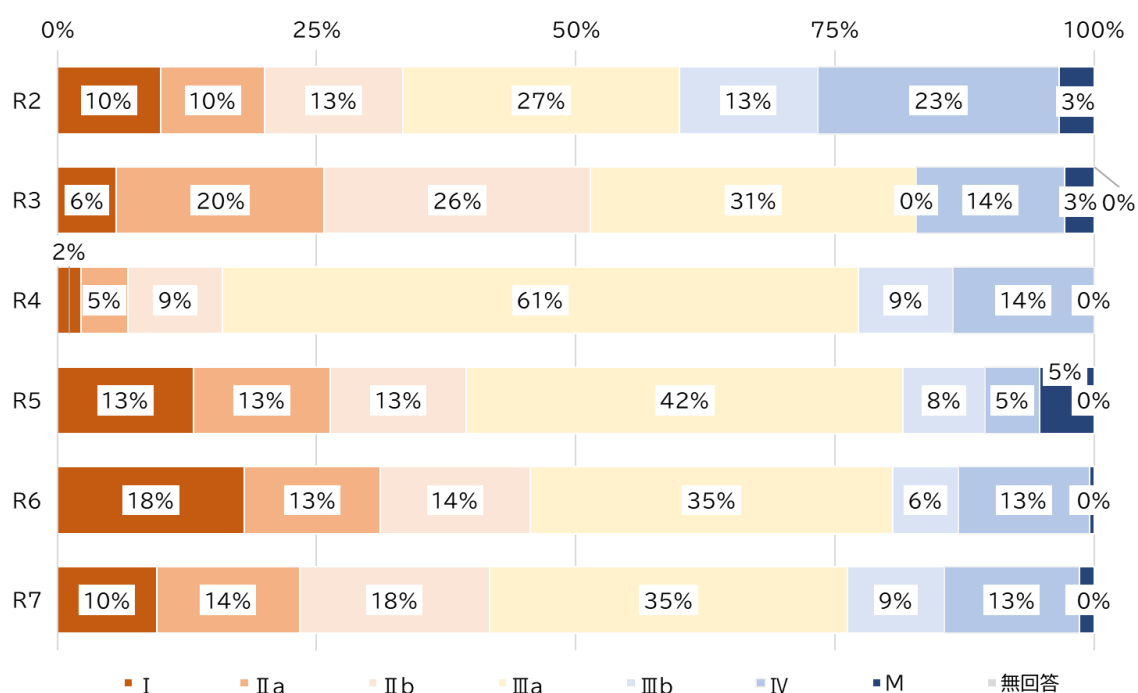


イ. 認知機能の変化(認知症高齢者の日常生活自立度)

認知症高齢者の日常生活自立度の変化は以下の通り。

図表 XII-56 利用者向けアンケート調査 認知症高齢者の日常生活自立度

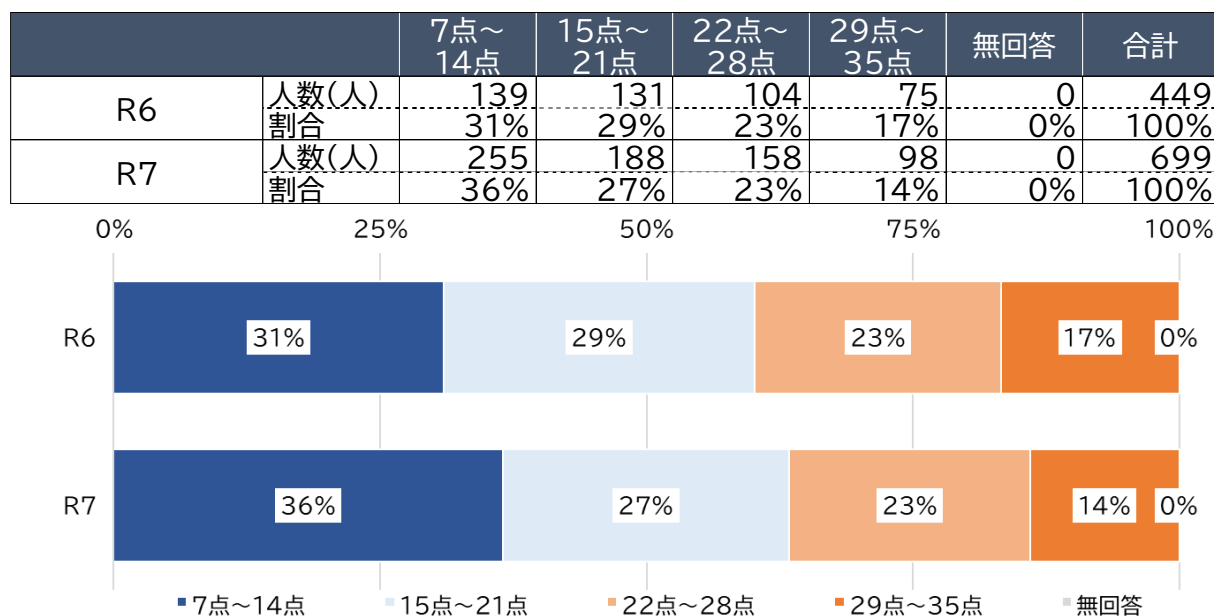
		I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	無回答	合計
R2	人数(人)	3	3	4	8	4	7	1	0	30
	割合	10%	10%	13%	27%	13%	23%	3%	0%	100%
R3	人数(人)	2	7	9	11	0	5	1	0	35
	割合	6%	20%	26%	31%	0%	14%	3%	0%	100%
R4	人数(人)	1	2	4	27	4	6	0	0	44
	割合	2%	5%	9%	61%	9%	14%	0%	0%	100%
R5	人数(人)	5	5	5	16	3	2	2	0	38
	割合	13%	13%	13%	42%	8%	5%	5%	0%	100%
R6	人数(人)	80	58	64	155	28	56	2	0	443
	割合	18%	13%	14%	35%	6%	13%	0%	0%	100%
R7	人数(人)	67	96	128	241	65	91	10	0	698
	割合	10%	14%	18%	35%	9%	13%	1%	0%	100%



ウ. 認知症行動の変化(生活・認知機能尺度)

生活・認知機能尺度の変化は以下の通り。

図表 XII-57 利用者向けアンケート調査 生活・認知機能尺度の変化



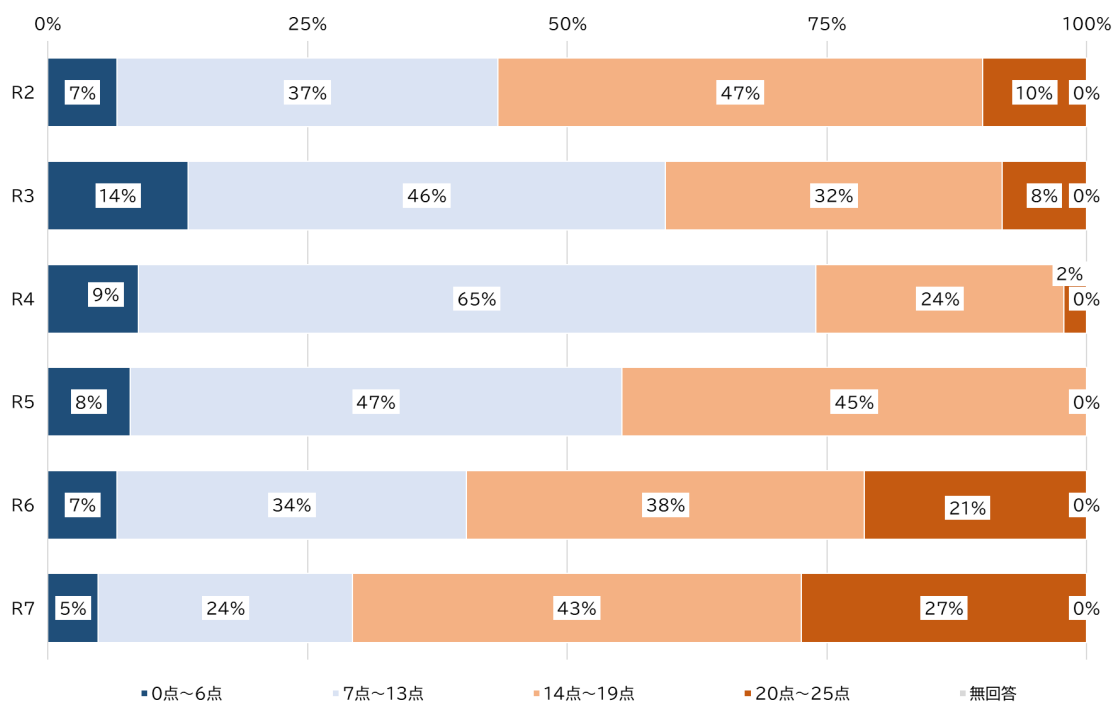
※令和2年度～令和5年度は当時の調査項目にないため省略。

エ. QOL の変化(WHO-5)

QOL 変化の結果は以下の通り。

図表 XII-58 利用者向けアンケート調査 QOL の変化(WHO-5)

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
R2	人数(人)	2	11	14	3	0	30
	割合	7%	37%	47%	10%	0%	100%
R3	人数(人)	5	17	12	3	0	37
	割合	14%	46%	32%	8%	0%	100%
R4	人数(人)	4	30	11	1	0	46
	割合	9%	65%	24%	2%	0%	100%
R5	人数(人)	3	18	17	0	0	38
	割合	8%	47%	45%	0%	0%	100%
R6	人数(人)	30	151	172	96	0	449
	割合	7%	34%	38%	21%	0%	100%
R7	人数(人)	34	171	302	192	0	699
	割合	5%	24%	43%	27%	0%	100%



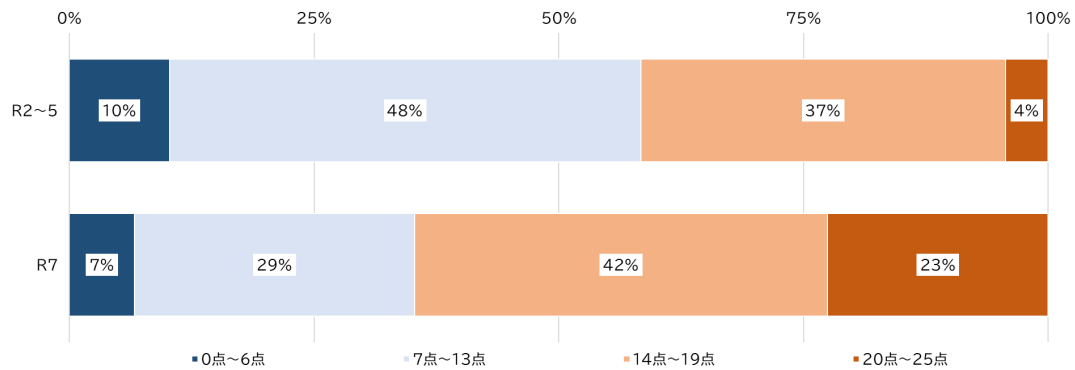
※各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近 2 週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

① 見守り機器の導入・活用

図表 XII-59 利用者向けアンケート調査 QOL の変化(WHO-5)の調査結果 見守り機器

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
R2～R5	人数(人)	14	66	51	6	0	137
	割合	10%	48%	37%	4%	0%	100%
R7	人数(人)	25	108	159	85	0	377
	割合	7%	29%	42%	23%	0%	100%



※各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近 2 週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

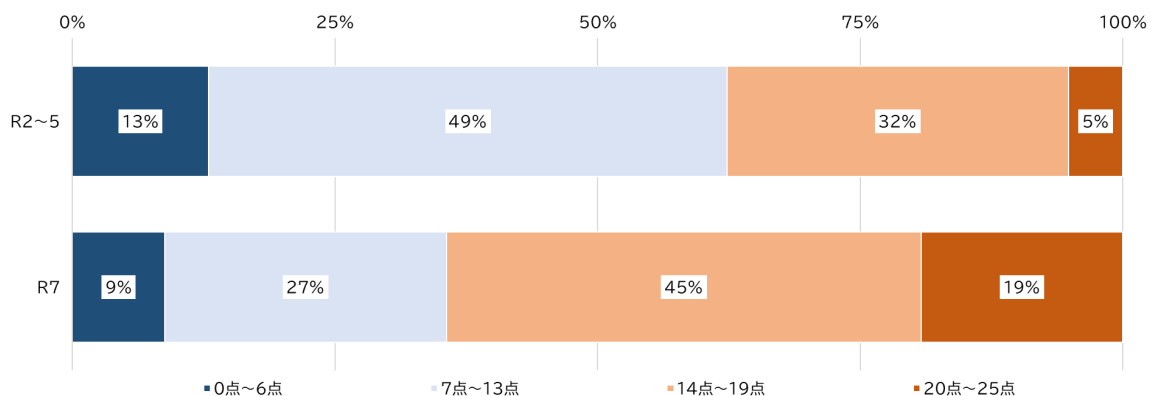
ア. QOL の変化(WHO-5)

(ア) サービス種別

1. 介護老人福祉施設

図表 XII-60 利用者向けアンケート調査 QOL の変化(WHO-5)の調査結果
見守り機器 介護老人福祉施設

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
R2～R5	人数(人)	10	38	25	4	0	77
	割合	13%	49%	32%	5%	0%	100%
R7	人数(人)	22	67	113	48	0	250
	割合	9%	27%	45%	19%	0%	100%



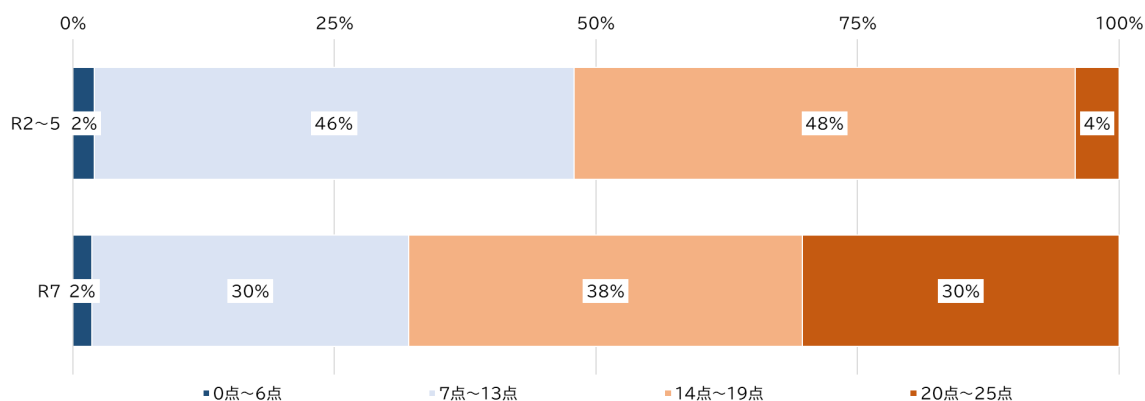
※各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近 2 週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

2. 介護老人保健施設

図表 XII-61 利用者向けアンケート調査 QOL の変化(WHO-5)の調査結果
見守り機器 介護老人保健施設

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
R2～R5	人数(人)	1	22	23	2	0	48
	割合	2%	46%	48%	4%	0%	100%
R7	人数(人)	2	33	41	33	0	109
	割合	2%	30%	38%	30%	0%	100%



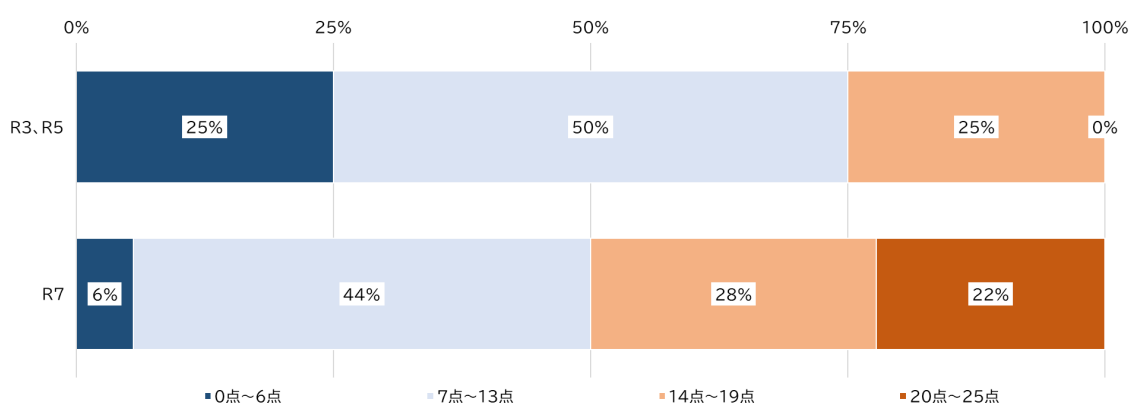
※各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近 2 週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

3. 認知症対応型共同生活介護

図表 XII-62 利用者向けアンケート調査 QOL の変化(WHO-5)の調査結果
見守り機器 認知症対応型共同生活介護

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
R3、R5	人数(人)	3	6	3	0	0	12
	割合	25%	50%	25%	0%	0%	100%
R7	人数(人)	1	8	5	4	0	18
	割合	6%	44%	28%	22%	0%	100%



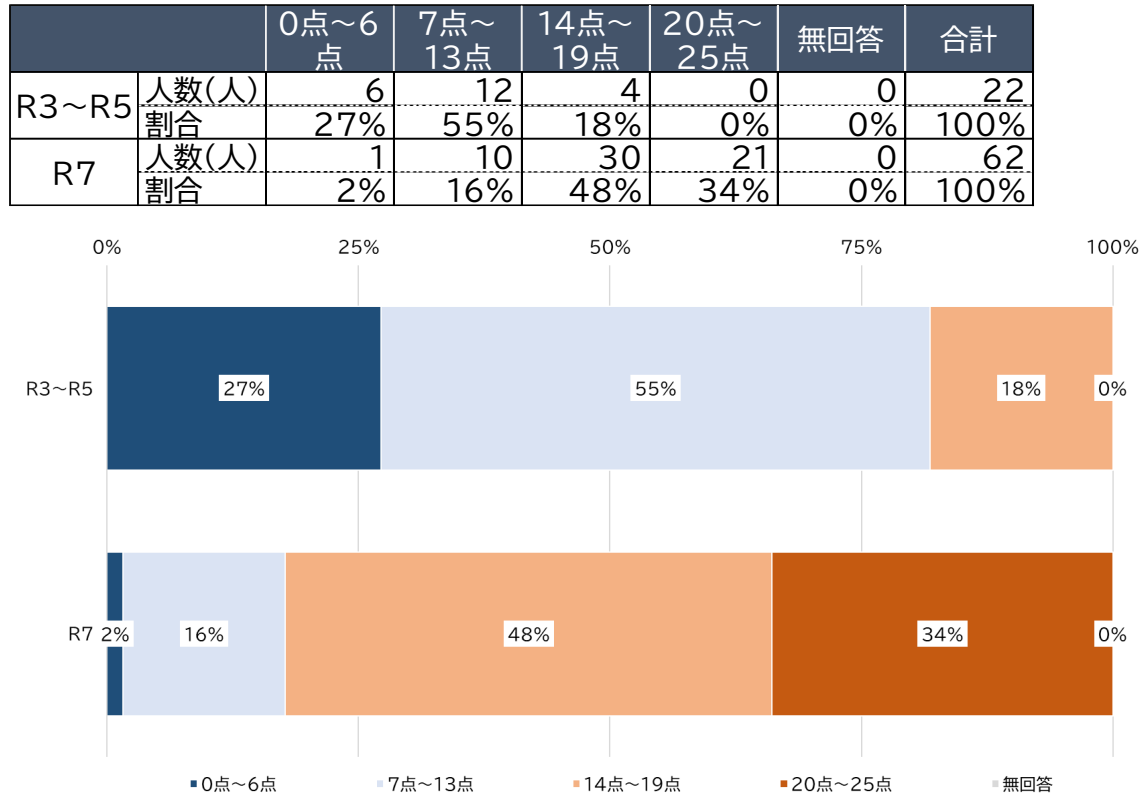
※各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近 2 週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

(イ) 生産性向上推進体制加算の算定状況別

1. 生産性向上推進体制加算(Ⅰ)

図表 XII-63 利用者向けアンケート調査 QOL の変化(WHO-5)の調査結果
見守り機器 生産性向上推進体制加算(Ⅰ)



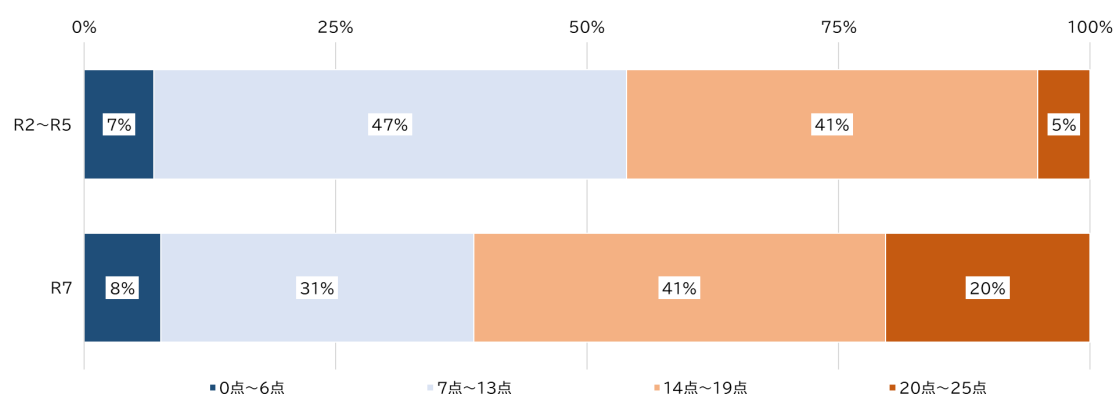
※各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近 2 週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

2. 生産性向上推進体制加算(Ⅱ)

図表 XII-64 利用者向けアンケート調査 QOL の変化(WHO-5)の調査結果
見守り機器 生産性向上推進体制加算(Ⅱ)

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
R2～R5	人数(人)	8	54	47	6	0	115
	割合	7%	47%	41%	5%	0%	100%
R7	人数(人)	24	98	129	64	0	315
	割合	8%	31%	41%	20%	0%	100%



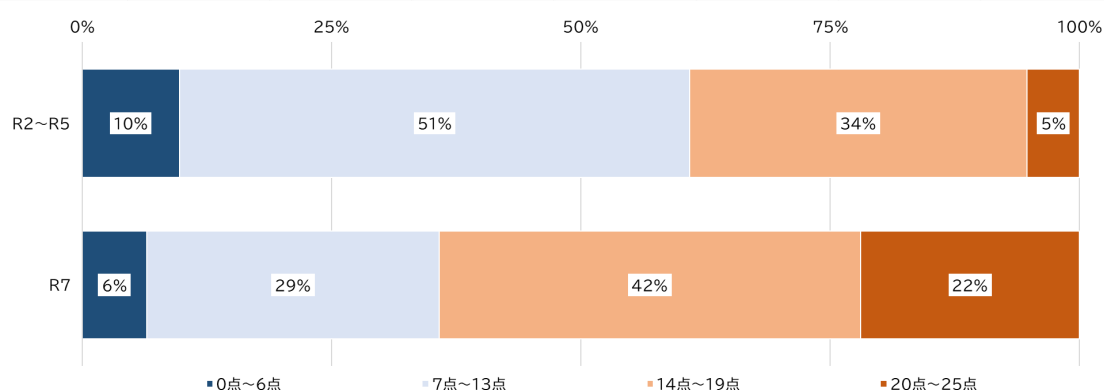
※各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近 2 週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

② 記録業務・連絡調整の効率化

図表 XII-65 利用者向けアンケート調査 QOL の変化(WHO-5)の調査結果 記録業務等

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
R2～R5	人数(人)	13	68	45	7	0	133
	割合	10%	51%	34%	5%	0%	100%
R7	人数(人)	21	95	137	71	0	324
	割合	6%	29%	42%	22%	0%	100%



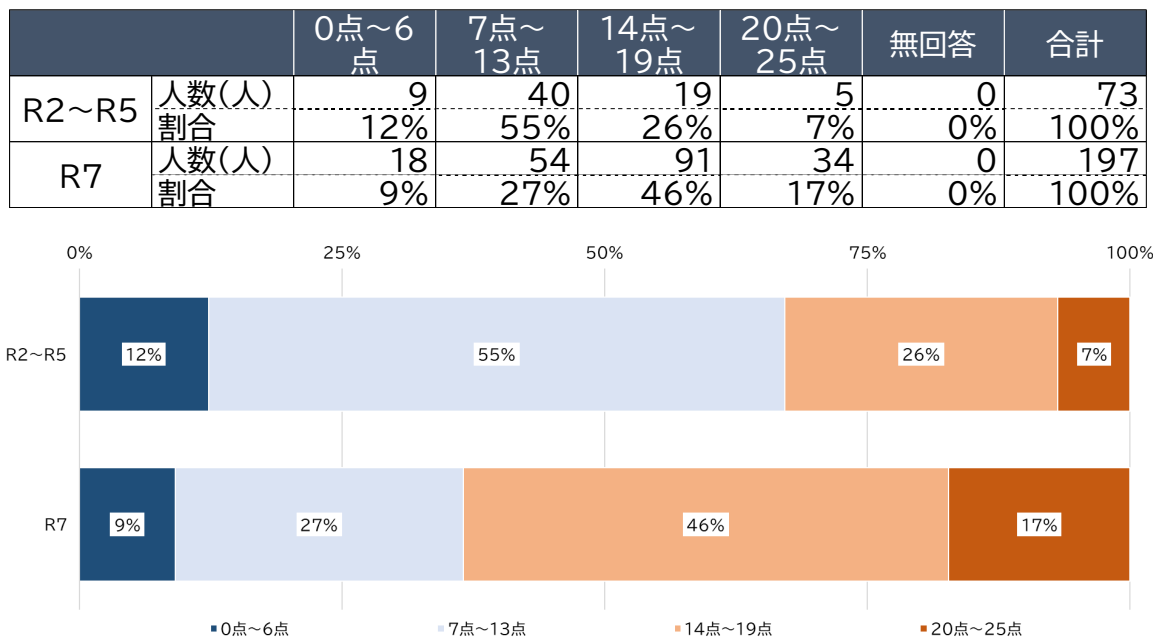
※各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近 2 週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

(ア) サービス種別

1. 介護老人福祉施設

図表 XII-66 利用者向けアンケート調査 QOL の変化(WHO-5)の調査結果
記録業務等 介護老人福祉施設



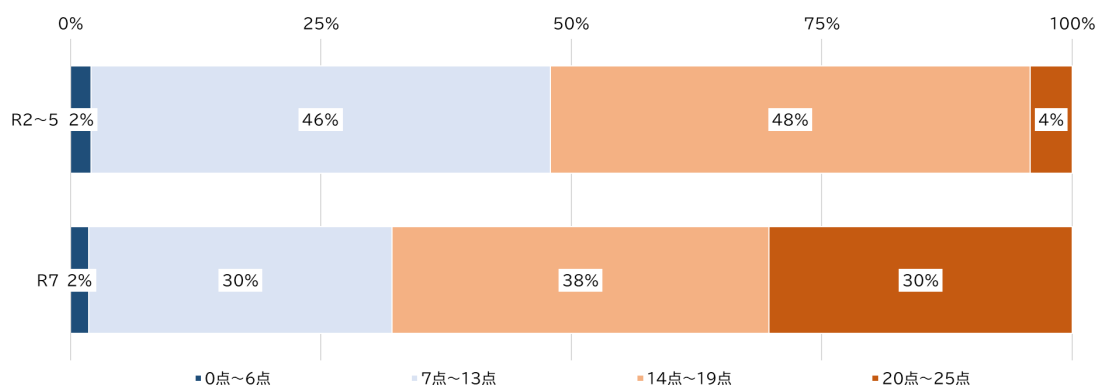
※各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近 2 週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

2. 介護老人保健施設

図表 XII-67 利用者向けアンケート調査 QOL の変化(WHO-5)の調査結果
記録業務等 介護老人保健施設

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
R2～R5	人数(人)	1	22	23	2	0	48
	割合	2%	46%	48%	4%	0%	100%
R7	人数(人)	2	33	41	33	0	109
	割合	2%	30%	38%	30%	0%	100%



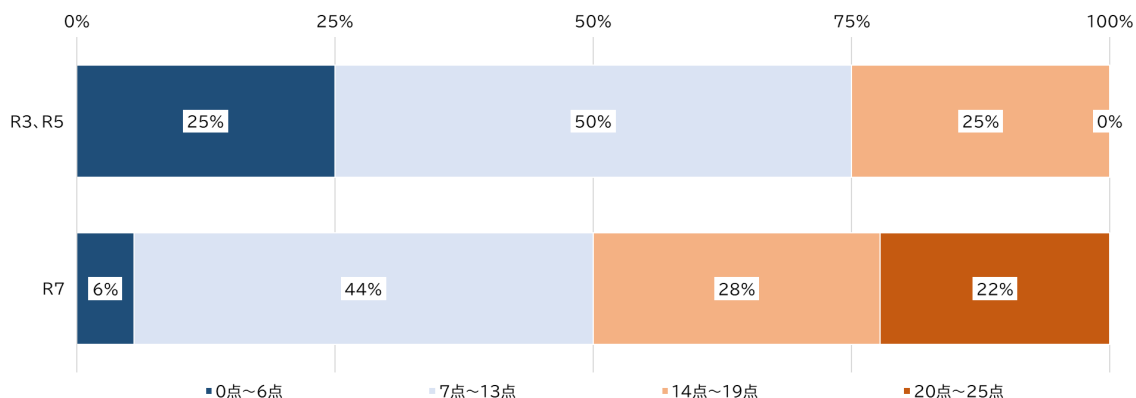
※各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近 2 週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

3. 認知症対応型共同生活介護

図表 XII-68 利用者向けアンケート調査 QOL の変化(WHO-5)の調査結果
記録業務等 認知症対応型共同生活介護

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
R3、R5	人数(人)	3	6	3	0	0	12
	割合	25%	50%	25%	0%	0%	100%
R7	人数(人)	1	8	5	4	0	18
	割合	6%	44%	28%	22%	0%	100%



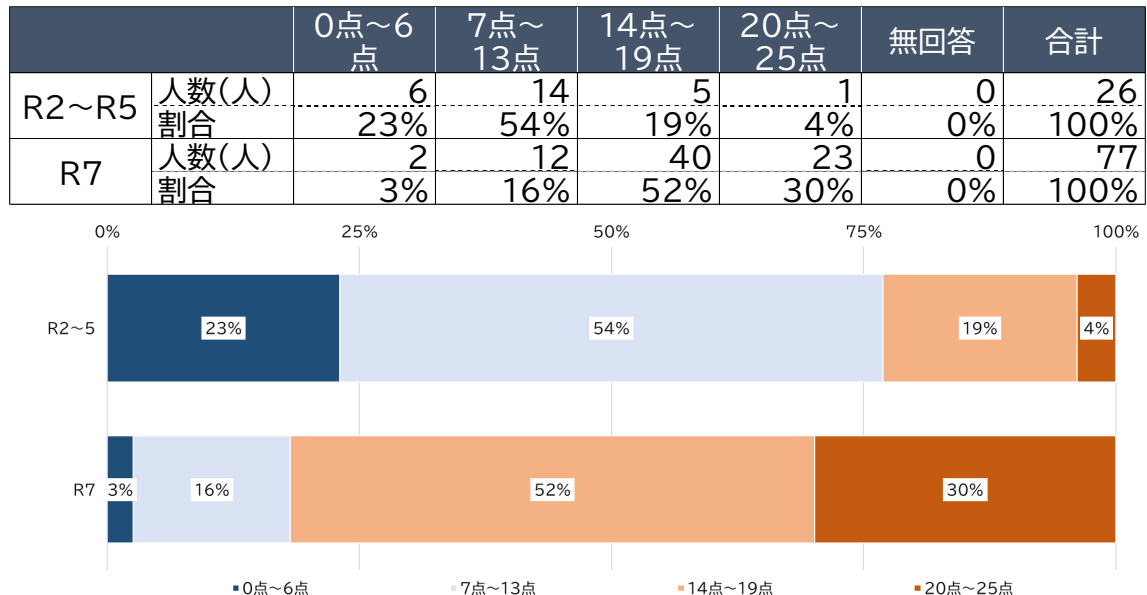
※各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近 2 週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

(イ) 生産性向上推進体制加算の算定状況別

1. 生産性向上推進体制加算(Ⅰ)

図表 XII-69 利用者向けアンケート調査 QOL の変化(WHO-5)の調査結果
記録業務等 生産性向上推進体制加算(Ⅰ)



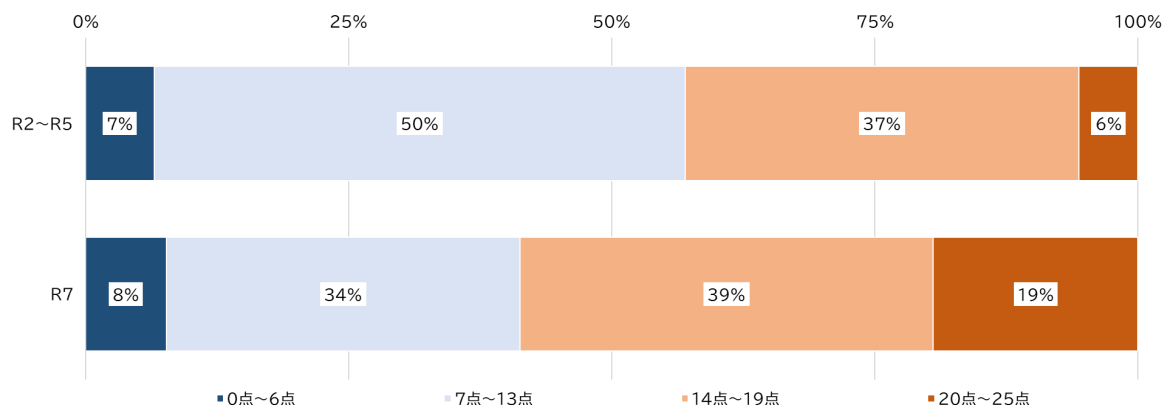
※各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近 2 週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

2. 生産性向上推進体制加算(Ⅱ)

図表 XII-70 利用者向けアンケート調査 QOL の変化(WHO-5)の調査結果
記録業務等 生産性向上推進体制加算(Ⅱ)

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
R2～R5	人数(人)	7	54	40	6	0	107
	割合	7%	50%	37%	6%	0%	100%
R7	人数(人)	19	83	97	48	0	247
	割合	8%	34%	39%	19%	0%	100%



※各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近 2 週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

(5) 業務時間等調査結果

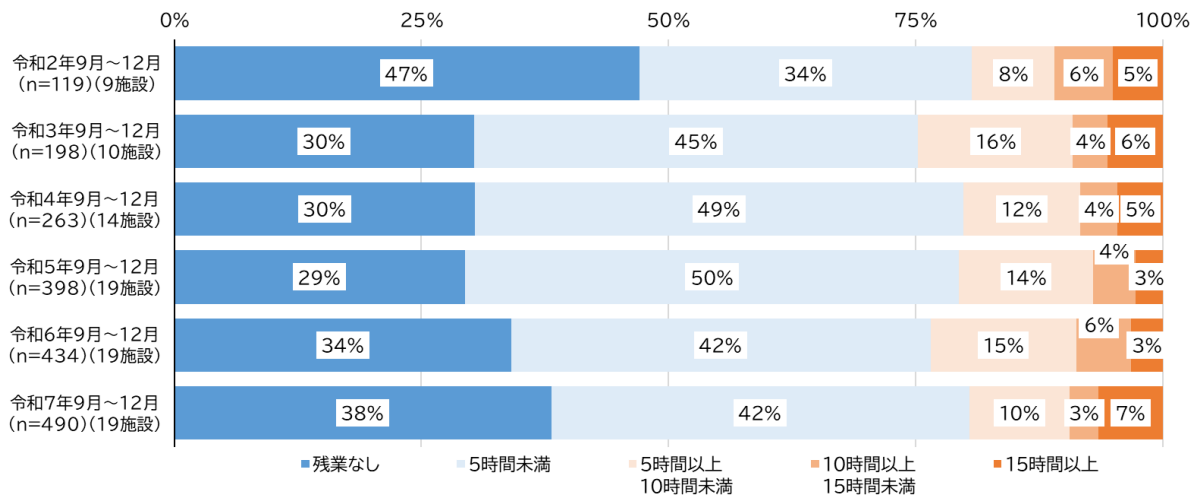
ア. 所定外労働時間

(ア)職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間

職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間について、集計結果は以下の通り。

図表 XII-71 業務時間等調査 所定外労働時間
職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間

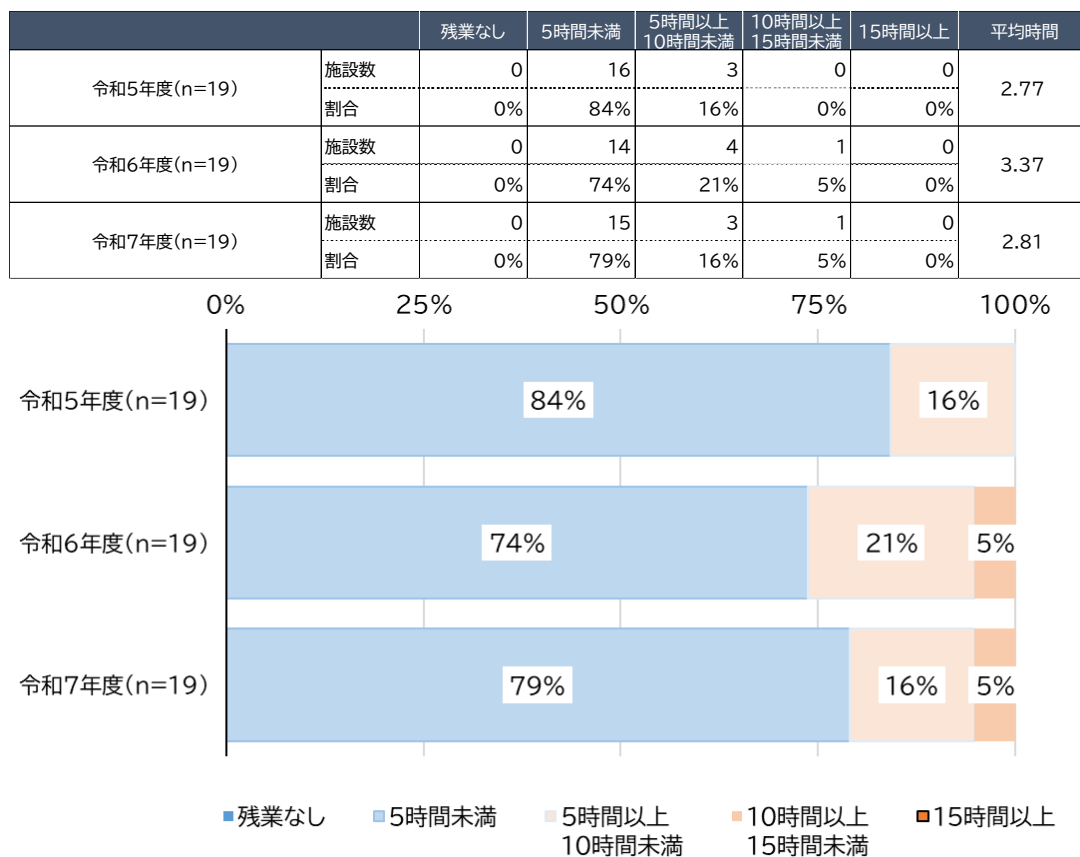
		残業なし	5時間未満	5時間以上 10時間未満	10時間以上 15時間未満	15時間以上	平均時間
令和2年9月～12月(n=119)(9施設)	人数(人)	56	40	10	7	6	2.89
	割合	47%	34%	8%	6%	5%	
令和3年9月～12月(n=198)(10施設)	人数(人)	60	89	31	7	11	3.53
	割合	30%	45%	16%	4%	6%	
令和4年9月～12月(n=263)(14施設)	人数(人)	80	130	31	10	12	3.49
	割合	30%	49%	12%	4%	5%	
令和5年9月～12月(n=398)(19施設)	人数(人)	117	199	54	17	11	3.05
	割合	29%	50%	14%	4%	3%	
令和6年9月～12月(n=434)(19施設)	人数(人)	148	184	64	24	14	3.18
	割合	34%	42%	15%	6%	3%	
令和7年9月～12月(n=490)(19施設)	人数(人)	187	207	50	14	32	3.05
	割合	38%	42%	10%	3%	7%	



(イ) 職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間(施設別平均・直近 3 年度)

職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間について、回答施設のデータが揃う、直近 3 年度の施設別平均の集計結果は以下の通り。

図表 XII-72 業務時間等調査 所定外労働時間
職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間(施設別平均・直近 3 年度)



イ. 有給休暇取得日数

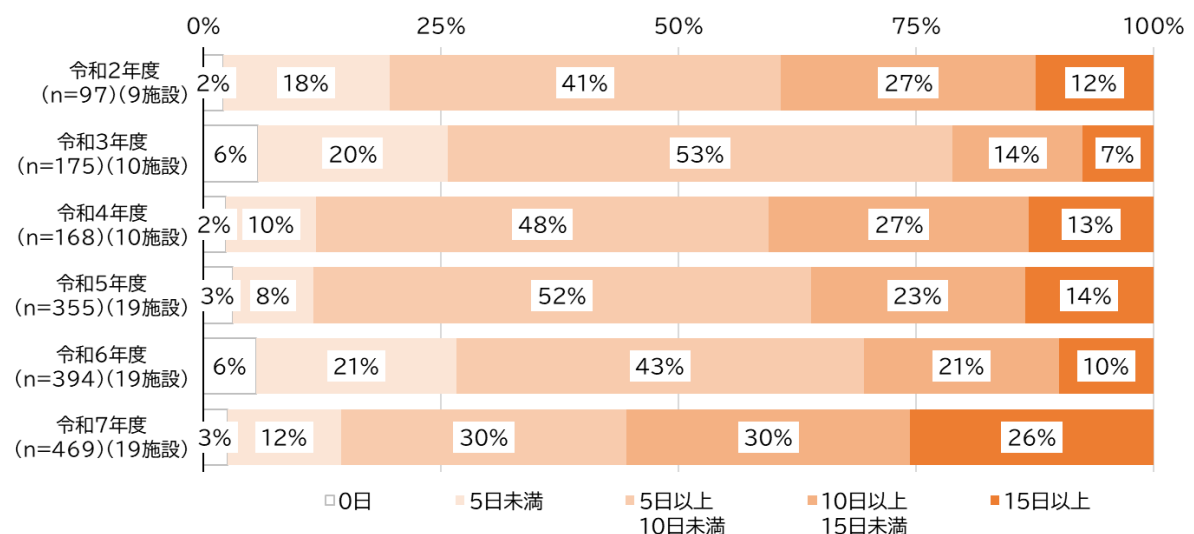
(ア) 職員 1 人 12 か月当たりの有給休暇取得日数

職員 1 人 12 か月当たりの有給休暇取得日数について、集計結果は以下の通り。

なお、令和7年度の取得日数は、12 か月に満たない場合、取得日数(a)を実績を把握した月(b)で除し、12 か月換算した推計値($a/b \times 12$)を算出し、以下に取りまとめた。

図表 XII-73 業務時間等調査 有給休暇取得日数
職員 1 人 12 か月当たりの有給休暇取得日数

		0日	5日未満	5日以上 10日未満	10日以上 15日未満	15日以上	平均日数
令和2年度(n=97)(9施設)	人数(人)	2	17	40	26	12	8.49
	割合	2%	18%	41%	27%	12%	
令和3年度(n=175)(10施設)	人数(人)	10	35	93	24	13	7.15
	割合	6%	20%	53%	14%	7%	
令和4年度(n=168)(10施設)	人数(人)	4	16	80	46	22	9.20
	割合	2%	10%	48%	27%	13%	
令和5年度(n=355)(19施設)	人数(人)	11	30	186	80	48	8.82
	割合	3%	8%	52%	23%	14%	
令和6年度(n=394)(19施設)	人数(人)	22	83	169	81	39	7.71
	割合	6%	21%	43%	21%	10%	
令和7年度(n=469)(19施設)	人数(人)	12	56	141	140	120	11.70
	割合	3%	12%	30%	30%	26%	



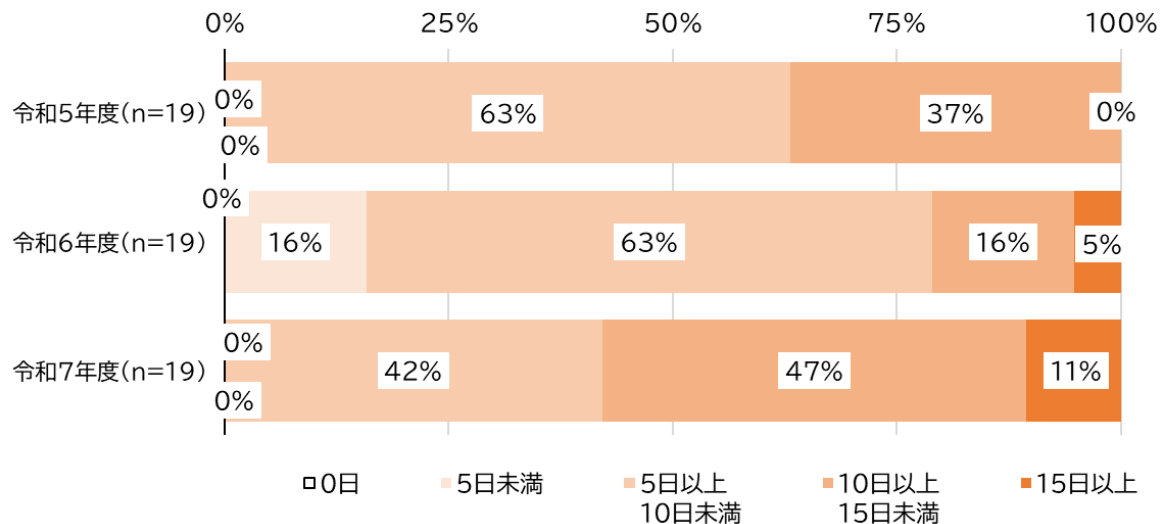
(イ) 職員 1 人 12 か月当たりの有給休暇取得日数(施設別平均・直近 3 年度)

職員 1 人 12 か月当たりの有給休暇取得日数について、回答施設のデータが揃う、直近 3 年度の施設別平均の集計結果は以下の通り。

なお、令和7年度の取得日数は、12 か月に満たない場合、取得日数(a)を実績を把握した月(b)で除し、12 か月換算した推計値($a/b \times 12$)を算出し、以下に取りまとめた。

図表 XII-74 業務時間等調査 有給休暇取得日数
職員 1 人 12 か月当たりの有給休暇取得日数(施設別平均・直近 3 年度)

		0日	5日未満	5日以上 10日未満	10日以上 15日未満	15日以上	平均日数
令和5年度(n=19)	施設数	0	0	12	7	0	8.64
	割合	0%	0%	63%	37%	0%	
令和6年度(n=19)	施設数	0	3	12	3	1	7.78
	割合	0%	16%	63%	16%	5%	
令和7年度(n=19)	施設数	0	0	8	9	2	11.03
	割合	0%	0%	42%	47%	11%	



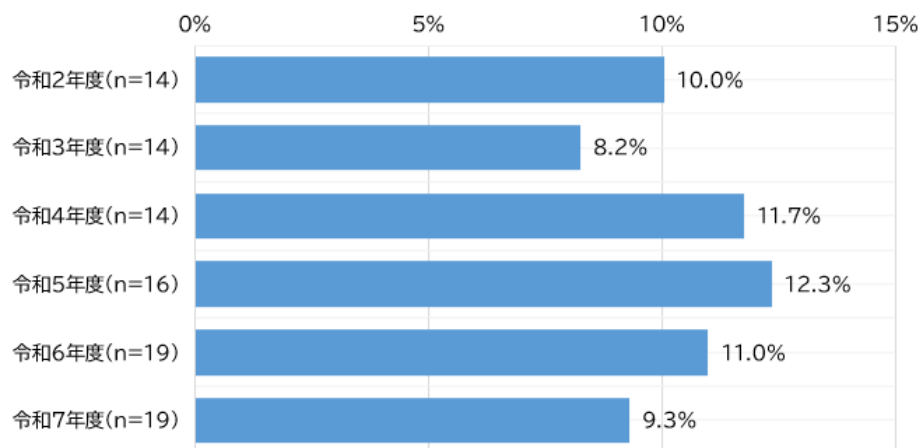
ウ. 離職率

(ア) 離職率(常勤職員)

各年度の職員数及び離職者数から算出した離職率について、常勤職員における施設別平均の集計結果は以下の通り。

図表 XII-75 業務時間等調査 常勤職員 離職率(施設別平均)

	平均
令和2年度(n=14)	10.0%
令和3年度(n=14)	8.2%
令和4年度(n=14)	11.7%
令和5年度(n=16)	12.3%
令和6年度(n=19)	11.0%
令和7年度(n=19)	9.3%



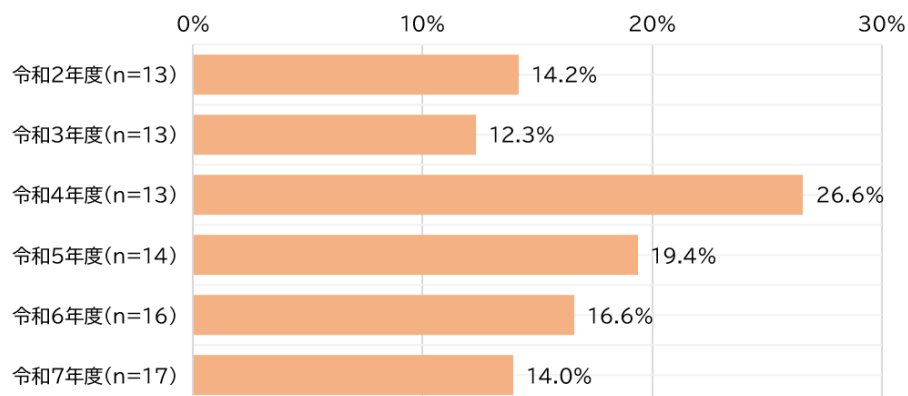
※離職率は、当該年度における離職者数を、当該年度の職員数(年度内の在籍月数に応じて按分した人数)で除し算出した。

(イ) 離職率(非常勤職員)

各年度の職員数及び離職者数から算出した離職率について、非常勤職員における施設別平均の集計結果は以下の通り。

図表 XII-76 業務時間等調査 非常勤職員 離職率(施設別平均)

	平均
令和2年度(n=13)	14.2%
令和3年度(n=13)	12.3%
令和4年度(n=13)	26.6%
令和5年度(n=14)	19.4%
令和6年度(n=16)	16.6%
令和7年度(n=17)	14.0%



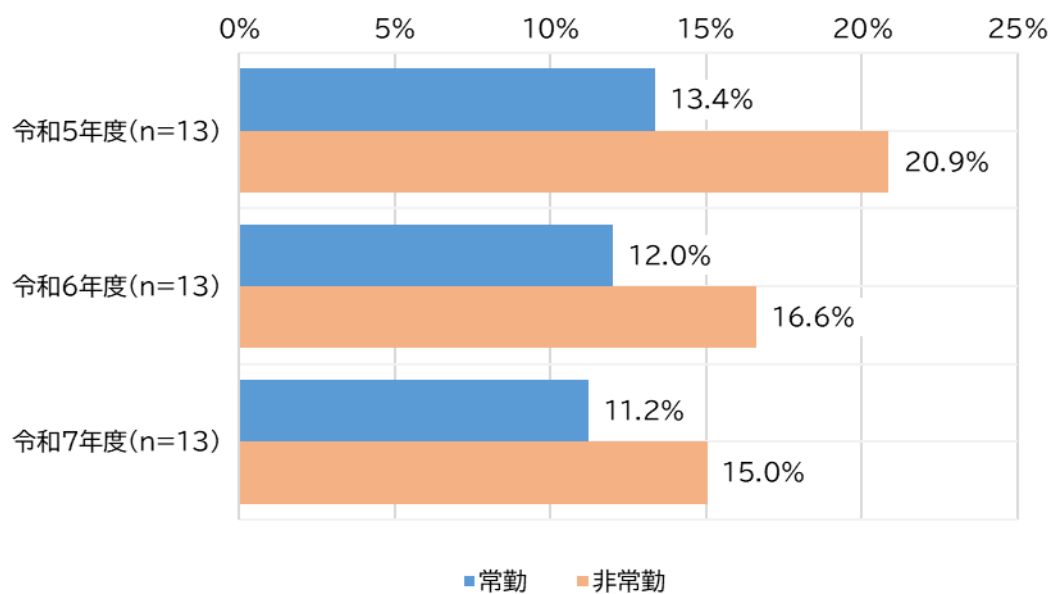
※離職率は、当該年度における離職者数を、当該年度の職員数(年度内の在籍月数に応じて按分した人数)で除し算出した。

(ウ)離職率(施設別平均・直近3年度)

各年度の職員数及び離職者数から算出した離職率について、回答施設のデータが揃う、直近3年度の施設別平均の集計結果は以下の通り。

図表 XII-77 業務時間等調査 離職率(施設別平均・直近3年度)

	常勤	非常勤
令和5年度(n=13)	13.4%	20.9%
令和6年度(n=13)	12.0%	16.6%
令和7年度(n=13)	11.2%	15.0%

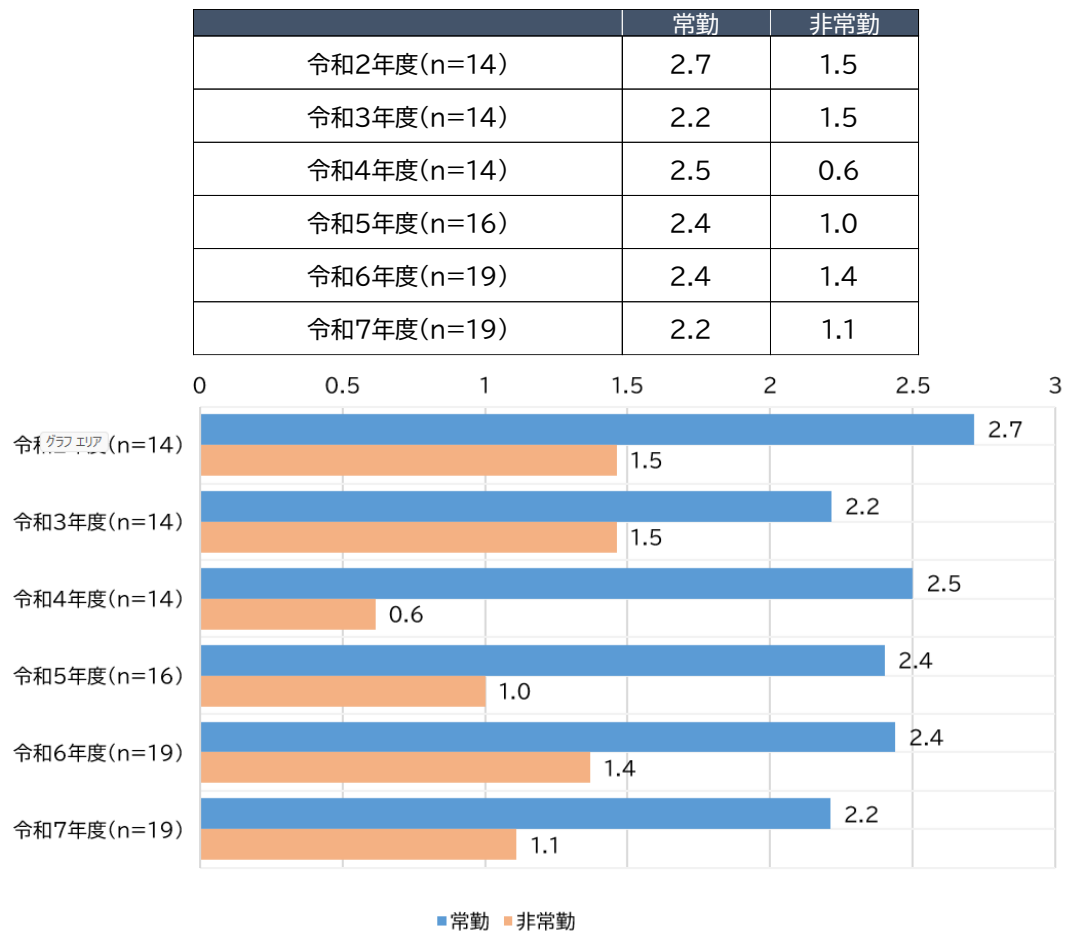


※離職率は、当該年度における離職者数を、当該年度の職員数(年度内の在籍月数に応じて按分した人数)で除し算出した。

工. 採用者数

1 施設当たりの平均採用者数の集計結果は以下の通り。

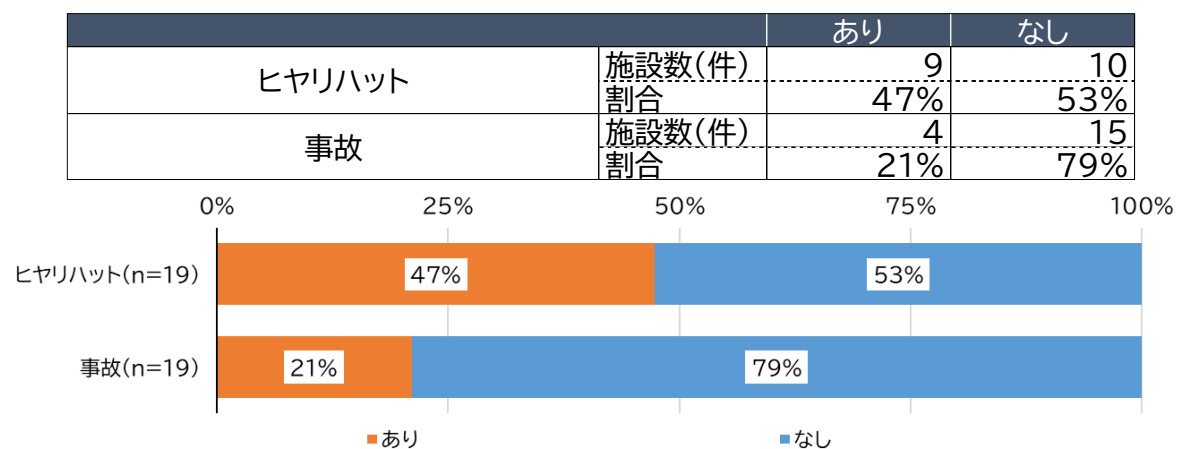
図表 XII-78 業務時間等調査 採用者数(施設別平均)



オ. 調査期間中のヒヤリハット・事故

調査期間中のヒヤリハット・事故についての結果は以下の通り。

図表 XII-79 業務時間等調査 調査期間中のヒヤリハット・事故の有無



図表 XII-80 業務時間等調査 調査期間中のヒヤリハット・事故の内容・再発防止策

内容	再発防止策
自己にて居室内を歩行していた。	居室内を歩行しているときは職員が介入し車椅子を促す。傾聴し気持ちに寄り添いながら対応する。リビングで持ち込みおやつを提供する。
バランスを崩し転倒しそうになった。	職員が見守りできる時間に離床する。車椅子を促す。
夜間居室内を自己にて歩行し転倒し大腿部骨折をした。	カメラで居室の様子を確認していたが、カメラの位置を変更し、居室全体の状況がわかる位置に変更。足置きタイプのセンサーマットを使用しセンサーが反応したときは訪室する。見守り機器やセンサーが反応したときはカメラで状況を確認する。ベッドの高さ、物の配置、クッションマットの種類など本人の状況に合わせたものを使用する。
急に立ち上がりバランスを崩し転倒した。	急に立ち上がることもあるため、見守りができないときは、居室で休んでもらう。職員が常に見守れるように同時にケアを行わない。座コールを使用している。転倒してもけがをしないようにヘッドギア等を着用していただく。
センサー履歴確認にて、発見の3分程前にセンサーの反応があったが職員は他入居者の対応等ですぐに駆け付けられなかった。廊下まで歩いて出てきていたところ、他の入居者が車椅子に座らせてくれていた。	状況に合わせながら、希望時であっても目の届く範囲で過ごしていただく。スマホを持っていなかったため、他入居者の対応中は必ず持ち歩くようにする。
他の入居者対応中、センサー反応があり訪室すると、ベッドの横に長座位になっているのを発見する。外傷確認しバイタル測定行った。	就床介助の際は、ベッド上方へポジショニングする。歩行が不安定な時は常夜灯または照明を若干明るめにするこも検討する。
立位不安定なご利用者が夜間1人でトイレに行かれていた。	1人でトイレに行く時間をしっかり記録に残し、同じような時間なら新たにトイレ誘導の声掛けを行うなど支援を検討する。
職員が起床介助の声掛けに利用者の居室に向かうと、他の利用者が居室にいた。	居室の場所がわからなかったと話されていたので、居室入り口に分かりやすい目印を使い対応する。
夜間、排泄交換のため訪室すると、布団に包まりベッド下にいるところを発見した。見守りセンサーの検知はなかった。	正しく検知できるように設定の見直した。入眠するまでこまめに見守りセンサーの確認や巡視に行く。

内容	再発防止策
【対象利用者】80代 女性 アルツハイマー型認知症 転倒スケール：Ⅲ 歩行器歩行 【発生時刻】23:30 頃 【発生場所】居室 【状況】他利用者のオムツ交換対応中、対象同室者の見守り機器の検知があったため訪室したところ、対象利用者が床に座り込んでいる状態を発見した。疼痛の有無を確認後、移乗介助にて椅子へ着座していただき、バイタルサインを測定した。測定結果を看護師へ報告し、看護師より当直医へ連絡したところ、経過観察とする指示を受けた。	【背景】対象利用者は、歩行器歩行にてベッドからの離床・臥床を自立して行われていた。直近 3 か月間はインシデントの発生もなく、また見守り機器の「離床」検知を設定した場合、頻回に検知反応が生じ職員負担が大きくなることから、当該利用者については「離床」検知をあえて設定していなかった。 【再発防止策】①見守り機器検知「離床」を ON とする。②夜間は常夜灯を点灯し、巡視毎に歩行器、靴の位置を適切に整えることを徹底する。③対象者に限らず、申し送りにて普段と様子の異なる利用者の情報があった場合は、夜勤者の判断により見守り機器の検知項目設定を変更する運用とする。
【対象利用者】100代 女性 アルツハイマー型認知症 転倒スケール：Ⅲ 車イス使用 【発生時刻】21:45 頃 【発生場所】廊下 【状況】他利用者より「廊下に座っている人がいる」との申し出があったため廊下を確認したところ、居室前廊下にて対象利用者が座り込んでいる状態を発見した。疼痛の有無を確認し、バイタルサインを測定後、ベッドへ誘導した。測定結果および状況について看護師へ報告し、看護師より当直医へ連絡したところ、経過観察とする指示を受けた。なお、見守り機器の通知はなかった。	【原因】職員が介助で入室する際、不要な通知を防止する目的で、居室前には見守り機器の通知 Off ボタンが設置されている。当該ボタンは、押下後に再度押すか、20 分経過しなければ通知が復旧しない仕様となっている。本事例においても、対象利用者対応のため入室時に通知 Off ボタンを押下したが、退室時の押し忘れが発生した。その結果、通知が復旧しない状態のまま、20 分以内に本件インシデントが発生した。 【再発防止策】①全職員に対し、通知 Off ボタンの機能および運用方法について再周知を徹底する。②多忙時においては、注意していてもヒューマンエラーによる押し忘れを完全に防ぐことは困難であることから、夜間帯は入室前に通知 Off ボタンを押さないオペレーションに変更し試行する。③上記運用の試行結果を踏まえ、ミーティングにて再度周知・教示を行い、運用の定着を図る。
夜勤時、入居者対応中に、高リスクの方の見守り機器起上検知があったが気が付かなかった。対応後に扉を開ける音がして駆けつけると扉の前に立たれていた。手引き歩行でトイレ介助を行っ	夜間入居者の居室で解除するときは、スマホかタブレットを持ちこみ、起上検知アラームに早く気付けるようにする。

内容	再発防止策
た。	
見守り機器の起上検知と同時に歩行器を使わず、独歩でフロアキッチンまで歩いてしまっていた。「トイレに行こうと思って」とのことで、自室にPトイレがあり、そこで排泄するよう声をかけると「使ったことない。これは何?」と答えられた。	Pトイレを頭側からベッド真中へ、歩行器を進行方向である居室扉の方へ置くことで統一した。
夜間おむつ交換ケア中に他者のセンサーが鳴った際、やむを得ずもう一人の方をアイパットで確認しながら対応した。	ケアの重複が比較的少ないタイミングでのおむつ交換を検討する。
見守り機器センサーに反応があったが、他入居者対応中で対応できず、廊下でしりもちをつく。ケアなし。	ケアが重なった際は対応の優先順位を上げて対応する。ひとまず声掛けをし、都度転倒リスクを確認する形でケアの重なった入居者の往復も含めて対応する。
床走行リフトのフックにスリングシートのストラップをかける際、片方だけ深くかかっていなかった。	「カチッ」と奥まで入ったか指差し確認を徹底する。
浴室用リフト上昇中に利用者が動いた衝撃で、フックからストラップが外れそうになった。	必ず一番奥までストラップが入ったか確認し、介助者が利用者のすぐ脇で見守りしながら、利用者が動いた場合には対応できるようにする。

(6) ヒアリング調査結果

ヒアリング調査では、以下の5項目について実証対象の施設より意見を伺い、主な意見を整理した。以下、課題に関する意見は二重下線、効果に関する意見は下線と太字で示している。

ア. 追加調査の実施状況について

図表 XII-81 ヒアリング調査 追加調査の実施状況について

区分	主なご意見
機器の導入・OPの変更等	- 今年度は記録業務の効率化や見守り機器の活用について取り組んだ。 - タスクシフトにより、間接業務の一部を外注した。 - 生産性向上ガイドラインを基に5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)に力を入れた。 - AIを活用することにより記録業務の効率化を目指している。具体的にはボイスレコーダーの音声データをAIへ取り込むことにより、議事録の作成等に活用している、職員の試行錯誤によりマニュアルを作成し、施設内職員が活用できるようにしている。

区分	主なご意見
	- インカムの使用により、手を止める必要がなくなりマルチタスクができるようになった。例えば、利用者への対応の合間に、ナースへ申し送りができるようになった。 - テクノロジー導入にあたっては、ユニットのリーダーから職員への説明の方法やマニュアルの整備等、時間をかけて丁寧に行っている。 - 記録ソフトへの入力について見直し、効率化・簡潔な入力を目指した。職員へアンケートを実施し、記録に関する課題を調査したが、入力の内容や粒度も職員によって異なり、項目が重複して入力される場合もあった。 - 昨年度より、直接介護と間接介護それぞれに対応するスタッフを分け、タスクシフトを行った。最初は一部の職員で不満もあったが、今はお互いの必要性を感じて尊重できている。業務の棲み分けも時間の経過とともに細かいところまで進んできている。 2年ほど前から音声入力による記録を実施している。今まで実施していない職員もいたが、今年度より原則化した。 - 利用者の方の状況に合わせ、見守り機器の仕様について見直しを行った。 - 昨年度までの取組において DX の推進を図って達成したため、今年度は空いた時間を有効活用して、各テクノロジーでどのようなアウトカムとするか検討した。 - 昨年からの記録ソフトの見直しを行った。紙の記録が残っていたことから、システムへの直接入力へ移行するようにした。
組織的な取組	- 組織再編で新たに管理職を設け、取組の実施を推進した。 - 新たにプロジェクトチームを立ち上げ取組を推進した。 - 法人として残業時間 0 を目指しており、人員の増加を行う等を行っている。また、ワークライフバランス等の本人の働き方の希望に合わせて柔軟にシフトを調整することにより、働きやすい職場環境づくりを目指している。 - 職員間の負担の平準化について、小規模な事業所のため現場職員の状況や意向を把握しやすく、適材適所の調整を行っている。例えば、高齢の職員は体力面が衰えてくるが、得意な調理業務を任せ、活躍できるようにしている。各職員が尊重し合えるような雰囲気を作ることで、働きやすい職場環境づくりを実現できている。
取組の効果	<u>効率化できた時間を研修等の教育に充てた。</u> - 見守り機器の活用により夜勤帯の職員の訪室をなくし、<u>空いた時間で資料作成等の間接業務を行うことがあった。</u> 5S 活動により、何がどこにあるか、すぐに把握できるようになるだけでなく、<u>職員の動線が確保されたことにより移動がしやすくなり、細かい点であるが業務の改善につながっている。</u>

区分	主なご意見
	• <u>タブレットの活用により余裕時間の選択肢が増えた。例えば見守り機器のカメラによる状況把握等が出来るようになった。タイムリーに把握できるようになり、安全性も向上した。</u> • <u>タスクシェアによって、隙間時間が無くなり運営面の効率化が図られた。</u> • <u>時間の効率化により、食事・排泄・入浴の他、利用者の方に関わる時間が増えて実感がある。</u> • <u>記録ソフトによる申し送りにより、感染症が蔓延した場合の感染拡大防止にもなったと思う。</u> • <u>費用対効果・タスクシフトの観点で、間接業務の外部委託をしたことで、業務負担軽減につながっている。また、施設内での急な休みや退職に対するシフト調整等の対応をする必要がなくなり、サービスの持続につながっていると考える。</u>

イ. 継続的な取組について

図表 XII-82 ヒアリング調査 継続的な取組について

区分	主なご意見
課題	• <u>人材の定着や採用の面で課題があり、施設内の取組に慣れてきた職員が離職することで、継続的な取組が困難となる。また、新人の教育に時間がかかってしまう。</u> • <u>見守り機器とインカムの活用について取り組んでいる。機器に慣れてくると、逆に使用しない職員もあり、活用の徹底を目指している。</u> • <u>テクノロジーの使用の定着はしたが、使用頻度が増えていない。忙しい時や緊急時等、使わない日もある。声掛けをすれば使う程度となってしまう。</u> • <u>職員への浸透が最も難しい点である。時間をかけて丁寧に実施することで対応している。</u> • <u>機器のメンテナンスが課題である。</u> • <u>比較的高齢な職員等の一定の層において、機器の利用をよく思わない職員がいることが課題である。継続することで慣れてもらっている。</u> • <u>取組に対して一度拒絶がされてしまうと、受け入れるハードルがより高くなると思う。</u> • <u>新しいテクノロジーの定着に課題が感じられる。説明会を開催することにより、現場職員へ分かりやすく説明する時間を設けたい。</u>
工夫点	• 定期的に施設内でアンケートを実施し、取組の実施状況や職員の意見を集約している。 • 昨年度まで数年推進した取組の結果が得られ、今年度より更に複数年度

区分	主なご意見
	にかけて実施する取組を設定し実施している。 - 生産性向上の取組を実施する担当を持ち回りとし、毎月別の職員が対応するようにしている。そのため、各職員が自分事として取り組むようになり、<u>施設内全体での取組として実施できるようになった。</u> - 過去に自治体のプロジェクトに参加した際に対応いただいたコンサルタントに引き続き施設の業務に対する生産性向上の取組についてご助言いただいている。特に取組の PDCA についてご助言いただいているため、取組の見直しについて対応中である。 - 事業所が設立してから数年が経ち、人材の流動が収まり、近年は定着してきた。<u>職員の多くが、事業所の理念や目指すべき方向性を理解しながら働くことが出来ていると思うため、一丸となって取組を実施できている。</u> - 取組に対する意見の集約のため、生産性向上ガイドラインの「気づきシート」を活用している。 - TRAPE の「生産性向上くん」を活用し、現場職員の意見集約を行っている。 - 取組の目的を定めて、職員に理解してもらうようにしている。 - 取組に関する振り返りが必要であり、生産性向上委員会にて行っている。 - 導入当初は、新しいものに対する抵抗があったが、効果を見せられたことにより、定着につながったのではないかと考えている。使ってみようかといった軽い気持ちだけであると、使わないことがあると思う。 - 導入した機器を使いこなすことが目的ではなく、質の良いケアを提供することが目的である。全スタッフの習熟度を揃えるようにしている。習熟のしやすさに年齢や職歴は関係なく、個人の固定観念が影響していると思われる。 <u>間接業務の負担が大きかったが、効率化の取組により、介護職員がケアに専念できるようになったとの実感があるため、継続につながっている</u><u>と考える。</u>
継続的な取組に必要な点	- 職員が使いたいと思ってもらえるようにすることが最も重要なポイントである。メリットが感じられることが必要である。職員の体力的に効果が出る機器については実感されやすかった。 - ランニングコストがかかるため、機器の選定は慎重に行う必要がある。3年間くらいの計画スパンで検討すると良いのではないかな。 - オペレーションのマニュアル化が必要である。また、職員が良いと思える取組が重要であり、利便性・根拠を伝えていく必要がある。 - カンファレンスで機器について継続的に職員と対話していくことが重要と感じる。

区分	主なご意見
	- 介護テクノロジーの導入については、事業所内に得意な職員が必要である。使用時のエラーへの対応できるよう職員の育成が重要である。そういった職員が増えることにより、取り組むことの抵抗感が低下や不安の低下が考えられる。それにより、他の職員にも影響し、受け入れられると考える。 - 業務改善を進めるにあたっては、上層部・リーダー層からの同意だけでは継続することが難しい。現場職員の方も復縁多合意形成が必要である。 - 介護テクノロジーの導入・定着には、最低3～6か月の期間を要すると考える。

ウ. 生産性向上委員会の開催について

図表 XII-83 ヒアリング調査 生産性向上委員会の開催について

区分	主なご意見
開催形式	- 委員会の議論は議事録で回付し、施設内の職員へ共有している。 - 法人全体で毎月1回委員会を開催している他、事業所内の部署のリーダー会議を開催している。 - 月1回、リーダークラスの参加で開催している。介護テクノロジー全般について話し合っているが、具体的な導入機器がある場合は、その使用に関して議論を行う。 - 自立支援に関するプロジェクトを立ち上げ、施設横断的に実施している。メンバーには、看護師、ケアマネ、管理栄養士等の多職種の職員も参加し議論している。 - 年に数回頻度開催し、現場職員の方の声を集約して議論している。意見の集約や議論内容の周知用についてはメールを活用している。 - 他事業所も含めて開催している。職場環境の改善、職員の育成、負担軽減、生産性向上等について議論している。
工夫点等	- ユニット会議で、委員会参加者から議論内容の共有や、現場職員の声をまとめて委員会へ提示する取組を実施している。 - 会議報告書の回覧や、メールによる現場職員の声を集約する取組を実施している。 - 生産性向上委員会を毎月開催しているが、奇数月はリーダーを中心にした会、偶数月をリーダー以外の一般職員を中心とした会とするように変更した。以前は、取組に対する意見がリーダー層しか出なかったため、新人職員も含めた一般職員も意見が出しやすくなるようにするためである。 - 委員会の他、ユニットリーダー会議を週1回行っている。委員会と現場会

区分	主なご意見
	議とをリンクさせて連携しながら実施している。 - 委員会において、アンケートの実施について議論している。アンケートの実施により施設内への機器の活用を広げていこうとしている。 - SNS のチャット機能により、法人全体で生産性向上委員会の議論内容を情報共有している。 - 記録のソフト上で委員会の議論内容について周知・共有している他、朝礼でも周知している。

エ. その他

図表 XII-84 ヒアリング調査 その他

区分	主なご意見
生産性向上 推進体制加算	- 現在、加算Ⅱを算定しているため、加算Ⅰの算定を目指している。 - 加算(Ⅰ)は見守り機器の全床導入が必要であり、ハードルが高いと感じている。 - 加算取得に関し、費用対効果が悪いと思っている要件がある。自施設は、施設の構造上インカムはあまり必要がない。 - 加算については継続して算定したいと考えているが、単位が増加していただけると有難い。また、取組の改善に関する要件が厳しいと感じている。 - 実績報告について、認知症の利用者へのアンケートが課題と思う。 - 改善要件について、既に自主的に取り組みを始めている状況の場合、変化が見られない場合があることを考慮してほしい。 - タイムスタディ調査について、過去の実証事業でのデータを活用させてもらっているが、自施設で調査・集計をじっしすることについて負担が大きい。 - 取組はテクノロジーだけではない。評価指標がより充実できると良い。
人員配置基準の 特例的柔軟化	人員配置基準の特例的柔軟化については、グループ内での横展開を目指している。シフトの調整面で管理者側の負担があるが、シフト自動作成のソフトを活用している。
今後の取組	- 今回の調査の実施を契機に、勤務時間記録アプリの導入を検討していきたい。 - バックオフィスにおける勤務表の作成・配車・事務の効率化や、ペーパーレス化に取り組んでいきたい。 - 使っている機器が最新という状態を継続していくことが、施設の強みになっていると感じる。経営的な視点でも、この方針を続けていきたいと考えている。

区分	主なご意見
	• 今後5年間の中期経営計画がある。法人内の一つの事業所をモデル事業所とし、様々なICT・テクノロジーを導入したいと考えている。 • 各社で人材の取り合いとなっており、小さい企業には生き残りが厳しい状況になっている。コスト・人件費の上昇に報酬が追い付かないため、介護テクノロジー以外においても手当して欲しい。 • 今後の取組に向けた考えとして、間接業務の洗い出しを行いたい。フラッグシップホームとして、先進的な取り組みを継続的に行う予定である。 • AI の活用について検討したい。

令和 7 年度
「介護テクノロジー等による生産性向上の取組に関する調査及び効果測定事業」
報告書(Ⅲ/Ⅲ)

発 行:令和 8 年(2026)年 3 月
発行者:厚生労働省 老健局高齢者支援課
〒100-8916 東京都千代田区霞が関1-2-2
電話 03-5253-1111(代表)